Nikon

デジタルカメラ

Z 8

活用ガイド

※ この説明書は、カメラのファームウェアが Ver.2.01 であることを前提に操作の説明を行っています。最新のファームウェアはニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」（27 ページ）も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるようにしてください。

Jp

目次

すぐに撮影したいときは. 23
準備する. 23
撮る/見る. 24
はじめに. 25
カメラと付属品を確認する. 25
本書について. 26
文中のマークについて. 26
表記について. 26
安全上のご注意. 27
ご確認ください. 32
各部の名称. 34
カメラ本体. 34
表示パネル. 40
画像モニター. 41
静止画モードの場合. 41
動画モードの場合. 44
ファインダー. 45
静止画モードの場合. 45
動画モードの場合. 48
アイセンサーとモニターモード切り換えボタン. 50
タッチパネル. 54
ピントを合わせる/シャッターをきる. 54
設定を変更する. 55
再生画面を切り換える. 56
動画を再生する. 57
i メニューを設定する. 57
文字を入力する. 57
メニューを設定する. 58
Fn1/Fn2 ボタン. 60
メニューの使い方. 61

MENU ボタンから設定を選ぶ. 61
メニュー項目の設定. 62
i ボタン（***i*** メニュー）から設定を選ぶ. 67
静止画モードの ***i*** メニュー. 68
動画モードの ***i*** メニュー. 69
再生時の ***i*** メニュー. 70
i メニュー項目のカスタマイズ. 71
準備をする. 72
ストラップを取り付ける. 72
バッテリーを充電する. 73
チャージャーを使用して充電する. 73
別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使用して充電する. 75
バッテリーを入れる. 78
バッテリーを取り出すには. 78
バッテリー残量について. 79
メモリーカードを入れる. 80
メモリーカードを取り出すには. 82
レンズを取り付ける. 83
レンズを取り外すには. 84
日付と時刻を設定する. 85
撮影と再生の基本操作. 87
静止画を撮影する. 87
動画を撮影する. 90
撮影した画像を確認する. 93
動画の再生. 94
画像の削除. 96
撮影機能の設定. 97
撮像範囲/画質モード/画像サイズ. 97
撮像範囲に関する設定を変更する. 97
画質モードを変更する. 99
画像サイズを変更する. 101
フォーカス. 103

フォーカスモードを変更する. 103
AF エリアモードを変更する. 105
オートフォーカス時に優先してフォーカスを合わせる被写体を設定する. 109
フォーカスポイントを自分で選ぶ. 113
タッチシャッター. 114
ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）. 116
マニュアルフォーカスで撮影する. 118
撮影モード/露出補正. 120
撮影モードを設定する. 120
長時間露出で撮影する（撮影モード M のみ）. 124
露出を固定して撮影する. 127
露出補正して画像の明るさを調整する. 129
レリーズモード. 131
1 コマ撮影や連続撮影など、レリーズモードを変更する. 131
「ハイスピードフレームキャプチャー +」（C30/C60/C120）で撮影する. 133
セルフタイマーを使って撮影する（ ）. 135
ISO 感度. 136
ISO 感度を変更する. 136
感度自動制御機能を使う. 138
ホワイトバランス. 140
ホワイトバランスを合わせる. 140
ホワイトバランスを微調整する. 144
色温度を設定する. 148
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する. 151
オートブラケティング. 156
オートブラケティングの設定方法. 156
AE ブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法. 157
WB ブラケティングの撮影方法. 161
ADL ブラケティングの撮影方法. 164
ピクチャーコントロール. 168
ピクチャーコントロールを選ぶ. 168
ピクチャーコントロールを調整する. 170

カスタムピクチャーコントロールを登録する. 175
ツーボタンリセット. 179
静止画撮影メニュー項目. 179
動画撮影メニュー項目. 181
カスタムメニュー項目. 182
その他の撮影関連の機能. 183
動画撮影の機能. 184
動画の記録ファイル形式について. 184
階調モードについて. 185
動画の画像サイズ/フレームレートについて. 187
RAW 動画の画像サイズ/フレームレートについて. 187
RAW 動画以外の画像サイズ/フレームレートについて. 188
ビットレートについて. 192
動画撮影時の撮像範囲について. 196
動画撮影時のご注意とヒント. 198
RAW 動画について. 200
HLG 動画の撮影について. 201
N-Log 動画の撮影について. 202
ビューアシストについて. 203
ハイレゾズームについて. 204
ハイレゾズームでズーミングを行う. 204
画像の再生. 206
画像を再生する. 206
1 コマ表示モード. 206
サムネイル表示モード. 206
画像情報を表示する. 208
標準表示. 209
露出情報. 210
ハイライト表示. 210
RGB ヒストグラム. 211
撮影情報. 213
統合表示. 218

ファイル情報. 220
i ボタン（再生時）. 221
静止画選択時. 221
動画選択時. 224
動画再生一時停止時. 225
画像を拡大表示する. 226
拡大表示中の操作方法. 226
プロテクトで画像を削除できないように保護をする. 228
画像にレーティングを設定する. 230
画像を選んで送信指定する. 231
フィルター再生する. 233
［**フィルター再生の条件設定**］の設定項目. 233
スライドショーを再生する. 234
スライドショー再生中の操作について. 235
画像を削除する. 236
ボタン操作で画像を削除する. 236
複数の画像をまとめて削除する. 237
静止画の編集. 240
静止画の編集機能について. 240
RAW 現像. 243
階調モードを［**SDR**］に設定して撮影した RAW 画像を現像する. 243
階調モードを［**HLG**］に設定して撮影した RAW 画像を現像する. 248
トリミング. 255
リサイズ. 256
リサイズ（表示画像）. 256
リサイズ（複数画像）. 257
D-ライティング. 260
傾き補正. 261
ゆがみ補正. 262
アオリ効果. 263
モノトーン. 264
加算合成. 265

比較明合成、比較暗合成. 267
比較動合成. 270
動画の編集. 272
動画の編集機能について. 272
動画編集（始点/終点設定）. 273
表示中のフレームを保存. 276
フレームを連続保存. 277
音声メモ. 279
音声メモを録音する. 279
音声メモを再生する. 281
音声メモを削除する. 281
HDMI 機器（テレビや外部レコーダー）との接続. 282
HDMI 対応機器との接続方法. 282
テレビと接続する. 283
外部レコーダーと接続する. 284
HDMI 外部機器接続時の設定を変更する. 285
HDMI 外部機器接続時の YCbCr および出力ビット数について. 289
HDMI 外部機器接続時の階調モードについて. 290
外部レコーダーをカメラから操作する. 290
スマートフォンとの接続. 291
SnapBridge アプリについて. 291
SnapBridge アプリを使ってできること. 291
スマートフォンと無線接続するには. 292
Bluetooth 接続（ペアリング）. 292
Wi-Fi モード（Wi-Fi で接続）. 295
パソコンや FTP サーバーとの接続. 298
カメラをパソコンや FTP サーバーに接続するには. 298
USB ケーブルでパソコンと接続する. 298
無線 LAN でパソコンと接続する. 298
有線 LAN でパソコンと接続する. 298
無線 LAN で FTP サーバーと接続する. 299
有線 LAN で FTP サーバーと接続する. 299

USB ケーブルでパソコンと接続する. 300
NX Studio をインストールする. 300
NX Studio を使ってパソコンに画像を取り込む. 301
無線 LAN でパソコンと接続する. 304
Wireless Transmitter Utility について. 304
カメラとパソコンを無線 LAN で接続する. 305
パソコンとのネットワーク接続を解除する. 317
有線 LAN でパソコンと接続する. 318
Wireless Transmitter Utility について. 318
カメラとパソコンを有線 LAN で接続する. 319
パソコンとのネットワーク接続を解除する. 324
無線 LAN で FTP サーバーと接続する. 325
カメラと FTP サーバーを無線 LAN で接続する. 326
FTP サーバーとのネットワーク接続を解除する. 340
有線 LAN で FTP サーバーと接続する. 341
カメラと FTP サーバーを有線 LAN で接続する. 342
FTP サーバーとのネットワーク接続を解除する. 348
パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること. 349
画像を送信する. 349
カメラコントロールモードを使用する. 353
無線 LAN または有線 LAN 使用時のトラブルシューティング. 355
問題と対処方法について. 355
エラーコードについて. 356
他のカメラとの接続. 358
他のカメラと接続してできること. 358
他のカメラと連動してレリーズする（連動レリーズ）. 358
カメラの時計を同期する（日時を同期）. 358
連動レリーズモードを使用する. 359
連動レリーズ用の接続設定を作成して撮影する. 359
カメラの時計を同期する. 377
フラッシュ撮影. 378
フラッシュ撮影の方法. 378

一灯撮影 . . . 378
増灯撮影 . . . 378
別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影） . . . 379
カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する . . . 381
フラッシュモードを設定する . . . 383
調光補正してフラッシュの発光量を変更する . . . 385
調光補正の設定方法 . . . 385
FV ロックして調光量を固定する . . . 386
フラッシュ増灯撮影 . . . 388
増灯撮影とは . . . 388
増灯撮影の方法について . . . 388
電波でリモートフラッシュを制御する . . . 389
電波制御の準備をする . . . 389
増灯発光モードを設定して撮影する . . . 393
電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる . . . 399
光でリモートフラッシュを制御する . . . 400
SB-5000 または SB-500 を使用して撮影する . . . 401
静止画撮影メニュー . . . 408
メニューの項目と初期設定一覧 . . . 408
撮影メニューの管理 . . . 411
名前編集 . . . 412
撮影メニューのコピー . . . 412
撮影メニューのリセット . . . 412
撮影メニューの拡張 . . . 413
記録フォルダー設定 . . . 414
フォルダーグループ名変更 . . . 414
フォルダー番号指定 . . . 415
既存フォルダーから選択 . . . 416
ファイル名設定 . . . 418
主スロットの選択 . . . 419
副スロットの機能 . . . 420
同時記録した画像の削除 . . . 422

撮像範囲 423
階調モード 424
画質モード 426
画像サイズ設定 427
RAW 記録 428
ISO 感度設定 429
ホワイトバランス 430
ピクチャーコントロール 431
カスタムピクチャーコントロール 432
ピクチャーコントロール（HLG） 433
ピクチャーコントロール（HLG）を調整する 433
色空間 437
アクティブ D-ライティング 438
長秒時ノイズ低減 440
高感度ノイズ低減 441
ヴィネットコントロール 442
回折補正 443
自動ゆがみ補正 444
美肌効果 445
人物印象調整 446
調整モードの登録方法 446
登録した調整モードの適用方法 447
静止画フリッカー低減 448
高周波フリッカー低減 450
測光モード 452
フラッシュ発光 453
発光モード 453
ワイヤレス設定 454
増灯発光モード 454
電波リモートフラッシュ情報 455
フラッシュモード 456
フラッシュ調光補正 457

フォーカスモード. 458
AF エリアモード. 459
AF 時の被写体検出設定. 460
手ブレ補正. 461
オートブラケティング. 462
多重露出. 463
多重露出の撮影方法. 464
HDR 合成. 470
HDR の撮影方法. 471
インターバルタイマー撮影. 474
インターバルタイマー撮影の撮影方法. 476
タイムラプス動画. 484
タイムラプス動画の撮影方法. 486
フォーカスシフト撮影. 494
フォーカスシフト撮影の撮影方法. 495
ピクセルシフト撮影. 501
ピクセルシフト撮影の撮影方法. 502
オートキャプチャー. 507
オートキャプチャー設定画面について. 508
オートキャプチャー撮影の撮影方法. 510
動画撮影メニュー. 525
メニューの項目と初期設定一覧. 525
撮影メニューの管理. 527
撮影メニューの拡張. 528
記録フォルダー設定. 529
ファイル名設定. 530
動画記録先. 531
動画記録ファイル形式. 532
画像サイズ/フレームレート. 533
動画の画質（N-RAW）. 534
撮像範囲. 535
オーバーサンプリングの拡張. 536

ISO 感度設定 . . . 537
ホワイトバランス . . . 538
ピクチャーコントロール . . . 539
カスタムピクチャーコントロール . . . 540
HLG 画質調整 . . . 541
アクティブ D-ライティング . . . 542
高感度ノイズ低減 . . . 543
ヴィネットコントロール . . . 544
回折補正 . . . 545
自動ゆがみ補正 . . . 546
美肌効果 . . . 547
人物印象調整 . . . 548
動画フリッカー低減 . . . 549
高周波フリッカー低減 . . . 550
測光モード . . . 551
フォーカスモード . . . 552
AF エリアモード . . . 553
AF 時の被写体検出設定 . . . 554
被写体検出 . . . 554
被写体未検出時の AF 駆動 . . . 554
手ブレ補正 . . . 555
電子手ブレ補正 . . . 556
マイク感度 . . . 557
アッテネーター . . . 558
録音帯域 . . . 559
風切り音低減 . . . 560
マイク端子のプラグインパワー . . . 561
ヘッドホン音量 . . . 562
タイムコード . . . 563
リモコンからのリセットについて . . . 564
外部記録制御（HDMI） . . . 565
ハイレゾズーム . . . 566

オートキャプチャー. 567
カスタムメニュー. 568
メニューの項目と初期設定一覧. 568
カスタムメニューの管理. 576
名前編集. 576
カスタムメニューのコピー. 576
カスタムメニューのリセット. 576
a1：AF-C モード時の優先. 577
a2：AF-S モード時の優先. 578
a3：AF ロックオン. 579
横切りへの反応. 579
被写体の動き. 579
a4：AF 点数. 580
a5：縦/横位置フォーカスポイント切換. 581
a6：半押し AF レンズ駆動. 583
a7：フォーカスポイントの引き継ぎ. 584
a8：AF エリアモードの限定. 585
a9：フォーカスモードの制限. 586
a10：フォーカスポイント循環選択. 587
a11：フォーカスポイント表示. 588
マニュアルフォーカス時の表示. 588
ダイナミック AF 時のアシスト表示. 588
AF-C モード時の合焦表示. 589
3D-トラッキング時の表示色. 589
フォーカスポイントの太さ. 589
a12：内蔵 AF 補助光の照射設定. 590
a13：フォーカスピーキング. 591
フォーカスピーキング表示. 591
フォーカスピーキングの感度. 591
フォーカスピーキングの表示色. 591
a14：フォーカスポイントの移動速度. 592
a15：AF 設定時のフォーカスリング操作. 593

b1：ISO 感度設定ステップ幅 594
b2：露出設定ステップ幅 595
b3：露出補正簡易設定 596
b4：マルチパターン測光の顔検出 597
b5：中央部重点測光範囲 598
b6：基準露出レベルの調節 599
b7：絞り値変化時の露出維持 600
c1：シャッターボタン AE ロック 601
c2：セルフタイマー 602
c3：パワーオフ時間 603
d1：連続撮影速度 604
d2：連続撮影コマ数 605
d3：プリキャプチャー記録設定 606
d4：連動レリーズモード設定 608
d5：露出ディレーモード 609
d6：M モード時のシャッタースピード延長 610
d7：撮像範囲設定の限定 611
d8：連番モード 612
d9：ビューモード設定（静止画 Lv） 614
d10：スターライトビュー（静止画 Lv） 616
d11：赤色画面表示 617
d12：イルミネーター点灯 618
d13：連続撮影中の表示 619
d14：撮影タイミング表示 620
d15：画面枠表示 621
d16：ガイドラインの種類 622
d17：水準器の種類 623
ローリング方向 624
ピッチング方向 625
d18：半押し拡大解除（MF） 626
d19：撮影画面カスタマイズ（画像モニター） 627
d20：撮影画面カスタマイズ（ファインダー） 629

d21：ファインダーの高フレームレート表示 630
e1：フラッシュ撮影同調速度 631
e2：フラッシュ時シャッタースピード制限 633
e3：フラッシュ使用時の露出補正 634
e4：ϟ 使用時の感度自動制御 635
e5：モデリング発光 636
e6：BKT 変化要素（M モード） 637
e7：BKT の順序 638
e8：フラッシュ連続撮影時の優先 639
f1：i メニューのカスタマイズ 640
メモリーカード情報表示 642
2 点拡大 643
MB-N12 の情報表示 643
f2：カスタムボタンの機能（撮影） 644
コマンドダイヤルの設定について 656
設定のリセットについて 657
フォーカス位置の登録/フォーカス位置の呼び出しについて 658
f3：カスタムボタンの機能（再生） 662
メインコマンドダイヤル/サブコマンドダイヤルの設定について 665
設定のリセットについて 667
f4：操作のロック 668
f5：コマンドダイヤル回転方向の変更 669
f6：ボタンのホールド設定 670
f7：インジケーターの＋/－方向 671
f8：フォーカス回転方向の変更 672
f9：フォーカスリングの角度設定 673
f10：コントロールリングの感度 674
f11：フォーカス/コントロールリング入れ換え 675
f12：パワーズームのボタン操作（PZ レンズ） 676
f13：1 コマ再生時のフリック操作 677
上にフリック/下にフリック 677
1 コマ送りの操作方向 678

f14：サブセレクター中央を優先 679
g1：i メニューのカスタマイズ 680
マルチセレクターによるパワー絞り 682
マルチセレクターによる露出補正 682
動画情報表示 682
g2：カスタムボタンの機能 683
コマンドダイヤルの設定について 693
設定のリセットについて 694
g3：操作のロック 695
g4：AF エリアモードの限定 696
g5：フォーカスモードの制限 697
g6：AF 速度 698
g7：AF 追従感度 699
g8：ハイレゾズーム速度 700
g9：パワーズームのボタン操作（PZ レンズ） 701
g10：ISO 感度ステップ幅拡張（M モード） 702
g11：シャッタースピード延長（M モード） 703
g12：ビューアシスト 704
g13：ゼブラ表示 705
ゼブラ表示の検出モード 705
ゼブラ表示のパターン 705
高輝度検出の範囲 705
中間輝度検出の範囲 706
g14：ゼブラ表示の検出モード制限 707
g15：ガイドラインの種類 708
g16：輝度情報の種類 709
g17：半押し拡大解除（MF） 710
g18：撮影画面カスタマイズ（画像モニター） 711
g19：撮影画面カスタマイズ（ファインダー） 713
g20：動画撮影中の赤枠表示 714
再生メニュー 715
メニューの項目と初期設定一覧 715

削除 717
再生フォルダー設定 718
再生画面設定 719
W スロット同時削除の設定 721
分割記録時の再生スロット 722
フィルター再生の条件設定 723
グループ再生の設定 724
サブセレクターで先頭画像表示 724
自動連続再生 724
自動連続再生の設定 725
サムネイルのグループ表示 725
撮影直後の画像確認 726
削除後の次再生画像 727
連続撮影後の再生画像 728
縦横位置情報の記録 729
画像の自動回転 730
画像コピー 731
画像のコピー方法 731
セットアップメニュー 736
メニューの項目と初期設定一覧 736
カードの初期化（フォーマット） 739
物理フォーマット 739
言語（Language） 741
タイムゾーンと日時 742
モニターの明るさ 743
モニターのカラーカスタマイズ 744
ファインダーの明るさ 745
ファインダーのカラーカスタマイズ 746
ファインダー表示サイズ 747
モニターモードの限定 748
画面情報の自動回転 749
AF 微調節の設定 750

AF 微調節の設定と微調節値の登録方法. 751
未登録レンズ装着時の微調整値の設定方法. 752
レンズ情報手動設定. 753
距離表示単位の設定. 754
フォーカス位置の記憶. 755
ズーム位置の記憶（PZ レンズ）. 756
自動電源 OFF 温度. 757
電源 OFF 時のセンサーシールド. 758
イメージセンサークリーニング. 759
イメージダストオフデータ取得. 760
イメージダストオフデータ取得の手順. 760
ピクセルマッピング. 762
画像コメント. 763
コメント入力. 763
コメント添付. 763
著作権情報. 764
撮影者名入力、著作権者名入力. 764
著作権情報添付. 764
IPTC. 765
IPTC プリセットの新規作成/編集. 765
登録内容の削除. 765
登録内容の添付. 766
カメラに登録した IPTC プリセットをメモリーカードに保存. 766
メモリーカードに保存した IPTC プリセットをカメラに登録. 767
音声メモの設定. 770
録音の操作. 770
音声の出力（再生）. 771
電子音. 772
電子シャッター音. 772
音量. 772
音の選択. 772
ビープ音. 772

音量 772
音の高さ 773
サイレントモード 774
タッチ操作 775
タッチ操作の設定 775
グローブモード 775
HDMI 776
USB 接続時の優先 777
位置情報 778
リモコン（WR）設定 779
LED ランプの点灯 779
リンクモード 780
リモコン（WR）の Fn ボタンの機能 781
認証情報 782
電池チェック 783
USB 給電 784
パワーセーブ（静止画モード） 786
カードなし時レリーズ 787
メニュー設定の保存と読み込み 788
メニュー設定の保存と読み込みができる機能 788
保存 791
読み込み 791
カメラの初期化 792
ファームウェアバージョン 793
ネットワークメニュー 794
メニューの項目と初期設定一覧 794
機内モード 796
スマートフォンと接続 797
ペアリング（Bluetooth） 797
送信指定 798
Wi-Fi 接続 798
電源 OFF 中の通信 799

位置情報（スマートフォン）. 799
PC と接続. 800
接続設定. 800
動作モードの選択. 803
オプション. 803
FTP サーバーと接続. 805
接続設定. 805
オプション. 808
カメラと接続. 811
連動レリーズ. 811
接続設定. 811
マスター/リモート選択. 812
グループ設定. 812
グループ名. 814
日時を同期. 814
著作権情報の上書き. 814
ATOMOS AirGlu BT 設定. 815
USB 通信専用端子の設定. 817
接続先の周波数帯選択. 818
MAC アドレス. 819
マイメニュー/最近設定した項目. 820
メニューの項目と初期設定一覧. 820
マイメニュー：よく使うメニューを登録する. 821
マイメニューを登録する. 821
登録した項目を削除する. 823
登録した項目の表示順序を変える. 824
マイメニューの機能を［**最近設定した項目**］に変更する. 825
最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる. 826
［**最近設定した項目**］の設定方法. 826
困ったときは. 827
お問い合わせになる前に. 827
故障かな？と思ったら. 829

電源・表示関連. 829
撮影関連. 830
再生関連. 834
Wi-Fi（無線 LAN）および Bluetooth 関連. 836
その他. 837
警告表示と警告メッセージ. 838
警告表示. 838
警告メッセージ. 841
資料. 844
使用できるレンズ. 844
画像モニター/ファインダー/表示パネルの表示. 845
画像モニター. 845
ファインダー. 853
表示パネル. 857
使用できるスピードライト. 860
ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について. 860
ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで使用できる機能. 860
スピードライト使用時のご注意とヒント. 880
使用できるアクセサリー. 884
別売パワーバッテリーパック MB-N12 について. 891
各部の名称と機能. 891
カメラに MB-N12 を取り付ける. 895
MB-N12 にバッテリーを入れる. 897
別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使ってバッテリーを充電する. 901
別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使ってカメラに給電する. 903
MB-N12 内のバッテリーの残量を確認する. 905
使用上のご注意. 906
バッテリー室カバーが外れたときは. 907
仕様. 908
カメラとパワーコネクター EP-5B、AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b の接続方法. 909

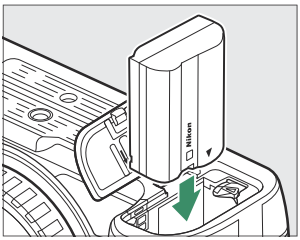
ソフトウェア/アプリケーション... 911
カメラのお手入れについて... 913
カメラを長期間保管するときは... 913
クリーニングについて... 913
撮像素子のお手入れについて... 914
撮像素子前面をブロアーで掃除する... 916
カメラとバッテリーの使用上のご注意... 918
カメラの取り扱い上のご注意... 918
バッテリーの使用上のご注意... 922
チャージャーの使用上のご注意... 924
主な仕様... 925
ニコンデジタルカメラ Z 8... 925
使用できるメモリーカード... 938
外部充電池（モバイルバッテリー）... 939
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数... 940
動画記録可能時間... 942
撮影可能コマ数（電池寿命）について... 944
商標およびソフトウェアの著作権とライセンスについて... 946
Wi-Fi（無線 LAN）機能/Bluetooth 機能について... 950
索引... 953
索引... 953
マーク・英数字... 953
ア... 954
カ... 955
サ... 956
タ... 957
ナ... 957
ハ... 957
マ... 959
ヤ... 959
ラ... 959
ワ... 959

すぐに撮影したいときは

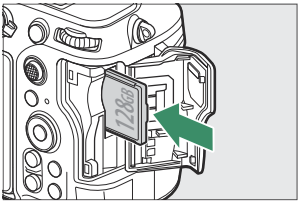
準備する

1 カメラにバッテリーを入れる（78）

バッテリーの充電については「バッテリーを充電する」（73）をご覧ください。

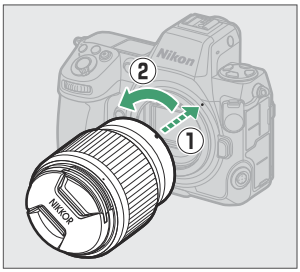


2 メモリーカードを入れる（80）

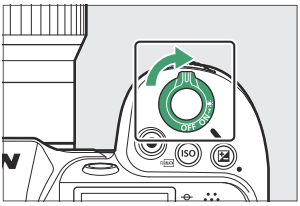


3 レンズを取り付ける（83）

- カメラの指標とレンズの指標を合わせて（①）、図の矢印の方向に回します（②）。
- カメラにはストラップも取り付けられます。取り付け方は「ストラップを取り付ける」（72）をご覧ください。

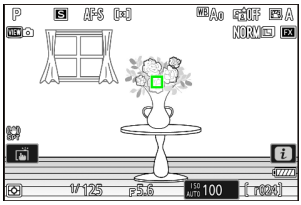


4 カメラの電源を ON にして日付と時刻を設定する（85）

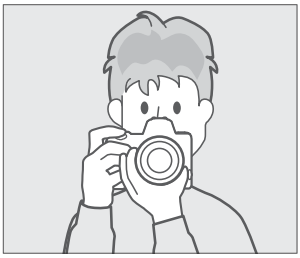


撮る/見る

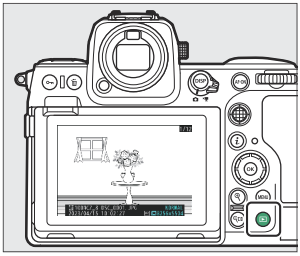
1 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる（📖 87）



2 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する



3 撮影した画像を確認する（📖 93）

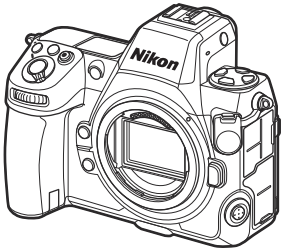


はじめに

カメラと付属品を確認する

万一、付属品がそろっていない場合は、ご購入店にご連絡ください。

- カメラ本体



- アクセサリーシューカバー BS-1（カメラに装着済み）（🕮 889）
- 接眼目当て DK-33（カメラに装着済み）（🕮 886）
- ボディーキャップ BF-N1
- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c（端子カバー付）
- バッテリーチャージャー MH-25a（電源プラグ（直付け型）付）
- HDMI/USB ケーブルクリップ（🕮 890）
- ストラップ AN-DC26（🕮 72）
- USB ケーブル UC-E24（🕮 300）
- 使用説明書
- 保証書

- メモリーカードは別売です。
- 国または地域によっては、バッテリーチャージャー MH-25a は別売です。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

ニコンダウンロードセンターについて

ニコンダウンロードセンターでは、カメラやレンズなどの最新のファームウェアや、NX Studio などのニコンソフトウェア、カメラやニッコールレンズ、スピードライトなどの説明書をダウンロードできます。

https://downloadcenter.nikonimglib.com/

本書について

文中のマークについて

本書では、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

☑	カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことなどを記載しています。
ヒント	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
🕮	本書で関連情報が記載されているページです。

表記について

- このカメラでは CFexpress メモリーカード（Type B）、XQD メモリーカード、SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、および SDXC メモリーカードを使用します。本書では、総称して「メモリーカード」と表記しています。ただし、それぞれのメモリーカードを区別して説明する必要がある場合は、「CFexpress カード」、「XQD カード」、「SD カード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- 撮影時の画像モニターとファインダーの表示を「撮影画面」と表記しています。イラストは主に画像モニターの表示を使用しています。
- 本書では、スマートフォンおよびタブレットを「スマートフォン」と表記しています。
- 本書では、35mm 判カメラに準じた画角（フルサイズ）を「FX フォーマット」または「FX」、APS-C サイズに準じた画角を「DX フォーマット」または「DX」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。本書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

安全上のご注意

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

本書をお読みになった後は、いつでも参照できるようにしてください。



危険　**「死亡または重傷を負うおそれが大きい内容」です。**



警告　**「死亡または重傷を負うおそれがある内容」です。**



注意　**「軽傷を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容」です。**

お守りいただく内容を、以下の図記号で区分しています。



してはいけない内容です。



分解、修理または改造してはいけない内容です。



人体やものに密着させてはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

警告



歩きながらや運転・操縦しながらの操作はしない
事故やけがの原因になります。



分解、修理または改造をしない
落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に触らない
感電やけがの原因になります。



熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、直ちに電池や電源を取り外す
放置すると、発火、やけどの原因になります。



水でぬらさない
ぬれた手で触らない
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電や発火の原因になります。



電源を入れたまま長時間直接触らない
低温やけどの原因になります。



引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、爆発や火災の原因になります。



レンズで直接太陽や強い光を見ない
失明や視力障碍の原因になります。



フラッシュや AF 補助光を運転者にむけて発光しない
事故の誘発につながります。



幼児の手の届くところに置かない
故障やけがの原因になります。
小さな付属品を誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。



ストラップ類を首に巻きつけない
事故の原因になります。

警告



指定外の電池、充電器、AC アダプター、USB ケーブルは使わない
指定の電池、充電器、AC アダプター、USB ケーブルを使う際は、以下の点に注意する
- **コードやケーブルを傷つけたり、加工したりしない**
  重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、無理に曲げたりしない
- **海外旅行者用電子式変電圧器（トラベルコンバーター）や DC/AC インバーターなどの電源に接続して使わない**

発火、感電の原因になります。



充電時や AC アダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触らない
感電の原因になります。



電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着していたら、乾いた布で拭き取る
放置すると、発火の原因になります。



高温環境や低温環境では、直接触らない
やけどや低温やけど、凍傷の原因になることがあります。

注意



レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない
集光して、内部部品の破損や発火の原因になることがあります。
逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。
画角から太陽をわずかに外しても、発火の原因になります。



使用が禁止されている場所では、電源を OFF にする
無線通信が禁止されている場所では、無線通信機能が作動しないようにする
医療機関や航空機内では、本機器が出す電磁波が、周囲の機器に悪影響を与えるおそれがあります。



長時間使わないときは、電池や AC アダプターを取り外す
故障や発火の原因になります。



フラッシュを人体やものに密着させて発光させない
やけどや発火の原因になります。

注意

夏場の車内や直射日光の当たる所など高温環境に放置しない
故障や発火の原因になります。

AF 補助光を直接見ない
視覚に悪影響を及ぼすことがあります。

三脚などにカメラやレンズを取り付けたまま移動しない
故障やけがの原因になります。

高温の注意表示が画像モニターやファインダーに表示されたら、メモリーカードに触らない



メモリーカードが高温になっているため、やけどの原因となったり、取り出すときに落下させて破損させたりするおそれがあります。カメラ本体やバッテリーも高温になっている場合がありますので、ご注意ください。

心臓ペースメーカーなどの医療機器からは 5cm 以上離す
近づけ過ぎると、製品に内蔵された磁石が医療機器に影響を与えるおそれがあります。

危険（電池について）

電池は誤った使いかたをしない
注意事項を無視してお使いになると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

- 充電池は、専用の充電池以外を使わない
- 電池を火の中に入れたり、加熱したりしない
- 電池を分解しない
- 電池をネックレスやヘアピンなどの金属類に接触させてショート（短絡）しない
- 電池、または電池の入った製品に強い衝撃を与えたり、投げたりしない
- 電池に釘を刺したり、電池をハンマーで叩いたり、踏みつけたりしない

指定の方法で充電する
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

危険（電池について）

	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受ける** 放置すると、目に傷害を与える原因になります。
	**航空機内に持ち込むときは、航空会社の指示に従う** 超高度の気圧が低いところに放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

警告（電池について）

	**電池を乳幼児の手の届く所に置かない** 飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。
	**電池をペットなどが触れる場所に置かない** 噛みつきなどにより、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
	**水につけたり、雨にぬらしたりしない** 発火や故障の原因になります。 ぬれてしまったら、乾いたタオルなどで十分にふき取ってください。
	**変色・変形、そのほか異状に気づいたら使わない** **リチャージャブルバッテリー EN-EL15c は、所定の時間を超えても充電が完了しなければ、充電を中止する** 放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
	**使用済みの電池は、ビニールテープなどで接点部を絶縁する** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因になります。
	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたら、すぐにきれいな水で洗い流す** 放置すると、皮膚のかぶれなどの原因になります。

ご確認ください

● 保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入 1 年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、直ちに購入店にご請求ください。

● カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

https://www.nikon-image.com/support/

● 大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

● 本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、AC アダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。



- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

● メモリーカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後はメモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やカメラやメモリーカードの故障の原因となります。
  - メモリーカードの着脱をしないでください
  - カメラの電源を OFF にしないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - AC アダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

● 本書について

- 本書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 「使用説明書」が破損などで判読できなくなったときは、ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入できます（有料）。

● 著作権について

カメラで著作物を撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、個人として楽しむなどの目的であっても、実演や興行、展示物などは、撮影や録音が制限されている場合がありますのでご注意ください。

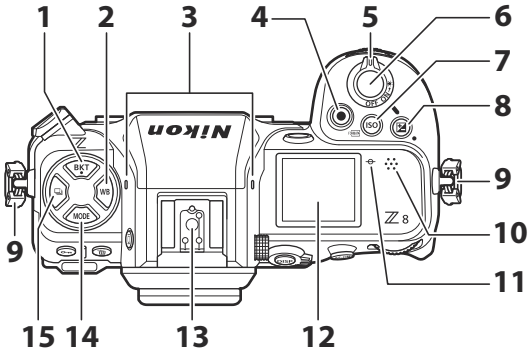
● 電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

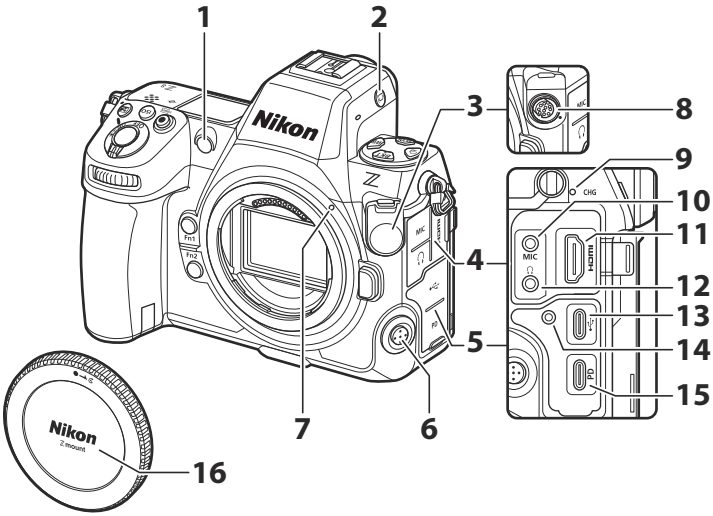
VCCI-B

各部の名称

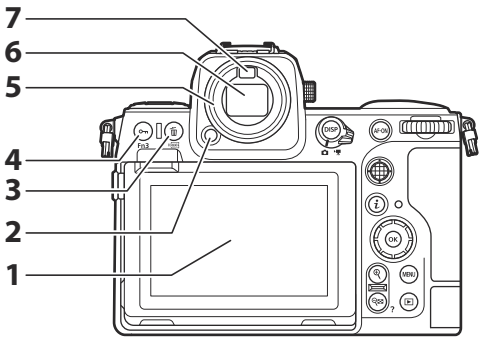
カメラ本体



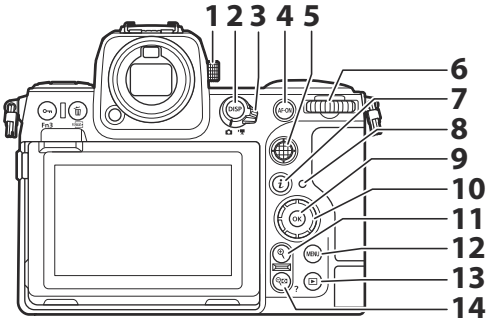
1 BKT ボタン（**BKT**）（🕮 156）
2 WB ボタン（**WB**）（🕮 140）
3 マイク（ステレオ）（🕮 90）
4 動画撮影ボタン（🕮 90）
5 電源スイッチ（🕮 85）
6 シャッターボタン（🕮 87）
7 ISO 感度ボタン（**ISO**）（🕮 136）
FORMAT ボタン（FORMAT）（🕮 739）
8 露出補正ボタン（）（🕮 129）
9 ストラップ取り付け部（吊り金具）（🕮 72）
10 スピーカー
11 距離基準マーク（）（🕮 119）
12 表示パネル（🕮 40、🕮 857）
13 フラッシュ取り付け部（アクセサリーシュー）（🕮 379、🕮 860）
14 MODE ボタン（MODE）（🕮 120）
15 レリーズモードボタン（）（🕮 131）



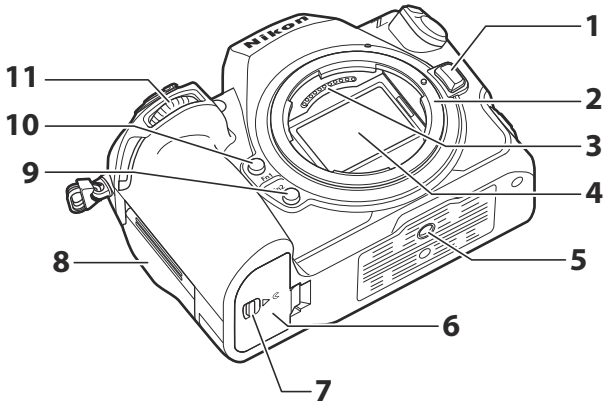
1 AF 補助光ランプ（🕮 88、🕮 590）
赤目軽減ランプ（🕮 383）
セルフタイマーランプ（🕮 135）
2 モニターモード切り換えボタン（  ）（🕮 50、🕮 748）
3 10 ピンターミナルカバー
4 マイク/ヘッドホン/HDMI 端子カバー
5 USB 端子カバー
6 フォーカスモードボタン（🕮 103）
7 レンズ着脱指標（🕮 83）
8 10 ピンターミナル
9 チャージ LED（🕮 75）
10 外部マイク入力端子（🕮 887）
11 HDMI 端子（🕮 282）
12 ヘッドホン出力端子（🕮 562）
13 USB 通信専用端子（🕮 300）
14 HDMI/USB ケーブルクリップ用ネジ穴（🕮 890）
15 USB 充給電専用端子（🕮 784）
16 ボディーキャップ（🕮 83）



1 画像モニター（📖 54、📖 114）
2 接眼目当て取り外しボタン（📖 886）
3 削除ボタン（🗑）（📖 96、📖 236）
FORMAT ボタン（FORMAT）（📖 739）
4 プロテクトボタン（🔑）（📖 228）
Fn3 ボタン（**Fn3**）（📖 168）
5 接眼目当て（📖 886）
6 ファインダー（📖 45）
7 アイセンサー（📖 50）



1 視度調節ノブ（🕮 53）
2 DISP ボタン（**DISP**）（🕮 43）
3 静止画/動画セレクター（🕮 87、🕮 90）
4 AF-ON ボタン（**AF-ON**）（🕮 117）
5 サブセレクター（🕮 113、🕮 116、🕮 127）
6 メインコマンドダイヤル
7 i ボタン（**i**）（🕮 67、🕮 221）
8 メモリーカードアクセスランプ（🕮 89、🕮 91）
9 OK ボタン（OK）（🕮 62）
10 マルチセレクター（🕮 62）
11 拡大ボタン（🔍）（🕮 118、🕮 206、🕮 226）
12 MENU ボタン（**MENU**）（🕮 61）
13 再生ボタン（▶）（🕮 93、🕮 206）
14 縮小/サムネイル表示ボタン（🔍）（🕮 206、🕮 226）
ヘルプボタン（**?**）（🕮 65）

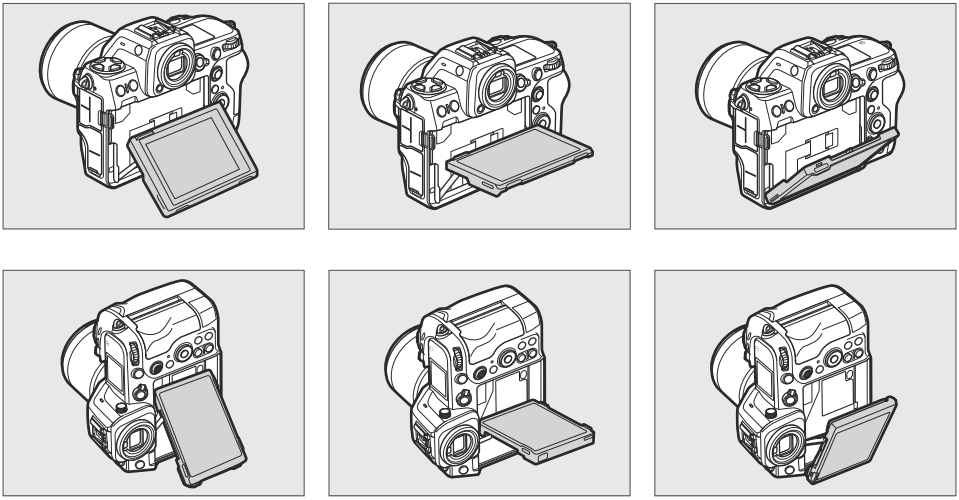


1 レンズ取り外しボタン（84）
2 レンズマウント（83、119）
3 レンズ信号接点
4 イメージセンサー（撮像素子）（914）
5 三脚ネジ穴
6 バッテリー室カバー
7 バッテリー室開閉ノブ
8 メモリーカードカバー（80）
9 Fn2 ボタン（**Fn2**）（60）
10 Fn1 ボタン（**Fn1**）（60）
11 サブコマンドダイヤル

イメージセンサー（撮像素子）またはセンサーシールドに触れない
イメージセンサー（撮像素子）やセンサーシールド（758）を押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や破損などの原因となります。撮像素子のお手入れについては「撮像素子のお手入れについて」（914）をご覧ください。

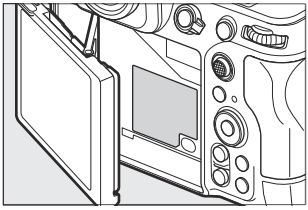
ヒント：画像モニターについて

このカメラの画像モニターは、角度を変えて使用できます。



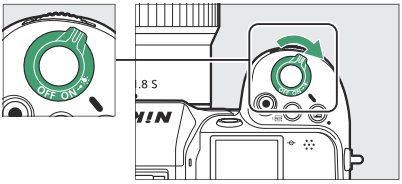
ヒント：製品番号について

このカメラの製品番号は、画像モニターを開いて確認できます。



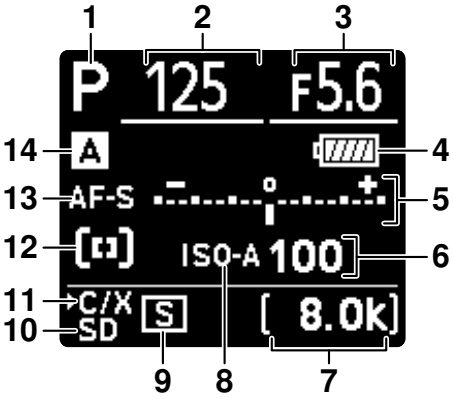
ヒント：表示パネルのイルミネーター（照明）について

電源スイッチを ☀ マークの方向に回すと、表示パネルやボタンのイルミネーター（照明）が点灯します。電源スイッチを放すと、イルミネーターは数秒間点灯し続けます。ただし、シャッターボタンを半押しするか、もう一度 ☀ マークの方向に回すと消灯します。ボタン照明が点灯すると、暗い場所で操作しやすくなります。



表示パネル

カメラの電源を ON にすると、表示パネルが点灯します。ここでは初期設定で表示される内容のみ記載しています。詳しくは、「資料」の「画像モニター/ファインダー/表示パネルの表示」>「表示パネル」（🕮 857）をご覧ください。



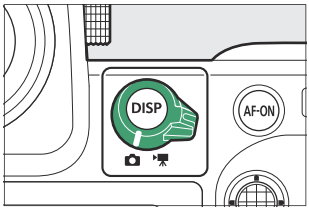
1 撮影モード（🕮 120）
2 シャッタースピード（🕮 121、🕮 122）
3 絞り値（🕮 121、🕮 122）
4 バッテリー残量表示（🕮 79）
5 インジケーター
- 露出（🕮 123）
- 露出補正（🕮 129）

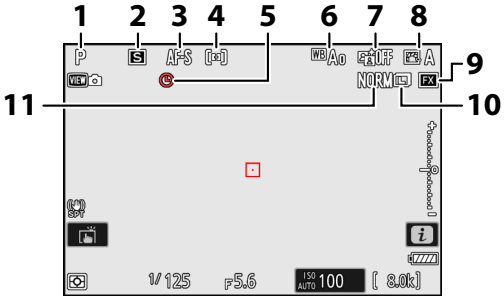
画像サイズ/フレームレート（🕮 187）
6 ISO 感度（🕮 136）
7 記録可能コマ数（🕮 81、🕮 940）
動画記録可能時間（🕮 90）
8 ISO 感度マーク（🕮 136）
ISO-AUTO マーク（🕮 138）
9 レリーズモード（🕮 131）
10 メモリーカードマーク（SD スロット）（🕮 80）
11 メモリーカードマーク（CFexpress/XQD スロット）（🕮 80）
12 AF エリアモード（🕮 105）
13 フォーカスモード（🕮 103）
14 撮影メニュー設定表示（🕮 411）

画像モニター

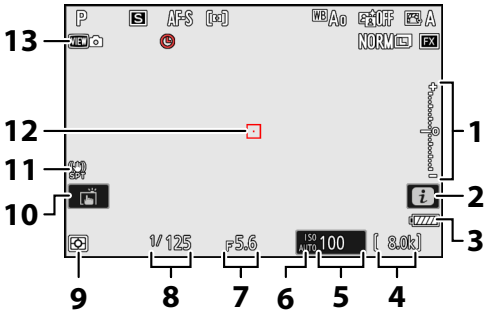
初期設定では、画像モニターに次のような情報が表示されます。詳しくは、「資料」の「画像モニター/ファインダー/表示パネルの表示」>「画像モニター」（🕮 845）をご覧ください。

静止画モードの場合





1 撮影モード（🕮 120）
2 レリーズモード（🕮 131）
3 フォーカスモード（🕮 103）
4 AF エリアモード（🕮 105）
5 ◴ マーク（🕮 86）
6 ホワイトバランス（🕮 140）
7 アクティブ D-ライティング（🕮 438）
8 ピクチャーコントロール（🕮 168）
9 撮像範囲（🕮 97）
10 画像サイズ（🕮 101）
11 画質モード（🕮 99）

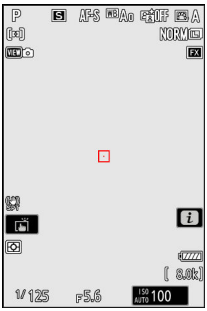


1 インジケーター
- 露出（📖 123）
- 露出補正（📖 129）

2 *i* メニュー（📖 67、📖 221）
3 バッテリー残量表示（📖 79）
4 記録可能コマ数（📖 81、📖 940）
5 ISO 感度（📖 136）
6 ISO 感度マーク（📖 136）
ISO-AUTO マーク（📖 138）
7 絞り値（📖 121、📖 122）
8 シャッタースピード（📖 121、📖 122）
9 測光モード（📖 452）
10 タッチ撮影機能（📖 114）
11 手ブレ補正（📖 461）
12 フォーカスポイント（📖 113）
13 ビューモード設定（静止画 Lv）（📖 614）

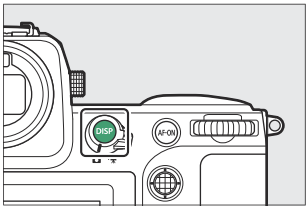
ヒント：画像モニターの縦位置表示について

静止画モードの場合、撮影画面、再生画面、**i** メニュー画面でカメラを縦位置に構えると、画像モニターの表示も縦位置表示になります。

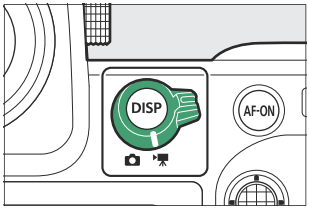


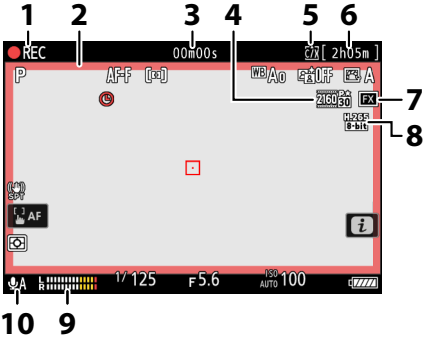
ヒント：画面の表示を切り換える

DISP ボタンを押すと、撮影画面の表示を切り換えることができます。最大で 5 種類の表示画面を切り換えられ、それぞれの画面に表示するアイコンやインジケーターをカスタマイズできます。撮影画面のカスタマイズはカスタムメニュー d19［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］で行えます（🕮 627）。



動画モードの場合





1 録画中マーク
動画記録禁止マーク（91）
2 録画中赤枠（714）
3 動画記録時間
4 画像サイズ/フレームレート（187）
5 動画記録先（531）
6 動画記録残り時間
7 撮像範囲（196）
8 動画記録ファイル形式（184）
9 音声レベルインジケーター（557）
10 マイク感度（557）

ヒント：画像モニターの縦位置表示について

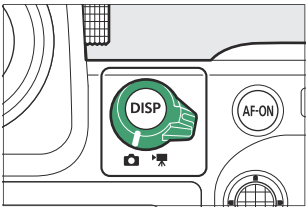
動画モードの場合、再生画面および再生時の i メニュー画面でカメラを縦位置に構えると、画像モニターの表示も縦位置表示になります。

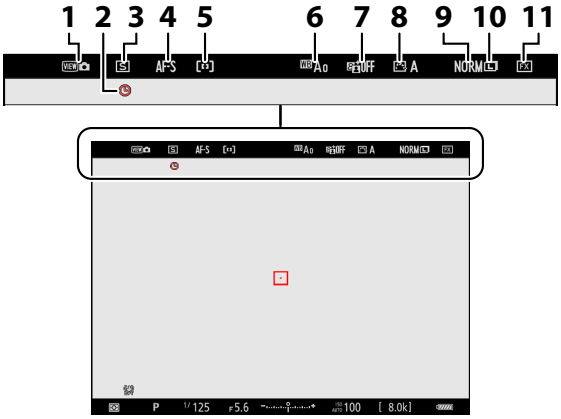


ファインダー

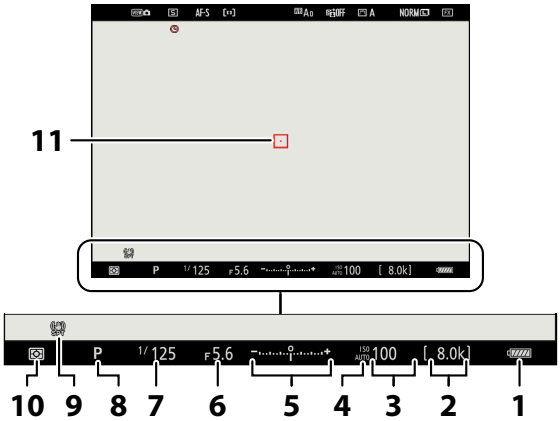
初期設定では、ファインダーに次のような情報が表示されます。詳しくは、「資料」の「画像モニター/ファインダー/表示パネルの表示」>「ファインダー」（🕮 853）をご覧ください。

静止画モードの場合





1 ビューモード設定（静止画 Lv）（🕮 614）
2 ⊕ マーク（🕮 86）
3 レリーズモード（🕮 131）
4 フォーカスモード（🕮 103）
5 AF エリアモード（🕮 105）
6 ホワイトバランス（🕮 140）
7 アクティブ D-ライティング（🕮 438）
8 ピクチャーコントロール（🕮 168）
9 画質モード（🕮 99）
10 画像サイズ（🕮 101）
11 撮像範囲（🕮 97）

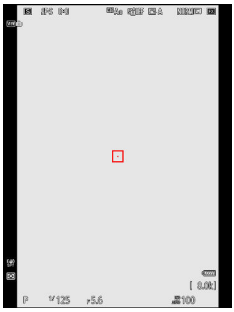


1 バッテリー残量表示（📖 79）
2 記録可能コマ数（📖 81、📖 940）
3 ISO 感度（📖 136）
4 ISO 感度マーク（📖 136）
ISO-AUTO マーク（📖 138）
5 インジケーター
- 露出（📖 123）
- 露出補正（📖 129）

6 絞り値（📖 121、📖 122）
7 シャッタースピード（📖 121、📖 122）
8 撮影モード（📖 120）
9 手ブレ補正（📖 461）
10 測光モード（📖 452）
11 フォーカスポイント（📖 113）

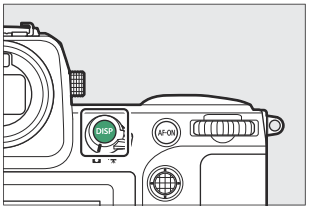
ヒント：ファインダーの縦位置表示について

静止画モードの場合、撮影画面、再生画面、**i** メニュー画面でカメラを縦位置に構えると、ファインダーの表示も縦位置表示になります。

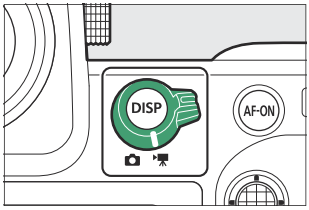


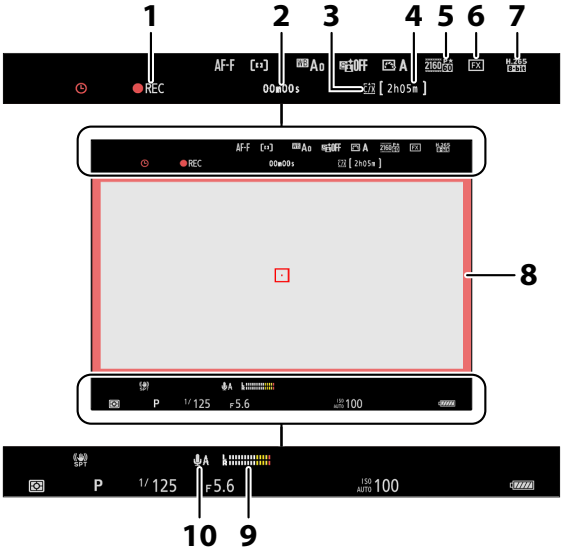
ヒント：画面の表示を切り換える

DISP ボタンを押すと、撮影画面の表示を切り換えることができます。最大で 4 種類の表示画面を切り換えられ、それぞれの画面に表示するアイコンやインジケーターをカスタマイズできます。撮影画面のカスタマイズはカスタムメニュー d20［**撮影画面カスタマイズ(ファインダー)**］で行えます（🕮 629）。



動画モードの場合

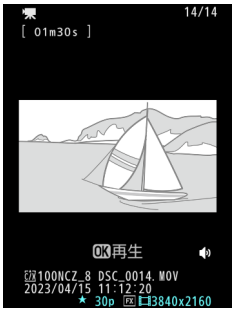




1 録画中マーク
動画記録禁止マーク（91）
2 動画記録時間
3 動画記録先（531）
4 動画記録残り時間
5 画像サイズ/フレームレート（187）
6 撮像範囲（196）
7 動画記録ファイル形式（184）
8 録画中赤枠（714）
9 音声レベルインジケーター（557）
10 マイク感度（557）

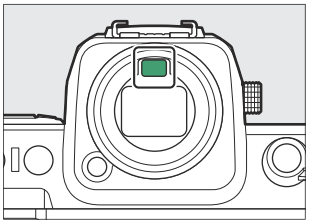
ヒント：ファインダーの縦位置表示について

動画モードの場合、再生画面および再生時の i メニュー画面でカメラを縦位置に構えると、ファインダーの表示も縦位置表示になります。

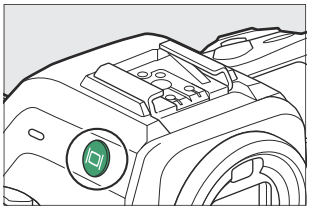


アイセンサーとモニターモード切り換えボタン

ファインダーに顔を近づけると、アイセンサーが反応して、画像モニターの表示が消えてファインダー表示に切り替わります。指などを近づけてもアイセンサーが反応します。



- ファインダー表示時は、メニューや再生画面もファインダーで見ることができます。
- （モニターモード切り換え）ボタンを押すと、ファインダーと画像モニターの表示設定を切り換えることができます。

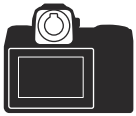


• ボタンを押すたびに、次のようにモニターモードが切り替わります。

[**自動表示切り換え**]：アイセンサーにより、ファインダーの表示と画像モニターの表示が自動的に切り替わります。

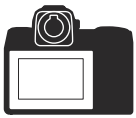


[**ファインダーのみ**]：画像モニターには何も表示されなくなります。メニューの設定や撮影した画像の確認なども全てファインダーで行ってください。



- 静止画モードの場合、カメラの電源を ON にしたときやシャッターボタンを半押ししたとき、または **AF-ON** ボタンを押したときは、ファインダーに顔を近づけなくても数秒間ファインダーが点灯します。

[**モニターのみ**]：画像モニターのみを使用して撮影や設定をする場合に選びます。ファインダーに顔を近づけてもファインダーには何も表示されません。



［**ファインダー優先 1**］：ファインダーに顔を近づけるとファインダーに撮影画面が表示されますが、顔を離しても画像モニターには撮影画面は表示されません。動画モードの場合、［**自動表示切り換え**］と同じ動作になります。



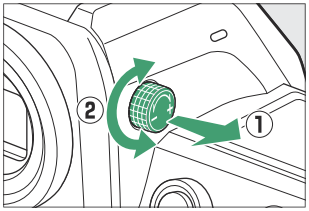
［**ファインダー優先 2**］：静止画モードの場合、ファインダーに顔を近づけたときに加え、カメラの電源を ON にしたときやシャッターボタンを半押ししたとき、または **AF-ON** ボタンを押したときは、ファインダーに顔を近づけなくても数秒間ファインダーが点灯します。動画モードの場合、［**自動表示切り換え**］と同じ動作になります。

- 画像モニターに再生画面やメニューを表示しているときにファインダーに顔を近づけると、ファインダーに撮影画面が表示されます。



視度調節ノブについて

- 視度調節ノブを引き出して回すと、ファインダー内がはっきり見えるように調節できます。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- 調節が終わった後は、視度調節ノブを押し込んで戻してください。



画像モニターの角度を変更している場合

次の条件を同時に満たす場合、アイセンサーに顔を近づけてもファインダー表示には切り替わりません。

- [**自動表示切り換え**]、[**ファインダー優先 1**]、または [**ファインダー優先 2**] に設定している
- 画像モニターに画面が表示されている

ヒント：長時間ファインダー撮影をする場合

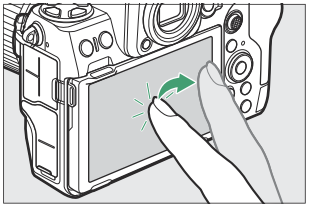
カスタムメニュー d9 [**ビューモード設定（静止画 Lv）**] を [**見やすさを重視**] に設定すると、撮影画面が見やすい色味や明るさで表示されます。

ヒント：使用するモニターモードを限定する

セットアップメニュー [**モニターモードの限定**] で表示設定を限定できます。

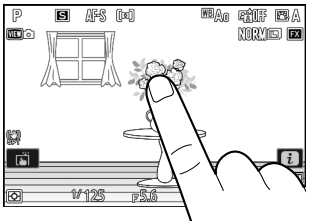
タッチパネル

このカメラの画像モニターはタッチパネルになっており、指で画面に触れて操作できます。ファインダーを見ながら撮影する場合はタッチ操作は無効になり、ピント合わせなどは行えません。

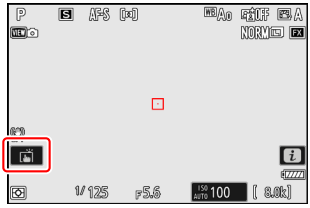


ピントを合わせる/シャッターをきる

- 画像モニターをタッチすると、その場所にピントを合わせます（タッチ AF）。
- 静止画モードの場合は画像モニターをタッチして指を放すと、シャッターがきれます（タッチシャッター）。

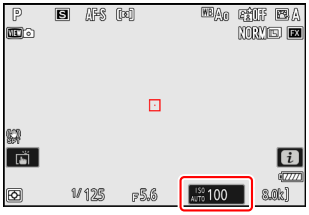


- をタッチすると、タッチ AF やタッチシャッターの設定を変更できます（📖 114）。

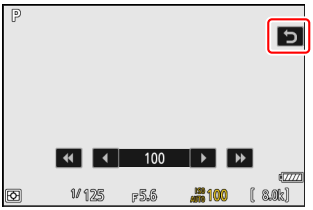


設定を変更する

- 枠が表示されたアイコンをタッチすると、設定を変更できます。
- アイコンやスライドバーをタッチして項目や数値を選びます。

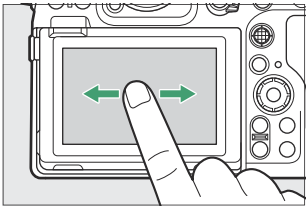


- ↩ をタッチするか OK ボタンを押すと設定を決定して前の画面に戻ります。

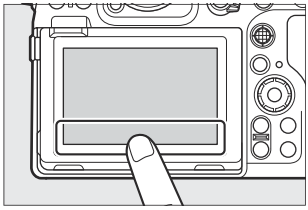


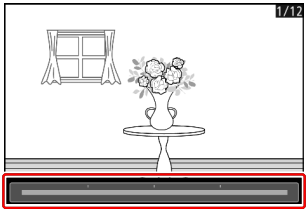
再生画面を切り換える

- 1 コマ表示時に左右にフリックすると、前後の画像を表示します。

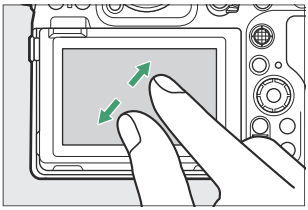


- 1 コマ表示時に画面下部をタッチすると、フレームアドバンスバーが表示されます。フレームアドバンスバーに触れたまま指を左右にスライドすると、前後の画像を高速で切り換えられます。



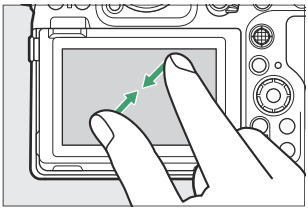


- 1 コマ表示時に広げる操作をするか、画像モニターを素早く 2 回タッチすると、拡大表示します。拡大表示した状態でさらに広げる操作をすると拡大率が上がり、つまむ操作をすると拡大率が下がります。



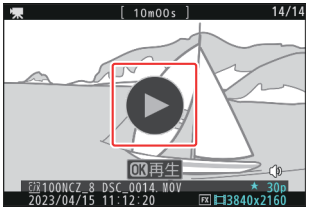
- 拡大表示時に画像モニターでスライド操作をすると、見たい部分に移動できます。
- 拡大表示時に画像モニターを素早く 2 回タッチすると、拡大表示を解除します。

- 1 コマ表示時につまむ操作をすると、サムネイル表示します。サムネイル表示で広げる/つまむ操作をすると、表示コマ数（4 コマ/9 コマ/72 コマ）が切り替わります。



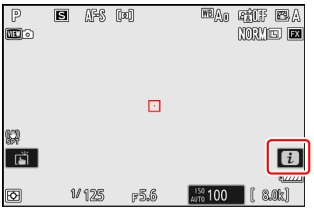
動画を再生する

- 🎥 が表示されている画像で、▶ アイコンをタッチすると再生します。
- 再生中に ↩ をタッチすると、再生を終了して 1 コマ表示モードに戻ります。



i メニューを設定する

- 撮影時に画像モニターの i をタッチすると i メニュー（📖 67）が表示されます。



- 設定したい項目をタッチすると、設定項目の内容を変更できます。
- i メニューに表示される項目はカスタマイズできます（📖 71）。



文字を入力する

- 文字入力画面が表示された場合、キーボードエリアで文字をタッチして入力できます。

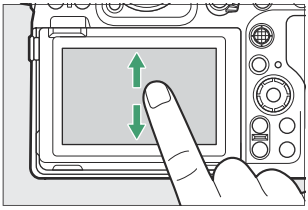


1 入力エリア
2 キーボードエリア
3 文字種変更

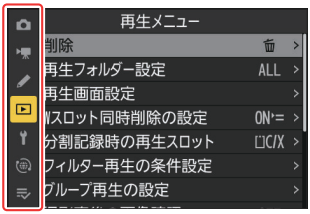
- 入力エリアをタッチするか ◀▶ をタッチすると、文字の入力位置を移動できます。
- 文字種変更アイコンをタッチすると、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。

メニューを設定する

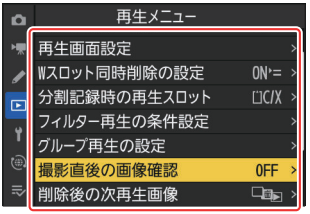
• 上下にスライドすると、メニュー画面がスクロールします。



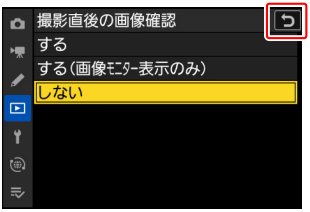
• 画面左端のアイコンをタッチすると、選んだアイコンのメニュー画面が表示されます。



• メニュー項目をタッチすると、設定項目の内容を変更できます。アイコンやスライドバーをタッチして項目や数値を選びます。



• ↩ をタッチすると、設定を変更しないで前の画面に戻ります。



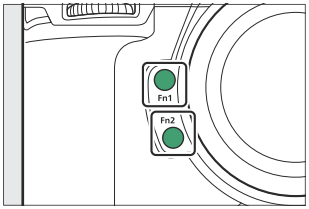
タッチパネルについてのご注意

• このカメラのタッチパネルは静電式です。爪でタッチしたり、手袋などをはめたままタッチしたりすると反応しないことがあります。セットアップメニュー［**タッチ操作**］>［**グローブモード**］を［**ON**］に設定すると、手袋をしていてもタッチ操作がしやすくなります。
• 先のとがった硬いもので押さないでください。
• タッチパネルを必要以上に強く押したり、こすったりしないでください。
• 市販の保護フィルムを貼ると反応しないことがあります。
• タッチパネルに指が触れたまま、別の指でタッチすると、適切に動作しないことがあります。

ヒント：タッチ操作の有効/無効について
セットアップメニュー［**タッチ操作**］>［**タッチ操作の設定**］で、タッチ操作の有効/無効を切り換えられます。

Fn1/Fn2 ボタン

撮影時に **Fn1** ボタンまたは **Fn2** ボタンを押すと、よく使う機能を素早く呼び出せます。

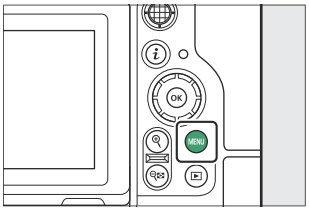


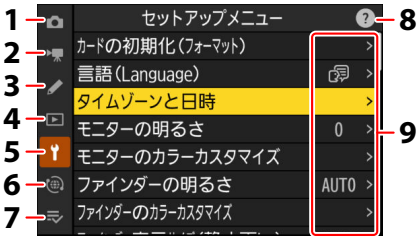
- **Fn1** ボタンの初期設定は撮影メニューの切り換え（🕮 411）、**Fn2** ボタンの初期設定は撮像範囲選択（🕮 97）です。
- **Fn1** ボタンまたは **Fn2** ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、割り当てた機能の設定を変更できます。項目によってはメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルで設定する場合があります。
- 機能の割り当てはカスタムメニューで変更できます。静止画撮影時（🕮 644）、動画撮影時（🕮 683）、再生時（🕮 662）の様々な機能を割り当てることができます。

メニューの使い方

MENU ボタンから設定を選ぶ

MENU ボタンを押すと、画像モニターにメニュー画面を表示します。



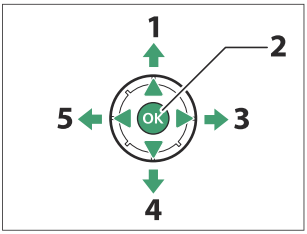


1 静止画撮影メニュー（408）
2 動画撮影メニュー（525）
3 カスタムメニュー（568）
4 再生メニュー（715）
5 セットアップメニュー（736）
6 ネットワークメニュー（794）
7 マイメニュー/最近設定した項目※（820）
8 ヘルプあり表示（65）
9 各項目の現在の設定

※ どちらかに設定できます。初期設定は［**マイメニュー**］です。

メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターと ⓚ ボタンを使います。



1 上に移動
2 決定する
3 次の画面に進む（右を選択または決定）
4 下に移動
5 前の画面に戻る（左を選択または取り消し）

1 メニューのタブを選ぶ

◀ を押して、タブの選択エリアにカーソルを移動させます。

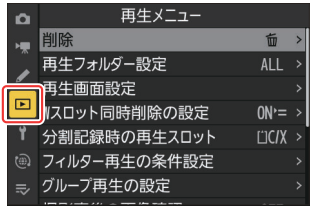




2 メニューを切り換える

▲▼ を押して、メニューのタブを切り換えます。

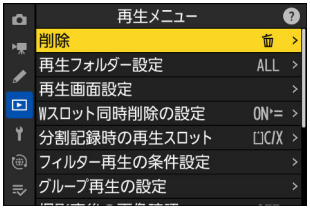




3 選んだメニューに入る

▶ を押して、選んだメニューに入ります。

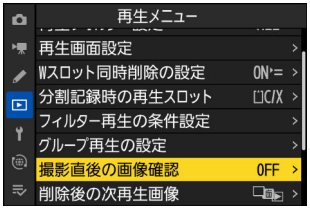




4 メニュー項目を選ぶ

▲▼ で項目を選びます。

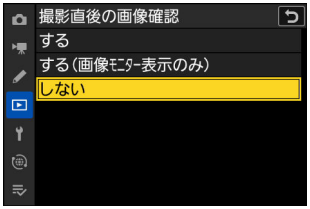




5 設定内容を表示する

▶ を押して設定内容を表示します。

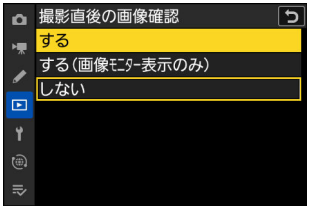




6 設定内容を選ぶ

㊤㊦ で設定内容を選びます。





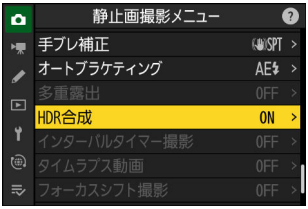
7 決定する



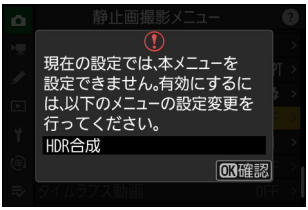
- ㊎ ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、MENU ボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

グレーで表示されるメニューについて

- カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されます。

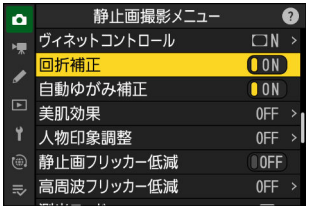


- メニューによっては ⓚ ボタンを押すとグレー表示されている原因が表示されます。



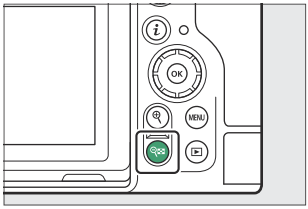
ヒント：選択肢が ON/OFF のみの項目の場合

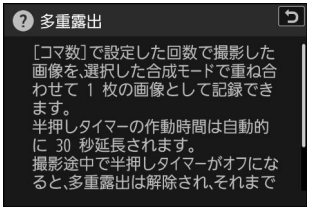
設定できる選択肢が［**ON**］または［**OFF**］のみの場合、ⓚ ボタンまたはマルチセレクターの ▶ を押すか、メニュー項目をタッチして［**ON**］と［**OFF**］を切り換えられます。



ヒント：?（ヘルプあり表示）

- ヘルプがある場合に ?（**?**）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します。
- 説明が 2 ページ以上ある場合は、マルチセレクターの ▼ を押して、次のページを表示してください。
- もう一度 ?（**?**）ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。





ヒント：タッチパネルでの設定について
メニューはタッチパネルで設定することもできます（📖 54）。

ヒント：入力画面の操作方法について
画像のファイル名など、一部のメニューでは文字を入力して設定を変更することがあります。文字を入力するときに表示される画面での操作方法は次の通りです。

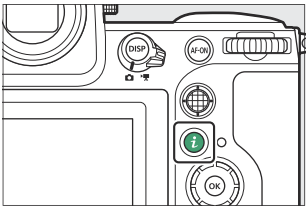


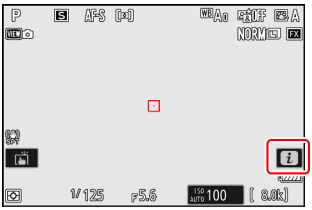
1 入力エリア
2 キーボードエリア
3 文字種変更

- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、㊎ ボタンを押します。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、コマンドダイヤルを回します。
- マルチセレクターで文字種変更アイコンにカーソルを移動させて ㊎ ボタンを押すと、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。文字種変更アイコンは、項目によって表示されないこともあります。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1 文字削除するには、削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑（Ⓠ）ボタンを押します。
- 内容を確定し、文字入力を終了する場合は、🔍 ボタンを押します。
- 文字の入力をキャンセルするには、MENU ボタンを押します。

i ボタン（i メニュー）から設定を選ぶ

i ボタンを押すか画像モニターの i をタッチすると、i メニューが表示されます。



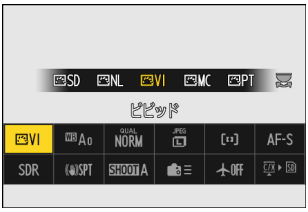


- 静止画モードの場合と動画モードの場合で表示される内容が異なります。
- 項目を選んで ⓚ ボタンを押すかタッチすると、設定内容の確認やマルチセレクターによる設定変更ができます。



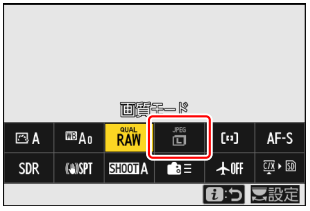
- コマンドダイヤルの操作ガイドが表示される項目の場合、i メニュー上で項目にカーソルを置いてコマンドダイヤルを回しても設定を変更できます。項目によってはメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルで設定する場合があります。





選択項目について

カメラの状態によって、設定できない項目があります。この場合、設定できない項目のアイコンがグレーで表示されます。



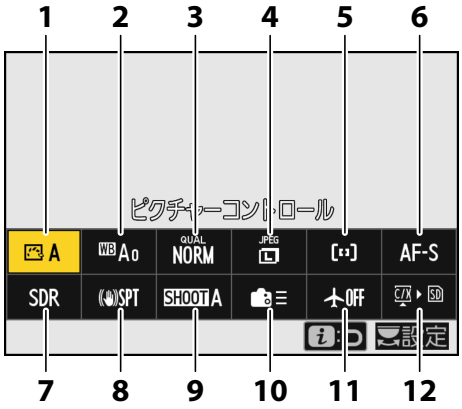
ヒント：i メニューの縦位置表示について

静止画モードでの撮影時または再生時にカメラを縦位置に構えると、画像モニターまたはファインダーの i メニュー画面も縦位置表示になります。動画モードの場合、再生時の i メニュー画面のみ縦位置表示になります。



静止画モードの i メニュー

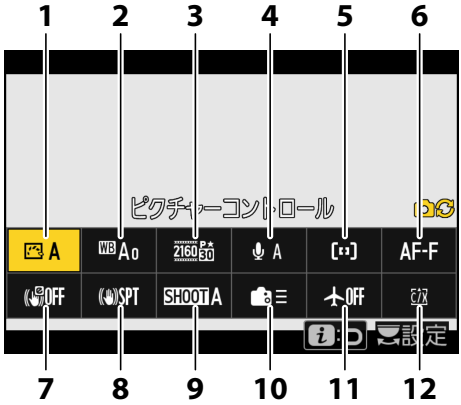
静止画モード時に i ボタンを押すと次の項目が表示されます。設定したい項目をマルチセレクターで選んで OK ボタンを押すと、選択項目が表示され、設定を変更できます。



1 ピクチャーコントロール（168）
2 ホワイトバランス（140）
3 画質モード（99）
4 画像サイズ（101）
5 AF エリアモード/被写体検出（105、109）
6 フォーカスモード（103）
7 階調モード（424）
8 手ブレ補正（461）
9 撮影メニュー切り換え（411）
10 カスタムボタンの機能（撮影）（644）
11 機内モード（796）
12 メモリーカード情報表示（642）

動画モードの i メニュー

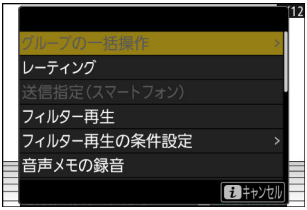
動画モード時に i ボタンを押すと次の項目が表示されます。設定したい項目をマルチセレクターで選んで ⓚ ボタンを押すと、選択項目が表示され、設定を変更できます。



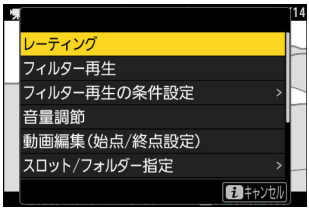
1 ピクチャーコントロール（📖 168）
2 ホワイトバランス（📖 140）
3 画像サイズ/フレームレート（📖 187）
4 マイク感度（📖 557）
5 AF エリアモード/被写体検出（📖 105、📖 109）
6 フォーカスモード（📖 103）
7 電子手ブレ補正（📖 556）
8 手ブレ補正（📖 555）
9 撮影メニュー切り換え（📖 411）
10 カスタムボタンの機能（📖 683）
11 機内モード（📖 796）
12 動画記録先（📖 531）

再生時の i メニュー

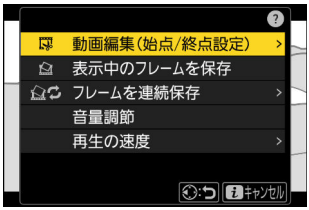
再生画面や動画再生時などに i ボタンを押すと、状況に応じた i メニューが表示されます。



静止画選択時



動画選択時



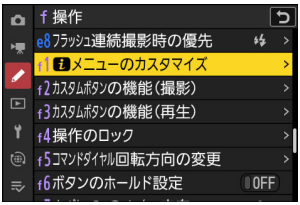
動画再生一時停止時

i メニュー項目のカスタマイズ

撮影時の i メニューで表示される項目は、カスタムメニュー f1 または g1［**メニューのカスタマイズ**］で変更できます。

1 カスタムメニュー f1 または g1［メニューのカスタマイズ］を選んで ⓚ ボタンを押す

メニューの選び方は「MENU ボタンから設定を選ぶ」（🕮 61）をご覧ください。



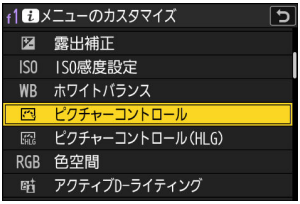
2 機能を割り当てたい場所を選んで ⓚ ボタンを押す

割り当てられる機能の一覧が表示されます。



3 割り当てたい機能を選んで ⓚ ボタンを押す

- 新しい機能が割り当てられ、手順 2 の画面に戻ります。
- 他の場所にも機能を割り当てたい場合は手順 2、3 を繰り返します。



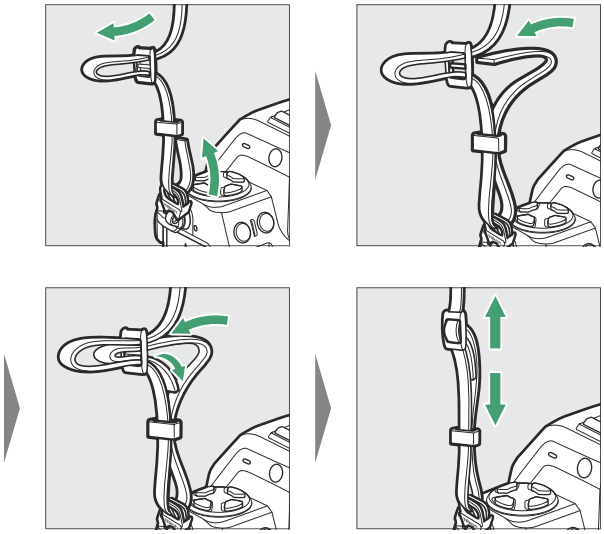
4 MENU ボタンを押す

機能の割り当てが決定してメニュー画面に戻ります。

準備をする

ストラップを取り付ける

ストラップの取り付け手順は次の通りです。



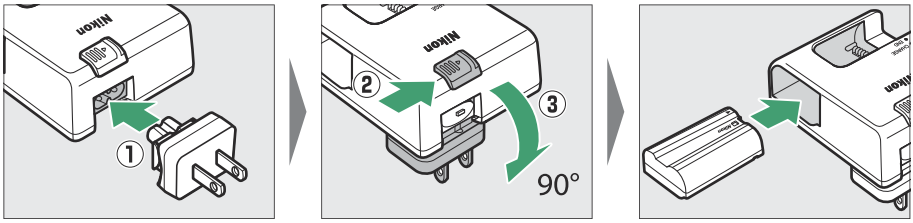
バッテリーを充電する

付属の Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c は、お使いになる前にフル充電してください。

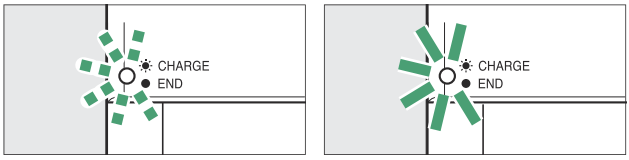
バッテリーとチャージャーの使用上のご注意
お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(27)、「カメラとバッテリーの使用上のご注意」(918) をお読みになり、記載事項をお守りください。

チャージャーを使用して充電する

- 電源プラグ（直付け型）を取り付けた後（①）、電源プラグ回転ロックを矢印の方向にスライドさせながら（②）、電源プラグを 90°回転させ、しっかりと固定させます（③）。バッテリーを挿入し、電源プラグをコンセントに差し込みます。



- フル充電するには約 2 時間 35 分かかります（残量のないバッテリーの場合）。



充電中（点滅）　充電完了（点灯）

チャージャーの「CHARGE」ランプが速く点滅する場合

チャージャーの「**CHARGE**」ランプが速く（1 秒間に 8 回）点滅する場合の原因と対処方法は次の通りです。

- **バッテリーのセットミス**：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- **指定温度外での使用**：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。

上記の処置をしても不具合が続く場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

付属の電源プラグ（直付け型）についてのご注意

付属の電源プラグは、バッテリーチャージャー MH-25a 以外の機器に接続しないでください。この電源プラグは、日本国内専用（AC100V 対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）https://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使用して充電する

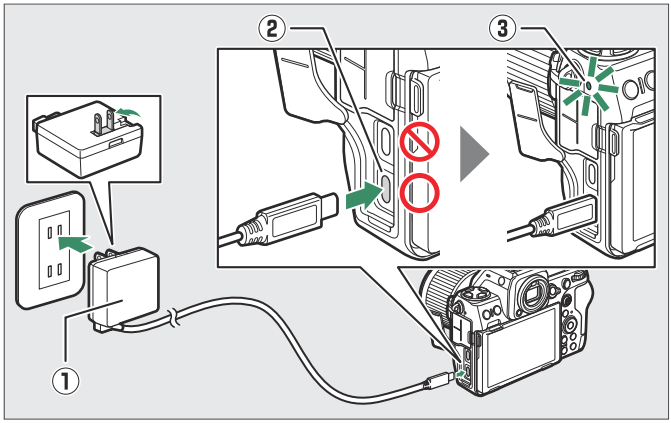
別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使用すると、カメラにバッテリーを入れた状態で充電ができます。

- フル充電するには約 2 時間 40 分かかります（残量のないバッテリーの場合）。
- 充電が終わったら EH-7P または EH-8P をコンセントから外し、カメラからケーブルを外してください。

充電方法

本体充電 AC アダプター EH-7P の場合：

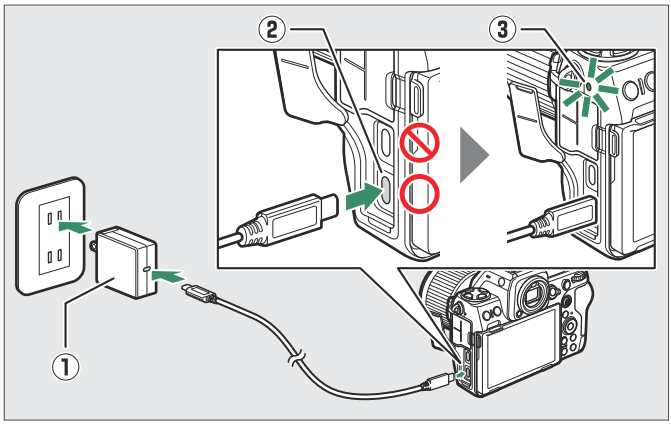
本体充電 AC アダプター EH-7P（①）をカメラの USB 充給電専用端子（②）に接続し、カメラの電源が OFF の状態で電源プラグを家庭用コンセントにつないでください。カメラの電源が OFF の間、充電を行います。プラグはまっすぐに抜き差ししてください。



- 充電中はチャージ LED（③）がオレンジ色で点灯します。充電が終わると、チャージ LED が消灯します。
- カメラの電源が ON の場合も半押しタイマーがオフの間は充電を行います。

AC アダプター EH-8P の場合：

別売の USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）を AC アダプター EH-8P（①）に接続します。ケーブルの反対側の端子はカメラの USB 充給電専用端子（②）に接続し、カメラの電源が OFF の状態で電源プラグを家庭用コンセントにつないでください。カメラの電源が OFF の間、充電を行います。プラグはまっすぐに抜き差ししてください。



- 充電中はチャージ LED（③）がオレンジ色で点灯します。充電が終わると、チャージ LED が消灯します。
- カメラの電源が ON の場合も半押しタイマーがオフの間は充電を行います。

EH-7P または EH-8P を使用した充電時のご注意

- ケーブルをカメラの USB 通信専用端子に接続した場合、バッテリーの充電は行われません。
- EH-7P または EH-8P を使って充電できるバッテリーは、EN-EL15c または EN-EL15b のみです。EN-EL15a を充電する場合は、バッテリーチャージャー MH-25a をご使用ください。
- カメラが高温になった場合や EN-EL15a を充電しようとした場合など、バッテリーの充電エラーが発生したときはチャージ LED が 30 秒間素早く点滅してから消灯します。
- チャージ LED が消灯したらカメラの電源を ON、または半押しタイマーをオンにして、バッテリーが充分に充電されているかどうかを確認することをおすすめします。

ヒント：EH-7P または EH-8P を使用して給電する

セットアップメニュー［**USB 給電**］が［**ON**］の場合、カメラの電源を ON にするとカメラへの給電を行います。

- ケーブルはカメラの USB 充給電専用端子に接続してください。USB 通信専用端子に接続した場合、カメラへの給電は行われません。
- 給電を行うには、カメラにバッテリーが挿入されている必要があります。
- 給電中はバッテリーの充電は行われません。
- 詳しくは「「給電」と「充電」について」（🕮 785）をご覧ください。

ヒント：USB Type-C 端子を備え、USB PD 規格準拠の市販の AC アダプターを使用して充電する

- 市販の AC アダプターを使用して充電することもできます。USB Type-C 端子を備え、USB PD 規格準拠の AC アダプターをご使用ください。
- 45W（15V/3A）以上の出力に対応した AC アダプターをご使用ください。
- カメラとの接続には、両端が Type-C の USB ケーブルをご使用ください。
- すべての市販の AC アダプターや USB ケーブルで充電できることを保証するものではありません。

ヒント：USB Type-C 端子を備え、USB PD 規格準拠の外部充電池（市販のモバイルバッテリー）を使用して充電する

- 市販のモバイルバッテリーを使用してバッテリーを充電することや、カメラに給電することもできます。USB Type-C 端子を備え、USB PD 規格準拠のモバイルバッテリーをご使用ください。
- 45W（15V/3A）以上の出力に対応したモバイルバッテリーの使用をおすすめします。
- カメラとの接続には、両端が Type-C の USB ケーブルをご使用ください。
- すべての市販のモバイルバッテリーや USB ケーブルで、充電や給電ができることを保証するものではありません。

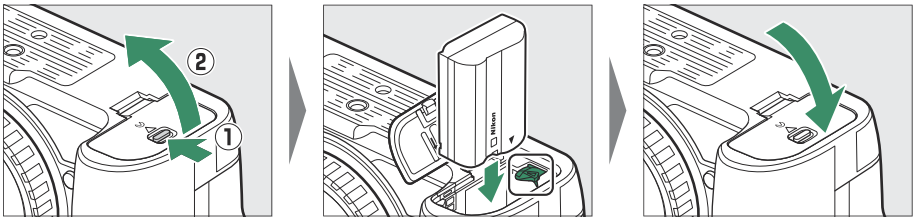
ヒント：パソコンと接続して充電または給電する場合

このカメラは、別売の USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）を使って、Type-C の USB ポートが標準装備されたパソコンと接続した場合も充電または給電ができます。

- 付属の USB ケーブル UC-E24（カメラ側が Type-C、USB 機器側が Type-A）でパソコンと接続しても充電および給電はできません。
- USB ケーブルはカメラの USB 充給電専用端子に接続してください。USB 通信専用端子に接続しても充電および給電はできません。
- パソコンの機種や仕様によっては、カメラと接続しても充電および給電ができない場合があります。

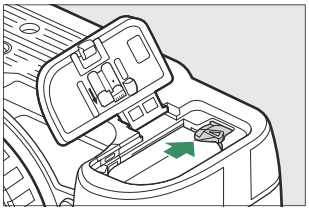
バッテリーを入れる

- バッテリーをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源を OFF にしてください。
- オレンジ色のバッテリーロックをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックがバッテリーに掛かって固定されます。



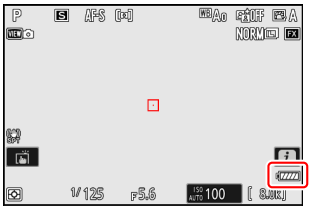
バッテリーを取り出すには

電源を OFF にしてからバッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックを矢印の方向に押すと、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。

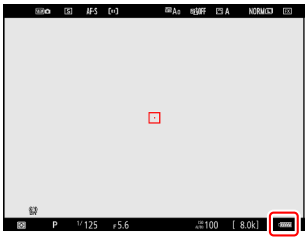


バッテリー残量について

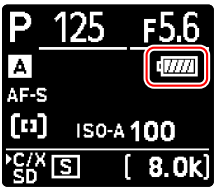
- カメラの電源を ON にすると、撮影画面または表示パネルでバッテリーの残量を確認できます。



画像モニター



ファインダー



表示パネル

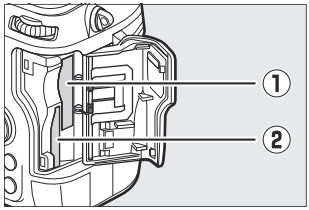
- バッテリー残量に応じて、、、、、のように表示されます。になったら残量が残りわずかのため、予備のバッテリーを準備するか、充電してください。
- [**撮影できません。バッテリーを交換してください。**] と警告メッセージが表示された場合は、バッテリーを交換するか、充電してください。

半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。何も操作が行われないまま約 30 秒経過すると半押しタイマーがオフになり、画像モニター、ファインダー、表示パネルの表示が消灯します。消灯する数秒前には画像モニターとファインダーの表示が暗くなります。シャッターボタンを半押しすると、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c3 [**パワーオフ時間**] > [**半押しタイマー**] で変更できます。

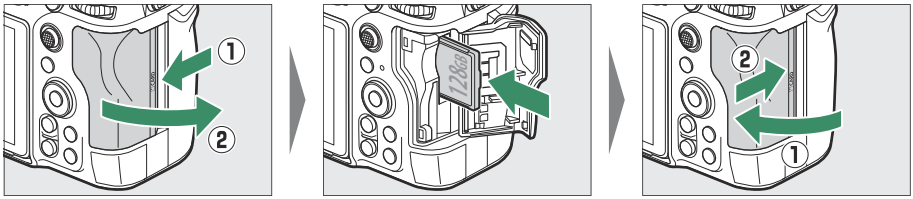
メモリーカードを入れる

このカメラは、CFexpress/XQD スロット（①）と SD スロット（②）の 2 つのメモリーカードスロットを装備しており、CFexpress/XQD カードと SD カードをそれぞれ 1 枚ずつ使用することができます。

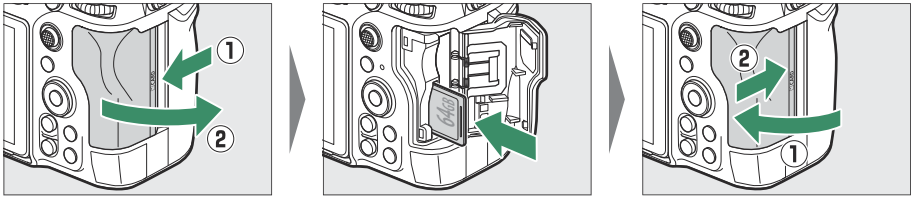


- メモリーカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源を OFF にしてください。
- メモリーカードは正しい向きでカチッと音がするまで、まっすぐ挿入してください。

- **CFexpress/XQD カードの場合**：



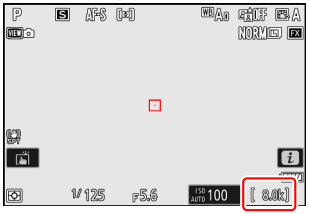
- **SD カードの場合**：



- 新しいメモリーカードを使用する場合は、セットアップメニュー［**カードの初期化（フォーマット）**］で初期化してから使用してください。

ヒント：記録可能コマ数について

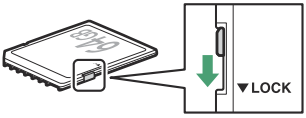
- メモリーカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）は、撮影画面または表示パネルで確認できます。



- 記録可能コマ数が 1000 コマ以上あるときは、1000 を意味する「k」が表示されます。たとえば「8.0k」と表示されている場合、8000 枚以上の撮影が可能です。
- メモリーカードが入っていない場合、［**–E–**］マークが表示されます。

ヒント：SD カードの書き込み禁止スイッチについて

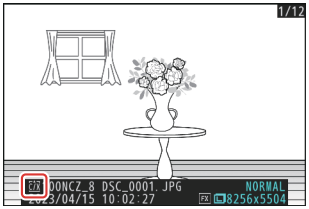
- SD カードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。



- 「LOCK」した SD カードをカメラに入れると、撮影画面に［**– – –**］マークと［**Card**］の警告表示が表示されます。
- 「LOCK」した SD カードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。

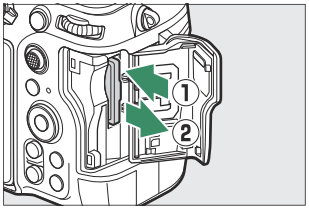
ヒント：メモリーカードマークについて

再生画面で表示している画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。



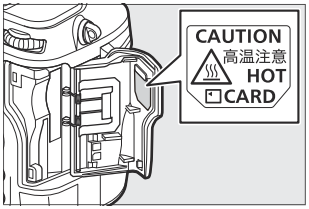
メモリーカードを取り出すには

メモリーカードアクセスランプの消灯を確認し、電源を OFF にしてからメモリーカードカバーを開けて、メモリーカードを奥に押し込んで放すと（①）カードが押し出されます。手で引き抜いて取り出してください（②）。



撮影画面にメモリーカード高温の注意表示が表示されたときは

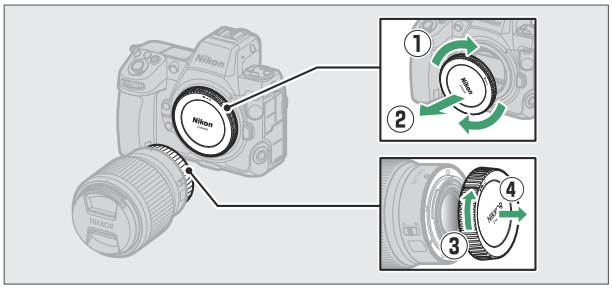
メモリーカードカバーの内側に示されているように、カメラ内のメモリーカードは高温になることがあります。撮影画面にメモリーカード高温の注意表示（HOT CARD）が表示されたときは、メモリーカードを取り出そうとせず、温度が下がって表示が消えるまでお待ちください。すぐに取り出そうとすると、やけどの原因となったり、落下させて破損させたりするおそれがあります。カメラ本体やバッテリーも高温になっている場合がありますので、ご注意ください。



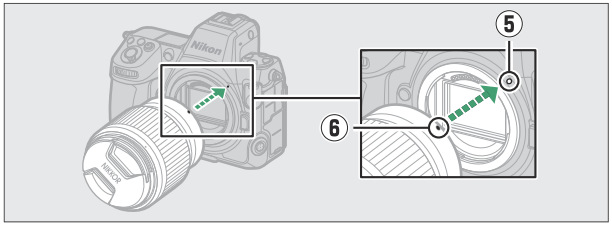
レンズを取り付ける

- このカメラには Z マウントのレンズが使用できます。レンズの詳しい使い方につきましては、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできる各レンズの説明書をご覧ください。
- 本書では、主に NIKKOR Z 50mm f/1.8 S のレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。
- レンズをカメラに取り付けるときは、必ずカメラの電源が OFF になっていることを確認してください。

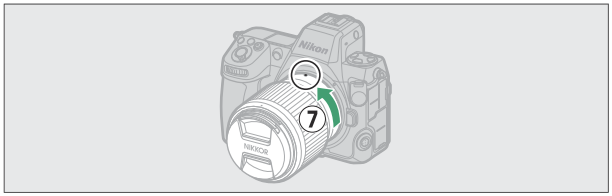
  - カメラのボディーキャップを取り外し（①、②）、レンズのリアキャップを取り外します（③、④）。



  - カメラの指標（⑤）とレンズの指標（⑥）を合わせます。撮像素子やレンズ信号接点に指などが触れないようにご注意ください。



  - カチッと音がするまで矢印の方向にレンズを回します（⑦）。



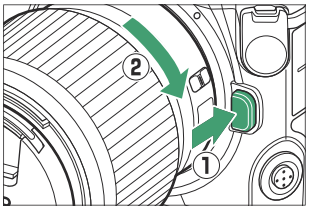
- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

F マウントレンズをご使用の場合

- F マウントのレンズをご使用になる場合は、必ず別売のマウントアダプター FTZ II/FTZ をカメラに装着してから取り付けてください（887）。
- F マウントレンズをカメラに直接取り付けようとすると、撮像素子やレンズが破損するおそれがありますので、絶対にしないでください。

レンズを取り外すには

- カメラの電源を OFF にしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら（①）、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し（②）、取り外してください。
- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズのリアキャップをそれぞれ取り付けてください。

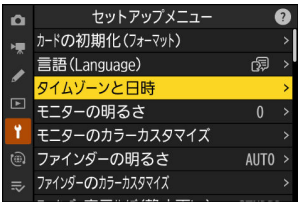


日付と時刻を設定する

カメラの電源を ON にして、カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、お使いになる前に次の手順で場所と日時を設定してください。

1 MENU ボタンを押し、セットアップメニュー［タイムゾーンと日時］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す

メニューの操作方法については、「メニュー項目の設定」（🕮 62）をご覧ください。



2 現在地を設定する

- ［**タイムゾーンと日時**］画面で［**タイムゾーン**］を選びます。
- 選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC（協定世界時）との時差が表示されます。
- ［**タイムゾーン**］画面で現在地のタイムゾーンを選んで ⓚ ボタンを押してください。



3 夏時間を設定する

- ［**タイムゾーンと日時**］画面で［**夏時間の設定**］を選びます。
- 現在地で夏時間（サマータイム）制を実施しているときは、［**ON**］に、実施していないときは［**OFF**］にしてください。
- ［**ON**］にすると、［**OFF**］のときよりも時刻が 1 時間進みます。



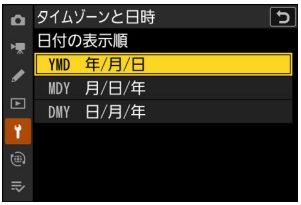
4 日付と時刻を合わせる

- ［**タイムゾーンと日時**］画面で［**日時の設定**］を選びます。
- ［**日時の設定**］画面でマルチセレクターを操作して現在地の日時に合わせてから、ⓚ ボタンを押してください。



5 日付の表示順を選ぶ

- [**タイムゾーンと日時**] 画面で [**日付の表示順**] を選びます。
- 再生画面に表示する日付の年、月、日の表示順を選んで ⓚ ボタンを押します。



6 メニュー操作を終了する

シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、メニュー操作を終了して、撮影できる状態になります。



◷ マークについて

撮影画面で ◷ が点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー [**タイムゾーンと日時**] > [**日時の設定**] で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約 2 日間かかります。充電すると、約 1 カ月の間時計を動かすことができます。

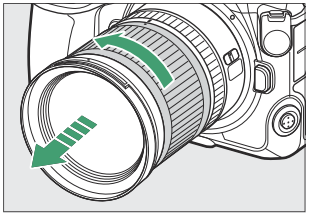
撮影と再生の基本操作

静止画を撮影する

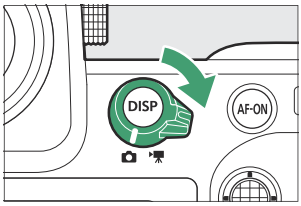
静止画を撮影する基本操作は次の通りです。

沈胴式のレンズをお使いの場合

沈胴機構を採用しているレンズをご使用の場合、撮影するにはレンズを繰り出す必要があります。ズームリングを矢印の方向にカチッと音がするまで回すと、レンズが繰り出します。



1 静止画/動画セレクターを に合わせて静止画モードにする

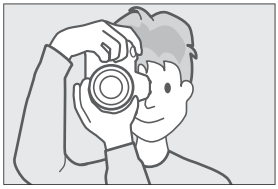


2 カメラを構える

脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



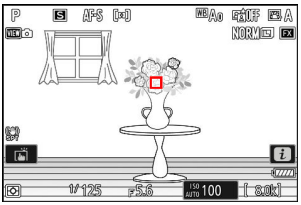
横位置



縦位置

3 構図を決める

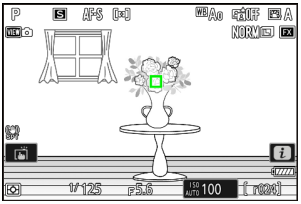
被写体を撮影画面の中央付近に配置します。



4 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる

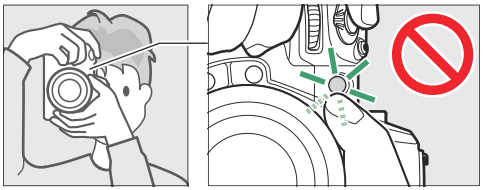


- ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。ピントが合わないと、フォーカスポイントが赤色で点滅します。
- 暗い場所などでは、AF 補助光が光ることがあります。
- **AF-ON** ボタンを押してもピント合わせができます。



AF 補助光について

AF 補助光が照射される場合、手などで AF 補助光を遮らないようにご注意ください。

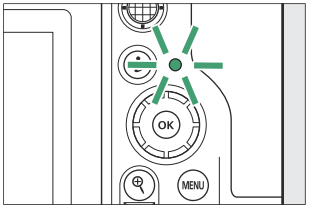


5 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する



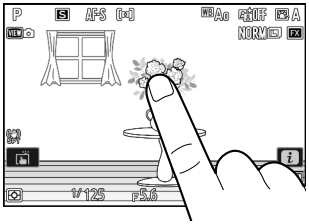
メモリーカードアクセスランプについて

メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、静止画を記録しています。**メモリーカードやバッテリーを取り出さないでください。**



ヒント：タッチシャッターについて

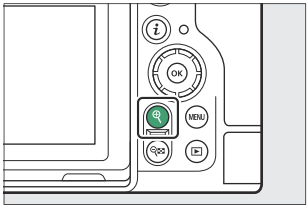
画像モニターをタッチしても撮影できます。タッチした位置でピント合わせを行い、指を放すとシャッターがきれます（114）。

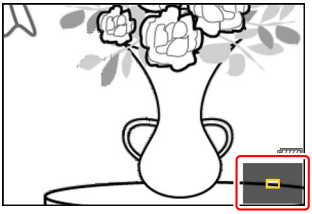


ヒント：静止画モード時の拡大表示

静止画モード時に 🔍 ボタンを押すと、拡大表示できます（最大約 32 倍）。

- 🔍 ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍（?）ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示時は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウが表示されます。
- 拡大表示時は、マルチセレクターを操作すると、見たい部分に移動できます。



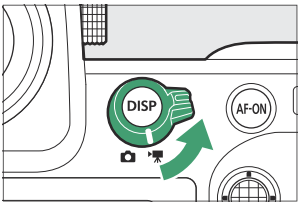


動画を撮影する

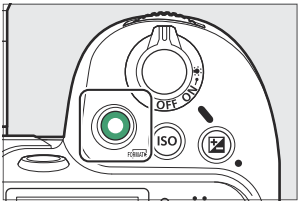
動画を撮影する基本操作は次の通りです。

1 静止画/動画セレクターを に合わせて動画モードにする

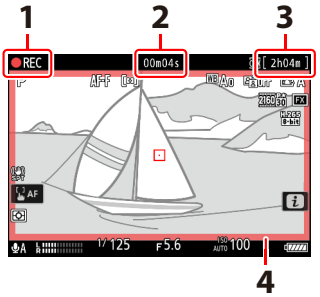
動画モード時は別売スピードライトは発光しません。



2 動画撮影ボタンを押して、動画の撮影を始める



- 動画記録中は、録画中マークが表示され、撮影画面の周囲に赤枠が表示されます。メモリーカードに撮影できる残り時間の目安も撮影画面で確認できます。



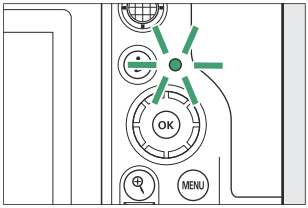
1 録画中マーク
2 動画記録時間（記録経過時間）
3 動画記録残り時間
4 録画中赤枠

- 動画記録中も、**AF-ON** ボタンを押すと被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵マイクで音声を記録します。動画記録中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- 画像モニターをタッチすると、タッチした位置の被写体にピントを合わせます。

3 もう一度動画撮影ボタンを押して、動画の撮影を終了する

メモリーカードアクセスランプについて

メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、動画を記録しています。**メモリーカードやバッテリーを取り出さないでください。**



（動画記録禁止）マークについて

マークが表示されているときは、動画の撮影ができません。

動画記録時のご注意

- 次のような場合は、動画記録は自動的に終了します。
  - 最長記録時間に達したとき
  - バッテリー残量がなくなったとき
  - 撮影モードを変更したとき
  - 静止画/動画セレクターを切り換えたとき
  - レンズを取り外したとき
  - カメラ内部の温度が上昇したとき
- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
  - オートフォーカス作動中
  - 手ブレ補正機能作動中
  - パワー絞り作動中

メモリーカード高温の注意表示や温度上昇警告が表示されたときは

動画記録中にメモリーカードやカメラの内部が高温になると、撮影画面にメモリーカード温度注意表示（HOT CARD）や温度上昇警告（）が表示される場合があります。

- メモリーカード温度注意表示（HOT CARD）が表示されたときは、メモリーカードを取り出そうとせず、温度が下がって表示が消えるまでお待ちください。すぐに取り出そうとすると、やけどの原因となったり、落下させて破損させたりするおそれがあります。
- メモリーカード温度注意表示（HOT CARD）や温度上昇警告（）が表示されたときは、カードのほかにカメラ本体やバッテリーも高温になっている場合がありますので、ご注意ください。

カメラで静止画および動画を撮影するときのご注意

- 撮影画面の表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した静止画および動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 動きのある被写体が歪む（電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む／カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む）
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
  - 動画記録時のパワー絞り作動中、画面にちらつきが発生する
- 撮影画面を ボタンで拡大表示した場合、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）、色の変化が発生しやすくなります。
- 撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

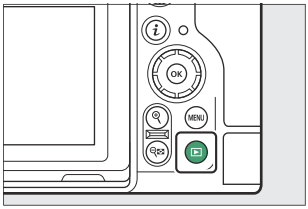
ヒント：動画モードの拡大表示

動画モード時も ボタンを押して拡大表示できます（89）。

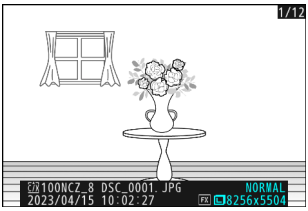
- 動画記録中は ボタンを押すと 50%、100%（等倍）、200%、400%に拡大して表示します。（**?**）ボタンを押すと拡大率が下がります。ただし、動画の画像サイズを 1920×1080 に設定している場合、50%の拡大表示はできません。
- RAW 動画（200）撮影時は拡大表示できません。
- 動画再生中は、動画を一時停止すると拡大表示できます。

撮影した画像を確認する

▶ ボタンを押すと、撮影した静止画と動画を画像モニターまたはファインダーに再生して確認できます。



- マルチセレクターの ◀▶ を押すか画像モニターを左右にフリックすると画像を切り換えられます。



- 動画には画面の左上に 🎥 マークが表示されています。OK ボタンを押すか、または画面上の ▶ アイコンをタッチすると動画が再生されます。



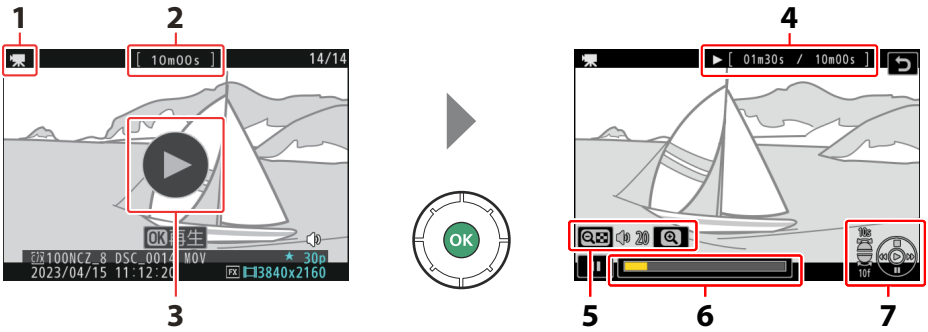
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

動画の再生

動画再生時の画面表示と操作方法は、次の通りです。

動画再生時の画面表示

動画の再生画面では次のような情報が表示され、記録時間や再生時間を確認できます。プログレスバーで再生中の位置の目安を確認することもできます。



1 マーク
2 記録時間
3 アイコン

4 再生時間/記録時間
5 音量設定
6 プログレスバー
7 操作ガイド

動画再生中の操作方法

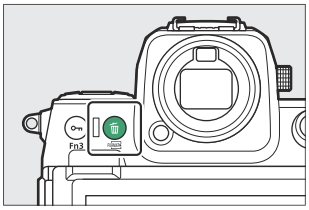
動画の再生中は、次の操作ができます。

操作	内容
一時停止する	マルチセレクターの ▽ を押すと一時停止します。
再生を再開する	一時停止中または早戻し/早送り中に ⓚ ボタンを押すと動画再生を再開します。
早戻しする/早送りする	動画の再生中に ◁ を押すと早戻し、▷ を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、早戻し/早送りの速度が 2 倍、4 倍、8 倍、16 倍に切り替わります。
スロー再生する	一時停止中に ▽ を押すとスロー再生します。

操作	内容
コマ戻しする/ コマ送りする	• 一時停止中に ◀/▶ を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 • ◀/▶ を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10 秒進める/ 10 秒戻す	サブコマンドダイヤルを回すと、10 秒前または後に移動します。
10 フレーム進める/ 10 フレーム戻す	メインコマンドダイヤルを回すと、10 フレーム前または後に移動します。
先頭フレームに移動する/ 最終フレームに移動する	• ◀ を押し続けると、先頭フレームに移動し、▶ を押し続けると、最終フレームに移動します。 • 先頭フレームには ⏮ アイコンが、最終フレームには ⏭ アイコンが、画面右上に表示されます。
拡大表示する	一時停止中に 🔍 ボタンを押すと拡大表示します。
音量を調節する	🔍 ボタンを押すと音量が大きくなり、🔍 (**?**) ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集する	一時停止中に **i** ボタンを押すと、動画再生の **i** メニュー画面を表示します。
再生終了	▲ または ▶ ボタンを押すと 1 コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しすると、再生を終了します。

画像の削除

🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を削除できます。**削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。**



- 再生画面で削除したい画像を表示して🗑（FORMAT）ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。



ヒント：再生メニュー［削除］

再生メニューの［**削除**］では、次の操作ができます。

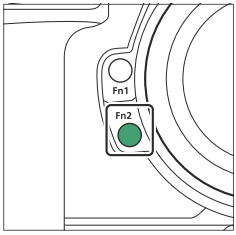
- 複数の画像を選んで削除
- レーティングで（削除候補）に設定した全ての画像を削除
- 同じ日付の画像をまとめて削除
- 再生フォルダー内の全画像を一括して削除

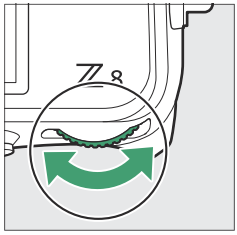
撮影機能の設定

撮像範囲/画質モード/画像サイズ

撮像範囲に関する設定を変更する

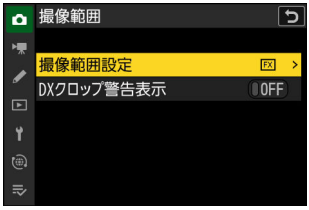
初期設定では、**Fn2** ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと撮像範囲を設定できます。







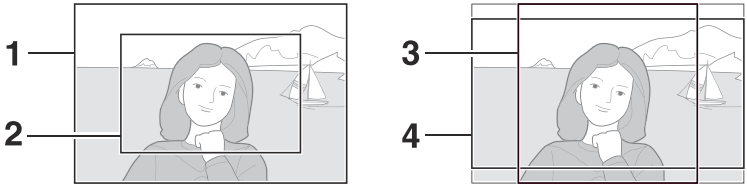
- 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］で、撮像範囲に関する設定を変更できます。



撮像範囲設定

撮像範囲を切り換えられます。設定できる撮像範囲は次の通りです。

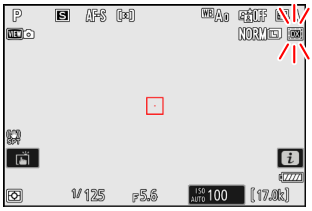
項目		内容
FX	［**FX（36×24）**］	35mm 判カメラに準じた画角の FX フォーマットで画像を記録します。
DX	［**DX（24×16）**］	DX フォーマットで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約 1.5 倍のレンズに相当する画角になります。 • DX レンズを装着すると、撮像範囲が［**DX（24×16）**］に固定されます。
1:1	［**1:1（24×24）**］	アスペクト比（縦横比）が 1：1 の画像を記録します。
16:9	［**16:9（36×20）**］	アスペクト比（縦横比）が 16：9 の画像を記録します。



1 FX（36×24）
2 DX（24×16）
3 1:1（24×24）
4 16:9（36×20）

DX クロップ警告表示

［**ON**］に設定すると、撮像範囲が DX（24×16）に設定されている場合に撮影画面の撮像範囲アイコンが点滅します。

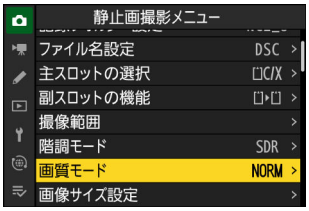


画質モードを変更する

画像を記録する際の画質モードを選びます。

画質モードの設定方法

静止画撮影メニュー［**画質モード**］で設定できます。



項目	内容
［**RAW+FINE★**］	RAW 画像と JPEG 画像または RAW 画像と HEIF 画像を同時に記録します。 • 静止画撮影メニュー［**階調モード**］を［**SDR**］に設定すると、RAW と JPEG を同時記録します。静止画撮影メニュー［**階調モード**］を［**HLG**］に設定すると、RAW と HEIF を同時記録します。 • ★ がある項目は、同時記録する JPEG または HEIF が画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。★ がない項目は、同時記録する JPEG または HEIF がサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。 • メモリーカードを 1 枚使用して RAW と JPEG または RAW と HEIF を同時記録した場合、カメラでは JPEG または HEIF のみ再生されます。 • メモリーカードを 1 枚使用している場合や、メモリーカードを 2 枚使用していても静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］が［**順次記録**］または［**バックアップ記録**］の場合、RAW と同時記録された JPEG または HEIF をカメラ上で削除すると、RAW も削除されます。
［**RAW+FINE**］	
［**RAW+NORMAL★**］	
［**RAW+NORMAL**］	
［**RAW+BASIC★**］	
［**RAW+BASIC**］	
［**RAW**］	RAW 画像を記録します。

項目	内容
［**FINE★**］	JPEG 画像または HEIF 画像を記録します。画質は高い順に FINE、NORMAL、BASIC です。 • 静止画撮影メニュー［**階調モード**］を［**SDR**］に設定すると、JPEG を記録します。静止画撮影メニュー［**階調モード**］を［**HLG**］に設定すると、HEIF を記録します。 • ★ がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。★ がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
［**FINE**］	
［**NORMAL★**］	
［**NORMAL**］	
［**BASIC★**］	
［**BASIC**］	

ヒント：RAW 画像について

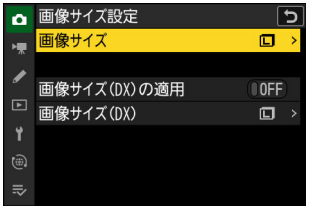
- ファイルの拡張子は NEF になります。
- RAW 画像から JPEG 画像などの汎用性の高い画像ファイルフォーマットに変換することを「RAW 現像」と呼びます。RAW 現像の際に、露出補正やホワイトバランス、ピクチャーコントロールなどの設定を調整できます。
- RAW 現像では、RAW 画像そのものは加工されないため、いろいろな設定で繰り返し RAW 現像を行っても、RAW 画像そのものの品質は維持されます。
- RAW 現像は、再生時の **i** メニュー［**画像編集**］>［**RAW 現像（表示画像）**］または［**RAW 現像（複数画像）**］で行うか、パソコンでニコンソフトウェア NX Studio を使用すると行えます。NX Studio はニコンダウンロードセンターから無料でダウンロードできます。

ヒント：RAW 画像と JPEG 画像または RAW 画像と HEIF 画像の同時記録について

静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］を［**RAW+JPEG 分割記録**］または［**RAW+HEIF 分割記録**］に設定してメモリーカードを 2 枚使用している場合、RAW 画像が主スロットに、JPEG 画像または HEIF 画像が副スロットに記録されます（🕮 420）。

画像サイズを変更する

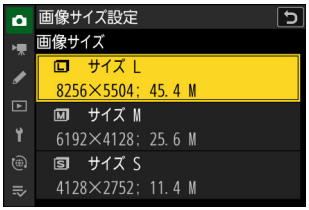
静止画撮影メニュー［**画像サイズ設定**］で記録する画像の画像サイズを設定できます。



画像サイズ

記録する画像の画像サイズを選びます。RAW 以外の画像サイズを［**サイズ L**］、［**サイズ M**］、［**サイズ S**］のいずれかに設定できます。

- RAW 画像の画像サイズは［**サイズ L**］に固定されます。



画像のピクセル数は、撮像範囲（97）との組み合わせで変わります。

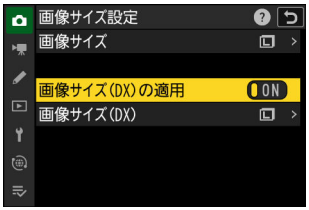
撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ（出力解像度 300dpi の場合）
［**FX（36×24）**］	L（8256×5504 ピクセル）	約 69.9×46.6cm
	M（6192×4128 ピクセル）	約 52.4×35.0cm
	S（4128×2752 ピクセル）	約 35.0×23.3cm
［**DX（24×16）**］	L（5392×3592 ピクセル）	約 45.7×30.4cm
	M（4032×2688 ピクセル）	約 34.1×22.8cm
	S（2688×1792 ピクセル）	約 22.8×15.2cm
［**1:1（24×24）**］	L（5504×5504 ピクセル）	約 46.6×46.6cm
	M（4128×4128 ピクセル）	約 35.0×35.0cm
	S（2752×2752 ピクセル）	約 23.3×23.3cm

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ （出力解像度 300dpi の場合）
［16:9（36×20）］	L（8256×4640 ピクセル）	約 69.9×39.3cm
	M（6192×3480 ピクセル）	約 52.4×29.5cm
	S（4128×2320 ピクセル）	約 35.0×19.6cm

ヒント：プリント時の大きさについて
画像をプリントするときの大きさは、ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cm で求められます。

画像サイズ（DX）の適用

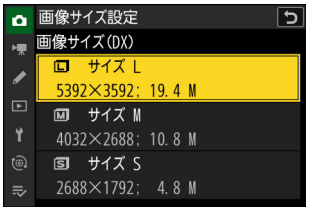
［**ON**］に設定すると、静止画の撮像範囲を［**DX（24×16）**］に設定したときの画像サイズを、その他の撮像範囲設定時の画像サイズと別に設定できます。



画像サイズ（DX）

［**画像サイズ（DX）の適用**］が［**ON**］の場合に、静止画の撮像範囲を［**DX（24×16）**］に切り換えたときの画像サイズを設定できます。

- RAW 画像の画像サイズは［**サイズ L**］に固定されます。



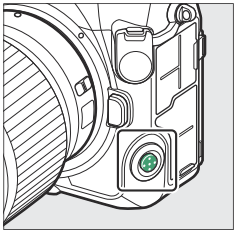
フォーカス

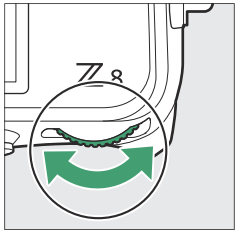
フォーカスモードを変更する

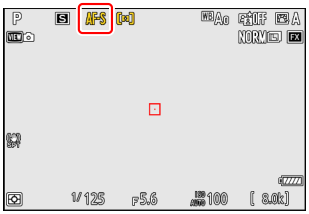
ピントの合わせ方を選べます。

フォーカスモードの設定方法

フォーカスモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとフォーカスモードを設定できます。







ヒント：［フォーカスモード］について

フォーカスモードは静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー［**フォーカスモード**］でも設定できます。

項目		内容
AF-S	［**シングル AF**］	• 静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行い、ピントが合った時点でフォーカスポイントが赤色から緑色に変わって点灯し、フォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはフォーカスポイントが赤色で点滅してシャッターがきれません。 • 初期設定は、ピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです。
AF-C	［**コンティニュアス AF**］	• スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けている間はフォーカスロックはされず、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。 • 初期設定は、ピントの状態に関係なくシャッターがきれるレリーズ優先モードです。

項目		内容
AF-F	［**フルタイム AF**］	• カメラは常に被写体の動きや構図の変化に合わせてピントを合わせ続けます。 • シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行って、ピントが合った時点でフォーカスポイントが赤色から緑色に変わって点灯し、フォーカスがロックされます。 • 動画モードの場合のみ選べます。
MF	［**マニュアルフォーカス**］	ピントを自分で合わせたいときに選びます（🕮 118）。ピントの状態に関係なく、シャッターがきれます。

オートフォーカスについてのご注意

- 次の被写体はオートフォーカスでピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な線の被写体
  - 明暗差の少ない被写体
  - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- ピントが合わなくてもフォーカスポイントが緑色で点灯する場合があります。
- 暗い場所でピント合わせを行うと、ピントが合うまで時間がかかる場合があります。

ヒント：暗い場所でのピント合わせについて

カスタムメニュー d10［**スターライトビュー（静止画 Lv）**］を［**ON**］に設定すると、暗い場所でもピントが合いやすくなります。静止画モードの場合に有効になります。

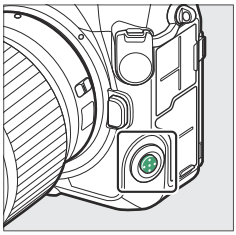
AF エリアモードを変更する

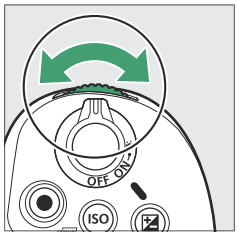
オートフォーカス使用時に、フォーカスポイントをどのように選択するか設定できます。

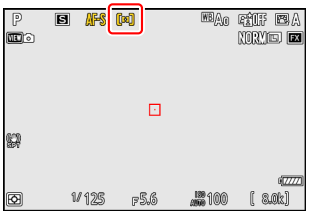
- AF エリアモードが［**オートエリア AF**］以外の場合、フォーカスポイントはサブセレクターまたはマルチセレクターを使用して移動できます（🕮 113）。

AF エリアモードの設定方法

フォーカスモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと AF エリアモードを設定できます。







ヒント：［AF エリアモード］について

AF エリアモードは静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー［**AF エリアモード**］でも設定できます。

項目		内容
[PIN]	［**ピンポイント AF**］	• シングルポイント AF よりも小さいフォーカスポイントを使って、より狭い範囲にピンポイントでピントを合わせることができます。 • シングルポイント AF よりもピント合わせに時間がかかることがあります。 • 建築物などの静止している被写体の撮影や、スタジオでの商品撮影や接写に適しています。 • 静止画モードで、フォーカスモードが［**シングル AF**］の場合のみ選べます。
[ ]	［**シングルポイント AF**］	• 撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。 • 静止している被写体の撮影に適しています。

項目		内容
[S]	[**ダイナミック AF（S）**]	• 撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。 • 静止画モードで、フォーカスモードが［**コンティニュアス AF**］の場合のみ選べます。 • スポーツの撮影など、シングルポイント AF では被写体をとらえにくい動きのある被写体の撮影に適しています。 • ピントを合わせる範囲を **S**、**M**、**L** で設定できます。**S** が最も狭く、**L** が最も広い範囲で被写体をとらえます。 • ［**ダイナミック AF（S）**］：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体をとらえやすい撮影に適しています（例：陸上競技やモータースポーツ）。 • ［**ダイナミック AF（M）**］：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています（例：フィールドスポーツ）。 • ［**ダイナミック AF（L）**］：被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体をとらえにくい場合の撮影に適しています（例：野鳥撮影）。
[M]	[**ダイナミック AF（M）**]	
[L]	[**ダイナミック AF（L）**]	
[WIDE-S]	[**ワイドエリア AF（S）**]	• シングルポイント AF よりも広い範囲で被写体をとらえてピント合わせを行います。 • スナップ撮影や、動きのある被写体、シングルポイント AF ではとらえにくい被写体の撮影などに適しています。 • 動画撮影で、動きのある被写体を撮影する場合やパン・チルトを行う場合にも、滑らかで安定したピント合わせが行えます。 • フォーカスポイント内に複数の被写体がある場合、手前の被写体を優先してピントを合わせます。 • ［**ワイドエリア AF（L）**］は［**ワイドエリア AF（S）**］よりも広い範囲で被写体をとらえます。
[WIDE-L]	[**ワイドエリア AF（L）**]	

項目		内容
[E 3] W-C1	［**ワイドエリア AF（C1）**］	• ピント合わせを行う AF エリアのサイズを、フォーカスポイントの縦と横の数で設定できます。 • ピントを合わせたい範囲がある程度決まっている被写体の撮影などに適しています。 • ［**ワイドエリア AF（C1）**］または［**ワイドエリア AF（C2）**］を選ぶと AF エリアのサイズを設定できます。⏶⏷ で縦方向、◀▶ で横方向のフォーカスポイントの数を変更できます。 • 設定できる AF エリアのサイズは静止画撮影メニューの場合は［**1×1**］から［**19×11**］の 20 パターン、動画撮影メニューの場合は［**1×1**］から［**13×7**］までの 12 パターンです。
[E 3] W-C2	［**ワイドエリア AF（C2）**］	
[3D]	［**3D-トラッキング**］	• フォーカスポイントを指定した被写体に追尾させることができます。 • 追尾させたい被写体にフォーカスポイントを合わせ、**AF-ON** ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。**AF-ON** ボタンまたはシャッターボタンを放すと追尾を終了してフォーカスポイントが追尾を開始する前の位置に戻ります。 • カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度フォーカスポイントで被写体にピントを合わせてください。 • 静止画モードで、フォーカスモードが［**コンティニュアス AF**］の場合のみ選べます。
[⊕]	［**ターゲット追尾 AF**］	• フォーカスポイントを指定した被写体に追尾させることができます。 • 追尾させたい被写体にフォーカスポイントを合わせ、OK ボタンまたは **AF-ON** ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。OK ボタンを押すと追尾を終了してフォーカスポイントが撮影画面の中央に戻ります。 • 動画モードの場合のみ選べます。
[▬]	［**オートエリア AF**］	• カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別して AF エリアフレーム内でピントを合わせます。 • シャッターチャンスを優先した撮影、人物撮影、スナップ撮影などに適しています。

3D-トラッキングおよびターゲット追尾 AF についてのご注意

次のような場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさ、柄が背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

ヒント：フォーカスポイントが ⊡ のように表示されている場合

［**オートエリア AF**］、［**3D-トラッキング**］または［**ターゲット追尾 AF**］に設定している場合を除き、フォーカスポイント中央に点が表示されているときは、フォーカスポイントが画面の中央にあることを示しています。

ヒント：［ワイドエリア AF（C1）］、［ワイドエリア AF（C2）］の AF エリアのサイズを変更する

［**AF エリアモード**］の設定が［**ワイドエリア AF（C1）**］または［**ワイドエリア AF（C2）**］の場合、フォーカスモードボタンを押しながらマルチセレクターの ◓◒◐◑ を押すと AF エリアのサイズを変更できます。

ヒント：フォーカスポイントを素早く選ぶには

- カスタムメニュー a4［**AF 点数**］を［**スキップ**］に設定すると、サブセレクターやマルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数が約 1/4 になります。AF エリアモードが［**ピンポイント AF**］の場合は［**スキップ**］に設定しても選べるフォーカスポイントの数は変化しません。
- フォーカスポイントの移動を主にサブセレクターで行っている場合、カスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］>［**サブセレクター中央**］で［**フォーカスポイント中央リセット**］に設定しておくと、フォーカスポイントを素早く画面中央に戻すことができます。

オートフォーカス時に優先してフォーカスを合わせる被写体を設定する

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー［**AF 時の被写体検出設定**］でオートフォーカス使用時に優先してフォーカスを合わせる被写体を［**オート**］、［**人物**］、［**動物**］、［**鳥**］、［**乗り物**］、［**飛行機**］、［**しない**］から選べます。カメラが被写体を検出すると、被写体にフォーカスポイントが表示されます。



- 動画撮影メニューの場合、［**AF 時の被写体検出設定**］>［**被写体検出**］で設定します。静止画モードと動画モードでそれぞれ異なる被写体を設定できます。
- ［**AF エリアモード**］の設定が［**ワイドエリア AF（S）**］、［**ワイドエリア AF（L）**］、［**ワイドエリア AF（C1）**］、［**ワイドエリア AF（C2）**］、［**3D-トラッキング**］、［**ターゲット追尾 AF**］、［**オートエリア AF**］の場合に被写体の検出が可能です。

- ［**人物**］に設定した場合、カメラが人物の顔を検出すると顔にフォーカスポイントが表示されます。瞳を検出できるときは、左右どちらかの瞳にフォーカスポイントが表示されます（瞳 AF/顔検出 AF）。カメラが検出した人物が一時的に横や後ろを向いたりしても、追尾してフォーカスポイントが移動します。



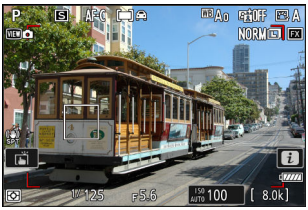
- ［**動物**］に設定した場合、カメラが犬、猫および鳥の顔を検出すると顔にフォーカスポイントが表示されます（動物 AF）。瞳を検出できるときは、左右どちらかの瞳にフォーカスポイントが表示されます。顔または瞳が検出できなかった場合、動物の全身を検出してフォーカスポイントが表示されます。



- ［**鳥**］に設定した場合、カメラが鳥の顔を検出すると顔にフォーカスポイントが表示されます。瞳を検出できるときは、左右どちらかの瞳にフォーカスポイントが表示されます。顔または瞳が検出できなかった場合、鳥の全身を検出してフォーカスポイントが表示されます。



- [**乗り物**] に設定した場合、車、バイク、列車、飛行機および自転車を検出すると被写体にフォーカスポイントが表示されます。列車は前面のみ検出します。飛行機は大きさにより機体全体、機首部分、コクピットの 3 種類を検出します。



- [**飛行機**] に設定した場合、飛行機を検出すると機体にフォーカスポイントが表示されます。大きさにより機体全体、機首部分、コクピットの 3 種類を検出します。



- [**オート**] に設定した場合、人物、動物および乗り物を被写体として検出し、ピントを合わせる対象をカメラが自動的に選択します。
- [**しない**] に設定した場合、被写体の検出を行いません。
- 複数の被写体を検出した場合は被写体にグレーの枠が表示されます。[**AF エリアモード**] の設定が [**オートエリア AF**] の場合、カメラが選んでいるフォーカスポイントに ◀ および ▶ が表示されます。マルチセレクターの ◀▶ を押してピントを合わせたい被写体を選ぶことができます。
- 再生画面で ⓞⓚ ボタンを押すとピントを合わせた被写体を中心に画像が拡大されます。

瞳 AF と顔検出 AF についてのご注意

次のような場合は、正常に検出できないことがありますので、ご注意ください。

- 顔が画面に対して大きい/小さい場合
- 顔が明るすぎる/暗すぎる場合
- メガネやサングラスをかけている場合
- 髪の毛で目や顔が隠れている場合
- 人物の動きが大きすぎる場合

動物 AF についてのご注意

- 次のような場合は、正常に検出できないことがありますので、ご注意ください。
  - 顔が画面に対して大きい/小さい場合
  - 顔が明るすぎる/暗すぎる場合
  - 体毛などで目や顔が隠れている場合
  - 瞳と周辺部位の色が近い場合
  - 動物の動きが大きすぎる場合
- 犬、猫、鳥以外でも、類似した動物に枠が表示されることがあります。
- AF 補助光が動物の瞳に悪影響をおよぼす可能性があるため、カスタムメニュー a12［**内蔵 AF 補助光の照射設定**］を［**OFF**］に設定してください。

鳥 AF についてのご注意

- 次のような場合は、正常に検出できないことがありますので、ご注意ください。
  - 顔が画面に対して大きい/小さい場合
  - 顔が明るすぎる/暗すぎる場合
  - 羽毛などで目や顔が隠れている場合
  - 瞳と周辺部位の色が近い場合
  - 鳥の動きが大きすぎる場合
- 鳥以外でも、類似した動物や物体に枠が表示されることがあります。鳥以外の検出が目立つ場合、AF エリアモードをより狭い設定に変更すると改善されることがあります。
- 蛍光灯や水銀灯などの光源下では、静止画撮影時にちらつき（フリッカー現象）が通常よりも発生しやすくなります。
  - 静止画撮影メニュー［**静止画フリッカー低減**］を［**ON**］にするとフリッカー現象の影響を低減できます。
  - フリッカー現象が発生していない場合は静止画撮影メニュー［**静止画フリッカー低減**］を［**OFF**］にしておくことをおすすめします。
- AF 補助光が鳥の瞳に悪影響をおよぼす可能性があるため、カスタムメニュー a12［**内蔵 AF 補助光の照射設定**］を［**OFF**］に設定してください。

乗り物 AF および飛行機 AF についてのご注意

- 次のような場合は、正常に検出できないことがありますので、ご注意ください。
  - 被写体が画面に対して大きい/小さい場合
  - 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
  - 被写体が部分的に隠れている場合
  - 被写体と周辺の色が近い場合
  - 被写体の動きが大きすぎる場合
- 被写体の色、形状によっては検出できない場合があります。また、乗り物および飛行機以外に枠が表示されることがあります。

被写体の検出性能について

次のような場合は、被写体の検出性能が低下することがあります。

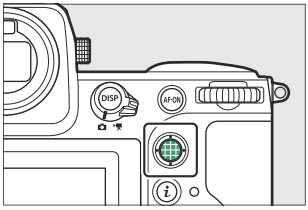
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影時
- 静止画撮影メニュー［**階調モード**］で［**HLG**］を選んでいる場合
- 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**ProRes 422 HQ 10-bit（MOV）**］または［**H.265 10-bit（MOV）**］に設定し、階調モードで［**HLG**］または［**N-Log**］を選んでいる場合

フォーカスポイントを自分で選ぶ

AF エリアモードが［**オートエリア AF**］以外の場合、フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

- 半押しタイマーがオンのときに、マルチセレクターを押してフォーカスポイントを選べます。
- ⓞⓚ ボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選ばれます。

ヒント：サブセレクターについて



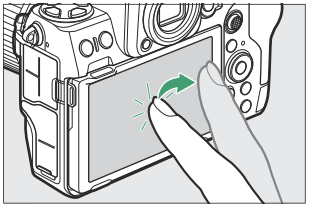
- マルチセレクターの代わりにサブセレクターを上下左右に倒してフォーカスポイントを選ぶこともできます。
- サブセレクターの中央を押している間、AE ロックとフォーカスロックを同時に行います。
- ファインダーを見ながら撮影する場合にサブセレクターを操作するときは、爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

ヒント：フォーカスポイントのロックについて

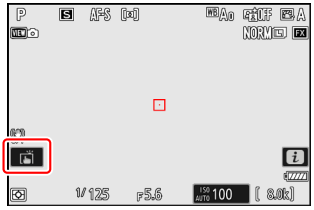
カスタムメニュー f4 または g3［**操作のロック**］>［**フォーカスポイントのロック**］を［**ON**］に設定すると、フォーカスポイントをロック（固定）できます。

タッチシャッター

タッチした位置にフォーカスポイントを移動してピント合わせを行います。指を放すとシャッターがきれます。



図のアイコンをタッチすると、画像モニターをタッチしたときの機能を切り換えられます。



項目		内容
	［**タッチシャッター/タッチ AF**］	• タッチした位置にフォーカスポイントを移動してピント合わせを行い、指を放すとシャッターがきれます。 • 瞳をタッチしても意図した側の瞳にピントが合わないことがあります。その場合はマルチセレクターで選んでください。 • AF エリアモードを［**オートエリア AF**］に設定している場合、タッチした位置にある被写体にピント合わせを行って撮影し、被写体を追尾します。Ⓚ ボタンを押すと追尾を終了します。 • 静止画モードの場合のみ選べます。
OFF	［**無効**］	タッチ操作は無効になります。
	［**フォーカスポイント移動**］	• タッチした位置にフォーカスポイントを移動します。ピント合わせを行わず、指を放してもシャッターがきれません。 • AF エリアモードを［**ターゲット追尾 AF**］または［**オートエリア AF**］に設定している場合、タッチした位置にある被写体の追尾を開始します。Ⓚ ボタンを押すと追尾を終了します。

項目		内容
AF	［**タッチ AF**］	• タッチした位置にフォーカスポイントを移動して、ピント合わせのみを行います。指を放してもシャッターはきれません。 • AF エリアモードを［**ターゲット追尾 AF**］または［**オートエリア AF**］に設定している場合は、タッチした位置にある被写体にピント合わせを行って追尾を開始します。OK ボタンを押すと追尾を終了します。

タッチ操作で撮影するときのご注意

- マニュアルフォーカス撮影時はタッチしてもピント合わせを行いません。
- が表示されている場合も、シャッターボタンを押して撮影できます。
- レリーズモードを連続撮影に設定していても、1 コマしか撮影されません。連続撮影するには、シャッターボタンを押して撮影してください。
- セルフタイマー設定時は、画面の被写体をタッチするとピントが固定され、指を放してから約 10 秒後にシャッターがきれます。また、セルフタイマーの撮影コマ数を 1 コマ以外に設定した場合、連続で撮影します。

ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

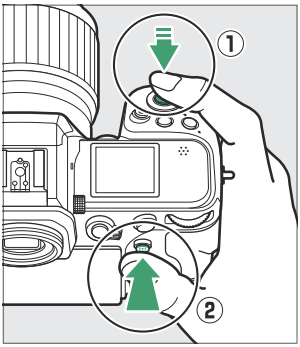
オートフォーカスではピントが合わせづらい被写体を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

- フォーカスモードが **AF-C** の場合にフォーカスを固定したいときに使用します。
- フォーカスロックする場合、AF エリアモードを［**オートエリア AF**］以外に設定してください。

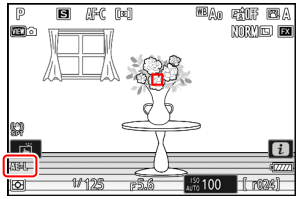
1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

2 サブセレクターの中央を押す

- シャッターボタンを半押ししたまま（①）、サブセレクターの中央を押すと（②）、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントが固定されます。
- 露出の固定（AE ロック）も同時に行われます。



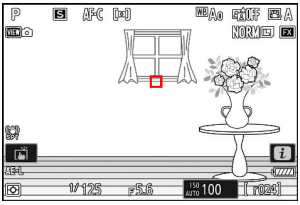
- 画像モニターなどに **AE-L** マークが点灯します。



3 サブセレクターの中央を押したまま、構図を決めて撮影する



被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



フォーカスモードが AF-S の場合のフォーカスロックについて

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押してピントを固定することもできます。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- サブセレクターの中央を押してフォーカスロックを行った場合は、サブセレクターの中央を押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後にシャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

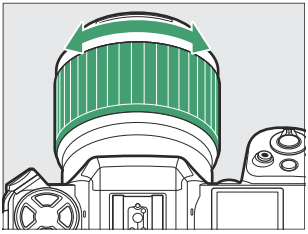
ヒント：AF-ON ボタンを使ったフォーカスロックについて

- シャッターボタンの代わりに **AF-ON** ボタンを押してピントを合わせることもできます。
- カスタムメニュー a6［**半押し AF レンズ駆動**］が［**しない**］に設定されている場合は、**AF-ON** ボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。このとき、**AF-ON** ボタンでピントを合わせた後で **AF-ON** ボタンから指を放すとフォーカスロックの状態を維持します。フォーカスロックを解除してピントを合わせ直すには、もう一度 **AF-ON** ボタンを押してください。

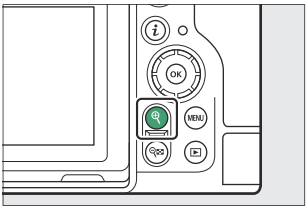
マニュアルフォーカスで撮影する

フォーカスモードをマニュアルフォーカスに設定すると、ピントを自分で合わせられます。オートフォーカスの苦手な被写体を撮影する場合などに使用します。

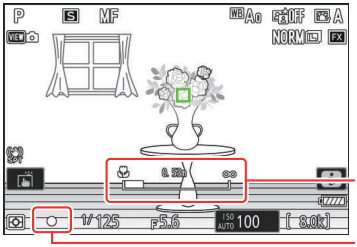
- ピントを合わせたい場所にフォーカスポイントを合わせ、レンズのフォーカスリングまたはコントロールリングを回します。



- ピントの状態を細部まで確認したい場合は、🔍ボタンを押して被写体を拡大表示してください。



- マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内および画像モニター内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます（フォーカスエイド）。また、ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。



1 フォーカス距離指標/ピント位置までの距離表示
2 ピント表示

ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。

ピント表示	意味
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	ピント合わせができません。

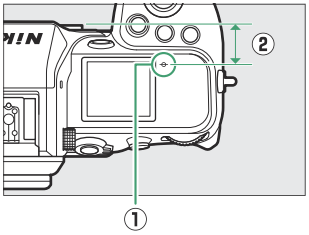
- オートフォーカスの苦手な被写体をマニュアルフォーカスでピント合わせした場合、ピントが合っていなくてもピント表示（●）が点灯することがあります。撮影画面を拡大表示して、被写体にピントが合っていることを確認してください。また、ピント合わせがしづらい場合は、三脚のご使用をおすすめします。

マニュアルフォーカスの切り換えについて

フォーカスモードが切り換えられるレンズを装着している場合、レンズでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り換えることができます。

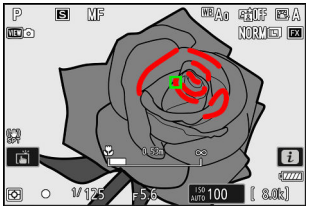
距離基準マークとフランジバックについて

距離基準マーク ⊖（①）は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。また、レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法をフランジバック（②）といいます。このカメラのフランジバックは 16mm です。



ヒント：フォーカスピーキング

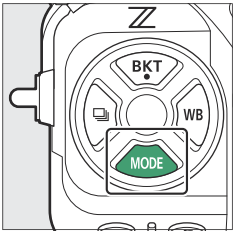
- マニュアルフォーカス時にカスタムメニュー a13［**フォーカスピーキング**］>［**フォーカスピーキング表示**］を［**ON**］に設定すると、ピントが合っている部分（ピーキング）の輪郭に色を付けて表示できます。
- 被写体の輪郭を検出できない場合、ピントが合っていてもフォーカスピーキングができないことがあります。撮影画面でピントが合っていることを確認してください。

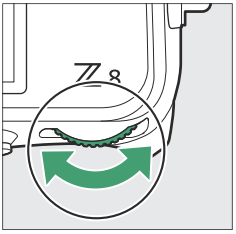


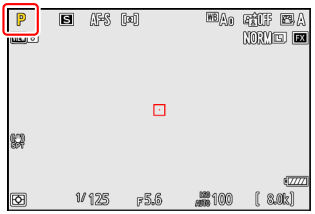
撮影モード/露出補正

撮影モードを設定する

MODE ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影モードを設定できます。撮影モードは、撮影画面と表示パネルに表示されます。





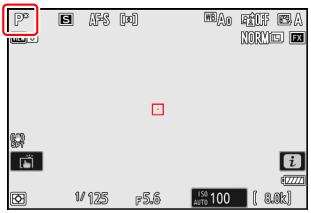


モード		内容
P	**プログラムオート**（📖 121）	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート**（📖 121）	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート**（📖 121）	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル**（📖 122）	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

P（プログラムオート）

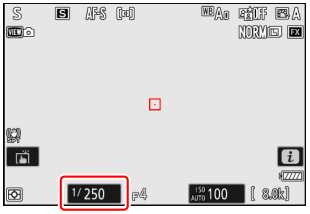
- 被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられる「プログラムシフト」が行えます。

  - プログラムシフト中は、プログラムシフトマーク（✱）が表示されます。
  - プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマークが消えるまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。



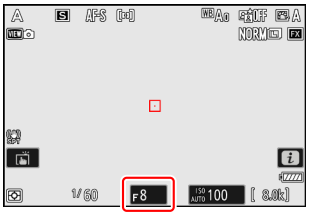
S（シャッター優先オート）

- シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。
- シャッタースピードはメインコマンドダイヤルを回して設定します。
- シャッタースピードは1/32000～30秒に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできます（🕮 668、🕮 695）。



A（絞り優先オート）

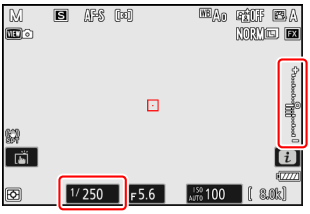
- 絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。
- 絞り値はサブコマンドダイヤルを回して設定します。
- 設定できる最小絞り値、開放絞り値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます（🕮 668、🕮 695）。



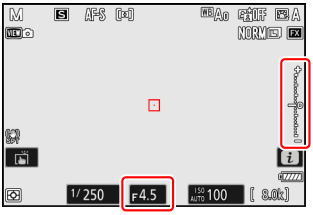
M（マニュアル）

- シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影：🕮 124）で撮影する場合にも使用します。
- 露出インジケーターを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは 1/32000～30 秒、**Bulb**（バルブ）、**Time**（タイム）に設定できます。

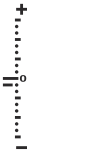


- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放絞り値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます（🕮 668、🕮 695）。



露出インジケーターについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、画像モニターとファインダー、表示パネルに表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］の設定によって変化します）。

表示部	［露出設定ステップ幅］が［1/3 段］のとき		
	適正露出の場合	1/3 段アンダーの場合	3 1/3 段以上オーバーの場合
画像モニター			
ファインダー/表示パネル			

インジケーターの＋と－の左右方向は、カスタムメニュー f7［**インジケーターの＋/－方向**］で変更できます。

露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合は、露出インジケーターが点滅して警告します。

ヒント：シャッタースピードの延長について

カスタムメニュー d6［**M モード時のシャッタースピード延長**］を［**ON**］に設定すると、シャッタースピードを最長 900 秒（15 分）まで設定できます。

ヒント：長秒時のシャッタースピードについて

シャッタースピードを 1 秒より低速に 設定した場合、カメラに表示される露光時間と実際の露光時間が異なる場合があります。たとえばシャッタースピードを 15 秒に設定した場合は実際には 16 秒、30 秒に設定した場合は実際には 32 秒でシャッターがきれます。60 秒または 60 秒よりも遅く設定した場合は、設定したシャッタースピードの表示と同じ秒時でシャッターがきれます。

ヒント：撮影モード M 時の感度自動制御機能について

感度自動制御機能（🕮 138）を使用すると、設定したシャッタースピードと絞り値で適正露出になるように ISO 感度が自動的に制御されます。

長時間露出で撮影する（撮影モード M のみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の 2 種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。

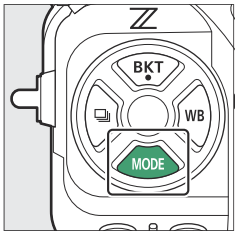


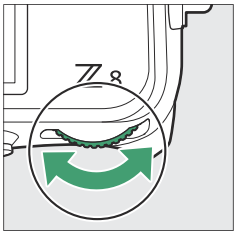
シャッタースピードを Bulb に設定し、絞り値を F25 にして 35 秒間の長時間露出撮影した場合の画像

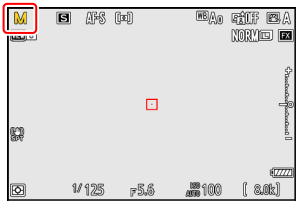
撮影方法	内容
バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

1 三脚などを使ってカメラを固定する

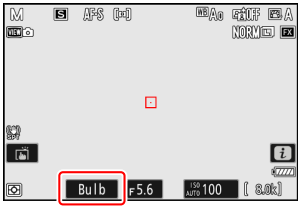
2 MODE ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して撮影モードを M にする







3 メインコマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを Bulb（バルブ）または Time（タイム）にする

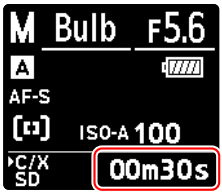


バルブ撮影　　タイム撮影

シャッタースピードを **Bulb** または **Time** に設定すると、露出インジケーターは表示されません。

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

- **バルブ撮影**：シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。
- **タイム撮影**：シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。
- 表示パネルに経過時間が表示されます。



5 長時間露出撮影を終了する

- **バルブ撮影**：シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。
- **タイム撮影**：もう一度シャッターボタンを全押しします。

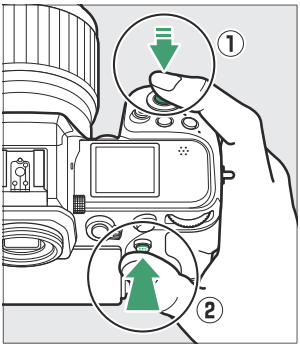
長時間露出について

- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。
- 静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**ON**］に設定すると、画像に発生するむらや輝点が低減されます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、次のいずれかをお使いください。
  - 充分に充電したバッテリー
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P と USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）
  - 別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b
- 手ブレを抑えるために三脚、別売のリモートコードやワイヤレスリモートコントローラーなどの使用をおすすめします。

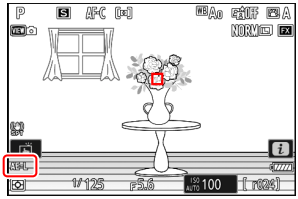
露出を固定して撮影する

AE ロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、サブセレクターの中央を押して、露出を固定する



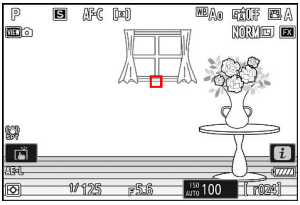
- サブセレクターの中央を押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。



- 撮影画面に **AE-L** マークが点灯します。
- オートフォーカス撮影時は、フォーカスロックも同時に行われます。

2 サブセレクターの中央を押したまま、構図を決めて撮影する





ヒント：シャッターボタンの半押しで露出を固定するには
カスタムメニュー c1［**シャッターボタン AE ロック**］を［**する（半押し）**］に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます。

ヒント：測光エリアについて
- ［**スポット測光**］に設定した場合、選択中のフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- ［**中央部重点測光**］に設定した場合は、撮影画面中央部（⌀12 mm の円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。

ヒント：AE ロック中のカメラ操作について
サブセレクターの中央を押している間も以下の操作ができます。

撮影モード	操作
P	プログラムシフト（🕮 121）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 撮影画面と表示パネルには、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。

露出補正して画像の明るさを調整する

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変更することです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。



－1 段補正



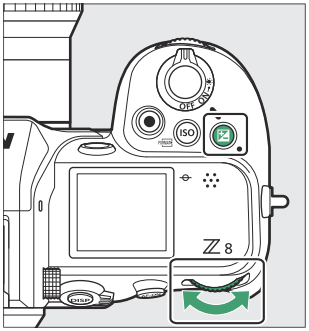
露出補正なし



＋ 1 段補正

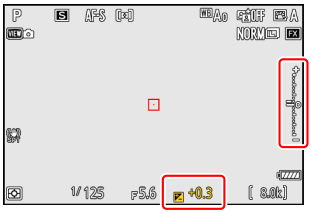
露出補正の設定方法

ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回します。

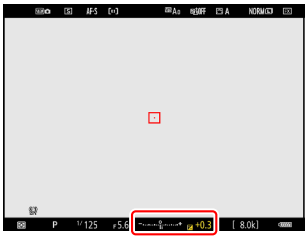


- 露出補正は、±5 段の範囲で設定できます。動画の場合は±3 段の範囲で設定できます。
- 補正ステップは、初期設定では 1/3 段ステップです。ステップ幅は、カスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］で変更できます。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正してください。

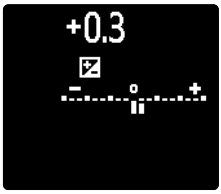
- 補正量を設定すると、撮影画面と表示パネルに露出補正マーク と露出補正インジケーターが表示されます。撮影モードが **M** 以外の場合、露出補正インジケーターの **0** が点滅します。 ボタンを押すと補正量を数字で確認できます。



画像モニター



ファインダー



表示パネル

- 露出補正を解除するには、補正量を 0.0 にしてください。カメラの電源を OFF にしても、補正量の設定は解除されません。

ヒント：撮影モード M での露出補正について

- 撮影モードが **M** のときは、露出のインジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。
- 感度自動制御機能（🕮 138）を使用している場合、補正量に応じて ISO 感度が自動的に制御されます。

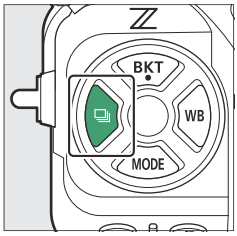
ヒント：別売スピードライト使用時の露出補正

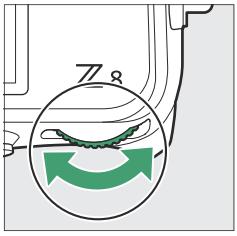
別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われ、画像全体の明るさが変わりますが、背景の明るさだけを補正することもできます（カスタムメニュー e3［**フラッシュ使用時の露出補正**］）。

レリーズモード

1 コマ撮影や連続撮影など、レリーズモードを変更する

ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。





- 設定した項目にさらに選択肢がある場合、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。

モード		内容
S	**1 コマ撮影**	シャッターボタンを全押しするたびに 1 コマずつ撮影します。
L	**低速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します。 • 撮影速度は 1 コマ/秒～10 コマ/秒の間で設定できます。ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定してください。
H	**高速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。 • 撮影速度は 10 コマ/秒～20 コマ/秒の間で設定できます。ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定してください。
30	**C30**	シャッターボタンを全押ししている間、30 コマ/秒、60 コマ/秒、または 120 コマ/秒で連続撮影を行えます（133）。
60	**C60**	
120	**C120**	

モード		内容
⏲	**セルフタイマー 撮影**	セルフタイマー撮影ができます（🕮 135）。

連続撮影速度について

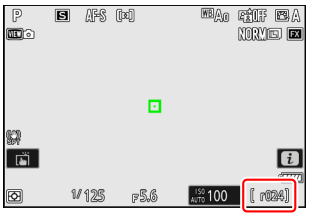
- 低速連続撮影または高速連続撮影の連続撮影速度は、カスタムメニュー d1［**連続撮影速度**］でも設定できます。
- 低速連続撮影で連続撮影速度を 8 コマ/秒に設定した場合、実際の撮影速度は 7.5 コマ/秒になります。
- 連続撮影速度は、フォーカスモードが **AF-C**、撮影モードが **M**、1/250 秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定のときの値です。次の場合などは連続撮影速度が遅くなることがあります。
  - フラッシュ使用時
  - サイレントモード時
  - 静止画撮影メニュー［**静止画フリッカー低減**］を［**ON**］に設定し、フリッカーが検出されている場合
  - レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
  - シャッタースピードが低速の場合
- 静止画撮影メニュー［**静止画フリッカー低減**］を［**ON**］に設定している場合（🕮 448）、レリーズ時に撮影画面が一瞬暗くなります。

連続撮影についてのご注意

- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から 1 分間程度メモリーカードアクセスランプが点灯します。メモリーカードアクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- シャッタースピードが 1/250 秒よりも低速の場合、撮影中に表示される撮影画面はリアルタイムの表示ではありません。被写体を追従して撮影したい場合、シャッタースピードを 1/250 秒よりも高速側に設定してください。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源を OFF にすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。

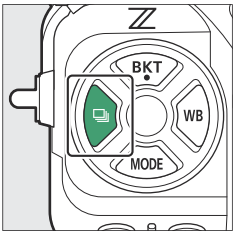
ヒント：連続撮影可能コマ数について

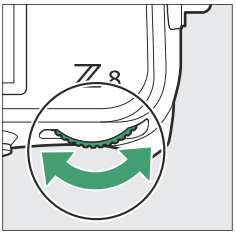
- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が記録可能コマ数表示部に表示されます。
- 「**r000**」と表示されている間は連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。カメラの設定や撮影条件によってコマ数が増減することがあります。



「ハイスピードフレームキャプチャー +」（C30/C60/C120）で撮影する

ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して［**C30**］、［**C60**］、または［**C120**］を選ぶと、30 コマ/秒、60 コマ/秒、または 120 コマ/秒で連続撮影を行えます（「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影）。







- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」で連続撮影できる最長時間は、選んだ撮影速度により異なります。
- カスタムメニュー d3［**プリキャプチャー記録設定**］では、シャッターボタンを全押しした時点からさかのぼって静止画を記録する時間を設定できます（プリキャプチャー機能）。また、全押し後、何秒間撮影するかを設定できます（606）。
- タッチシャッターで撮影する場合は 1 コマしか撮影されません。「ハイスピードフレームキャプチャー +」で撮影するには、シャッターボタンを押して撮影してください。

「ハイスピードフレームキャプチャー +」の制限について

- 撮像範囲は次のように制限されます。
  - ［**C30**］：［**FX（36×24）**］または［**DX（24×16）**］
  - ［**C60**］：［**DX（24×16）**］
  - ［**C120**］：［**FX（36×24）**］
- ［**C120**］に設定しているときに DX レンズを装着した場合、［**C60**］に変更されて撮像範囲が［**DX（24×16）**］に固定されます。
- 画質モードは［**NORMAL**］に固定され、JPEG 画像が記録されます。
- 画像サイズは次のように固定されます。
  - ［**C30**］/［**C60**］：［**サイズ L**］
  - ［**C120**］：［**サイズ S**］
- シャッタースピードは次のように制限されます。
  - ［**C30**］/［**C60**］：1/32000～1/60 秒
  - ［**C120**］：1/32000～1/125 秒
- 露出補正は±5 段まで設定できますが、実際の補正は±3 段までになります。
- ISO 感度を高感度（Hi 0.3～Hi 2.0）に設定していても、上限は ISO 25600 に制限されます。
- 静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**感度自動制御**］を［**ON**］にしたときの［**低速限界設定**］の設定は無効になります。
- 次の場合など、「ハイスピードフレームキャプチャー +」とは同時に使用できない機能や設定があります。
  - プログラムシフト
  - 階調モードの HLG
  - 静止画フリッカー低減
  - フラッシュ撮影
  - オートブラケティング撮影
  - 多重露出撮影
  - HDR 合成
  - インターバルタイマー撮影
  - タイムラプス動画撮影
  - フォーカスシフト撮影
  - ピクセルシフト撮影

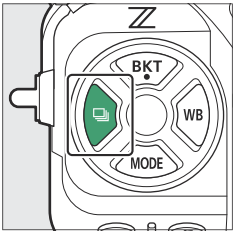
ヒント：「ハイスピードフレームキャプチャー +」で撮影する場合

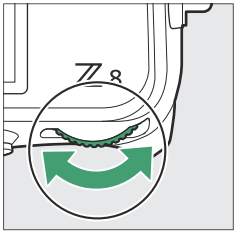
書き込み速度が速いメモリーカードの使用をおすすめします（🕮 938）。

セルフタイマーを使って撮影する（⏲）

シャッターボタンを全押しした後、設定した時間が過ぎると、自動的にシャッターがきれます。

1 ⧉ ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、⏲（セルフタイマー撮影）を選ぶ





2 ⧉ ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、シャッターがきれるまでの時間を設定する

3 構図を決め、ピントを合わせる

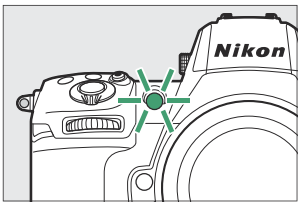
フォーカスモードが **AF-S** でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



4 セルフタイマー撮影を開始する



- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが点滅します。撮影 2 秒前になると点滅から点灯に変わります。



- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔はカスタムメニュー c2［**セルフタイマー**］で設定できます。

ISO 感度

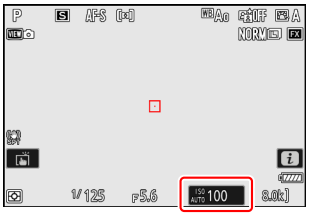
ISO 感度を変更する

撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO 感度）を変更できます。一般的に、ISO 感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。ISO 感度は ISO 64～25600 の間で設定できます。また、ISO 64 から約 0.3 段～約 1 段（ISO 32 相当）の範囲での減感と、ISO 25600 から約 0.3 段～約 2 段（ISO 102400 相当）の範囲での増感ができます。

ISO 感度の設定方法

ISO（FORMAT）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。

- 設定した ISO 感度は撮影画面と表示パネルに表示されます。
- 補正ステップは、初期設定では 1/3 段ステップです。ステップ幅は、カスタムメニュー b1［**ISO 感度設定ステップ幅**］で変更できます。



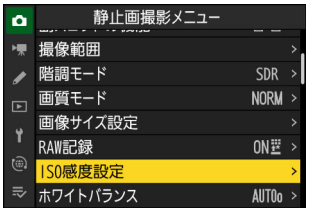
ISO 感度を高く設定した場合

ISO 感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

- 高感度ノイズ低減機能を有効にすると、高感度撮影時のノイズを低減できます。静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの［**高感度ノイズ低減**］で設定できます。

ヒント：静止画撮影メニュー［ISO 感度設定］について

ISO 感度は静止画撮影メニューの［**ISO 感度設定**］でも設定できます。



ヒント：増感域の高感度（Hi 0.3～Hi 2.0）に設定した場合

ISO 感度を［**Hi 0.3**］に設定すると、ISO 25600 に対して約 0.3 段分増感し（ISO 32000 相当）、［**Hi 2.0**］では約 2 段分の増感になります（ISO 102400 相当）。これらの ISO 感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

ヒント：減感域の低感度（Lo 0.3～Lo 1.0）に設定した場合

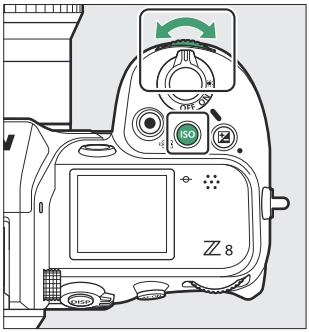
ISO 感度を［**Lo 0.3**］に設定すると、ISO 64 に対して約 0.3 段分減感します（ISO 50 相当）。［**Lo 1.0**］では約 1 段分の減感になります（ISO 32 相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合や、スローシャッターを使用したい場合などに使用してください。これらの ISO 感度で撮影した画像は、ハイライト側に階調とびが発生することがあります。通常の撮影では［**64**］以上をお使いください。

感度自動制御機能を使う

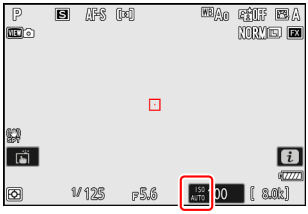
感度自動制御機能は、設定した ISO 感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的に ISO 感度を変更する機能です。撮影時に ISO 感度が高くなりすぎないように、上限感度（100～Hi 2.0）を設定することもできます。

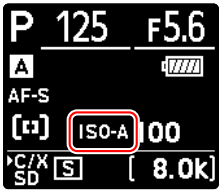
感度自動制御の設定方法

- **ISO** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと **ISO AUTO**（感度自動制御する）と **ISO**（感度自動制御しない）に切り換えられます。



- 感度自動制御する場合、撮影画面には **ISO AUTO**、表示パネルには **ISO-A** が表示されます。感度が自動制御されると、制御された ISO 感度が表示されます。





- 制御上限感度は静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］で設定できます。

感度自動制御についてのご注意

- ［**制御上限感度**］で設定した ISO 感度よりも［**ISO 感度**］で設定した ISO 感度が高い場合、［**ISO 感度**］で設定した ISO 感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニュー e1［**フラッシュ撮影同調速度**］と e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］で設定した範囲内に制限されます。［**低速限界設定**］のシャッタースピードをこの範囲外に設定した場合は、シャッタースピードの下限は e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］で設定したシャッタースピードに制限されます。
- 動画モードでは、撮影モードが **M** 以外の場合は常に感度自動制御が動作します。撮影モード **M** の場合は、動画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**M モード時の感度自動制御**］を［**ON**］に設定するとカメラが自動的に ISO 感度を変更します。

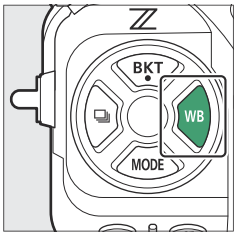
ホワイトバランス

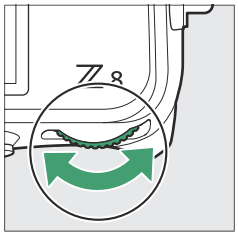
ホワイトバランスを合わせる

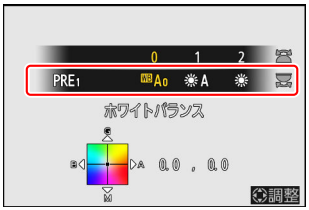
光源に合わせて、画像を見た目に近い色で撮影するための機能です。初期設定のオート（WB A）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランスの設定方法

WB ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとホワイトバランスを設定できます。設定したホワイトバランスを表すアイコンが撮影画面に表示されます。







設定した項目にさらに選択肢がある場合、**WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。

項目	設定される色温度※	内容
WB A［オート］		カメラが自動的にホワイトバランスを調節し、ほとんどの光源に対応できます。別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
WB A0［白を優先する］	約 3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残さずに白く補正します。
WB A1［雰囲気を残す］	約 3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、やや電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
WB A2［電球色を残す］	約 3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。

項目	設定される色温度※	内容
AWB［自然光オート］	約 4500～8000K	自然光下での撮影に適したホワイトバランスに調整され、自然光下では［**オート**］より見た目に近い色味で撮影できます。
［晴天］	約 5200K	晴天の屋外での撮影に適しています。
［曇天］	約 6000K	曇り空の屋外での撮影に適しています。
［晴天日陰］	約 8000K	晴天の日陰での撮影に適しています。
［電球］	約 3000K	白熱電球下での撮影に適しています。
［蛍光灯］		それぞれの光源下での撮影に適しています。
CW［白色蛍光灯］	約 4200K	
DW［昼白色蛍光灯］	約 5000K	
DY［昼光色蛍光灯］	約 6500K	
WB［フラッシュ］	約 5400K	フラッシュを使って撮影する場合に適しています。
K［色温度設定］	約 2500～10000K	色温度を直接指定できます。 • **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度を設定できます。
PRE［プリセットマニュアル］		撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます。 • **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、プリセットマニュアルデータの保存場所を選べます。 • **WB** ボタンを長押しすると、プリセットマニュアル取得モードになります（151）。

※ 微調整が 0 の場合の値です。

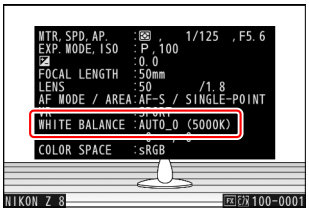
☀A［自然光オート］について

人工光下で撮影するときに ☀A［**自然光オート**］を選択していると、適正なホワイトバランスが得られないことがあります。WB A［**オート**］または光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。

スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、WB A［**オート**］に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、WB ϟ［**フラッシュ**］モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

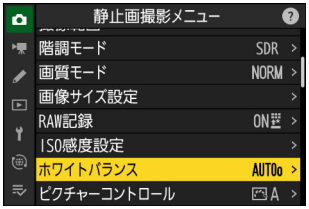
ヒント：オートで撮影するときの色温度について



- ホワイトバランスを WBA［**オート**］、☀A［**自然光オート**］、または PRE［**プリセットマニュアル**］に設定して撮影した場合、カメラが判断した色温度の値を再生画面の撮影情報にある［**撮影基本情報**］ページで確認できます（🕮 213）。ホワイトバランスの K［**色温度設定**］で色温度を調整する場合に参考にできます。
- 撮影情報の［**撮影基本情報**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**撮影基本情報**］のチェックボックスをオン ☑ にしてください。
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」で撮影した画像には色温度の値は表示されません。

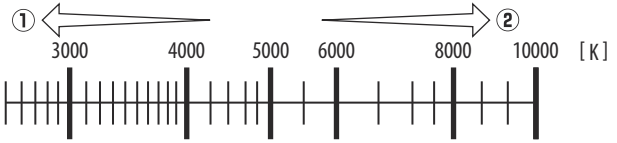
ヒント：［ホワイトバランス］について

ホワイトバランスは静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューでも設定できます。



ヒント：色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり（①）、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります（②）。



ヒント：色温度の設定について

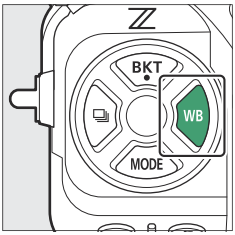
一般的に、画像に赤みを感じた場合（撮影した画像に青みを帯びさせたい場合）は低い数値を設定し、画像に青みを感じた場合（撮影した画像に赤みを帯びさせたい場合）は高い数値を選びます。

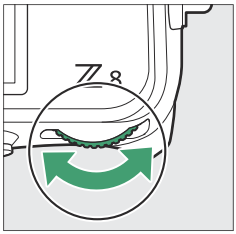
ホワイトバランスを微調整する

各ホワイトバランスの設定段数を A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の 4 方向で、各方向 6 段階まで微調整できます。

ボタン操作で設定する場合

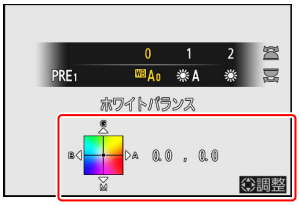
1 WB ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して、設定したいホワイトバランスを選ぶ





2 WB ボタンを押したままマルチセレクターを操作して、微調整値を設定する

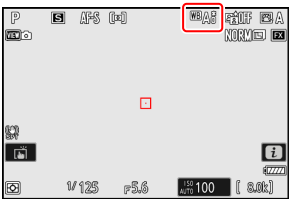
- マルチセレクターを操作すると、座標上のカーソルが移動します。設定した段数は、座標の右側に表示されます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを 0.5 段単位で微調整できます。1 段は約 5 ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を 0.25 段単位で行えます。1 段は濃度約 0.05 に相当します。



3 微調整値を決定する

- WB ボタンを放すと、微調整値を決定して撮影画面に戻ります。

- ホワイトバランスを微調整すると、ホワイトバランスのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。



メニューで設定する場合

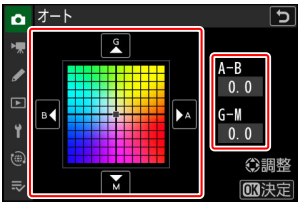
1 静止画撮影メニュー［ホワイトバランス］で、設定したいホワイトバランスを選び、微調整画面が表示されるまで ⊛ を押す

［**プリセットマニュアル**］での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」（🕮 155）をご覧ください。



2 微調整値を設定する

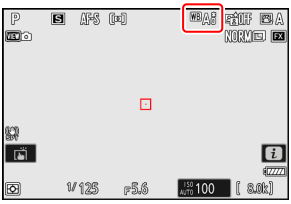
- マルチセレクターを操作すると、座標上のカーソルが移動します。設定した段数は、座標の右側に表示されます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを 0.5 段単位で微調整できます。1 段は約 5 ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を 0.25 段単位で行えます。1 段は濃度約 0.05 に相当します。



3 微調整値を決定する

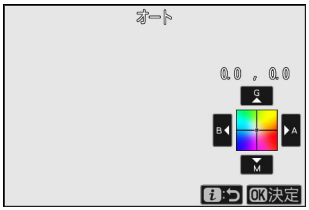
- ⊛ ボタンを押して微調整値を決定すると、メニューに戻ります。

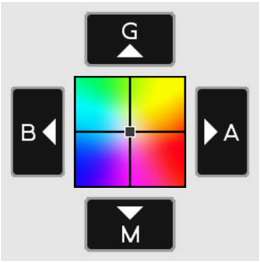
- ホワイトバランスを微調整すると、ホワイトバランスのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。



ヒント：i メニューで設定を変更する

i メニューで［**ホワイトバランス**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、ホワイトバランスの選択項目が表示されます。設定したいホワイトバランスを選び（［**色温度設定**］以外）、調整画面が出るまで ⓚ を押すと、ホワイトバランスを調整できます。画像モニターを見ながら色味を調整できます。

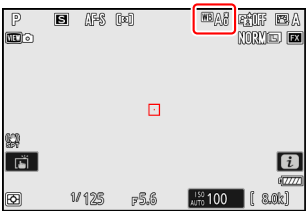




- **G**：グリーンが強くなる
- **B**：ブルーが強くなる
- **A**：アンバーが強くなる
- **M**：マゼンタが強くなる

- 画面上の矢印をタッチするか、マルチセレクターを押すと値を変更できます。
- ⓚ ボタンを押すと調整値を決定して i メニュー画面に戻ります。

- ホワイトバランスを微調整すると、ホワイトバランスのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。



ヒント：インフォ画面で設定を変更する

インフォ画面表示中に **WB** ボタンを押すと、コマンドダイヤルでホワイトバランスを設定できます。**WB** ボタンを押しながらマルチセレクターを押すと、選んでいるホワイトバランスの値を変更できます。



ヒント：ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを ✱［**電球**］に設定して B（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ヒント：ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万（10^6）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ 1000 ケルビンの違いでも 6000 ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000 ケルビン付近では 1000 ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差（M：ミレッド）

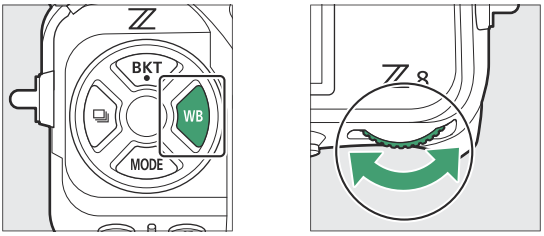
- 4000K－3000K ＝ 1000 K：83 M
- 7000K－6000K ＝ 1000 K：24 M

色温度を設定する

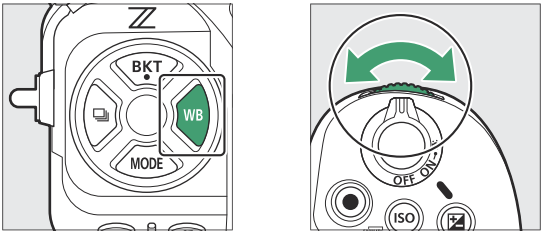
A（アンバー）および B（ブルー）方向と G（グリーン）および M（マゼンタ）方向の両方の色温度を設定できます。

ボタン操作で設定する場合

1 WB ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、K［色温度設定］を選ぶ



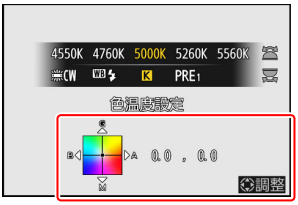
2 WB ボタンを押したままサブコマンドダイヤルを回して、色温度を設定する



ミレッド単位で色温度が切り替わります。

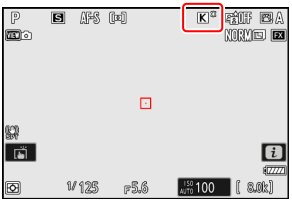
3 WB ボタンを押したままマルチセレクターを操作して、微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、座標上のカーソルが移動します。設定した段数は、座標の右側に表示されます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを 0.5 段単位で微調整できます。1 段は約 5 ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を 0.25 段単位で行えます。1 段は濃度約 0.05 に相当します。



4 微調整値を決定する

- **WB** ボタンを放すと、微調整値を決定して撮影画面に戻ります。
- 色温度を微調整すると、ホワイトバランスのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。



メニューで設定する場合

1 静止画撮影メニュー［ホワイトバランス］で、［色温度設定］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す

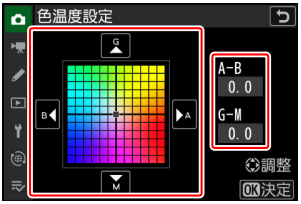
2 色温度を設定する

◀▶ を押して色温度の桁を選び、▲▼ を押して数値を決定します。



3 微調整値を設定する

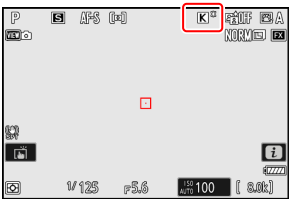
色温度を選ぶ画面で ? （**?**）ボタンを押すと、調整画面が表示されます。マルチセレクターを操作すると、座標上のカーソルが移動します。



- 設定段数を各方向 6 段階まで微調整できます。設定した段数は、座標の右側に表示されます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを 0.5 段単位で微調整できます。1 段は約 5 ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を 0.25 段単位で行えます。1 段は濃度約 0.05 に相当します。

4 色温度を決定する

- ⓚ ボタンを押して色温度を決定すると、メニューに戻ります。
- 色温度を微調整すると、ホワイトバランスのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。

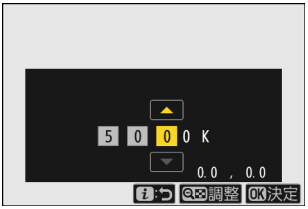


色温度設定についてのご注意

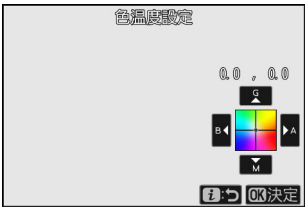
- 光源が蛍光灯のときは、色温度設定を使わず、𝍐［**蛍光灯**］に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

ヒント：*i* メニュー画面で設定を変更する

i メニューで［**ホワイトバランス**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、ホワイトバランスの選択項目が表示されます。K［**色温度設定**］を選んで ⍢ を押すと、色温度を設定できます。



- ⍥⍦ を押して色温度の桁を選び、⍢ を押して数値を設定します。
- ⍰（**?**）ボタンを押すと、現在選んでいる色温度の微調整を行えます。
- ⓚ ボタンを押すと色温度を決定して *i* メニュー画面に戻ります。
- 色温度を微調整すると、ホワイトバランスのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。



プリセットマニュアルで基準となる白を設定する

カクテル照明や特殊照明下で撮影する場合、WB A［**オート**］や［**電球**］、K［**色温度設定**］では望ましいホワイトバランスが得られないことがあります。その場合、撮影する照明下で白またはグレーの被写体を撮影してプリセットマニュアルデータを取得し、それを基準にしてホワイトバランスを設定します。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

保存方法	内容
プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影画面に表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（🕮 151）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	メモリーカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（🕮 154）。

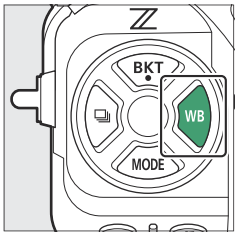
すでに設定されているプリセットマニュアルデータの変更について

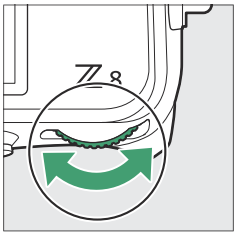
プリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）の内容は、撮影メニュー「A」～「D」で共用しています。このため、たとえば撮影メニュー「A」でプリセットマニュアルデータの内容を変更すると、撮影メニュー「B」～「D」のプリセットマニュアルデータも変更されます。

カメラで新規取得して保存する

プリセットマニュアルデータは最大 6 つまでカメラに保存できます。

1 WB ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して PRE を選ぶ

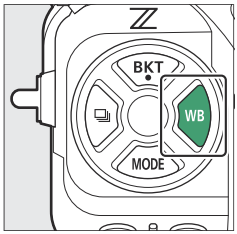


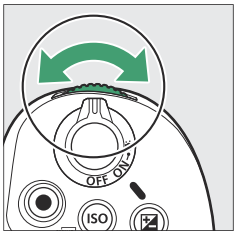


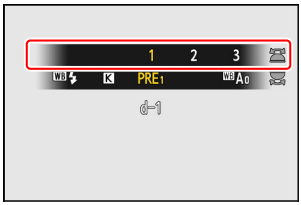


2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

WB ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を d-1～d-6 の中から選びます。

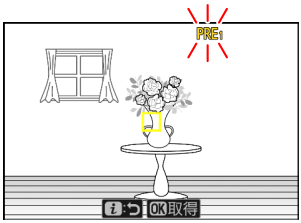






3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん **WB** ボタンから指を放し、再度 **WB** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになります。取得モード中は、撮影画面に **PRE** が常に点滅します。
- 画面中央に □ が表示されます。



4 □ を被写体の白またはグレーの部分に重ね、プリセットマニュアルデータを取得する

- □ はマルチセレクターで移動できます。
- シャッターボタンを全押しするか Ⓚ ボタンを押すとプリセットマニュアルデータを取得できます。プリセットマニュアル取得モード中は繰り返し取得できます。
- 画像モニターをタッチすると、その場所に □ が移動してプリセットマニュアルデータを取得できます。
- 別売のスピードライトを装着している場合は、□ を移動できません。カメラを動かして画面の中央部分に被写体の白またはグレーの部分を重ねてください。
- データが取得できなかった場合は、撮影画面にメッセージが表示されてプリセットマニュアル取得モードの状態に戻ります。□ の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。



5 i ボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

プリセットマニュアルについて

静止画撮影メニュー［**ホワイトバランス**］で PRE［**プリセットマニュアル**］を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータを管理できます。撮影済み画像のホワイトバランスのデータをプリセットマニュアルとして使用することや、コメントの記入およびプロテクト設定ができます。

ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（プリセットマニュアルのアイコンの横に アイコンが表示されます）。

プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータ d-1～d-6 は、☀［**晴天**］と同じ色温度 5200K に設定されています。
- 静止画撮影メニュー［**ホワイトバランス**］の PRE［**プリセットマニュアル**］を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが表示されます。マルチセレクターでプリセットマニュアルデータを選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。



プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］で設定した時間になります。

プリセットマニュアルデータ取得時の制限について

「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影時および多重露出撮影時は、プリセットマニュアルデータを取得できません。

撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選んだプリセットマニュアルデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

1 静止画撮影メニュー［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す



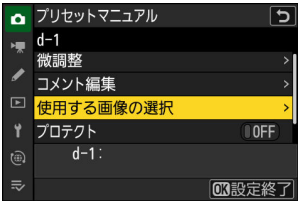
2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して d-1～d-6 の中からコピー先を選びます。
- 🔍 ボタンを押すと設定画面が表示されます。



3 ［使用する画像の選択］を選ぶ

［**使用する画像の選択**］を選んで ▶ を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。



4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、🔍 ボタンを押している間、拡大して確認できます。

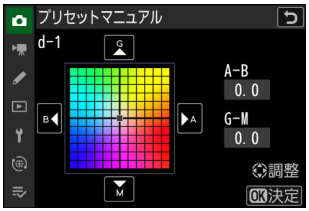


5 ホワイトバランスデータをコピーする

- Ⓚ ボタンを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメントがある場合、画像コメントもコピーされます。

ヒント：プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で［**微調整**］を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます。



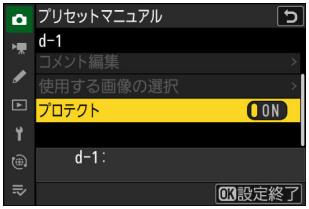
ヒント：プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で［**コメント編集**］を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント（最大 36 文字）を入力できます。コメントの入力方法は、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。



ヒント：プリセットマニュアルデータを保護する（プロテクト）

設定画面で［**プロテクト**］を［**ON**］に設定すると、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト（保護）を設定できます。［**プロテクト**］が［**ON**］のときは、プリセットマニュアルデータの設定内容を変更できません。



オートブラケティング

明るさ（露出値）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブ D-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

オートブラケティングの設定方法

オートブラケティングの種類は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］>［**オートブラケティングのセット**］で設定できます。



項目	内容
［**AE・フラッシュブラケティング**］	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
［**AE ブラケティング**］	露出値（AE）を変えながら撮影します。
［**フラッシュブラケティング**］	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
［**WB ブラケティング**］	ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。
［**ADL ブラケティング**］	アクティブ D-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。

AE ブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法

露出の設定を変えながら撮影します。AE ブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法は次の通りです。



露出補正なし



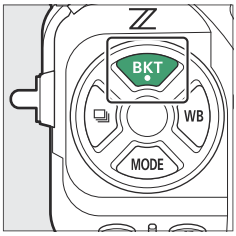
−1 段補正

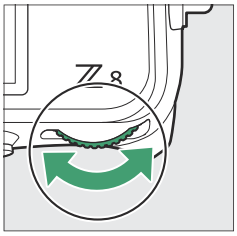


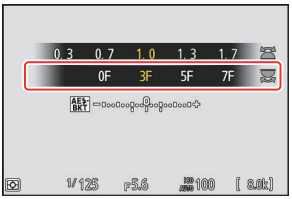
+1 段補正

1 撮影コマ数を設定する

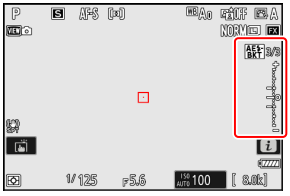
- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。

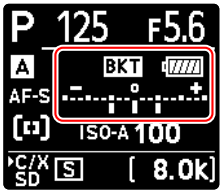






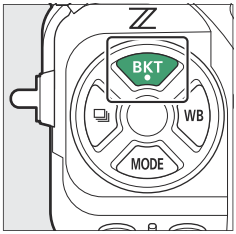
- [**0F**] 以外に設定すると、撮影画面と表示パネルにアイコンとインジケーターが表示されます。

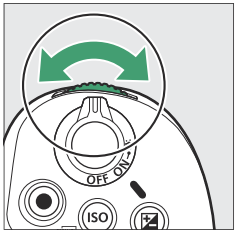


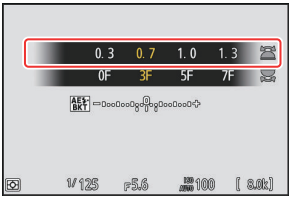


2 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。







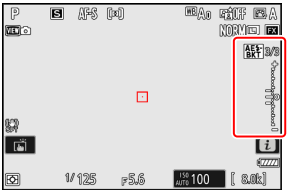
- 補正ステップは、カスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］が［**設定 1/3 段（補正 1/3 段）**］の場合、0.3（1/3 段）、0.7（2/3 段）、1.0（1 段）、1.3（1+1/3 段）、1.7（1+2/3 段）、2.0（2 段）、2.3（2+1/3 段）、2.7（2+2/3 段）、3.0（3 段）から選ぶことができます。補正ステップを 2.0 以上に設定した場合、撮影コマ数は最大 5 枚です。手順 1 で撮影コマ数を 7 枚または 9 枚に設定していても、自動的に 5 枚に変更されます。
- 補正ステップが 0.3 のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル		AE・フラッシュブラケティング インジケーター	撮影コマ数	撮影順序
0F	**0.3**	−···0···+	0	0
3F	**0.3**	−···0···+	3	0/−0.3/+ 0.3
5F	**0.3**	−···0···+	5	0/−0.7/−0.3/+ 0.3/+ 0.7
7F	**0.3**	−···0···+	7	0/−1.0/−0.7/−0.3/ + 0.3/+ 0.7/+ 1.0
9F	**0.3**	−···0···+	9	0/−1.3/−1.0/−0.7/−0.3/ + 0.3/+ 0.7/+ 1.0/+ 1.3

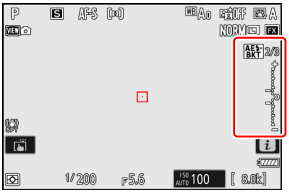
3 撮影する



- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 撮影画面に、AE・フラッシュブラケティングのアイコンと残りの撮影コマ数、AE・フラッシュブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに残りのコマ数表示が減少し、コマ数を示す表示が AE・フラッシュブラケティングインジケーター上から消えます。

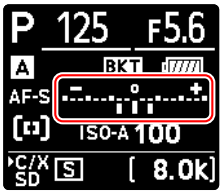


撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7

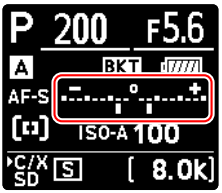


1 コマ撮影した状態

- 表示パネルには、BKT アイコンと AE・フラッシュブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が AE・フラッシュブラケティングインジケーター上から消えます。



撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7



1 コマ撮影した状態

- AE ブラケティングと露出補正を同時に設定すると、両方の補正値が加算された AE ブラケティング撮影が行えます。

ヒント：AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

［**AE・フラッシュブラケティング**］では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは［**AEブラケティング**］を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは［**フラッシュブラケティング**］を選びます。フラッシュブラケティングはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光（㊎**A**）時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（🕮 380、🕮 860）。

ヒント：AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング撮影について

- ［**コマ数**］と［**補正ステップ**］は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］でも設定できます。
- レリーズモードを連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを全押しし続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- 撮影中に電源をOFFにしてもう一度ONにすると、1コマ目から撮影を行います。

ヒント：AEブラケティング

AEブラケティングでは、撮影モードによって補正される内容（シャッタースピード、絞り値）が異なります。

撮影モード	補正される内容
P	シャッタースピードと絞り値[1]
S	絞り値[1]
A	シャッタースピード[1]
M	シャッタースピード[2、3]

1 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］>［**感度自動制御**］が［**ON**］のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると自動的にISO感度が変化します。
2 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］>［**感度自動制御**］が［**ON**］のときは、ISO感度を変化させます。
3 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］>［**感度自動制御**］が［**OFF**］のときは、カスタムメニューe6［**BKT変化要素（Mモード）**］により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、ISO感度のみ、あるいはシャッタースピードのみに変更できます。

AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

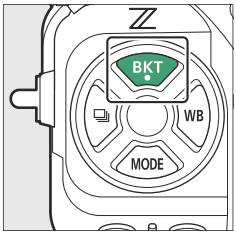
BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して撮影コマ数を［**0F**］にしてください。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（179）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

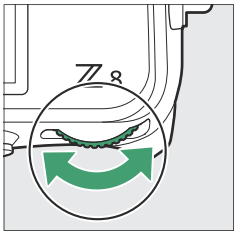
WB ブラケティングの撮影方法

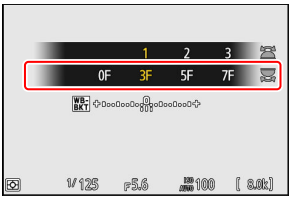
ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。WB ブラケティングの撮影方法は次の通りです。

1 撮影コマ数を設定する

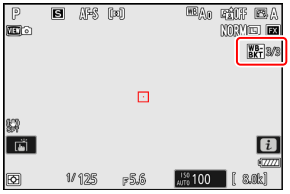
- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。

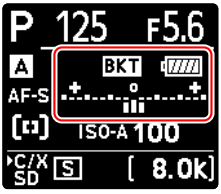






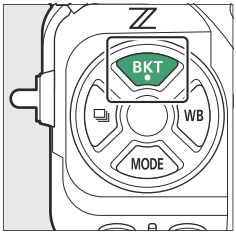
- ［**0F**］以外に設定すると、撮影画面と表示パネルにアイコンとインジケーターが表示されます。

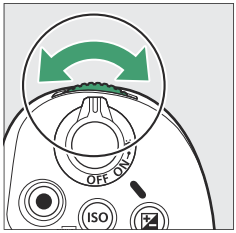


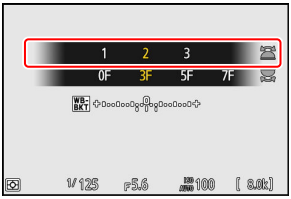


2 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。







- 補正ステップは、1（1 段）、2（2 段）、3（3 段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの 1 段は、約 5 ミレッドに相当します。A 方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B 方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります。
- 補正ステップが 1 のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル		WB ブラケティングインジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
0F	**1**	+▮···▮···▮···0···▮···▮···▮+	0	1 段	0
3F	**1**	+▮···▮···▮···▮···0···▮···▮···▮+	3	各方向 1 段	0/A1/B1
5F	**1**	+▮···▮···▮···▮···0···▮···▮···▮···▮+	5	各方向 1 段	0/A2/A1/B1/B2
7F	**1**	+▮···▮···▮···▮···0···▮···▮···▮···▮+	7	各方向 1 段	0/A3/A2/A1/B1/B2/B3
9F	**1**	+▮···▮···▮···▮···0···▮···▮···▮···▮···▮+	9	各方向 1 段	0/A4/A3/A2/A1/B1/B2/B3/B4

3 撮影する



- シャッターボタンを 1 回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値に WB ブラケティングの補正ステップが加算されます。
- WB ブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、シャッターがきれません。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。

WB ブラケティングの制限について
WB ブラケティングは、RAW を含む画質モードでは使用できません。

ヒント：WB ブラケティング撮影について
- ［**コマ数**］と［**補正ステップ**］は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］でも設定できます。
- WB ブラケティングでは、色温度（A（アンバー）から B（ブルー）への横方向）の補正のみを行います。G（グリーン）から M（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源を OFF にした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c2［**セルフタイマー**］>［**撮影コマ数**］で設定した撮影コマ数にかかわらず、WB ブラケティングで設定した撮影コマ数が全て記録されます。

WB ブラケティング撮影をやめるには

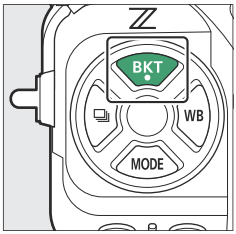
BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して撮影コマ数を［**0F**］にしてください。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮 179）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

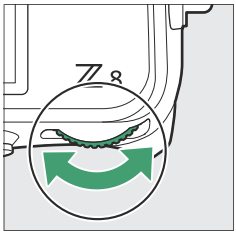
ADL ブラケティングの撮影方法

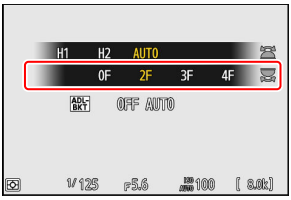
アクティブ D-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。ADL ブラケティングの撮影方法は次の通りです。

1 撮影コマ数を設定する

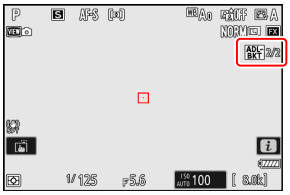
- **BKT** ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。

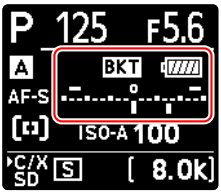






- [**0F**] 以外に設定すると、撮影画面と表示パネルにアイコンとインジケーターが表示されます。





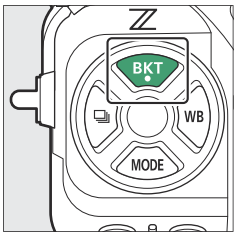
• 設定した撮影コマ数により、ブラケティングの内容が次のように異なります。

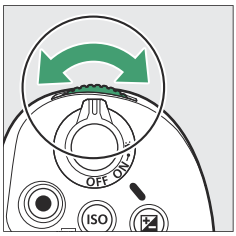
撮影コマ数		ブラケティングの内容
2 コマ		しない→（手順 2 で設定するアクティブ D-ライティングの度合い）
3 コマ		しない→弱め→標準
4 コマ		しない→弱め→標準→強め
5 コマ	［**H1**］	しない→弱め→標準→強め→より強め 1
	［**H2**］	弱め→標準→強め→より強め 1→より強め 2

• 5 コマに設定した場合、**BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回してブラケティングの内容を［**H1**］または［**H2**］に切り換えられます。
• 撮影コマ数を 3 コマ以上に設定した場合は、手順 3 に進んでください。

2 アクティブ D-ライティングの度合いを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が 2 コマのときの 2 コマ目のアクティブ D-ライティングの度合いを設定できます。





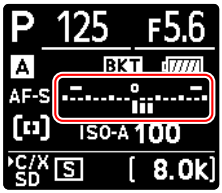
- アクティブ D-ライティングの度合いは、次の通りです。

効果の度合い	ブラケティングの内容
［**L**］	しない→弱め
［**N**］	しない→標準
［**H**］	しない→強め
［**H1**］	しない→より強め 1
［**H2**］	しない→より強め 2
［**AUTO**］	しない→オート

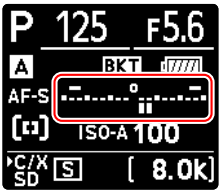
3 撮影する



- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 撮影画面に、ADL ブラケティングのアイコンと残りの撮影コマ数が表示されます。撮影するたびに残りのコマ数表示が減少します。
- 表示パネルには、BKT アイコンと ADL ブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が ADL ブラケティングインジケーター上から消えます。



撮影コマ数：3



1 コマ撮影した状態

ADL ブラケティング撮影について

- [**コマ数**] と [**効果の度合い**] は、静止画撮影メニュー [**オートブラケティング**] でも設定できます。
- レリーズモードを連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを全押しし続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- 撮影中に電源を OFF にしてもう一度 ON にすると、1 コマ目から撮影を行います。

ADL ブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して撮影コマ数を [**0F**] にしてください。ただし、設定したアクティブ D-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮 179）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定したアクティブ D-ライティングの度合いもリセットされます。

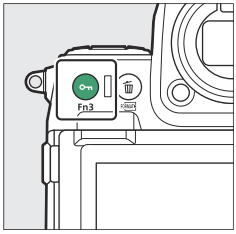
ピクチャーコントロール

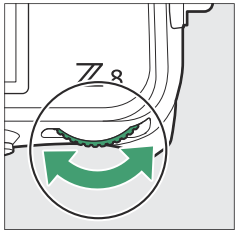
ピクチャーコントロールを選ぶ

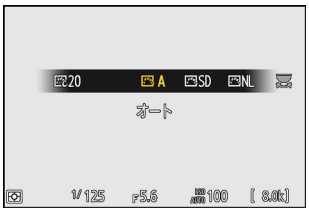
記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。

ピクチャーコントロールの設定方法

初期設定では、（**Fn3**）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとピクチャーコントロールを設定できます。設定したピクチャーコントロールを表すアイコンが撮影画面に表示されます。







- Creative Picture Control の項目を選んでいる場合、（**Fn3**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して適用度を変更できます。
- 動画モード時に（**Fn3**）ボタンを押すと、動画のピクチャーコントロールを設定できます。

項目		内容
A	［**オート**］	静止画モードの場合は［**スタンダード**］、動画モードの場合は［**ニュートラル**］をもとに、色合いや階調をカメラが自動的に調整します。
SD	［**スタンダード**］	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
NL	［**ニュートラル**］	素材性を重視した自然な画像になります。撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
VI	［**ビビッド**］	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
MC	［**モノクローム**］	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。

項目		内容
FM	［**フラットモノクローム**］	シャドー部からハイライト部までゆるやかに表現し、柔らかい印象のモノクロ画像になります。
DM	［**ディープトーンモノクローム**］	シャドー部から中間調までは暗めに、中間調からハイライト部は急激に明るいモノクロ画像になります。
PT	［**ポートレート**］	人物の肌がなめらかで自然な画像になります。
RP	［**リッチトーンポートレート**］	白飛びを抑えながら人物の肌のディテールを表現し、［**ポートレート**］よりもメリハリのある画像になります。撮影した画像を調整、加工する場合にも適しています。
LS	［**風景**］	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
FL	［**フラット**］	シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
01 ～ 20	**Creative Picture Control（クリエイティブピクチャーコントロール）**	色合いや階調、彩度などを細やかに作りこんだ多彩な効果により、さまざまな雰囲気を表現して撮影できます。［**ドリーム**］や［**モーニング**］など、全部で 20 種類があります。

［ピクチャーコントロール］について

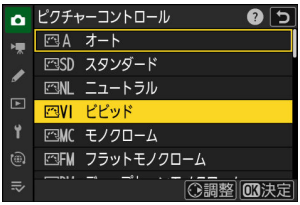
- ピクチャーコントロールは静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］でも設定できます。
- 動画撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］を［**静止画の設定と同じ**］に設定すると、静止画撮影メニューで設定したピクチャーコントロールで動画を撮影します。
- ［**ピクチャーコントロール**］は静止画撮影メニュー［**階調モード**］で［**SDR**］に設定している場合に有効になります。［**階調モード**］を［**HLG**］に設定している場合は、静止画撮影メニュー［**ピクチャーコントロール（HLG）**］で設定してください。

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールの設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］で、調整したいピクチャーコントロールを選んでマルチセレクターの ▶ を押します。



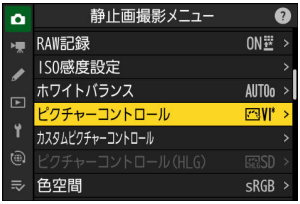
2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲▼ で調整する項目を選びます。◀▶ を押すと 1 ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと 0.25 ステップ刻みで値を設定します。
- 設定できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- ［**クイックシャープ**］を選んで ◀▶ を押すと、［**輪郭強調**］、［**ミドルレンジシャープ**］、［**明瞭度**］のレベルをバランスよく調整します。
- 🗑（PRIMARY）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



3 設定する

OK ボタンを押して設定します。ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク（✱）が表示されます。



ピクチャーコントロールの調整項目

項目	内容
［**適用度**］	Creative Picture Control を選んでいる場合のみ表示されます。効果を適用する度合いを調整します。
［**クイックシャープ**］	［**クイックシャープ**］を調整すると、画像のシャープさを調整する［**輪郭強調**］、［**ミドルレンジシャープ**］、［**明瞭度**］の各項目をバランスよく調整します。各項目を個別に調整することも可能です。
［**輪郭強調**］	画像の精緻な部分や、被写体の輪郭部分のシャープさを調整します。
［**ミドルレンジシャープ**］	［**輪郭強調**］と［**明瞭度**］の中間の細かさの模様や線に対してシャープさを調整します。
［**明瞭度**］	画像の階調や明るさを維持しながら、画像全体や太めの線のシャープさを調整します。
［**コントラスト**］	画像のコントラストを調整できます。
［**明るさ**］	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。 • ［**オート**］または Creative Picture Control を選んでいる場合は表示されません。
［**色の濃さ（彩度）**］	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。 • ［**モノクローム**］、［**フラットモノクローム**］、［**ディープトーンモノクローム**］または一部の Creative Picture Control を選んでいる場合は表示されません。
［**色合い（色相）**］	画像の色合いを調整できます。 • ［**オート**］、［**モノクローム**］、［**フラットモノクローム**］、［**ディープトーンモノクローム**］または一部の Creative Picture Control を選んでいる場合は表示されません。
［**フィルター効果**］	［**モノクローム**］、［**フラットモノクローム**］、［**ディープトーンモノクローム**］または一部の Creative Picture Control を選んでいる場合のみ表示されます。白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。

項目	内容
［**調色**］	［**モノクローム**］、［**フラットモノクローム**］、［**ディープトーンモノクローム**］または一部の Creative Picture Control を選んでいる場合のみ表示されます。印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色の項目（［**B&W**］以外）を選んで ⓞ を押すと、さらに色の濃淡を選べます。
［**色の濃淡**］	一部の Creative Picture Control を選んでいる場合のみ表示されます。色の濃さを調整できます。

ピクチャーコントロール調整時の △ マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される △ マークは、前回調整した値を示しています。



調整項目の［A］（オート）について

- ［**A**］（オート）がある項目では、［**A**］を選ぶと自動で調整されます。
- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。

［フィルター効果］について

［**フィルター効果**］には、次のような効果があります。

項目	内容
［**Y**］（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
［**O**］（オレンジ※）	
［**R**］（赤※）	
［**G**］（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。

ピクチャーコントロールで［ディープトーンモノクローム］を選んでいる場合の［フィルター効果］について

［**ディープトーンモノクローム**］は、［**フィルター効果**］を［**OFF**］にしていても、あらかじめ強い R フィルターがかかっています。［**フィルター効果**］は重ねがけできないため、［**OFF**］以外を選ぶと、あらかじめかかっていた R フィルターが無効になった状態でフィルターが適用されます。コントラストを弱めたい場合に［**Y**］、［**O**］、［**R**］に設定することをおすすめします。

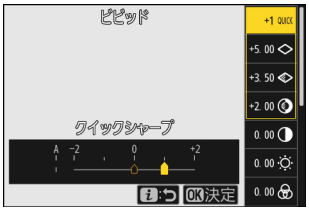
ピクチャーコントロールで［オート］を選んでいる場合

各項目の調整レベルを［**A－2**］～［**A ＋ 2**］から選べます。



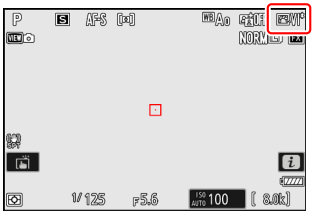
ヒント：*i* メニュー画面で設定を変更する

i メニューで［**ピクチャーコントロール**］を選んで OK ボタンを押すと、ピクチャーコントロールの選択項目が表示されます。調整したいピクチャーコントロールを選んで ▼ を押すと撮影画面を見ながら調整できます。



- ▲▼ で調整する項目を選びます。◀▶ を押すと 1 ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと 0.25 ステップ刻みで値を調整します。
- 調整できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。
- OK ボタンを押すと調整値を決定します。

- ピクチャーコントロールを微調整すると、ピクチャーコントロールのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。



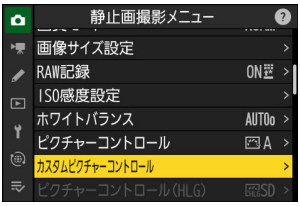
カスタムピクチャーコントロールを登録する

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

項目	内容
［**編集と登録**］	カスタムピクチャーコントロールを登録または編集します。
［**登録名変更**］	登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更します。
［**削除**］	登録したカスタムピクチャーコントロールを削除します。
［**メモリーカードを使用**］	登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードに保存したり、メモリーカードに保存したカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。

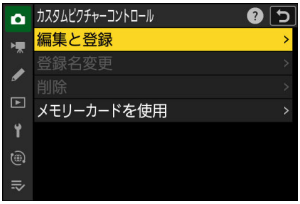
カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1　静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの［カスタムピクチャーコントロール］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す

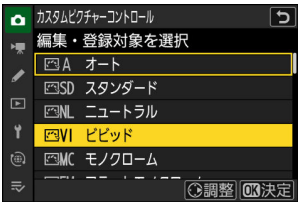


2　［編集と登録］を選ぶ

［**編集と登録**］を選んで ▶ を押すと、［**編集・登録対象を選択**］画面が表示されます。



3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ



- ピクチャーコントロールを選んで ▶ を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は ⊛ ボタンを押します。［**登録先の選択**］画面が表示されます（手順 5 へ）。

4 ピクチャーコントロールを調整する



- 項目の内容や調整方法は［**ピクチャーコントロール**］と同じです。
- ⊛ ボタンを押すと［**登録先の選択**］画面が表示されます。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

5 登録先を選ぶ



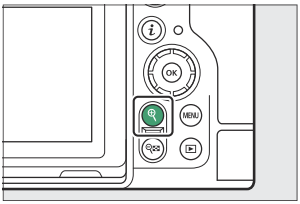
C-1～9（カスタム 1～9）の中から登録先を選びます。

6 登録名を編集する

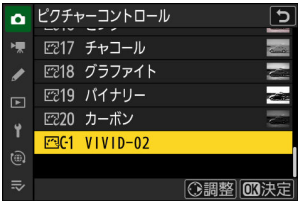


- 登録先を選んで ▶ を押すと、［**登録名変更**］画面が表示されます。
- 初期状態では、「（元になったピクチャーコントロール名）-XX」が入力エリアに入力されています。XX には自動的に数値が設定されます。
- 登録名は 19 文字まで入力できます。
- 文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（📖 66）をご覧ください。

7 **ボタンを押す**



- 登録名の編集が終了します。



- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

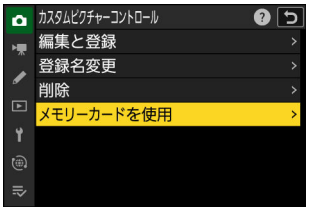
カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。



カスタム 1～9 で調整できる項目について

カスタム 1～9 を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールについて

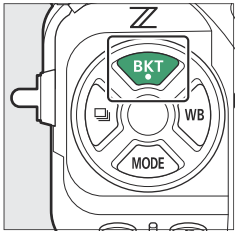


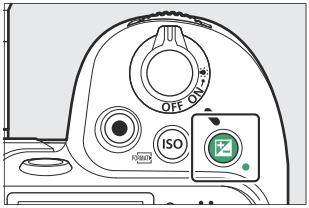
［**カスタムピクチャーコントロール**］の［**メモリーカードを使用**］を使うと、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。また、メモリーカード内のカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録したり、削除したりできます（メモリーカードを 2 枚使用している場合、静止画撮影メニュー［**主スロットの選択**］で副スロットに設定したスロットは認識されないため、メモリーカードは主スロットに入れてください）。

- ［**カメラに登録**］：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録（インポート）できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム 1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。
- ［**メモリーカードから削除**］：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。
- ［**メモリーカードにコピー**］：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピー（エクスポート）できます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んで ⓚ ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。

ツーボタンリセット

BKT ボタンと ボタン（それぞれのボタンに緑色の ● が付いています）を 2 秒以上同時に押すと、一瞬撮影画面と表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。





静止画撮影メニュー項目

現在選択中の撮影メニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます（多重露出、インターバルタイマー撮影、タイムラプス動画、フォーカスシフト撮影は、全ての撮影メニューで共通です）。

項目		初期設定
階調モード		SDR
ISO 感度設定		
	ISO 感度	100
	感度自動制御	ON
	制御上限感度	25600
	使用時の制御上限感度	フラッシュなしの設定と同じ
	低速限界設定	オート
ホワイトバランス		オート：白を優先する
	微調整	A-B: 0、G-M: 0
ピクチャーコントロール		オート
ピクチャーコントロール（HLG）		スタンダード

項目	初期設定
アクティブ D-ライティング	しない
美肌効果	しない
人物印象調整	しない
静止画フリッカー低減	OFF
高周波フリッカー低減	しない
測光モード	マルチパターン測光
フラッシュモード	通常発光
フラッシュ調光補正	解除（0.0）
フォーカスモード	シングル AF
AF エリアモード	シングルポイント AF
オートブラケティング	解除 [1]
多重露出	解除 [2]
HDR 合成	解除 [3]
ピクセルシフト撮影	解除 [4]

1 撮影コマ数が 0 に設定されます。AE、フラッシュ、WB ブラケティングの補正ステップは 1 になります。ADL ブラケティングで撮影コマ数が 2 コマのときの 2 コマ目のアクティブ D-ライティングの度合いは、［**オート**］になります。
2 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが［**する（連続）**］または［**する（1 回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。［**コマ数**］、［**合成モード**］、［**合成前の画像を保存（RAW）**］および［**確認撮影**］は初期設定には戻りません。
3 HDR モードが［**する（連続）**］または［**する（1 回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。［**HDR 強度**］および［**合成前の画像を保存（RAW）**］は初期設定には戻りません。
4 ピクセルシフト撮影モードが［**する（連続）**］または［**する（1 回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。［**撮影コマ数**］、［**ディレー**］および［**待機時間**］は初期設定には戻りません。

動画撮影メニュー項目

項目	初期設定
ISO 感度設定	
制御上限感度	25600
M モード時の感度自動制御	ON
M モード時の ISO 感度	100
ホワイトバランス	静止画の設定と同じ
ピクチャーコントロール	静止画の設定と同じ
HLG 画質調整	
クイックシャープ	0
コントラスト	0
色の濃さ（彩度）	0
色合い（色相）	0
アクティブ D-ライティング	しない
美肌効果	静止画の設定と同じ
人物印象調整	しない
高周波フリッカー低減	しない
測光モード	マルチパターン測光
フォーカスモード	フルタイム AF
AF エリアモード	シングルポイント AF
電子手ブレ補正	OFF
ハイレゾズーム	OFF

ツーボタンリセット

カスタムメニュー項目

項目		初期設定
a9［**フォーカスモードの制限**］		制限しない
d9［**ビューモード設定（静止画 Lv）**］		撮影設定を優先
d10［**スターライトビュー（静止画 Lv）**］		OFF
d11［**赤色画面表示**］		OFF
e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］		1/60 秒
f4［**操作のロック**］		
	［**シャッタースピードのロック**］	OFF
	［**絞り値のロック**］	OFF
	［**フォーカスポイントのロック**］	OFF
g3［**操作のロック**］		
	［**シャッタースピードのロック**］	OFF
	［**絞り値のロック**］	OFF
	［**フォーカスポイントのロック**］	OFF
g5［**フォーカスモードの制限**］		制限しない
g8［**ハイレゾズーム速度**］		0

その他の撮影関連の機能

機能	初期設定
フォーカスポイント	中央
プリセットフォーカスポイント	中央
撮影モード	P
プログラムシフト	解除
レリーズモード	1 コマ撮影
露出補正	解除（0.0）
AE-L（ホールド）	解除
FV ロック	解除

動画撮影の機能

動画の記録ファイル形式について

動画の記録ファイル形式は動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で設定できます。

- 動画ファイル形式は NEV、MOV または MP4 です。

項目	内容	YCbCr/ Bayer
［**N-RAW 12-bit（NEV）**］	業務用の動画編集で使用する高性能なパソコンで RAW 現像および編集を行うことを前提とした記録形式です（🕮 200）。 • 画像サイズ 1920×1080 の H.264 8-bit 動画をカメラでの再生用動画（プロキシー動画）として同時に MP4 形式で記録します。 • 動画の階調モードを［**SDR**］または［**N-Log**］から選べます。 • 動画の画質を動画撮影メニュー［**動画の画質（N-RAW）**］で設定できます。 • 音声の記録方式はリニア PCM です。	Bayer
［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］	業務用の動画編集で使用する高性能なパソコンで RAW 現像および編集を行うことを前提とした記録形式です（🕮 200）。 • 画像サイズ 1920×1080 の H.264 8-bit 動画をカメラでの再生用動画（プロキシー動画）として同時に MP4 形式で記録します。 • 動画の階調モードを［**SDR**］または［**N-Log**］から選べます。 • 音声の記録方式はリニア PCM です。	
［**ProRes 422 HQ 10-bit（MOV）**］	映像編集に適した記録形式です。 • 動画の階調モードを［**SDR**］または［**N-Log**］から選べます。 • フレーム間圧縮方式は ALL-I です。 • 音声の記録方式はリニア PCM です。	YCbCr (4:2:2)

項目	内容	YCbCr/ Bayer
［**H.265 10-bit（MOV）**］	業務用の動画編集で使用する高性能なパソコンで編集を行うことを前提とした記録形式です。 • 動画の階調モードを［**SDR**］、［**HLG**］または［**N-Log**］から選べます。 • フレーム間圧縮方式は Long GOP です。 • 音声の記録方式はリニア PCM です。	YCbCr (4:2:0)
［**H.265 8-bit（MOV）**］	圧縮効率に優れた記録形式です。 • フレーム間圧縮方式は Long GOP です。 • 音声の記録方式はリニア PCM です。	
［**H.264 8-bit（MP4）**］	再生の互換性が高い記録形式です。 • フレーム間圧縮方式は Long GOP です。 • 音声の記録方式は AAC です。	

階調モードについて

［**N-RAW 12-bit（NEV）**］、［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］、［**ProRes 422 HQ 10-bit （MOV）**］または［**H.265 10-bit（MOV）**］を選んで ⊛ を押すと、階調モードを選べます。

• ［**H.265 8-bit（MOV）**］および［**H.264 8-bit（MP4）**］の場合は［**SDR**］に固定され、階調モードは選べません。

項目	内容
［**SDR**］	標準の明るさの幅（ダイナミックレンジ）に対応した階調モードです。
［**HLG**］	HDR（High Dynamic Range）に対応した階調モードです（🕮 201）。SDR に比べて広いダイナミックレンジを表現できます。 • ［**動画記録ファイル形式**］が［**H.265 10-bit（MOV）**］の場合のみ選べます。
［**N-Log**］	ニコン独自の Log 曲線を使用した階調モードです。広いダイナミックレンジでの撮影に適しています。ポストプロダクション工程で N-Log 用 3D LUT を適用することで、Rec. 709 の表示に対応したモニターで美しく見ることができる映像に仕上がります（🕮 202）。

色空間について

［**動画記録ファイル形式**］が［**H.265 10-bit（MOV）**］、［**H.265 8-bit（MOV）**］、［**H.264 8-bit（MP4）**］の場合の動画の色空間は次のとおりです。

- ［**SDR**］：BT.709
- ［**HLG**］：BT.2100
- ［**N-Log**］：BT.2020

動画の画像サイズ/フレームレートについて

動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートは、動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］で設定できます。選べる画像サイズは、動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で選んだ動画の記録形式によって異なります。

RAW 動画の画像サイズ/フレームレートについて

項目	動画記録形式	
	N-RAW 12-bit	ProRes RAW HQ 12-bit
［[FX] 8256×4644 60p］	✓	—
［[FX] 8256×4644 50p］	✓	—
［[FX] 8256×4644 30p］	✓	—
［[FX] 8256×4644 25p］	✓	—
［[FX] 8256×4644 24p］	✓	—
［[FX] 4128×2322 120p］	✓	—
［[FX] 4128×2322 100p］	✓	—
［[FX] 4128×2322 60p］	✓	✓
［[FX] 4128×2322 50p］	✓	✓
［[FX] 4128×2322 30p］	✓	✓
［[FX] 4128×2322 25p］	✓	✓
［[FX] 4128×2322 24p］	✓	✓
［[DX] 5392×3032 60p］	✓	—
［[DX] 5392×3032 50p］	✓	—
［[DX] 5392×3032 30p］	✓	✓

項目	動画記録形式	
	N-RAW 12-bit	ProRes RAW HQ 12-bit
［[DX] 5392×3032 25p］	✓	✓
［[DX] 5392×3032 24p］	✓	✓
［[2.3×] 3840×2160 120p］	✓	—
［[2.3×] 3840×2160 100p］	✓	—
［[2.3×] 3840×2160 60p］	—	✓
［[2.3×] 3840×2160 50p］	—	✓

- 動画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］の設定にかかわらず、「FX」がついた項目を選ぶと撮像範囲は［**FX**］に、「DX」がついた項目を選ぶと撮像範囲は［**DX**］に固定されます。「2.3×」がついた項目を選ぶと、FX フォーマットの焦点距離の約 2.3 倍に相当する画角になります。
- DX レンズを装着した場合は、自動的に DX ベースの（動画）フォーマットになります。「FX」がついた項目は選べません。

RAW 動画以外の画像サイズ/フレームレートについて

項目[1]	動画記録形式		
	ProRes 422 HQ 10-bit	H.265 10-bit/8-bit	H.264 8-bit
［7680×4320 30p］[2、3]	—	✓	—
［7680×4320 25p］[2、3]	—	✓	—
［7680×4320 24p］[2、3]	—	✓	—
［3840×2160 120p］[2、4]	—	✓	—
［3840×2160 100p］[2、4]	—	✓	—
［3840×2160 60p］[4]	✓	✓	—
［3840×2160 50p］[4]	✓	✓	—

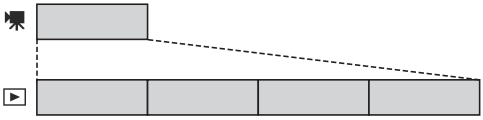
項目[1]	動画記録形式		
	ProRes 422 HQ 10-bit	H.265 10-bit/8-bit	H.264 8-bit
［3840×2160 30p］[4]	✓	✓	—
［3840×2160 25p］[4]	✓	✓	—
［3840×2160 24p］[4]	✓	✓	—
［1920×1080 120p］[2]	✓	✓	—
［1920×1080 100p］[2]	✓	✓	—
［1920×1080 60p］	✓	✓	✓
［1920×1080 50p］	✓	✓	✓
［1920×1080 30p］	—	✓	✓
［1920×1080 25p］	—	✓	✓
［1920×1080 24p］	—	✓	✓
［1920×1080 30p 4 倍スロー］[2]	—	—	✓
［1920×1080 25p 4 倍スロー］[2]	—	—	✓
［1920×1080 24p 5 倍スロー］[2]	—	—	✓

1 120p：119.88 コマ/秒、100p：100 コマ/秒、60p：59.94 コマ/秒、50p：50 コマ/秒、30p：29.97 コマ/秒、25p：25 コマ/秒、24p：23.976 コマ/秒
2 動画撮影メニュー［**電子手ブレ補正**］は［**OFF**］に固定されます。
3 8K UHD 動画として記録されます。DX レンズ装着時は選べません。
4 4K UHD 動画として記録されます。

スローモーション動画について

動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］で［**1920×1080 30p 4 倍スロー**］、［**1920×1080 25p 4 倍スロー**］、［**1920×1080 24p 5 倍スロー**］を選ぶとスローモーション動画を撮影できます。

- 例えば［**1920×1080 30p 4 倍スロー**］の場合、120p のフレームレートで読み出した画像を 30p の動画として記録します。約 10 秒間撮影した動画は、約 40 秒かけて再生されます。スポーツでのボールのインパクトの瞬間など、一瞬の出来事をゆっくりと見ることができます。



- 音声は記録されません。
- ［**撮像範囲設定**］を［**DX**］に設定するか DX レンズを装着すると、FX フォーマットの焦点距離の約 2.3 倍に相当する画角になります。
- カスタムメニュー g11［**シャッタースピード延長（M モード）**］は無効になります。
- 画像を読み出すときのフレームレートと、動画を記録および再生するときのフレームレートは次の通りです。

画像サイズ/フレームレート	画像を読み出すときのフレームレート※	動画を記録・再生するときのフレームレート※
［**1920×1080 30p 4 倍スロー**］	120p	30p
［**1920×1080 25p 4 倍スロー**］	100p	25p
［**1920×1080 24p 5 倍スロー**］	120p	24p

※ 120p：119.88 コマ/秒（fps）、100p：100 コマ/秒、30p：29.97 コマ/秒、25p：25 コマ/秒、24p：23.976 コマ/秒

- 最長記録時間は約 3 分です。

スローモーション動画撮影時のご注意

- 次の機能など、スローモーション動画撮影中は使用できなくなる機能があります。
  - フリッカー低減
  - 電子手ブレ補正
  - タイムコード出力
- 外部レコーダーに HDMI 出力して録画する場合、スローモーションにならず等倍速の動画として記録されます。

ビットレートについて

ビットレートは動画記録形式によって異なります。

- ［**N-RAW 12-bit（NEV）**］に設定している場合、動画撮影メニュー［**動画の画質（N-RAW）**］の設定によってもビットレートが異なります。
- ProRes RAW HQ 12-bit および ProRes 422 HQ 10-bit のデータ仕様については Apple のホームページをご覧ください。

N-RAW 12-bit、高画質

［**動画の画質（N-RAW）**］を［**高画質**］に設定した場合の NEV 形式動画のビットレートと、再生用 MP4 動画の平均ビットレートは次の通りです。

項目	NEV	MP4
［**[FX] 8256×4644 60p**］	約 5780Mbps	約 50Mbps
［**[FX] 8256×4644 50p**］	約 4810Mbps	
［**[FX] 8256×4644 30p**］	約 3470Mbps	約 30Mbps
［**[FX] 8256×4644 25p**］	約 2890Mbps	
［**[FX] 8256×4644 24p**］	約 2780Mbps	
［**[FX] 4128×2322 120p**］	約 3480Mbps	約 100Mbps
［**[FX] 4128×2322 100p**］	約 2900Mbps	
［**[FX] 4128×2322 60p**］	約 1740Mbps	約 50Mbps
［**[FX] 4128×2322 50p**］	約 1450Mbps	
［**[FX] 4128×2322 30p**］	約 870Mbps	約 30Mbps
［**[FX] 4128×2322 25p**］	約 730Mbps	
［**[FX] 4128×2322 24p**］	約 700Mbps	
［**[DX] 5392×3032 60p**］	約 2960Mbps	約 50Mbps
［**[DX] 5392×3032 50p**］	約 2470Mbps	

項目	NEV	MP4
［**[DX] 5392×3032 30p**］	約 1480Mbps	約 30Mbps
［**[DX] 5392×3032 25p**］	約 1240Mbps	
［**[DX] 5392×3032 24p**］	約 1190Mbps	
［**[2.3×] 3840×2160 120p**］	約 3020Mbps	約 100Mbps
［**[2.3×] 3840×2160 100p**］	約 2510Mbps	

N-RAW 12-bit、標準

［**動画の画質（N-RAW）**］を［**標準**］に設定した場合の NEV 形式動画のビットレートと、再生用 MP4 動画の平均ビットレートは次の通りです。

項目	NEV	MP4
［**[FX] 8256×4644 60p**］	約 3470Mbps	約 50Mbps
［**[FX] 8256×4644 50p**］	約 2890Mbps	
［**[FX] 8256×4644 30p**］	約 1740Mbps	約 30Mbps
［**[FX] 8256×4644 25p**］	約 1450Mbps	
［**[FX] 8256×4644 24p**］	約 1390Mbps	
［**[FX] 4128×2322 120p**］	約 1750Mbps	約 100Mbps
［**[FX] 4128×2322 100p**］	約 1460Mbps	
［**[FX] 4128×2322 60p**］	約 880Mbps	約 50Mbps
［**[FX] 4128×2322 50p**］	約 730Mbps	
［**[FX] 4128×2322 30p**］	約 440Mbps	約 30Mbps
［**[FX] 4128×2322 25p**］	約 370Mbps	
［**[FX] 4128×2322 24p**］	約 350Mbps	

項目	NEV	MP4
［[DX] 5392×3032 60p］	約 1490Mbps	約 50Mbps
［[DX] 5392×3032 50p］	約 1240Mbps	
［[DX] 5392×3032 30p］	約 750Mbps	約 30Mbps
［[DX] 5392×3032 25p］	約 620Mbps	
［[DX] 5392×3032 24p］	約 600Mbps	
［[2.3×] 3840×2160 120p］	約 1510Mbps	約 100Mbps
［[2.3×] 3840×2160 100p］	約 1260Mbps	

H.265 10-bit、H.265 8-bit、H.264 8-bit

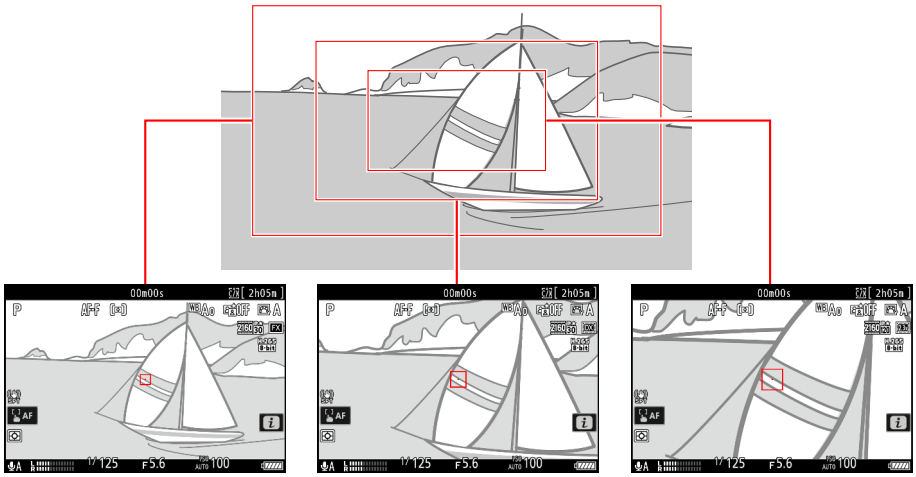
それぞれの平均ビットレートは次の通りです。

項目	動画記録形式		
	H.265 10-bit	H.265 8-bit	H.264 8-bit
［7680×4320 30p］	約 400Mbps	約 370Mbps	—
［7680×4320 25p］			—
［7680×4320 24p］			—
［3840×2160 120p］			—
［3840×2160 100p］			—
［3840×2160 60p］	約 340Mbps	約 300Mbps	—
［3840×2160 50p］			—

<table>
<tr><th rowspan="2">項目</th><th colspan="3">動画記録形式</th></tr>
<tr><th>H.265 10-bit</th><th>H.265 8-bit</th><th>H.264 8-bit</th></tr>
<tr><td>［3840×2160 30p］</td><td rowspan="5">約 190Mbps</td><td rowspan="5">約 150Mbps</td><td>—</td></tr>
<tr><td>［3840×2160 25p］</td><td>—</td></tr>
<tr><td>［3840×2160 24p］</td><td>—</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 120p］</td><td>—</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 100p］</td><td>—</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 60p］</td><td rowspan="2">約 100Mbps</td><td rowspan="2">約 80Mbps</td><td rowspan="2">約 50Mbps</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 50p］</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 30p］</td><td rowspan="3">約 50Mbps</td><td rowspan="3">約 40Mbps</td><td rowspan="3">約 30Mbps</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 25p］</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 24p］</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 30p 4 倍スロー］</td><td>—</td><td>—</td><td rowspan="3">約 30Mbps</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 25p 4 倍スロー］</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>［1920×1080 24p 5 倍スロー］</td><td>—</td><td>—</td></tr>
</table>

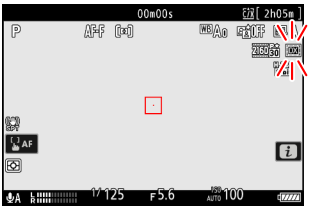
動画撮影時の撮像範囲について

動画撮影時の撮像範囲は、動画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］で設定できます。撮像範囲によって、撮影できる画角が異なります。動画のアスペクト比（縦横比）は撮像範囲にかかわらず 16：9 です。



- ［**FX**］に設定した場合は FX ベースの（動画）フォーマットに、［**DX**］に設定した場合は DX ベースの（動画）フォーマットになります。
- 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**N-RAW 12-bit（NEV）**］および［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］を選んでいる場合は、［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によって撮像範囲が変更されます。動画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］での設定は行えません。
- ［**画像サイズ/フレームレート**］を［**3840×2160 120p**］、［**3840×2160 100p**］、［**1920×1080 120p**］、［**1920×1080 100p**］に設定している場合に、［**撮像範囲設定**］を［**DX**］に設定するか DX レンズを装着すると、FX フォーマットの焦点距離の約 2.3 倍に相当する画角になります。

- 設定した撮像範囲は撮影画面に表示されます。動画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**DX クロップ警告表示**］を［**ON**］に設定すると、撮像範囲が DX および 2.3 倍の場合に撮影画面で撮像範囲のアイコンが点滅します。



• それぞれの撮像範囲のサイズは次の通りです。

フォーマット	サイズ
FX ベースの（動画）フォーマット	約 35.9×20.2 mm
DX ベースの（動画）フォーマット	約 23.5×13.2 mm
2.3 倍時	約 16.7×9.4 mm

• DX レンズを装着した場合は、自動的に DX ベースの（動画）フォーマットになります。
• 動画の画像サイズを 7680×4320 に設定した場合は、撮像範囲は［**FX**］に固定されます。DX レンズを装着した場合、画像サイズは 3840×2160 に変更されます。
• 動画撮影メニュー［**電子手ブレ補正**］を［**ON**］に設定しているときは、画角が狭くなります。

動画撮影時のご注意とヒント

動画撮影時には次のことにご注意ください。

- 1 回の動画撮影の最長記録時間は 125 分です。
- 32GB 以下のメモリーカードを使用する場合、動画は最大 8 個のファイルに分割されて記録されることがあります。分割された各ファイルのファイルサイズは最大で 4GB です。1 回の撮影で作成されるファイルの数と 1 ファイルあたりの記録時間は［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によって異なります。
- 32GB 以下のメモリーカードを使用する場合、動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**ProRes 422 HQ 10-bit（MOV）**］を選んでいると、動画のファイルサイズが 4GB に達したときに記録が自動的に終了します。ファイルの分割は行われません。
- メモリーカードの書き込み速度によっては、最長記録時間に満たないで記録が自動的に終了する場合があります。
- 次のメモリカードを使用している場合、動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**N-RAW 12-bit（NEV）**］または［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］を選んでいると動画記録できません。
  - SD カード
  - 32GB 以下の XQD カード
- （動画記録禁止）マーク（🕮 91）が表示されているときは、動画記録できません。
- 動画撮影時は測光モードを［**スポット測光**］に設定できません。
- 動画撮影時は、別売のスピードライト（🕮 379）は発光しません。

ヒント：動画撮影時の撮影モードについて
動画撮影時に絞り値、シャッタースピード、ISO 感度を設定できるかどうかは、撮影モードによって異なります。

撮影モード	絞り値	シャッタースピード	ISO 感度 [2]
P、 **S**[1]	—	—	—[3]
A	✓	—	—[3]
M	✓	✓	✓[4]

1 撮影モードが **S** の場合は、**P** に設定したときと同じ露出制御になります。
2 動画撮影メニュー［**電子手ブレ補正**］を［**ON**］に設定すると、動画の ISO 感度の上限は 25600 に制限されます。
3 動画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**制御上限感度**］で ISO 感度の上限を設定できます。
4 動画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**M モード時の感度自動制御**］を［**ON**］に設定した場合、［**制御上限感度**］で ISO 感度の上限を設定できます。

ヒント：動画記録中のホワイトバランスの変更について
動画記録中に **WB** ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスの設定を変更できます。

ヒント：シャッタースピードを固定して撮影するには
撮影モード **M** で動画撮影する場合、シャッタースピードを 1/25～1/32000 秒の範囲で設定できます（動画のフレームレートによって、低速側の制限が異なります）。

ヒント：ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードについて
カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］>［**シャッターボタン**］を［**動画撮影**］に設定すると、別売のワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押ししてピント合わせを行ったり、全押しして動画記録の開始と終了を行えます。

ヒント：外部マイクについて
市販の 3.5mm ミニプラグマイクを外部マイク入力端子に接続すると、外部マイクを使用して動画撮影することができます。
- 使用する外部マイクに電源を供給するかどうかを動画撮影メニュー［**マイク端子のプラグインパワー**］で設定できます（🕮 561）。

RAW 動画について

動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**N-RAW 12-bit（NEV）**］または［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］に設定して撮影した動画を RAW 動画といいます。

RAW 動画撮影時のご注意

［**N-RAW 12-bit（NEV）**］または［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］に設定している場合、次の制限があります。

- 高感度（Hi 0.3 ～ Hi 2.0）は設定できません。
- 動画撮影メニュー［**アクティブ D-ライティング**］、［**高感度ノイズ低減**］、［**回折補正**］、［**美肌効果**］［**電子手ブレ補正**］は設定できません。
- カメラでの動画編集は行えません。
- HDMI 対応機器と接続時の出力解像度は、セットアップメニュー［**HDMI**］>［**出力解像度**］の設定にかかわらず最大 1920×1080 になります。
- 階調モードで［**N-Log**］を選んでいる場合のご注意については、「N-Log 動画の撮影について」（🕮 202）をご覧ください。

RAW 動画の再生/編集について

RAW 動画を再生/編集するには、RAW 動画に対応したパソコン用ソフトウェアが必要です。ニコンのソフトウェア NX Studio では、RAW 動画と同時に記録される MP4 形式の再生用動画（プロキシー動画）の再生のみ可能です。

HLG 動画の撮影について

HLG 動画は HLG（Hybrid Log Gamma）方式で撮影された動画のことで、HDR 放送などに使用されます。動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**H.265 10-bit（MOV）**］に設定し、階調モードで［**HLG**］を選ぶと、HLG 方式の動画を撮影できます。

- 撮影画面に HLG が表示されます。
- 撮影した HLG 動画を適切な色表現で再生するには、HLG に対応したモニター、パソコン、OS、アプリケーションなどの環境が必要です。

☑ HLG 動画撮影時のご注意

- 階調モードを［**HLG**］に設定すると、［**SDR**］または［**N-Log**］と比べて撮影画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が目立ちやすくなります。
- 動画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**制御上限感度**］で設定できる下限は ISO 800 になります。
- 動画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**M モード時の ISO 感度**］で設定できる下限は ISO 400 になります。
- 高感度（Hi 0.3 ～ Hi 2.0）は設定できません。
- 動画撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］は設定できません。動画撮影メニュー［**HLG 画質調整**］で画像の仕上がりを調整できます。
- 動画撮影メニュー［**アクティブ D-ライティング**］は［**しない**］に固定されます。
- 画像モニターにチラつきやざらつきが見えることがあります。
- オートフォーカス時にピントが合いにくくなりますが故障ではありません。

☑ HDR（HLG）出力について

HDMI を使用して外部機器に HDR（HLG）出力を行う場合、適切な色再現を行うには、記録機器やモニターなど、HDR（HLG）に対応した環境が必要です。 接続機器から HDR（HLG）に対応しているという信号を受信したときは、ガンマ：HLG という識別信号を送ります。

☑ 階調モード HLG 設定時のカメラの画像モニター/ファインダーの表示について

階調モードを［**HLG**］に設定すると、カメラの撮影画面または再生画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生したり、高彩度やハイライトの再現性が低下したりする場合があります。適切な階調を確認するには、HLG に対応したモニター、パソコン、OS、アプリケーションなどをご使用ください。

☑ HLG 動画の再生/編集について

HLG 動画を再生/編集するには、HLG 動画に対応したパソコン用ソフトウェアが必要です。ニコンのソフトウェア NX Studio ではサムネイル表示されますが、再生/編集はできませんのでご注意ください。

N-Log 動画の撮影について

光量を対数関数でデジタル化した「Log」を使用して動画撮影することを「Log 撮影」と呼びます。動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**N-RAW 12-bit（NEV）**］、［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］、［**ProRes 422 HQ 10-bit（MOV）**］または［**H.265 10-bit（MOV）**］に設定して階調モードで［**N-Log**］を選ぶと、ニコン独自の Log である N-Log を使用した Log 撮影を行えます。N-Log を使用すると、ハイライト側およびシャドー側の階調とびを抑えた色飽和の少ない動画を撮影できます。

- 撮影画面に NLOG が表示されます。
- ［**動画記録ファイル形式**］が［**H.265 10-bit（MOV）**］の場合、最低感度（ISO 800）時のダイナミックレンジは 12 stops（1300%）です。
- N-Log はポストプロダクション工程でカラーグレーディングを行うことを前提としています。カラーグレーディングを行うと、ひとつの素材をさまざまな雰囲気に変更できます。
- カラーグレーディングを行うには、対応する他社製の動画編集用ソフトウェアが必要です。
- カラーグレーディング時に「N-Log 用 3D LUT」を適用することで、Rec.709 の表示に対応したモニターで美しく見ることができる映像に仕上がります。
  - N-Log 用 3D LUT は、ニコンダウンロードセンターで公開されています。
    https://downloadcenter.nikonimglib.com/

N-Log 撮影時のご注意

- 動画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**制御上限感度**］は ISO 1600～25600 の間で設定できます。
- 動画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**M モード時の ISO 感度**］は Lo 0.3～Lo 2.0、および ISO 800～25600 の間で設定できます。
  - ISO 感度を低感度（Lo 0.3～Lo 2.0）に設定して撮影した動画は、ハイライトの情報が減少するため最大出力レベルが低下します。ゼブラ表示をする場合、カスタムメニュー g13［**ゼブラ表示**］>［**高輝度検出の範囲**］の設定を低めに設定してください。Lo 1.0 までの場合は［**230**］、Lo 2.0 の場合は［**200**］程度に設定することをおすすめします。
- 動画撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］、［**アクティブ D-ライティング**］、［**高感度ノイズ低減**］、［**美肌効果**］、［**人物印象調整**］は設定できません。
- 画像モニターにチラつきやざらつきが見えることがあります。
- オートフォーカス時にピントが合いにくくなりますが故障ではありません。

ビューアシストについて

N-Log 撮影時は撮影画面が低コントラストで表示されます。カスタムメニュー g12［**ビューアシスト**］を［**ON**］に設定すると、簡易的な階調補正を適用してカメラの撮影画面に表示します。

- 撮影画面に ASSIST が表示されます。
- 実際に記録している動画には影響ありません。
- カメラで N-Log 動画を再生する場合にも階調補正が適用されます。

ハイレゾズームについて

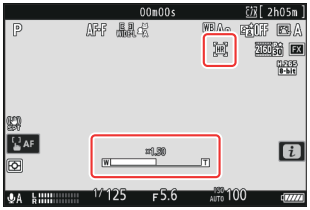
動画撮影メニュー［**ハイレゾズーム**］を［**ON**］に設定すると、ズームレンズを使用しなくても画質の劣化なくズーミングを行えます。

- ハイレゾズームは次の条件を全て満たす動画で行えます。
  - 動画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］が［**FX**］
  - 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］が［**ProRes 422 HQ 10-bit（MOV）**］、［**H.265 10-bit（MOV）**］、［**H.265 8-bit（MOV）**］、［**H.264 8-bit（MP4）**］
  - 動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］が［**3840×2160 30p**］～［**3840×2160 24p**］および［**1920×1080 120p**］～［**1920×1080 24p**］

ハイレゾズームでズーミングを行う

動画撮影メニュー［**ハイレゾズーム**］を［**ON**］にしてマルチセレクターの ◀▶ を押す、またはサブセレクターを左右に倒すとハイレゾズームでズーミングを行えます。

- ハイレゾズームが有効な場合、画面に 🔍 アイコンが表示されます。
- ズーム操作中は拡大率を示すバーが表示され、現在の倍率を確認できます。ズーミングは 2.0 倍まで行えます。



ハイレゾズームについてのご注意

- AF エリアモードは［**ワイドエリア AF（L）**］に固定されます。フォーカスポイントは表示されません。
- 動画撮影メニュー［**電子手ブレ補正**］は［**OFF**］に固定されます。

ヒント：ボタン操作でハイレゾズームを行う

カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］で［**ハイレゾズーム（望遠側）**］および［**ハイレゾズーム（広角側）**］を割り当てたボタンを操作してズーミングを行うこともできます。

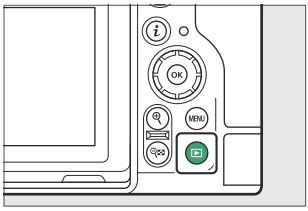
- カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］でハイレゾズームのズーミング機能を割り当てられるボタンは［**Fn1 ボタン**］、［**Fn2 ボタン**］、［**レンズの Fn リング（右回し）**］、［**レンズの Fn リング（左回し）**］、［**レンズのコントロールリング**］です。
  - ［**Fn1 ボタン**］、［**Fn2 ボタン**］、［**レンズの Fn リング（右回し）**］、［**レンズの Fn リング（左回し）**］に割り当てている場合、カスタムメニュー g8［**ハイレゾズーム速度**］でハイレゾズームの速度を設定できます。
  - ［**レンズのコントロールリング**］に割り当てている場合、カスタムメニュー f10［**コントロールリングの感度**］で感度を設定できます。
  - カスタムメニュー f11［**フォーカス/コントロールリング入れ換え**］に対応したレンズを装着して［**ON**］に設定した場合、コントロールリングの代わりにフォーカスリングでハイレゾズームを行えます。

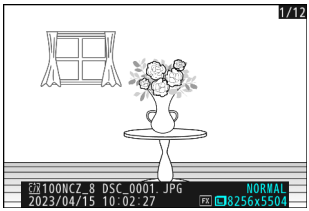
画像の再生

画像を再生する

1 コマ表示モード

▶ ボタンを押すと、最後に撮影した画像が画像モニターまたはファインダーに表示されます。

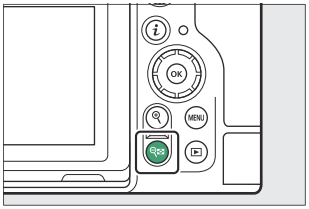


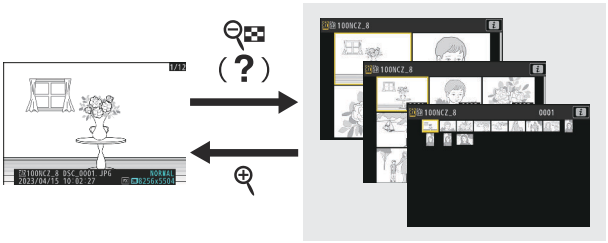


- マルチセレクターの ◀ を押すと前の画像が、▶ を押すと次の画像が表示されます。
- ▲▼ または **DISP** ボタンを押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（🕮 208）。

サムネイル表示モード

1 コマ表示モードのときに 🔍 (**?**) ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。





- 表示される画像の数は、🔍 (**?**) ボタンを押すたびに 4 コマ、9 コマ、72 コマの順に増え、🔍 ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセレクターの ▲▼◀▶ を押して画像を選びます。

タッチパネルでの操作について

画像モニターで再生している場合、タッチ操作で再生画面を切り換えることができます（56）。

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニュー［**画像の自動回転**］を［**ON**］に設定している場合、縦位置で撮影された画像を縦位置で再生します。



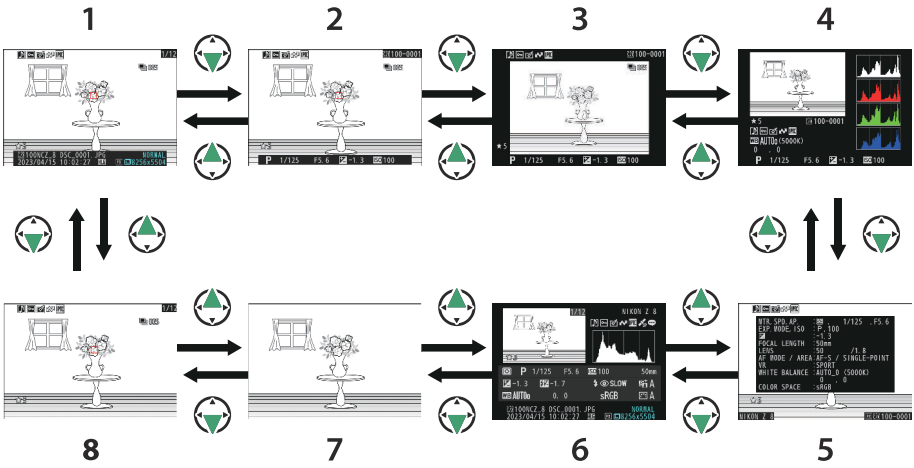
撮影直後の画像確認について

再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］に設定している場合、▶ ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターまたはファインダーに表示します。

- ［**する（画像モニター表示のみ）**］に設定している場合、ファインダーには撮影画像は表示されません。
- 連続撮影時は、撮影終了後に最初のコマから順次画像を表示します。
- 再生メニュー［**画像の自動回転**］を［**ON**］に設定していても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

画像情報を表示する

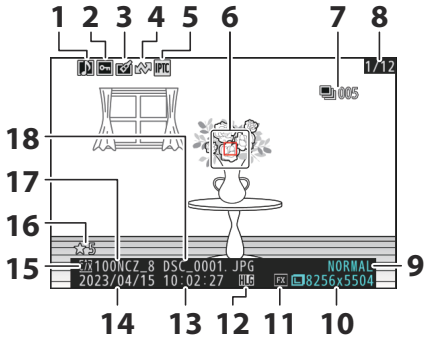
1 コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセレクターの ▲▼ または **DISP** ボタンを押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



1 標準表示
2 露出情報※
3 ハイライト表示※
4 RGB ヒストグラム※
5 撮影情報※
6 統合表示※
7 画像のみ表示※
8 ファイル情報※

※ 再生メニュー［**再生画面設定**］で設定している場合のみ表示します。

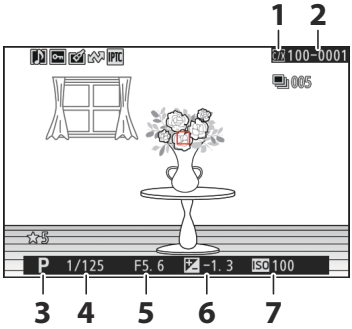
標準表示



1 音声メモの有無（281）
2 プロテクト設定の有無（228）
3 画像編集の有無（240）
4 送信指定の有無（231）
5 IPTC プリセット添付の有無（765）
6 フォーカスポイント[1]（113）
7 連続撮影グループ先頭/グループの総枚数[2]（724）
8 コマ番号/フォルダー内全画像数
9 画質モード（99）
10 画像サイズ（101）
11 撮像範囲（97）
12 HLG マーク（425）
13 撮影時刻（742）
14 撮影日付（742）
15 スロット
16 レーティング（230）
17 フォルダー名（414）
18 ファイル名（418）

1 再生メニュー［**再生画面設定**］で［**フォーカスポイント**］を設定した場合のみ表示します。
2 再生メニュー［**再生画面設定**］で［**グループの先頭表示**］を設定し、連続撮影グループ先頭の画像を再生したときのみ表示します。

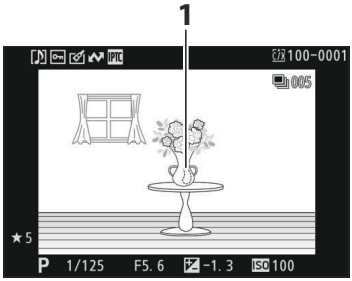
露出情報



1 スロット
2 フォルダー番号-ファイル名を表す 4 桁の数字（414）
3 撮影モード（120）
4 シャッタースピード（121、122）
5 絞り値（121、122）
6 露出補正値（129）
7 ISO 感度※（136）

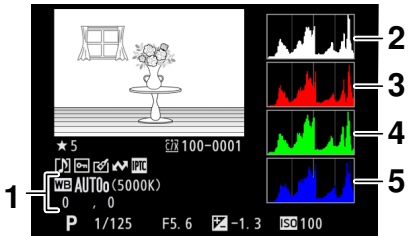
※ 感度自動制御した画像の場合、ISO 感度を赤く表示します。

ハイライト表示



1 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を点滅表示します。

RGB ヒストグラム

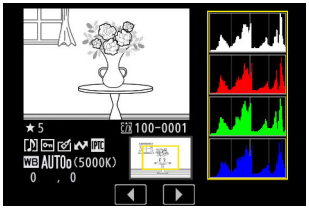


1 ホワイトバランス（🕮 140）
ホワイトバランス色温度（🕮 148）
プリセットマニュアル（🕮 151）
ホワイトバランス微調整（🕮 144）

2 RGB のヒストグラム
3 赤色（R）のヒストグラム
4 緑色（G）のヒストグラム
5 青色（B）のヒストグラム

拡大ヒストグラム表示について

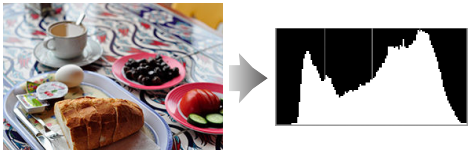
RGB ヒストグラム表示で 🔍 ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。🔍（?）ボタンを押すと画像を縮小表示します。



ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

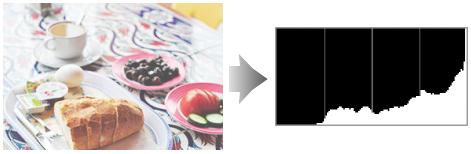
- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。



- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。



- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて画像モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

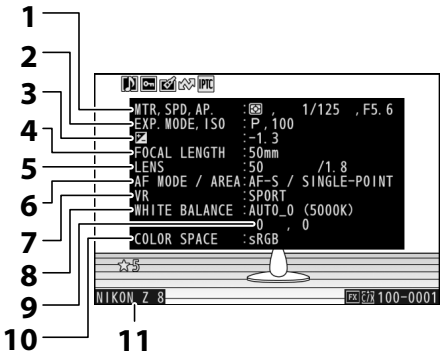
ヒストグラム表示について

- RGB ヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

撮影情報

撮影時の設定の詳細を表示します。撮影情報では複数の詳細情報のページがあり、マルチセレクターの ◓◒ で表示を切り換えます。表示する詳細情報のページは、再生メニュー［**再生画面設定**］>［**撮影情報の詳細**］で設定できます。

撮影基本情報



1 測光モード（📖 452）
シャッタースピード（📖 121、📖 122）
絞り値（📖 121、📖 122）

2 撮影モード（📖 120）
ISO 感度[1]（📖 136）

3 露出補正値（📖 129）
基準露出レベルの調節値[2]（📖 599）

4 焦点距離

5 レンズ情報

6 フォーカスモード（📖 103）
AF エリアモード（📖 105）

7 手ブレ補正機能（📖 461）

8 ホワイトバランス[3]（📖 140）

9 ホワイトバランス微調整（📖 144）

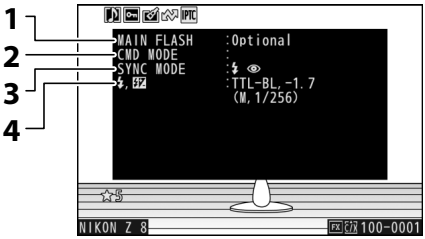
10 色空間（📖 437）

11 カメラ名

1 感度自動制御した画像の場合、ISO 感度を赤く表示します。
2 カスタムメニュー b6［**基準露出レベルの調節**］を 0 以外に設定している場合のみ表示します。
3 WB A［**オート**］、☀ A［**自然光オート**］、または PRE［**プリセットマニュアル**］で撮影した場合は、撮影時の色温度が表示されます。

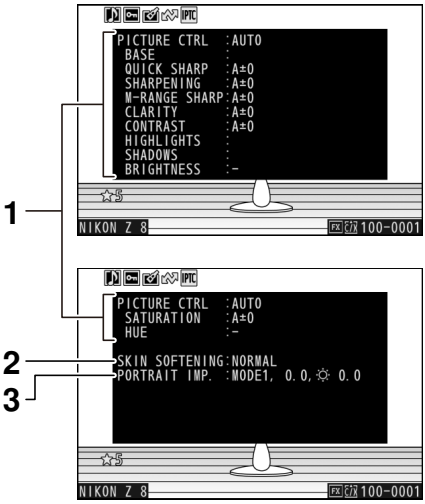
フラッシュ情報

別売のスピードライト使用時にのみ表示します（🕮 378、🕮 388）。



1 フラッシュの種類
2 リモートフラッシュの制御方法
3 フラッシュモード（🕮 383）
4 フラッシュ発光モード（🕮 381）
調光補正値（🕮 385）

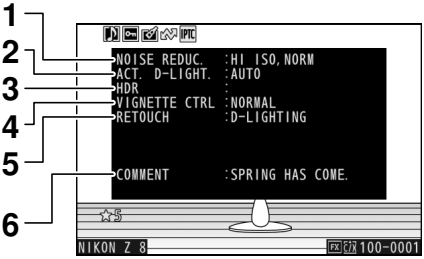
ピクチャーコントロール/HLG 情報



1 ピクチャーコントロール[1]（🕮 168）
ピクチャーコントロール（HLG）[1]（🕮 433）
HLG 画質調整（🕮 541）
2 美肌効果（🕮 445）
3 人物印象調整[2]（🕮 446）

1 表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。
2 設定したモードと調整値が表示されます。

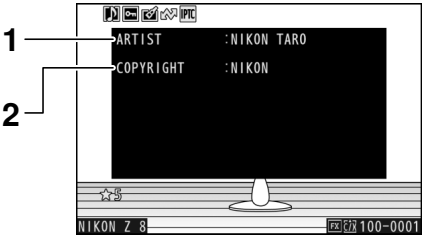
撮影情報その他



1 高感度ノイズ低減（441）
長秒時ノイズ低減（440）
2 アクティブ D-ライティング（438）
3 HDR 強度（470）
4 ヴィネットコントロール（442）
5 再生時の **i** メニュー［**画像編集**］（240）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
6 画像コメント（763）

著作権情報

セットアップメニュー［**著作権情報**］を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。



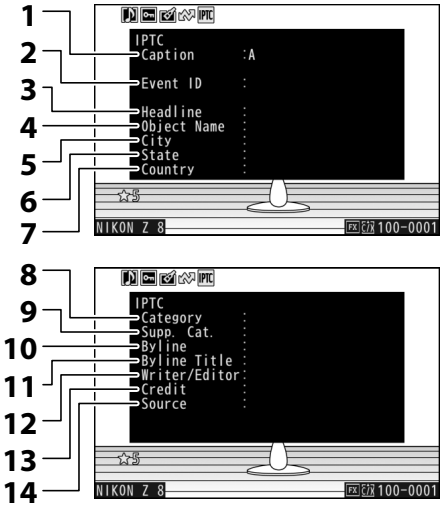
1 撮影者名（764）
2 著作権者名（764）

位置情報

スマートフォンまたは別売の GPS 機器で位置情報を取得して撮影した画像の場合のみ表示します。

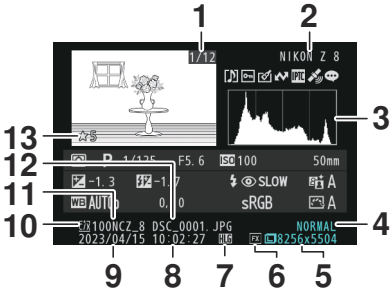
- 表示される項目は、スマートフォンまたは対応する GPS 機器によって異なります。
- 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。
- お使いのスマートフォンの OS および SnapBridge アプリのバージョンによっては、位置情報の取得や表示ができない場合があります。

IPTC 情報

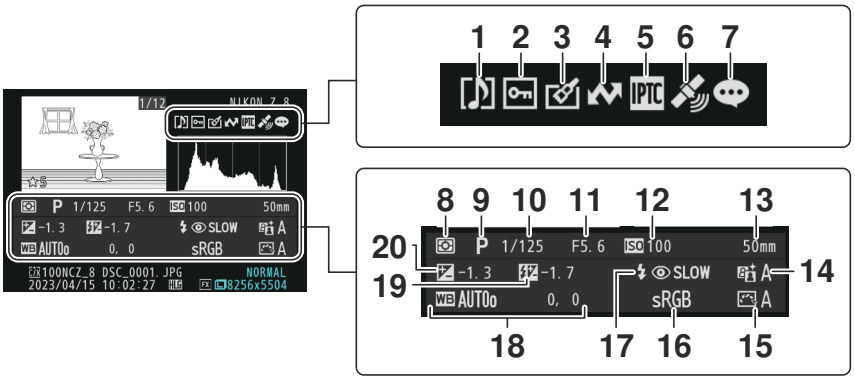


1 Caption
2 Event ID
3 Headline
4 Object Name
5 City
6 State
7 Country
8 Category
9 Supp. Cat.（Supplemental Categories）
10 Byline
11 Byline Title
12 Writer/Editor
13 Credit
14 Source

統合表示



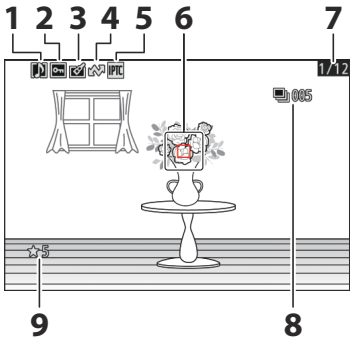
1 コマ番号/フォルダー内全画像数
2 カメラ名
3 画像のヒストグラム（212）
4 画質モード（99）
5 画像サイズ（101）
6 撮像範囲（97）
7 HLG マーク（425）
8 撮影時刻（742）
9 撮影日付（742）
10 スロット
11 フォルダー名（414）
12 ファイル名（418）
13 レーティング（230）



1 音声メモの有無（281）
2 プロテクト設定の有無（228）
3 画像編集の有無（240）
4 送信指定の有無（231）
5 IPTC プリセット添付の有無（765）
6 位置情報の有無
7 画像コメントの有無（763）
8 測光モード（452）
9 撮影モード（120）
10 シャッタースピード（121、122）
11 絞り値（121、122）
12 ISO 感度[1]（136）
13 焦点距離
14 アクティブ D-ライティング（438）
15 ピクチャーコントロール（168）
16 色空間（437）
17 フラッシュモード[2]（383）
18 ホワイトバランス（140）
ホワイトバランス色温度（148）
プリセットマニュアル（151）
ホワイトバランス微調整（144）
19 調光補正値[2]（385）
コマンダーモードの有無[2]
20 露出補正値（129）

1 感度自動制御された画像の場合、ISO 感度を赤く表示します。
2 別売のスピードライト使用時にのみ表示します（378、388）。

ファイル情報

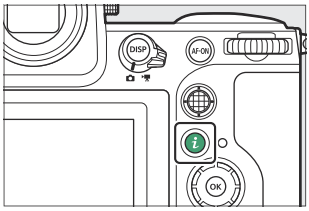


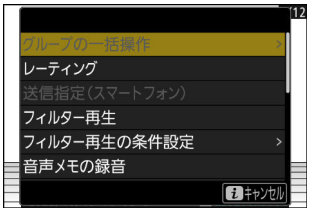
1 音声メモの有無（281）
2 プロテクト設定の有無（228）
3 画像編集の有無（240）
4 送信指定の有無（231）
5 IPTC プリセット添付の有無（765）
6 フォーカスポイント[1]（113）
7 コマ番号/フォルダー内全画像数
8 連続撮影グループ先頭/グループの総枚数[2]（724）
9 レーティング（230）

1 再生メニュー［**再生画面設定**］で［**フォーカスポイント**］を設定した場合のみ表示します。
2 再生メニュー［**再生画面設定**］で［**グループの先頭表示**］を設定し、連続撮影グループ先頭の画像を再生したときのみ表示します。

i ボタン（再生時）

1 コマ表示モード、サムネイル表示モードまたは拡大表示時に i ボタンを押すと、i メニューが表示されます。項目を選んで OK ボタンまたはマルチセレクターの ▶ を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。





再生画面に戻るには、もう一度 i ボタンを押してください。

静止画選択時

項目	内容
［**簡易トリミング**］[1]	画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます。RGB ヒストグラム表示（211）の場合は選べません。
［**グループの一括操作**］	再生メニュー［**グループ再生の設定**］>［**サムネイルのグループ表示**］を［**ON**］に設定している場合、1 回の連続撮影で記録した画像全てに対して送信指定、プロテクト（保護）、または削除ができます。 • 画像の送信指定はパソコンまたは FTP サーバーにのみ行えます。
［**レーティング**］	選んだ画像にレーティングを設定します（230）。
［**送信指定（スマートフォン）**］	画像の送信指定を行えます（231）。 • 表示される項目は、現在カメラと接続している接続先により異なります。
［**送信指定（PC）**］	
［**送信指定（FTP）**］	

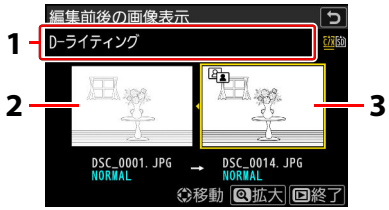
項目	内容
［**優先送信指定（PC）**］	画像の優先送信指定を行えます（🕮 231）。すでに送信予定の画像がある場合でも、優先送信指定した画像を割り込んで送信します。 • カメラをパソコンまたは FTP サーバーと接続している場合にのみ表示されます。
［**優先送信指定（FTP）**］	
［**一括送信指定（PC）**］	フィルター再生（🕮 233）を行ったときに、フィルター再生の条件に当てはまった全ての画像に送信指定を行えます。 • カメラをパソコンまたは FTP サーバーと接続している場合にのみ表示されます。 • ファイルサイズ 4GB を超える動画は送信指定できません。
［**一括送信指定（FTP）**］	
［**フィルター再生**］	設定された条件に当てはまる画像のみを再生します（🕮 233）。
［**フィルター再生の条件設定**］	フィルター再生する場合に、どの条件の画像を再生するかを設定できます。
［**音声メモの録音**］	選んだ静止画に音声メモを録音します（🕮 279）。
［**音声メモの再生**］	音声メモを再生します（🕮 281）。
［**画像編集**］	選んだ静止画を編集できます（🕮 240）。
［**同時記録画像へジャンプ**］	静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］を［**バックアップ記録**］、［**RAW+JPEG 分割記録**］、［**JPEG+JPEG 分割記録**］、［**RAW+HEIF 分割記録**］、［**HEIF+HEIF 分割記録**］に設定して同時記録または分割記録した画像を再生している場合、もう一方のスロットに記録した画像を再生できます。
［**スロット/フォルダー指定**］	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで ▶ を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで ⓞ ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
［**プロテクト**］	現在選ばれている画像を、削除しないようにプロテクト（保護）します（🕮 228）。
［**プロテクト一括解除**］[2]	再生メニュー［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。
［**IPTC**］	選んだ静止画に設定した IPTC 情報を添付します（🕮 765）。

項目	内容
［**編集前後の画像表示**］[3]	画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。
［**スライドショー**］	現在表示している画像と、それ以降に撮影した画像を記録された順番に 1 コマずつ連続再生します（🕮 234）。

1 拡大表示している場合のみ表示されます。
2 拡大表示している場合は表示されません。
3 編集後の画像（🖼 が表示されている画像）または編集元の画像を選択しているときのみ表示されます。

ヒント：［編集前後の画像表示］について

［**編集前後の画像表示**］を選ぶと、画像編集で作成した画像と画像編集の元画像を比較しながら、画像編集の効果を確認できます。



1 画像編集の内容
2 編集前の画像
3 編集後の画像

- 編集前の画像が左側、編集後の画像が右側に表示されます。
- 画像編集の内容は、2 つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの ◀▶ で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲▼ で 2 枚の元画像を切り換えられます。
- 1 枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲▼ で編集後の画像を切り換えられます。
- 🔍 ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ⊛ ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を 1 コマ表示します。
- ▶ ボタンを押すと、再生画面に戻ります。
- プロテクトされている画像を編集した場合は、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合、編集前の画像は表示されません。

動画選択時

項目	内容
[**レーティング**]	選んだ動画にレーティングを設定します（230）。
[**送信指定（PC）**]	動画の送信指定を行えます（231）。 • カメラをパソコンまたは FTP サーバーと接続している場合にのみ表示されます。
[**送信指定（FTP）**]	
[**優先送信指定（PC）**]	動画の優先送信指定を行えます（231）。すでに送信予定の画像がある場合でも、優先送信指定した動画を割り込んで送信します。 • カメラをパソコンまたは FTP サーバーと接続している場合にのみ表示されます。
[**優先送信指定（FTP）**]	
[**一括送信指定（PC）**]	フィルター再生（233）を行ったときに、フィルター再生の条件に当てはまった全ての画像に送信指定を行えます。 • カメラをパソコンまたは FTP サーバーと接続している場合にのみ表示されます。 • ファイルサイズが 4GB を超える動画は送信指定できません。
[**一括送信指定（FTP）**]	
[**フィルター再生**]	設定された条件に当てはまる画像のみを再生します（233）。
[**フィルター再生の条件設定**]	フィルター再生する場合に、どの条件の画像を再生するかを設定できます。
[**音量調節**]	動画再生時の音量を調節できます。
[**動画編集（始点/終点設定）**]	選んだ動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残すことができます（273）。
[**スロット/フォルダー指定**]	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで ▶ を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
[**プロテクト**]	現在選ばれている画像を、削除しないようにプロテクト（保護）します（228）。
[**プロテクト一括解除**]	再生メニュー［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

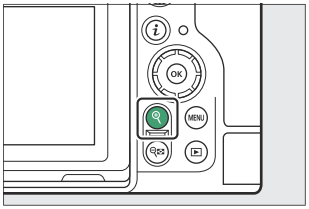
項目	内容
［**スライドショー**］	現在表示している画像と、それ以降に撮影した画像を記録された順番に 1 コマずつ連続再生します（🕮 234）。
［**再生の速度**］	動画の再生速度を設定できます。［**1/2 再生**］または［**1/4 再生**］を選ぶと、1/2 倍または 1/4 倍の速度でスロー再生されます。

動画再生一時停止時

項目		内容
	［**動画編集（始点/終点設定）**］	動画の必要な部分だけを残します（🕮 273）。
	［**表示中のフレームを保存**］	選択した 1 フレームを切り出して、JPEG 画像として保存します（🕮 276）。
	［**フレームを連続保存**］	指定した秒数分のフレームを JPEG 画像として保存します（🕮 277）。
［**音量調節**］		動画再生時の音量を調節できます。
［**再生の速度**］		動画の再生速度を設定できます。［**1/2 再生**］または［**1/4 再生**］を選ぶと、1/2 倍または 1/4 倍の速度でスロー再生されます。

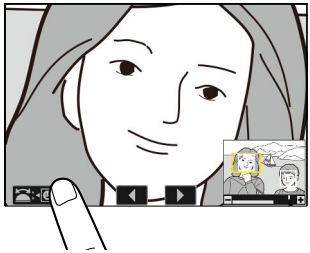
画像を拡大表示する

1 コマ表示モードのときに 🔍 ボタンまたは OK ボタンを押すか、画面を素早く 2 回タッチすると、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが L の場合は約 32 倍、M では約 24 倍、S では約 16 倍です（撮像範囲が［**FX（36×24）**］の場合）。拡大表示時に人物の顔を認識した場合、顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。



拡大表示中の操作方法

操作	内容
拡大率を上げる/ 拡大率を下げる	• 🔍 ボタンを押すか、画面で広げる操作をするごとに拡大率が上がります。🔍（**?**）ボタンを押すか、画面でつまむ操作をするごとに拡大率が下がります。 • 拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が等倍（100%）の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。 
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクターを押すか、画像モニターでスライド操作すると見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
拡大表示部分を切り抜く	*i* ボタンを押して表示されるメニューから［**簡易トリミング**］を選ぶと、画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます。

操作	内容
人物の顔へ移動させる	拡大表示中に人物の顔を検出すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すか、操作ガイドをタッチすると、検出した顔に順次移動します。 
前後の画像を見る	メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。画面下部に表示される ◀▶ をタッチしても画像を切り換えられます。
画像を保護する	**Fn3**（**Fn3**）ボタンを押すと、表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（228）。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しするか、▶ ボタンを押すと、再生を終了します。
メニューに移る	MENU ボタンを押すと、メニューが表示されます。

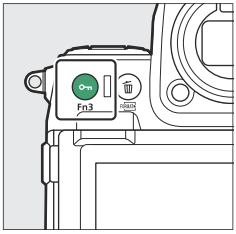
プロテクトで画像を削除できないように保護をする

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット：🕮 739）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

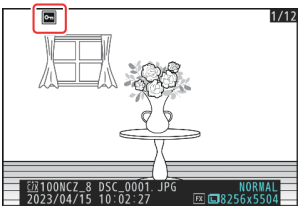
1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1 コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 （Fn3）ボタンを押す



- アイコン が表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、（**Fn3**）ボタンを押します。



音声メモ付き画像のプロテクトについて

音声メモが録音された画像にプロテクトを設定すると、画像と音声メモの両方がプロテクトされます。個別に設定することはできません。

プロテクトした画像を FTP サーバーに送信する場合のご注意

プロテクトした画像を FTP サーバーに送信した場合、FTP サーバーに保存された画像のプロテクトは解除されています。画像に目印を付けたい場合、レーティングを設定することをおすすめします。

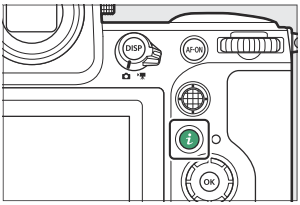
ヒント：プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、**Fn3**（**Fn3**）ボタンと（）ボタンを同時に 2 秒以上押し続けると、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

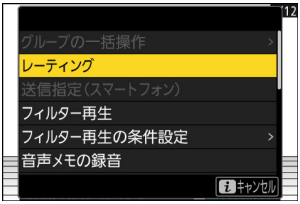
画像にレーティングを設定する

選んだ画像にレーティングを設定します。

1 マルチセレクターでレーティングを設定する画像を選んで i ボタンを押す

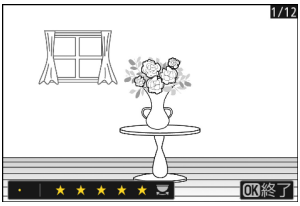


2 [レーティング] を選んでマルチセレクターの ▶ を押す



3 レーティングを設定する

メインコマンドダイヤルを回してレーティングを選び、OK ボタンを押します。レーティングは、★★★★★～★、星なし、🗑（削除候補）から選びます。



ヒント：レーティングについて
画像に設定したレーティングは、NX Studio にも反映されます。

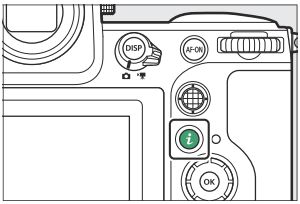
ヒント：ボタンとメインコマンドダイヤルでレーティングを設定する
カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能（再生）**］で［**レーティング**］を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと画像にレーティングを設定できます。

画像を選んで送信指定する

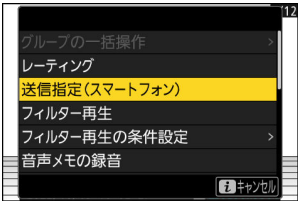
スマートフォンやパソコン、FTP サーバーに取り込みたい画像をカメラで選んで送信指定することができます。

- **i** メニューに表示される項目は、現在カメラと接続している機器によって異なります。
  - ネットワークメニュー［**スマートフォンと接続**］でスマートフォンと接続（🕮 797）している場合：［**送信指定（スマートフォン）**］
  - ネットワークメニュー［**PC と接続**］でパソコンと接続（🕮 800）している場合：［**送信指定（PC）**］、［**優先送信指定（PC）**］
  - ネットワークメニュー［**FTP サーバーと接続**］で FTP サーバーに接続（🕮 805）している場合：［**送信指定（FTP）**］、［**優先送信指定（FTP）**］
- SnapBridge アプリを使用してスマートフォンと接続している場合、動画は送信指定できません。
- ファイルサイズが 4GB を超える動画は送信指定できません。

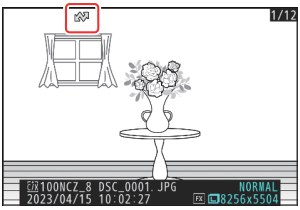
1 マルチセレクターで送信指定する画像を選んで i ボタンを押す



2 ［送信指定（スマートフォン）］/［送信指定（PC）］/［送信指定（FTP）］/［優先送信指定（PC）］/［優先送信指定（FTP）］を選んで ㊙ ボタンを押す



- ［**送信指定（スマートフォン）**］、［**送信指定（PC）**］、［**送信指定（FTP）**］を選ぶと、送信指定した順に画像が送信されます。すでに送信予定の画像がある場合、送信予定の最後に追加されます。
- ［**優先送信指定（PC）**］、［**優先送信指定（FTP）**］を選ぶと、すでに送信予定の画像がある場合でも、優先送信指定された画像を割り込んで送信します。
- 送信指定した画像にアイコンが表示されます。表示されるアイコンは、選んだメニューによって異なります。
  - ［**送信指定（スマートフォン）**］、［**送信指定（PC）**］または［**送信指定（FTP）**］で送信した場合：
  - ［**優先送信指定（PC）**］、［**優先送信指定（FTP）**］で送信した場合：



送信指定を解除するには

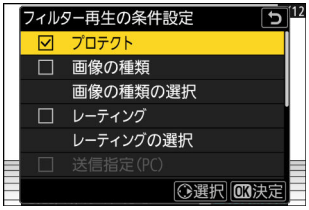
解除したい画像を選んで、手順 1 と 2 を行います。

フィルター再生する

i メニューで［**フィルター再生**］を選ぶと、再生メニューまたは再生時の **i** メニュー［**フィルター再生の条件設定**］で設定された条件に当てはまる画像のみを再生します。

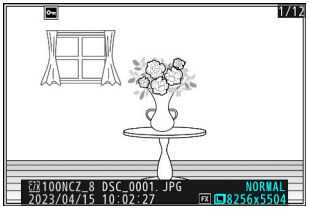
［フィルター再生の条件設定］の設定項目

項目を選び、㊎ ボタンを押すとオン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。フィルター再生時は、オン ☑ にした項目に全て当てはまる画像が表示されます。



項目	内容
［**プロテクト**］	オン ☑ にすると、プロテクトされた画像を再生対象にします。
［**画像の種類**］	オン ☑ にした画像の種類を再生対象にします。
［**レーティング**］	オン ☑ にしたレーティングの画像を再生対象にします。
［**送信指定（PC）**］ ［**送信指定（FTP）**］	• ［**送信済みの画像**］をオン ☑ にすると、接続しているパソコンまたは FTP サーバーに送信済みの画像を再生対象にします。 • ［**未送信の画像**］をオン ☑ にすると未送信の画像を再生対象にします。 • 両方をオン ☑ にすると、送信指定した全ての画像が再生対象になります。
［**音声メモ**］	オン ☑ にすると、音声メモが録音された画像を再生対象にします。
［**画像編集済み**］	オン ☑ にすると、画像編集を行った画像を再生対象にします。

- フィルター再生時は、画像モニターの周りに白枠が表示されます。
- もう一度［**フィルター再生**］を選ぶとフィルター再生を解除します。

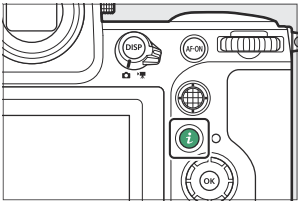


スライドショーを再生する

i メニューで［**スライドショー**］を選ぶと、撮影した画像を記録された順番に 1 コマずつ連続再生します。1 コマの静止画を表示する時間も設定できます。

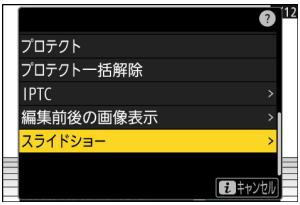
1 マルチセレクターでスライドショーを開始したい画像を選んで **i** ボタンを押す

選んだ画像と、それ以降に撮影した画像が連続再生されます。



2 ［スライドショー］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す

［**インターバル設定**］を選んで ▶ を押すと、1 コマの静止画を表示する時間を設定できます。



3 ［開始］を選んで OK ボタンを押す

- スライドショーが開始されます。
- 動画は［**インターバル設定**］にかかわらず、動画のサムネイルを一定時間表示した後に再生を開始します。
- 再生が終わるとメッセージが表示され、再生画面に戻ります。

スライドショー再生中の操作について

スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。

操作	内容
1 コマ進む/戻る	マルチセレクターの ◀ を押すと前の画像が、▶ を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える	▲▼ または **DISP** ボタンを押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます。画像情報を［**画像のみ**］に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
動画再生中に音量を調節する	⊕ ボタンを押すと音量が大きくなり、⊖（**?**）ボタンを押すと小さくなります。
通常再生に戻る	⊛ ボタンを押すと、スライドショーを中止して、再生画面に戻ります。

画像を削除する

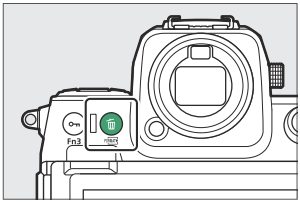
メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトされている画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を 1 コマ削除できます。

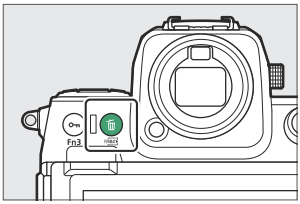
1 マルチセレクターで削除する画像を選んで 🗑（FORMAT）ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



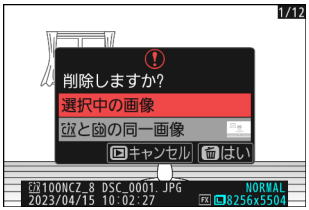
2 もう一度 🗑（FORMAT）ボタンを押す

表示中の画像が削除されます。



ヒント：同時記録された画像の削除について

再生画面で 🗑（FORMAT）ボタンを押したときに、選択した画像が静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］で［**順次記録**］以外に設定して同時記録された画像の場合は、再生しているスロットの画像だけを削除するか、もう一方のスロットの画像も削除するかを選択できます（🕮 420）。



複数の画像をまとめて削除する

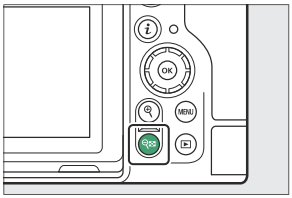
再生メニューの［**削除**］では、複数の画像を一括して削除できます。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

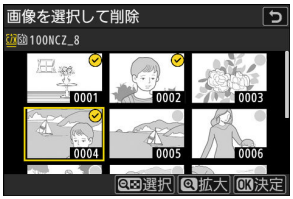
項目		内容
	［**画像を選択して削除**］	選んだ画像を削除します。
	［**削除候補画像を一括削除**］	レーティングで（削除候補）に設定した全ての画像を削除します。
DATE	［**日付を選択して削除**］	選んだ日付に撮影した画像を一括で削除します。
ALL	［**全画像を削除**］	再生メニュー［**再生フォルダー設定**］で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 • メモリーカードを 2 枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。

画像を選択して削除

1 削除する画像を選ぶ

• マルチセレクターで画像を選び、（**?**）ボタンを押すと、チェックがオン✓になります。もう一度（**?**）ボタンを押すとオフ◯になります。

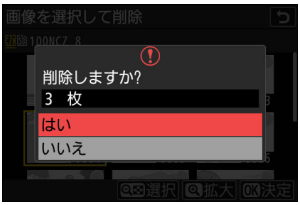




• 削除する画像全てに設定してください。
• ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

2 画像を削除する

- ⓞⓚ ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で［**はい**］を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、選んだ画像が全て削除されます。



削除候補画像を一括削除

1 削除する画像を選ぶ

- レーティングで 🗑（削除候補）に設定した画像が一覧表示されます。マルチセレクターで画像を選び、?（**?**）ボタンを押すと、削除設定が解除されます。
- 🔍 ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

2 画像を削除する

- ⓞⓚ ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で［**はい**］を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、画像が全て削除されます。

日付を選択して削除

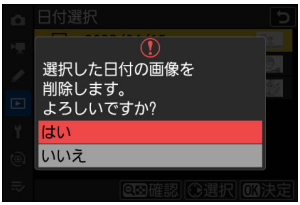
1 日付を選ぶ

- マルチセレクターで日付を選んで ▶ を押すと、日付の横にチェック ☑ が入ります。もう一度 ▶ を押すと解除されます。
- 削除する日付全てにチェックを入れてください。



2 画像を削除する

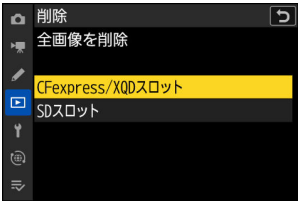
- ⓞⓚ ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で［**はい**］を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、選んだ日付の画像が全て削除されます。



全画像を削除

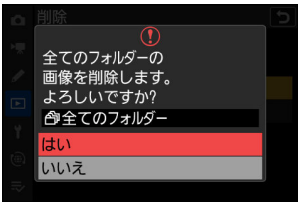
1 メモリーカードスロットを選ぶ

マルチセレクターの ▲▼ で、画像を削除するメモリーカードスロットを選んで ⓚ を押します。



2 画像を削除する

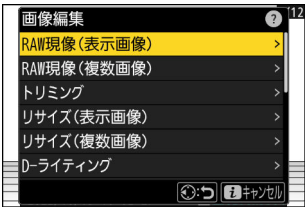
- 表示される確認画面に対象のフォルダー名が表示されます。［**はい**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、フォルダー内の画像が全て削除されます。対象のフォルダーは再生メニュー［**再生フォルダー設定**］で設定できます。
- たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。



静止画の編集

静止画の編集機能について

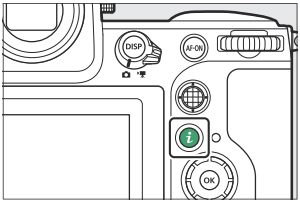
メモリーカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてメモリーカードに記録されます。



項目	内容
［**RAW 現像（表示画像）**］	表示中の RAW 画像を JPEG 画像など他のファイル形式に変換します（🕮 243）。
［**RAW 現像（複数画像）**］	メモリーカード内にある複数の RAW 画像を選んで、JPEG 画像など他のファイル形式に変換します（🕮 243）。
［**トリミング**］	画像の必要な部分だけを切り抜きます（🕮 255）。
［**リサイズ（表示画像）**］	表示中の画像からサイズの小さい画像を作成します（🕮 256）。
［**リサイズ（複数画像）**］	メモリーカード内にある複数画像を選んでサイズの小さい画像を作成します（🕮 256）。
［**D-ライティング**］	画像の暗い部分を明るく補正できます（🕮 260）。
［**傾き補正**］	画像の傾きを補正できます（🕮 261）。
［**ゆがみ補正**］	広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます（🕮 262）。
［**アオリ効果**］	遠近感による被写体のゆがみを補正します（🕮 263）。
［**モノトーン**］	モノトーンの画像を作成します（🕮 264）。
［**加算合成**］	2 コマの画像を重ね合わせて 1 コマの JPEG 画像に合成できます（🕮 265）。

項目	内容
［比較明合成］	複数の画像の最も明るい部分を重ね合わせて 1 コマの JPEG 画像に合成できます（🕮 267）。
［比較暗合成］	複数の画像の最も暗い部分を重ね合わせて 1 コマの JPEG 画像に合成できます（🕮 267）。
［比較動合成］	連続撮影した複数の画像の中から被写体が動いている部分をカメラが自動で判別して重ね合わせ、1 コマの JPEG 画像に合成できます（🕮 270）。

1 マルチセレクターで画像編集を行う画像を選んで i ボタンを押す



［**RAW 現像（複数画像）**］または［**リサイズ（複数画像）**］の場合、後から画像編集を行う画像を選べます。

2 ［画像編集］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す

3 編集する項目を選んで ▶ を押す

4 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、▶ ボタンを押してください。再生画面に戻ります。

5 編集した画像を記録する

- 画像の記録方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集した画像には 🖋 が付きます。

画像編集についてのご注意

- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらくすると、画像モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**メニュー表示**］の時間を長く設定することをおすすめします。

繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなることや、色が不自然になることがあります。
- 複数の画像編集を行う場合、実行する順番によって編集の効果が異なることがあります。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、再生時の **i** メニュー［**画像編集**］でグレーで表示されて選べません。

画質モードについて

- 元画像が RAW を含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE★**］の JPEG 画像または HEIF 画像になります。
- 元画像が JPEG または HEIF の場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAW 画像と JPEG 画像または RAW 画像と HEIF 画像を 1 枚のメモリーカードに同時に記録した場合は、RAW 画像が画像編集の対象になります。

画像サイズについて

画像編集した画像は、元画像と同じ画像サイズで記録されます（［**RAW 現像（表示画像）**］、［**RAW 現像（複数画像）**］、［**トリミング**］、［**リサイズ（表示画像）**］および［**リサイズ（複数画像）**］を除く）。

RAW 現像

RAW 画像を JPEG 画像など他のファイル形式に変換することを「RAW 現像」と呼びます。RAW 画像の撮影時に設定されている階調モードによって、JPEG 画像または HEIF 画像に変換できます。

RAW 現像についてのご注意

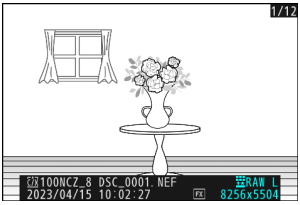
RAW 現像できる画像は、このカメラで撮影した RAW 画像だけです。機種の異なるカメラで撮影した RAW 画像や Camera Control Pro 2 または NX Tether を使用して撮影した RAW 画像、RAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。

階調モードを［SDR］に設定して撮影した RAW 画像を現像する

階調モードを［**SDR**］に設定して撮影した RAW 画像を現像すると、JPEG 画像に変換できます。

1 枚の RAW 画像を現像する

1 **階調モードを［SDR］に設定して撮影した RAW 画像を選んで i ボタンを押す**



2 **i メニューの［画像編集］で［RAW 現像（表示画像）］を選んで ▶ を押す**



3 保存先のスロットを選ぶ



- ◆ でスロットを選び、OK ボタンを押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

4 ［RAW 現像］画面で各項目を設定する

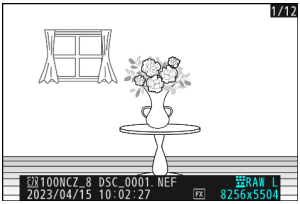
- 次の項目を設定できます。
  - 画質モード（99）
  - 画像サイズ（101）
  - 露出補正（129）
  - ホワイトバランス（140）
  - ピクチャーコントロール（168）
  - 色空間（437）
  - アクティブ D-ライティング（438）
  - 高感度ノイズ低減（441）
  - ヴィネットコントロール（442）
  - 回折補正（443）
  - 人物印象調整（446）
- 項目によってはプレビュー画像の下に撮影時の設定が表示されます。
- ［**撮影時設定**］を選ぶと（項目によっては選べないことがあります）、それぞれの RAW 画像の撮影時の設定で RAW 現像します。
- 各項目を設定すると、編集画面に適用後のプレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（−2〜＋ 2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。

5 RAW 現像する

［**現像**］を選んで OK ボタンを押すと、JPEG 画像を保存します。

複数の RAW 画像を現像する

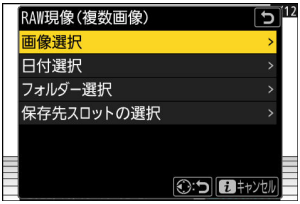
1 **階調モードを［SDR］に設定して撮影した RAW 画像を選んで i ボタンを押す**



2 **i メニューの［画像編集］で［RAW 現像（複数画像）］を選んで ⊛ を押す**



3 **画像の選択方法および画像の保存先を選ぶ**



項目	内容
［**画像選択**］	選んだ RAW 画像を RAW 現像します。複数の RAW 画像を選んで一括で RAW 現像することもできます。
［**日付選択**］	選択した日付に撮影した RAW 画像を一括で RAW 現像します。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内の RAW 画像を一括で RAW 現像します。
［**保存先スロットの選択**］	現像した画像を保存するスロットを選べます。メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

［**画像選択**］を選んだ場合は手順 5 にお進みください。

4 スロットを選択する



- RAW 現像したい画像が記録されているスロットを選んで ▶ を押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

5 RAW 現像する画像を選ぶ



［画像選択］を選んだ場合：

- マルチセレクターで RAW 現像する画像を選びます。
- 🔍 ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ?（?）ボタンを押して設定します。設定するとチェックがオン ✓ になります。もう一度 ?（?）ボタンを押すと、オフ ◯ になります。選んだ全ての RAW 画像を同じ設定で RAW 現像します。
- OK ボタンを押して決定します。



［日付選択］を選んだ場合：

- 日付を選んで ▶ を押すと、チェックボックスのオン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。
- チェックボックスがオン ☑ になった日付の RAW 画像を同じ設定で RAW 現像します。
- OK ボタンを押して決定します。



［フォルダー選択］を選んだ場合：

フォルダーを選んで OK ボタンを押すと、選んだフォルダー内の全ての RAW 画像を同じ設定で RAW 現像します。

6 ［RAW 現像］画面で各項目を設定する

- 次の項目を設定できます。
  - 画質モード（📖 99）
  - 画像サイズ（📖 101）
  - 露出補正（📖 129）
  - ホワイトバランス（📖 140）
  - ピクチャーコントロール（📖 168）
  - 色空間（📖 437）
  - アクティブ D-ライティング（📖 438）
  - 高感度ノイズ低減（📖 441）
  - ヴィネットコントロール（📖 442）
  - 回折補正（📖 443）
  - 人物印象調整（📖 446）
- ［**撮影時設定**］を選ぶと（項目によっては選べないことがあります）、それぞれの RAW 画像の撮影時の設定で RAW 現像します。
- 各項目を設定すると、編集画面に適用後のプレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（−2〜+ 2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。

7 RAW 現像する

- ［**現像**］を選んで ㊗ ボタンを押し、確認画面で［**はい**］を選んで ㊗ ボタンを押すと、JPEG 画像を保存します。
- RAW 現像の処理中に MENU ボタンを押し、確認画面で［**はい**］を選んで ㊗ ボタンを押すと、処理を中止します。

階調モードを［HLG］に設定して撮影した RAW 画像を現像する

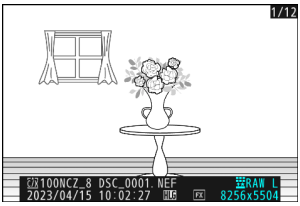
階調モードを［**HLG**］に設定して撮影した RAW 画像を現像すると、HEIF 画像に変換できます。

- 階調モードを［**HLG**］に設定して撮影した RAW 画像を JPEG 画像に変換することもできます（🕮 250）。JPEG 画像に変換すると、階調モードを［**SDR**］に設定して撮影した RAW 画像を JPEG 画像に現像する場合と比べて、画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

1 枚の RAW 画像を現像する

1 階調モードを［HLG］に設定して撮影した RAW 画像を選んで *i* ボタンを押す

HLG マークの付いた画像を選びます。



2 *i* メニューの［画像編集］で［RAW 現像（表示画像）］を選んで ⊛ を押す



3 保存先のスロットを選ぶ

- ◆ でスロットを選び、⊛ ボタンを押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。



4 ［RAW 現像（HEIF）］画面で各項目を設定する

- 次の項目を設定できます。
  - 画質モード（99）
  - 画像サイズ（101）
  - 露出補正（129）
  - ホワイトバランス（140）
  - ピクチャーコントロール（HLG）（433）
  - 高感度ノイズ低減（441）
  - ヴィネットコントロール（442）
  - 回折補正（443）
  - 人物印象調整（446）
  - RAW 現像（JPEG）へ移動
- 項目によってはプレビュー画像の下に撮影時の設定が表示されます。
- ［**撮影時設定**］を選ぶと（項目によっては選べないことがあります）、それぞれの RAW 画像の撮影時の設定で RAW 現像します。
- 各項目を設定すると、編集画面に適用後のプレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（−2〜+ 2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。
- ［**色空間**］は「BT.2100」に固定されます。
- ［**アクティブ D-ライティング**］は設定できません。

5 RAW 現像する

［**現像（HEIF 形式で保存）**］を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと HEIF 画像を保存します。

ヒント：HLG の階調モードで撮影した RAW 画像を JPEG 画像に現像する場合

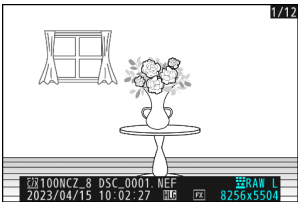
手順 4 で［**RAW 現像（JPEG）へ移動**］を選択すると、［**RAW 現像（JPEG）**］画面に切り替わり、JPEG 形式に変換する場合の項目を設定できます。［**現像（JPEG 形式で保存）**］を選んで ⓚ ボタンを押すと JPEG 形式への変換ができます。

- ［**RAW 現像（JPEG）**］画面から JPEG 画像を現像する場合、階調モードを［**SDR**］に設定して撮影した RAW 画像を JPEG 画像に現像する場合と比べて、露出が 2 段程度暗くなります。必要に応じて［**RAW 現像（JPEG）**］画面の［**露出補正**］で調整してください。
- ［**RAW 現像（JPEG）**］画面では［**ピクチャーコントロール（HLG）**］が［**ピクチャーコントロール**］に切り替わります。［**撮影時設定**］は設定できません。
- ［**色空間**］および［**アクティブ D-ライティング**］の設定が可能になります。［**アクティブ D-ライティング**］を設定すると、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- ［**RAW 現像（HEIF）**］画面に戻るには、［**RAW 現像（JPEG）**］画面で［**RAW 現像（HEIF）へ移動**］を選択してください。
- ［**RAW 現像（JPEG）**］画面または［**RAW 現像（HEIF）**］画面で設定した値は個別に記憶され、［**RAW 現像（HEIF）へ移動**］または［**RAW 現像（JPEG）へ移動**］で画面を切り換えたり、現像を行ったりしても維持されます。

複数の RAW 画像を現像する

1 階調モードを［HLG］に設定して撮影した RAW 画像を選んで i ボタンを押す

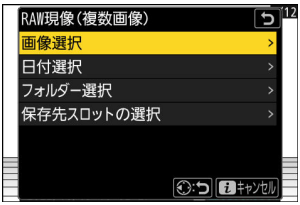
HLG マークの付いた画像を選びます。



2 i メニューの［画像編集］で［RAW 現像（複数画像）］を選んで ⓙ を押す



3 画像の選択方法および画像の保存先を選ぶ



項目	内容
［**画像選択**］	選んだ RAW 画像を RAW 現像します。複数の RAW 画像を選んで一括で RAW 現像することもできます。
［**日付選択**］	選択した日付に撮影した RAW 画像を一括で RAW 現像します。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内の RAW 画像を一括で RAW 現像します。
［**保存先スロットの選択**］	現像した画像を保存するスロットを選べます。メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

［**画像選択**］を選んだ場合は手順 5 にお進みください。

4 スロットを選択する



- RAW 現像したい画像が記録されているスロットを選んで ⊛ を押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

5 RAW 現像する画像を選ぶ

［画像選択］を選んだ場合：



- マルチセレクターで RAW 現像する画像を選びます。
- ⊕ ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ?（?）ボタンを押して設定します。設定するとチェックがオン ✓ になります。もう一度 ?（?）ボタンを押すと、オフ ◯ になります。選んだ全ての RAW 画像を同じ設定で RAW 現像します。
- ⊛ ボタンを押して決定します。

［日付選択］を選んだ場合：



- 日付を選んで ⊕ を押すと、チェックボックスのオン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。
- チェックボックスがオン ☑ になった日付の RAW 画像を同じ設定で RAW 現像します。
- ⊛ ボタンを押して決定します。

［フォルダー選択］を選んだ場合：

フォルダーを選んで ⊛ ボタンを押すと、選んだフォルダー内の全ての RAW 画像を同じ設定で RAW 現像します。



6 ［RAW 現像（HEIF）］画面で各項目を設定する

- 次の項目を設定できます。
  - 画質モード（99）
  - 画像サイズ（101）
  - 露出補正（129）
  - ホワイトバランス（140）
  - ピクチャーコントロール（HLG）（433）
  - 高感度ノイズ低減（441）
  - ヴィネットコントロール（442）
  - 回折補正（443）
  - 人物印象調整（446）
  - RAW 現像（JPEG）へ移動
- ［**撮影時設定**］を選ぶと（項目によっては選べないことがあります）、それぞれの RAW 画像の撮影時の設定で RAW 現像します。
- 各項目を設定すると、編集画面に適用後のプレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（−2〜+ 2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。
- ［**色空間**］は「BT.2100」に固定されます。
- ［**アクティブ D-ライティング**］は設定できません。

7 RAW 現像する

- ［**RAW 現像（HEIF）**］画面の場合は［**現像（HEIF 形式で保存）**］を選んで ㊗ ボタンを押すと HEIF 画像を保存します。
- RAW 現像の処理中に MENU ボタンを押し、確認画面で［**はい**］を選んで ㊗ ボタンを押すと、処理を中止します。

ヒント：HLG の階調モードで撮影した RAW 画像を JPEG 画像に現像する場合

手順 6 で［**RAW 現像（JPEG）へ移動**］を選択すると、［**RAW 現像（JPEG）**］画面に切り替わり、JPEG 形式に変換する場合の項目を設定できます。［**現像（JPEG 形式で保存）**］を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと JPEG 形式への変換ができます。

- ［**RAW 現像（JPEG）**］画面から JPEG 画像を現像する場合、階調モードを［**SDR**］に設定して撮影した RAW 画像を JPEG 画像に現像する場合と比べて、露出が 2 段程度暗くなります。必要に応じて［**RAW 現像（JPEG）**］画面の［**露出補正**］で調整してください。
- ［**RAW 現像（JPEG）**］画面では［**ピクチャーコントロール（HLG）**］が［**ピクチャーコントロール**］に切り替わります。［**撮影時設定**］は設定できません。
- ［**色空間**］および［**アクティブ D-ライティング**］の設定が可能になります。［**アクティブ D-ライティング**］を設定すると、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- ［**RAW 現像（HEIF）**］画面に戻るには、［**RAW 現像（JPEG）**］画面で［**RAW 現像（HEIF）へ移動**］を選択してください。
- ［**RAW 現像（JPEG）**］画面または［**RAW 現像（HEIF）**］画面で設定した値は個別に記憶され、［**RAW 現像（HEIF）へ移動**］または［**RAW 現像（JPEG）へ移動**］で画面を切り換えたり、現像を行ったりしても維持されます。

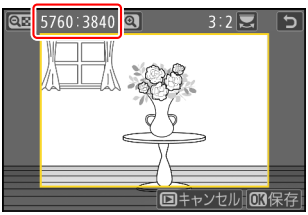
トリミング

画像の必要な部分だけを切り抜きます。編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

操作	内容
切り抜く範囲を変更する	ボタンまたは（**?**）ボタンを押して切り抜く範囲を変更できます。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する	メインコマンドダイヤルを回すと、切り抜く範囲のアスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する	マルチセレクターを押してトリミングで切り抜く範囲を移動します。
トリミングを実行して画像を保存する	ボタンを押すと、トリミングした画像が記録されます。

トリミング画像についてのご注意

- トリミング後の画像サイズによっては、拡大表示できなくなります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比（横：縦）により変わります。



リサイズ

サイズの小さい画像を作成します。表示している画像のみをリサイズする［**リサイズ（表示画像）**］と、複数の画像を一括でリサイズする［**リサイズ（複数画像）**］があります。

☑ リサイズ画像についてのご注意
リサイズ後の画像サイズによっては、拡大表示できなくなります。

☑ トリミングした画像のリサイズについて
アスペクト比を 4：3 または 3：4 に設定してトリミングした画像はリサイズできません。

リサイズ（表示画像）

1 i メニューの［画像編集］で［リサイズ（表示画像）］を選んで ▶ を押す



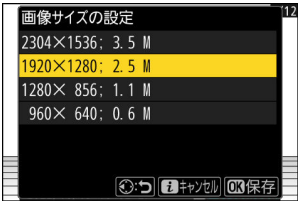
2 保存先のスロットを選ぶ

- ◆ でスロットを選び、OK ボタンを押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。



3 リサイズする画像サイズを選んで OK ボタンを押す

リサイズ画像が保存されます。



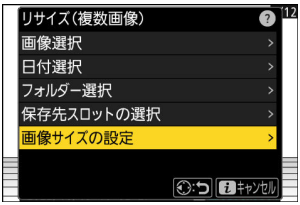
リサイズ（複数画像）

1 **i メニューの［画像編集］で［リサイズ（複数画像）］を選んで ▶ を押す**



2 **画像サイズを設定する**

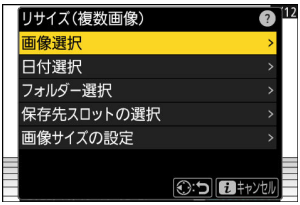
- ［**画像サイズの設定**］を選んで ▶ を押します。



- ▲▼ で画像サイズ（長辺のピクセル数）を選び、OK ボタンを押します。



3 画像の選択方法を選ぶ



項目	内容
［**画像選択**］	選んだ画像のリサイズ画像を作成します。複数の画像を選んで一括でリサイズすることもできます。
［**日付選択**］	選択した日付に撮影した画像を一括でリサイズします。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内の全ての画像を一括でリサイズします。

［**画像選択**］を選んだ場合は手順 5 にお進みください。

4 スロットを選択する



- リサイズしたい画像が記録されているスロットを選んで ⊛ を押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

5 リサイズする画像を選ぶ

［画像選択］を選んだ場合：



- マルチセレクターでリサイズする画像を選びます。
- Q ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- Q（**?**）ボタンを押して設定します。設定するとチェックがオン✓になります。もう一度 Q（**?**）ボタンを押すと、オフ◯になります。選んだ全ての画像を、手順 2 で設定した画像サイズにリサイズします。
- 画像を選択後、OK ボタンを押します。

［日付選択］を選んだ場合：

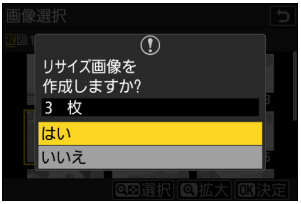


- 日付を選んで ▶ を押すと、チェックボックスのオン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。
- チェックボックスがオン ☑ になった日付の全ての画像を手順 2 で設定した画像サイズにリサイズします。
- 日付を選択後、OK ボタンを押します。

［フォルダー選択］を選んだ場合：

フォルダーを選んで OK ボタンを押すと、選んだフォルダー内の全ての画像を手順 2 で設定した画像サイズにリサイズします。

6 リサイズ画像を作成する



- 確認画面で［**はい**］を選んで OK ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。
- リサイズの処理中に MENU ボタンを押し、確認画面で［**はい**］を選んで OK ボタンを押すと、処理を中止します。

D-ライティング

画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

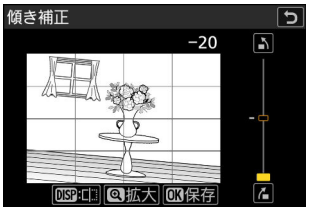
編集画面では、D-ライティング効果の適用後のプレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。

- マルチセレクターの ◔◒ を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- ⓞⓚ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



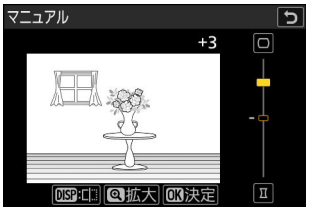
傾き補正

画像の傾きを±5°の範囲（約 0.25°ステップ）で補正できます。



- 編集画面では、傾き補正適用後のプレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの ◀▶ を押すと、傾きを補正できます。
- ⊛ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

ゆがみ補正



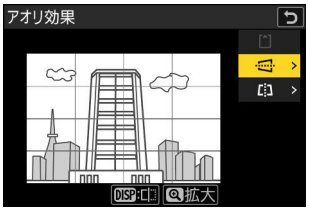
広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。

- カメラが画像のゆがみを自動的に判別できる画像の場合、［**オート**］と［**マニュアル**］が表示されます。［**オート**］を選ぶと画像のゆがみを自動的に補正します。
- カメラが画像のゆがみを自動的に判別できない画像の場合、［**マニュアル**］のみ表示されます。［**マニュアル**］では自分でゆがみを補正できます。
- ［**オート**］で補正を行った画像または静止画撮影メニュー［**自動ゆがみ補正**］で補正を行った画像の場合、［**マニュアル**］のみ選べます。
- ［**マニュアル**］の編集画面では、ゆがみ補正プレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。
- マルチセレクターの ◑ を押すと糸巻き型のゆがみを、◒ を押すとたる型のゆがみを補正できます。㊗ ボタンを押すと決定してゆがみ補正方法の選択画面に戻ります。
- ㊗ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

ゆがみ補正についてのご注意

補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

アオリ効果



高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを水平方向および垂直方向に補正します。

- 編集画面では、アオリ効果適用後のプレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- 水平方向に調節する場合、を選んで を押します。 を押すと画像の左辺が、 を押すと画像の右辺が拡大します。 ボタンを押すと決定してアオリ方向の選択画面に戻ります。
- 垂直方向に調節する場合、を選んで を押します。 を押すと画像の上辺が、 を押すと画像の下辺が拡大します。 ボタンを押すと決定してアオリ方向の選択画面に戻ります。
- ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



アオリ効果処理前



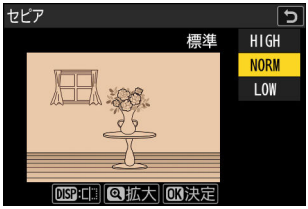
アオリ効果処理後

モノトーン

色調を選んでモノトーンの画像（1 種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

項目	内容
［**白黒**］	モノクロになります。
［**セピア**］	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
［**クール**］	ブルー系のモノトーンになります。

- 編集画面では、モノトーン適用後のプレビュー画像を表示します。**DISP** ボタンを押している間、元画像の状態を表示します。
- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合、▶ を押すと色の濃さを［**強め**］［**標準**］［**弱め**］から選べます。OK ボタンを押すと決定して色調選択画面に戻ります。
- OK ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



加算合成

メモリーカードに記録されている画像 2 コマを重ね合わせて 1 コマの画像に合成できます。



1 i メニューの［画像編集］で［加算合成］を選んで ▶ を押す



2 合成する画像を選ぶ

- マルチセレクターで合成する画像を選びます。
- 🔍 ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ?（?）ボタンを押して設定します。設定するとチェックがオン✓になります。もう一度 ?（?）ボタンを押すと、オフ◯になります。
- 1 コマ目と 2 コマ目の撮像範囲が異なる場合、画像は選択できません。
- 画像を 2 コマ選択後、OK ボタンを押します。



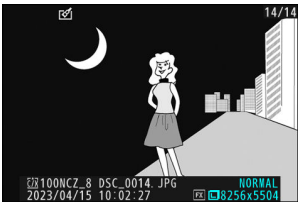
3 合成の比率を調節する

プレビュー欄に合成した画像が表示されます。◀▶ を押して合成の比率を調節できます。◀ を押すと 1 コマ目に選んだ画像の割合が、▶ を押すと 2 コマ目に選んだ画像の比率が強くなります。



4 合成画像を保存する

㊞ ボタンを押すと、合成画像が保存されます。



［加算合成］についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影した画像だけです。機種の異なるカメラで撮影した画像は選べません。
- 画像サイズの異なる画像を合成する場合、合成後の画像サイズは小さい方のサイズと同じになります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、１コマ目に選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

比較明合成、比較暗合成

複数の画像の最も明るい部分または暗い部分を重ね合わせて 1 コマの JPEG 画像に合成できます。

1 i メニューの［画像編集］で［比較明合成］または［比較暗合成］を選んで ⊛ を押す

- ［**比較明合成**］：撮影した各画像を比較し、最も明るい部分を選択して合成します。



- ［**比較暗合成**］：撮影した各画像を比較し、最も暗い部分を選択して合成します。



2 画像の選択方法を選ぶ

項目	内容
［**画像選択（個別指定）**］	個別に選んだ画像を合成します。
［**画像選択（範囲指定）**］	2 枚の画像を選択し、その間にある全ての画像を撮影時間順に合成します。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内の全ての画像を合成します。

3 スロットを選択する

- 合成したい画像が記録されているスロットを選んで ⊛ を押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

4 合成する画像を選ぶ

[画像選択（個別指定）]を選んだ場合：

- マルチセレクターで合成する画像を選びます。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- （**?**）ボタンを押して設定します。設定するとチェックがオン✓になります。もう一度（**?**）ボタンを押すと、オフ○になります。選んだ全ての画像を手順 1 の内容で合成します。
- 画像を選択後、OK ボタンを押します。

[画像選択（範囲指定）]を選んだ場合：

- マルチセレクターで合成する画像の範囲を設定すると、範囲内の全ての画像が手順 1 の内容で合成されます。
  - 範囲の始点および終点は、（**?**）ボタンを押して設定します。
  - 始点および終点の画像には✓が表示され、その間の画像には✓が表示されます。
  - 範囲を変更する場合は、マルチセレクターを操作して始点および終点を設定し直します。サブセレクターの中央を押すと、範囲の始点と終点を移動できます。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- 合成する画像の範囲を設定後、OK ボタンを押します。

[フォルダー選択]を選んだ場合：

フォルダーを選んで OK ボタンを押すと、選んだフォルダー内の全ての画像を手順 1 の内容で合成します。

5 合成画像を保存する

- 確認画面で［**はい**］を選んで OK ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。
- 画像合成の処理中に MENU ボタンを押し、確認画面で［**保存して終了**］を選んで OK ボタンを押すと、処理中の画像までの処理を実行して以降の処理を中止します。確認画面で［**保存せずに終了**］を選んで OK ボタンを押すと、処理を中止します。

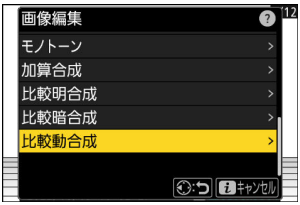
［比較明合成］および［比較暗合成］についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影した画像だけです。機種の異なるカメラで撮影した画像は選べません。
- 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］の設定が同じ画像のみ合成できます。
- 異なる画質モードで撮影した画像を合成した場合、合成画像の画質モードは一番高い画質で撮影された画像と同じになります。
- 合成する画像に RAW 画像が含まれる場合、合成画像の画質モードは［**FINE★**］になります。
- JPEG 画像と JPEG 画像を合成する場合、画像サイズが同じ場合のみ合成できます。
- 合成する枚数が増えるほど、合成後の画像でノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。
  - 合成前の元画像は、ピクチャーコントロールの［**輪郭強調**］の設定を 0 またはマイナス側に設定して撮影すると、合成後の画像で比較的ノイズが目立ちにくくなります。
  - ノイズが目立ちやすくなる画像枚数の目安は 50 枚以上です。

比較動合成

連続撮影した複数の画像の中から被写体が動いている部分をカメラが自動で判別して重ね合わせ、1 コマの JPEG 画像に合成できます。

1 i メニューの［画像編集］で［比較動合成］を選んで ▶ を押す



2 スロットを選択する

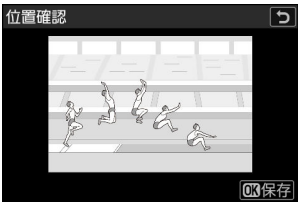
- 合成したい画像が記録されているスロットを選んで ▶ を押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

3 合成する画像を選ぶ



- マルチセレクターで合成する画像を選びます。
- 🔍 ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ? ボタンを押して設定します。設定するとチェックがオン✓になります。もう一度 ? ボタンを押すと、オフ◯になります。
- 合成できる画像のコマ数は、5 コマ～20 コマです。
- 画像を選択後、OK ボタンを押します。

4 合成位置を確認する

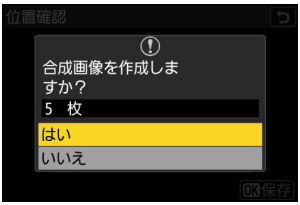


プレビュー欄に合成した画像が表示され、合成結果を確認できます。

- ↩ をタッチするか、マルチセレクターの ◀ を押すと手順 3 に戻って画像を選び直せます。
- OK ボタンを押すと確認画面が表示されます。

5 合成画像を保存する

確認画面で［**はい**］を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、合成画像が保存されます。



［比較動合成］についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方や合成結果が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影した画像だけです。機種の異なるカメラで撮影した画像は選べません。
- ［**比較動合成**］は、三脚を使用して連続撮影した画像（背景が固定で、被写体だけが動いている画像）を想定しています。このため、三脚を使用せずに連続撮影した画像で合成した場合、想定した結果にならないことがあります。
- 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］の設定が同じ画像のみ合成できます。
- 異なる画質モードで撮影した画像を合成した場合、合成画像の画質モードは一番高い画質で撮影された画像と同じになります。
- 合成する画像に RAW 画像が含まれる場合、合成画像の画質モードは［**FINE★**］になります。
- JPEG 画像と JPEG 画像を合成する場合、画像サイズが同じ場合のみ合成できます。

動画の編集

動画の編集機能について

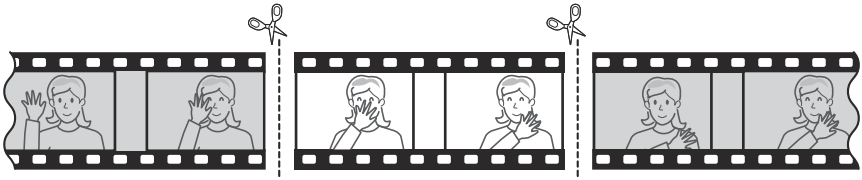
次の機能を使って撮影した動画を編集できます。

項目		内容
	［**動画編集（始点/終点設定）**］	動画の必要な部分だけを残します。
	［**表示中のフレームを保存**］	選択した 1 フレームを切り出して、JPEG 画像として保存します。
	［**フレームを連続保存**］	指定した秒数分のフレームを JPEG 画像として保存します。

- 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**H.265 8-bit（MOV）**］または［**H.264 8-bit（MP4）**］に設定して撮影した動画のみ編集できます。

動画編集（始点/終点設定）

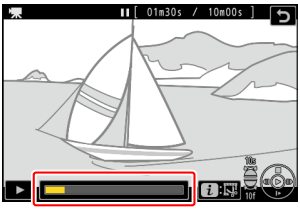
動画の必要な部分だけを残すことができます。



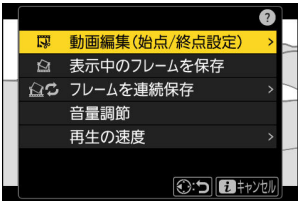
1 **1 コマ表示モードで編集したい動画を表示する**

2 **残したい範囲の冒頭部分（始点）で動画を一時停止する**

- ⓚ ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの ⓓ を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- ⓛⓡ やコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。

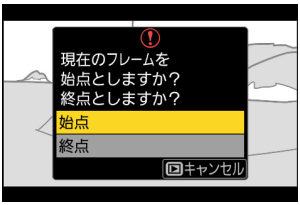


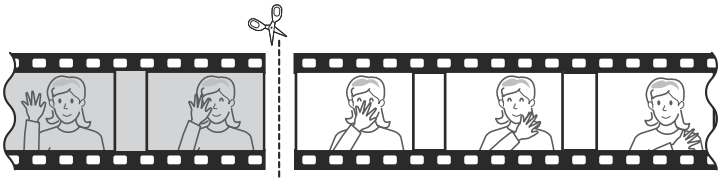
3 **i ボタンを押して［動画編集（始点/終点設定）］を選んで ⓡ を押す**



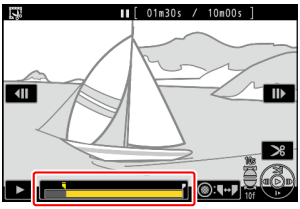
4 始点を選ぶ

［**始点**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、そこから後ろの部分が残ります。





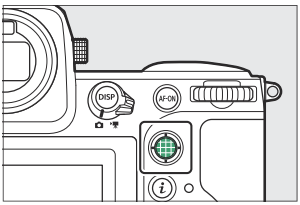
5 手順 4 で選んだ位置を調整する

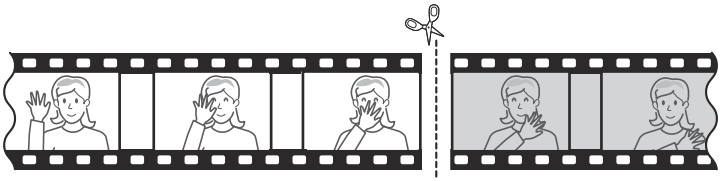


- ◀▶ を押すと、残したい部分の最初の位置を 1 フレーム単位で調整します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、10 フレーム前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、10 秒前または後に移動します。

6 残したい範囲の末尾の部分（終点）を選ぶ

サブセレクターの中央を押して ▮（終点）に切り換え、手順 5 と同じ手順で ▮（終点）の位置を調整します。





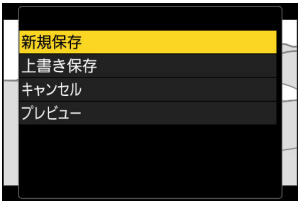
7 ⓚ を押して決定する

8 保存する動画を確認する



- [**プレビュー**] を選んで ⓚ ボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには ⮉ を押します）。
- [**キャンセル**] を選んで ⓚ ボタンを押すと、手順 5 の画面に戻ります。

9 動画ファイルの保存方法を選ぶ



[**新規保存**] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[**上書き保存**] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。

10 動画ファイルを保存する

ⓚ ボタンを押します。

動画編集時のご注意

- メモリーカードに充分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [**動画編集（始点/終点設定）**] では、2 秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

ヒント：動画の前半または後半だけを残すには

- 動画の前半だけを残したい場合は、手順 4 で [**終点**] を選んで ⓚ ボタンを押してから、手順 6 ではサブセレクターの中央を押さずに手順 7 に進みます。
- 動画の後半だけを残したい場合は、手順 6 でサブセレクターの中央を押さずに手順 7 に進みます。

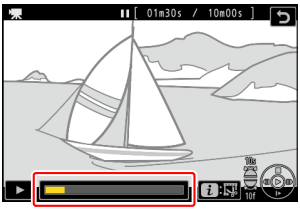
ヒント：再生時の i メニュー［動画編集（始点/終点設定）］について

動画の切り出しおよび保存は、再生時の i メニュー［**動画編集（始点/終点設定）**］でも行えます。

表示中のフレームを保存

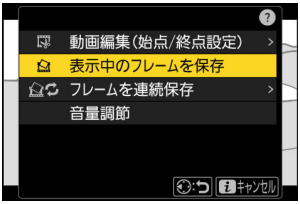
撮影した動画のフレームを静止画として保存できます。1 フレームずつ保存する方法と、設定した起点から指定した秒数分のフレームを一度に保存する方法があります。

1 保存したい位置で動画を一時停止する



- 動画の再生中にマルチセレクターの ⓒ を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- ◀▶ やコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。

2 i ボタンを押して［表示中のフレームを保存］を選ぶ



ⓚ ボタンを押すと JPEG の画像として保存します。

［表示中のフレームを保存］で作成した画像について

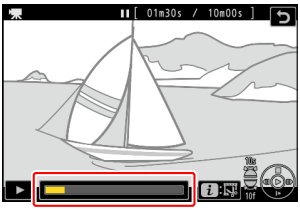
- 動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］で設定した画像サイズで記録されます。
- 画像編集はできません。

フレームを連続保存

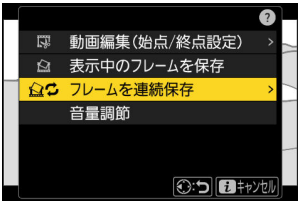
指定した秒数分のフレームを保存できます。

1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセレクターの ▼ を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- ◀▶ やコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。



2 i ボタンを押して［フレームを連続保存］を選んで ▶ を押す



3 保存先のスロットを選ぶ

- 静止画を保存するスロットを選びます。
- ▲▼ でスロットを選び、Ⓚ ボタンを押します。
- メモリーカードが 1 枚しか入っていない場合はスロットを選べません。



4 保存する時間を選ぶ

現在のコマから何秒間分のフレームを切り出すかを設定できます。



5 **㊞ ボタンを押す**

JPEG の画像が保存されます。保存される静止画の枚数は動画のフレームレートにより異なります。

［フレームを連続保存］で作成した画像について

- 動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］で設定した画像サイズで記録されます。
- 画像編集はできません。

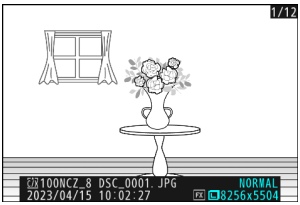
音声メモ

音声メモを録音する

撮影した画像に、最長で約 60 秒の音声メモを録音できます。

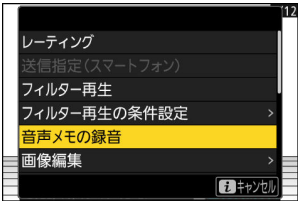
1 音声メモを録音する画像を選ぶ

画像の再生時は、すでに音声メモが録音されている画像（🎙 アイコンが表示されている画像）に対して音声メモを録音することができません。音声メモを削除してから録音してください（📖 281）。



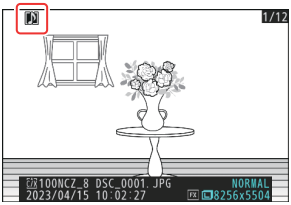
2 i メニューで［音声メモの録音］を選ぶ

- i ボタンを押して、［**音声メモの録音**］を選んで OK ボタンを押すと音声メモの録音を開始します。
- 音声メモ録音中は、画像上に 🎤 アイコンと録音可能な残り時間のカウントダウンが秒単位で表示されます。



3 OK ボタンを押す

- 録音を終了します。
- 音声メモが録音された画像には 🎙 アイコンが表示されます。



音声メモが録音できない画像について

動画およびイメージダストオフデータには音声メモを録音できません。

音声メモ録音の制限について

次の場合は、音声メモは録音できません。

- 静止画/動画セレクターを 🎥 に合わせている場合
- 多重露出撮影中

録音時のご注意

音声メモの録音中は、表示する画像の切り換えやタッチ操作が無効になります。

音声メモの録音終了について

音声メモの録音中にカメラのシャッターボタンやその他のボタンを操作すると、録音が自動的に終了することがあります。また、電源を OFF にしたときや、インターバルタイマー撮影中に撮影時刻の約 2 秒前になったときも音声メモの録音を終了します。

音声メモの録音先について

メモリーカードを 2 枚使用しており、静止画撮影メニューの［**副スロットの機能**］が［**バックアップ記録**］、［**RAW+JPEG 分割記録**］、［**JPEG+JPEG 分割記録**］、［**RAW+HEIF 分割記録**］、［**HEIF+HEIF 分割記録**］の場合、音声メモは両方のスロットの画像に記録されます。

音声メモのファイル名について

音声メモを録音すると、DSC_nnnn.WAV という名称の音声ファイルが作成されます。nnnn には対応する画像ファイルの名称と同じ数字が入ります。たとえば、DSC_0002.JPG という画像ファイルに音声メモを録音した場合、DSC_0002.WAV という名称の音声ファイルが作成されます。音声ファイル名はパソコンで確認することができます。

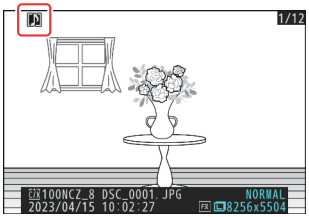
- 静止画撮影メニューの［**色空間**］で［**Adobe RGB**］に設定して撮影した画像の場合、音声ファイル名は_DSCnnnn.WAV になります。
- 静止画撮影メニューの［**ファイル名設定**］でファイル名の「DSC」の 3 文字を変更して撮影した画像の場合、音声ファイルの「DSC」の 3 文字も同様に変更されます。

ヒント：ボタン操作で音声メモを録音する

カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能（再生）**］で［**音声メモ**］を割り当てたボタンを操作して録音することもできます。

音声メモを再生する

画像の再生時に 🎙 アイコンの付いた画像を選んで i ボタンを押し、［**音声メモの再生**］を選んで OK ボタンを押すと音声メモを再生できます。



音声メモの再生終了について

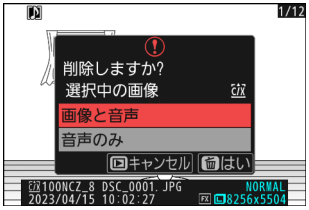
音声メモの再生中にカメラのシャッターボタンやその他のボタンを操作すると、再生が自動的に終了することがあります。また、電源を OFF にしたときや、他の画像を選んだときも音声メモの再生を終了します。

ヒント：ボタン操作で音声メモを再生する

カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能（再生）**］で［**音声メモ**］を割り当てたボタンを押しても再生できます。もう一度ボタンを押すと再生を終了します。

音声メモを削除する

音声メモを削除する場合は、再生画面で 🗑（FORMAT）ボタンを押すと図のような音声メモ付き画像の削除確認画面が表示されます。

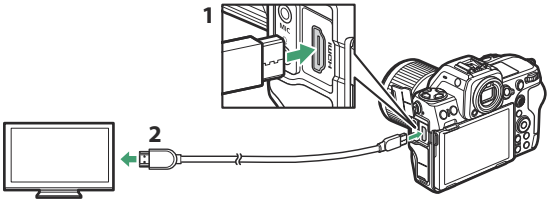


- ［**画像と音声**］を選んで 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像と音声メモを削除します。
- ［**音声のみ**］を選んで 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、音声メモのみを削除します。
- 削除確認画面の表示中に ▶ ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルして、再生画面に戻ります。
- 同時記録された画像の場合、削除画面で［**選択中の画像**］を選んでから［**音声のみ**］を選ぶと、一方のスロットの画像から音声メモのみ削除できます。

HDMI 機器（テレビや外部レコーダー）との接続

HDMI 対応機器との接続方法

カメラを HDMI 端子のあるテレビや外部レコーダーなどと接続することができます。接続には、市販の HDMI 端子用ケーブル（Type A）が必要です。別途お買い求めください。HDMI ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源を OFF にしてください。



1 HDMI 端子（カメラ側）
2 HDMI 端子※（外部機器側）

※ 使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

テレビと接続する

- テレビの入力を HDMI 入力に切り換え、カメラの電源を ON にして ▶ ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。
- カメラと SnapBridge アプリをインストールしたスマートフォンをペアリングしておくと、テレビの画面に表示した画像の再生操作をスマートフォンで行うことができます。詳しくは、SnapBridge アプリのヘルプをご覧ください。
- 8K 映像入力に対応したテレビに接続する場合、HDMI 2.1 に対応した HDMI 入力端子にカメラを接続してください。

Wi-Fi 接続と HDMI 出力を同時に行う場合のご注意

カメラと外部機器を Wi-Fi 接続しているときに HDMI 出力する場合、次の画像サイズ/フレームレートより低い値で出力されるか、HDMI 出力されません。

- 4320/30p、4320/25p、4320/24p
- 2160/120p、2160/100p、2160/60p、2160/50p

また、上記の画像サイズ/フレームレートで HDMI 出力しているときに Wi-Fi 接続を開始した場合、上記の画像サイズ/フレームレートより低い値で出力されるか、HDMI 出力が停止します。

HDMI 出力しながら動画を再生または編集しているときに Wi-Fi 接続する場合のご注意

外部機器に HDMI 出力して動画を再生または編集しているときに Wi-Fi 接続を開始すると、出力している画像サイズ/フレームレートによっては動画の再生または編集が終了する場合があります。

外部レコーダーと接続する

動画モード時に HDMI に対応した外部レコーダーに接続すると、直接 HDMI 機器で録画することもできます。

- 外部レコーダー接続時にカメラにメモリーカードを挿入している場合、動画は外部レコーダーとメモリーカード両方に記録されます。メモリーカードを挿入していない場合、外部レコーダーのみに記録されます。

☑ Wi-Fi 接続と HDMI 出力を同時に行う場合のご注意

カメラと外部機器を Wi-Fi 接続しているときに HDMI 出力する場合、次の画像サイズ/フレームレートより低い値で出力されるか、HDMI 出力されません。

- 4320/30p、4320/25p、4320/24p
- 2160/120p、2160/100p、2160/60p、2160/50p

また、上記の画像サイズ/フレームレートで HDMI 出力しているときに Wi-Fi 接続を開始した場合、上記の画像サイズ/フレームレートより低い値で出力されるか、HDMI 出力が停止します。

☑ HDMI 出力しながら動画を再生または編集しているときに Wi-Fi 接続する場合のご注意

外部機器に HDMI 出力して動画を再生または編集しているときに Wi-Fi 接続を開始すると、出力している画像サイズ/フレームレートによっては動画の再生または編集が終了する場合があります。

HDMI 外部機器接続時の設定を変更する

セットアップメニュー［**HDMI**］で、HDMI 対応機器との接続時の設定を変更できます。

項目	内容
［**出力解像度**］	HDMI 対応機器への出力解像度を［**オート**］、［**4320p（プログレッシブ）**］、［**2160p（プログレッシブ）**］、［**1080p（プログレッシブ）**］、［**1080i（インターレース）**］※、［**720p（プログレッシブ）**］から選べます。
［**出力レンジ**］	ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGB レンジ）は、HDMI 対応機器によって異なります。通常は、HDMI 対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える［**オート**］をお使いください。HDMI 対応機器の RGB レンジを識別できない場合は、次のいずれかを選んでください。 • ［**リミテッドレンジ**］: RGB レンジが 16～235 の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。 • ［**フルレンジ**］: RGB レンジが 0～255 の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。
［**出力映像への情報表示**］	HDMI 対応機器に撮影情報を表示するかどうかを設定します。［**ON**］に設定して外部レコーダーで動画を記録した場合、アイコンなどの撮影情報も一緒に記録されます。
［**出力中のカメラ側表示**］	HDMI 対応機器との接続時に、カメラの画像モニターを表示させるかどうかを設定します。 • ［**OFF**］に設定すると画像モニターが表示されないため、カメラのバッテリーの消耗を抑えられます。 • ［**出力映像への情報表示**］が［**OFF**］の場合、［**出力中のカメラ側表示**］の設定は［**ON**］固定になります。

※［**出力解像度**］を［**オート**］に設定している場合、外部レコーダーが対応していても 1080i では出力されません。インターレース方式で出力したい場合は［**1080i（インターレース）**］に設定してください。

［出力解像度］について

- セットアップメニュー［**HDMI**］>［**出力解像度**］を［**オート**］に設定すると、カメラが設定している画像サイズおよびフレームレートに外部レコーダーが対応しているかどうかを自動的に検出します。対応していない場合、カメラは次の表の順に外部レコーダーが対応している解像度/フレームレートを探して出力します。いずれの解像度/フレームレートにも外部レコーダーが対応していない場合、何も出力されません。

  - **カメラにメモリーカードが入っていない場合：**

画像サイズ/フレームレート	外部レコーダーに出力される解像度/フレームレートの順番
［**7680×4320 30p**］	4320/30p → 2160/30p → 1080/30p
［**7680×4320 25p**］	4320/25p → 2160/25p → 1080/25p
［**7680×4320 24p**］	4320/24p → 2160/24p → 1080/24p
［**3840×2160 120p**］	2160/120p → 1080/120p → 2160/60p → 1080/60p → 2160/30p → 1080/30p
［**3840×2160 100p**］	2160/100p → 1080/100p → 2160/50p → 1080/50p → 2160/25p → 1080/25p
［**3840×2160 60p**］	2160/60p → 1080/60p → 2160/30p → 1080/30p
［**3840×2160 50p**］	2160/50p → 1080/50p → 2160/25p → 1080/25p
［**3840×2160 30p**］	2160/30p → 1080/30p
［**3840×2160 25p**］	2160/25p → 1080/25p
［**3840×2160 24p**］	2160/24p → 1080/24p
［**1920×1080 120p**］	1080/120p → 1080/60p → 1080/30p
［**1920×1080 100p**］	1080/100p → 1080/50p → 1080/25p
［**1920×1080 60p**］	1080/60p → 1080/30p
［**1920×1080 50p**］	1080/50p → 1080/25p
［**1920×1080 30p**］	1080/30p

画像サイズ/フレームレート	外部レコーダーに出力される解像度/フレームレートの順番
［**1920×1080 25p**］	1080/25p
［**1920×1080 24p**］	1080/24p

- **カメラにメモリーカードが入っている場合：**

画像サイズ/フレームレート	外部レコーダーに出力される解像度/フレームレートの順番
［**7680×4320 30p**］	1080/30p
［**7680×4320 25p**］	1080/25p
［**7680×4320 24p**］	1080/24p
［**3840×2160 120p**］	1080/60p → 1080/30p
［**3840×2160 100p**］	1080/50p → 1080/25p
［**3840×2160 60p**］～［**1920×1080 24p**］	カメラにメモリーカードが入っていない場合と同様

- セットアップメニュー［**HDMI**］>［**出力解像度**］を［**オート**］以外に設定すると、設定した出力解像度で外部レコーダーに出力されます。次の場合は HDMI 出力されません。
  - 撮影する動画の画像サイズよりも高い出力解像度を選んでいる場合
  - 設定した出力解像度に外部レコーダーが対応していない場合
- 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**N-RAW 12-bit（NEV）**］または［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］を選んでいる場合、出力解像度はセットアップメニュー［**HDMI**］>［**出力解像度**］の設定にかかわらず最大 1920×1080 になります。

［出力解像度］を［オート］以外に設定した場合のフレームレートについて

撮影する動画のフレームレートを 120p、100p、60p、50p に設定している場合に、外部レコーダーが設定しているフレームレートに対応していないときは次の通りに変更して出力します。

- 120p の場合はまず 60p に変更します。60p にも対応していない場合は 30p に変更します。
- 100p の場合はまず 50p に変更します。50p にも対応していない場合には 25p に変更します。
- 60p の場合は 30p に変更します。
- 50p の場合は 25p に変更します。

［出力解像度］で［1080i（インターレース）］を設定した場合のフレームレートについて

撮影する動画のフレームレートを 120p、60p、30p、24p に設定している場合、常に 60i で出力されます。100p、50p および 25p に設定している場合、常に 50i で出力されます。

［出力解像度］で［720p（プログレッシブ）］を設定した場合のフレームレートについて

撮影する動画のフレームレートを 120p、60p、30p、24p に設定している場合、常に 60p で出力されます。100p、50p および 25p に設定している場合、常に 50p で出力されます。

カメラにメモリーカードが入っている場合のご注意

セットアップメニュー［**HDMI**］>［**出力解像度**］を［**4320p（プログレッシブ）**］または［**2160p（プログレッシブ）**］に設定している場合、撮影する動画の画像サイズを 7680×4320 または画像サイズ/フレームレートを 3840×2160 120p、3840×2160 100p にすると HDMI 出力されません。メモリーカードを取り出し、外部レコーダーで記録してください。

拡大表示について

- 動画記録中に ボタンを押すと、カメラの撮影画面は拡大表示されますが、外部レコーダーに HDMI 出力した映像は拡大表示されません。
- 動画記録待機中に ボタンを押すと、カメラの撮影画面および外部レコーダーに HDMI 出力した映像ともに拡大表示されます。ただし外部レコーダーの映像は、セットアップメニュー［**HDMI**］>［**出力解像度**］を［**4320p（プログレッシブ）**］または［**2160p（プログレッシブ）**］に設定していても、［**1080p（プログレッシブ）**］に切り替わって出力されます。

HDMI 外部機器接続時の YCbCr および出力ビット数について

動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］や［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によって外部機器に出力される YCbCr およびビット数が次のようになります。

動画記録ファイル形式	画像サイズ/フレームレート	YCbCr および出力ビット数
N-RAW 12-bit（NEV）	8256×4644	• 動画記録中または動画記録待機中：4:2:2 10-bit • 動画再生中：4:2:2 8-bit
	4128×2322	
	5392×3032	
	3840×2160	
ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）	4128×2322	• 動画記録中または動画記録待機中：4:2:2 10-bit • 動画再生中：4:2:2 8-bit
	5392×3032	
	3840×2160	
ProRes 422 HQ 10-bit（MOV）	3840×2160	4:2:2 10-bit
	1920×1080	
H.265 10-bit（MOV）	7680×4320	4:2:0 10-bit
	3840×2160 120p/100p	
	3840×2160 60p/50p/30p/25p/24p	4:2:2 10-bit
	1920×1080	

動画記録ファイル形式	画像サイズ/フレームレート	YCbCr および出力ビット数
H.265 8-bit（MOV）	7680×4320	4:2:0 8-bit
	3840×2160 120p/100p	
	3840×2160 60p/50p/30p/25p/24p	4:2:2 8-bit
	1920×1080	
H.264 8-bit（MP4）	1920×1080	4:2:2 8-bit

10 ビットの外部レコーダーへの伝送について
接続している外部レコーダーが 10 ビットに対応している場合のみ、10 ビットでの伝送が可能です。

HDMI 外部機器接続時の階調モードについて

階調モードは動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で設定したモードで出力されます。［**HLG**］に設定している場合、HDR（HLG）に対応した環境が必要です。

外部レコーダーをカメラから操作する

動画撮影メニュー［**外部記録制御（HDMI）**］を［**ON**］に設定すると、カメラ側の操作に連動して外部レコーダーの録画の開始および終了を行えます。

- お使いの外部レコーダーが対応しているかどうかは、外部レコーダーのメーカーにお問い合わせください。
- カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］で設定した時間が経過すると、画像モニターが自動的に消灯して外部レコーダーにも映像が送られなくなります。［**半押しタイマー**］の設定は、動画を撮影する時間よりも長い時間を設定するか、［**制限なし**］にすることをおすすめします。
- ［**ON**］に設定すると、カメラの画像モニターにアイコン（動画記録待機中：⊡STBY、動画記録中：⊡REC）が表示されます。動画を記録するときは、外部レコーダーの表示や、外部レコーダーで動画が記録されていることをご確認ください。
- ［**ON**］に設定すると、テレビなどに外部出力している場合に画像が乱れることがあります。

スマートフォンとの接続

SnapBridge アプリについて

SnapBridge アプリを使用すると、カメラとスマートフォンを無線で接続できます。

- SnapBridge アプリは Apple App Store® または Google Play™ でダウンロードできます。

- SnapBridge アプリの最新情報については当社ホームページでご確認ください。
- SnapBridge アプリを起動した後に使用許諾などの同意を求める画面が表示された場合は、内容をよくお読みになり、ご同意の上、次にお進みください。

SnapBridge アプリを使ってできること

SnapBridge アプリを使用すると、次のようなことが行えます。詳しい使い方などは、アプリのヘルプをご覧ください。

https://nikonimglib.com/snbr/onlinehelp/ja/index.html

スマートフォンに画像を転送する

カメラで撮影した画像を、スマートフォンに転送できます。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。

スマートフォンからカメラを操作する（リモート撮影）

スマートフォンからカメラをリモート操作して撮影できます。

スマートフォンと接続できない場合

次のことをお試しください。

- カメラとスマートフォンの電源を入れ直す
- スマートフォンの無線機能の設定を確認する

スマートフォンと無線接続するには

カメラとスマートフォンを無線接続するには、SnapBridge アプリを使用します。接続方法には、Bluetooth で接続する方法（🕮 292）と、Wi-Fi で接続する方法（🕮 295）があります。Bluetooth で無線接続した場合、撮影した画像を自動で転送することもできます。

Bluetooth 接続（ペアリング）

カメラとスマートフォンを初めて Bluetooth で接続する場合、ペアリングを行う必要があります。

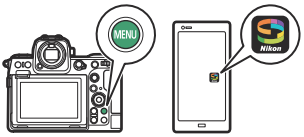
ペアリングの前に

- あらかじめスマートフォンの Bluetooth 機能を ON にしてください。詳しくはスマートフォンの使用説明書を参照してください。
- 途中で電源が切れないよう、スマートフォンとカメラのどちらも充分にバッテリー残量がある状態でご使用ください。
- カメラに残量のあるメモリーカードを入れてください。

ペアリング方法

SnapBridge アプリを使ってカメラとスマートフォンをペアリングするには、次の手順で行います。

- カメラとスマートフォンのそれぞれで操作を行います。

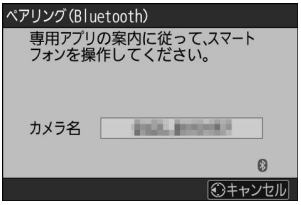


- SnapBridge アプリのヘルプもあわせてご覧ください。

1 カメラ：ネットワークメニュー［スマートフォンと接続］>［ペアリング（Bluetooth）］で［ペアリング開始］を選んで ⓚ ボタンを押す



画像モニターにカメラ名が表示されます。



2 スマートフォン：SnapBridge アプリを起動し、タブの［カメラと接続する］をタップする

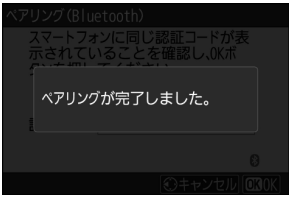
SnapBridge アプリをダウンロード後に初めて起動する場合は、アプリの紹介画面にある［**カメラと接続する**］をタップします。

3 スマートフォン：アプリ画面の指示に従って操作する

- カメラのカテゴリー選択画面が表示されたら、接続するカメラのカテゴリーをタップし、次に表示される接続方法の選択画面でペアリングをタップしてください。
- カメラ名が表示されたら、接続したいカメラのカメラ名をタップしてください。

4 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンに同じ番号が表示されたら、それぞれの画面の指示に従ってカメラとスマートフォンを操作し、ペアリングする

- スマートフォンはペアリングを行うためのボタンをタップし、カメラは ⓞⓚ ボタンを押してください。
- ペアリングに成功すると、ペアリング完了のメッセージがカメラとスマートフォンにそれぞれ表示されます。カメラ側は自動でメッセージが消えて、メニュー画面に戻ります。



カメラとスマートフォンのペアリングは完了しました。

ペアリング後の操作方法などは SnapBridge アプリのヘルプをご覧ください。

ペアリング中にエラーが表示されたときは

手順 4 でカメラまたはスマートフォンのボタンを押してから、もう片方のボタンを押すまでに時間が開きすぎると、ペアリングできずにスマートフォンにエラーが表示されます。

- Android の場合、表示されたダイアログで［**OK**］をタップして、手順 1 からやり直してください。
- iOS の場合、SnapBridge を完全に終了（バックグラウンドからも終了）して iOS 上でデバイスの登録を解除し、手順 1 からやり直してください。デバイスの登録解除は、iOS の設定アプリで行います。



Bluetooth 機能をオフにするには

カメラのネットワークメニュー［**スマートフォンと接続**］>［**ペアリング（Bluetooth）**］>［**Bluetooth 通信機能**］で［**OFF**］を選ぶと、Bluetooth 機能をオフにできます。

ペアリング済みのスマートフォンと接続する場合

一度カメラとスマートフォンをペアリングしておくと、次回以降はカメラとスマートフォンの Bluetooth 機能をそれぞれ有効にした状態で SnapBridge アプリを起動するだけで、通信が可能になります。

Wi-Fi モード（Wi-Fi で接続）

Bluetooth によるペアリングを行わずにカメラとスマートフォンを直接 Wi-Fi 接続できるモードです。

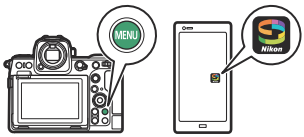
Wi-Fi モードで接続する前に

- あらかじめスマートフォンの Wi-Fi 機能を ON にしてください。詳しくはスマートフォンの使用説明書を参照してください。
- 途中で電源が切れないよう、スマートフォンとカメラのどちらも充分にバッテリー残量がある状態でご使用ください。
- カメラに残量のあるメモリーカードを入れてください。

接続方法

SnapBridge アプリを使ってカメラとスマートフォンを Wi-Fi モードで接続するには、次の手順で行います。

- カメラとスマートフォンのそれぞれで操作を行います。



- SnapBridge アプリのヘルプもあわせてご覧ください。

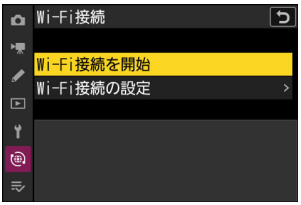
1 スマートフォン：SnapBridge アプリを起動し、タブのボタンをタップして［Wi-Fi mode］を選ぶ

SnapBridge アプリをダウンロード後に初めて起動する場合は、アプリの紹介画面にある［**カメラと接続する**］をタップします。カメラのカテゴリー選択画面が表示されたら、接続するカメラのカテゴリーをタップし、次に表示される接続方法の選択画面で Wi-Fi 接続をタップしてください。

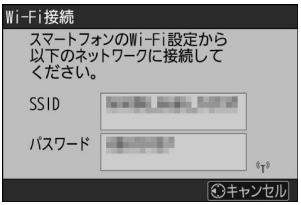
2 カメラ/スマートフォン：カメラ操作の説明画面が表示されたら、カメラの電源を ON にする

この時点ではまだアプリの操作を行わないでください。

3 カメラ：ネットワークメニュー［スマートフォンと接続］>［Wi-Fi 接続］で［Wi-Fi 接続を開始］を選んで Ⓚ ボタンを押す



SSID とパスワードが表示されます。



4 スマートフォン：アプリ画面の指示に従ってスマートフォンを操作し、Wi-Fi 接続する

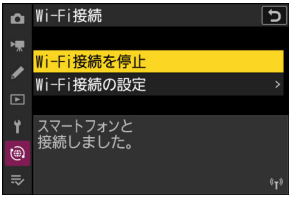
- iOS の場合、設定アプリが表示されます。［< **設定**］をタップして［**設定**］画面へ移動し、画面上部の［**Wi-Fi**］をタップして、Wi-Fi 接続の操作を行ってください。



- Wi-Fi 接続画面では、手順 3 でカメラに表示されている SSID を選び、パスワードを入力してください。

5 スマートフォン：手順 4 で OS の設定を完了したら、手動で SnapBridge アプリに戻る

- スマートフォンとカメラの Wi-Fi 接続が完了すると、スマートフォンに Wi-Fi モード画面が表示されます。
- カメラの画像モニターには接続完了のメッセージが表示されます。



カメラとスマートフォンの Wi-Fi 接続は完了しました。

接続後の操作方法などは SnapBridge アプリのヘルプをご覧ください。

Wi-Fi モードの解除方法

SnapBridge アプリの タブで ボタンをタップして、Wi-Fi 接続を解除してください。表示が に切り替わったら、 ボタンをタップして［**Wi-Fi mode の解除**］をタップします。

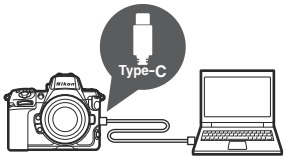
パソコンや FTP サーバーとの接続

カメラをパソコンや FTP サーバーに接続するには

カメラをパソコンや FTP サーバーに接続するには次の方法があります。

USB ケーブルでパソコンと接続する

カメラとパソコンを USB ケーブルで接続し、パソコン用のソフトウェア NX Studio を使用してパソコンに画像を転送できます（📖 300）。



- 別売の Camera Control Pro 2 または無料の NX Tether を使用して、パソコンからカメラをリモート操作することもできます。

無線 LAN でパソコンと接続する

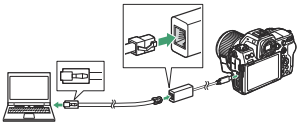
カメラ内蔵の無線 LAN 機能を使用して、カメラとパソコンを接続できます（📖 304）。



- カメラからパソコンに画像を転送すること（📖 349）や、別売の Camera Control Pro 2 または無料の NX Tether を使用してパソコンからカメラをネットワーク経由でリモート操作すること（📖 353）ができます。

有線 LAN でパソコンと接続する

市販の USB Type-C 端子の USB-LAN 変換アダプターを使用すると、有線 LAN でカメラとパソコンを接続できます（📖 318）。



- カメラからパソコンに画像を転送すること（📖 349）や、別売の Camera Control Pro 2 または無料の NX Tether を使用してパソコンからカメラをネットワーク経由でリモート操作すること（📖 353）ができます。

無線 LAN で FTP サーバーと接続する

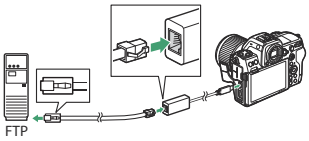
カメラ内蔵の無線 LAN 機能を使用して、カメラと FTP サーバーを接続できます（🕮 325）。



- カメラから FTP サーバーに画像を転送すること（🕮 349）ができます。

有線 LAN で FTP サーバーと接続する

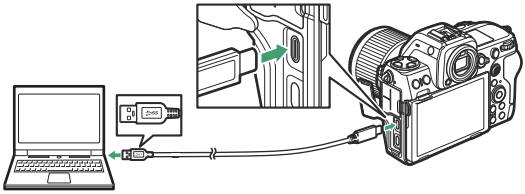
市販の USB Type-C 端子の USB-LAN 変換アダプターを使用すると、有線 LAN でカメラと FTP サーバーを接続できます（🕮 341）。



- カメラから FTP サーバーに画像を転送すること（🕮 349）ができます。

USB ケーブルでパソコンと接続する

付属の USB ケーブルでカメラとパソコンを接続できます。ニコンのソフトウェア NX Studio をインストールすると、画像の転送、閲覧、および調整ができます。



NX Studio をインストールする

NX Studio のインストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

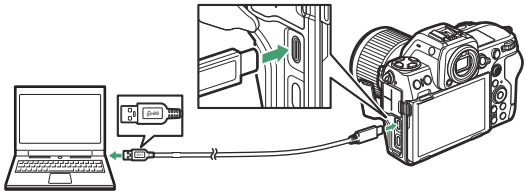
- 下記のホームページから NX Studio の最新のインストーラーをダウンロードし、画面の指示に従ってインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/
- 最新のバージョンではない場合、カメラの画像が転送できないことがあります。

NX Studio を使ってパソコンに画像を取り込む

NX Studio の詳しい使い方はヘルプをご覧ください。

1 パソコンに接続する

メモリーカードを入れたカメラの電源を OFF にしてから、付属の USB ケーブルでカメラとパソコンを接続します。USB ケーブルはカメラの USB 通信専用端子に接続してください。USB 充給電専用端子に接続すると、パソコンがカメラを認識しません。



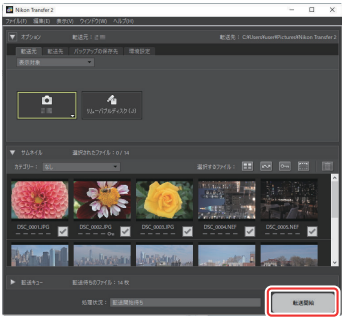
ヒント：カードリーダーをパソコンに接続して使用する場合

市販のカードリーダーを使用してパソコンに画像を転送することもできます。その場合、カードリーダーがお使いのメモリーカードに対応しているかご確認ください。

2 カメラの電源を ON にする

- NX Studio の Nikon Transfer 2 が起動します。Nikon Transfer 2 は、NX Studio をインストールすると一緒にインストールされる画像転送ソフトウェアです。
- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2 を選んでください。
- 自動で起動しない場合、NX Studio を起動して「取り込む」アイコンをクリックしてください。

3 ［転送開始］をクリックする



記録されている画像がパソコンに取り込まれます。

4 カメラの電源を OFF にする

USB ケーブルを抜いて接続を解除してください。

Windows をお使いの場合

パソコンの設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。



この場合は、表示されたダイアログをクリックしてから、［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2**］をクリックして Nikon Transfer 2 を選びます。



macOS をお使いの場合

Nikon Transfer 2 が自動起動しないときは、カメラとパソコンを接続した状態で、macOS 付属アプリケーションのイメージキャプチャを起動し、カメラを接続時に開くアプリケーションとして Nikon Transfer 2 を設定してください。

動画を転送する場合のご注意

このカメラで使用したメモリーカードを他機種のカメラに入れて、そのカメラから動画を転送しないでください。動画が転送されないままファイルが削除されるおそれがあります。

パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源を OFF にしたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源を OFF にしてください。
- カメラとパソコンを接続するときは、充分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

USB ハブについて

USB ハブを使ってカメラをパソコンに接続すると、正しく動作しないことがあります。カメラはパソコンに標準装備された USB ポートへ接続してください。

無線 LAN でパソコンと接続する

カメラに内蔵されている無線 LAN（Wi-Fi）機能を使用すると、カメラとパソコンを無線で接続することができます。

機器との接続について

パソコン、FTP サーバー、スマートフォンに同時に接続することはできません。異なる機器との接続を開始した場合、接続済みの機器との接続が解除されます。

パソコンと無線接続できない場合

次のことをお試しください。

- カメラの電源を入れ直す
- パソコンの無線機能の設定を確認する
- パソコンを再起動する

ヒント：無線 LAN 使用時にエラーが発生した場合

「無線 LAN または有線 LAN 使用時のトラブルシューティング」（🕮 355）をご覧ください。

Wireless Transmitter Utility について

カメラとパソコンを無線 LAN 接続するには、パソコン用のニコンソフトウェア Wireless Transmitter Utility（ワイヤレストランスミッターユーティリティー）を使用してペアリングする必要があります。

- ペアリングを行うと、パソコンがカメラの接続先として設定されます。
- Wireless Transmitter Utility はニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/

カメラとパソコンを無線 LAN で接続する

カメラとパソコンを無線接続するには、カメラとパソコンを直接無線接続するアクセスポイントモードと、ご自宅などにすでに構築されているネットワークの無線 LAN アクセスポイントを経由してパソコンと接続するインフラストラクチャーモードの 2 通りの方法があります。

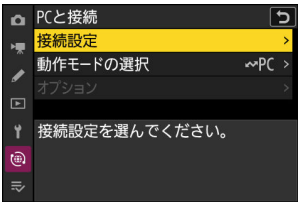
パソコンと直接接続する（アクセスポイントモード）

カメラとパソコンを直接無線接続します。カメラをアクセスポイントとして使用するため、野外など無線 LAN 環境がない場合でも無線接続ができ、複雑な設定も不要です。カメラと無線接続中は、パソコンはインターネットを使用できません。

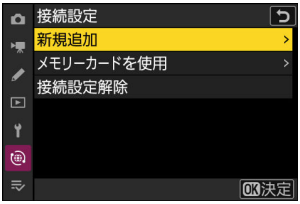


- 接続設定を行う前に、パソコンに Wireless Transmitter Utility（🕮 304）がインストールされていることを確認してください。

1 ネットワークメニュー［PC と接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの ▶ を押す



2 ［新規追加］を選び、OK ボタンを押す

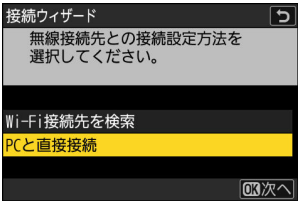


3 接続設定名を入力する

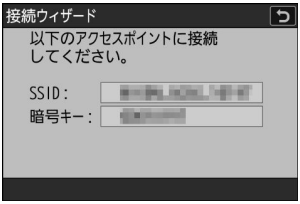


- 変更しない場合は、そのまま ⊕ ボタンを押すと、接続方法の設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、ネットワークメニュー［**PC と接続**］>［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、Ⓚ ボタンを押します。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。任意の接続設定名を入力して ⊕ ボタンを押すと、接続設定名を決定します。

4 ［PC と直接接続］を選び、Ⓚ ボタンを押す



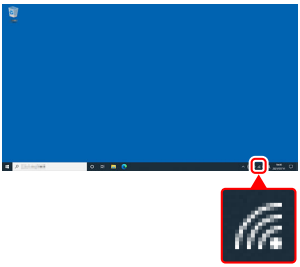
カメラの SSID と暗号キーが表示されます。



5 パソコンをカメラに接続する

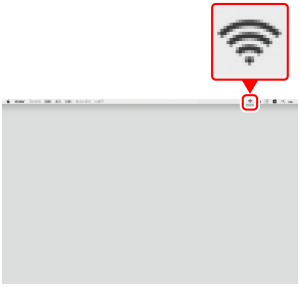
Windows の場合：

- 画面の右下にある無線 LAN のアイコンをクリックしてください。
- 手順 4 でカメラに表示された SSID を選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、手順 4 で表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。



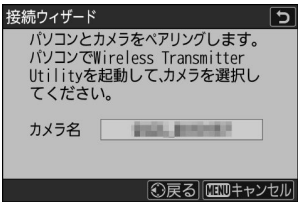
macOS の場合：

- 画面の右上にある無線 LAN のアイコンをクリックしてください。
- 手順 4 でカメラに表示された SSID を選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、手順 4 で表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。



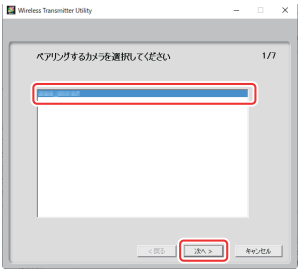
6 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンで Wireless Transmitter Utility を起動してください。

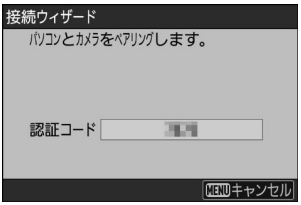


7 Wireless Transmitter Utility でカメラ名を選ぶ

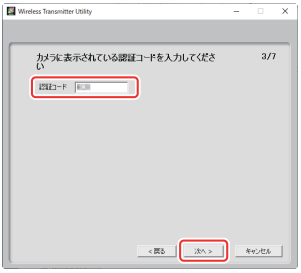
手順 6 でカメラに表示されているカメラ名を選択し、［**次へ**］をクリックします。



8 カメラに表示される認証コードを Wireless Transmitter Utility に入力する

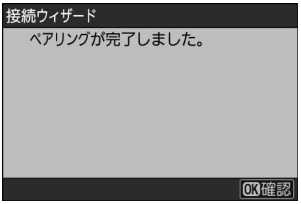


- カメラに認証コードが表示されます。

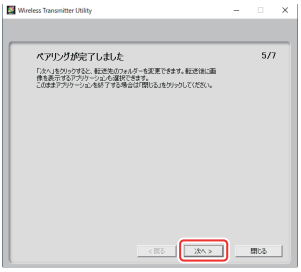


- Wireless Transmitter Utility に認証コードを入力し、［**次へ**］をクリックします。

9 ペアリングを完了する



- カメラに図のような画面が表示されたら ⓚ ボタンを押してください。



- Wireless Transmitter Utility は［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくは Wireless Transmitter Utility のヘルプをご覧ください。

- ペアリング完了後に、カメラとパソコンの接続が開始されます。

10 カメラとパソコンの接続を確認する

カメラとパソコンが接続されると、［**PC と接続**］画面に接続設定名が緑色で点灯します。



- 接続設定名が緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。

カメラとパソコンの無線接続が完了しました。

カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「画像を送信する」（🕮 349）をご覧ください。

パソコンにインストールした Camera Control Pro 2 または NX Tether でカメラを操作するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「カメラコントロールモードを使用する」（🕮 353）をご覧ください。

ヒント：パソコン接続時のポート番号について
パソコンに接続する場合のポートは、TCP ポート 15740、UDP ポート 5353 を使用します。ファイアーウォールを設定しているパソコンでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラとパソコン間で転送ができない場合があります。

既存のネットワークに接続する（インフラストラクチャーモード）

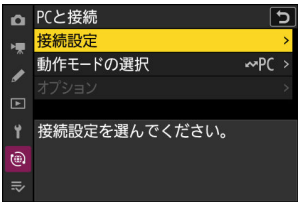
ご自宅などにすでに構築されているネットワークの、無線 LAN アクセスポイントを経由してパソコンと接続します。カメラと無線接続中でも、パソコンはインターネットを使用できます。



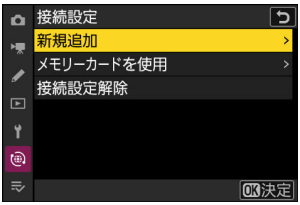
- 接続設定を行う前に、パソコンに Wireless Transmitter Utility（🕮 304）がインストールされていることを確認してください。

☑ インフラストラクチャーモードで接続する場合
ルーターを越えて別のネットワークに接続することはできません。同じネットワーク内のパソコンとのみ接続できます。

1 ネットワークメニュー［PC と接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの ▶ を押す



2 ［新規追加］を選び、OK ボタンを押す



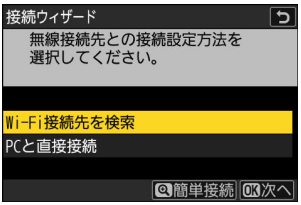
3 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのまま ⊕ ボタンを押すと、接続方法の設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、ネットワークメニュー［**PC と接続**］>［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、OK ボタンを押します。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。任意の接続設定名を入力して ⊕ ボタンを押すと、接続設定名を決定します。

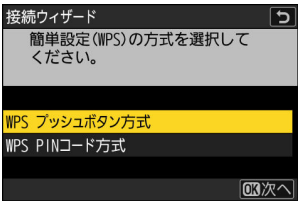
4 ［Wi-Fi 接続先を検索］を選び、㊀ ボタンを押す

カメラの周辺にある無線 LAN アクセスポイントを検索して、検出した接続先の SSID を表示します。



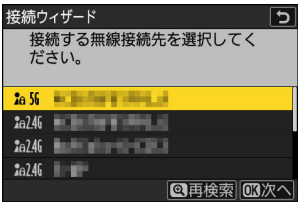
［簡単接続］で接続する

手順 4 で 🔍 ボタンを押すと、SSID や暗号キーを入力せずに無線 LAN アクセスポイントに接続できます。接続方法を選んで㊀ ボタンを押してください。接続が完了したら、手順 7 に進んでください。



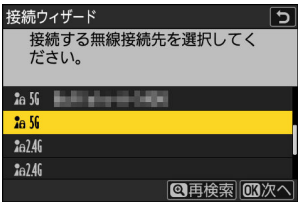
接続方法	内容
［WPS プッシュボタン方式］	無線 LAN アクセスポイントに WPS プッシュボタンがある場合に使用できます。WPS プッシュボタンを押した後にカメラの㊀ ボタンを押すと、無線 LAN アクセスポイントに接続できます。
［WPS PIN コード方式］	カメラに PIN コードが表示されます。パソコンを使用して無線 LAN アクセスポイントに PIN コードを入力します。無線 LAN アクセスポイントに PIN コードを入力する方法については、お使いの無線 LAN アクセスポイントの使用説明書をご覧ください。

5 接続先の SSID を選ぶ



- 接続先の SSID を選んで ⓚ ボタンを押します。
- 検出された SSID の周波数帯をアイコンで確認できます。
- 暗号ありの SSID には 🔒 が表示されます。暗号あり 🔒 の SSID を選んだ場合は、暗号キーの設定画面が表示されます。暗号なしの接続先を選んだ場合は手順 7 へお進みください。
- 🔍 ボタンを押すと無線接続先を再検索します。

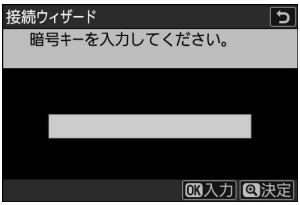
☑ SSID が非公開に設定されている場合



無線 LAN アクセスポイントが SSID を非公開に設定している場合、検出された SSID 一覧に SSID 名が表示されません。

- 非公開の SSID に接続したい場合、空欄になっている項目を選択して ⓚ ボタンを押してください。続いて ⓚ ボタンを押すと、SSID 入力画面になります。
- 接続したい SSID 名を入力し、🔍 ボタンを押してください。もう一度 🔍 ボタンを押すと、暗号キーの設定画面が表示されます。

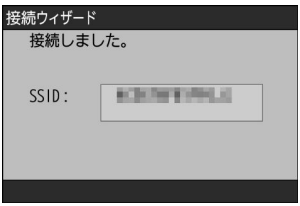
6 暗号キーを入力する



- ⓞⓚ ボタンを押して、無線 LAN アクセスポイントで使用している暗号キーを入力します。



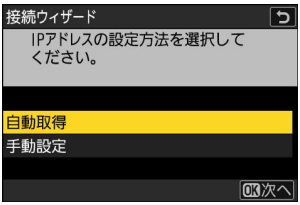
- 無線 LAN アクセスポイントの暗号キーについては、無線 LAN アクセスポイントの使用説明書などをご覧ください。
- ⊕ ボタンを押して、暗号キーの入力を完了します。



- もう一度 ⊕ ボタンを押すと、接続を開始します。接続に成功すると、図のような画面が数秒間表示されます。

7 IP アドレスの設定方法を選んで設定する

IP アドレスの設定方法を選んで ⓞⓚ ボタンを押します。

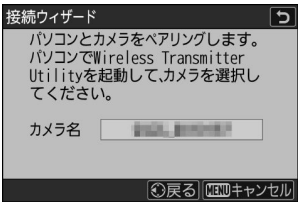


設定方法	内容
［自動取得］	カメラが自動で IP アドレスを取得します。IP アドレスを取得すると IP アドレス設定完了画面が表示されます。
［手動設定］	IP アドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • ⓞⓚ ボタンを押すと、IP アドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶ を押して数値を変更し、ⓞⓚ ボタンを押して決定します。 • ⊕ ボタンを押すと、IP アドレス設定完了画面が表示されます。再度 ⊕ ボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは ▲▼ を押して数値を変更し、ⓞⓚ ボタンを押して決定すると、IP アドレス設定完了画面が表示されます。

8 IP アドレス設定完了画面が表示されたら ⓞⓚ ボタンを押す

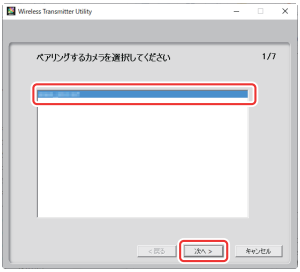
9 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンで Wireless Transmitter Utility を起動してください。



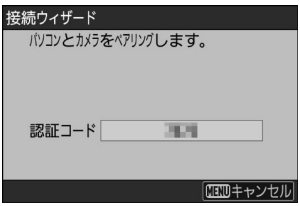
10 Wireless Transmitter Utility でカメラ名を選ぶ

手順 9 でカメラに表示されているカメラ名を選択し、［**次へ**］をクリックします。

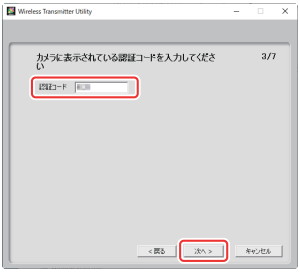


11 カメラに表示される認証コードを Wireless Transmitter Utility に入力する

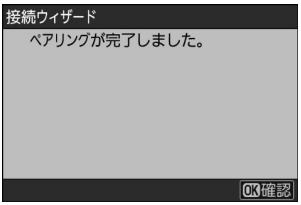
- カメラに認証コードが表示されます。



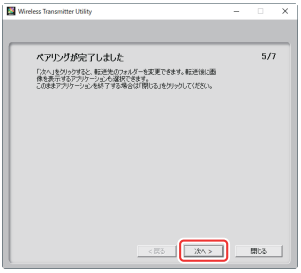
- Wireless Transmitter Utility に認証コードを入力し、［**次へ**］をクリックします。



12 ペアリングを完了する



- カメラに図のような画面が表示されたら ⓞⓚ ボタンを押してください。



- Wireless Transmitter Utility は［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくは Wireless Transmitter Utility のヘルプをご覧ください。

- ペアリング完了後に、カメラとパソコンの接続が開始されます。

13 カメラとパソコンの接続を確認する



カメラとパソコンが接続されると、［**PC と接続**］画面に接続設定名が緑色で点灯します。

カメラとパソコンの無線接続が完了しました。

カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「画像を送信する」（📖 349）をご覧ください。

パソコンにインストールした Camera Control Pro 2 または NX Tether でカメラを操作するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「カメラコントロールモードを使用する」（📖 353）をご覧ください。

パソコンとのネットワーク接続を解除する

パソコンとのネットワーク接続を解除するには、次の方法があります。

- カメラの電源を OFF にする
- ネットワークメニュー［**PC と接続**］>［**接続設定**］で［**接続設定解除**］を選ぶ

アクセスポイントモードで接続している場合

パソコンの無線接続を先に解除すると通信エラーになります。カメラのネットワーク接続を先に解除してください。

有線 LAN でパソコンと接続する

カメラとパソコンを有線 LAN で接続するには、市販の USB Type-C 端子の USB-LAN 変換アダプターが必要です。カメラの USB 通信専用端子に接続してください。

- 動作確認済みの USB-LAN 変換アダプターは次の通りです。
  - Anker PowerExpand USB-C&イーサネット アダプタ A83130A1
  - Anker PowerExpand USB-C&イーサネット アダプタ A83130A2
- USB-LAN 変換アダプターは、カメラの USB 充給電専用端子に接続すると機能しませんのでご注意ください。

機器との接続について

パソコン、FTP サーバー、スマートフォンに同時に接続することはできません。異なる機器との接続を開始した場合、接続済みの機器との接続が解除されます。

ヒント：有線 LAN 使用時にエラーが発生した場合

「無線 LAN または有線 LAN 使用時のトラブルシューティング」（📖 355）をご覧ください。

Wireless Transmitter Utility について

カメラとパソコンを有線 LAN 接続するには、パソコン用のニコンソフトウェア Wireless Transmitter Utility（ワイヤレストランスミッターユーティリティー）を使用してペアリングする必要があります。

- ペアリングを行うと、パソコンがカメラの接続先として設定されます。
- Wireless Transmitter Utility はニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/

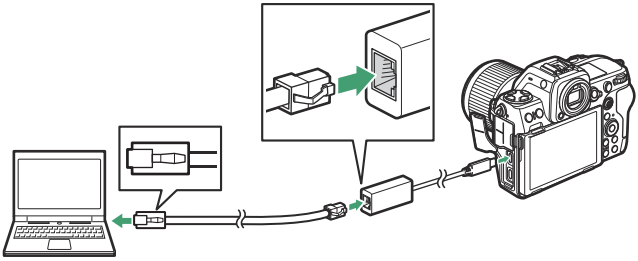
カメラとパソコンを有線 LAN で接続する

カメラに市販の USB Type-C 端子の USB-LAN 変換アダプターを接続してイーサネットケーブルを差し込むと、パソコンと有線 LAN 接続できます。

- 接続設定を行う前に、パソコンに Wireless Transmitter Utility（🕮 318）がインストールされていることを確認してください。

1 カメラの USB 通信専用端子に市販の USB-LAN 変換アダプターを接続し、イーサネットケーブルでパソコンと接続する

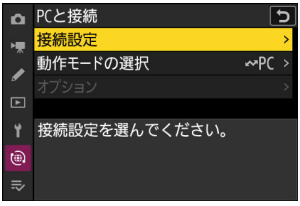
- USB-LAN 変換アダプターの LAN 端子にイーサネットケーブルを差し込みます。ケーブルは無理な力を加えず、端子に真っ直ぐに差し込んでください。
- ケーブルの反対側の端子はパソコンに直接接続するか、ルーターに接続してください。



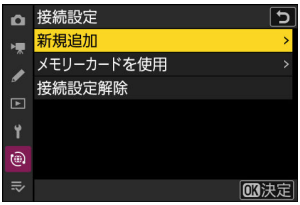
2 ネットワークメニュー［USB 通信専用端子の設定］を［USB-LAN］に設定する



3 ネットワークメニュー［PC と接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの ▶ を押す



4 ［新規追加］を選び、OK ボタンを押す



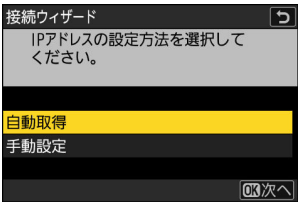
5 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのまま ⊕ ボタンを押すと、接続方法の設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、ネットワークメニュー［**PC と接続**］>［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、OK ボタンを押します。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。任意の接続設定名を入力して ⊕ ボタンを押すと、接続設定名を決定します。
- USB-LAN 変換アダプターの認識に時間がかかる場合があります。接続設定名が「WLAN1」と表示されている場合、有線 LAN を認識できずに、無線 LAN への接続設定になっています。↩ をタッチするか、マルチセレクターの ◀ を押して手順 4 の画面に戻り、約 10 秒程度待ってから再度設定を行ってください。

6 IP アドレスの設定方法を選んで設定する

IP アドレスの設定方法を選んで ⓞⓚ ボタンを押します。

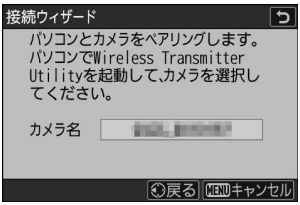


設定方法	内容
［自動取得］	カメラが自動で IP アドレスを取得します。IP アドレスを取得すると IP アドレス設定完了画面が表示されます。
［手動設定］	IP アドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • ⓞⓚ ボタンを押すと、IP アドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶ を押して数値を変更し、ⓞⓚ ボタンを押して決定します。 • ⊕ ボタンを押すと、IP アドレス設定完了画面が表示されます。再度 ⊕ ボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは ▲▼ を押して数値を変更し、ⓞⓚ ボタンを押して決定すると、IP アドレス設定完了画面が表示されます。

7 IP アドレス設定完了画面が表示されたら ⓞⓚ ボタンを押す

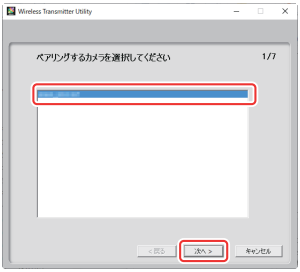
8 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンで Wireless Transmitter Utility を起動してください。



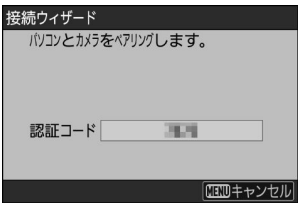
9 Wireless Transmitter Utility でカメラ名を選ぶ

手順 8 でカメラに表示されているカメラ名を選択し、［**次へ**］をクリックします。

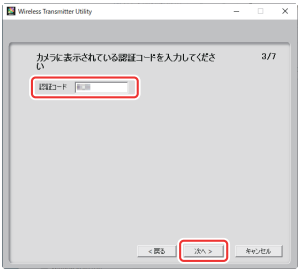


10 カメラに表示される認証コードを Wireless Transmitter Utility に入力する

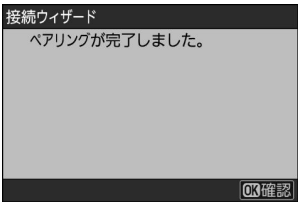
- カメラに認証コードが表示されます。



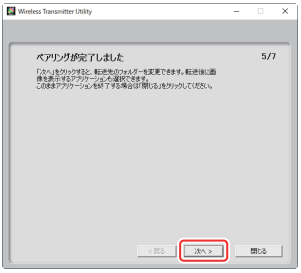
- Wireless Transmitter Utility に認証コードを入力し、［**次へ**］をクリックします。



11 ペアリングを完了する



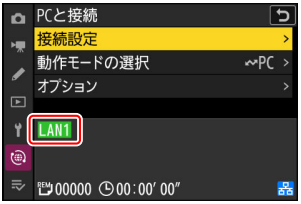
- カメラに図のような画面が表示されたら ⓞⓚ ボタンを押してください。



- Wireless Transmitter Utility は［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくは Wireless Transmitter Utility のヘルプをご覧ください。

- ペアリング完了後に、カメラとパソコンの接続が開始されます。

12 カメラとパソコンの接続を確認する



カメラとパソコンが接続されると、［**PC と接続**］画面に接続設定名が緑色で点灯します。

カメラとパソコンの有線接続が完了しました。

カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「画像を送信する」（🕮 349）をご覧ください。

パソコンにインストールした Camera Control Pro 2 または NX Tether でカメラを操作するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「カメラコントロールモードを使用する」（🕮 353）をご覧ください。

ヒント：パソコン接続時のポート番号について

パソコンに接続する場合のポートは、TCP ポート 15740、UDP ポート 5353 を使用します。ファイアーウォールを設定しているパソコンでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラとパソコン間で転送ができない場合があります。

パソコンとのネットワーク接続を解除する

パソコンとのネットワーク接続を解除するには、次の方法があります。

- カメラの電源を OFF にする
- ネットワークメニュー［**PC と接続**］>［**接続設定**］で［**接続設定解除**］を選ぶ

無線 LAN で FTP サーバーと接続する

カメラに内蔵されている無線 LAN（Wi-Fi）機能を使用すると、カメラと FTP サーバーを無線で接続することができます。

☑ 機器との接続について

パソコン、FTP サーバー、スマートフォンに同時に接続することはできません。異なる機器との接続を開始した場合、接続済みの機器との接続が解除されます。

☑ FTP サーバーと無線接続できない場合

次のことをお試しください。

- カメラの電源を入れ直す
- FTP サーバーの無線機能の設定を確認する
- FTP サーバーを再起動する

ヒント：無線 LAN 使用時にエラーが発生した場合

「無線 LAN または有線 LAN 使用時のトラブルシューティング」（🕮 355）をご覧ください。

カメラと FTP サーバーを無線 LAN で接続する

カメラと FTP サーバーを無線接続するには、カメラと FTP サーバーを直接無線接続するアクセスポイントモードと、ご自宅などにすでに構築されているネットワークに無線 LAN アクセスポイントを経由して FTP サーバーと接続するインフラストラクチャーモードの 2 通りの方法があります。

FTP サーバーについて

- Windows 11 または Windows 10 の場合は、OS に標準装備されている FTP サーバー機能（IIS（Internet Information Services）や FTP サービスなど）を利用して FTP サーバーを構築できます。
- インターネットを経由した FTP サーバーへの通信、およびサードパーティー製 FTP ソフトによって構築した FTP サーバーでの動作はサポートしておりません。

FTPS サーバーについて

- FTPS サーバーに接続する場合、接続前にカメラにルート証明書を読み込む必要があります。ルート証明書を読み込むには、ネットワークメニュー［**FTP サーバーと接続**］>［**オプション**］>［**ルート証明書の管理**］の［**ルート証明書の読み込み**］を行ってください。
- ルート証明書の取得方法については、接続する FTPS サーバーのネットワーク管理者にご確認ください。

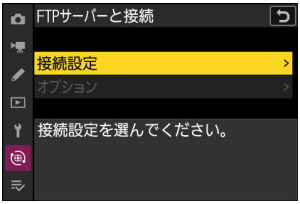
FTP サーバーと直接接続する（アクセスポイントモード）

カメラと FTP サーバーを直接無線接続します。カメラをアクセスポイントとして使用するため、野外など無線 LAN 環境がない場合でも無線接続ができ、複雑な設定も不要です。

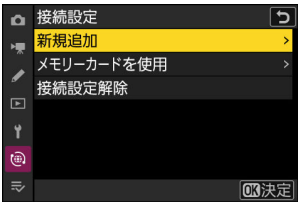


- カメラの接続ウィザードに従って、接続設定を登録します。

1 **ネットワークメニュー［FTP サーバーと接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの ▶ を押す**

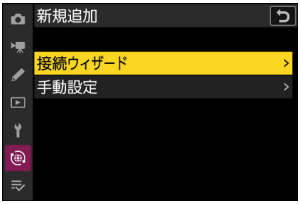


2 ［新規追加］を選び、OK ボタンを押す



3 ［接続ウィザード］を選んで ▶ を押す

接続ウィザード画面が表示されます。



手動設定を行う

［**手動設定**］を選ぶと、接続設定の内容を全て手動で設定できます。

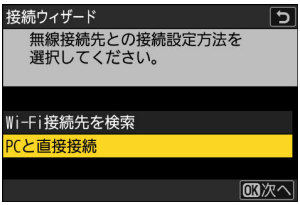


4 接続設定名を入力する

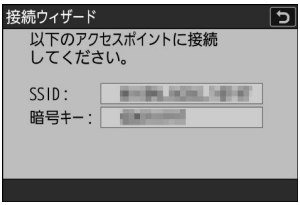


- 変更しない場合は、そのまま ⊕ ボタンを押すと、接続方法の設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、ネットワークメニュー［**FTP サーバーと接続**］>［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、OK ボタンを押します。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（📖 66）をご覧ください。任意の接続設定名を入力して ⊕ ボタンを押すと、接続設定名を決定します。

5 ［PC と直接接続］を選び、㊎ ボタンを押す



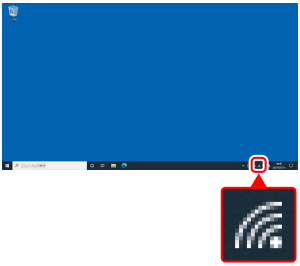
カメラの SSID と暗号キーが表示されます。



6 パソコンをカメラに接続する

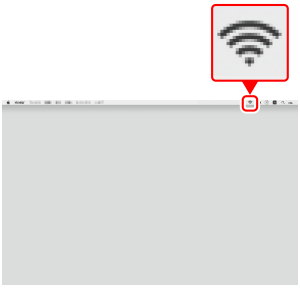
Windows の場合：

- 画面の右下にある無線 LAN のアイコンをクリックしてください。
- 手順 5 でカメラに表示された SSID を選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、手順 5 で表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。



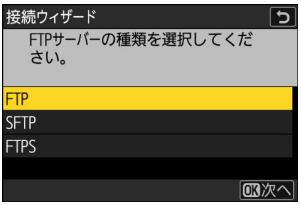
macOS の場合：

- 画面の右上にある無線 LAN のアイコンをクリックしてください。
- 手順 5 でカメラに表示された SSID を選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、手順 5 で表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。



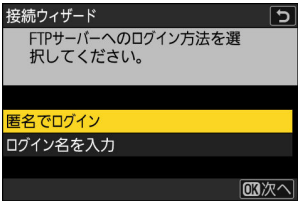
7 FTP サーバーの種類を選ぶ

［**FTP**］、［**SFTP**］または［**FTPS**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、ログイン方法の選択画面が表示されます。



8 ログイン方法を選ぶ

FTP サーバーへのログイン方法を選んで ⓚ ボタンを押します。



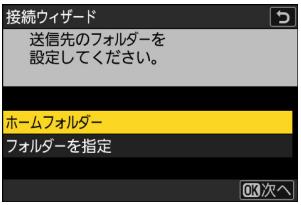
項目	内容
［**匿名でログイン**］	匿名で FTP サーバーにログインします。FTP サーバーが匿名でのログインを許可している場合のみログインできます。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。
［**ログイン名を入力**］	ログイン名とパスワードを手動で入力します。入力を完了して ⓚ ボタンを押すと、FTP サーバーにログインします。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。

ヒント：FTP サーバー接続時のポート番号について

- FTP サーバーに接続する場合、FTP サーバーの種類によって使用するポート番号が異なります。次のポート番号をお使いください。
  - ［**FTP**］：TCP ポート 21、32768～61000
  - ［**SFTP**］：TCP ポート 22、32768～61000
  - ［**FTPS**］：TCP ポート 21、32768～61000
- ファイアーウォールを設定している FTP サーバーでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラと FTP サーバー間で転送ができない場合があります。

9 送信先フォルダーを設定する

送信先のフォルダーを選んで ⓚ ボタンを押します。



項目	内容
［**ホームフォルダー**］	送信先を FTP サーバーのホームフォルダーに設定します。設定に成功した場合は、接続設定完了画面が表示されます。
［**フォルダーを指定**］	送信先のフォルダー名を手動で入力します。送信先のフォルダーは、あらかじめ FTP サーバー側で作成しておく必要があります。入力を完了して ⓚ ボタンを押すと、送信先のフォルダーを設定して接続設定完了画面が表示されます。

10 カメラと FTP サーバーの接続を確認する

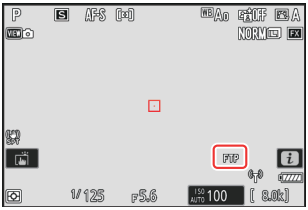
カメラと FTP サーバーが接続されると、［**FTP サーバーと接続**］画面に接続設定名が緑色で点灯します。

- 接続設定名が緑色で点灯していない場合は、FTP サーバーの無線接続設定でカメラと接続し直してください。



カメラと FTP サーバーの無線接続が完了しました。

- カメラと FTP サーバーの接続が完了すると、撮影画面に「FTP」が表示されます。FTP サーバーとの接続にエラーが発生した場合、文字が赤くなり ❗ が表示されます。



カメラで撮影した画像を FTP サーバーに転送するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「画像を送信する」（📖 349）をご覧ください。

既存のネットワークに接続する（インフラストラクチャーモード）

ご自宅などにすでに構築されているネットワークの、無線 LAN アクセスポイントを経由して FTP サーバーと接続します。

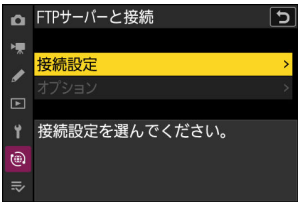


- カメラの接続ウィザードに従って、接続設定を登録します。

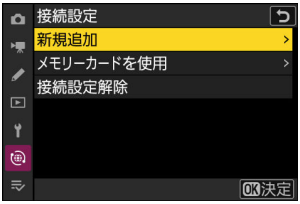
ヒント：インフラストラクチャーモードで接続する場合

接続先が FTP サーバーの場合、ルーターを経由して別のネットワークに接続することが可能です。

1 ネットワークメニュー［FTP サーバーと接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの ▶ を押す

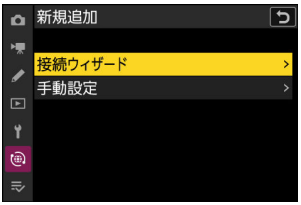


2 ［新規追加］を選び、OK ボタンを押す



3 [接続ウィザード] を選んで ⊛ を押す

接続ウィザード画面が表示されます。



☑ 手動設定を行う

[**手動設定**] を選ぶと、接続設定の内容を全て手動で設定できます。



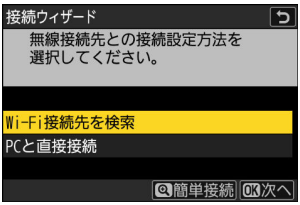
4 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのまま ⊛ ボタンを押すと、接続方法の設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、ネットワークメニュー [**FTP サーバーと接続**] > [**接続設定**] に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、OK ボタンを押します。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(📖 66) をご覧ください。任意の接続設定名を入力して ⊛ ボタンを押すと、接続設定名を決定します。

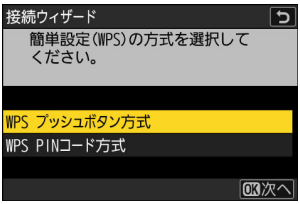
5 ［Wi-Fi 接続先を検索］を選び、㊎ ボタンを押す

カメラの周辺にある無線 LAN アクセスポイントを検索して、検出した接続先の SSID を表示します。



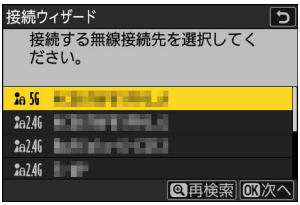
［簡単接続］で接続する

手順 5 で 🔍 ボタンを押すと、SSID や暗号キーを入力せずに無線 LAN アクセスポイントに接続できます。接続方法を選んで㊎ ボタンを押してください。接続が完了したら、手順 8 に進んでください。



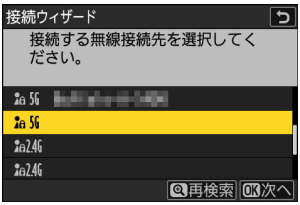
接続方法	内容
［**WPS プッシュボタン方式**］	無線 LAN アクセスポイントに WPS プッシュボタンがある場合に使用できます。WPS プッシュボタンを押した後にカメラの㊎ ボタンを押すと、無線 LAN アクセスポイントに接続できます。
［**WPS PIN コード方式**］	カメラに PIN コードが表示されます。パソコンを使用して無線 LAN アクセスポイントに PIN コードを入力します。無線 LAN アクセスポイントに PIN コードを入力する方法については、お使いの無線 LAN アクセスポイントの使用説明書をご覧ください。

6 接続先の SSID を選ぶ



- 接続先の SSID を選んで ⓚ ボタンを押します。
- 検出された SSID の周波数帯をアイコンで確認できます。
- 暗号ありの SSID には 🔒 が表示されます。暗号あり 🔒 の SSID を選んだ場合は、暗号キーの設定画面が表示されます。暗号なしの接続先を選んだ場合は手順 8 へお進みください。
- 🔍 ボタンを押すと無線接続先を再検索します。

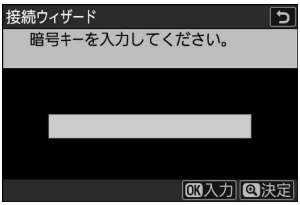
☑ SSID が非公開に設定されている場合



無線 LAN アクセスポイントが SSID を非公開に設定している場合、検出された SSID 一覧に SSID 名が表示されません。

- 非公開の SSID に接続したい場合、空欄になっている項目を選択して ⓚ ボタンを押してください。続いて ⓚ ボタンを押すと、SSID 入力画面になります。
- 接続したい SSID 名を入力し、🔍 ボタンを押してください。もう一度 🔍 ボタンを押すと、暗号キーの設定画面が表示されます。

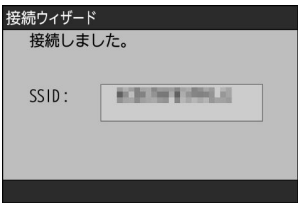
7 暗号キーを入力する



- ⓚ ボタンを押して、無線 LAN アクセスポイントで使用している暗号キーを入力します。



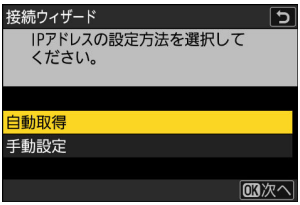
- 無線 LAN アクセスポイントの暗号キーについては、無線 LAN アクセスポイントの使用説明書などをご覧ください。
- ⊕ ボタンを押して、暗号キーの入力を完了します。



- もう一度 ⊕ ボタンを押すと、接続を開始します。接続に成功すると、図のような画面が数秒間表示されます。

8 IP アドレスの設定方法を選んで設定する

IP アドレスの設定方法を選んで ⓚ ボタンを押します。

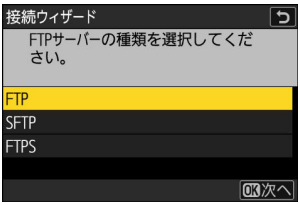


設定方法	内容
［**自動取得**］	カメラが自動で IP アドレスを取得します。IP アドレスを取得すると IP アドレス設定完了画面が表示されます。
［**手動設定**］	IP アドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • ⓚ ボタンを押すと、IP アドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶ を押して数値を変更し、ⓚ ボタンを押して決定します。 • ⊕ ボタンを押すと、IP アドレス設定完了画面が表示されます。再度 ⊕ ボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは ▲▼ を押して数値を変更し、ⓚ ボタンを押して決定すると、IP アドレス設定完了画面が表示されます。

9 IP アドレス設定完了画面が表示されたら ⓚ ボタンを押す

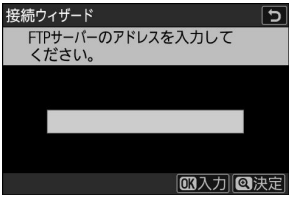
10 FTP サーバーの種類を選ぶ

［**FTP**］、［**SFTP**］または［**FTPS**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、アドレス入力画面が表示されます。



11 FTP サーバーのアドレスを入力する

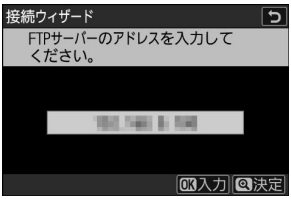
- ⓞⓚ ボタンを押して、FTP サーバーの IP アドレスまたは URL を入力します。



- ⊕ ボタンを押して、入力を完了します。

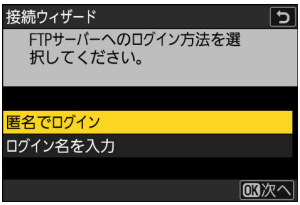


- もう一度 ⊕ ボタンを押すと、カメラが FTP サーバーに接続します。接続に成功した場合は、ログイン方法の選択画面が表示されます。



12 ログイン方法を選ぶ

FTP サーバーへのログイン方法を選んで ⓚ ボタンを押します。



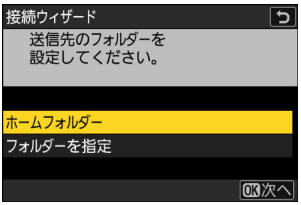
項目	内容
［**匿名でログイン**］	匿名で FTP サーバーにログインします。FTP サーバーが匿名でのログインを許可している場合のみログインできます。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。
［**ログイン名を入力**］	ログイン名とパスワードを手動で入力します。入力を完了して ⓚ ボタンを押すと、FTP サーバーにログインします。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。

ヒント：FTP サーバー接続時のポート番号について

- FTP サーバーに接続する場合、FTP サーバーの種類によって使用するポート番号が異なります。次のポート番号をお使いください。
  - ［**FTP**］：TCP ポート 21、32768～61000
  - ［**SFTP**］：TCP ポート 22、32768～61000
  - ［**FTPS**］：TCP ポート 21、32768～61000
- ファイアーウォールを設定している FTP サーバーでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラと FTP サーバー間で転送ができない場合があります。

13 送信先フォルダーを設定する

送信先のフォルダーを選んで ⓚ ボタンを押します。



項目	内容
［**ホームフォルダー**］	送信先を FTP サーバーのホームフォルダーに設定します。設定に成功した場合は、接続設定完了画面が表示されます。
［**フォルダーを指定**］	送信先のフォルダー名を手動で入力します。送信先のフォルダーは、あらかじめ FTP サーバー側で作成しておく必要があります。入力を完了して ⓚ ボタンを押すと、送信先のフォルダーを設定して接続設定完了画面が表示されます。

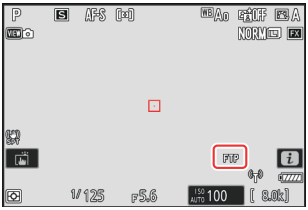
14 カメラと FTP サーバーの接続を確認する

カメラと FTP サーバーが接続されると、［**FTP サーバーと接続**］画面に接続設定名が緑色で点灯します。



カメラと FTP サーバーの無線接続が完了しました。

- カメラと FTP サーバーの接続が完了すると、撮影画面に「FTP」が表示されます。FTP サーバーとの接続にエラーが発生した場合、文字が赤くなり ❗ が表示されます。



カメラで撮影した画像を FTP サーバーに転送するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「画像を送信する」（📖 349）をご覧ください。

FTP サーバーとのネットワーク接続を解除する

FTP サーバーとのネットワーク接続を解除するには、次の方法があります。

- カメラの電源を OFF にする
- ネットワークメニュー［**FTP サーバーと接続**］>［**接続設定**］で［**接続設定解除**］を選ぶ

アクセスポイントモードで接続している場合

FTP サーバーの無線接続を先に解除すると通信エラーになります。カメラのネットワーク接続を先に解除してください。

有線 LAN で FTP サーバーと接続する

カメラと FTP サーバーを有線 LAN で接続するには、市販の USB Type-C 端子の USB-LAN 変換アダプターが必要です。カメラの USB 通信専用端子に接続してください。

- 動作確認済みの USB-LAN 変換アダプターは次の通りです。
  - Anker PowerExpand USB-C&イーサネット アダプタ A83130A1
  - Anker PowerExpand USB-C&イーサネット アダプタ A83130A2
- USB-LAN 変換アダプターは、カメラの USB 充給電専用端子に接続すると機能しませんのでご注意ください。

機器との接続について

パソコン、FTP サーバー、スマートフォンに同時に接続することはできません。異なる機器との接続を開始した場合、接続済みの機器との接続が解除されます。

ヒント：有線 LAN 使用時にエラーが発生した場合

「無線 LAN または有線 LAN 使用時のトラブルシューティング」（📖 355）をご覧ください。

カメラと FTP サーバーを有線 LAN で接続する

カメラに市販の USB Type-C 端子の USB-LAN 変換アダプターを接続してイーサネットケーブルを差し込むと、FTP サーバーと有線 LAN 接続できます。

FTP サーバーについて

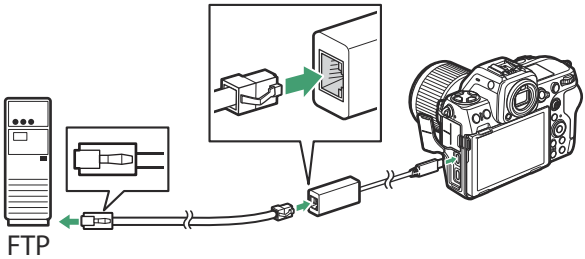
- Windows 11 または Windows 10 の場合は、OS に標準装備されている FTP サーバー機能（IIS（Internet Information Services）や FTP サービスなど）を利用して FTP サーバーを構築できます。
- インターネットを経由した FTP サーバーへの通信、およびサードパーティー製 FTP ソフトによって構築した FTP サーバーでの動作はサポートしておりません。

FTPS サーバーについて

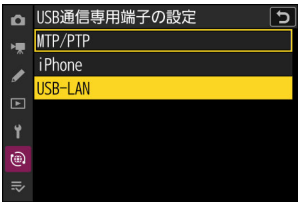
- FTPS サーバーに接続する場合、接続前にカメラにルート証明書を読み込む必要があります。ルート証明書を読み込むには、ネットワークメニュー［**FTP サーバーと接続**］>［**オプション**］>［**ルート証明書の管理**］の［**ルート証明書の読み込み**］を行ってください。
- ルート証明書の取得方法については、接続する FTPS サーバーのネットワーク管理者にご確認ください。

1 カメラの USB 通信専用端子に市販の USB-LAN 変換アダプターを接続し、イーサネットケーブルで FTP サーバーと接続する

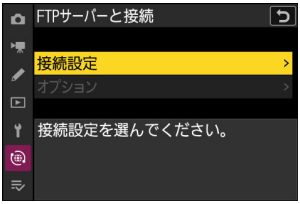
- USB-LAN 変換アダプターの LAN 端子にイーサネットケーブルを差し込みます。ケーブルは無理な力を加えず、端子に真っ直ぐに差し込んでください。
- ケーブルの反対側の端子は FTP サーバーに直接接続するか、ルーターに接続してください。



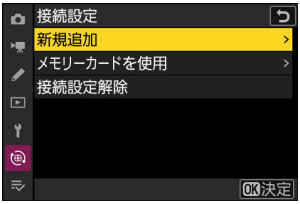
2 **ネットワークメニュー［USB 通信専用端子の設定］を［USB-LAN］に設定する**



3 **ネットワークメニュー［FTP サーバーと接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの ▶ を押す**

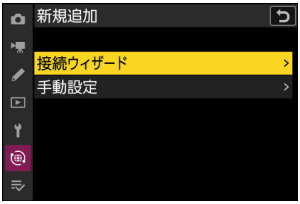


4 **［新規追加］を選び、OK ボタンを押す**



5 **［接続ウィザード］を選んで ▶ を押す**

接続ウィザード画面が表示されます。



手動設定を行う

［**手動設定**］を選ぶと、接続設定の内容を全て手動で設定できます。

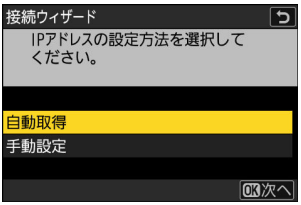


6 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのまま Q ボタンを押すと、接続方法の設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、ネットワークメニュー［**FTP サーバーと接続**］>［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、OK ボタンを押します。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。任意の接続設定名を入力して Q ボタンを押すと、接続設定名を決定します。
- USB-LAN 変換アダプターの認識に時間がかかる場合があります。接続設定名が「WLAN1」と表示されている場合、有線 LAN を認識できずに、無線 LAN への接続設定になっています。↩ をタッチするか、マルチセレクターの ◀ を押して手順 4 の画面に戻り、約 10 秒程度待ってから再度設定を行ってください。

7 IP アドレスの設定方法を選んで設定する



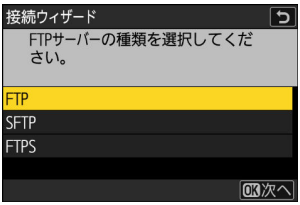
IP アドレスの設定方法を選んで OK ボタンを押します。

設定方法	内容
［**自動取得**］	カメラが自動で IP アドレスを取得します。IP アドレスを取得すると IP アドレス設定完了画面が表示されます。
［**手動設定**］	IP アドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • OK ボタンを押すと、IP アドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶ を押して数値を変更し、OK ボタンを押して決定します。 • Q ボタンを押すと、IP アドレス設定完了画面が表示されます。再度 Q ボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは ▲▼ を押して数値を変更し、OK ボタンを押して決定すると、IP アドレス設定完了画面が表示されます。

8 IP アドレス設定完了画面が表示されたら OK ボタンを押す

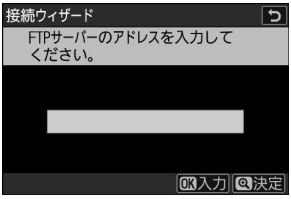
9 FTP サーバーの種類を選ぶ

［**FTP**］、［**SFTP**］または［**FTPS**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、アドレス入力画面が表示されます。



10 FTP サーバーのアドレスを入力する

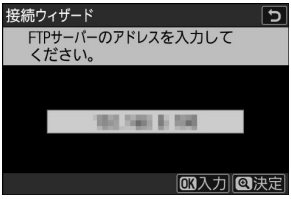
- ⓚ ボタンを押して、FTP サーバーの IP アドレスまたは URL を入力します。



- ⊕ ボタンを押して、入力を完了します。

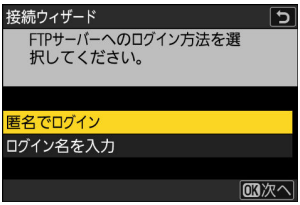


- もう一度 ⊕ ボタンを押すと、カメラが FTP サーバーに接続します。接続に成功した場合は、ログイン方法の選択画面が表示されます。



11 ログイン方法を選ぶ

FTP サーバーへのログイン方法を選んで ⓚ ボタンを押します。



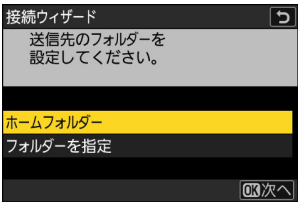
項目	内容
［**匿名でログイン**］	匿名で FTP サーバーにログインします。FTP サーバーが匿名でのログインを許可している場合のみログインできます。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。
［**ログイン名を入力**］	ログイン名とパスワードを手動で入力します。入力を完了して ⓚ ボタンを押すと、FTP サーバーにログインします。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。

ヒント：FTP サーバー接続時のポート番号について

- FTP サーバーに接続する場合、FTP サーバーの種類によって使用するポート番号が異なります。次のポート番号をお使いください。
  - ［**FTP**］：TCP ポート 21、32768～61000
  - ［**SFTP**］：TCP ポート 22、32768～61000
  - ［**FTPS**］：TCP ポート 21、32768～61000
- ファイアーウォールを設定している FTP サーバーでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラと FTP サーバー間で転送ができない場合があります。

12 送信先フォルダーを設定する

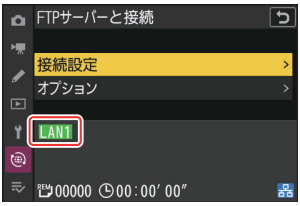
送信先のフォルダーを選んで ⓚ ボタンを押します。



項目	内容
［**ホームフォルダー**］	送信先を FTP サーバーのホームフォルダーに設定します。設定に成功した場合は、接続設定完了画面が表示されます。
［**フォルダーを指定**］	送信先のフォルダー名を手動で入力します。送信先のフォルダーは、あらかじめ FTP サーバー側で作成しておく必要があります。入力を完了して ⓚ ボタンを押すと、送信先のフォルダーを設定して接続設定完了画面が表示されます。

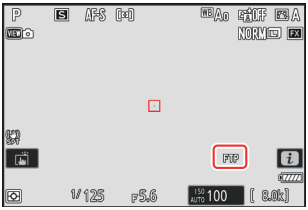
13 カメラと FTP サーバーの接続を確認する

カメラと FTP サーバーが接続されると、［**FTP サーバーと接続**］画面に接続設定名が緑色で点灯します。



カメラと FTP サーバーの接続設定が完了しました。

- カメラと FTP サーバーの接続が完了すると、撮影画面に「FTP」が表示されます。FTP サーバーとの接続にエラーが発生した場合、文字が赤くなり ❗ が表示されます。



カメラで撮影した画像を FTP サーバーに転送するには、「パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること」>「画像を送信する」（📖 349）をご覧ください。

FTP サーバーとのネットワーク接続を解除する

FTP サーバーとのネットワーク接続を解除するには、次の方法があります。

- カメラの電源を OFF にする
- ネットワークメニュー［**FTP サーバーと接続**］>［**接続設定**］で［**接続設定解除**］を選ぶ

パソコンまたは FTP サーバーに接続してできること

無線 LAN 接続または有線 LAN 接続すると、撮影した画像の転送や、カメラのリモート操作を行えます。

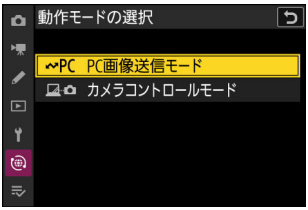
画像を送信する

再生画面で選んだ画像をパソコンまたは FTP サーバーに送信できます。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。

- 画像を送信する前に、カメラを送信先の機器に無線または有線接続してください（🕮 304、🕮 318、🕮 325、🕮 341）。接続設定後、［**PC と接続**］画面または［**FTP サーバーと接続**］画面に接続設定名が緑色で点灯していることをご確認ください。



- パソコンに画像を送信する場合はネットワークメニュー［**PC と接続**］>［**動作モードの選択**］で［**PC 画像送信モード**］を選んでください。



☑ アクセスポイントモードで送信する場合のご注意

カメラで接続設定を選んでカメラの Wi-Fi 通信機能が開始された後に、送信先の機器を無線接続してください。

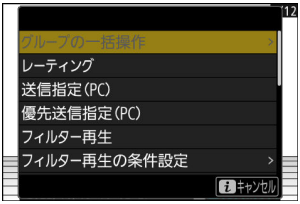
☑ パソコン接続時の接続先フォルダーについて

- 送信された画像は、次のフォルダーに転送されます。
  - Windows：\Users\"ユーザー名"\Pictures\Wireless Transmitter Utility
  - macOS：/Users/"ユーザー名"/Pictures/Wireless Transmitter Utility
- Wireless Transmitter Utility を使うと、転送先のフォルダーを変更できます。詳しくは Wireless Transmitter Utility のヘルプをご覧ください。

画像を選んで送信する

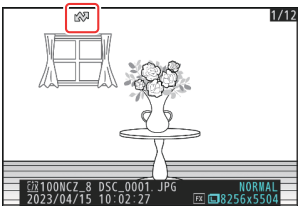
1 カメラの ▶ ボタンを押して 1 コマ表示モードまたはサムネイル表示モードにする

2 送信したい画像を選んで i ボタンを押す



i メニューに表示される項目は、現在カメラと接続している機器によって異なります。

3 [送信指定（PC）] / [送信指定（FTP）] / [優先送信指定（PC）] / [優先送信指定（FTP）] を選んで ⊛ ボタンを押す



- [**送信指定（PC）**] または [**送信指定（FTP）**] を選ぶと、送信設定マーク（白色）が表示されて送信指定した順に画像が送信されます。すでに送信予定の画像がある場合、送信予定の最後に追加されます。
- [**優先送信指定（PC）**] または [**優先送信指定（FTP）**] を選ぶと、優先送信設定マーク（白色）が表示されてすでに送信予定の画像がある場合でも、優先送信指定された画像を割り込んで送信します。
- 送信指定した画像がある状態でネットワークに接続すると、自動的に送信が開始されます。
- 複数の画像を送信する場合は、手順 2～3 を繰り返してください。

送信指定を解除するには

- 解除したい画像を選んで、手順 2 と 3 を行います。
- ネットワークメニュー [**PC と接続**] または [**FTP サーバーと接続**] にある [**オプション**] > [**全送信マーク解除**] で一括解除できます。

ヒント：条件に当てはまる画像だけを送信するには

再生時の i メニューで [**フィルター再生**] を行うと、設定された条件に当てはまる画像のみ再生されます（🕮 233）。i メニューで [**一括送信指定（PC）**] または [**一括送信指定（FTP）**] を選んで ⊛ ボタンを押すと、再生対象の画像全てに送信設定マークが付加されます。

撮影した画像を自動で送信する

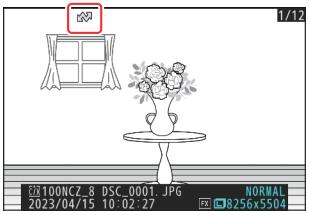
ネットワークメニュー［**PC と接続**］または［**FTP サーバーと接続**］にある［**オプション**］>［**撮影後自動送信**］を［**ON**］に設定すると、静止画を撮影するたびに接続している機器に転送します。



- 画像はメモリーカードに記録されてから自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにメモリーカードを挿入してください。
- 動画は自動送信されません。再生画面で送信設定してください。

マーク表示について

送信する画像には次のようなマークが表示されます。



（白）：送信予定の画像（送信設定マーク）

次の送信設定をした場合、画像に表示されます。撮影または送信指定した順に画像が送信されます。

- 自動送信で送信設定した場合
- ［**送信指定（PC）**］を選んだ場合
- ［**送信指定（FTP）**］を選んだ場合
- 一括送信設定をした場合

（白）：送信予定の画像（優先送信設定マーク）

［**優先送信指定（PC）**］または［**優先送信指定（FTP）**］を設定した画像に表示されます。 の画像がある場合でも、優先して画像が送信されます。

（緑）：送信中の画像（送信中マーク）

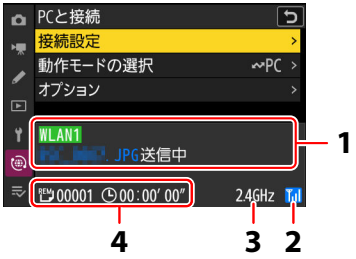
画像の送信中は送信設定マークが緑色で表示されます。

（青）：送信済みの画像（送信済みマーク）

画像が正常に送信された場合、送信設定マークが青色に変わります。

画像送信時の［PC と接続］または［FTP サーバーと接続］画面

［**PC と接続**］または［**FTP サーバーと接続**］画面では、次の状態が確認できます。



1 **接続状態**：
接続状態を表します。接続されたときは接続設定名が緑色で表示されます。
データを送信中の場合、接続設定名の下に「(送信中のファイル名)」+「送信中」と表示されます。エラーが発生した場合には、エラーの内容が表示されます。
- ［**FTP サーバーと接続**］の場合、エラーコードも表示されます（🕮 356）。

2 **電波状態**：電波の状態がアイコンで表示されます。有線 LAN 接続時には、有線 LAN アイコン が表示されます。

3 **周波数帯**：インフラストラクチャーモードで無線接続している場合、接続している SSID の周波数帯が表示されます。

4 **残り**：送信予定のコマ数と、残りの送信予定時間を表示します。表示される時間は目安です。

☑ 電波状態による送信の中断について

無線 LAN 接続時、電波状態によっては送信が一時中断されることがあります。この場合、電波状態が回復した後、カメラの電源をいったん OFF にして再度 ON にすると、送信設定マークが表示された画像の送信を再開します。

☑ 送信中のご注意

送信中はメモリーカードやイーサネットケーブルの抜き差しを絶対に行わないでください。

☑ 音声メモを録音した画像の送信

録音した音声メモも同時に送信されます。ただし、音声メモのみを送信することはできません。

☑ 画像転送中にカメラの電源を OFF にした場合

送信設定は保持されるため、再度電源を ON にすると、送信設定マークが表示された画像は送信が再開されます。

☑ FTP サーバーにプロテクトした画像を送信した場合

FTP サーバーに送信して保存された画像のプロテクトは解除されています。画像に目印を付けたい場合、レーティングを設定することをおすすめします（🕮 230）。

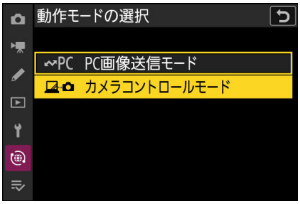
カメラコントロールモードを使用する

別売の Camera Control Pro 2 または無料の NX Tether を使って、パソコンからカメラをコントロールできます。Camera Control Pro 2 または NX Tether のカメラコントロールで撮影した静止画はパソコンに直接取り込めるため、カメラにメモリーカードを挿入しない状態でも使用できます。

- 動画を撮影する場合は、メモリーカードをカメラに挿入してください。
- カメラコントロールモードのときは、半押しタイマーはオフになりません。
- Camera Control Pro 2 または NX Tether を使用する前に、カメラをパソコンに無線または有線接続してください（🕮 304、🕮 318）。接続設定後、［**PC と接続**］画面に接続設定名が緑色で点灯していることをご確認ください。



1 ネットワークメニュー［PC と接続］>［動作モードの選択］で［カメラコントロールモード］を選ぶ



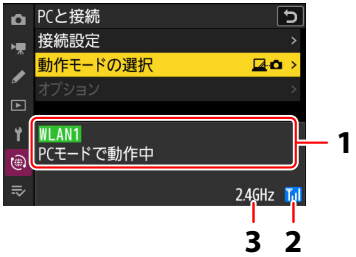
2 パソコンにインストールされている Camera Control Pro 2 または NX Tether を起動する

3 Camera Control Pro 2 または NX Tether を使用して、カメラを操作する

Camera Control Pro 2 または NX Tether を使用して撮影する方法については、各ソフトウェアの説明書またはオンラインヘルプをご覧ください。

カメラコントロールモード時の［PC と接続］画面

［**PC と接続**］画面では、次の状態が確認できます。



1 **接続状態**：接続状態を表します。接続されたときは接続設定名が緑色で表示されます。エラーが発生した場合には、エラーの内容が表示されます（🕮 355）。

2 **電波状態**：電波の状態がアイコンで表示されます。有線 LAN 接続時には、有線 LAN アイコン が表示されます。

3 **周波数帯**：インフラストラクチャーモードで無線接続している場合、接続している SSID の周波数帯が表示されます。

電波状態による送信の中断について

無線 LAN 接続時、電波状態によっては、送信が中断され、パソコンとの接続が切断される場合があります。その場合、ネットワークメニュー［**PC と接続**］>［**接続設定**］で一度［**接続設定解除**］を選んでから再度接続設定を選んでネットワークに接続してください。電波状態が回復すれば、パソコンとの接続が回復し、未送信画像が再送信されます。再送信する前にカメラの電源を OFF にすると、未送信画像が消去され、再送信できませんのでご注意ください。

有線 LAN 接続中のご注意

パソコンとの通信中やカメラの電源が ON のときには、イーサネットケーブルの抜き差しは行わないでください。

無線 LAN 接続時のご注意

無線 LAN 接続時には、有線 LAN で接続した場合に比べて、操作に時間的なずれが生じる場合があります。

無線 LAN または有線 LAN 使用時のトラブルシューティング

無線 LAN または有線 LAN 使用時にエラーが発生した場合はこちらをご覧ください。

- Wireless Transmitter Utility については Wireless Transmitter Utility のヘルプをご覧ください。

問題と対処方法について

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

こんなときは	対処方法
• 「無線エラーが発生しました。」と表示される。 • 「TCP/IP エラーが発生しました」と表示される。 • 「FTP エラーが発生しました」と表示される。	接続設定が正しくありません。無線 LAN アクセスポイントや FTP サーバー（またはパソコン）の設定を確認し、設定をやり直してください（🕮 304、🕮 325）。
	エラーコードが表示されている場合、表示されているエラーコードによって対処方法が異なります。「エラーコードについて」をご覧ください（🕮 356）。
「PC に接続中です」と表示されたまま画面が変化しない。	ファイアーウォールの設定を確認してください（🕮 309、🕮 329）。
「イーサネットケーブルが接続されていません」と表示される。	ネットワークメニュー［**USB 通信専用端子の設定**］で［**USB-LAN**］を選び、カメラの USB 通信専用端子に市販の USB-LAN 変換アダプターを接続して、アダプターの LAN 接続端子にイーサネットケーブルを差し込んでください（🕮 318、🕮 341、🕮 817）。
「カードが入っていません」と表示される。	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。メモリーカードを正しくセットしてください（🕮 80）。
途中で送信が中断して画像を送信できなかった。	カメラの電源をいったん OFF にして再度 ON にすると送信設定マークが表示された画像の送信を再開します（🕮 352）。
通信が不安定になる。	インフラストラクチャーモードでパソコンまたは FTP サーバーに接続している場合、アクセスポイントのチャンネルの設定を、1～8ch の間で設定してください（🕮 800、🕮 805）。

エラーコードについて

無線 LAN または有線 LAN を使用して FTP サーバーに接続しているときにエラーが発生した場合、次のメッセージとエラーコードが表示されます。

- **［無線エラーが発生しました。］**

エラーコード	対処方法
Err.11	接続先機器の電源がオンになっているかどうかをご確認ください。
	SSID の確認をしてください（805）。
Err.12	選んだ SSID に対してパスワードが正しいかご確認ください。
	認証方式が正しいかご確認ください（805）。
Err.13	接続先機器の電源がオンになっているかどうかをご確認ください。
	カメラの電源スイッチを入れ直してください。
Err.1F	カメラの電源スイッチを入れ直してください。

- **［TCP/IP エラーが発生しました。］**

エラーコード	対処方法
Err.21	TCP/IP のアドレス、マスクが正しいかご確認ください（805）。
Err.22	TCP/IP のアドレスが重複しています。アドレスを変更してください（805）。

- **［PTP/IP エラーが発生しました。］**

エラーコード	対処方法
Err.41	カメラの電源スイッチを入れ直してください。

- **［FTP エラーが発生しました。］**

エラーコード	対処方法
Err.31	FTP サーバーのアドレスが正しいかご確認ください（805）。
Err.32	ログイン名、パスワードが正しいかご確認ください（805）。
Err.34	指定したフォルダーの名前が正しいかご確認ください（805）。
Err.35	FTP サーバーのフォルダーの書き込みが許可に設定されているか確認してください。
Err.36	DNS の設定が正しいかご確認ください（805）。
Err.37	ファイアーウォールの設定を確認してください（329）。
	パッシブモードの有効/無効を変更してください（805）。
Err.3F	カメラの電源スイッチを入れ直してください。

- **［FTP サーバーとの認証時にエラーが発生しました。］**

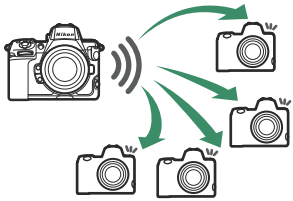
エラーコード	対処方法
Err.61	FTP サーバーが TLS1.2 以上に対応しているかご確認ください。
Err.62	ルート証明書が正しいかご確認ください（326、342、810）。
Err.63	
Err.64	FTP サーバーからクライアント証明書を要求されているため接続できません。FTP サーバーの設定をご確認ください。
Err.65	カメラの電源スイッチを入れ直してください。

他のカメラとの接続

他のカメラと接続してできること

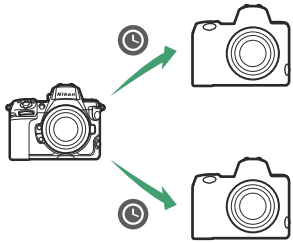
他のカメラと連動してレリーズする（連動レリーズ）

1 台のマスターカメラと 16 台までのリモートカメラをグループにしてマスターカメラのレリーズに連動して、複数のリモートカメラをレリーズさせて撮影できます（🕮 359）。



カメラの時計を同期する（日時を同期）

複数台のカメラの日時を、ネットワークを使用して同期できます（🕮 377）。



連動レリーズモードを使用する

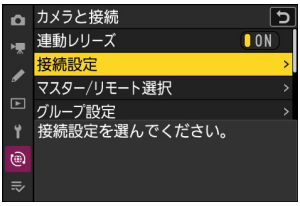
連動レリーズ用の接続設定を作成して撮影する

連動レリーズを行うための接続設定を新規に作成します。撮影した画像はそれぞれのカメラのメモリーカードに記録されます。連動レリーズモードで撮影する全てのカメラで、同様の設定を行ってください。

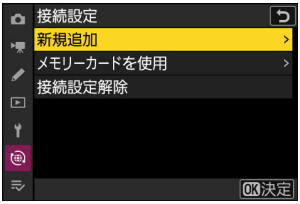
無線 LAN で接続する

無線 LAN 接続用の接続設定を作成します。

1 ネットワークメニュー［カメラと接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの ▶ を押す



2 ［新規追加］を選び、OK ボタンを押す



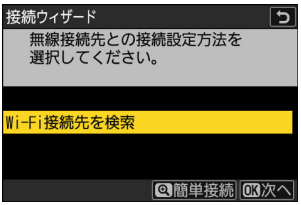
3 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのまま 🔍 ボタンを押すと、接続方法の設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、ネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、OK ボタンを押します。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（📖 66）をご覧ください。任意の接続設定名を入力して 🔍 ボタンを押すと、接続設定名を決定します。

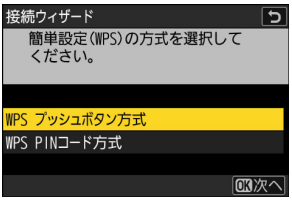
4 ［Wi-Fi 接続先を検索］を選び、㊎ ボタンを押す

カメラの周辺にある無線 LAN アクセスポイントを検索して、検出した接続先の SSID を表示します。



［簡単接続］で接続する

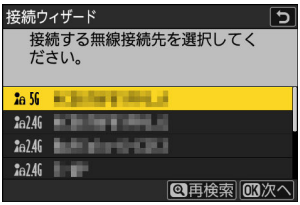
- 手順 4 で ⍰ ボタンを押すと、SSID や暗号キーを入力せずに無線 LAN アクセスポイントに接続できます。接続方法を選んで㊎ ボタンを押してください。



接続方法	内容
［WPS プッシュボタン方式］	無線 LAN アクセスポイントに WPS プッシュボタンがある場合に使用できます。WPS プッシュボタンを押した後にカメラの㊎ ボタンを押すと、無線 LAN アクセスポイントに接続できます。
［WPS PIN コード方式］	カメラに PIN コードが表示されます。パソコンを使用して無線 LAN アクセスポイントに PIN コードを入力します。無線 LAN アクセスポイントに PIN コードを入力する方法については、お使いの無線 LAN アクセスポイントの使用説明書をご覧ください。

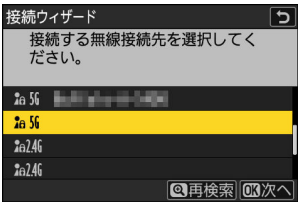
- 接続が完了したら、手順 7 に進んでください。

5 接続先の SSID を選ぶ



- 接続先の SSID を選んで ⓚ ボタンを押します。
- 検出された SSID の周波数帯をアイコンで確認できます。
- 暗号ありの SSID には 🔒 が表示されます。暗号あり 🔒 の SSID を選んだ場合は、暗号キーの設定画面が表示されます。暗号なしの接続先を選んだ場合は手順 7 へお進みください。
- 🔍 ボタンを押すと無線接続先を再検索します。

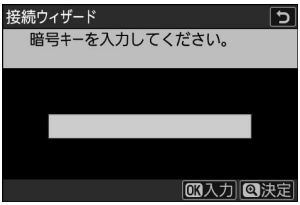
☑ SSID が非公開に設定されている場合



無線 LAN アクセスポイントが SSID を非公開に設定している場合、検出された SSID 一覧に SSID 名が表示されません。

- 非公開の SSID に接続したい場合、空欄になっている項目を選択して ⓚ ボタンを押してください。続いて ⓚ ボタンを押すと、SSID 入力画面になります。
- 接続したい SSID 名を入力し、🔍 ボタンを押してください。もう一度 🔍 ボタンを押すと、暗号キーの設定画面が表示されます。

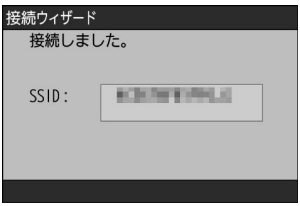
6 暗号キーを入力する



- ⓚ ボタンを押して、無線 LAN アクセスポイントで使用している暗号キーを入力します。



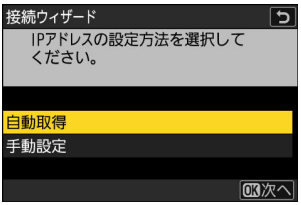
- 無線 LAN アクセスポイントの暗号キーについては、無線 LAN アクセスポイントの使用説明書などをご覧ください。
- ⊕ ボタンを押して、暗号キーの入力を完了します。



- もう一度 ⊕ ボタンを押すと、接続を開始します。接続に成功すると、図のような画面が数秒間表示されます。

7 IP アドレスの設定方法を選んで設定する

IP アドレスの設定方法を選んで ⓞⓚ ボタンを押します。



設定方法	内容
［**自動取得**］	カメラが自動で IP アドレスを取得します。IP アドレスを取得すると IP アドレス設定完了画面が表示されます。 • この後の手順でリモートカメラの IP アドレスを入力する必要があるため、リモートカメラに設定するカメラでは IP アドレスを控えておくことをおすすめします。
［**手動設定**］	IP アドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • ⓞⓚ ボタンを押すと、IP アドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶ を押して数値を変更し、ⓞⓚ ボタンを押して決定します。 • ⊕ ボタンを押すと、IP アドレス設定完了画面が表示されます。再度 ⊕ ボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは ▲▼ を押して数値を変更し、ⓞⓚ ボタンを押して決定すると、IP アドレス設定完了画面が表示されます。

8 IP アドレス設定完了画面が表示されたら ⓞⓚ ボタンを押す

無線接続が開始され、カメラがアクセスポイントに接続されると、接続設定名が表示されます。

9 [マスター/リモート選択] を選んで ⊛ を押す



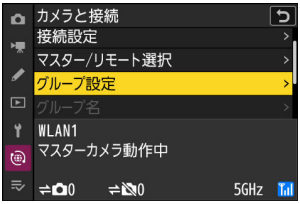
カメラをマスターカメラにするか、リモートカメラにするかを設定できます。

- [**マスターカメラ**]：マスターカメラに設定したカメラのレリーズボタンを押すと、連動してリモートカメラのシャッターがきれます。マスターカメラは 1 台のみ設定してください。複数のカメラをマスターカメラに設定した場合、最初にネットワークに接続したカメラがマスターカメラとして使用できます。
- [**リモートカメラ**]：マスターカメラのレリーズに連動してシャッターがきれます。

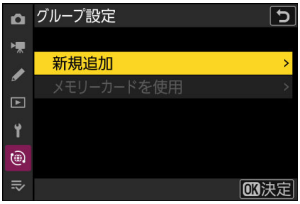
10 連動レリーズを行う全てのカメラで手順 1 から 9 を繰り返す

リモートカメラに設定するカメラは手順 9 で［**リモートカメラ**］を選んでください。

11 マスターカメラで［グループ設定］を選んで ⊛ を押す



12 [新規追加] を選び、OK ボタンを押す



13 グループの表示名を入力する



- リモートカメラを登録するグループの表示名を設定します。表示名は 32 文字まで入力できます。
- ⊕ ボタンを押して決定します。

14 ［グループ名］を選んで ⊛ を押し、グループ名を設定する

連動レリーズを行うカメラのグループ名を設定できます。グループ名は 8 文字まで入力できます。



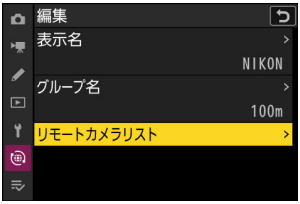
リモートカメラに［グループ名］を設定する

マスターカメラで設定したグループ名をリモートカメラにも設定してください。グループ名の設定はネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**グループ名**］で行えます。



15 ［リモートカメラリスト］を選んで ⊛ を押す

グループ設定内で使用するリモートカメラを登録します。リモートカメラは［**01**］～［**16**］まで最大 16 台登録できます。



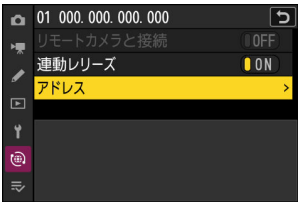
16 リモートカメラの登録先を選んで ⊛ を押す

リモートカメラの設定画面が表示されます。



17 ［アドレス］を選んで ⊛ を押す

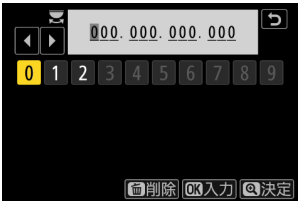
IP アドレス入力画面が表示されます。



18 リモートカメラの IP アドレスを入力する

手順 7 で取得または設定したリモートカメラの IP アドレスを入力します。

- メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。
- ◀▶ を押して数値を変更し、OK ボタンを押して決定します。
- Q ボタンを押すと、リモートカメラがマスターカメラに登録されてカメラ同士が接続されます。



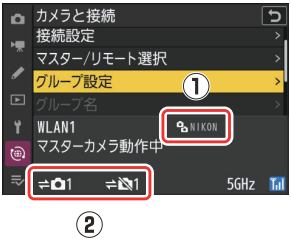
ヒント：リモートカメラの IP アドレスを確認する

リモートカメラの IP アドレスは、それぞれのカメラのネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**接続設定**］で連動レリーズ用の接続設定を選んで ⊛ を押し、［**TCP/IP**］を選ぶと確認できます。



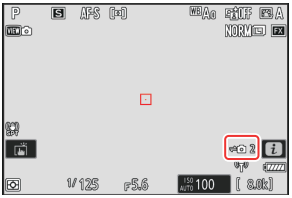
19 すべてのリモートカメラの登録を行う

- 無線接続している場合、接続している SSID の周波数帯が表示されます。
- マスターカメラに手順 13 で設定したグループの表示名（①）と、接続済みおよび未接続のリモートカメラの台数（②）が表示されます。

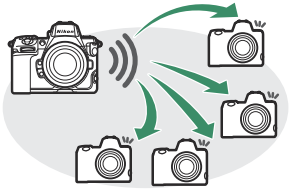


20 撮影する

- マスターカメラの撮影画面に ⇌📷 アイコンと接続済みのリモートカメラの台数が表示されます。



- マスターカメラのレリーズボタンを押すと、連動してリモートカメラが動作します。



接続エラーが発生している場合

接続エラーが発生しているリモートカメラがある場合、台数表示が赤く変化し、接続できていないリモートカメラの台数が表示されます。

有線 LAN で接続する

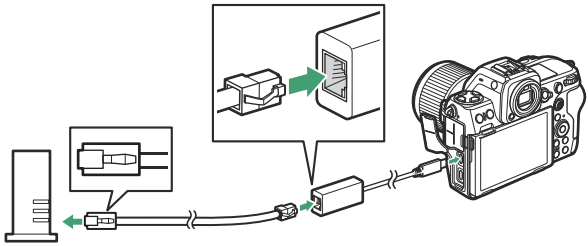
有線 LAN 接続用の接続設定を作成します。このカメラと他のカメラを有線 LAN で接続するには、市販の USB Type-C 端子の USB-LAN 変換アダプターが必要です。このカメラの USB 通信専用端子に接続してください。

- 動作確認済みの USB-LAN 変換アダプターは次の通りです。
  - Anker PowerExpand USB-C&イーサネット アダプタ A83130A1
  - Anker PowerExpand USB-C&イーサネット アダプタ A83130A2
- USB-LAN 変換アダプターは、カメラの USB 充給電専用端子に接続すると機能しませんのでご注意ください。

カメラに市販の USB Type-C 端子の USB-LAN 変換アダプターを接続してイーサネットケーブルを差し込むと、他のカメラと有線 LAN 接続できます。

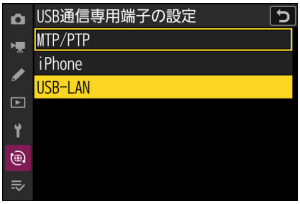
1 カメラの USB 通信専用端子に市販の USB-LAN 変換アダプターを接続し、イーサネットケーブルでルーターと接続する

- USB-LAN 変換アダプターの LAN 端子にイーサネットケーブルを差し込みます。ケーブルは無理な力を加えず、端子に真っ直ぐに差し込んでください。
- ケーブルの反対側の端子はルーターに接続してください。

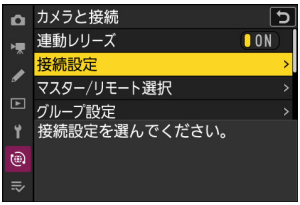


- 接続する全てのリモートカメラをイーサネットケーブルでルーターに接続してください。

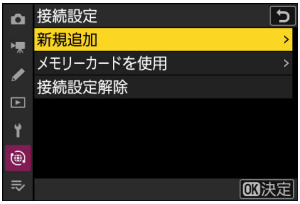
2 ネットワークメニュー［USB 通信専用端子の設定］を［USB-LAN］に設定する



3 ネットワークメニュー［カメラと接続］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの ▶ を押す



4 ［新規追加］を選び、OK ボタンを押す



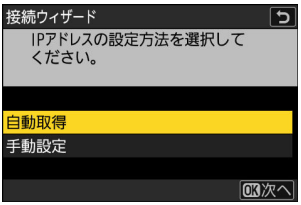
5 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのまま 🔍 ボタンを押すと、IP アドレスの設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、ネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、OK ボタンを押します。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（📖 66）をご覧ください。任意の接続設定名を入力して 🔍 ボタンを押すと、接続設定名を決定します。
- USB-LAN 変換アダプターの認識に時間がかかる場合があります。接続設定名が「WLAN1」と表示されている場合、有線 LAN を認識できずに、無線 LAN への接続設定になっています。↩ をタッチするか、マルチセレクターの ◀ を押して手順 4 の画面に戻り、約 10 秒程度待ってから再度設定を行ってください。

6 IP アドレスの設定方法を選んで設定する

IP アドレスの設定方法を選んで ⓚ ボタンを押します。

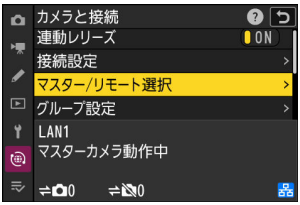


設定方法	内容
［**自動取得**］	カメラが自動で IP アドレスを取得します。IP アドレスを取得すると IP アドレス設定完了画面が表示されます。 • この後の手順でリモートカメラの IP アドレスを入力する必要があるため、リモートカメラに設定するカメラでは IP アドレスを控えておくことをおすすめします。
［**手動設定**］	IP アドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • ⓚ ボタンを押すと、IP アドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶ を押して数値を変更し、ⓚ ボタンを押して決定します。 • 🔍 ボタンを押すと、IP アドレス設定完了画面が表示されます。再度 🔍 ボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは ▲▼ を押して数値を変更し、ⓚ ボタンを押して決定すると、IP アドレス設定完了画面が表示されます。

7 IP アドレス設定完了画面が表示されたら ⓚ ボタンを押す

接続が開始されます。カメラがネットワークに接続されると、接続設定名が表示されます。

8 [マスター/リモート選択] を選んで ⊛ を押す



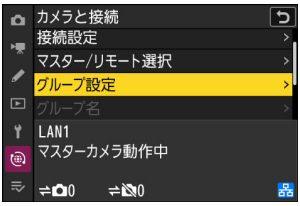
カメラをマスターカメラにするか、リモートカメラにするかを設定できます。

- [**マスターカメラ**]：マスターカメラに設定したカメラのレリーズボタンを押すと、連動してリモートカメラのシャッターがきれます。マスターカメラは 1 台のみ設定してください。複数のカメラをマスターカメラに設定した場合、最初にネットワークに接続したカメラがマスターカメラとして使用できます。
- [**リモートカメラ**]：マスターカメラのレリーズに連動してシャッターがきれます。

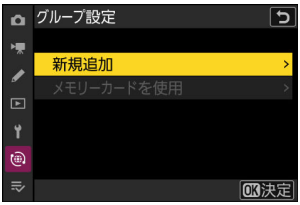
9 連動レリーズを行う全てのカメラで手順 3 から 8 を繰り返す

- リモートカメラに別の Z 8 を使用する場合は、手順 2 から 8 を繰り返してください。
- リモートカメラに設定するカメラは手順 8 で［**リモートカメラ**］を選んでください。

10 マスターカメラで［グループ設定］を選んで ⊛ を押す



11 [新規追加] を選び、OK ボタンを押す



12 グループの表示名を入力する



- リモートカメラを登録するグループの表示名を設定します。表示名は 32 文字まで入力できます。
- Q ボタンを押して決定します。

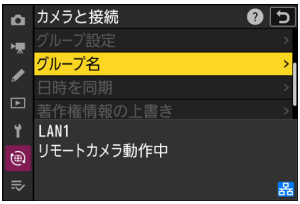
13 ［グループ名］を選んで ⊛ を押し、グループ名を設定する

連動レリーズを行うカメラのグループ名を設定できます。グループ名は 8 文字まで入力できます。



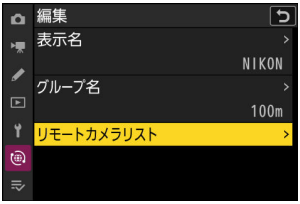
リモートカメラに［グループ名］を設定する

マスターカメラで設定したグループ名をリモートカメラにも設定してください。グループ名の設定はネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**グループ名**］で行えます。



14 ［リモートカメラリスト］を選んで ⊛ を押す

グループ設定内で使用するリモートカメラを登録します。リモートカメラは［**01**］～［**16**］まで最大 16 台登録できます。



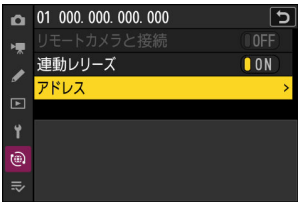
15 リモートカメラの登録先を選んで ⊛ を押す

リモートカメラの設定画面が表示されます。



16 [アドレス] を選んで ▶ を押す

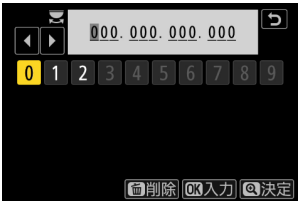
IP アドレス入力画面が表示されます。



17 リモートカメラの IP アドレスを入力する

手順 6 で取得または設定したリモートカメラの IP アドレスを入力します。

- メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。
- ◀▶ を押して数値を変更し、OK ボタンを押して決定します。
- Q ボタンを押すと、リモートカメラがマスターカメラに登録されてカメラ同士が接続されます。



ヒント：リモートカメラの IP アドレスを確認する

リモートカメラの IP アドレスは、それぞれのカメラのネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**接続設定**］で連動レリーズ用の接続設定を選んで ▶ を押し、［**TCP/IP**］を選ぶと確認できます。



---

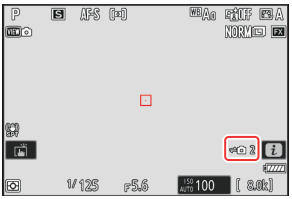
18 すべてのリモートカメラの登録を行う

マスターカメラに手順 12 で設定したグループの表示名（①）と、接続済みおよび未接続のリモートカメラの台数（②）が表示されます。

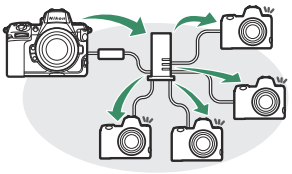


19 撮影する

- マスターカメラの撮影画面に ⇌📷 アイコンと接続済みのリモートカメラの台数が表示されます。



- マスターカメラのレリーズボタンを押すと、連動してリモートカメラが動作します。

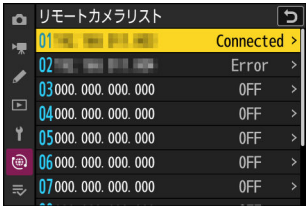


接続エラーが発生している場合

接続エラーが発生しているリモートカメラがある場合、台数表示が赤く変化し、接続できていないリモートカメラの台数が表示されます。

ヒント：一時的に連動レリーズをオフにするには
ネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**連動レリーズ**］を［**OFF**］に設定すると、カメラの接続を維持したまま連動レリーズ機能をオフにできます。

ヒント：リモートカメラの状態を確認する
マスターカメラでネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**グループ設定**］>［(グループ表示名)］>［**リモートカメラリスト**］を選んで ⊛ を押すと、リモートカメラの状態を確認できます。



- リモートカメラの個体は IP アドレスで判別できます。
- リモートカメラの接続状況が表示されています。
  - ［**Connected**］：正しく接続されています。
  - ［**Busy**］：他のマスターカメラがリモートカメラを制御しています。
  - ［**Error**］：次のいずれかの状態になっています。
    - リモートカメラの半押しタイマーがオフ
    - リモートカメラの電源が OFF
    - マスターカメラとリモートカメラのグループ名が異なる
    - IP アドレスが間違っている
  - ［**OFF**］：次のいずれかの状態になっています。
    - リモートカメラが未登録
    - ［**リモートカメラと接続**］が［**OFF**］
- ［**Connected**］と表示されているリモートカメラを選んで ⊛ を押すと、FTP 送信残数、FTP 接続状態、バッテリー残量、撮影可能枚数を確認できます。
- 一度連動レリーズを行うと、各リモートカメラの最後の撮影時刻が表示されます。



- リモートカメラを選んで ⊛ を押すと、選んだリモートカメラの設定をマスターカメラから変更できます。
  - ［**リモートカメラと接続**］を［**OFF**］に設定すると、リモートカメラとの接続を一時的に解除できます。
  - ［**連動レリーズ**］を［**OFF**］に設定すると、マスターカメラからリモートカメラの連動レリーズを一時的にオフにできます。
  - ［**アドレス**］を選んで ⊛ を押すと、リモートカメラの IP アドレスを指定できます。IP アドレス設定後、［**リモートカメラと接続**］を［**ON**］にするとリモートカメラに接続できます。指定した IP アドレスのリモートカメラが存在しない場合、接続できません。

ヒント：グループ設定をメモリーカードに保存する
ネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**グループ設定**］>［**メモリーカードを使用**］>［**メモリーカードにコピー**］を選んで ▶ を押し、メモリーカードにコピーしたいグループ設定を選んで ▶ を押します。コピー先（1～99）を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、選んだグループ設定がメモリーカードにコピーされます。保存したグループ設定は［**カメラに登録**］で登録できます。

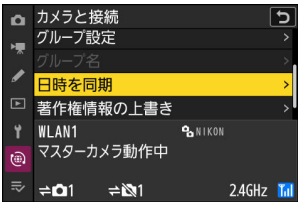
カメラの時計を同期する

ネットワークメニュー［**カメラと接続**］でネットワークに接続している同一グループ内全てのカメラの日時を、マスターカメラに合わせて同期できます。日時情報にはセットアップメニュー［**タイムゾーンと日時**］の全ての内容が含まれます。

1 日時を同期するカメラをネットワークメニュー［カメラと接続］>［接続設定］でネットワークに接続する

接続設定の作成方法は「連動レリーズモードを使用する」をご覧ください（🕮 359）。

2 マスターカメラでネットワークメニュー［カメラと接続］>［日時を同期］を選んで ⊛ を押す



- マスターカメラに設定されている日時が表示されます。
- リモートカメラでは［**日時を同期**］を選べません。
- ネットワーク接続しているカメラが 1 台もない場合は［**日時を同期**］を選べません。

3 ⊛ ボタンを押す

- リモートカメラの日時設定が同期されます。
- 日時の同期が成功すると、メッセージが表示されます。
- もう一度 ⊛ ボタンを押すと、［**カメラと接続**］に戻ります。

フラッシュ撮影

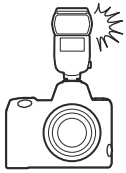
フラッシュ撮影の方法

このカメラで別売スピードライトを使用するには、次の方法があります。

- フラッシュ撮影時はセットアップメニュー［**サイレントモード**］を［**OFF**］に設定してください。

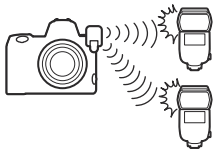
一灯撮影

カメラに装着した別売スピードライトを発光させて撮影します。次ページ以降で詳しく説明します（📖 379）。



増灯撮影

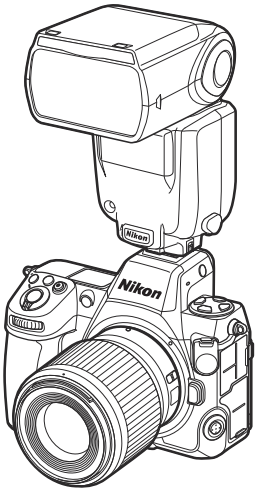
カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL））。詳しくは「増灯撮影とは」（📖 388）をご覧ください。



別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影）

1 カメラのアクセサリーシューにスピードライトを装着する

スピードライトの装着方法については、お使いになる各スピードライトの説明書をご覧ください。



2 カメラとスピードライトの電源を ON にする

スピードライトの充電が開始され、撮影ができる状態になると撮影画面に ϟ（レディーライト）が点灯します。

3 発光モード（🕮 381）とフラッシュモード（🕮 383）を設定する

4 シャッタースピード、絞り値を設定する

5 撮影する

別売スピードライト使用時のシャッタースピード

別売のスピードライト使用時にカメラで設定できるシャッタースピードは次の通りです。

撮影モード	設定可能なシャッタースピード
P、**A**	カメラが自動的に 1/200～1/60 秒にセット※
S	1/200～30 秒
M	1/200～30 秒、**Bulb**（バルブ）、**Time**（タイム）

※ フラッシュモードをスローシンクロモード、後幕発光、赤目軽減スローシンクロモードに設定している場合は、シャッタースピードが最長 30 秒まで延長されます。

他社製フラッシュについてのご注意

カメラの X 接点に 250V 以上の電圧がかかるフラッシュや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうフラッシュを使用することはできません。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

スピードライトの調光方式について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトをカメラに装着し、スピードライトの発光モードを TTL にセットすると、モニター発光を行う専用 TTL モード（i-TTL モード）になり、i-TTL-BL 調光などによるフラッシュ撮影ができます。ニコンクリエイティブライティングシステム非対応のスピードライトでは、i-TTL モードでの撮影はできません。i-TTL モード時は、次のような調光方式が利用できます。

調光方式	内容
i-TTL-BL 調光	主要被写体と背景光のバランスを考慮した BL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前にスピードライトがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。
スタンダード i-TTL 調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

- カメラの測光モードが［**スポット測光**］に設定されている場合、自動的にスタンダード i-TTL 調光になります。

カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する



ユニファイドフラッシュコントロール（🕮 382）に対応した別売スピードライト SB-5000、SB-500、SB-400、または SB-300 をカメラに装着した場合、スピードライトの発光モードや補正量などは、静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］>［**発光モード**］で設定できます。選べる発光モードは装着したスピードライトによって異なります。選んだ項目によって［**発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更されます。

- SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300 以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。
- SB-5000 はスピードライト本体でも設定できます。

項目	内容
［**TTL 調光**］	• スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。 • ［**TTL 調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。
［**外部自動調光**］	• スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。 • ［**外部自動調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。 • 「絞り連動外部自動調光」（**A**）と「外部自動調光」（**A**）があります。詳しくはご使用のスピードライトの説明書をご覧ください。
［**距離優先マニュアル発光**］	• スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。 • ［**距離優先マニュアル発光設定**］>［**距離**］で被写体までの距離を、［**調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。
［**マニュアル発光**］	• 指定した発光量でスピードライトが発光します。 • ［**マニュアル発光量**］でスピードライトの発光量を設定します。

項目	内容
［**リピーティング発光**］	• 1 回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。 • ［**リピーティング発光設定**］>［**発光量**］でスピードライトの発光量を、［**回数**］で連続発光する回数を設定できます。［**周波数**］で発光周波数（1 秒あたりの発光回数）を Hz（ヘルツ）単位で設定できます。 • 最大連続発光回数は［**発光量**］と［**周波数**］の組み合わせにより異なります。詳しくはご使用のスピードライトの説明書をご覧ください。

☑ ユニファイドフラッシュコントロールについて

ユニファイドフラッシュコントロールは、フラッシュ発光に関する各種設定をスピードライトとカメラで共有できる機能です。カメラや別売の Camera Control Pro 2 からスピードライトの設定を変更したり、スピードライトで変更した設定をカメラや Camera Control Pro 2 に反映したりできます。カメラに装着するスピードライトは、ユニファイドフラッシュコントロールに対応している必要があります。

フラッシュモードを設定する

静止画撮影メニュー［**フラッシュモード**］を設定すると、フラッシュの効果を変えることができます。

- 設定できるフラッシュモードは、撮影モードにより異なります。

項目		内容	撮影モード
	［**通常発光**］（先幕シンクロ）	通常のフラッシュ撮影の場合はこのモードに設定します。撮影モードを **P** または **A** にセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを 1/200～1/60 秒（オート FP ハイスピードシンクロ時は 1/8000 ～ 1/60 秒）に自動的にセットします。	**P**、**S**、**A**、**M**
	［**赤目軽減発光**］（赤目軽減）	人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、スピードライトの赤目軽減発光やカメラの赤目軽減ランプ点灯により、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。 • シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。	**P**、**S**、**A**、**M**
SLOW	［**通常発光+スローシャッター**］（スローシンクロ）	通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**A**

項目		内容	撮影モード
SLOW	［**赤目軽減+スローシャッター**］（赤目軽減スローシンクロ）	夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**A**
REAR	［**後幕発光**］（後幕シンクロ）	通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光しますが、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。 • 撮影モードを **P** または **A** に設定した場合、スローシンクロモードも自動的にセットされます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**S**、**A**、**M**
	［**発光禁止**］	発光しません。	**P**、**S**、**A**、**M**

スタジオ用大型ストロボ使用時について

後幕発光を使用する場合、スタジオ用大型ストロボによっては正しく同調できないことがあります。

調光補正してフラッシュの発光量を変更する

調光補正とはフラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

調光補正の設定方法



静止画撮影メニュー［**フラッシュ調光補正**］で調光補正値を設定できます。

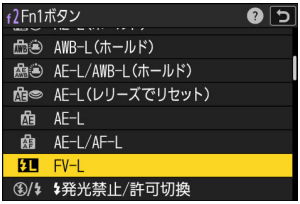
- 調光補正は、−3 段～＋ 1 段の範囲で設定できます。
- 補正ステップは、初期設定では 1/3 段ステップです。調光補正のステップ幅は、カスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］で変更できます。
- 被写体をより明るく照らしたいときは＋側に、被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときは－側に補正してください。
- 調光補正が設定されていると、撮影画面と表示パネルに ⚡ マークが表示されます。
- 調光補正を解除するには、補正量を 0.0 にしてください。カメラの電源を OFF にしても、補正量の設定は解除されません。

FV ロックして調光量を固定する

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時は、調光量を固定（FV ロック）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FV ロック中にカメラの ISO 感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることにより FV ロックは維持されます。

1 カスタムメニュー f2［カスタムボタンの機能（撮影）］で任意のボタンに［FV-L］を割り当てる



2 FV ロック対応スピードライトをカメラのアクセサリーシューに装着する

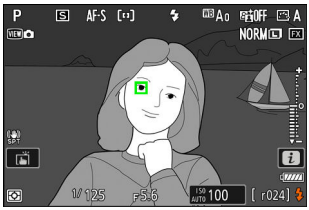
3 スピードライトの電源を ON にし、発光モードを TTL または「モニター発光あり」の ㊊A または A のいずれかにセットする

- SB-5000、SB-500、SB-400、または SB-300 をカメラに装着した場合、静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］>［**発光モード**］を［**TTL 調光**］または［**外部自動調光**］に設定します。
- SB-5000、SB-500、SB-400、または SB-300 以外のスピードライトをカメラに装着した場合の発光モードについては、スピードライトの説明書をご覧ください。

4 被写体にピントを合わせる

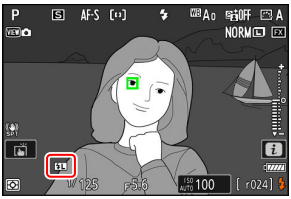
発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



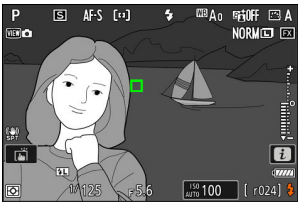


5 モニター発光を行う

- 撮影画面に ϟ が点灯していることを確認し、［**FV-L**］を割り当てたボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FV ロックが行われ、撮影画面に FV ロックマーク（FL）が表示されます。



6 構図を変更する



7 シャッターボタンを全押しして撮影する

FV ロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順 6～7 を繰り返してください。

8 FV ロックを解除する

もう一度［**FV-L**］を割り当てたボタンを押すと、FV ロックが解除され、撮影画面の FV ロックマーク（FL）が消灯します。

フラッシュ増灯撮影

増灯撮影とは

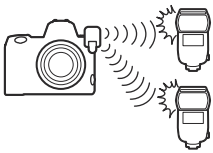
カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL））。カメラにスピードライトを装着して撮影する方法については、「別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影）」（📖 379）をご覧ください。

この章では、カメラおよびカメラに装着している機器での操作を 📷、リモートフラッシュとして使用するスピードライトでの操作を 🔦 で表しています。🔦 の手順での詳しい設定方法などは、スピードライトの説明書をご覧ください。

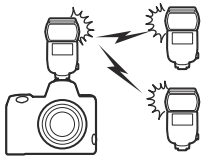
増灯撮影の方法について

増灯撮影には次の方法があります。

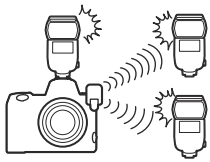
- **電波でリモートフラッシュを制御する** ※（📖 389）



- **カメラに装着したスピードライトの光でリモートフラッシュを制御する**（📖 400）



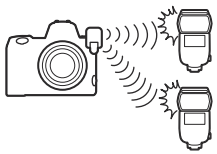
- **電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる** ※（📖 399）



※ 電波でリモートフラッシュを制御するには、カメラに WR-R11a または WR-R10 を装着する必要があります。

電波でリモートフラッシュを制御する

カメラに装着した WR-R11a または WR-R10 からの電波によって電波制御に対応したリモートフラッシュを制御することを電波制御アドバンストワイヤレスライティングと呼びます。電波制御に対応するスピードライトは SB-5000 です。



電波制御の準備をする

電波制御するには、カメラに装着した WR-R11a または WR-R10 とリモートフラッシュを無線接続する必要があります。

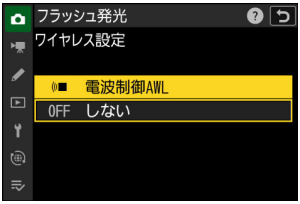
ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 について

- カメラに装着するには、WR 用変換アダプター WR-A10 が必要です。
- 別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 を使って電波制御アドバンストワイヤレスライティングを行うためには、WR-R10 のファームウェアを Ver.3.0 以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

1 : WR-R11a/WR-R10 をカメラに装着する

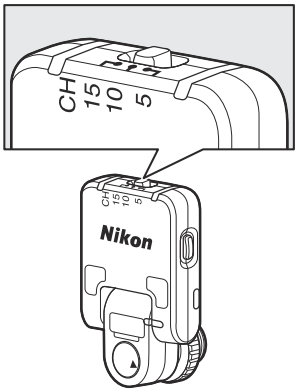
装着方法については、WR-R11a/WR-R10 の説明書をご覧ください。

2 : 静止画撮影メニュー［フラッシュ発光］>［ワイヤレス設定］で［電波制御 AWL］を選ぶ



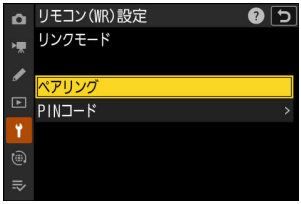
3 📷：WR-R11a/WR-R10 のチャンネルを設定する

WR-R11a/WR-R10 のチャンネル切り換えスイッチを任意のチャンネルに設定します。



4 📷：WR-R11a/WR-R10 のリンクモードを設定する

カメラのセットアップメニュー［**リモコン（WR）設定**］>［**リンクモード**］で次のどちらかを設定します。



項目	内容
［**ペアリング**］	ペアリングを実行した機器のみと通信を行うモードです。 • ペアリングを行っていない機材とは通信しないため、近くで他の機材を使用した撮影が行われていても混信しません。 • ペアリングの実行は 1 台ずつ行うため、使用する機材が多い場合は PIN コードの使用をおすすめします。
［**PIN コード**］	同一の 4 桁の数字（PIN コード）が設定された機器同士で通信を行うモードです。 • 使用する機材が多い場合などにおすすめします。 • 同じ PIN コードに設定したカメラが複数台ある場合、最初にスピードライトと接続したカメラだけがそのスピードライトを制御できます（その他のカメラは未接続状態となり、WR-R11a/WR-R10 の LED ランプが点滅します）。

5 : リモートフラッシュと WR-R11a/WR-R10 を接続する

- スピードライトを電波制御リモートモードにします。
- リモートフラッシュのチャンネルは必ず手順 3 で設定した WR-R11a/WR-R10 のチャンネルと同じものを設定してください。
- リモートフラッシュのリンクモードは手順 4 で設定した WR-R11a/WR-R10 のリンクモードと同じものを設定してください。

  - ［**ペアリング**］を選んだ場合、リモートフラッシュでペアリングを開始すると同時に WR-R11a/WR-R10 のペアリングボタンを押します。ペアリングが完了すると、WR-R11a/WR-R10 とリモートフラッシュの LINK ライトが緑とオレンジの点滅を行います。接続が完了すると、リモートフラッシュの LINK ライトが緑色に点灯します。
  - ［**PIN コード**］を選んだ場合、カメラで入力したものと同じ PIN コードをリモートフラッシュで入力します。PIN コードの入力が完了すると、自動で接続を開始します。接続が完了すると、リモートフラッシュの LINK ライトが緑色に点灯します。

6 : 使用する全てのリモートフラッシュで手順 5 を繰り返す

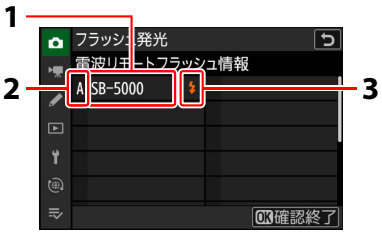
7 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認する

電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、撮影画面にレディーライトが点灯します。

電波制御で接続しているスピードライトをカメラで一覧表示する

カメラの静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］>［**電波リモートフラッシュ情報**］では、接続中のスピードライトを一覧表示できます。

- 一覧表示するときの識別用の名前は、スピードライト側で設定できます（リモートフラッシュネーム設定）。



1 接続しているスピードライト
2 グループ
3 レディーライト

一度接続したスピードライトと再度接続する場合

チャンネルやリンクモードの設定を変更していない場合、手順 3～6 を行わずにスピードライトをリモートモードにするだけで WR-R11a/WR-R10 と接続できます。接続が完了すると、スピードライトの LINK ライトが緑色に点灯します。

増灯発光モードを設定して撮影する

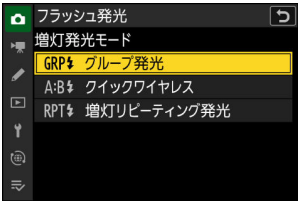
静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］>［**増灯発光モード**］を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。



グループ発光モードで撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

1 **:［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［グループ発光］を選ぶ**



2 **:［フラッシュ発光］画面で［グループ発光設定］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す**



3 📷：発光モードと調光補正量（または発光量）を設定する

- リモートフラッシュグループの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。



- 設定できる発光モードは次の通りです。

項目	内容
TTL	i-TTL 調光を行います。
㊎A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
– –（非発光）	リモートフラッシュは発光しません。［**補正量**］は設定できません。

4 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～F のグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で 18 台までです。

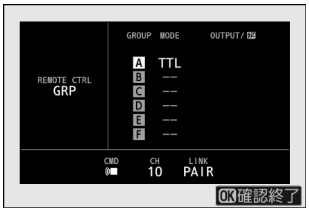
5 📷/：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、カスタムメニュー f1［**メニューのカスタマイズ**］で［**テスト発光**］を割り当て、**i** メニューで実行してください。

6 📷：撮影する

ヒント：設定したグループ発光モードの設定を確認する

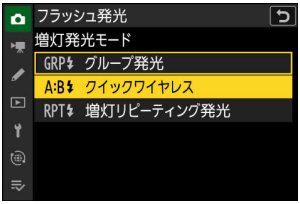
カスタムメニュー f1［**メニューのカスタマイズ**］で［**フラッシュインフォ**］を割り当てると、設定したグループ発光モードの内容を i メニューで確認できます。



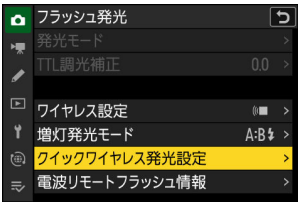
クイックワイヤレスモードで撮影する

リモートフラッシュの A グループと B グループの光量比、および C グループの発光量を設定します。C グループはマニュアル発光のみ使用できます。

1 **：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［クイックワイヤレス］を選ぶ**



2 **：［フラッシュ発光］画面で［クイックワイヤレス発光設定］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す**



3 : クイックワイヤレスモードの設定をする

- **A グループと B グループの光量比を設定する**



- **A グループと B グループの調光補正量を設定する**



- **C グループの設定をする**



  - [**M**] に設定すると発光し、[**– –**] に設定すると発光しません。
  - [**M**] にした場合は設定した発光量で C グループが発光します。

4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～C のグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で 18 台までです。

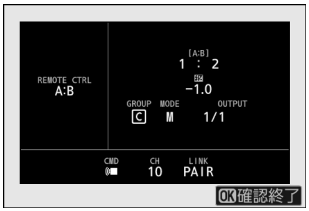
5 /: 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、カスタムメニュー f1 [**メニューのカスタマイズ**] で [**テスト発光**] を割り当て、**i** メニューで実行してください。

6 : 撮影する

ヒント：設定したクイックワイヤレスモードの設定を確認する

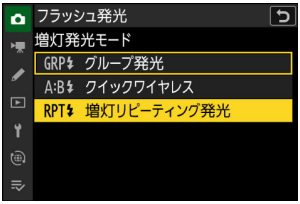
カスタムメニュー f1［**メニューのカスタマイズ**］で［**フラッシュインフォ**］を割り当てると、設定したクイックワイヤレスモードの内容を i メニューで確認できます。



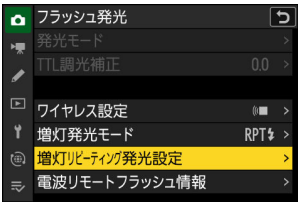
増灯リピーティング発光モードで撮影する

1 回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

1 **：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［増灯リピーティング発光］を選ぶ**



2 **：［フラッシュ発光］画面で［増灯リピーティング発光設定］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す**



3 : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- **発光量、発光回数、周波数を設定する**



- **発光するかどうかをグループごとに設定する**

  - [**ON**] に設定すると発光し、[**– –**] に設定すると発光しません。



4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～F のグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で 18 台までです。

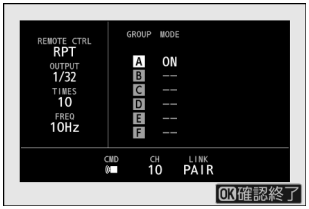
5 / : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、カスタムメニュー f1 [**メニューのカスタマイズ**] で [**テスト発光**] を割り当て、i メニューで実行してください。

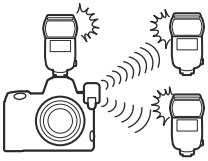
6 : 撮影する

ヒント : 設定した増灯リピーティング発光の設定を確認する

カスタムメニュー f1 [**メニューのカスタマイズ**] で [**フラッシュインフォ**] を割り当てると、設定した増灯リピーティング発光の内容を i メニューで確認できます。



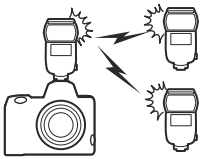
電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる



電波制御でワイヤレス増灯をした場合（389）に、電波制御で接続したリモートフラッシュに加えてアクセサリーシューに装着したスピードライトも発光させることができます。

- SB-5000 の場合、スピードライトで電波制御マスターモード（画面左上に が表示されている状態）に設定し、グループ発光または増灯リピーティング発光を選んで装着してください。装着した SB-5000 の設定は、スピードライト本体またはカメラで行えます。カメラで行う場合、グループ発光は［**グループ発光設定**］>［**マスターフラッシュ**］、増灯リピーティング発光は［**増灯リピーティング発光設定**］>［**M**］（マスターフラッシュ）で設定してください。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600 の場合、1 灯で使用する設定にして装着してください。発光モードや補正量はスピードライト側で設定してください。
- SB-500、SB-400、SB-300 の場合、そのまま装着してください。発光モードや補正量はカメラの［**グループ発光設定**］>［**マスターフラッシュ**］で設定してください。

光でリモートフラッシュを制御する

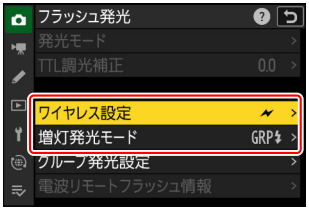


カメラに装着したスピードライトをマスターフラッシュとして使用し、リモートフラッシュを光で制御することを光制御アドバンストワイヤレスライティングと呼びます。光制御に対応するスピードライトについては「ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで使用できる機能」（🕮 860）をご覧ください。

- SB-5000 または SB-500 をマスターフラッシュとして使用する場合は、スピードライトの設定をカメラ側で行います。詳しくは「SB-5000 または SB-500 を使用して撮影する」（🕮 401）をご覧ください。リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの説明書をご覧ください。
- SB-5000 または SB-500 以外のスピードライトを使用する場合は、スピードライト側で設定を行う必要があります。詳しくは、スピードライトの説明書をご覧ください。

SB-5000 または SB-500 を使用して撮影する

SB-5000 または SB-500 をカメラのアクセサリーシューに装着します。静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］>［**ワイヤレス設定**］で［**光制御 AWL**］を選び、増灯発光モード（SB-500 は［**グループ発光**］のみ）を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。



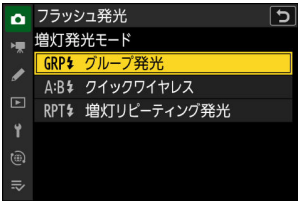
SB-5000 装着時の設定について

SB-5000 を装着している場合は、［**フラッシュ発光**］の設定をスピードライト側でも変更できます。

グループ発光モードで撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

1 **：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［グループ発光］を選ぶ**



2 **：［フラッシュ発光］画面で［グループ発光設定］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す**



3 📷：発光モードと調光補正量（または発光量）、チャンネルを設定する



- マスターフラッシュおよびリモートフラッシュグループそれぞれの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。

項目	内容
TTL	i-TTL 調光を行います。
㊎A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
– –（非発光）	リモートフラッシュは発光しません。［**補正量**］は設定できません。



- ［**チャンネル**］で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
- SB-500 をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを［**3**］に設定してください。

4 ：リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順 3 の［**チャンネル**］で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～C のグループを設定できます。
- SB-500 をマスターフラッシュにしている場合、設定できるグループは A と B のみになります。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ 3 台程度が目安です。

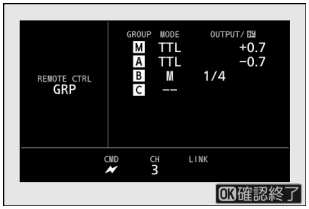
6 : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、カスタムメニュー f1［**メニューのカスタマイズ**］で［**テスト発光**］を割り当て、i メニューで実行してください。

7 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

ヒント：設定したグループ発光モードの設定を確認する

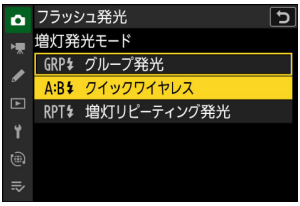
カスタムメニュー f1［**メニューのカスタマイズ**］で［**フラッシュインフォ**］を割り当てると、設定したグループ発光モードの内容を i メニューで確認できます。



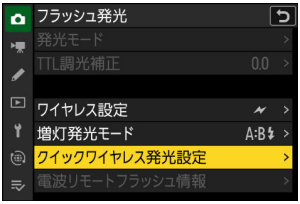
クイックワイヤレスモードで撮影する（SB-5000 のみ）

リモートフラッシュの A グループと B グループの光量比、および C グループの発光量を設定して撮影します。C グループはマニュアル発光のみ使用できます。

1 : ［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［クイックワイヤレス］を選ぶ



2 : ［フラッシュ発光］画面で［クイックワイヤレス発光設定］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す



3 : クイックワイヤレスモードの設定をする

- **A グループと B グループの光量比を設定する**



- **A グループと B グループの調光補正量を設定する**



- **C グループの設定をする**



  - [**M**] に設定すると発光し、[**– –**] に設定すると発光しません。
  - [**M**] にした場合は設定した発光量で C グループが発光します。

- **チャンネルを設定する**



  - [**チャンネル**] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
  - SB-500 をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [**3**] に設定してください。

4 : リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順 3 の [**チャンネル**] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～C のグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ 3 台程度が目安です。

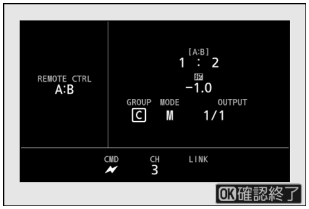
6 /：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、カスタムメニュー f1［**メニューのカスタマイズ**］で［**テスト発光**］を割り当て、i メニューで実行してください。

7 /：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

ヒント：設定したクイックワイヤレスモードの設定を確認する

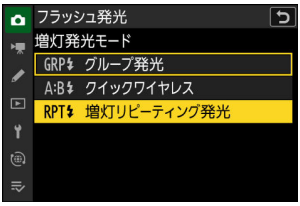
カスタムメニュー f1［**メニューのカスタマイズ**］で［**フラッシュインフォ**］を割り当てると、設定したクイックワイヤレスモードの内容を i メニューで確認できます。



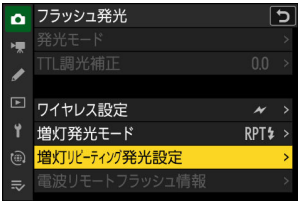
増灯リピーティング発光モードで撮影する（SB-5000 のみ）

1 回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

1 ：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［増灯リピーティング発光］を選ぶ



2 ：［フラッシュ発光］画面で［増灯リピーティング発光設定］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す



3 : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- **発光量、発光回数、周波数を設定する**



- **発光するかどうかをグループごとに設定する**

  - [**ON**] に設定すると発光し、[**--**] に設定すると発光しません。



- **チャンネルを設定する**

  - [**チャンネル**] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
  - SB-500 をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [**3**] に設定してください。



4 : リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順 3 の [**チャンネル**] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～C のグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ 3 台程度が目安です。

6 /: 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、カスタムメニュー f1 [**メニューのカスタマイズ**] で [**テスト発光**] を割り当て、**i** メニューで実行してください。

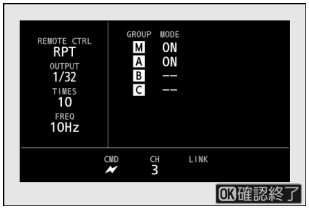
7 /：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

光制御で増灯撮影する場合のご注意

- リモートフラッシュは、マスターフラッシュの光がセンサー窓に入る位置に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、マスターフラッシュの光が確実にセンサー窓に入るようにしてください。
- リモートフラッシュの直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（[**TTL**] 設定時）や他のリモートフラッシュの外部自動調光用受光窓（[**A**] 設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- [**マスターフラッシュ**] > [**発光モード**] を [– –] にした場合でも、リモートフラッシュの発光タイミングを合わせるため、撮影中にマスターフラッシュが微小発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低い ISO 感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

ヒント：設定した増灯リピーティング発光モードの設定を確認する

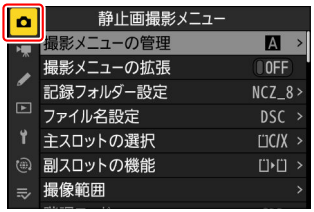
カスタムメニュー f1 [**メニューのカスタマイズ**] で [**フラッシュインフォ**] を割り当てると、設定した増灯リピーティング発光モードの内容を i メニューで確認できます。



静止画撮影メニュー

メニューの項目と初期設定一覧

メニュー画面で 📷 タブを選ぶと、静止画撮影メニューが表示されます。



静止画撮影メニューの項目と初期設定は以下の通りです。

- [**撮影メニューの管理**]：A
- [**撮影メニューの拡張**]：OFF
- [**記録フォルダー設定**]
  - [**フォルダーグループ名変更**]：NCZ_8
  - [**フォルダー番号指定**]：100
  - [**既存フォルダーから選択**]：—
- [**ファイル名設定**]：DSC
- [**主スロットの選択**]：CFexpress/XQD スロット
- [**副スロットの機能**]：順次記録
- [**撮像範囲**]
  - [**撮像範囲設定**]：FX（36×24）
  - [**DX クロップ警告表示**]：OFF
- [**階調モード**]：SDR
- [**画質モード**]：NORMAL
- [**画像サイズ設定**]
  - [**画像サイズ**]：サイズ L
  - [**画像サイズ（DX）の適用**]：OFF
  - [**画像サイズ（DX）**]：サイズ L
- [**RAW 記録**]：高効率 ★
- [**ISO 感度設定**]
  - [**ISO 感度**]：100
  - [**感度自動制御**]：ON
  - [**制御上限感度**]：25600
  - [**ϟ 使用時の制御上限感度**]：フラッシュなしの設定と同じ
  - [**低速限界設定**]：オート
- [**ホワイトバランス**]：オート：白を優先する
- [**ピクチャーコントロール**]：オート

- [**カスタムピクチャーコントロール**]：—
- [**ピクチャーコントロール（HLG）**]：スタンダード
- [**色空間**]：sRGB
- [**アクティブ D-ライティング**]：しない
- [**長秒時ノイズ低減**]：OFF
- [**高感度ノイズ低減**]：標準
- [**ヴィネットコントロール**]：標準
- [**回折補正**]：ON
- [**自動ゆがみ補正**]：ON
- [**美肌効果**]：しない
- [**人物印象調整**]：しない
- [**静止画フリッカー低減**]：OFF
- [**高周波フリッカー低減**]：しない
- [**測光モード**]：マルチパターン測光
- [**フラッシュ発光**]
  - [**発光モード**]：TTL 調光
  - [**ワイヤレス設定**]：しない
  - [**増灯発光モード**]：グループ発光
- [**フラッシュモード**]：通常発光
- [**フラッシュ調光補正**]：0.0
- [**フォーカスモード**]：シングル AF
- [**AF エリアモード**]：シングルポイント AF
- [**AF 時の被写体検出設定**]：オート
- [**手ブレ補正**]：スポーツ
- [**オートブラケティング**]
  - [**オートブラケティングのセット**]：AE・フラッシュブラケティング
  - [**コマ数**]：0
  - [**補正ステップ**]：1.0
- [**多重露出**]
  - [**多重露出モード**]：しない
  - [**コマ数**]：2
  - [**合成モード**]：加算平均
  - [**合成前の画像を保存（RAW）**]：ON
  - [**確認撮影**]：ON
  - [**1 コマ目の画像（RAW）の指定**]：—
- [**HDR 合成**]
  - [**HDR モード**]：しない
  - [**HDR 強度**]：オート
  - [**合成前の画像を保存（RAW）**]：OFF
- [**インターバルタイマー撮影**]
  - [**開始日時の設定**]：即時
  - [**撮影間隔**]：1 分
  - [**撮影回数×1 回のコマ数**]：0001×1

- [**露出平滑化**]：ON
- [**撮影間隔優先**]：OFF
- [**撮影間隔毎の AF 駆動**]：OFF
- [**オプション**]：しない
- [**撮影開始時の記録フォルダー**]
  - [**新規フォルダー作成**]：□
  - [**ファイル番号リセット**]：□

• [**タイムラプス動画**]
- [**撮影間隔**]：5 秒
- [**撮影時間**]：25 分
- [**露出平滑化**]：ON
- [**撮像範囲設定**]：FX
- [**動画記録ファイル形式**]：H.265 8-bit（MOV）
- [**画像サイズ/フレームレート**]：3840×2160 30p
- [**撮影間隔優先**]：OFF
- [**撮影間隔毎の AF 駆動**]：OFF
- [**動画記録先**]：CFexpress/XQD スロット

• [**フォーカスシフト撮影**]
- [**撮影回数**]：100
- [**フォーカスステップ幅**]：5
- [**待機時間**]：0
- [**露出固定**]：ON
- [**フォーカス位置の自動リセット**]：OFF
- [**撮影開始時の記録フォルダー**]
  - [**新規フォルダー作成**]：□
  - [**ファイル番号リセット**]：□

• [**ピクセルシフト撮影**]
- [**ピクセルシフト撮影モード**]：しない
- [**撮影コマ数**]：16
- [**ディレー**]：2 秒
- [**待機時間**]：0 秒

• [**オートキャプチャー**]
- [**ユーザープリセットの選択**]：P-1

撮影メニューの管理

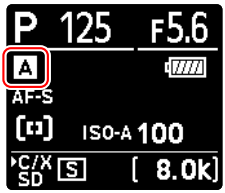
MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

このカメラは静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの設定内容を撮影メニュー「A」「B」「C」「D」の 4 通り記憶でき、［**撮影メニューの管理**］で切り換えられます。撮影メニュー「A」が選ばれているときに設定した内容は、「B」～「D」には反映されません。

- 次の静止画撮影メニューの設定は、撮影メニュー「A」～「D」で共通です。
  - ［**撮影メニューの拡張**］
  - ［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルのデータ
  - ［**多重露出**］
  - ［**インターバルタイマー撮影**］
  - ［**タイムラプス動画**］
  - ［**フォーカスシフト撮影**］
- 次の動画撮影メニューの設定は、撮影メニュー「A」～「D」で共通です。
  - ［**撮影メニューの拡張**］
- 動画撮影メニュー［**撮影メニューの管理**］と設定を共有しています。静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで設定を変更すると、もう一方のメニューでも設定が変更されます。

ヒント：撮影メニュー設定表示について

表示パネルに選ばれている撮影メニュー（「A」～「D」）が表示されます。



名前編集

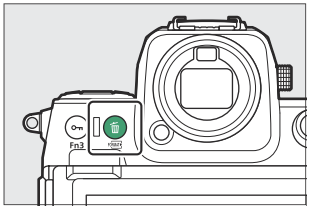
撮影メニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したい撮影メニューを選んでマルチセレクターの ▶ を押して［**名前編集**］を選びます。名前は 20 文字まで入力できます。

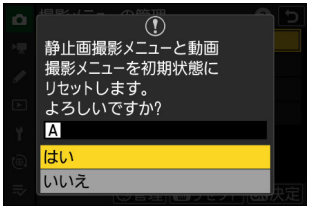
撮影メニューのコピー

撮影メニュー「A」～「D」を選んで ▶ を押し、［**コピー**］を選ぶとコピー先を選択できます。

撮影メニューのリセット

撮影メニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたい撮影メニューを選んで 🗑（Fn3）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。［**はい**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、選んだ撮影メニューの設定をリセットして初期設定に戻します。





- 多重露出撮影中は、1 コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終えるまではリセットできません。
- ［**記録フォルダー設定**］および［**カスタムピクチャーコントロール**］の設定はリセットされません。

撮影メニューの拡張

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

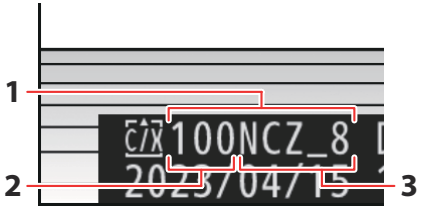
［**ON**］に設定すると、撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに露出の設定を記憶できます。

- ［**撮影メニューの管理**］で「A」～「D」のいずれかを選んでから露出の設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。
- 静止画モードでは次の設定を記憶できます。
  - 撮影モード
  - シャッタースピード（撮影モード **S**、**M** のみ）
  - 絞り値（撮影モード **A**、**M** のみ）
- 動画モードでは次の設定を記憶できます。
  - 撮影モード
  - シャッタースピード（撮影モード **M** のみ）
  - 絞り値（撮影モード **A**、**M** のみ）
- ［**OFF**］に設定すると、［**ON**］に設定する前に設定した撮影モード、シャッタースピード、絞り値に戻ります。
- 動画撮影メニュー［**撮影メニューの拡張**］と設定を共有しています。静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで設定を変更すると、もう一方のメニューでも設定が変更されます。

記録フォルダー設定

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

撮影した画像を保存するフォルダーについての設定を行います。



1 フォルダー名
2 フォルダー番号
3 フォルダーグループ名

記録フォルダー設定について
静止画撮影メニューと動画撮影メニューの［**記録フォルダー設定**］は、一方の設定を変更するともう一方も連動して変更されます。

フォルダーグループ名変更

このカメラのフォルダーには、末尾に「NCZ_8」というフォルダーグループ名が付きます。［**フォルダーグループ名変更**］では、新規フォルダーを作成する場合の「NCZ_8」の 5 文字を任意に変更できます。

- 既存のフォルダー名は変更できません。
- 文字入力画面で 🗑（INFO）ボタンを長押しすると、フォルダーグループ名を初期設定に戻せます。

フォルダー番号指定

画像を保存するフォルダーを、フォルダー番号を指定して変更します。指定したフォルダーが存在しない場合、新規フォルダーを作成します。

1 ［フォルダー番号指定］を選ぶ



- ［**フォルダー番号指定**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、［**フォルダー番号指定**］画面が表示されます。
- ［**フォルダー番号指定**］画面の右上には、フォルダーを作成するスロットが下線で強調されて表示されます。フォルダーを作成するスロットは、静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］の設定によって異なります。

2 フォルダー番号の桁を選び、番号を変更する

- ◀▶ を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。
- ▲▼ を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

3 フォルダー番号を設定する

- 既存のフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク（🗀、🗁、🖿）が表示されます。🗀 または 🗁 が表示されたフォルダーを選んで OK ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定してメニューに戻ります。
- 既存のフォルダー番号以外の数値を入力して OK ボタンを押すと、入力したフォルダー番号で新規フォルダーを作成します。
- 次に撮影する画像は、指定したフォルダーまたは作成した新規フォルダーに保存されます。
- キャンセルしたい場合は、MENU ボタンを押してください。

☑ フォルダーマークについて

［**フォルダー番号指定**］画面では、画像の入っていないフォルダーのときは 🗀、フォルダー内のファイル数が 5000 個またはファイル番号が 9999 に達しているフォルダーのときは 🖿、その他のフォルダーのときは 🗁 のフォルダーマークが表示されます。🖿 が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

既存フォルダーから選択

既存のフォルダーの一覧から選びます。

1 ［既存フォルダーから選択］を選ぶ

［**既存フォルダーから選択**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、［**既存フォルダーから選択**］画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

▲▼ を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- ⓚ ボタンを押すと、設定が有効になりメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存されます。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

- フォルダー番号が 999 になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
  - フォルダー内のファイル数が 5000 個に達したとき（動画モード時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が 5000 個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
  - ファイル番号が 9999 に達したとき（動画モード時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が 9999 を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
- ただし次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。
  - フォルダー番号が 999 未満のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合
  - 動画モード時、動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］または［**動画記録ファイル形式**］の設定を変更した場合

多数のフォルダーや画像が記録されたメモリーカードを使用する場合

メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源を ON にしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的に DSC_nnnn.xxx というファイル名が付きます。［**ファイル名設定**］では、「DSC」の 3 文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像には DSC_nnnn.xxx という名称が付きます。nnnn には 0001～9999 までの数字が入ります。選んだ画質モードまたは階調モードによって、拡張子（xxx の部分）が次のようになります。
  - NEF：画質モードが RAW の場合
  - JPG：画質モードが RAW 以外で、階調モードが SDR の場合
  - HIF：画質モードが RAW 以外で、階調モードが HLG の場合
  - NEV：NEV 形式の動画の場合
  - MOV：MOV 形式の動画の場合
  - MP4：MP4 形式の動画の場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 静止画撮影メニュー［**色空間**］で［**Adobe RGB**］を選んだ場合は_DSCnnnn.xxx という名称が付きます。
- 同時記録された RAW 画像と JPEG 画像のファイル名は同じですが、RAW 画像の場合は拡張子が NEF、JPEG 画像の場合は拡張子が JPG になります。
- 同時記録された RAW 画像と HEIF 画像のファイル名は同じですが、RAW 画像の場合は拡張子が NEF、HEIF 画像の場合は拡張子が HIF になります。
- 同時記録された RAW 動画とプロキシー動画のファイル名は同じですが、RAW 動画の場合は拡張子が NEV または MOV、プロキシー動画の場合は拡張子が MP4 になります。

主スロットの選択

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

CFexpress/XQD カードと SD カードを同時に使うときの、優先的に使うスロット（主スロット）を設定できます。

項目	内容
［**CFexpress/XQD スロット**］	CFexpress/XQD カードを優先的に使うときに選びます。
［**SD スロット**］	SD カードを優先的に使うときに選びます。

ヒント：動画を記録するスロットについて
動画撮影メニューの［**動画記録先**］で、記録するスロットを設定できます。

副スロットの機能

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

メモリーカードスロットを両方使用して画像を記録する場合の、副スロットの機能を設定できます。

項目		内容
	［**順次記録**］	主スロットから優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先を副スロットに変更します。
	［**バックアップ記録**］	バックアップ用として同じ画像を主スロット、副スロットの両方に記録します。
	［**RAW+JPEG 分割記録**］	• 階調モードが［**SDR**］の場合に設定できます。 • RAW と JPEG を同時に記録する画質モードの場合、主スロットに RAW 画像、副スロットに JPEG 画像を記録します。 • その他の画質モードの場合は、同じ画像を主スロットと副スロットの両方に記録します。
	［**JPEG+JPEG 分割記録**］	• 階調モードが［**SDR**］の場合に設定できます。 • 主スロット、副スロットの両方に JPEG 画像を記録します。 • 主スロットには静止画撮影メニューで設定した画像サイズおよび画質モードの画像が記録されます。 • 副スロットには画質モードが［**BASIC**］の JPEG 画像が記録されます。画像サイズは［**JPEG+JPEG 分割記録**］を選んで ⊛ を押すと設定できます。 • RAW 画像を含む画質モードを選んでいる場合、［**バックアップ記録**］と同じ動作になります。
	［**RAW+HEIF 分割記録**］	• 階調モードが［**HLG**］の場合に設定できます。 • RAW と HEIF を同時に記録する画質モードの場合、主スロットに RAW 画像、副スロットに HEIF 画像を記録します。 • その他の画質モードの場合は、同じ画像を主スロットと副スロットの両方に記録します。

項目		内容
🖼+🖼	［**HEIF+HEIF 分割記録**］	• 階調モードが［**HLG**］の場合に設定できます。 • 主スロット、副スロットの両方に HEIF 画像を記録します。 • 主スロットには静止画撮影メニューで設定した画像サイズおよび画質モードの画像が記録されます。 • 副スロットには画質モードが［**BASIC**］の HEIF 画像が記録されます。画像サイズは［**HEIF+HEIF 分割記録**］を選んで ⊛ を押すと設定できます。 • RAW 画像を含む画質モードを選んでいる場合、［**バックアップ記録**］と同じ動作になります。

☑ ［RAW+JPEG 分割記録］設定時のご注意

多重露出撮影時に静止画撮影メニュー［**多重露出**］>［**合成前の画像を保存（RAW）**］を［**ON**］にした場合、および HDR 撮影時に静止画撮影メニュー［**HDR 合成**］>［**合成前の画像を保存（RAW）**］を［**ON**］にした場合は、画質モードの設定にかかわらず、画像合成前の RAW 画像と画像合成後の JPEG 画像が主スロットと副スロットの両方に記録されます。

ヒント：［順次記録］以外に設定している場合

- 撮影画面と表示パネルの記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。

ヒント：分割記録した画像の再生について

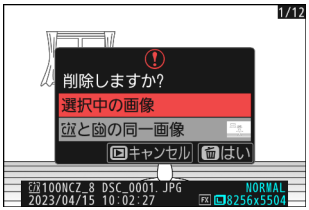
- 分割記録した画像を再生する場合に、どちらのスロットに記録した画像を再生するかを再生メニュー［**分割記録時の再生スロット**］で設定できます。
- 分割記録した画像を再生している場合に、*i* メニューで［**同時記録画像へジャンプ**］を選ぶと、もう一方のスロットに記録した画像を再生できます。

ヒント：動画を記録するスロットについて

動画撮影メニューの［**動画記録先**］で、記録するスロットを設定できます。

同時記録した画像の削除

［**バックアップ記録**］で同時記録した画像および［**RAW+JPEG 分割記録**］、［**JPEG+JPEG 分割記録**］、［**RAW+HEIF 分割記録**］、［**HEIF+HEIF 分割記録**］で分割記録した画像は、個別に削除するか両方のスロットから一度に削除するかを選べます。



- 再生画面で同時記録または分割記録した画像を選び 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、削除確認の画面が表示されます。
- ［**選択中の画像**］を選んで 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、現在選ばれている画像のみ削除されます。
- ［ **と の同一画像**］を選んで 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、両方のスロットから画像が削除されます。
- 音声メモが録音された画像の場合、音声メモ付き画像の削除確認画面が表示されます。［**音声のみ**］を選んで 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、音声メモのみを削除します。

ヒント：削除確認画面の内容を設定する

再生メニュー［**W スロット同時削除の設定**］で削除確認画面の設定を変更できます。

撮像範囲

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

撮像範囲についての設定ができます。詳しくは「撮影機能の設定」>「撮像範囲/画質モード/画像サイズ」>「撮像範囲に関する設定を変更する」(97)をご覧ください。

階調モード

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

静止画撮影時の階調モードを［**SDR**］または［**HLG**］から選べます。

項目	内容
［**SDR**］	標準の明るさの幅（ダイナミックレンジ）に対応した階調モードです。JPEG 画像（拡張子「.JPG」）を撮影できます。
［**HLG**］	HDR（High Dynamic Range）に対応した階調モードです。HEIF 画像（拡張子「.HIF」）を撮影できます。SDR に比べて広いダイナミックレンジを表現できます。 • 撮影画面に「HLG」が表示されます。 • 撮影した HLG 静止画を適切な色表現で再生するには、HLG に対応したモニター、パソコン、OS、アプリケーションなどの環境が必要です。詳しくは、下記 URL をご覧ください。 https://onlinemanual.nikonimglib.com/notice/hlg_setting_guide/ja/

HLG 静止画の撮影について

- 階調モードを［**HLG**］に設定すると、［**SDR**］に比べて撮影画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が目立ちやすくなります。
- 静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**制御上限感度**］で設定できる下限は ISO 800 になります。
- 高感度（Hi 0.3 ～ Hi 2.0）は設定できません。
- タイムラプス動画のファイル形式は［**H.265 10-bit（MOV）**］に固定されます。
- 静止画撮影メニュー［**色空間**］は「BT.2100」に固定されます。
- 静止画撮影メニュー［**アクティブ D-ライティング**］、［**多重露出**］、［**HDR 合成**］は設定できません。
- レリーズモードの［**C30**］、［**C60**］、および［**C120**］、カスタムメニュー d3［**プリキャプチャー記録設定**］は設定できません。

HLG 静止画についてのご注意

階調モードを［**HLG**］に設定して撮影した画像は次のような制限があります。

- HLG 静止画は画像合成できません。再生時の i メニュー［**画像編集**］で画像合成を選んでも画像選択画面に表示されません。
- HLG 静止画は SnapBridge アプリを使用してスマートフォンに転送できますが、SnapBridge アプリ上では表示されません。

階調モード HLG 設定時のカメラの画像モニター/ファインダーの表示について

階調モードを［**HLG**］に設定すると、カメラの撮影画面または再生画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生したり、高彩度やハイライトの再現性が低下したりする場合があります。また、撮影した静止画をカメラの画像モニターまたはファインダーで 1 コマ表示すると、表示中の画像に階調段差が生じる場合がありますが、撮影した画像には影響ありません。適切な階調を確認するには、HLG に対応したモニター、パソコン、OS、アプリケーションなどをご使用ください。

ヒント：HLG について

HLG（Hybrid Log Gamma）とは、テレビ放送など高画質の映像出力に対応する技術方式です。

- 標準画質（SDR）の画像と比べて中間部からハイライト部の輝度の情報量を増加することで、より幅広い映像表現を実現しています。
- 画像のシャドー部から中間部までは輝度の情報量を SDR に合わせることで、HDR 非対応の映像機器と互換性を保っています。

ヒント：ピクチャーコントロールの設定について

- 階調モードを［**SDR**］に設定している場合、静止画撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］または［**カスタムピクチャーコントロール**］で画像の仕上がりを選べます。
- 階調モードを［**HLG**］に設定している場合、静止画撮影メニュー［**ピクチャーコントロール（HLG）**］で画像の仕上がりを選べます。

ヒント：HLG 静止画の再生/編集について

パソコン用のソフトウェア NX Studio を使用して、HLG 静止画（HEIF 画像）の再生および編集ができます。

- NX Studio はニコンダウンロードセンターから無料でダウンロードできます。
- 階調モードを［**SDR**］に設定して撮影した画像と比べて、一部の編集機能に制限があります。

画質モード

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画質モードを設定できます。詳しくは「撮影機能の設定」>「撮像範囲/画質モード/画像サイズ」>「画質モードを変更する」(99)をご覧ください。

画像サイズ設定

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画像サイズ（大きさ）を設定できます。詳しくは「撮影機能の設定」>「撮像範囲/画質モード/画像サイズ」>「画像サイズを変更する」（101）をご覧ください。

RAW 記録

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

RAW 画像を記録するときの圧縮方式を設定できます。ファイルサイズは大きい順に［**ロスレス圧縮**］、［**高効率 ★**］、［**高効率**］です。

- ［**高効率 ★**］の画質は、［**ロスレス圧縮**］と比べても遜色なく、［**高効率**］よりも高画質です。

ISO 感度設定

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

静止画撮影時の ISO 感度に関する設定ができます。

項目	内容
［**ISO 感度**］	ISO 64～25600 で設定可能、ISO 64 に対し約 0.3、0.7、1 段（ISO 32 相当）の減感、ISO 25600 に対し約 0.3、0.7、 1 段、2 段（ISO 102400 相当）の増感が可能です。
［**感度自動制御**］	［**ON**］に設定すると、カメラが自動的に ISO 感度を変更するようになります。［**OFF**］に設定すると、［**ISO 感度**］で設定した ISO 感度に固定されます。［**ON**］に設定した場合、［**制御上限感度**］、［**ϟ 使用時の制御上限感度**］、［**低速限界設定**］をそれぞれ設定できます。
［**制御上限感度**］	ISO 感度が高くなりすぎないように制御上限感度を設定します。
［**ϟ 使用時の制御上限感度**］	別売スピードライトを使用した場合の上限感度を設定します。
［**低速限界設定**］	撮影モード **P** または **A** のときの感度自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/16000～30 秒）を設定できます。また、［**オート**］に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します。例えば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。 • ［**オート**］を選んで ⊛ を押すと、補正値の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するときに、より高速側または低速側になるように調整できます。高速で移動する被写体を撮影する場合は、補正値を高速側に設定するとブレを軽減できます。 • ISO 感度を［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

ホワイトバランス

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します。詳しくは「撮影機能の設定」>「ホワイトバランス」（📖 140）をご覧ください。

ピクチャーコントロール

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。詳しくは「撮影機能の設定」>「ピクチャーコントロール」（168）をご覧ください。

カスタムピクチャーコントロール

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。詳しくは「撮影機能の設定」>「ピクチャーコントロール」>「カスタムピクチャーコントロールを登録する」(🕮 175)をご覧ください。

ピクチャーコントロール（HLG）

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

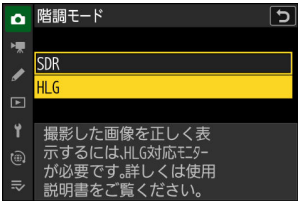
階調モードを［**HLG**］に設定して撮影する場合の画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を設定できます。

項目		内容
SD	［**スタンダード**］	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
MC	［**モノクローム**］	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
FL	［**フラット**］	撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。

ピクチャーコントロール（HLG）を調整する

ピクチャーコントロール（HLG）の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。

1 **静止画撮影メニュー［階調モード］で［HLG］を選ぶ**



2 **静止画撮影メニュー［ピクチャーコントロール（HLG）］で調整したいピクチャーコントロールを選ぶ**

調整したいピクチャーコントロールを選んでマルチセレクターの ⊛ を押します。

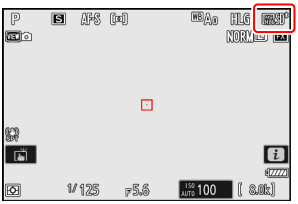


3 ピクチャーコントロールを調整する



- ◆◆ で調整する項目を選びます。◆◆ を押すと 1 ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと 0.25 ステップ刻みで値を設定します。
- 設定できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- [**クイックシャープ**] を選んで ◆◆ を押すと、[**輪郭強調**]、[**ミドルレンジシャープ**]、[**明瞭度**] のレベルをバランスよく調整します。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

4 設定する



- ⊛ ボタンを押して設定します。ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク（✱）が表示されます。

ピクチャーコントロール（HLG）の調整項目

項目	内容
［**クイックシャープ**］	［**クイックシャープ**］を調整すると、画像のシャープさを調整する［**輪郭強調**］、［**ミドルレンジシャープ**］、［**明瞭度**］の各項目をバランスよく調整します。各項目を個別に調整することも可能です。
［**輪郭強調**］	画像の精緻な部分や、被写体の輪郭部分のシャープさを調整します。
［**ミドルレンジシャープ**］	［**輪郭強調**］と［**明瞭度**］の中間の細かさの模様や線に対してシャープさを調整します。
［**明瞭度**］	画像の階調や明るさを維持しながら、画像全体や太めの線のシャープさを調整します。
［**コントラスト**］	画像のコントラストを調整します。
［**ハイライト**］	画像の明るい部分（ハイライト）を調整できます。値が大きいほど明るくなります。
［**シャドー**］	画像の暗い部分（シャドー）を調整できます。値が大きいほど明るくなります。
［**色の濃さ（彩度）**］	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。 • ［**モノクローム**］を選んでいる場合は表示されません。
［**色合い（色相）**］	画像の色合いを調整できます。 • ［**モノクローム**］を選んでいる場合は表示されません。
［**フィルター効果**］	［**モノクローム**］を選んでいる場合のみ表示されます。白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。
［**調色**］	［**モノクローム**］を選んでいる場合のみ表示されます。印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色の項目（［**B&W**］以外）を選んで ⍟ を押すと、さらに色の濃淡を選べます。

ピクチャーコントロール（HLG）調整時の △ マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される △ マークは、前回調整した値を示しています。



［フィルター効果］について

［**フィルター効果**］には、次のような効果があります。

項目	内容
［**Y**］（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
［**O**］（オレンジ※）	
［**R**］（赤※）	
［**G**］（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。

色空間

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。［**sRGB**］色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。［**Adobe RGB**］色空間は［**sRGB**］色空間に比べて色域が広いため、商業印刷などの業務用途に適しています。

色空間についてのご注意

他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、このカメラで設定した色空間と異なる設定の色空間に置き換えられることがあります。NX Studio をお使いになると、このカメラで設定した色空間で画像を開くことができます。

Adobe RGB 色空間について

適切な色再現には、カラーマネージメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

アクティブ D-ライティング

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブ D-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします。



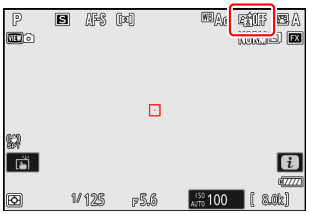
［**しない**］



［A **オート**］

項目		内容
A	［**オート**］	撮影シーンに応じて自動的にアクティブ D-ライティングの効果の度合いを設定します。
H2	［**より強め 2**］	効果の度合いは、強い順に［**より強め 2**］、［**より強め 1**］、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
H1	［**より強め 1**］	
H	［**強め**］	
N	［**標準**］	
L	［**弱め**］	
OFF	［**しない**］	アクティブ D-ライティングを設定しません。

設定したアクティブ D-ライティングを表すアイコンが撮影画面に表示されます。



アクティブ D-ライティングについてのご注意

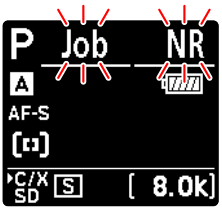
- アクティブ D-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- 撮影モードが **M** のときは、［**オート**］に設定していても［**標準**］相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- ISO 感度が高感度（Hi 0.3～Hi 2.0）および感度自動制御で ISO 感度が高感度に制御された場合は機能しません。

長秒時ノイズ低減

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、シャッタースピードが 1 秒より低速になった場合に発生する長秒時ノイズ（むら、輝点）を低減します。

- 長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルに **Job NR** が点滅し、撮影画面に［**ノイズ低減処理中**］と表示されます。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約 2 倍になります。

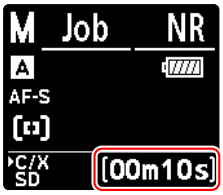


表示パネル



画像モニター

- バルブ撮影、タイム撮影および 30 秒を超えるシャッタースピードで撮影する場合、撮影が終了すると表示パネルにノイズ低減処理終了までの残り時間が表示されます。



長秒時ノイズ低減についてのご注意

処理中に電源を OFF にすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

高感度ノイズ低減

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

静止画撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

項目	内容
［**強め**］	全ての ISO 感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO 感度が高くなるほど効果的です。ノイズ低減の効果は、強い順に［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
［**標準**］	
［**弱め**］	
［**しない**］	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は［**弱め**］に設定したときよりもさらに弱くなります。

ヴィネットコントロール

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。

項目		内容
▢H	［**強め**］	効果が強い順に、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
▢N	［**標準**］	
▢L	［**弱め**］	
［**しない**］		周辺光量の低下を補正しません。

ヴィネットコントロールについてのご注意

JPEG 画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選ぶことをおすすめします。

ヴィネットコントロールについて

静止画撮影メニューと動画撮影メニューの［**ヴィネットコントロール**］は、一方の設定を変更するともう一方も連動して変更されます。

回折補正

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、レンズの絞りを絞り込んだときに画像の解像感が低下する、回折現象を補正します。

回折補正について

静止画撮影メニューと動画撮影メニューの［**回折補正**］は、一方の設定を変更するともう一方も連動して変更されます。

自動ゆがみ補正

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、カメラが必要だと判断した場合に、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。装着しているレンズによっては設定が［**ON**］に固定され、メニューはグレーで表示されて選べません。

自動ゆがみ補正について

静止画撮影メニューと動画撮影メニューの［**自動ゆがみ補正**］は、一方の設定を変更するともう一方も連動して変更されます。

美肌効果

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

カメラが人物の顔を検出した場合、肌がなめらかになるように自動で補正します。

項目	内容
［**強め**］	効果が強い順に、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。 • 美肌効果は最大 3 人まで適用されます。 • カメラが複数の人物を検出した場合は被写体にグレーの枠が表示されます。［**AF エリアモード**］の設定が［**オートエリア AF**］の場合、カメラが選んでいるフォーカスポイントに ◀ および ▶ が表示されます。マルチセレクターの ◀▶ を押して美肌効果を適用したい人物を選ぶことができます。
［**標準**］	
［**弱め**］	
［**しない**］	美肌効果を設定しません。

美肌効果の制限について

次の場合など、美肌効果とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影
- 多重露出撮影
- HDR 合成

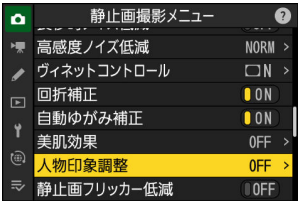
人物印象調整

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

人物の色相と明るさを 2 軸で調整して［**モード 1**］、［**モード 2**］、［**モード 3**］として個別に登録し、撮影時に選んで適用できます。

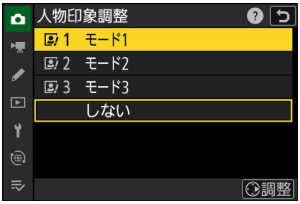
調整モードの登録方法

1 静止画撮影メニューで［人物印象調整］を選ぶ

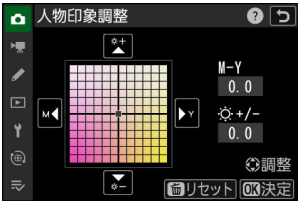


2 調整モードの登録先を［モード 1］～［モード 3］から選んでマルチセレクターの ▶ を押す

- 選んだ調整モードの調整画面が表示されます。



3 色相と明るさを調整する



- ◀▶ で M（マゼンタ）および Y（イエロー）方向の色相を調整します。M（マゼンタ）方向に調整するとマゼンタが強くなり、Y（イエロー）方向に調整するとイエローが強くなります。
- ▲▼ で明るさを調整します。＋方向に調整すると明るくなり、－方向に調整すると暗くなります。
- 調整値は、座標の右側に表示されます。
- 🗑（PROTECT）ボタンを押すと初期設定に戻ります。

4 調整値を決定する

- ⓚ ボタンを押して調整値を決定すると、メニューに戻ります。
- 調整した調整モードには、アスタリスク（✱）が表示されます。
- 別の調整モードを登録する場合は、手順 1～4 を繰り返してください。

登録した調整モードの適用方法

静止画撮影メニュー［**人物印象調整**］で［**モード 1**］～［**モード 3**］を選ぶと、選んだ調整モードに登録されている調整値が撮影時に適用されます。

人物印象調整の制限について

次の場合、［**人物印象調整**］が無効になります。

- ［**ピクチャーコントロール**］が［**モノクローム**］、［**フラットモノクローム**］、［**ディープトーンモノクローム**］または［**Creative Picture Control**］の場合
- ［**ピクチャーコントロール（HLG）**］が［**モノクローム**］の場合

ヒント：被写体を確認しながら調整するには

カスタムメニュー f1［**メニューのカスタマイズ**］で［**人物印象調整**］を割り当てて i メニューで実行すると、メインコマンドダイヤルで調整モードを選んでから、被写体を見ながらマルチセレクターで色相と明るさを調整できます。

静止画フリッカー低減

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、蛍光灯や水銀灯などの光源下で発生する、照明の明滅による明るさのちらつき（フリッカー現象）の影響を低減できます。

- フリッカー現象が発生している場合、撮影した画像の一部に露出ムラが生じたり、連続撮影時に露出や色味にばらつきが生じることがあります。
- フリッカー低減の効果が充分に得られない場合は、一度カメラの電源を OFF にし、被写体または光源に向けた状態で再度電源を ON にしてください。
- ［**ON**］に設定した場合、シャッターをきるときにフリッカーが検出されていると、撮影画面の **FLICKER** アイコンに緑色の ● が表示されます。
- ［**ON**］に設定した場合、シャッターをきるときに撮影画面が一瞬暗くなります。高速連続撮影時と低速連続撮影時は次のような動作になります。
  - **高速連続撮影時**：設定したコマ速を優先した制御となります。1 コマ目のレリーズ時に撮影画面が一瞬暗くなり、2 コマ目以降は暗くなりません。
  - **低速連続撮影時**：フリッカー低減効果を優先した制御となります。レリーズするたびに撮影画面が一瞬暗くなり、撮影速度が遅くなることや撮影間隔が一定ではなくなることがあります。

［静止画フリッカー低減］について

- フリッカー低減機能を使うと、シャッターのきれるタイミングが少し遅れます。
- 電源周波数が 50Hz の場合は 100Hz の点滅周期を、また電源周波数が 60Hz の場合は 120Hz の点滅周期を検出します。連続撮影中に光源の点滅周期が変化した場合、フリッカーの影響は低減できません。
- 背景が暗い場合や輝度が高い光源が含まれる場合など光源や撮影条件によっては、フリッカーが検出できなかったり、フリッカー低減の効果が得られないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカー低減機能の効果が得られないことがあります。
- 撮影画面で確認できるフリッカー低減と、実際に撮影される静止画像のフリッカー低減の効果は異なります。

高速連続撮影時のご注意

- カスタムメニュー a1［**AF-C モード時の優先**］を［**フォーカス**］に設定している場合、低速連続撮影と同じ動作になります。
- 次の場合、フリッカー低減効果が得られないことがあります。
  - 撮影モード **A** または **P** に設定し、連続撮影中にシャッタースピードが変化した場合
  - 連続撮影速度が遅くなった場合
  - 長時間連続撮影した場合

［静止画フリッカー低減］の制限について

次の場合など、［**静止画フリッカー低減**］が無効になります。

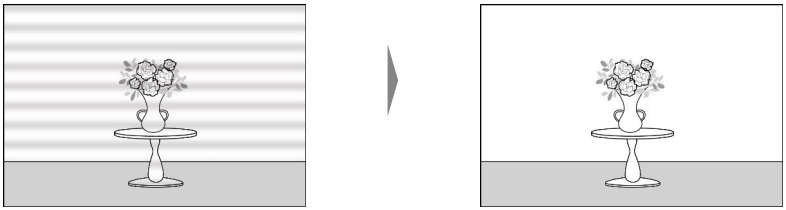
- HDR 合成撮影時
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影時

高周波フリッカー低減

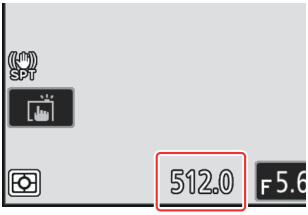
MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**する（高分解能シャッター設定）**］に設定すると、撮影モード **S** または **M** でシャッタースピードを 1/8000～1/30 に設定している場合にシャッタースピードを通常より細かいステップ幅で調整でき、フリッカー現象の影響が少ないシャッタースピードを撮影画面で確認しながら設定できます。

- 光源が高周波 LED 照明の場合や、被写体に高周波 LED ディスプレイが含まれる場合に縞状の明暗が画像に記録されることがあります（フリッカー現象）。ステップ幅を細かくすることで、フリッカー現象の影響が少ないシャッタースピードを探しながら設定できます。



- 被写体に対して適切なシャッタースピードに設定してから高周波フリッカー低減機能をオンにして、撮影画面を見ながらちらつきや LED の縞が最も低減されるシャッタースピードに設定してください。撮影画面を拡大表示すると、フリッカー低減効果が確認しやすくなります。
- 高周波フリッカー低減機能をオンにすると、シャッタースピードは分母の値のみが少数点を含む形式で表示されます。



- シャッタースピードは詳細な値が表示されます。たとえば 1/500 のときは、詳細な値である 1/512 の「512.0」がシャッタースピードとして表示されます。
- 高周波フリッカー低減機能をオフにすると、通常のシャッタースピード表示のうち最も近い値に切り替わります。

高周波フリッカー低減のご注意

- 撮影画面の表示と、撮影画像ではフリッカー現象の表れ方が異なることがあります。試し撮りをして、ちらつきや LED の縞が最も低減されるシャッタースピードに設定することをおすすめします。
- カスタムメニュー b7［**絞り値変化時の露出維持**］で［**シャッタースピード**］を選んで露出を維持する設定にしていても、高周波フリッカー低減機能をオンにしている間は露出の維持を行いません。

ヒント：［撮影機能の呼び出し］に高周波フリッカー低減の設定を登録する

高周波フリッカー低減機能をオンにしてカスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］>［**撮影機能の呼び出し**］または［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］の［**現在の設定を登録**］を選ぶと、細かいステップ幅で設定したシャッタースピードが登録されます。たとえば高周波 LED ディスプレイ付近で撮影する場合に LED の縞が最も低減される設定を登録しておくと、構図に LED が含まれた場合のみ割り当てたボタンを押して最適な設定を素早く呼び出せます。

測光モード

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

カメラが被写体の明るさを測るための測光モードを選べます。

項目		内容
▣	［**マルチパターン測光**］	画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
◎	［**中央部重点測光**］	• 画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。 • 測光範囲はカスタムメニュー b5［**中央部重点測光範囲**］で変更できます。 • 測光範囲を表示するかどうかをカスタムメニュー d19［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］および d20［**撮影画面カスタマイズ（ファインダー）**］で設定できます。
⊡	［**スポット測光**］	• フォーカスポイントに重なるø4 mm 相当（全画面の約 1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AF エリアモード（🕮 105）が［**オートエリア AF**］のときは中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。
⊡*	［**ハイライト重点測光**］	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

フラッシュ発光

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

別売のスピードライトを取り付けた場合の発光モードおよびワイヤレス増灯撮影時の設定を行います。



- 別売スピードライトをカメラに取り付けた場合の撮影については「別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影）」（🕮 379）をあわせてご覧ください。
- 別売スピードライトをワイヤレスで制御した場合の撮影については「増灯撮影とは」（🕮 388）をあわせてご覧ください。

発光モード

SB-5000、SB-500、SB-400、または SB-300 をカメラに装着した場合のスピードライトの発光モードや補正量などを設定できます。



- 選んだ項目によって［**発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更されます。
- SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300 以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。
- SB-5000 はスピードライト本体でも設定できます。

項目	内容
［**TTL 調光**］	スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
［**外部自動調光**］	スピードライトの発光による被写体からの反射光をスピードライトの外部自動調光用センサー窓で測光し、発光量を制御します。
［**距離優先マニュアル発光**］	スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。
［**マニュアル発光**］	指定した発光量でスピードライトが発光します。
［**リピーティング発光**］	1 回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

ワイヤレス設定

複数のスピードライトを同時に発光させて撮影（ワイヤレス増灯撮影）する場合に、制御方法を選びます。カメラに SB-5000、SB-500、WR-R11a または WR-R10 を装着したときのみ表示されます。



項目		内容
	［光制御 AWL］	マスターフラッシュの微小発光で、リモートフラッシュを制御します（🕮 400）。
	［電波制御 AWL］	カメラに装着した WR-R11a または WR-R10 を使用して、電波によってリモートフラッシュを制御します（🕮 389）。
［しない］		リモートフラッシュの制御を行いません。

増灯発光モード

フラッシュの増灯発光モードを設定できます。選んだ項目によって［**増灯発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更され、それぞれの増灯発光モードでの設定が変更できます。

項目	内容
［**グループ発光**］	グループごとに発光モードを設定できます（🕮 393、🕮 401）。
［**クイックワイヤレス**］	リモートフラッシュの A グループと B グループの光量比、および C グループの発光量を設定します（🕮 395、🕮 403）。
［**増灯リピーティング発光**］	1 回の露光中に、増灯したスピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます（🕮 397、🕮 405）。

電波リモートフラッシュ情報

電波制御で接続されているスピードライトの情報を表示します。



フラッシュモード

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

別売スピードライトを、カメラに装着またはワイヤレスで制御する場合のフラッシュモードを設定できます。詳しくは、「フラッシュ撮影」>「フラッシュモードを設定する」(383)をご覧ください。

フラッシュ調光補正

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

別売スピードライトの発光量を意図的に変えて、背景に対する被写体の明るさを調整できます。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにできます（📖 385）。

フォーカスモード

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ピントの合わせ方を選べます。詳しくは「撮影機能の設定」>「フォーカス」>「フォーカスモードを変更する」(📖 103)をご覧ください。

AF エリアモード

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

オートフォーカス使用時に、フォーカスポイントをどのように選択するか設定できます。詳しくは「撮影機能の設定」>「フォーカス」>「AF エリアモードを変更する」(105)をご覧ください。

AF 時の被写体検出設定

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

オートフォーカス使用時に優先して検出する被写体を選べます。詳しくは「撮影機能の設定」>「フォーカス」>「オートフォーカス時に優先してフォーカスを合わせる被写体を設定する」(109)をご覧ください。

手ブレ補正

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。表示される項目は、カメラに装着しているレンズによって異なります。

項目		内容
ON	［**ノーマル**］	手ブレ補正効果が高く、静止している被写体を撮影する場合に適しています。
SPT	［**スポーツ**］	スポーツなどの動きの変化が激しい被写体を撮影する場合に適しています。
［**しない**］		手ブレ補正を行いません。

手ブレ補正使用時のご注意

- 装着しているレンズによっては［**手ブレ補正**］の設定を変更できない場合があります。
- 撮影画面の表示が安定してから撮影することをおすすめします。
- 手ブレ補正機能を備えたレンズをお使いの場合に［**ノーマル**］に設定すると、手ブレ補正の原理上、シャッターレリーズ前に撮影画面の表示が動くことがありますが、異常ではありません。撮影画面の動きが気になる場合は［**スポーツ**］または［**しない**］に設定することをおすすめします。
- 流し撮りする場合は［**ノーマル**］または［**スポーツ**］に設定することをおすすめします。［**ノーマル**］または［**スポーツ**］に設定して流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。
- 三脚または一脚を使用するときは、［**ノーマル**］または［**スポーツ**］に設定することをおすすめします。ただし三脚を使用する場合、三脚の種類や撮影条件によっては［**しない**］が適していることがあります。手ブレ補正機能を備えたレンズでは設定が異なる場合がありますので、レンズの説明書をご覧の上お使いください。
- 別売のマウントアダプター FTZ II/FTZ を使用して手ブレ補正切り換えスイッチのある F マウントレンズを装着している場合、［**手ブレ補正**］はグレーで表示されて選べません。レンズで手ブレ補正の設定を行ってください。

オートブラケティング

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

明るさ（露出値）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブ D-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。詳しくは「撮影機能の設定」>「オートブラケティング」（156）をご覧ください。

多重露出

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

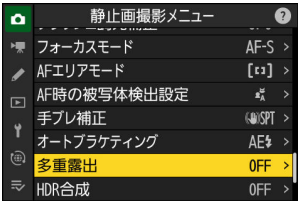
2〜10 コマの RAW データを重ねて写し込み、1 つの画像として記録します。

項目	内容
［**多重露出モード**］	• ［**する（連続）**］：解除するまで連続して多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度［**多重露出モード**］を選んで［**しない**］に設定してください。 • ［**する（1 回）**］：多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。 • ［**しない**］：多重露出撮影を解除します。
［**コマ数**］	コマ数（露光回数）を設定します。
［**合成モード**］	• ［**加算**］：全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。 • ［**加算平均**］：重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。各コマのゲインは、「1 ÷露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2 コマ」の場合は 1/2、「3 コマ」の場合は 1/3 になります。 • ［**比較明合成**］：撮影した各画像を比較し、最も明るい部分を選択して合成します。  • ［**比較暗合成**］：撮影した各画像を比較し、最も暗い部分を選択して合成します。 
［**合成前の画像を保存（RAW）**］	• ［**ON**］：合成した画像のほかに、多重露出で撮影した全てのコマを RAW 画像として保存します。 • ［**OFF**］：合成した画像のみ保存します。

項目	内容
［**確認撮影**］	［**ON**］に設定すると、多重露出撮影中に撮影したコマを合成して撮影画面に半透過で表示します。次のコマを撮影するときに構図が決めやすくなります。
［**1 コマ目の画像（RAW）の指定**］	メモリーカード内の RAW 画像から 1 コマ目に使用する画像を選ぶことができます。

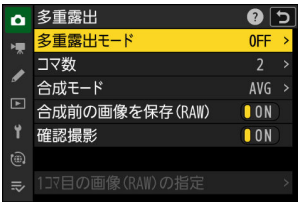
多重露出の撮影方法

1 **静止画撮影メニュー［多重露出］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す**

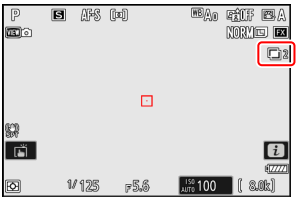


2 **［多重露出モード］を設定する**

- ［**多重露出モード**］を選んで、▶ を押します。
- ▲▼ を押して多重露出モードを設定し、OK ボタンを押します。



- ［**する（連続）**］または［**する（1 回）**］を選ぶと、撮影画面にアイコンが表示されます。



3 [コマ数]（露光回数）を設定する



- [**コマ数**] を選んで、▶ を押します。
- ▲▼ を押して露光回数を設定し、OK ボタンを押します。

4 [合成モード] を設定する



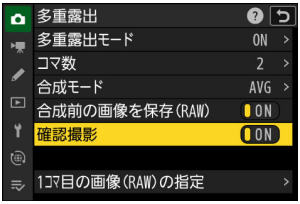
- [**合成モード**] を選んで、▶ を押します。
- ▲▼ を押して項目を選び、OK ボタンを押します。

5 [合成前の画像を保存（RAW）] を設定する



[**ON**] に設定すると、合成した画像のほかに多重露出で撮影した全てのコマを RAW 画像として保存します。[**OFF**] に設定すると、合成後の画像のみを保存します。

6 [確認撮影] を設定する



[**ON**] に設定すると、これまでに撮影したコマを合成して撮影画面に半透明で表示します。前のコマと構図を合わせやすくなります。

7 [1 コマ目の画像（RAW）の指定] を設定する

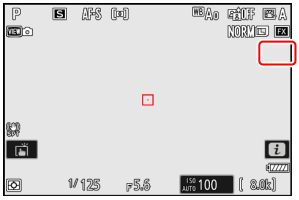


- 撮影済みの画像に重ねて写し込みたい場合は、[**1 コマ目の画像（RAW）の指定**] を選んで ▶ を押し、メモリーカード内の RAW 画像から 1 コマ目に使用する画像を選びます。
- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 🔍 ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- 画像を選択したら、OK ボタンを押します。

8 撮影を開始する

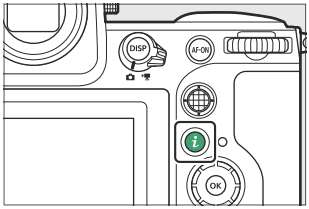


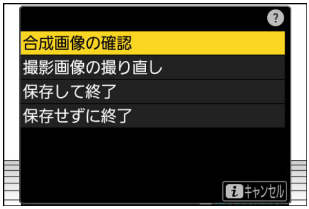
- 設定したコマ数を撮影してください。手順 7 の［**1 コマ目の画像（RAW）の指定**］でメモリーカード内の RAW 画像から 1 コマ目に使用する画像を選んだ場合は、2 コマ目以降を撮影します。
- 設定したコマ数を撮影すると、合成画像を作成して保存します。元の画質モードにかかわらず、合成画像は JPEG になります。
- ［**する（連続）**］の場合、［**多重露出モード**］で［**しない**］を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。
- 多重露出モードが［**する（1 回）**］の場合、手順 3 で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除されます。



i メニューを使う

多重露出撮影中に ▶ ボタンを押すと、撮影した画像を確認できます。多重露出撮影で最後に撮影したコマには▣が表示され、このときに i ボタンを押すと多重露出撮影時の i メニューが表示されます。





- 項目を選んで ⓚ ボタンを押すと、選んだ項目が実行されます。
- i ボタンを押したときの設定は、タッチ操作でも行えます。

項目	内容
［**合成画像の確認**］	それまでに撮影したコマで合成画像を作成してプレビューします。
［**撮影画像の撮り直し**］	最後に撮影したコマを撮影し直せます。
［**保存して終了**］	それまでに撮影したコマで合成画像を作成し、保存して多重露出撮影を終了します。
［**保存せずに終了**］	合成画像を保存しないで多重露出撮影を終了します。 • ［**合成前の画像を保存（RAW）**］が［**ON**］の場合は、撮影した画像を合成せずに 1 コマずつ保存します。

多重露出撮影時のご注意

- 多重露出の撮影途中に画像を再生したりメニューを表示して、操作をしないまま 40 秒程度（メニュー表示時は 90 秒程度）経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**画像の再生**］または［**メニュー表示**］を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出で撮影する場合、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。
- 連続撮影に設定しているときにシャッターボタンを全押しし続けると、多重露出で設定された撮影コマ数まで撮影し、合成画像を保存します。多重露出モードが［**する（1 回）**］のときは、撮影が終了して合成画像が保存されると多重露出撮影を解除します。［**する（連続）**］のときは、撮影後に再度全押しすると、繰り返し多重露出撮影を行えます。
- セルフタイマー撮影時には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c2［**セルフタイマー**］>［**連続撮影間隔**］で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c2 の［**撮影コマ数**］で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出撮影中にカメラの設定を変更すると、多重露出撮影が終了する場合があります。
- 多重露出の撮影設定および撮影データは 1 コマ目の内容になります。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- 多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選べません。

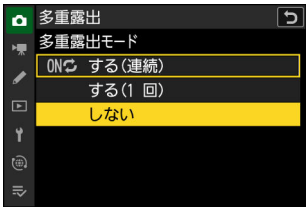
多重露出の制限について

次の場合など、多重露出とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影
- オートブラケティング撮影
- HDR 合成
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影
- ピクセルシフト撮影
- オートキャプチャー撮影

多重露出撮影を終了するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を終了するには、多重露出モードを［**しない**］に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（［**合成モード**］を［**加算平均**］に設定していた場合は、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。



このほか、次の場合も、多重露出は終了されます。

- 1 コマ目撮影後に半押しタイマーがオフになったとき
- 多重露出撮影中に ▶ ボタンを押してから i ボタンを押し、［**保存して終了**］または［**保存せずに終了**］を選んだとき

HDR 合成

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

1 回の撮影で露出が異なる画像を 2 コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。

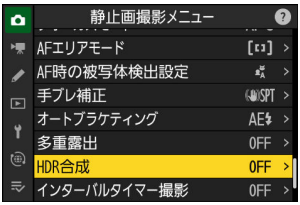


項目	内容
［**HDR モード**］	• ［**する（連続）**］：解除するまで連続して HDR 撮影します。HDR モードを解除するには、もう一度［**HDR モード**］を選んで［**しない**］に設定してください。 • ［**する（1 回）**］：1 回撮影を終了すると、HDR モードが解除されます。 • ［**しない**］：HDR モードを解除します。
［**HDR 強度**］	HDR の強度を設定します。［**オート**］に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に HDR の強度を設定します。
［**合成前の画像を保存（RAW）**］	［**ON**］に設定すると、合成する 2 コマの画像をそれぞれ RAW 形式で保存します。

HDR の撮影方法

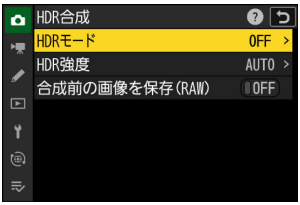
HDR モードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします。

1 静止画撮影メニュー［HDR 合成］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す

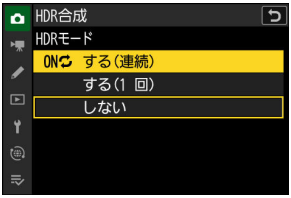


2 ［HDR モード］を設定する

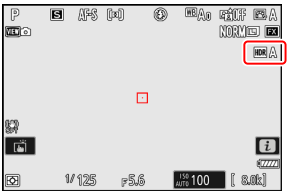
- ［**HDR モード**］を選んで ▶ を押します。



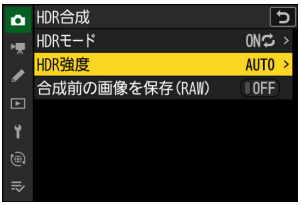
- ▲▼ を押して HDR モードを設定し、OK ボタンを押します。



- ［**する（連続）**］または［**する（1 回）**］を選ぶと、撮影画面にアイコンが表示されます。



3 ［HDR 強度］を設定する

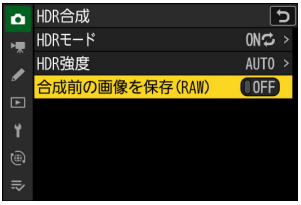


- ［**HDR 強度**］を選んで ▶ を押します。



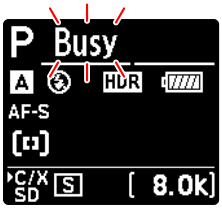
- ▲▼ を押して HDR 強度を設定し、OK ボタンを押します。
- ［**オート**］に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に HDR の強度を設定します。

4 ［合成前の画像を保存（RAW）］を設定する



［**ON**］に設定すると、合成する 2 コマの画像をそれぞれ RAW 形式で保存します。

5 構図を決め、ピントを合わせて撮影する



- シャッターボタンを全押しすると、2 回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、表示パネルに **Busy** が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- ［**する（連続）**］の場合、［**HDR モード**］で［**しない**］を選んで HDR モードを解除するまで、HDR モードで撮影できます。
- HDR モードが［**する（1 回）**］の場合、1 回撮影すると、HDR モードが解除されます。
- 元の画質モードにかかわらず、合成画像は JPEG になります。

HDR 撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が大きい場合は、正しく合成されない場合があります。撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。また、HDR の効果が出にくい場合があります。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央部重点測光またはスポット測光のときに［**HDR 強度**］を［**オート**］に設定すると、HDR の強度は［**標準**］相当の度合いに固定されます。
- 別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモードを連続撮影に設定した場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**Bulb**（バルブ）または **Time**（タイム）に設定できません。

HDR モードの制限について

次の場合など、HDR モードとは同時に使用できない機能や設定があります。

- 静止画フリッカー低減
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影
- ピクセルシフト撮影
- オートキャプチャー撮影

インターバルタイマー撮影

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます。インターバルタイマー撮影をするときは、レリーズモードをセルフタイマーまたは「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影以外に設定してください。

項目	内容
［**撮影開始**］	インターバルタイマー撮影を開始します。［**開始日時の設定**］で［**即時**］を選んでいる場合は約 3 秒後に撮影を開始し、［**日時指定**］を選んでいる場合は設定した日時に撮影を開始します。撮影は、設定した撮影間隔とコマ数で繰り返されます。
［**開始日時の設定**］	インターバルタイマー撮影の開始方法を設定します。インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は［**即時**］を、開始日時を設定する場合は［**日時指定**］を選びます。
［**撮影間隔**］	撮影間隔（時、分、秒）を設定します。
［**撮影回数×1 回のコマ数**］	撮影回数と 1 回で撮影するコマ数を設定します。
［**露出平滑化**］	［**ON**］に設定すると、1 コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。 • 輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。 • 撮影モード **M** で静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**感度自動制御**］が［**OFF**］の場合、露出の平滑化は行いません。

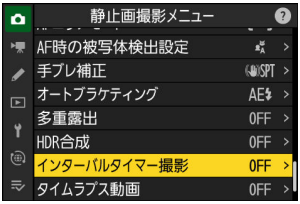
項目	内容
［**撮影間隔優先**］	• ［**ON**］：撮影モードが **P** または **A** のときに、露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影します。 - フラッシュ撮影はできません。 - カスタムメニュー a1［**AF-C モード時の優先**］および a2［**AF-S モード時の優先**］の設定にかかわらず、レリーズ優先になります。 - 静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］で［**感度自動制御**］を［**ON**］にしたときの［**低速限界設定**］の設定値が、設定した撮影間隔より長い場合は、撮影間隔を優先して感度が自動制御されます。 • ［**OFF**］：撮影間隔よりも露光時間を優先して撮影します。
［**撮影間隔毎の AF 駆動**］	［**ON**］に設定すると、撮影してから次の撮影までの間に、カメラが自動でピント合わせを行います。ピントを固定して撮影したい場合は［**OFF**］に設定してください。
［**オプション**］	インターバルタイマー撮影に、別の機能をオプションとして組み合わせることができます。 • ［**AE ブラケティング**］：インターバルタイマー撮影と AE ブラケティングを同時に行えます。 • ［**タイムラプス動画**］：インターバルタイマー撮影した画像をつないで、アスペクト比（縦横比）が 16：9 のタイムラプス動画として記録できます。 - インターバルタイマー撮影した画像とタイムラプス動画が保存されます。 - 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］が［**1:1 (24×24)**］のときは撮影できません。 - ［**タイムラプス動画**］を選んだときは、静止画撮影メニュー［**色空間**］の設定にかかわらず［**sRGB**］の色空間で撮影されます。 • ［**しない**］：オプションなしでインターバルタイマー撮影を行います。
［**撮影開始時の記録フォルダー**］	項目を選んで ⓞⓚ ボタンを押すかマルチセレクターの ▶ を押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。 • ［**新規フォルダー作成**］：インターバルタイマー撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。 • ［**ファイル番号リセット**］：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

インターバルタイマー撮影の撮影方法

インターバルタイマー撮影を開始する前に

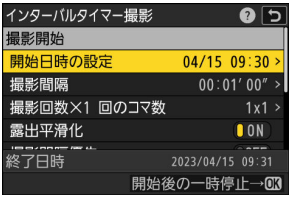
- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニュー［**タイムゾーンと日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、次のいずれかをお使いください。
  - 充分に充電したバッテリー
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P と USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）
  - 別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b

1 静止画撮影メニューの［インターバルタイマー撮影］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す

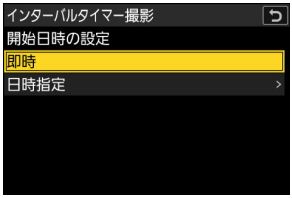


2 インターバルタイマー撮影の設定をする

- **開始方法を選ぶ**



［**開始日時の設定**］を選んで ▶ を押す



開始方法を選んで ⓚ ボタンを押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、［**即時**］を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、［**日時指定**］を選びます。表示される画面で開始日時を設定して ⓚ ボタンを押します。

• 撮影間隔（インターバル）を設定する

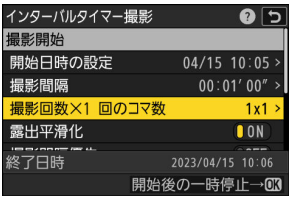


［**撮影間隔**］を選んで ▶ を押す



撮影間隔（時、分、秒）を設定して ⓚ ボタンを押す

• 撮影回数と 1 回のコマ数を設定する



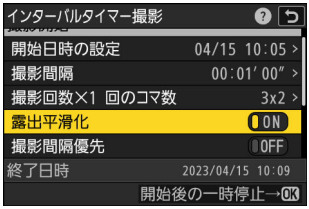
［**撮影回数×1 回のコマ数**］を選んで ▶ を押す



撮影回数と 1 回で撮影するコマ数を設定して、ⓚ ボタンを押す

- レリーズモードが 1 コマ撮影の場合、撮影コマ数を 2 コマ以上に設定すると、レリーズモードを高速連続撮影に設定した場合の速度で撮影します。

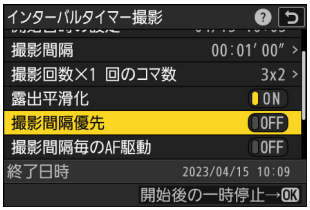
• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



［**露出平滑化**］を選んで ▶ を押して［**ON**］/［**OFF**］を切り換える

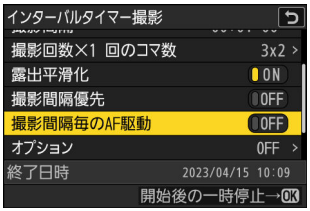
-［**ON**］に設定すると、1 コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。

• 露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選ぶ



［**撮影間隔優先**］を選んで ⊛ を押して［**ON**］/［**OFF**］を切り換える

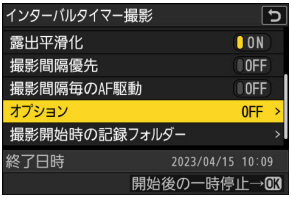
• 撮影間隔ごとにピント合わせを行うかどうかを選ぶ



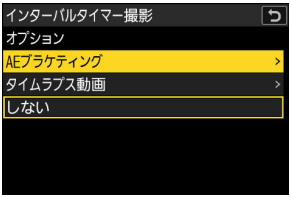
［**撮影間隔毎の AF 駆動**］を選んで ⊛ を押して［**ON**］/［**OFF**］を切り換える

- ［**撮影間隔毎の AF 駆動**］を［**ON**］に設定すると、選んだフォーカスモードに従って、毎回の撮影の直前にピント合わせを行います。

• オプションを設定する



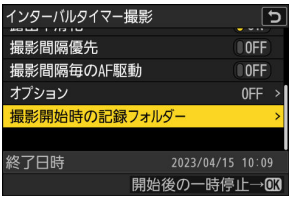
［**オプション**］を選んで ⊛ を押す



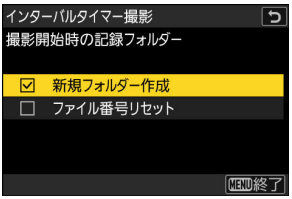
［**AE ブラケティング**］または［**タイムラプス動画**］を選んで ⓚ ボタンを押す

- ［**AE ブラケティング**］の場合は［**コマ数**］と［**補正ステップ**］を、［**タイムラプス動画**］の場合は［**動画記録ファイル形式**］、［**画像サイズ/フレームレート**］、［**動画記録先**］を設定します。

• **撮影開始時の記録フォルダーの設定をする**

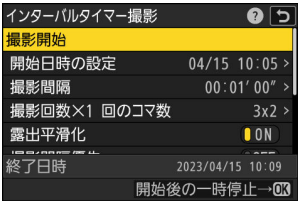


［**撮影開始時の記録フォルダー**］を選んで ▶ を押す



OK ボタンを押して各項目のオン ☑ とオフ ☐ を切り換えて ◀ を押す

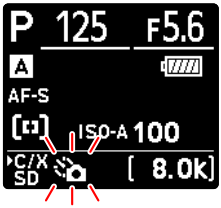
3 ［撮影開始］を選んで OK ボタンを押す



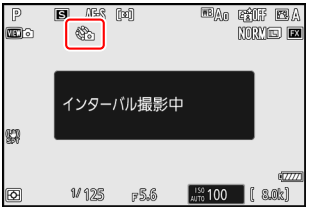
- 手順 2 の［**開始日時の設定**］で［**即時**］を選んでいる場合は、約 3 秒後に撮影を開始します。
- 手順 2 の［**開始日時の設定**］で［**日時指定**］を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 撮影中は撮影画面は消灯します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

インターバルタイマー撮影の待機状態について

- インターバルタイマー撮影の待機状態では、表示パネルに が表示されます。［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んでいる場合は も表示されます。



- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、撮影画面に［**インターバル撮影中**］と表示され、 アイコンが点滅します。［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んでいる場合は も表示されます。



インターバルタイマー撮影を一時停止するには

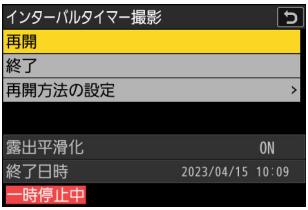
インターバルタイマー撮影を一時停止するには、撮影待機中に ⓚ ボタンを押すか、静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**一時停止**］を選んで ⓚ ボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］で設定した間隔が短いときは、MENU ボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。

- ［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んだ場合、撮影待機中に ⓚ ボタンを押すとインターバルタイマー撮影を途中で終了します。

インターバルタイマー撮影を再開するには

インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

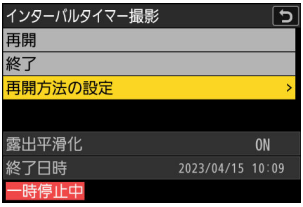
• すぐに再開する場合



［**再開**］を選んで ⓚ ボタンを押す

• 再開する日時を設定する場合

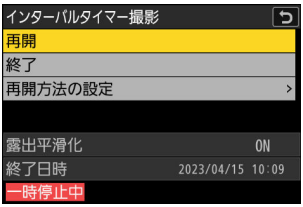
- ［**再開方法の設定**］を選んで ⓘ を押し、表示された画面で［**日時指定**］を選び ⓘ を押す



- 開始日時を設定して ⓚ ボタンを押す



- ［**再開**］を選んで ⓚ ボタンを押す



インターバルタイマー撮影を途中で終了するには

インターバルタイマー撮影を途中で終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**終了**］を選び、㊎ボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］の設定が短い場合、MENUボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は㊎ボタンを押して一時停止してから、静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**終了**］を選んで㊎ボタンを押してください。

☑ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに 1 回の撮影コマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、設定した［**撮影回数×1 回のコマ数**］で撮影できないことがあります。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- 設定した開始日時が現在時刻後 1 分以内の場合や［**撮影間隔**］が［**00:00'00"**］の場合、シャッタースピードが **Bulb**（バルブ）または **Time**（タイム）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- ［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んだ場合は、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、インターバルタイマー撮影中に半押しタイマーはオフになりません。
- 静止画撮影メニュー［**階調モード**］で［**HLG**］に設定している場合、［**オプション**］>［**タイムラプス動画**］>［**動画記録ファイル形式**］は［**H.265 10-bit（MOV）**］に固定されます。
- ［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選び、画像サイズを 7680×4320 に設定しているとき、次の場合はインターバルタイマー撮影を開始できません。
  - 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］が［**DX（24×16）**］または［**1:1（24×24）**］に設定されている場合
  - DX レンズを装着している場合
- メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（🕮 481）。
- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、設定した撮影回数やコマ数に達する前に撮影が終了する場合があります。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
  - 電源を OFF にして、再度 ON にしたとき（電源が OFF の間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します）
  - レリーズモードをセルフタイマーまたは「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。

撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1 回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、撮影時刻の数秒前に画面の表示を消灯して、撮影に入ります。

インターバルタイマー撮影の制限について

次の場合など、インターバルタイマー撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR 合成
- フォーカスシフト撮影
- ピクセルシフト撮影
- オートキャプチャー撮影

インターバルタイマー撮影の設定について

電源を OFF にしたり、レリーズモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

撮影メニューの切り換えとリセットについて

インターバルタイマー撮影中は撮影メニューの切り換えおよびリセットはできません。

タイムラプス動画

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。

項目	内容
［**撮影開始**］	タイムラプス動画撮影を開始します。約 3 秒後に撮影を開始し、設定した［**撮影時間**］内に設定した［**撮影間隔**］で撮影を繰り返します。
［**撮影間隔**］	撮影間隔（分、秒）を設定します。
［**撮影時間**］	撮影時間（時、分）を設定します。
［**露出平滑化**］	［**ON**］に設定すると、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。 • 輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。 • 撮影モード **M** で静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**感度自動制御**］が［**OFF**］の場合、露出の平滑化は行いません。
［**撮像範囲設定**］	タイムラプス動画撮影時の撮像範囲を［**FX**］または［**DX**］に設定できます。
［**動画記録ファイル形式**］	記録するタイムラプス動画のファイル形式を設定できます。
［**画像サイズ/フレームレート**］	記録されるタイムラプス動画の画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定できます。選べる画像サイズは、［**動画記録ファイル形式**］の設定により異なります。

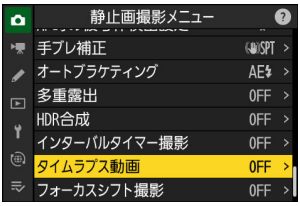
項目	内容
［**撮影間隔優先**］	• ［**ON**］：撮影モードが **P** または **A** のときに、露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影します。 - カスタムメニュー a1［**AF-C モード時の優先**］および a2［**AF-S モード時の優先**］の設定にかかわらず、レリーズ優先になります。 - 静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］で［**感度自動制御**］を［**ON**］にしたときの［**低速限界設定**］の設定値が、設定した撮影間隔より長い場合は、撮影間隔を優先して感度が自動制御されます。 • ［**OFF**］：撮影間隔よりも露光時間を優先して撮影します。
［**撮影間隔毎の AF 駆動**］	［**ON**］に設定すると、撮影してから次の撮影までの間に、カメラが自動でピント合わせを行います。
［**動画記録先**］	メモリーカードを 2 枚使用している場合にタイムラプス動画を記録するスロットを設定します。

タイムラプス動画の撮影方法

タイムラプス動画撮影を開始する前に

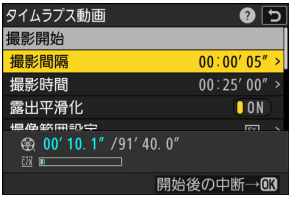
- タイムラプス動画撮影で撮影される静止画の画角は、動画撮影時と同じになります。
- 試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニュー［**タイムゾーンと日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、次のいずれかをお使いください。
  - 充分に充電したバッテリー
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P と USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）
  - 別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b

1 静止画撮影メニュー［タイムラプス動画］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す



2 タイムラプス動画の設定をする

- **撮影間隔（インターバル）を設定する**



［**撮影間隔**］を選んで ▶ を押す



撮影間隔（分、秒）を設定して ⓚ ボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

• 撮影時間を設定する



［**撮影時間**］を選んで ⊛ を押す



撮影時間（時、分）を設定して ⊛ ボタンを押す

- 撮影時間は、最長で 23 時間 59 分まで設定できます。

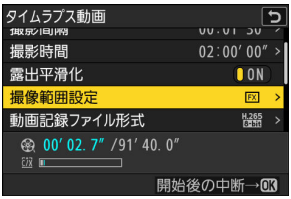
• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



［**露出平滑化**］を選んで ⊛ を押して［**ON**］/［**OFF**］を切り換える

-［**ON**］に設定すると、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。

• 撮像範囲を設定する

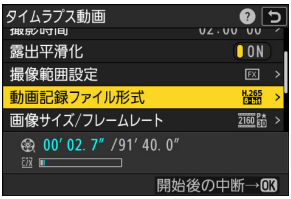


［**撮像範囲設定**］を選んで ⊛ を押す

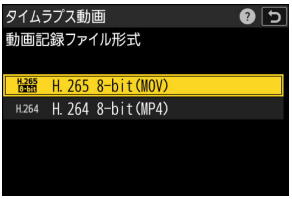


撮像範囲を選んで ⊛ ボタンを押す

• 動画記録ファイル形式を設定する

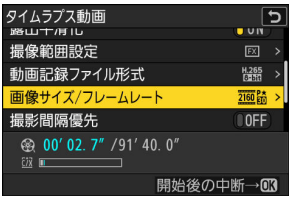


［**動画記録ファイル形式**］を選んで ⊛ を押す



ファイル形式を選んで ⊛ ボタンを押す

• 画像サイズ/フレームレートを設定する

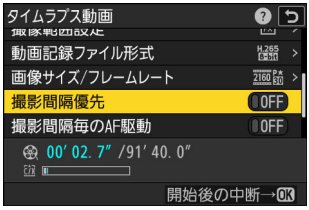


［**画像サイズ/フレームレート**］を選んで ⊛ を押す



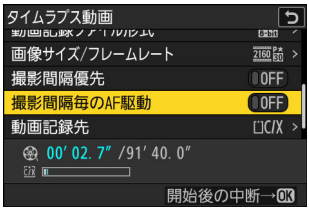
動画の画像サイズ/フレームレートを選んで ⊛ ボタンを押す

• 露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうか選ぶ



［**撮影間隔優先**］を選んで ⊛ を押して［**ON**］/［**OFF**］を切り換える

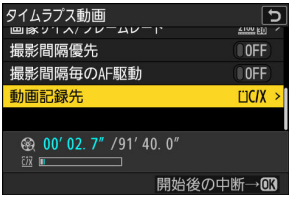
• 撮影間隔ごとにピント合わせを行うかどうか選ぶ



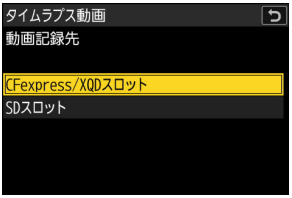
［**撮影間隔毎の AF 駆動**］を選んで ▶ を押して［**ON**］/［**OFF**］を切り換える

- ［**撮影間隔毎の AF 駆動**］を［**ON**］に設定している場合は、選んだフォーカスモードに従って、毎回の撮影の直前にピント合わせを行います。

• タイムラプス動画を記録するスロットを選ぶ



［**動画記録先**］を選んで ▶ を押す



メモリーカードを 2 枚使用している場合にタイムラプス動画を記録するスロットを選んで ⓞⓚ ボタンを押す

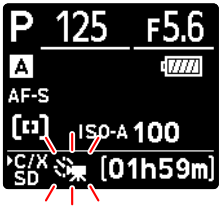
3 ［撮影開始］を選んで ⓞⓚ ボタンを押す



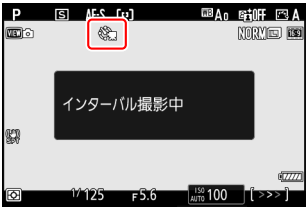
- 約 3 秒後に撮影を開始します。
- 撮影中は撮影画面は消灯します。
- 手順 2 で設定した［**撮影時間**］内に、設定した［**撮影間隔**］で撮影を繰り返します。

タイムラプス動画撮影の待機状態について

- 表示パネルに が表示されます。



- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、撮影画面に［**インターバル撮影中**］と表示され、 アイコンが点滅します。



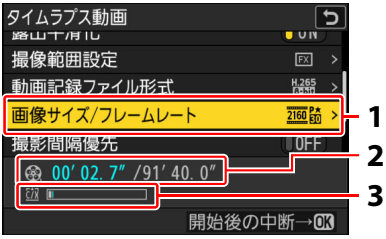
タイムラプス動画撮影を途中で終了するには

タイムラプス動画撮影を途中で終了するには、撮影待機中に ⓚ ボタンを押すか、静止画撮影メニュー［**タイムラプス動画**］で［**終了**］を選んで ⓚ ボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］で設定した間隔が短いときは、MENU ボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。

- タイムラプス動画撮影を終了すると、終了時点までの動画がメモリーカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

☑ タイムラプス動画の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順 2 で設定する撮影時間を撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）に 1 を足した数が、記録コマ数（撮影回数）になります。
- タイムラプス動画で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数÷［**画像サイズ/フレームレート**］で選んだフレームレートで計算できます（例えば、［**画像サイズ/フレームレート**］が［**1920×1080 24p**］のときに記録コマ数が 48 コマの場合、記録される動画の長さは約 2 秒になります）。



1 動画の画像サイズ/フレームレート
2 記録時間/最長記録時間
3 メモリーカード使用状況

☑ 撮影直後の画像確認について

タイムラプス動画撮影中は、▶ ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］または［**する（画像モニター表示のみ）**］にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間表示されます。表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります。また、撮影間隔が短い場合は表示されないことがあります。

タイムラプス動画撮影についてのご注意

- タイムラプス動画には音声は記録されません。
- 実際のタイムラプス動画撮影には、インターバル時間のほか、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、タイムラプス動画撮影を開始または設定できません。
  - 設定した［**撮影時間**］が［**撮影間隔**］より短い場合
  - ［**撮影間隔**］または［**撮影時間**］が［**00:00'00"**］の場合
  - メモリーカードのメモリー残量がない場合
- ［**タイムラプス動画**］画面の記録時間が赤色で表示されている場合、タイムラプス動画撮影を開始できません。［**撮影間隔**］または［**撮影時間**］の設定を変更してください。
- 静止画撮影メニュー［**階調モード**］で［**HLG**］に設定している場合、［**動画記録ファイル形式**］は［**H.265 10-bit（MOV）**］に固定されます。
- ［**画像サイズ/フレームレート**］で画像サイズを 7680×4320 に設定している場合に、［**撮像範囲設定**］を［**DX**］に設定するか、DX レンズを装着しているとタイムラプス撮影を開始できません。
- タイムラプス動画撮影中は、▶ ボタンを押しても画像の再生はできません。
- タイムラプス動画を撮影する場合、ホワイトバランスを WB A［**オート**］または ☀A［**自然光オート**］以外に設定すると色味を固定することができます。
- タイムラプス動画撮影中は、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- タイムラプス動画撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMI ケーブルを接続すると、撮影が終了することがあります。その場合はその時点までの動画を記録してタイムラプス動画撮影を終了します。
- 次の場合は動画を記録せずに、タイムラプス動画撮影が終了します（タイムラプス動画撮影終了時の電子音は鳴りません）。
  - バッテリーや AC アダプターを取り外したとき
  - メモリーカードを取り出したとき

タイムラプス動画撮影待機中の各種設定について

タイムラプス動画撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作を行うことができます。ただし、撮影時刻の約 2 秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

タイムラプス動画の制限について

次の場合など、タイムラプス動画とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR 合成
- インターバルタイマー撮影
- フォーカスシフト撮影
- ピクセルシフト撮影
- オートキャプチャー撮影

フォーカスシフト撮影

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ピント位置を変えながら自動的に連続撮影を行います。ピント面の異なる複数の画像を合成して被写界深度の深い画像を作成する、深度合成の素材を撮影できます。フォーカスシフト撮影をするときは、フォーカスモードを **AF-S** または **AF-C** に設定し、レリーズモードをセルフタイマーまたは「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影以外に設定してください。

項目	内容
［**撮影開始**］	撮影を開始します。撮影は、設定したフォーカスステップ幅で繰り返されます。
［**撮影回数**］	撮影回数を最大 300 回まで設定できます。
［**フォーカスステップ幅**］	フォーカスシフト撮影は、ピント位置を変更しながらステップ撮影を行います。ピント位置の変更幅を設定します。
［**待機時間**］	シャッターをきってから次にシャッターをきるまでの時間を秒単位で設定できます。 • ［**00**］に設定すると、最速約 5 コマ/秒でシャッターがきれます。 • フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。
［**露出固定**］	• ［**ON**］：露出を 1 コマ目撮影時の設定に固定します。 • ［**OFF**］：1 コマごとに露出を合わせます。
［**フォーカス位置の自動リセット**］	• ［**ON**］：1 回のフォーカスシフト撮影が終了したときにレンズのピント位置が撮影開始時の位置に戻ります。同じ距離範囲で複数回フォーカスシフト撮影を行う場合に、再度ピント合わせを行う手間を省けます。 • ［**OFF**］：ピント位置はフォーカスシフト撮影終了時の位置で止まります。ひとつの被写体を複数回に分けてフォーカスシフト撮影を行う場合に、前回の続きのピント位置から撮影できます。

項目	内容
［撮影開始時の記録フォルダー］	項目を選んで ⓚ ボタンを押すかマルチセレクターの ▶ を押すと、オン ☑ とオフ □ を切り換えられます。 • ［**新規フォルダー作成**］：フォーカスシフト撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。 • ［**ファイル番号リセット**］：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

フォーカスシフト撮影の撮影方法

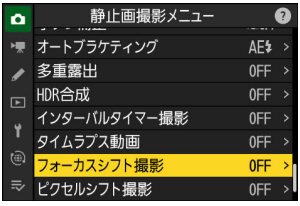
フォーカスシフト撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、次のいずれかをお使いください。
  - 充分に充電したバッテリー
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P と USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）
  - 別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b

1 被写体にピントを合わせる

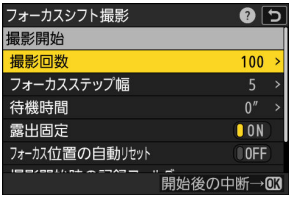
- 撮影開始のピント位置から無限遠方向に向かって自動撮影されます。ピント位置が無限遠に達すると撮影を終了するため、撮影開始時は、被写体より少し手前（カメラ側）にピントを合わせておくことをおすすめします。
- ピント合わせ後はカメラを動かさないでください。

2 静止画撮影メニューの［フォーカスシフト撮影］を選んでマルチセレクターの ▶ を押す



3 フォーカスシフト撮影の設定をする

• 撮影回数を設定する



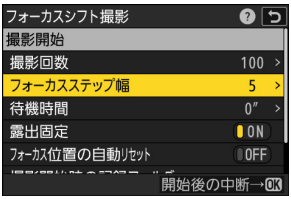
［**撮影回数**］を選んで ▶ を押す



撮影回数を設定して ⓚ ボタンを押す

- 撮影回数は最大 300 回まで設定できます。
- 撮影回数は多めに設定しておくことをおすすめします。合成時には必要な画像を選んで使用してください。
- 昆虫などの小さい被写体をクローズアップ撮影する場合、100 枚以上の画像が必要になることがあります。また、手前から遠くまでをカバーする風景を広角レンズで撮影する場合は、数枚で充分なこともあります。

• フォーカスステップ幅（ピント位置の間隔）を設定する



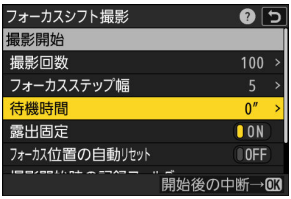
［**フォーカスステップ幅**］を選んで ▶ を押す



フォーカスステップ幅を設定して ⓚ ボタンを押す

- フォーカスステップ幅は、▶ を押すほど広くなり、◀ を押すほど狭くなります。
- フォーカスステップ幅を大きな数値に設定すると、深度合成したときにピントの合っていない領域ができてしまうことがあります。通常は 5 以下に設定することをおすすめします。
- フォーカスステップ幅は何度か試して決めてください。

• 待機時間を設定する



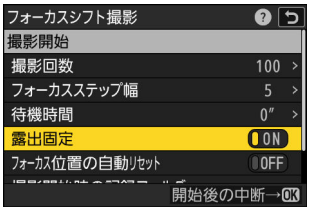
［**待機時間**］を選んで ▶ を押す



待機時間を設定して ⓚ ボタンを押す

- シャッターをきってから次にシャッターをきるまでの時間を秒単位で設定できます。
- ［**00**］に設定すると最速約 5 コマ/秒でシャッターがきれます。
- フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。フラッシュを使用しない場合は、［**00**］に設定することをおすすめします。

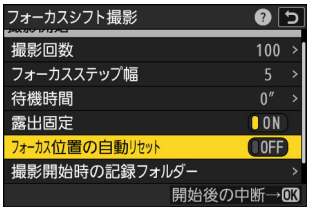
• 露出を固定するかどうかを選ぶ



［**露出固定**］を選んで ▶ を押して［**ON**］/［**OFF**］を切り換える

- 光源などの撮影環境が安定している場合は［**OFF**］、風景などの光線条件が変化するような場合は［**ON**］をおすすめします。
- ［**ON**］に設定すると、全てのコマが同じ露出になるように、露出を 1 コマ目撮影時の設定に固定します。ただし、輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は、［**OFF**］に設定することをおすすめします。

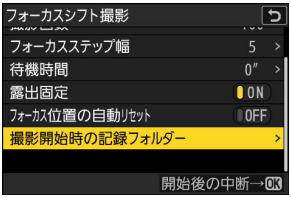
• **フォーカス位置を自動でリセットするかどうかを選ぶ**



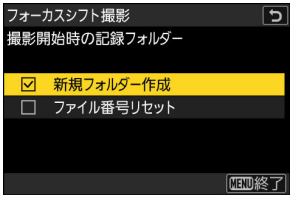
［**フォーカス位置の自動リセット**］を選んで ▶ を押して［**ON**］/［**OFF**］を切り換える

- 同じ距離範囲で複数回フォーカスシフト撮影を行う場合は、［**ON**］に設定することをおすすめします。
- ［**OFF**］に設定すると、ピント位置はフォーカスシフト撮影終了時の位置で止まります。

• **撮影開始時の記録フォルダーの設定をする**



［**撮影開始時の記録フォルダー**］を選んで ▶ を押す



OK ボタンを押して各項目のオン ☑ とオフ ☐ を切り換えて ◀ を押す

4 ［撮影開始］を選んで OK ボタンを押す



- 表示パネルに Focus が点滅し、約 3 秒後に撮影を開始します。
- 撮影中は撮影画面は消灯します。
- 撮影開始時のピント位置から無限遠に向かって連続撮影を行います。
- 設定した撮影回数に達するか、ピント位置が無限遠に達すると撮影を終了します。

フォーカスシフト撮影を途中で終了するには

フォーカスシフト撮影を途中で終了するには、次の操作を行います。

- 撮影待機中に静止画撮影メニュー［**フォーカスシフト撮影**］で［**終了**］を選び、㊎ ボタンを押す
- 次の撮影までの間にシャッターボタンを半押しするか、㊎ ボタンを押す

フォーカスシフト撮影についてのご注意

- 実際のフォーカスシフト撮影には、待機時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した待機時間で撮影できないことがあります。
- ピント位置が無限遠に達すると撮影を終了するため、撮影開始時のピント位置によっては、設定した撮影回数の撮影を行わない場合があります。
- フォーカスシフト撮影中は、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。待機時間が充分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- シャッタースピードが **Bulb**（バルブ）または **Time**（タイム）の場合など、フォーカスシフト撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- フォーカスシフト撮影中にカメラの設定を変更すると、フォーカスシフト撮影が終了する場合があります。

フォーカスシフト撮影の制限について

次の場合など、フォーカスシフト撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR 合成
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- ピクセルシフト撮影
- オートキャプチャー撮影

ヒント：フォーカスシフト撮影時の絞り値について
レンズの絞りを絞り込み過ぎることによる解像感の低下を防ぐため、絞り値を f/8～f/11 よりも開いて（より小さい数値にして）撮影することをおすすめします。

ヒント：近接撮影を行う場合
近接撮影では焦点深度が浅くなるため、近接被写体のフォーカスシフト撮影を行う場合は、フォーカスステップ幅を狭めにし、撮影回数を多めにして撮影することをおすすめします。

ピクセルシフト撮影

MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

撮像素子の位置を変えながら自動的に複数の RAW 画像を撮影します。撮影した RAW 画像をニコンのソフトウェア NX Studio を使用して合成すると、通常よりも高画質な画像を生成できます。

項目	内容
[**ピクセルシフト撮影モード**]	• [**する（連続）**]：解除するまで連続してピクセルシフト撮影できます。ピクセルシフト撮影モードを解除するには、もう一度 [**ピクセルシフト撮影モード**] を選んで [**しない**] に設定してください。 • [**する（1 回）**]：1 回撮影を終了すると、ピクセルシフト撮影モードが解除されます。 • [**しない**]：ピクセルシフト撮影モードを解除します。
[**撮影コマ数**]	シャッターボタンを 1 回全押しして撮影するコマ数を設定します。撮影するコマ数が多いほど撮影にかかる時間が長くなりますが、合成した画像の画質は高くなります。
[**ディレー**]	シャッターボタンを全押ししてからピクセルシフト撮影を開始するまでの時間を設定します。
[**待機時間**]	コマ間の撮影間隔を秒単位で設定できます。

ピクセルシフト撮影の撮影方法

ピクセルシフト撮影を開始する前に

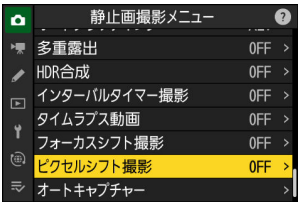
- ピクセルシフト撮影は、風景や建築物などの動かない被写体を三脚を使用して撮影することを想定しています。このため、被写体が動いた場合や三脚を使用せずに撮影した場合は想定した結果にならないことがあります。
- ピクセルシフト合成した画像の画質を向上させるために、撮影前にセットアップメニュー［**ピクセルマッピング**］を実行することをおすすめします。
- 試し撮りをすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、次のいずれかをお使いください。
  - 充分に充電したバッテリー
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P と USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）
  - 別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b

NX Studio について

ニコンダウンロードセンターから最新のインストーラーをダウンロードしてインストールしてください。最新のバージョンではない場合、ピクセルシフト合成に対応していないことがあります。

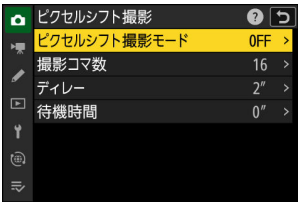
1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 静止画撮影メニューの［ピクセルシフト撮影］を選んでマルチセレクターの ⊛ を押す

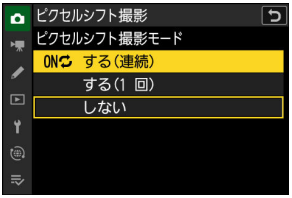


3 ［ピクセルシフト撮影モード］を設定する

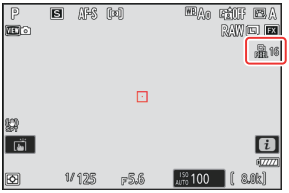
- ［**ピクセルシフト撮影モード**］を選んで ▶ を押します。



- ▲▼ を押して［**する（連続）**］または［**する（1 回）**］を選び、⊛ を押します。
  - 画質モードは［**RAW**］に固定されます。



- 撮影画面と表示パネルに PIXEL アイコンが表示されます。

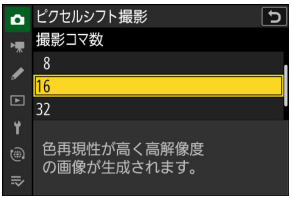


4 ［撮影コマ数］を設定する

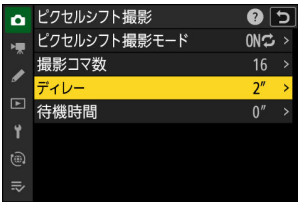
- ［**撮影コマ数**］を選んで ▶ を押します。



- ▲▼ を押してコマ数を設定し、⊛ を押します。



5 [ディレー] を設定する

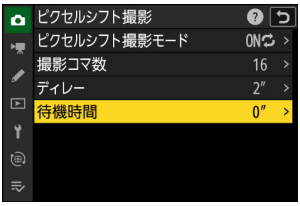


- [**ディレー**] を選んで ▶ を押します。シャッターボタンを全押ししてからピクセルシフト撮影を開始するまでの時間を設定します。



- ▲▼ を押して秒数を設定し、OK を押します。

6 [待機時間] を設定する



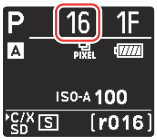
- [**待機時間**] を選んで ▶ を押します。コマ間の撮影間隔を秒単位で設定できます。



- ▲▼ を押して秒数を設定し、OK を押します。

7 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、［**撮影コマ数**］で設定したコマ数が表示パネルに表示され、［**ディレー**］で設定した時間が経過した後に設定したコマ数の RAW 画像を撮影します。



- ［**撮影コマ数**］で設定したコマ数が多い場合、撮影にかかる時間が長くなります。
- ［**ピクセルシフト撮影モード**］が［**する（連続）**］の場合、［**しない**］を選んでピクセルシフト撮影モードを解除するまでピクセルシフト撮影モードで撮影できます。
- ［**ピクセルシフト撮影モード**］が［**する（1 回）**］の場合、1 回撮影するとピクセルシフト撮影モードが解除されます。

8 撮影した RAW 画像を NX Studio で合成する

- 画像の合成方法は NX Studio のヘルプをご覧ください。
- 撮影時に被写体が動いた場合や、被写体の明るさが変化した場合は撮影した RAW 画像が正しく合成されないことがあります。

ピクセルシフト撮影を途中で終了するには

ピクセルシフト撮影を途中で終了するには、次の撮影までの間にシャッターボタンを半押しするか、Ⓚ ボタンを押してください。

ピクセルシフト撮影についてのご注意

- レリーズモードを連続撮影に設定した場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- ピクセルシフト撮影中にカメラの設定を変更すると、ピクセルシフト撮影が終了する場合があります。
- ［**待機時間**］を［**00**］に設定すると、静止画撮影メニュー［**フラッシュモード**］の設定にかかわらずスピードライトは発光しません。
- シャッタースピードは、**Bulb**（バルブ）または **Time**（タイム）に設定できません。
- オートフォーカスで撮影する場合、フォーカスモードは **AF-S** に固定されます。**AF-C** 時のみ設定できる AF エリアモードを選んでいた場合、シングルポイント AF に切り替わります。
- カスタムメニュー d6［**M モード時のシャッタースピード延長**］は［**OFF**］に固定されます。

ピクセルシフト撮影の制限について

次の場合など、ピクセルシフト撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- セルフタイマー撮影
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影
- 長秒時ノイズ低減
- 静止画フリッカー低減
- 手ブレ補正
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR 合成
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影
- オートキャプチャー撮影
- 露出ディレーモード
- パワーセーブ（静止画モード）

オートキャプチャー

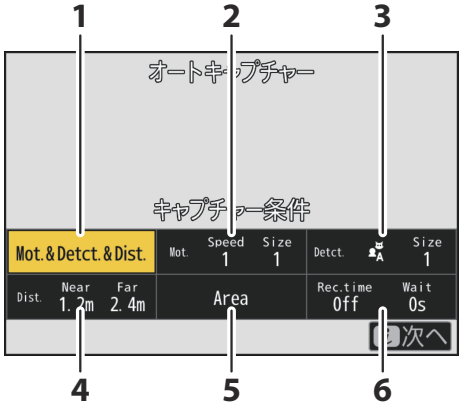
MENU ボタン ➡ 静止画撮影メニュー

被写体の動く方向、被写体を検出するかどうか、被写体を認識する遠近の範囲を設定し、設定した条件でカメラが被写体を認識すると自動で連続撮影を行います。撮影者が不在でも自動で撮影する、無人撮影を補助する機能です。

項目	内容
［**開始**］	オートキャプチャー設定画面（📖 508）が表示され、オートキャプチャー撮影を行う条件を設定できます。設定確認画面で想定したとおりに被写体が認識できているかどうかを確認後、動画撮影ボタンを押すとオートキャプチャー撮影を開始します。
［**ユーザープリセットの選択**］	• オートキャプチャー撮影の設定を、［**ユーザープリセット 1**］～［**ユーザープリセット 5**］まで登録できます。プリセットを選んで ▶ を押すと、設定の確認、プリセット名の編集、プリセットのコピーを行えます。 - ［**設定確認**］：ユーザープリセットの内容を一覧で確認できます。 - ［**名前編集**］：プリセット名を編集できます。19 文字まで入力できます。 - ［**コピー**］：コピー先を選んで OK ボタンを押すと、現在のプリセットの内容をコピーできます。 • すでにオートキャプチャー撮影の設定が登録されているプリセットがある場合、プリセットを選んでから［**開始**］を実行すると、すぐにオートキャプチャー撮影を始めることができます。

オートキャプチャー設定画面について

設定画面では自動で連続撮影を行う条件を設定します。項目を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、それぞれの項目の詳細設定画面が表示されます。



1 ［**キャプチャー条件**］
2 ［**詳細条件：モーション**］
3 ［**詳細条件：被写体検出**］
4 ［**詳細条件：距離**］
5 ［**有効エリアの設定**］
6 ［**撮影時間設定**］

項目	内容
［**キャプチャー条件**］	• オートキャプチャー撮影を行う条件を設定できます。 - ［**モーション**］：設定した方向に被写体が移動した場合に自動で撮影したい場合にオン ☑ にします。 - ［**被写体検出**］：設定した被写体を検出した場合に自動で撮影したい場合にオン ☑ にします。 - ［**距離**］：設定した距離の範囲に被写体が存在している間、自動で撮影したい場合にオン ☑ にします。 • 条件を複数選択すると、全ての条件を満たした場合のみ撮影します。
［**詳細条件：モーション**］	［**キャプチャー条件**］で［**モーション**］をオン ☑ にしている場合に有効になります。撮影の対象となる被写体の移動方向やサイズ、どのくらいの速さで移動したら撮影対象とするかを設定します（🕮 517）。
［**詳細条件：被写体検出**］	［**キャプチャー条件**］で［**被写体検出**］をオン ☑ にしている場合に有効になります。撮影の対象となる被写体の種類と、被写体のサイズを設定します（🕮 520）。

項目	内容
［**詳細条件：距離**］	［**キャプチャー条件**］で［**距離**］をオン ☑ にしている場合に有効になります。撮影の対象となる被写体までの距離の範囲を設定します（🕮 522）。設定した範囲内に被写体が存在する間、撮影を行います。
［**有効エリアの設定**］	AF エリアモードが［**オートエリア AF**］の場合、被写体を判別するエリアの有効/無効を切り換えられます。有効に設定したエリアに撮影条件を満たす被写体が存在する場合、撮影を行います。画角内にある障害物など、被写体判別を行う必要がない部分を無効にしておくことでより正確に被写体を捉えられます。
［**撮影時間設定**］	［**撮影時間の指定**］と［**撮影後の待機時間**］を設定できます。 • ［**撮影時間の指定**］：撮影条件を満たす被写体をカメラが認識したときに、撮影する時間を選べます。撮影開始後に被写体が認識されなくなっても、設定した時間分の撮影を行います。 - カメラの設定によっては、設定した時間分の撮影ができない場合があります。 • ［**撮影後の待機時間**］：1 回の撮影後の最低待機時間を選べます。前回の撮影終了後、設定した時間内に被写体が認識されても、設定した時間が経過するまでは撮影を開始しません。

オートキャプチャー撮影の撮影方法

オートキャプチャー撮影を開始する前に

- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、次のいずれかをお使いください。
  - 充分に充電したバッテリー
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P と USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）
  - 別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b
- 撮像範囲は［**FX（36×24）**］または［**DX（24×16）**］が使用できます。［**1:1（24×24）**］または［**16:9（36×20）**］に設定している場合、オートキャプチャー撮影は使用できません。

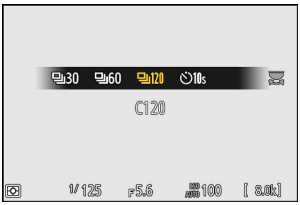
1 三脚などを使ってカメラを固定する

撮影する構図を決めてカメラを固定してください。

ヒント：オートキャプチャー撮影時の画角について

オートキャプチャー撮影に慣れるまでは、画角を広めに取ることをおすすめします。

2 レリーズモードを［低速連続撮影］、［高速連続撮影］、［C30］、［C60］または［C120］に設定する



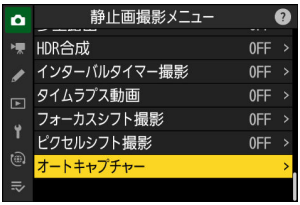
- 1 コマ撮影およびセルフタイマー撮影に設定している場合、オートキャプチャー撮影を開始すると一時的に高速連続撮影に切り替わります。
- レリーズモードを低速連続撮影または高速連続撮影に設定している場合は、連続撮影速度を設定してください。

3 ピント位置を設定する

AF エリアモードを設定し、被写体が現れると想定される位置にフォーカスポイントを合わせます。

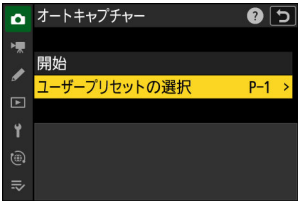
- オートフォーカスで撮影する場合、オートキャプチャー撮影時のフォーカスモードは一時的に **AF-C** になります。
- AF エリアモードを［**オートエリア AF**］に設定した場合、高速連続撮影時の連続撮影速度を 20 コマ/秒を選んでいても、15 コマ/秒に低下します。
- マニュアルフォーカスで撮影する場合、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを［**M**］に設定し、手動でピント位置を調節してください。フォーカスモード切り換えスイッチがないレンズを装着している場合、マニュアルフォーカス撮影はできません。

4 静止画撮影メニュー［オートキャプチャー］を選んで ▶ を押す



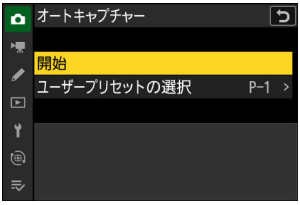
5 ［ユーザープリセットの選択］で設定の登録先を選んで Ⓚ ボタンを押す

［**ユーザープリセット 1**］～［**ユーザープリセット 5**］からオートキャプチャー撮影設定の登録先を選びます。

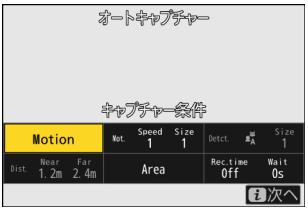


6 ［開始］を選んで Ⓚ ボタンを押す

オートキャプチャー設定画面が表示されます。



7 ［キャプチャー条件］を選んで ㊎ ボタンを押す



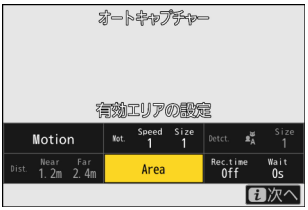


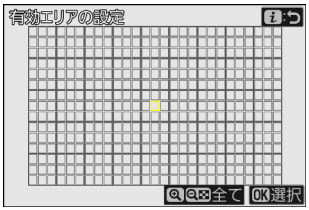
- オートキャプチャー撮影を行う条件を選びます。項目を選んで ㊎ ボタンを押すとオン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。
- 🔍 ボタンを押すと、設定を決定してオートキャプチャー設定画面に戻ります。

8 ［キャプチャー条件］で選んだ条件によって詳細な設定を行う

- ［**モーション**］をオン ☑ にしている場合は、「［**キャプチャー条件**］で［**モーション**］をオンにしている場合」（🕮 517）をご覧ください。
- ［**被写体検出**］をオン ☑ にしている場合は、「［**キャプチャー条件**］で［**被写体検出**］をオンにしている場合」（🕮 520）をご覧ください。
- ［**距離**］をオン ☑ にしている場合は、「［**キャプチャー条件**］で［**距離**］をオンにしている場合」（🕮 522）をご覧ください。
- ［**キャプチャー条件**］は複数の項目をオン ☑ にできますが、オートキャプチャー撮影に慣れるまでは 1 つにしておくことをおすすめします。

9 ［有効エリアの設定］を選んで ⓚ ボタンを押す



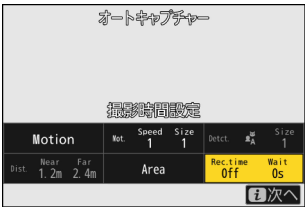


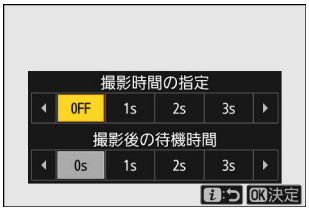
- AF エリアモードが［**オートエリア AF**］の場合に、被写体を判別するエリアの有効/無効を切り換えられます。他の AF エリアモードを選んでいる場合は設定できません。手順 10 に進んでください。
- 画角内にある障害物など、被写体判別を行う必要がない部分を無効にしておくことでより正確に被写体を捉えられます。
- ⓚ ボタンを押すとポイントが赤色（無効）になり、被写体を判別する範囲の対象外になります。もう一度 ⓚ ボタンを押すと透明（有効）に戻ります。
- 🔍 ボタンを押すと全てのポイントを有効にします。
- 🔍（**?**）ボタンを押すと全てのポイントを無効にします。
- 画像モニターをタッチすると、3×3 のグリッドごとに有効/無効を切り換えられます。
- **i** ボタンを押すと設定を決定してオートキャプチャー設定画面に戻ります。

☑ 無効に設定したエリアについて

［**キャプチャー条件**］は有効にしたエリアの周辺でのみ判別されます。たとえば［**モーション**］をオン ☑ にしている場合、無効に設定したエリアで動きがあってもカメラは被写体を判別しません。

10 ［撮影時間設定］を選んで ⓚ ボタンを押す





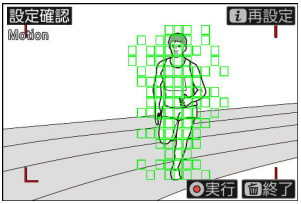
- ［**撮影時間の指定**］で 1 回の撮影時間を 1 秒～30 分および［**OFF**］（制限なし）から選べます。［**OFF**］以外に設定すると、撮影開始後に被写体が認識されなくなっても、設定した時間分の撮影を行います。
- ［**撮影後の待機時間**］で 1 回の撮影後の最低待機時間を 0 秒～30 分から選べます。
- ⓚ ボタンを押すと設定を決定してオートキャプチャー設定確認画面に戻ります。

11 i ボタンを押す



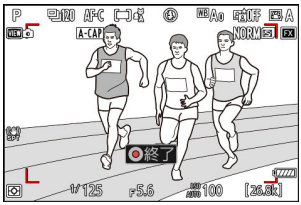
- 設定確認画面が表示されます。
- 設定確認画面の左上に、［**キャプチャー条件**］でオン ☑ にした項目名が表示されます。

12 想定したとおりに被写体を認識しているかどうかを確認する



- 設定した条件を満たす被写体をカメラが認識すると、被写体に合わせて設定確認画面に緑色の枠が表示されます。
- AF エリアモードの設定が［**オートエリア AF**］以外の場合、フォーカスポイントを移動できます。
- AF エリアモードの設定が［**ワイドエリア AF（C1）**］または［**ワイドエリア AF（C2）**］の場合、フォーカスモードボタンを押しながらマルチセレクターの ▲◀▶▼ を押すと AF エリアのサイズを変更できます。
- 設定確認画面でフォーカスモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、AF エリアモードを変更できます。
- 想定したとおりに緑色の枠が表示されない場合は、i ボタンを押して手順 8～9 に戻って設定をやり直してください。

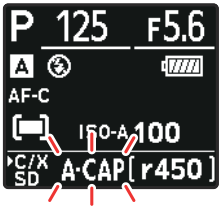
13 オートキャプチャー撮影を開始する



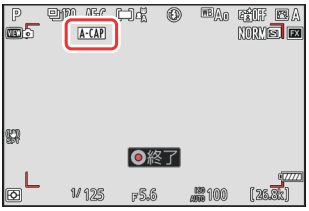
- 設定確認画面で動画撮影ボタンを押すと、オートキャプチャー撮影が開始します。
- 設定した条件を満たす被写体をカメラが認識している間、自動で撮影を行います。
- [**キャプチャー条件**] で複数の項目を選択している場合、すべての条件を満たした被写体を認識した場合のみ撮影を行います。
- カメラの操作をしないまま約 3 分間経過すると、省電力のため撮影画面が消灯しますがオートキャプチャー撮影は継続しています。**DISP** ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると撮影画面が点灯します。

オートキャプチャー撮影の待機状態について

- 表示パネルに **A-CAP** が点滅します。



- 撮影画面に A-CAP アイコンが点滅します。



ヒント：プリキャプチャー機能を使用する

レリーズモードで［**C30**］、［**C60**］または［**C120**］を選んでいる場合、カスタムメニュー d3［**プリキャプチャー記録設定**］の設定を使用できます。

ヒント：サイレントモードで撮影する

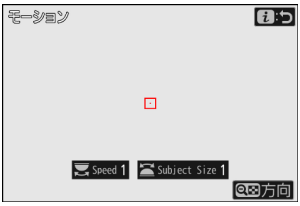
セットアップメニュー［**サイレントモード**］を［**ON**］に設定すると、サイレントモードで撮影できます。

［キャプチャー条件］で［モーション］をオンにしている場合

撮影の対象となる被写体の移動方向やサイズ、どのくらいの速さで移動したら撮影対象とするかを設定できます。

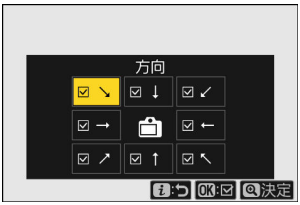
1 オートキャプチャー設定画面で［詳細条件：モーション］を選んで ⓞ ボタンを押す

モーション設定画面が表示されます。



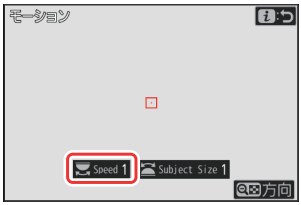
2 ⊖ (?) ボタンを押して被写体の移動方向を設定する

- 方向設定画面が表示されます。
- 被写体が動く方向を選び、ⓞ ボタンを押してオン ☑ とオフ □ を切り換えます。
- ⊕ ボタンを押すと、設定を決定してモーション設定画面に戻ります。



3 メインコマンドダイヤルを回して被写体のスピードを設定する

メインコマンドダイヤルを回して［**Speed**］を［**1**］～［**5**］の間で設定します。値が大きいほど速い動きの被写体のみ撮影し、値が小さいほど動きの遅い被写体でも撮影します。

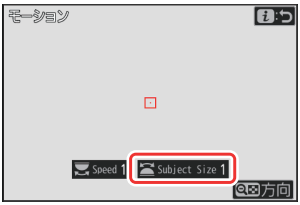


ヒント：サイズとスピードの設定値について

- モーション設定画面では、［**Subject Size**］および［**Speed**］の設定に合わせて、撮影対象と認識した被写体に緑色の枠が表示されます。
- ［**Speed**］は被写体が画角内の左端から右端までを横断する速さに応じて値を設定してください。目安となる秒数は次のとおりです。被写体の動きが速すぎると認識しない場合があります。
  - ［**1**］：約 5 秒以下
  - ［**2**］：約 4 秒以下
  - ［**3**］：約 3 秒以下
  - ［**4**］：約 2 秒以下
  - ［**5**］：約 1 秒以下
- ［**Subject Size**］および［**Speed**］をそれぞれ［**1**］に設定すると、さまざまな大きさや動く速度の被写体を撮影対象と認識しやすくなります。最初は小さい値に設定し、モーション設定画面に表示される緑色の枠の確認や試し撮りを繰り返し行って、適切に被写体が認識されるように徐々に数値を大きく調整していくことをおすすめします。

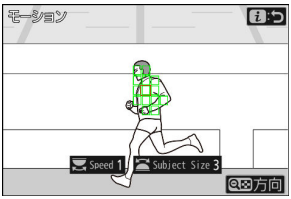
4 サブコマンドダイヤルを回して被写体のサイズを設定する

サブコマンドダイヤルを回して［**Subject Size**］を［**1**］～［**5**］の間で設定します。値が大きいほどサイズの大きな被写体のみ撮影し、値が小さいほどサイズの小さな被写体でも撮影します。



ヒント：サイズの設定値について

- モーション設定画面では、［**Subject Size**］および［**Speed**］の設定に合わせて、撮影対象と認識した被写体に緑色の枠が表示されます。
- ［**Subject Size**］の各設定値のサイズ（指標となるポイントの数）は次のとおりです。
  - ［**1**］：4 個分以上
  - ［**2**］：8 個分以上
  - ［**3**］：14 個分以上
  - ［**4**］：24 個分以上
  - ［**5**］：34 個分以上



被写体に対して 14 個のポイントが反応している例

5 i ボタンを押す

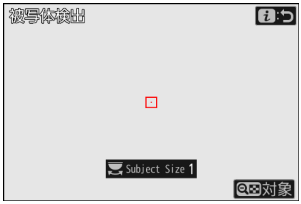
設定を決定してオートキャプチャー設定画面に戻ります。

［キャプチャー条件］で［被写体検出］をオンにしている場合

撮影の対象となる被写体の種類とサイズを設定できます。

1 オートキャプチャー設定画面で［詳細条件：被写体検出］を選んで OK ボタンを押す

被写体検出設定画面が表示されます。



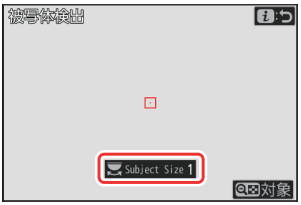
2 （?）ボタンを押して被写体検出対象を設定する

- オート、人物、動物、乗り物、飛行機から選びます。
- OK ボタンを押すと、設定を決定して被写体検出設定画面に戻ります。



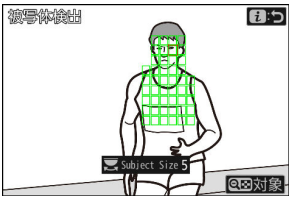
3 メインコマンドダイヤルを回して被写体のサイズを設定する

［**Subject Size**］を［**1**］～［**5**］の間で設定します。値が大きいほどサイズの大きな被写体のみ撮影し、値が小さいほどサイズの小さな被写体でも撮影します。



ヒント：サイズの設定値について

- 被写体検出設定画面では、［**Subject Size**］の設定に合わせて、撮影対象と認識した被写体に緑色の枠が表示されます。
- 各設定値のサイズ（画角に対する割合）は次のとおりです。
  - ［**1**］：2.5%以上
  - ［**2**］：5%以上
  - ［**3**］：10%以上
  - ［**4**］：15%以上
  - ［**5**］：20%以上



被写体が 20%のサイズを検出している例

- ［**Subject Size**］を［**1**］に設定すると、さまざまな大きさの被写体を撮影対象と認識しやすくなります。最初は小さい値に設定し、被写体検出設定画面に表示される緑色の枠の確認や試し撮りを繰り返し行って、適切に被写体が認識されるように徐々に数値を大きく調整していくことをおすすめします。

4 i ボタンを押す

設定を決定してオートキャプチャー設定画面に戻ります。

被写体検出についてのご注意

オートまたは人物を検出対象に選んでいる場合、被写体がカメラの方を向いていなくても、カメラが人物を認識した場合は自動でオートキャプチャー撮影を行います。

［キャプチャー条件］で［距離］をオンにしている場合

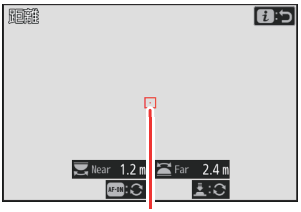
カメラが被写体を認識する最も近い距離と最も遠い距離を設定します。設定した範囲内に被写体が存在する間、オートキャプチャー撮影を行います。

［詳細条件：距離］について

［**詳細条件：距離**］は、NIKKOR Z レンズを装着時に使用できる機能です。NIKKOR Z レンズ以外のレンズを装着している場合、動作しない場合があります。

1 オートキャプチャー設定画面で［詳細条件：距離］を選んで ⊛ ボタンを押す

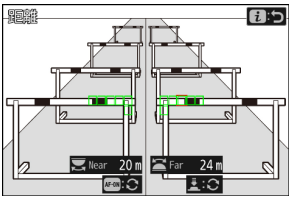
- 距離設定画面が表示されます。
- 距離設定画面にフォーカス指標ポイントが表示されます。



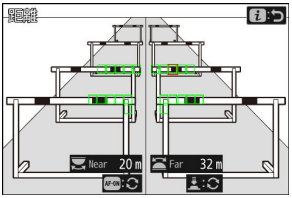
フォーカス指標ポイント

2 カメラが被写体を認識する最も手前と最も奥の距離を設定する

- カメラが被写体を認識する範囲の最も近い位置にある被写体にフォーカス指標ポイントを合わせて **AF-ON** ボタンを押すと、距離が設定されて［**Near**］に値が表示されます。メインコマンドダイヤルを回すと値を微調整できます。



- カメラが被写体を認識する範囲の最も遠い位置にある被写体にフォーカス指標ポイントを合わせてシャッターボタンを半押しすると、距離が設定されて［**Far**］に値が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すと値を微調整できます。



ヒント：［Near］および［Far］の値の微調整について
NIKKOR Z 58mm f/0.95 S Noct 以外のニコン製 Z マウントレンズを装着している場合のみ微調整できます。

ヒント：［Near］および［Far］の表示について
［**Near**］および［**Far**］の調整値の単位はメートルのみです。セットアップメニュー［**距離表示単位の設定**］で［**フィート（ft）**］を選んでもフィート表示されません。

3 *i* ボタンを押す

設定を決定してオートキャプチャー設定画面に戻ります。

オートキャプチャー撮影を一時停止/終了するには

- 動画撮影ボタンを押すとオートキャプチャー撮影を一時停止して設定確認画面に戻ります。再度動画撮影ボタンを押すとオートキャプチャー撮影を再開します。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すとオートキャプチャー撮影を終了して撮影画面に戻ります。

オートキャプチャー撮影についてのご注意

- 撮影待機中のピント位置は次のとおりです。
  - ［**キャプチャー条件**］で［**距離**］をオン ☑ にしている場合：［**Far**］に設定した位置
  - ［**キャプチャー条件**］で［**距離**］をオフ □ にしている場合：オートキャプチャー撮影開始時の位置
- 画角内に複数の被写体が存在する場合、［**有効エリアの設定**］で設定した有効範囲内の被写体を認識しないことがあります。
- 降雪および降雨時は、被写体を認識する機能が低下する場合があります。降雪や陽炎などの気象現象により自動撮影されることがあります。
- 撮影時の気温が高い場合や撮影を長時間行った場合、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、撮影を自動的に終了することがあります。

オートキャプチャー撮影中の操作について

オートキャプチャー撮影中は **DISP** ボタン、動画撮影ボタンおよび 🗑（FORMAT）ボタン以外の操作が無効になります。設定を変更したい場合は、一度オートキャプチャー撮影を終了してください。

オートキャプチャー撮影の制限について

次の場合など、オートキャプチャー撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR 合成
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影
- ピクセルシフト撮影

動画撮影メニュー

メニューの項目と初期設定一覧

メニュー画面で タブを選ぶと、動画撮影メニューが表示されます。



動画撮影メニューの項目と初期設定は以下の通りです。

- [**撮影メニューの管理**]：A
- [**撮影メニューの拡張**]：OFF
- [**記録フォルダー設定**]
  - [**フォルダーグループ名変更**]：NCZ_8
  - [**フォルダー番号指定**]：100
  - [**既存フォルダーから選択**]：—
- [**ファイル名設定**]：DSC
- [**動画記録先**]：CFexpress/XQD スロット
- [**動画記録ファイル形式**]：H.265 8-bit（MOV）
- [**画像サイズ/フレームレート**]：3840×2160 30p
- [**動画の画質（N-RAW）**]：高画質
- [**撮像範囲**]
  - [**撮像範囲設定**]：FX
  - [**DX クロップ警告表示**]：OFF
- [**オーバーサンプリングの拡張**]：OFF
- [**ISO 感度設定**]
  - [**制御上限感度**]：25600
  - [**M モード時の感度自動制御**]：ON
  - [**M モード時の ISO 感度**]：100
- [**ホワイトバランス**]：静止画の設定と同じ
- [**ピクチャーコントロール**]：静止画の設定と同じ
- [**カスタムピクチャーコントロール**]：—
- [**HLG 画質調整**]
  - [**クイックシャープ**]：0
  - [**コントラスト**]：0
  - [**色の濃さ（彩度）**]：0
  - [**色合い（色相）**]：0

- [**アクティブ D-ライティング**]：しない
- [**高感度ノイズ低減**]：標準
- [**ヴィネットコントロール**]：標準
- [**回折補正**]：ON
- [**自動ゆがみ補正**]：ON
- [**美肌効果**]：静止画の設定と同じ
- [**人物印象調整**]：しない
- [**動画フリッカー低減**]：オート
- [**高周波フリッカー低減**]：しない
- [**測光モード**]：マルチパターン測光
- [**フォーカスモード**]：フルタイム AF
- [**AF エリアモード**]：シングルポイント AF
- [**AF 時の被写体検出設定**]
  - [**被写体検出**]：オート
  - [**被写体未検出時の AF 駆動**]：ON
- [**手ブレ補正**]：静止画の設定と同じ
- [**電子手ブレ補正**]：OFF
- [**マイク感度**]：オート
- [**アッテネーター**]：OFF
- [**録音帯域**]：広帯域
- [**風切り音低減**]：OFF
- [**マイク端子のプラグインパワー**]：ON
- [**ヘッドホン音量**]：15
- [**タイムコード**]
  - [**タイムコード記録**]：しない
  - [**カウントアップ方式**]：レックラン
  - [**タイムコードの起点**]：—
  - [**ドロップフレーム**]：ON
- [**外部記録制御（HDMI）**]：OFF
- [**ハイレゾズーム**]：OFF
- [**オートキャプチャー**]
  - [**ユーザープリセットの選択**]：P-1

撮影メニューの管理

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

撮影メニュー「A」～「D」を切り換えます。詳しくは静止画撮影メニュー［**撮影メニューの管理**］をご覧ください（411）。

撮影メニューの拡張

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに露出の設定を記憶できます。詳しくは静止画撮影メニュー［**撮影メニューの拡張**］をご覧ください（📖 413）。

記録フォルダー設定

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

撮影した画像を保存するフォルダーについての設定を行います。詳しくは静止画撮影メニュー［**記録フォルダー設定**］をご覧ください（📖 414）。

記録フォルダー設定について

静止画撮影メニューと動画撮影メニューの［**記録フォルダー設定**］は、一方の設定を変更するともう一方も連動して変更されます。

ファイル名設定

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

このカメラで撮影した動画のファイル名 DSC_nnnn.xxx の「DSC」の 3 文字を任意に変更できます (📖 418)。

動画記録先

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

メモリーカードを 2 枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。
- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだファイル記録先のメモリーカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。

動画記録ファイル形式

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画のファイル形式を選べます。詳しくは「動画撮影の機能」>「動画の記録ファイル形式について」（🕮 184）をご覧ください。

画像サイズ/フレームレート

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画を撮影するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。詳しくは「動画撮影の機能」>「動画の画像サイズ/フレームレートについて」（187）をご覧ください。

動画の画質（N-RAW）

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**N-RAW 12-bit（NEV）**］を選んだ場合の動画の画質を［**高画質**］と［**標準**］から選べます。

撮像範囲

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時の撮像範囲を選べます。詳しくは「動画撮影の機能」>「動画撮影時の撮像範囲について」（196）をご覧ください。

オーバーサンプリングの拡張

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

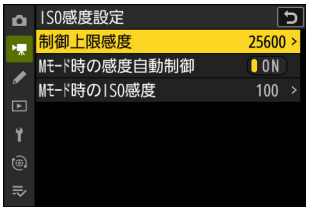
［**ON**］に設定すると、画像の読み出し形式を変更して高い画質で撮影を行います。

- 動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］を［**3840×2160 60p**］または［**3840×2160 50p**］に設定し、［**撮像範囲**］>［**撮像範囲設定**］を［**FX**］に設定している場合に有効です。
- ［**ON**］に設定すると、バッテリーの消耗は早くなります。

ISO 感度設定

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時の ISO 感度に関する設定ができます。



項目	内容
［**制御上限感度**］	• 感度自動制御するときに ISO 感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2.0）を設定できます。 • 撮影モードが **P**、**S**、または **A** の場合と、撮影モード **M** で［**M モード時の感度自動制御**］が［**ON**］の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。
［**M モード時の感度自動制御**］	• ［**ON**］：撮影モードが **M** のときもカメラが自動的に動画モード時の ISO 感度を変更します。 • ［**OFF**］：撮影モードが **M** のときに、［**M モード時の ISO 感度**］で設定した ISO 感度に固定されます。 • 撮影モードが **M** 以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
［**M モード時の ISO 感度**］	撮影モード **M** での動画モード時の ISO 感度（ISO 64～Hi 2.0）を設定できます。

感度自動制御についてのご注意

- ISO 感度が上がると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生することがあります。
- ISO 感度が上がると、ピントが合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、［**ISO 感度設定**］＞［**制御上限感度**］を下げて撮影してください。

ホワイトバランス

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時のホワイトバランスを設定できます。［**静止画の設定と同じ**］を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります（140）。

ピクチャーコントロール

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時のピクチャーコントロールを設定できます。[**静止画の設定と同じ**] を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります（168）。

カスタムピクチャーコントロール

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます（📖 175）。

HLG 画質調整

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**H.265 10-bit（MOV）**］を選び、階調モードとして［**HLG**］を設定した場合の画像の仕上がりを調整できます。

項目		内容
［**クイックシャープ**］		［**クイックシャープ**］を調整すると、画像のシャープさを調整する［**輪郭強調**］、［**ミドルレンジシャープ**］、［**明瞭度**］の各項目をバランスよく調整します。各項目を個別に調整することも可能です。
	［**輪郭強調**］	画像の精緻な部分や、被写体の輪郭部分のシャープさを調整します。
	［**ミドルレンジシャープ**］	［**輪郭強調**］と［**明瞭度**］の中間の細かさの模様や線に対してシャープさを調整します。
	［**明瞭度**］	画像の階調や明るさを維持しながら、画像全体や太めの線のシャープさを調整します。
［**コントラスト**］		画像のコントラストを調整できます。
［**色の濃さ（彩度）**］		画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。
［**色合い（色相）**］		画像の色合いを調整できます。

アクティブ D-ライティング

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時のアクティブ D-ライティングを設定できます。

項目		内容
暗H'	［**より強め**］	効果の度合いは、強い順に［**より強め**］、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
暗H	［**強め**］	
暗N	［**標準**］	
暗L	［**弱め**］	
［**しない**］		アクティブ D-ライティングを設定しません。

高感度ノイズ低減

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時に、ISO 感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します（441）。

ヴィネットコントロール

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時のヴィネットコントロールを設定できます（442）。

ヴィネットコントロールについて

静止画撮影メニューと動画撮影メニューの［**ヴィネットコントロール**］は、一方の設定を変更するともう一方も連動して変更されます。

回折補正

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時に回折補正を行うかどうかを設定できます（443）。

回折補正について

静止画撮影メニューと動画撮影メニューの［**回折補正**］は、一方の設定を変更するともう一方も連動して変更されます。

自動ゆがみ補正

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時に自動ゆがみ補正を行うかどうかを設定できます（444）。

自動ゆがみ補正について

静止画撮影メニューと動画撮影メニューの［**自動ゆがみ補正**］は、一方の設定を変更するともう一方も連動して変更されます。

美肌効果

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時の美肌効果を設定できます。［**静止画の設定と同じ**］を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります（🕮 445）。

動画モードの美肌効果について

次の場合、美肌効果は機能しません。

- 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**N-RAW 12-bit（NEV）**］または［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］に設定している場合
- 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**ProRes 422 HQ 10-bit（MOV）**］または［**H.265 10-bit（MOV）**］に設定して、階調モードで［**N-Log**］を選んでいる場合

人物印象調整

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時の人物印象調整を設定できます（📖 446）。

動画フリッカー低減

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で撮影画面や記録する動画に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。

- 通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ［**オート**］をお使いください。
- ［**オート**］にしていても、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、［**50 Hz**］と［**60 Hz**］から選びます。東日本など電源周波数が 50 Hz の地域では［**50 Hz**］を選び、西日本など電源周波数が 60 Hz の地域では［**60 Hz**］を選んでください。
- ［**動画フリッカー低減**］の設定は、静止画モードの撮影画面の表示にも反映されます。

［動画フリッカー低減］についてのご注意

- ［**オート**］に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをすることをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 撮影モードが **M** 以外の場合、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合は、撮影モードを **M** に設定し、シャッタースピードを次の値にすることで、フリッカー現象を低減できます。
  - 電源周波数が 50Hz の場合：1/100 秒、1/50 秒、1/25 秒
  - 電源周波数が 60Hz の場合：1/125 秒、1/60 秒、1/30 秒

高周波フリッカー低減

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**する（高分解能シャッター設定）**］に設定すると、撮影モード **M** でシャッタースピードを 1/8000〜1/30 に設定している場合にシャッタースピードを通常より細かいステップ幅で調整でき、フリッカー現象の影響が少ないシャッタースピードを撮影画面で確認しながら設定できます。詳しくは静止画撮影メニュー［**高周波フリッカー低減**］をご覧ください（🕮 450）。

測光モード

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時の測光モードを設定できます。動画撮影メニューでは［**スポット測光**］は選べません（📖 452）。

フォーカスモード

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時のフォーカスモードを設定できます（📖 103）。

AF エリアモード

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時の AF エリアモードを設定できます（105）。

AF 時の被写体検出設定

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

被写体検出

動画モード時に優先して検出する被写体を選べます（109）。

被写体未検出時の AF 駆動

フォーカスモードが［**フルタイム AF**］のときに、［**被写体検出**］で設定した被写体が検出できていない場合にピント合わせを行うかどうかを設定できます。

- ［**ON**］に設定すると、被写体が検出できていない場合もピント合わせを行います。
- ［**OFF**］に設定すると、被写体が検出できていない場合はピント合わせを行いません。

手ブレ補正

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画モード時の手ブレ補正を設定できます。［**静止画の設定と同じ**］を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります（461）。

電子手ブレ補正

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。

電子手ブレ補正についてのご注意

次の場合、［**電子手ブレ補正**］は［**OFF**］に固定されます。

- 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**N-RAW 12-bit（NEV）**］または［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］に設定している場合
- 画像サイズを 7680×4320 に設定している場合
- フレームレートを 120p または 100p に設定している場合
- 画像サイズ/フレームレートを 1920×1080 スローに設定している場合
- 動画撮影メニュー［**ハイレゾズーム**］を［**ON**］に設定している場合
- オートキャプチャー撮影している場合

マイク感度

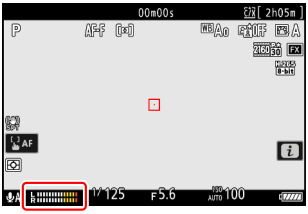
MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイクの感度の程度を設定します。

項目	内容
［**オート**］	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
［**マニュアル**］	マイク感度を手動調整します。［**1**］～［**20**］の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
［**録音しない**］	音声は記録しません。

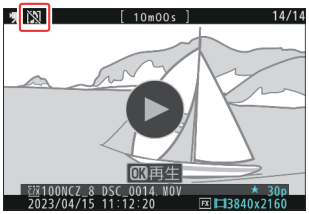


- 音声レベルインジケーターの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。



音声が記録されていない動画の表示について

［**マイク感度**］を［**録音しない**］にして撮影した動画の場合、🔇（音声なしマーク）が表示されます。



アッテネーター

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、大音量の環境下で動画撮影をするときに、マイク感度を減衰させて音割れを抑えます。

録音帯域

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します。

項目		内容
WIDE	[広帯域]	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
VOICE	[音声帯域]	主に人の声を録音したいときに適しています。

風切り音低減

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなることがあります。

別売のステレオマイクロホンをお使いの場合は、カメラ側で［**風切り音低減**］を［**ON**］に設定しても風切り音は低減されません。風切り音低減機能のあるステレオマイクロホンをお使いの場合は、ステレオマイクロホン側で設定してください。

マイク端子のプラグインパワー

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**OFF**］に設定すると、カメラから外部マイクに電源を供給しません。

- ご使用の外部マイクがプラグインパワー不要で、電力を供給することでノイズが録音される場合のみ［**OFF**］に設定することをおすすめします。
- お使いのマイクにプラグインパワーが不要かどうかは、外部マイクのメーカーにお問い合わせください。

ヘッドホン音量

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

ヘッドホン音量を、を押して調整できます。

タイムコード

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

フレームごとに「時・分・秒・フレーム」の情報（タイムコード）を記録した動画を撮影できます。タイムコードは、動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**H.264 8-bit（MP4）**］に設定して撮影した動画には記録できません。

項目	内容
［**タイムコード記録**］	• ［**する**］：動画にタイムコードを記録します。撮影画面にタイムコードが表示されます。 • ［**する（HDMI 外部出力あり）**］：カメラと外部レコーダーを HDMI ケーブルで接続している場合、外部レコーダーに記録される動画にタイムコードを記録します。外部レコーダーは Atomos 社製 Monitor Recorder（SHOGUN、NINJA、SUMO シリーズ）に対応しています。 • ［**しない**］：タイムコードを記録しません。
［**カウントアップ方式**］	• ［**レックラン**］：動画記録中のみタイムコードをカウントアップします。 • ［**フリーラン**］：常にタイムコードをカウントアップします。カメラの電源が OFF になっている場合もカウントアップしています。
［**タイムコードの起点**］	• ［**リセット**］：現在表示されているタイムコードをリセットして「00:00:00.00」に戻します。 • ［**リモコンからのリセット**］：別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-T10 のシャッターボタンを押してタイムコードをリセットできます（📖 564）。 • ［**手動入力**］：時、分、秒、フレームをそれぞれ手動で設定できます。 • ［**現時刻**］：カメラに設定されている現在の時刻をそのままタイムコードとして使用します。あらかじめセットアップメニュー［**タイムゾーンと日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。
［**ドロップフレーム**］	［**ON**］に設定すると、動画のフレームレートが 30fps または 60fps の場合に生じる実時間とタイムコードのずれを補正します。

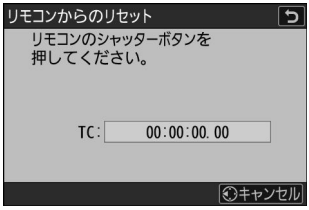
HDMI 接続時のご注意

HDMI 接続でテレビなどに外部出力している場合に、［**タイムコード記録**］が［**する（HDMI 外部出力あり）**］に設定されていると、画像が乱れることがあります。

リモコンからのリセットについて

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R11a または WR-R10 を装着している場合に、ペアリングしたワイヤレスリモートコントローラー WR-T10 のシャッターボタンを押すとタイムコードをリセットできます。

- [**リモコンからのリセット**] を選ぶと、タイムコードリセット画面が表示されます。WR-T10 のシャッターボタンを押すと、タイムコードがリセットされます。



- 1 つの WR-T10 を複数の WR-R11a/WR-R10 とペアリングすると、WR-T10 のシャッターボタンを一度押すだけで複数のカメラのタイムコードを同時にリセットできます。複数台のカメラのタイムコードを一致させることができ、動画編集が容易になります。

タイムコードリセット画面について

タイムコードリセット画面が表示されている状態でカメラのシャッターボタンを全押しした場合もタイムコードがリセットされます。静止画の撮影は行いません。

外部記録制御（HDMI）

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、カメラ側の操作に連動して HDMI に対応した外部レコーダーの録画の開始および終了を行えます。詳しくは「HDMI 機器（テレビや外部レコーダー）との接続」>「外部レコーダーと接続する」（🕮 284）をご覧ください。

ハイレゾズーム

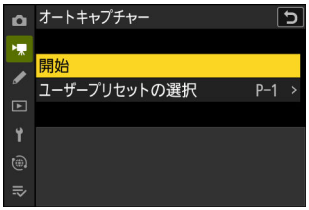
MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**ON**］に設定すると、ズームレンズを使用しなくても画質の劣化なくズーミングを行えます。詳しくは「動画撮影の機能」>「ハイレゾズームについて」（204）をご覧ください。

オートキャプチャー

MENU ボタン ➡ 動画撮影メニュー

被写体の動く方向、被写体を検出するかどうか、被写体を認識する遠近の範囲を設定し、設定した条件でカメラが被写体を認識すると自動で動画記録を行います。撮影者が不在でも自動で撮影する、無人撮影を補助する機能です。設定画面や撮影方法については、静止画撮影メニュー［**オートキャプチャー**］をご覧ください（📖 507）。



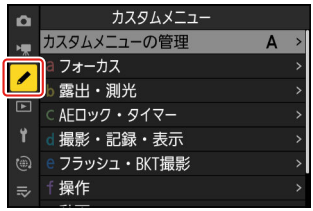
動画のオートキャプチャー撮影時のご注意

- 動画撮影時は撮像範囲の制限はありません。
- 電子手ブレ補正機能は使用できません。

カスタムメニュー

メニューの項目と初期設定一覧

メニュー画面で ✎ タブを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。



カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2 つの階層で構成されています。



カスタムメニューの項目と初期設定は次の通りです。[1]

- ［**カスタムメニューの管理**］：A
- **a**［**フォーカス**］
  - a1［**AF-C モード時の優先**］：レリーズ
  - a2［**AF-S モード時の優先**］：フォーカス
  - a3［**AF ロックオン**］
    - ［**横切りへの反応**］：3
    - ［**被写体の動き**］：スムーズ
  - a4［**AF 点数**］：全点
  - a5［**縦/横位置フォーカスポイント切換**］：しない
  - a6［**半押し AF レンズ駆動**］：する
  - a7［**フォーカスポイントの引き継ぎ**］：オート
  - a8［**AF エリアモードの限定**］
    - ［**ピンポイント AF**］：☑
    - ［**シングルポイント AF**］：✔（固定）
    - ［**ダイナミック AF（S）**］：☑
    - ［**ダイナミック AF（M）**］：☑
    - ［**ダイナミック AF（L）**］：☑
    - ［**ワイドエリア AF（S）**］：☑
    - ［**ワイドエリア AF（L）**］：☑
    - ［**ワイドエリア AF（C1）**］：☑
    - ［**ワイドエリア AF（C2）**］：☑
    - ［**3D-トラッキング**］：☑
    - ［**オートエリア AF**］：☑
  - a9［**フォーカスモードの制限**］：制限しない
  - a10［**フォーカスポイント循環選択**］：OFF
  - a11［**フォーカスポイント表示**］
    - ［**マニュアルフォーカス時の表示**］：ON
    - ［**ダイナミック AF 時のアシスト表示**］：ON
    - ［**AF-C モード時の合焦表示**］：OFF
    - ［**3D-トラッキング時の表示色**］：白
    - ［**フォーカスポイントの太さ**］：1
  - a12［**内蔵 AF 補助光の照射設定**］：ON
  - a13［**フォーカスピーキング**］
    - ［**フォーカスピーキング表示**］：OFF
    - ［**フォーカスピーキングの感度**］：2（標準）
    - ［**フォーカスピーキングの表示色**］：赤
  - a14［**フォーカスポイントの移動速度**］：標準
  - a15［**AF 設定時のフォーカスリング操作**］[2]：ON
- **b**［**露出・測光**］
  - b1［**ISO 感度設定ステップ幅**］：1/3 段

- b2［**露出設定ステップ幅**］：設定 1/3 段 （補正 1/3 段）
- b3［**露出補正簡易設定**］：しない
- b4［**マルチパターン測光の顔検出**］：ON
- b5［**中央部重点測光範囲**］：標準
- b6［**基準露出レベルの調節**］
  - ［**マルチパターン測光**］：0
  - ［**中央部重点測光**］：0
  - ［**スポット測光**］：0
  - ［**ハイライト重点測光**］：0
- b7［**絞り値変化時の露出維持**］：しない

• **c**［**AE ロック・タイマー**］
- c1［**シャッターボタン AE ロック**］：しない
- c2［**セルフタイマー**］
  - ［**時間**］：10 秒
  - ［**撮影コマ数**］：1
  - ［**連続撮影間隔**］：0.5 秒
- c3［**パワーオフ時間**］
  - ［**画像の再生**］：10 秒
  - ［**メニュー表示**］：1 分
  - ［**撮影直後の画像確認**］：4 秒
  - ［**半押しタイマー**］：30 秒

• **d**［**撮影・記録・表示**］
- d1［**連続撮影速度**］
  - ［**高速連続撮影**］：20 コマ/秒
  - ［**低速連続撮影**］：5 コマ/秒
- d2［**連続撮影コマ数**］：∞
- d3［**プリキャプチャー記録設定**］
  - ［**プリ記録時間**］：なし
  - ［**レリーズ後記録時間**］：最大
- d4［**連動レリーズモード設定**］：連動する
- d5［**露出ディレーモード**］：しない
- d6［**M モード時のシャッタースピード延長**］：OFF
- d7［**撮像範囲設定の限定**］
  - ［**FX（36×24）**］：✔（固定）
  - ［**DX（24×16）**］：☑
  - ［**1:1（24×24）**］：☑
  - ［**16:9（36×20）**］：☑
- d8［**連番モード**］：する
- d9［**ビューモード設定（静止画 Lv）**］：撮影設定を優先
  - ［**撮影設定を優先**］：フラッシュ使用時を含まない
  - ［**見やすさを重視**］：オート
- d10［**スターライトビュー（静止画 Lv）**］：OFF
- d11［**赤色画面表示**］

  - ［**表示モードの選択**］：しない
  - ［**赤色画面表示の明るさ**］：0
- d12［**イルミネーター点灯**］：OFF
- d13［**連続撮影中の表示**］：ON
- d14［**撮影タイミング表示**］
  - ［**表示 Type の設定**］：Type B
  - ［**TypeA 自動切り換え秒時**］：1/6 秒
- d15［**画面枠表示**］：ON
- d16［**ガイドラインの種類**］：3×3
- d17［**水準器の種類**］：Type A
- d18［**半押し拡大解除（MF）**］：OFF
- d19［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］
  - ［**画面 1**］：✔（固定）
  - ［**画面 2**］：☑
  - ［**画面 3**］：☑
  - ［**画面 4**］：☑
  - ［**画面 5**］：☑
- d20［**撮影画面カスタマイズ（ファインダー）**］
  - ［**画面 1**］：✔（固定）
  - ［**画面 2**］：☑
  - ［**画面 3**］：☑
  - ［**画面 4**］：☑
- d21［**ファインダーの高フレームレート表示**］：OFF

• **e**［**フラッシュ・BKT 撮影**］
- e1［**フラッシュ撮影同調速度**］：1/200 秒
- e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］：1/60 秒
- e3［**フラッシュ使用時の露出補正**］：全体を補正
- e4［**ϟ 使用時の感度自動制御**］：被写体と背景
- e5［**モデリング発光**］：ON
- e6［**BKT 変化要素（M モード）**］：フラッシュ・ シャッタースピード
- e7［**BKT の順序**］：［0］ → ［−］ → ［+］
- e8［**フラッシュ連続撮影時の優先**］：調光精度優先

• **f**［**操作**］
- f1［**z メニューのカスタマイズ**］：ピクチャーコントロール、ホワイトバランス、画質モード、画像サイズ、AF エリアモード/被写体検出、フォーカスモード、階調モード、手ブレ補正、撮影メニュー切り換え、カスタムボタンの機能（撮影）、機内モード、メモリーカード情報表示
- f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］
  - ［**Fn1 ボタン**］：撮影メニュー切り換え
  - ［**Fn2 ボタン**］：撮像範囲選択
  - ［**縦位置 Fn ボタン**］：露出補正
  - ［**フォーカスモードボタン**］：フォーカスモード/AF エリアモード
  - ［**プロテクト/Fn3 ボタン**］：ピクチャーコントロール

- [**AF-ON ボタン**]：AF-ON
- [**サブセレクター中央**]：AE-L/AF-L
- [**DISP ボタン**]：ライブビュー情報表示の切り換え
- [**OK ボタン**]：フォーカスポイント中央リセット
- [**再生ボタン**]：再生
- [**縦位置マルチセレクター中央**]：AE-L/AF-L
- [**縦位置 AF-ON ボタン**]：AF-ON ボタンと同じ
- [**動画撮影ボタン**]：ライブビュー情報表示の消灯
- [**露出補正ボタン**]：露出補正
- [**ISO 感度ボタン**]：ISO 感度
- [**コマンドダイヤル**]
  - [**露出設定**]：**P**：📷--/🎥P*、**S**：📷--/🎥Tv、**A**：📷Av/🎥--、**M**：📷Av/🎥Tv
  - [**フォーカスモード/AF エリアモード設定**]：📷[+]/🎥AF/MF
  - [**拡大表示中のサブコマンドダイヤル**]：露出設定
- [**BKT ボタン**]：オートブラケティング
- [**WB ボタン**]：ホワイトバランス
- [**レンズの Fn ボタン**]：AE-L/AF-L
- [**レンズの Fn2 ボタン**]：AF-ON
- [**レンズの Fn リング（左回し）**]：フォーカス位置の呼び出し
- [**レンズの Fn リング（右回し）**]：フォーカス位置の呼び出し
- [**レンズのメモリーセットボタン**]：フォーカス位置の登録
- [**レンズのコントロールリング**]：（装着するレンズにより異なります）

- f3 [**カスタムボタンの機能（再生）**]
  - [**Fn1 ボタン**]：設定しない
  - [**Fn2 ボタン**]：設定しない
  - [**縦位置 Fn ボタン**]：設定しない
  - [**DISP ボタン**]：情報表示の切り換え
  - [**プロテクト/Fn3 ボタン**]：プロテクト
  - [**再生ボタン**]：撮影に戻る
  - [**OK ボタン**]：拡大画面との切り換え
  - [**サブコマンドダイヤル**]
    - [**画像送り**]：1 コマ
    - [**動画再生**]：10 秒
    - [**画像送り時の拡大位置**]：位置を継続
    - [**拡大再生中の顔送り**]：ON
  - [**メインコマンドダイヤル**]
    - [**画像送り**]：1 コマ
    - [**動画再生**]：10 フレーム
    - [**画像送り時の拡大位置**]：位置を継続
  - [**動画撮影ボタン**]：設定しない
  - [**ISO 感度ボタン**]：設定しない
  - [**露出補正ボタン**]：設定しない
  - [**BKT ボタン**]：設定しない

- [**WB ボタン**]：設定しない
- [**レンズの Fn ボタン**]：設定しない
- [**レンズの Fn2 ボタン**]：設定しない

- f4［**操作のロック**］
  - [**シャッタースピードのロック**]：OFF
  - [**絞り値のロック**]：OFF
  - [**フォーカスポイントのロック**]：OFF
- f5［**コマンドダイヤル回転方向の変更**］
  - [**露出補正の設定時**]：□
  - [**シャッタースピード/絞り値 設定時**]：□
- f6［**ボタンのホールド設定**]：OFF
- f7［**インジケーターの+/−方向**]：−◂ıılıılııl

- [**ISO 感度ボタン**]：ISO 感度
- [**コマンドダイヤル**]
  - [**露出設定**]：**A**：Av/--、**M**：Av/Tv
  - [**フォーカスモード/AF エリアモード設定**]：/AF/MF
  - [**拡大表示中のサブコマンドダイヤル**]：露出設定
- [**シャッターボタン**]：設定しない
- [**WB ボタン**]：ホワイトバランス
- [**BKT ボタン**]：設定しない
- [**レンズの Fn2 ボタン**]：AF-ON
- [**レンズの Fn ボタン**]：AE-L/AF-L
- [**レンズの Fn リング（右回し）**]：フォーカス位置の呼び出し
- [**レンズの Fn リング（左回し）**]：フォーカス位置の呼び出し
- [**レンズのメモリーセットボタン**]：フォーカス位置の登録
- [**レンズのコントロールリング**]：（装着するレンズにより異なります）

- g3［**操作のロック**］
  - [**シャッタースピードのロック**]：OFF
  - [**絞り値のロック**]：OFF
  - [**フォーカスポイントのロック**]：OFF
- g4［**AF エリアモードの限定**］
  - [**シングルポイント AF**]：✔（固定）
  - [**ワイドエリア AF（S）**]：☑
  - [**ワイドエリア AF（L）**]：☑
  - [**ワイドエリア AF（C1）**]：☑
  - [**ワイドエリア AF（C2）**]：☑
  - [**ターゲット追尾 AF**]：☑
  - [**オートエリア AF**]：☑
- g5［**フォーカスモードの制限**］：制限しない
- g6［**AF 速度**］：0
  - [**作動条件**]：常時有効
- g7［**AF 追従感度**］：4
- g8［**ハイレゾズーム速度**］：0
- g9［**パワーズームのボタン操作（PZ レンズ）**］
  - [**/ ボタンの使用**]：OFF
  - [**パワーズーム速度**]
    - [**動画記録待機中**]：+3
    - [**動画記録中**]：0
- g10［**ISO 感度ステップ幅拡張（M モード）**］：しない
- g11［**シャッタースピード延長（M モード）**］：OFF
- g12［**ビューアシスト**］：OFF
- g13［**ゼブラ表示**］
  - [**ゼブラ表示の検出モード**]：しない
  - [**ゼブラ表示のパターン**]：パターン 1

  - ［**高輝度検出の範囲**］：250
  - ［**中間輝度検出の範囲**］：基準値：160、範囲：±10
- g14［**ゼブラ表示の検出モード制限**］：制限しない
- g15［**ガイドラインの種類**］：3×3
- g16［**輝度情報の種類**］：ヒストグラム
- g17［**半押し拡大解除（MF）**］：OFF
- g18［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］
  - ［**画面 1**］：✔（固定）
  - ［**画面 2**］：☑
  - ［**画面 3**］：☑
  - ［**画面 4**］：☑
- g19［**撮影画面カスタマイズ（ファインダー）**］
  - ［**画面 1**］：✔（固定）
  - ［**画面 2**］：☑
  - ［**画面 3**］：☑
- g20［**動画撮影中の赤枠表示**］：ON

1 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク（✱）を表示します。
2 このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。

カスタムメニューの管理

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

このカメラはカスタムメニューの設定内容をカスタムメニュー「A」「B」「C」「D」の 4 通り記憶でき、［**カスタムメニューの管理**］で切り換えられます。カスタムメニュー「A」が選ばれているときに設定した内容は、「B」～「D」には反映されません。

名前編集

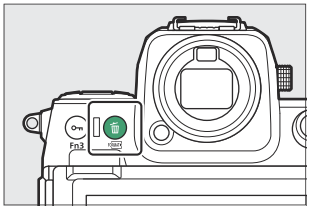
カスタムメニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したいカスタムメニューを選んでマルチセレクターの ▶ を押して［**名前編集**］を選びます。名前は 20 文字まで入力できます。

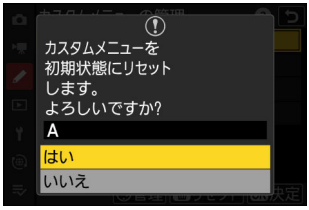
カスタムメニューのコピー

カスタムメニュー「A」～「D」を選んで ▶ を押し、［**コピー**］を選ぶとコピー先を選択できます。

カスタムメニューのリセット

カスタムメニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたいカスタムメニューを選んで 🗑（ISO）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。［**はい**］を選んで OK ボタンを押すと、選んだカスタムメニューの設定をリセットして初期設定に戻します。





a1：AF-C モード時の優先

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスモードが **AF-C** のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

項目		内容
	［**レリーズ**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
	［**フォーカス/レリーズ**］	撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するとき、1 コマ目は撮影タイミングよりピント合わせを優先します。2 コマ目以降はピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。連続撮影時に 1 コマ目のピント状態を優先したいときにお使いください。
	［**フォーカス**］	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

a2：AF-S モード時の優先

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスモードが **AF-S** のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

項目		内容
	［**レリーズ**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
	［**フォーカス**］	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

a3：AF ロックオン

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスモードが **AF-C** のときに、カメラと被写体の間を障害物や別の被写体が横切った場合のピント動作を設定できます。



横切りへの反応

- ［**5**］（［**鈍感**］）に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。
- ［**1**］（［**敏感**］）に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。
- AF エリアモードが［**3D-トラッキング**］の場合は、常に［**3**］を選んだときと同じ動作になります。
- AF エリアモードが［**オートエリア AF**］の場合は、［**2**］、［**1**］（［**敏感**］）に設定していても、［**3**］を選んだときと同じ動作になります。

被写体の動き

項目	内容
［**スムーズ**］	一定のスピードの被写体を撮影する場合にピントが不安定になることを防ぎます。
［**ランダム**］	動作の速度が急激に変わるような被写体を撮影する場合にピント合わせの追従性が向上します。

a4：AF 点数

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

AF エリアモードを［**オートエリア AF**］以外にしているときの、手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

項目		内容
▦	［**全点**］	全てのフォーカスポイントを選べます。選べるフォーカスポイントの数は AF エリアモードにより異なります。
⁝⁝	［**スキップ**］	［**全点**］に比べて約 1/4 のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置を素早く動かせます。AF エリアモードが［**ピンポイント AF**］の場合は、選べるフォーカスポイントの数は変化しません。

a5：縦/横位置フォーカスポイント切換

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

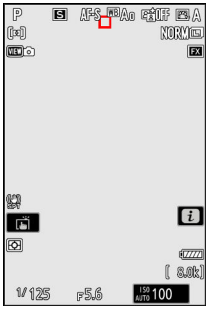
カメラを正位置（横位置）にしたときと、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントを設定できます。

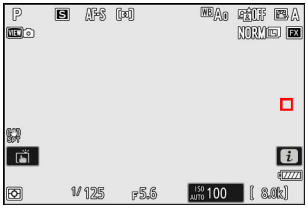
- ［**しない**］に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。

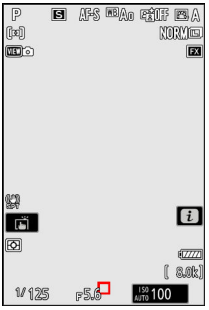








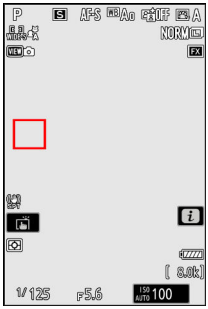




反時計回りに 90°回転　　横位置　　時計回りに 90°回転

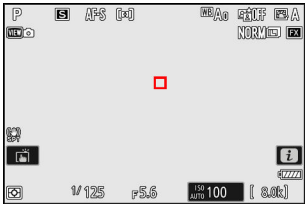
• [**フォーカスポイント**] に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。[**フォーカスポイントと AF エリアモード**] に設定した場合、フォーカスポイントに加えて AF エリアモードも個別に設定できます。





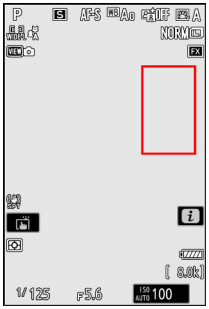
反時計回りに 90°回転





横位置





時計回りに 90°回転

a6：半押し AF レンズ駆動

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときに、ピント合わせをするかどうかを設定できます。

項目	内容
［**する**］	シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行います。
［**しない**］	シャッターボタンを半押ししてもピント合わせを行いません。

- ［**しない**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、［**非合焦時のレリーズ**］を設定できます。

項目	内容
［**許可**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
［**禁止**］	• ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。 • **AF-ON** ボタンなどを使用してピントを合わせてからシャッターボタンを全押ししてください。

☑ AF エリアモードを［ピンポイント AF］に設定している場合のご注意

AF エリアモードを［**ピンポイント AF**］に設定している場合、カスタムメニュー a6［**半押し AF レンズ駆動**］で［**しない**］を選んで［**非合焦時のレリーズ**］を［**禁止**］に設定していても、ピント状態に関係なくシャッターがきれます。

a7：フォーカスポイントの引き継ぎ

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

カスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］で任意のボタンに［**AF エリアモード**］、［**AF エリアモード+AF-ON**］、［**撮影機能の呼び出し**］、［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］のいずれかを割り当て、ボタンを押して AF エリアモードを変更した場合に、フォーカスポイントの位置を変更後の AF エリアモードでも引き継ぐかを設定できます。フォーカスポイントの引き継ぎは、シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行っている間に AF エリアモードを変更した場合に行われます。

項目	内容
［**オート**］	AF エリアモードを変更する前にカメラが自動で選んだフォーカスポイントを使用します。
［**しない**］	前回のピント合わせ時に自分で選んだフォーカスポイントを使用します。

- 元の AF エリアモードが［**オートエリア AF**］などのカメラが自動でフォーカスポイントを選ぶ設定で、ボタンを押している間の AF エリアモードが自分でフォーカスポイントを選ぶ設定の場合に有効です。

a8：AF エリアモードの限定

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回した場合に選べる AF エリアモードを設定できます。



- 項目を選んで ⓞⓚ ボタンを押すかマルチセレクターの ▶ を押すと、オン ☑ とオフ □ を切り換えられます。チェックボックスをオン ☑ にした項目のみ、サブコマンドダイヤルで選べるようになります。
- MENU ボタンを押すと、設定を完了します。

a9：フォーカスモードの制限

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスモードを固定できます。［**制限しない**］以外を選ぶと、フォーカスモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してもフォーカスモードは変わりません。

a10：フォーカスポイント循環選択

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスポイントをサブセレクターやマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。［**ON**］に設定すると、たとえば画面の右端のフォーカスポイントを選んでいるときにマルチセレクターの ▶ を押すと、フォーカスポイントが左端に移動します。

a11：フォーカスポイント表示

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

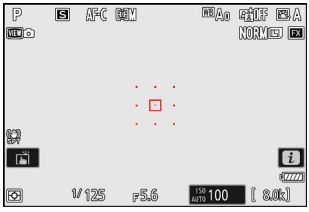
マニュアルフォーカス時の表示

項目	内容
［**ON**］	マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。
［**OFF**］	フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

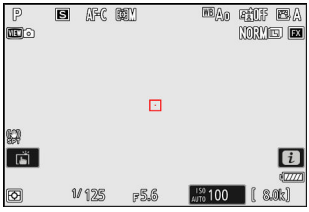
ダイナミック AF 時のアシスト表示

ダイナミック AF モード時に、自分で選んだフォーカスポイントの周辺のフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。

項目	内容
［**ON**］	周辺のフォーカスポイントも同時に表示します。
［**OFF**］	自分で選んだフォーカスポイントのみ表示します。



［**ON**］（［**ダイナミック AF（M）**］の例）



［**OFF**］

AF-C モード時の合焦表示

フォーカスモードが **AF-C** の場合に、ピントが合ったときのフォーカスポイントの表示を設定できます。

項目	内容
［**ON**］	ピントが合っているとカメラが判断した場合に、フォーカスポイントが緑色で表示されます。
［**OFF**］	ピントの状態にかかわらず、フォーカスポイントは常に赤色または黄色で表示されます。

3D-トラッキング時の表示色

AF エリアモードが［**3D-トラッキング**］のときのフォーカスポイントの色を［**白**］または［**赤**］から選べます。

フォーカスポイントの太さ

フォーカスポイントの枠線の太さを［**1**］～［**3**］の 3 段階から選べます。

a12：内蔵 AF 補助光の照射設定

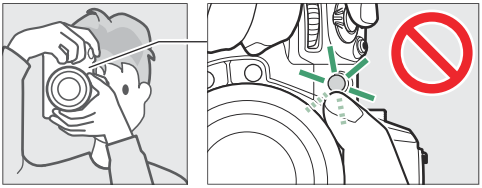
MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときに被写体が暗い場合、ピント合わせのために AF 補助光を自動的に照射するかどうかを設定できます。

項目	内容
[**ON**]	静止画モードでフォーカスモードが **AF-S** の場合に、被写体が暗いと AF 補助光を自動的に照射します。
[**OFF**]	AF 補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。

AF 補助光について

- AF 補助光が届く距離範囲の目安は約 1～3m です。
- AF 補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- AF 補助光が照射される場合、手などで AF 補助光を遮らないようにご注意ください。



- 使用するレンズや撮影距離によっては、AF 補助光がレンズでさえぎられることがあります。AF 補助光撮影に制限のあるレンズについては、ニコンダウンロードセンターでご確認ください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/

a13：フォーカスピーキング

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

マニュアルフォーカスで撮影するときに、ピントが合っている部分の輪郭を色付きで表示するかどうかを設定できます。色の変更も可能です。

フォーカスピーキング表示

［**ON**］に設定すると、フォーカスピーキングを有効にします。

フォーカスピーキングの感度

フォーカスピーキングの感度を［**3（高感度）**］、［**2（標準）**］、［**1（低感度）**］から選びます。感度を高くするとピントが合っていると判断される範囲が広くなり、感度を低くすると範囲が狭くなります。

フォーカスピーキングの表示色

フォーカスピーキングで強調する部分の色を変更できます。

a14：フォーカスポイントの移動速度

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

マルチセレクターやサブセレクターを使用してフォーカスポイントを選ぶ場合のフォーカスポイント移動速度を［**遅い**］、［**標準**］、［**速い**］から選べます。

a15：AF 設定時のフォーカスリング操作

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。レンズのフォーカスリングの操作を有効にするかどうかを設定できます。

項目	内容
［**ON**］	オートフォーカス時にレンズのフォーカスリングを回すとマニュアルフォーカスに切り替わります（M/A（マニュアル優先オートフォーカスモード））。オートフォーカス時にシャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。
［**OFF**］	フォーカスリングを回しても、オートフォーカスからマニュアルフォーカスに切り替わりません。

b1：ISO 感度設定ステップ幅

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

ISO 感度のステップ幅を 1/3 段または 1 段に設定できます。ISO 感度のステップ幅を変更したとき、設定されている ISO 感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2：露出設定ステップ幅

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、オートブラケティング補正値、露出補正値、およびフラッシュ調光補正量のステップ幅を設定できます。

- [**設定 1 段（補正 1/3 段）**] に設定した場合、シャッタースピード、絞り値、オートブラケティング補正値のステップ幅は 1 段、露出補正値とフラッシュ調光補正値のステップ幅は 1/3 段になります。

b3：露出補正簡易設定

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

⊠ ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

項目	内容
［**する（自動リセット）**］	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源を OFF にするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
［**する**］	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。電源を OFF にしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
［**しない**］	⊠ ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

- 撮影モード **P**、**S**、**A** の場合に有効です。撮影モード **M** の場合、露出補正簡易設定は機能しません。
- 露出補正値を設定できるコマンドダイヤルは、撮影モードによって異なります。

b4：マルチパターン測光の顔検出

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

測光モードが［**マルチパターン測光**］の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔の明るさに合わせて露出を決定するかどうかを選べます。

項目	内容
［**ON**］	カメラが認識した顔を優先して測光を行います。
［**OFF**］	カメラが顔を認識した場合も顔を優先した測光を行いません。

b5：中央部重点測光範囲

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

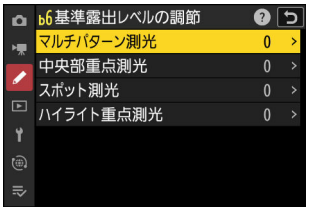
測光モードを［**中央部重点測光**］にすると、撮影画面の中央部を重点的に測光して露出値を決定します。

項目		内容
SMALL	［**小さめ**］	⌀8mm 相当を測光します。
STNDRD	［**標準**］	⌀12mm 相当を測光します。
AVG	［**画面全体の平均**］	画面全体を平均して測光します。

b6：基準露出レベルの調節

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6 段ステップ幅で ±1 段の範囲で設定できます。初期設定は 0 です。



基準露出レベルの調節について

- カスタムメニュー b6［**基準露出レベルの調節**］は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニュー b6 の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニュー b6［**基準露出レベルの調節**］を 0 以外に設定しても、⊠ マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b6 の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

b7：絞り値変化時の露出維持

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

撮影モード **M** で、静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**感度自動制御**］を［**OFF**］に設定しているときに、設定できる絞りの範囲が異なるレンズに交換した場合など、意図せずに絞り値が変更されて露出が変化してしまうことがあります。このとき、［**絞り値変化時の露出維持**］を［**しない**］以外に設定すると、シャッタースピードまたは ISO 感度の設定を自動で変更して露出を維持できます。

- 次のような場合にも自動で露出を維持できるようになります。
  - 広角側と望遠側で開放絞り値が異なるレンズを装着してズーミングした場合
  - マイクロレンズを装着して撮影距離が変わった場合
- 絞り値が変化した場合に、［**シャッタースピード**］または［**ISO 感度**］のどちらの値を自動で変更するかを選べます。［**しない**］の場合は露出の維持を行いません。
- 装着するレンズやカメラの設定によっては、露出が維持できないことがあります。
- 動画撮影時は露出の維持を行いません。

c1：シャッターボタン AE ロック

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

シャッターボタンを押して AE ロックを行うかどうかを設定できます。

項目		内容
ON	［**する（半押し）**］	シャッターボタンを半押ししたときに AE ロックを行います。
ON	［**する（連続撮影時）**］	シャッターボタンを半押ししたときには AE ロックを行わず、全押ししたときに AE ロックを行います。
［**しない**］		シャッターボタンを押しても AE ロックを行いません。

c2：セルフタイマー

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

項目	内容
［**時間**］	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
［**撮影コマ数**］	マルチセレクターの ◓◒ を押して、1 コマ～9 コマの間で設定できます。
［**連続撮影間隔**］	［**撮影コマ数**］を 2 コマ以上に設定した場合に連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

c3：パワーオフ時間

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

カメラの各表示が自動的に消灯するまでの時間や撮影後の画像表示画面から撮影画面に切り替わるまでの時間を変更できます。

- 表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

項目	内容
［**画像の再生**］	再生画面を表示してから、画像モニターやファインダーが自動的に消灯するまでの時間を設定できます。
［**メニュー表示**］	メニュー画面を表示してから、画像モニターやファインダーが自動的に消灯するまでの時間を設定できます。
［**撮影直後の画像確認**］	再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］または［**する（画像モニター表示のみ）**］に設定している場合、撮影後の画像表示画面から撮影画面に切り替わるまでの時間を設定できます。
［**半押しタイマー**］	撮影画面を表示してから画像モニターやファインダー、表示パネルの露出設定が自動的に消灯するまでの時間を設定できます。 • 画像モニターとファインダーが消灯する数秒前は、表示が暗くなります。 • ［**10 秒**］に設定した場合でも *i* メニュー表示中は 20 秒に延長されます。

d1：連続撮影速度

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

高速連続撮影および低速連続撮影時の連続撮影速度を設定できます。

項目	内容
［**高速連続撮影**］	高速連続撮影時の連続撮影速度を、10 コマ/秒～20 コマ/秒の間で設定できます。
［**低速連続撮影**］	低速連続撮影時の連続撮影速度を、1 コマ/秒～10 コマ/秒の間で設定できます。 • ［**8 コマ/秒**］に設定した場合、実際の撮影速度は 7.5 コマ/秒になります。

d2：連続撮影コマ数

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるか 1 コマ～200 コマの間および無制限（∞）で設定します。

- 撮影モードが **S** または **M** のときにシャッタースピードが 1 秒または 1 秒よりも遅い場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。

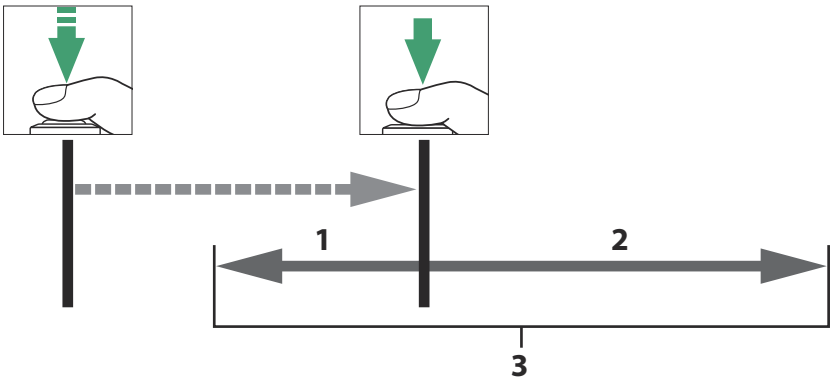
連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d2［**連続撮影コマ数**］で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります。このコマ数を超えると「**r000**」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d3：プリキャプチャー記録設定

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影時の、シャッターボタンを全押し後にさかのぼって記録する時間や全押し後に撮影する時間を設定できます。



1 全押し後にさかのぼる時間（[**プリ記録時間**]）
2 全押し後の撮影時間（[**レリーズ後記録時間**]）
3 1 回の「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影

項目	内容
[**プリ記録時間**]	[**なし**] 以外に設定し、シャッターボタンを半押しし続けた後に全押しすると、全押しからさかのぼって [**プリ記録時間**] で設定した時間分の静止画を記録します（プリキャプチャー機能）。 • 設定した時間よりもシャッターボタンを半押ししてから全押しするまでの時間が短い場合、半押し開始時までさかのぼります。
[**レリーズ後記録時間**]	シャッターボタンの全押ししている間に撮影する時間を［**1 秒**］、［**2 秒**］、［**3 秒**］、［**最大**］から選びます。 • ［**最大**］に設定すると、カメラの内部メモリーがいっぱいになるまで撮影できます。撮影できる時間は、カメラの設定によって異なります。

［**プリ記録時間**］を［**なし**］以外に設定すると、撮影画面に 🖨 アイコンが表示されます。シャッターボタンを半押ししている間はアイコンに緑色の ● が表示されます。



- シャッターボタンを押してから約 300 秒経過しても全押ししなかった場合、● が ❗ に変更されてプリキャプチャー機能がキャンセルされます。❗ が表示された後に全押ししても、さかのぼっての記録はされません。
- カメラの設定によっては、300 秒よりも前にプリキャプチャー機能がキャンセルされることがあります。
- プリキャプチャー機能がキャンセルされる約 30 秒前から 🖨 アイコンが点滅します。

d4：連動レリーズモード設定

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

ネットワークメニュー［**カメラと接続**］で連動レリーズ機能を使用する場合、または別売のワイヤレスリモートコントローラーを接続した場合に、マスターカメラのレリーズに連動してリモートカメラをレリーズさせるかどうかを設定できます。

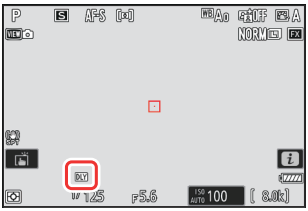
- ネットワークメニュー［**カメラと接続**］を使用した連動レリーズについては「他のカメラとの接続」>「連動レリーズモードを使用する」（🕮 359）をご覧ください。

d5：露出ディレーモード

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

カメラブレを最小限に抑えたい場合に、シャッターボタンを押してから約 0.2～3 秒後にシャッターがきれるように設定できます。

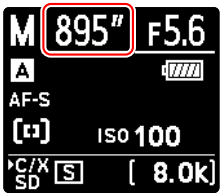
- ［**しない**］以外に設定すると、撮影画面に DLY アイコンが表示されます。



d6：M モード時のシャッタースピード延長

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］を選ぶと、撮影モード **M** で撮影するときのシャッタースピードを、最長 900 秒（15 分）まで延長できます。天体撮影時など、長時間シャッターを開いて撮影したい場合に便利です。



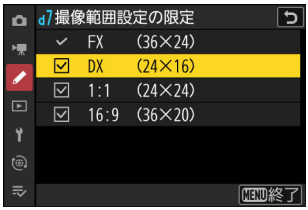
- ［**ON**］に設定して 30 秒を超える長時間のシャッタースピードで撮影している場合、表示パネルに残りの露光時間が表示されます。
- シャッタースピードを 1 秒より低速に設定した場合、カメラに表示される露光時間と実際の露光時間が異なる場合があります。たとえばシャッタースピードを 15 秒に設定した場合は実際には 16 秒、30 秒に設定した場合は実際には 32 秒でシャッターがきれます。60 秒または 60 秒よりも遅く設定した場合は、設定したシャッタースピードの表示と同じ秒時でシャッターがきれます。

d7：撮像範囲設定の限定

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

𝒊 メニューやカスタムボタンに撮像範囲を割り当ててコマンドダイヤルを回して撮像範囲を設定する場合に、選べる撮像範囲を限定します。

- 項目を選んで ⊛ ボタンを押すかマルチセレクターの ⊕ を押すと、オン ☑ とオフ □ を切り換えられます。チェックボックスをオン ☑ にした項目のみ、コマンドダイヤルで選べるようになります。
- MENU ボタンを押すと、設定を完了します。



d8：連番モード

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

項目	内容
［**する**］	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
［**しない**］	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
［**リセット**］	［**する**］に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は 0001 から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

- ファイル番号が 9999 に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が 0001 番に戻ります。
- フォルダー番号が 999 になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
  - フォルダー内のファイル数が 5000 個に達したとき（動画モード時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が 5000 個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
  - ファイル番号が 9999 に達したとき（動画モード時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が 9999 を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）

  この場合は、カスタムメニュー d8［**連番モード**］を［**リセット**］した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 記録フォルダー内に 5000 個のファイルが記録された後またはファイル番号が 9999 となった後に撮影すると、フォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 自動で作成されるフォルダーの番号は、使用中のフォルダー番号+1 になります。ただし、既存フォルダーの番号と重複する場合、重複しない数字の中で最も若い数字になります。

d9：ビューモード設定（静止画 Lv）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

撮影の設定（色味や明るさ）を、ファインダーや画像モニターの撮影画面（ライブビュー）に反映させるかどうかを設定できます。動画モードの場合、設定にかかわらず常に撮影の設定を反映します。

項目		内容
VIEW📷	［**撮影設定を優先**］	ホワイトバランス、ピクチャーコントロール、露出補正などの色味や明るさの設定を変更すると、撮影画面の表示に反映されます。［**撮影設定を優先**］を選んで ⊛ を押すと、［**フラッシュ使用時を含む**］または［**フラッシュ使用時を含まない**］が選べます。 • ［**フラッシュ使用時を含む**］：カメラにスピードライトを接続して発光が可能な状態でも色味や明るさの設定を撮影画面の表示に反映します。 - 主要被写体の背景部分の明るさを調整する場合に適しています。 - 主要被写体が撮影画面に暗く表示されることがあります。 - 静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**感度自動制御**］が［**ON**］で、スピードライトの発光モードが TTL の場合、撮影画面の明るさと撮影した画像の明るさが異なることがあります。 • ［**フラッシュ使用時を含まない**］：カメラにスピードライトを接続して発光が可能な状態になると、撮影画面の明るさは［**見やすさを重視**］選択時と同様になります。色味は設定を反映します。 • 撮影画面に VIEW📷 が表示されます。

項目		内容
VIEW	［**見やすさを重視**］	ホワイトバランスやピクチャーコントロール、露出補正などの設定を変更しても、撮影画面の表示には反映されません。［**見やすさを重視**］を選んで ⊛ を押すと、［**オート**］または［**カスタム**］が選べます。 • ［**オート**］：撮影画面が見やすい色味や明るさで表示され、長時間の撮影に適しています。 • ［**カスタム**］：⊛ を押すと、［**ホワイトバランス**］、［**ピクチャーコントロール**］、［**暗部補正**］の各項目を設定できます。 - ［**ホワイトバランス**］：［**撮影設定を反映**］、［**オート**］、［**色温度設定**］を選べます。［**色温度設定**］を選ぶと、撮影画面用の色温度を設定できます。 - ［**ピクチャーコントロール**］：［**撮影設定を反映**］または［**見やすさを重視**］を選べます。 - ［**暗部補正**］：被写体の暗い部分を明るく補正する度合いを［**しない**］、［**+1**］、［**+2**］、［**+3**］から選べます。値が大きいほど効果が強くなります。 • 撮影画面に VIEW が表示されます。

d10：スターライトビュー（静止画 Lv）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、暗い場所で撮影する場合でも撮影画面が明るく見やすくなります（スターライトビュー）。スターライトビューにした場合、撮影画面がコマ落ちしたような表示になることがあります。

d11：赤色画面表示

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

メニュー画面や撮影画面、再生画面を明るさを抑えた赤色で表示します。星景撮影など暗所撮影時に、暗さに慣れた目でもメニューや被写体が見やすくなります。

項目	内容
［**表示モードの選択**］	表示モードを選べます。 • ［**表示モード 1**］：メニュー画面や撮影画面、再生画面に表示されるもの全てを赤色表示します。 • ［**表示モード 2**］：メニュー画面を赤色表示します。撮影画面や再生画面では、被写体や撮影した画像を除いたアイコンや撮影情報が赤色表示されます。 • ［**しない**］：赤色表示しません。
［**赤色画面表示の明るさ**］	マルチセレクターの ◓◒ を押して調整できます。+にすると明るく、−にすると暗くなります。

d12：イルミネーター点灯

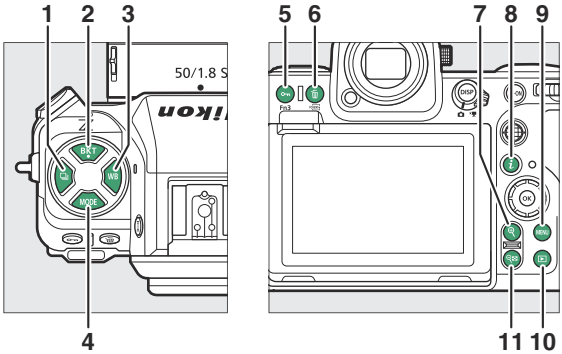
MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

表示パネルやボタンのイルミネーター（照明）点灯の設定を変更できます。

- ［**OFF**］に設定すると、電源スイッチを ☀ に合わせたときだけイルミネーターを点灯します。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯します。
- ［**ON**］に設定すると、半押しタイマーの作動中にイルミネーターが点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯しますが、シャッターボタンを放すと再度点灯します。

ヒント：ボタンの照明について

次のボタンが点灯します：



1 レリーズモードボタン（🖳）
2 BKT ボタン（**BKT**）
3 WB ボタン（**WB**）
4 MODE ボタン（**MODE**）
5 プロテクトボタン（🔑）
Fn3 ボタン（**Fn3**）
6 削除ボタン（🗑）
FORMAT ボタン（FORMAT）
7 拡大ボタン（🔍）
8 i ボタン（*i*）
9 MENU ボタン（**MENU**）
10 再生ボタン（▶）
11 縮小/サムネイル表示ボタン（🔍🖼）
ヘルプボタン（**?**）

---

d13：連続撮影中の表示

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**OFF**］に設定すると、連続撮影中は撮影画面に何も表示されなくなります。

d14：撮影タイミング表示

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

シャッターがきれたときの撮影画面に関する設定ができます。

項目	内容
［**表示 Type の設定**］	• シャッターがきれたときの撮影画面の表示方法を選べます。 - ［**Type A**］：シャッターがきれたときに画面を暗くします。流し撮りをする場合に被写体が追いやすい表示方法です。 - ［**Type B**］：シャッターがきれたときに画面内の上下左右に線を表示します。 - ［**Type C**］：シャッターがきれたときに画面内の左右に線を表示します。 - ［**しない**］：シャッターがきれたときに撮影タイミング表示を行いません。 • 低速シャッタースピードで撮影した場合、設定にかかわらず撮影タイミング表示を行いません。
［**TypeA 自動切り換え秒時**］	［**表示 Type の設定**］を［**Type A**］以外に設定している場合に、撮影タイミングの表示方法を自動的に［**Type A**］に切り換えるシャッタースピードを選べます。 • 撮影モードが **S** または **M** の場合に有効になります。 • ［**TypeA 自動切り換え秒時**］で選んだ値または選んだ値よりも遅いシャッタースピードに設定した場合、シャッターがきれたときに画面を暗くしてシャッターがきれたことを通知します。 • 表示方法が［**Type A**］になると、流し撮りをする場合に被写体が追いやすくなります。

d15：画面枠表示

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**OFF**］に設定すると、ファインダーおよび画像モニターの撮影画面の周囲に表示されている白い枠が非表示になります。

d16：ガイドラインの種類

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

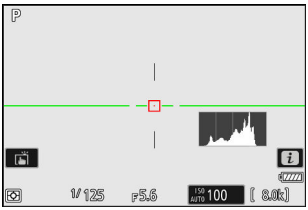
撮影時に表示する構図用ガイドラインの種類を選べます。選んだガイドラインは、カスタムメニュー d19［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］（🕮 627）および d20［**撮影画面カスタマイズ（ファインダー）**］（🕮 629）で ▦ をオン ☑ にした場合の画面表示に表示されます。

d17：水準器の種類

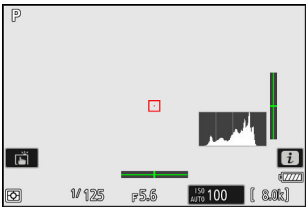
MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

撮影時に表示する水準器の種類を選べます。選んだ水準器は、カスタムメニュー d19［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］（🕮 627）および d20［**撮影画面カスタマイズ（ファインダー）**］（🕮 629）で ⊠ をオン ☑ にした場合の画面表示に表示されます。

- ［**Type A**］：撮影画像全体にローリング方向とピッチング方向の水準器を表示します。

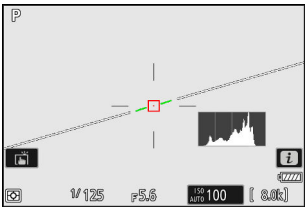
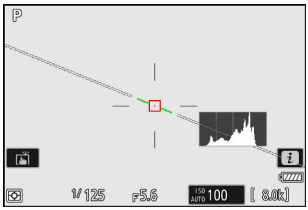
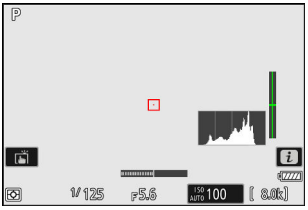
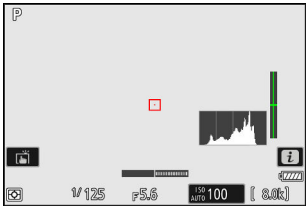


- ［**Type B**］：画面下部にローリング方向の水準器を、画面右部にピッチング方向の水準器を表示します。

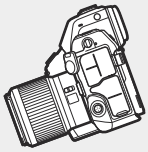
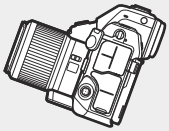
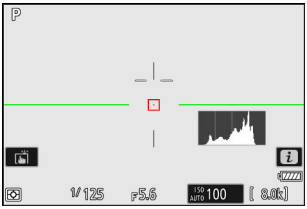
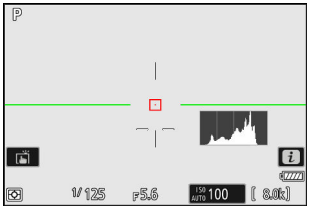
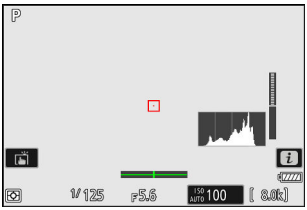
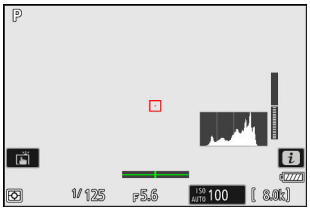


※ カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、基準線が緑色に変わります。

ローリング方向

項目	カメラが時計回りに傾いている場合 	カメラが反時計回りに傾いている場合 
［Type A］		
［Type B］		

ピッチング方向

項目	カメラが前に傾いている場合	カメラが後ろに傾いている場合
		
［Type A］		
［Type B］		

水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の基準線および目盛が消灯します。

d18：半押し拡大解除（MF）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

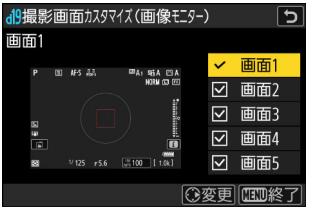
［**ON**］に設定すると、マニュアルフォーカス時に撮影画面を拡大表示した場合、シャッターボタンの半押しで拡大表示を解除できます。

d19：撮影画面カスタマイズ（画像モニター）

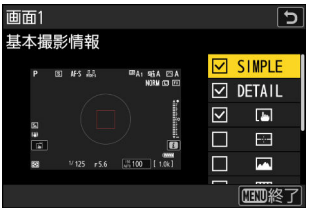
MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

撮影時に **DISP** ボタンを押して画像モニターに表示する画面を設定できます。

- ［**画面 2**］～［**画面 5**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、オン ☑ とオフ □ を切り換えられます。撮影時に **DISP** ボタンを押すと撮影画面が切り替わり、チェックボックスをオン ☑ にした画面のみ表示されます。［**画面 1**］はオフ □ にすることはできません。



- ［**画面 1**］～［**画面 4**］を選んでマルチセレクターの ⓡ を押すと、その画面に表示する項目を設定できます。表示したい項目を選んで ⓚ ボタンを押すと、オン ☑ とオフ □ を切り換えられます。



項目		内容
SIMPLE	［**基本撮影情報**］	撮影モードやシャッタースピード、絞り値などの設定を表示します。
DETAIL	［**詳細撮影情報**］	フォーカスモードや AF エリアモード、ホワイトバランスなどの設定を表示します。
	［**タッチ**］	タッチ AF や *i* メニューなど、画像モニターをタッチして設定を変更できる項目を表示します。
	［**水準器**］	水準器を表示します。水準器の種類はカスタムメニュー d17［**水準器の種類**］で設定できます。
	［**ヒストグラム**］	RGB ヒストグラムを表示します。
	［**ガイドライン**］	構図用ガイドラインを表示します。ガイドラインの種類はカスタムメニュー d16［**ガイドラインの種類**］で設定できます。
	［**センターマーカー**］	撮影画面の中央を示す十字線を表示します。

項目		内容
[ ]	［**中央部重点測光範囲**］	静止画撮影メニュー［**測光モード**］を［**中央部重点測光**］に設定した場合に、撮影画面の中央に⌀8mm または⌀12mm 相当の円（測光範囲）を表示します。 • 円の大きさはカスタムメニュー b5［**中央部重点測光範囲**］の設定により異なります。b5［**中央部重点測光範囲**］を［**画面全体の平均**］に設定した場合、円は表示されません。

• ［**画面 5**］はインフォ画面固定で、表示項目の設定は行えません。
• MENU ボタンを押すと、設定を完了します。

d20：撮影画面カスタマイズ（ファインダー）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

撮影時に **DISP** ボタンを押してファインダーに表示する画面を設定できます。

- ［**画面 2**］～［**画面 4**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。撮影時に **DISP** ボタンを押すと撮影画面が切り替わり、チェックボックスをオン ☑ にした画面のみ表示されます。［**画面 1**］はオフ ☐ にすることはできません。
- ［**画面 1**］～［**画面 4**］を選んでマルチセレクターの ⓘ を押すと、その画面に表示する項目を設定できます。表示したい項目を選んで ⓚ ボタンを押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。項目は［**タッチ**］を除きカスタムメニュー d19［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］（🕮 627）と共通です。
- MENU ボタンを押すと、設定を完了します。

d21：ファインダーの高フレームレート表示

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、撮影状況に応じてファインダーの表示をなめらかにします。高速な被写体を撮影するときに、被写体の動きを確認しやすくなります。

e1：フラッシュ撮影同調速度

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

項目	内容
［1/250 秒（オート FP）］	フラッシュ撮影時の同調する最高速度を 1/250 秒または 1/200 秒に設定します。別売のオート FP ハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時は 1/250 秒または 1/200 秒より速いシャッタースピードになると自動的に FP 発光に切り替わります。 • 撮影モードが **P** または **A** の場合、実際に制御されるシャッタースピードが 1/250 秒または 1/200 秒よりわずかでも高速側であれば、FP 発光に切り替わります。オート FP ハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードが 1/8000 秒まで制御されます。 • 撮影モードが **S** または **M** でオート FP ハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードを 1/8000 秒まで設定できます。
［1/200 秒］	フラッシュ撮影時の同調する最高速度を、1/200～1/60 秒の範囲で設定できます。
［1/160 秒］	
［1/125 秒］	
［1/100 秒］	
［1/80 秒］	
［1/60 秒］	

FP 発光についてのご注意

［**1/250 秒（オート FP）**］または［**1/200 秒（オート FP）**］に設定して FP 発光した場合、シャッタースピードによっては撮影した画像に横縞が発生することがあります。その場合、次の設定を行うことで横縞の発生が低減することがあります。

- シャッタースピードを遅くする
- スピードライトの発光量を変更する

ヒント：FP 発光について

フラッシュ撮影時のシャッタースピードを 1/8000 まで設定できます。［**1/250 秒（オート FP）**］または［**1/200 秒（オート FP）**］に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的に FP 発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

撮影モードが **P** または **A** の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や撮影モードが **S**、**M** の場合には、カスタムメニュー e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は 30 秒になります。

e3：フラッシュ使用時の露出補正

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

項目		内容
±±±	［**全体を補正**］	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
±	［**背景のみ補正**］	背景の露出だけを補正します。

e4：ϟ 使用時の感度自動制御

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に感度自動制御を行う場合の、露出を合わせる対象を設定できます。

項目		内容
	［**被写体と背景**］	主な被写体以外の背景も適切な露出となるように、感度自動制御を行います。
	［**被写体のみ**］	主な被写体が適切な露出となるように、感度自動制御を行います。

e5：モデリング発光

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時にカスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］で［**プレビュー**］を割り当てたボタンを押して、モデリング発光ができます。

e6：BKT 変化要素（M モード）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

撮影モード **M** で静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**感度自動制御**］が［**OFF**］の場合にオートブラケティングを行うときに変化する内容は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］>［**オートブラケティングのセット**］と、e6［**BKT 変化要素（M モード）**］との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e6［BKT 変化要素（M モード）］		静止画撮影メニュー［オートブラケティング］>［オートブラケティングのセット］	
		AE・フラッシュブラケティング	AE ブラケティング
ϟ+⏱	［**フラッシュ・シャッタースピード**］	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
ϟ⏱㊎	［**フラッシュ・シャッタースピード・絞り値**］	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
ϟ+㊎	［**フラッシュ・絞り値**］	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
ISO	［**フラッシュ・ISO 感度**］	ISO 感度とフラッシュの調光レベル	ISO 感度
ϟ	［**フラッシュ**］	フラッシュの調光レベル	—

- 静止画撮影メニュー［**ISO 感度設定**］>［**感度自動制御**］が［**ON**］の場合、e6［**BKT 変化要素（M モード）**］の設定にかかわらず［**フラッシュ・ISO 感度**］と同様の変化をします。

☑ フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL 調光時または絞り連動外部自動調光時（㊎**A**）のみ変化します。

e7：BKT の順序

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

項目		内容
N	[0] → [−] → [+]	「補正なし」→「−側に補正」→「+側に補正」の順になります。
−→+	[−] → [0] → [+]	「−側に補正」→「補正なし」→「+側に補正」の順になります。

- 静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］>［**オートブラケティングのセット**］が［**ADL ブラケティング**］の場合、e7［**BKT の順序**］の設定を変更しても補正順序は変わりません。

e8：フラッシュ連続撮影時の優先

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

別売スピードライトをカメラに装着し、高速連続撮影または低速連続撮影で連続撮影をする場合の動作を設定できます。

項目		内容
	［**速度優先**］	1 コマ目撮影時にモニター発光を行い、2 コマ目以降は調光量を固定します。［**調光精度優先**］に設定したときよりも、連続撮影速度の低下を抑えます。 • 連続撮影中は撮影画面に FV ロックマーク（FL）が表示されます。
	［**調光精度優先**］	2 コマ目以降も毎回モニター発光を行い、全てのコマで調光量を計算します。撮影状況によっては連続撮影速度が低下することがあります。

f1：i メニューのカスタマイズ

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

静止画モードで i ボタンを押して表示される i メニューの項目を設定できます。

- 機能を設定したい i メニューの場所を選んで ⓚ ボタンを押し、割り当てたい機能を選んでください。
- i メニューに割り当てられる機能は次の通りです。

項目		🕮
SHOOT	［撮影メニュー切り換え］	🕮 411
CUSTOM	［カスタムメニュー切り換え］	🕮 576
	［撮像範囲設定］	🕮 97
TONE	［階調モード］	🕮 424
QUAL	［画質モード］	🕮 99
SIZE	［画像サイズ］	🕮 101
	［メモリーカード情報表示］	🕮 642
	［露出補正］	🕮 129
ISO	［ISO 感度設定］	🕮 136
WB	［ホワイトバランス］	🕮 140
	［ピクチャーコントロール］	🕮 431
HLG	［ピクチャーコントロール（HLG）］	🕮 433
RGB	［色空間］	🕮 437
	［アクティブ D-ライティング］	🕮 438
NR	［長秒時ノイズ低減］	🕮 440

項目		📖
ISO NR	［高感度ノイズ低減］	📖 441
	［美肌効果］	📖 445
	［人物印象調整］	📖 446
	［測光モード］	📖 452
	［フラッシュモード］	📖 456
	［フラッシュ調光補正］	📖 457
MODE	［ワイヤレス設定と発光モード］	📖 388
GRP	［グループ発光設定］	📖 393、📖 401
TEST	［テスト発光］	📖 389、📖 400
info	［フラッシュインフォ］	📖 393
RMT info	［電波リモートフラッシュ情報］	📖 389
AF/MF	［フォーカスモード］	📖 103
	［AF エリアモード/被写体検出］	📖 105、📖 109
	［手ブレ補正］	📖 461
BKT	［オートブラケティング］	📖 156
	［多重露出］	📖 463
HDR	［HDR 合成］	📖 470
	［インターバルタイマー撮影］	📖 474
	［タイムラプス動画］	📖 484
FOCUS	［フォーカスシフト撮影］	📖 494
PIXEL	［ピクセルシフト撮影］	📖 501

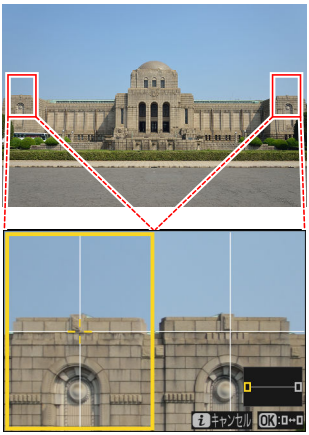
項目		🕮
AF LOCK-ON	［AF ロックオン］	🕮 579
SL	［サイレントモード］	🕮 774
	［プリキャプチャー記録設定］	🕮 606
	［レリーズモード］	🕮 131
	［カスタムボタンの機能（撮影）］	🕮 644
DLY	［露出ディレーモード］	🕮 609
VIEW	［ビューモード設定（静止画 Lv）］	🕮 614
	［2 点拡大］	🕮 643
PEAK	［フォーカスピーキング］	🕮 591
☼	［モニター/ファインダーの明るさ］	🕮 743、🕮 745
✈	［機内モード］	🕮 796
RED	［赤色画面表示］	🕮 617
BP	［MB-N12 の情報表示］	🕮 643

メモリーカード情報表示

画像を記録するときに使用するメモリーカードスロットや、メモリーカードを 2 枚使用しているときの記録方法を確認できます。この項目は表示のみで、設定を変更することはできません。

- メモリーカードを 2 枚使用しているときの記録方法は、静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］で設定できます。

2 点拡大



i メニューに［**2 点拡大**］を割り当て、［**2 点拡大**］を実行すると、左右に並んだ拡大表示画面が表示されます（2 点拡大表示）。それぞれの画面には、右下のナビゲーションウィンドウの 2 カ所の □ 部分が拡大されて表示されます。

- 同じ水平面上の異なる 2 カ所を同時に拡大表示するため、建築物などの水平合わせの確認がしやすくなります。
- 🔍 ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍 （**?**）ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- マルチセレクターの ◀▶ を押すと、左右それぞれの拡大表示画面を横方向にスクロールできます。左右の画面を切り換える場合は Ⓚ ボタンを押します。
- マルチセレクターの ▲▼ を押すと、左右の拡大表示画面が縦方向に同時にスクロールします。
- シャッターボタンを半押しすると、選択されている画面の中心点にピントが合います。
- i ボタンを押すと、2 点拡大表示を終了します。

MB-N12 の情報表示

別売のパワーバッテリーパック MB-N12 装着時に、MB-N12 内のバッテリーの情報を表示します（🕮 905）。

f2：カスタムボタンの機能（撮影）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

静止画モードでカメラのボタンやコマンドダイヤル、レンズのリングを操作したときの機能を設定できます。

- カメラに装着した別売パワーバッテリーパックのボタンを操作したときの機能も設定できます。
- 機能を割り当てられるボタンやコマンドダイヤル、レンズのリングは次の通りです。割り当てを設定したい項目を選んで、OK ボタンを押してください。



項目	
	［**Fn1 ボタン**］
	［**Fn2 ボタン**］
	［**縦位置 Fn ボタン**］
	［**フォーカスモードボタン**］
	［**プロテクト/Fn3 ボタン**］
	［**AF-ON ボタン**］
	［**サブセレクター中央**］
	［**DISP ボタン**］
	［**OK ボタン**］
	［**再生ボタン**］
	［**縦位置マルチセレクター中央**］
	［**縦位置 AF-ON ボタン**］
	［**動画撮影ボタン**］

項目	
	［露出補正ボタン］
	［ISO 感度ボタン］
	［コマンドダイヤル］
	［BKT ボタン］
	［WB ボタン］
	［レンズの Fn ボタン］
	［レンズの Fn2 ボタン］
	［レンズの Fn リング（左回し）］
	［レンズの Fn リング（右回し）］
	［レンズのメモリーセットボタン］
	［レンズのコントロールリング］

• 割り当てられる機能は次の通りです。ボタン、セレクター、レンズのリングによって割り当てられる機能は異なります。

割り当てられる機能		内容
PRE	[**プリセットフォーカスポイント**]	ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。 • プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでフォーカスモードボタンを押しながら割り当てたボタンを長押しします。 • a5［**縦/横位置フォーカスポイント切換**］を［**しない**］以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。 • ［**プリセットフォーカスポイント**］を選んでマルチセレクターの ⊛ を押すと、割り当てたボタンを押したときの動作を設定できます。 - ［**AF ポイントを移動**］：ボタンを押すと、プリセットフォーカスポイントに移動します。 - ［**押している間のみ移動**］：ボタンを押している間のみプリセットフォーカスポイントが選ばれます。ボタンを放すと、元のフォーカスポイントの位置に戻ります。
RESET	[**フォーカスポイント中央リセット**]	ボタンを押すと、フォーカスポイントが中央に戻ります。
FOCUS	[**フォーカス位置の登録**]	ボタンを長押しすると、ピント位置（フォーカス位置）を登録できます。 • ［**フォーカス位置の呼び出し**］と組み合わせて使用することで、メモリーリコールの機能が使用できます。 • ［**フォーカス位置の呼び出し**］を割り当てた全てのボタンに同じピント位置を登録する［**一括登録**］と、それぞれのボタンに異なるピント位置を登録する［**個別登録**］があります。 • 詳しい使い方は「フォーカス位置の登録/フォーカス位置の呼び出しについて」（🕮 658）をご覧ください。
FOCUS	[**フォーカス位置の呼び出し**]	ボタンを押すと［**フォーカス位置の登録**］で登録したピント位置（フォーカス位置）にセットされます。 • 詳しい使い方は「フォーカス位置の登録/フォーカス位置の呼び出しについて」（🕮 658）をご覧ください。

割り当てられる機能		内容
	［**瞳の切り換え**］	カメラが人物や動物の瞳を検出している場合にボタンを押すと、フォーカスポイントを合わせる瞳の左右を切り換えます。
	［**AF エリアモード循環選択**］	ボタンを押すたびに AF エリアモードが切り替わります。 • ［**AF エリアモード循環選択**］を選んで ▶ を押すと、切り換え可能な AF エリアモードを選べます。 • 項目を選んで ⓚ ボタンを押すかマルチセレクターの ▶ を押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。チェックボックスをオン ☑ にした項目のみ、ボタンを押したときに切り換えられます。
	［**AF エリアモード**］	ボタンを押している間、設定した AF エリアモードに変更します。ボタンを放すと、元の AF エリアモードに戻ります。 • ［**AF エリアモード**］を選んで ▶ を押すと、AF エリアモードを選べます。
	［**AF エリアモード +AF-ON**］	ボタンを押している間、設定した AF エリアモードに変更され、ピント合わせも行います。ボタンを放すと、元の AF エリアモードに戻ります。 • ［**AF エリアモード+AF-ON**］を選んで ▶ を押すと、AF エリアモードを選べます。
AF-ON	［**AF-ON**］	ボタンを押すと、**AF-ON** ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
AF-L	［**AF-L**］	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
AE-L	［**AE-L（ホールド）**］	ボタンを 1 回押すと AE ロックを行い、AE ロック状態が維持されます。シャッターをきっても AE ロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AE ロックを解除します。
AWB-L	［**AWB-L（ホールド）**］	ホワイトバランスの設定が［**オート**］または［**自然光オート**］の場合、ボタンを 1 回押すとホワイトバランスが固定されます（オートホワイトバランスロック）。シャッターをきってもオートホワイトバランスロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになるとオートホワイトバランスロックを解除します。

割り当てられる機能		内容
	［**AE-L/AWB-L（ホールド）**］	ボタンを 1 回押すと AE ロックを行い、AE ロック状態が維持されます。また、ホワイトバランスの設定が［**オート**］または［**自然光オート**］の場合は、オートホワイトバランスロックされます。シャッターをきっても AE ロックおよびオートホワイトバランスロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになるとどちらも解除されます。
	［**AE-L（レリーズでリセット）**］	ボタンを 1 回押すと AE ロックを行い、AE ロック状態が維持されます。もう一度ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AE ロックを解除します。
	［**AE-L**］	ボタンを押している間、AE ロックを行います。
	［**AE-L/AF-L**］	ボタンを押している間、AE ロックとフォーカスロックを同時に行います。
	［**FV-L**］	別売のスピードライト使用時は、FV ロックを行い、もう一度ボタンを押すと解除します。
	［**発光禁止/許可切換**］	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。
	［**FX/DX 切り換え**］	撮像範囲が［**FX（36×24）**］の場合にボタンを 1 回押すと、撮像範囲が［**DX（24×16）**］に切り替わります。撮像範囲が［**FX（36×24）**］以外の場合にボタンを 1 回押すと、撮像範囲が［**FX（36×24）**］に切り替わります。
FLICKER	［**静止画フリッカー低減**］	ボタンを 1 回押すと、静止画撮影メニュー［**静止画フリッカー低減**］が［**ON**］になります。もう一度ボタンを押すと、［**OFF**］になります。
	［**プレビュー**］	ボタンを押している間、現在設定している静止画の色味や露出、被写界深度を撮影画面の表示に反映します。

割り当てられる機能		内容
	［**撮影機能の呼び出し**］	ボタンを押している間、撮影モードや測光モードなどの設定が、あらかじめ登録した内容に変更されます。 • ［**撮影機能の呼び出し**］を選んで ▶ を押すと、割り当てたボタンを押したときの設定の登録を行えます。 - ▲▼ で項目を選び、OK ボタンを押すとオン ☑ とオフ □ を切り換えられます。チェックボックスをオン ☑ にした項目のみ、ボタンを押したときに呼び出されます。 - ▲▼ で設定したい項目を選び、▶ を押すと設定内容が表示されます。OK ボタンを押して決定します。 - ［**現在の設定を登録**］を選ぶと、現在カメラに設定している撮影モードなどを設定内容として登録できます。 • ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、絞り値やシャッタースピードが変更できます。 - 撮影モードが **P** の場合はプログラムシフトを行えます。 - カスタムメニュー b3［**露出補正簡易設定**］が［**しない**］以外の場合、コマンドダイヤルを回して露出補正を行えます。
	［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］	ボタンを 1 回押すと撮影モードや測光モードなどの設定があらかじめ登録した内容に変更されます。もう一度ボタンを押すとボタンを押す前の設定に戻ります。 • ［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］を選んで ▶ を押すと、割り当てたボタンを押したときの設定の登録を行えます。設定できる内容および値は［**撮影機能の呼び出し**］と共通です。ただし、［**AF-ON**］の設定は［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］では登録できません。 • 設定が呼び出されている間は、撮影画面に アイコンが表示されます。 • 設定が呼び出されている間にコマンドダイヤルを回すと、絞り値とシャッタースピードを変更できます。 - 撮影モードが **P** の場合はプログラムシフトを行えます。 - カスタムメニュー b3［**露出補正簡易設定**］が［**しない**］以外の場合、コマンドダイヤルを回して露出補正を行えます。
FLICKER	［**高周波フリッカー低減**］	ボタンを 1 回押すとシャッタースピードを細かいステップ幅で設定できます。もう一度ボタンを押すと、元のステップ幅でシャッタースピードを設定します。

割り当てられる機能		内容
BKT	［**BKT 自動連写**］	• 静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］>［**オートブラケティングのセット**］が［**WB ブラケティング**］以外の場合でレリーズモードが連続撮影のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1 回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケティング撮影をします。また、レリーズモードが 1 コマ撮影のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1 回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します。 • ［**オートブラケティングのセット**］が［**WB ブラケティング**］の場合は、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対して WB ブラケティングを行います。
	［**連動レリーズ切り換え**］	ネットワークメニュー［**カメラと接続**］>［**連動レリーズ**］や、ワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動レリーズモードで撮影する場合の、連動レリーズの機能を切り換えます。カスタムメニュー d4［**連動レリーズモード設定**］の設定により、選択できる内容が異なります。 • ［**連動レリーズモード設定**］が［**連動する**］の場合 - ［**マスターカメラのみレリーズ**］（）：ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。 - ［**リモートカメラのみレリーズ**］（）：ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。 • ［**連動レリーズモード設定**］が［**連動しない**］の場合 - ［**マスターとリモートが連動**］（）：ボタンを押している間、マスターカメラとリモートカメラが連動して撮影を行います。 - ［**リモートカメラのみレリーズ**］（）：ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。
	［**リモートカメラの優先接続**］	連動レリーズ機能使用時に、他のカメラがマスターカメラとしてリモートカメラの制御を行っている場合にボタンを押すと、離れた場所からマスターカメラの制御を引き継げます。 • ネットワークメニュー［**カメラと接続**］で、同一グループ内に複数のカメラをマスターカメラとして登録している場合に有効です。 • リモートカメラとして登録されているカメラをマスターカメラに切り換えることはできません。

割り当てられる機能		内容
+RAW	［**プラス RAW 記録**］	• 画質モードが JPEG 形式または HEIF 形式に設定されている場合、ボタンを押すと撮影画面の画質モードに「RAW」が表示され、押してから 1 回の撮影のみ RAW 画像が JPEG 画像または HEIF 画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度ボタンを押すと［**プラス RAW 記録**］を解除します。 • RAW 画像は、静止画撮影メニュー［**RAW 記録**］の設定で記録されます。
S	［**サイレントモード**］	ボタンを 1 回押すとサイレントモードになります。もう一度ボタンを押すと、サイレントモードを解除します。
DISP	［**ライブビュー情報表示の切り換え**］	ボタンを押すたびに、撮影画面の表示が切り替わります。表示する画面はカスタムメニュー d19［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］および d20［**撮影画面カスタマイズ（ファインダー）**］で設定できます。
OFF	［**ライブビュー情報表示の消灯**］	ボタンを 1 回押すと撮影画面のアイコンや撮影情報を非表示にします。もう一度ボタンを押すと、アイコンや撮影情報が表示されます。
	［**ガイドライン表示**］	ボタンを 1 回押すと、撮影画面に構図用ガイドラインを表示します。もう一度ボタンを押すと、ガイドラインの表示を終了します。表示するガイドラインの種類はカスタムメニュー d16［**ガイドラインの種類**］で選べます。
	［**拡大画面との切り換え**］	ボタンを 1 回押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
	［**水準器表示**］	ボタンを 1 回押すと、撮影画面に水準器を表示します。もう一度ボタンを押すと、水準器の表示を終了します。表示する水準器の種類はカスタムメニュー d17［**水準器の種類**］で選べます。
STAR	［**スターライトビュー（静止画 Lv）**］	ボタンを 1 回押すと撮影画面をスターライトビューで表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
VIEW	［**ビューモード設定（静止画 Lv）**］	ボタンを押すたびにカスタムメニュー d9［**ビューモード設定（静止画 Lv）**］の［**撮影設定を優先**］と［**見やすさを重視**］が切り替わります。

割り当てられる機能		内容
PEAK	[**フォーカスピーキング表示**]	フォーカスモードが **MF** の場合、ボタンを 1 回押すとフォーカスピーキングを表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
☰	[**マイメニュー**]	ボタンを押すと、マイメニューを表示します。
☰	[**マイメニューのトップ項目へジャンプ**]	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
▶	[**再生**]	ボタンを押すと再生画面を表示します。
▶▼	[**フィルター再生**]	ボタンを押すと再生メニュー［**フィルター再生の条件設定**］で設定した条件に合った画像を再生します。
▶▼	[**フィルター再生（条件設定）**]	ボタンを押すと、再生メニュー［**フィルター再生の条件設定**］と同様の設定画面を表示します。
PZ T	[**パワーズーム（望遠側）**]	パワーズームレンズを装着している場合、ボタンを押している間は望遠側にズーミングします。［**Fn2 ボタン**］が［**パワーズーム（広角側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
PZ W	[**パワーズーム（広角側）**]	パワーズームレンズを装着している場合、ボタンを押している間は広角側にズーミングします。［**Fn1 ボタン**］が［**パワーズーム（望遠側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
= AF-ON	[**AF-ON ボタンと同じ**]	**AF-ON** ボタンの設定と同じです。
SHOOT	[**撮影メニュー切り換え**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮影メニューを切り換えられます。
MODE	[**撮影モード**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影モードを変更できます。
FX	[**撮像範囲選択**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮像範囲の設定を変更できます。
QUAL	[**画質モード/画像サイズ**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと画質モード、サブコマンドダイヤルを回すと画像サイズの設定を変更できます。

割り当てられる機能		内容
WB	［**ホワイトバランス**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを設定できます。ホワイトバランスの設定によっては、サブコマンドダイヤルを回して種類を変更できます。
	［**ピクチャーコントロール**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ピクチャーコントロールの設定を変更できます。
HLG	［**ピクチャーコントロール（HLG）**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ピクチャーコントロール（HLG）の設定を変更できます。
	［**アクティブ D-ライティング設定**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブ D-ライティングの設定を変更できます。
	［**美肌効果**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、美肌効果の設定を変更できます。
	［**人物印象調整**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、調整モードを切り換えられます。
	［**測光モード**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、測光モードの設定を変更できます。
±0	［**フラッシュモード/調光補正**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとフラッシュモード、サブコマンドダイヤルを回すとフラッシュ調光補正値の設定を変更できます。
	［**レリーズモード**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとレリーズモードを設定できます。レリーズモードの設定によっては、サブコマンドダイヤルを回して種類を変更できます。
AF	［**フォーカスモード/AF エリアモード**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとフォーカスモード、サブコマンドダイヤルを回すと AF エリアモードの設定を変更できます。
BKT	［**オートブラケティング**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップまたはアクティブ D-ライティングの度合いを変更できます。
	［**多重露出**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと多重露出モード、サブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数の設定を変更できます。

割り当てられる機能		内容
HDR	［**HDR 合成**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと HDR モード、サブコマンドダイヤルを回すと HDR 強度の設定を変更できます。
PIXEL	［**ピクセルシフト撮影**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとピクセルシフト撮影モード、サブコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数の設定を変更できます。
DLY	［**露出ディレーモード**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、露出ディレーモードの設定を変更できます。
LOCK	［**操作のロック**］	• 撮影モードが **S** または **M** のとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを固定します。撮影モードが **A** または **M** のとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。 • ボタンを押しながらマルチセレクターでフォーカスポイントの位置を固定します。
	［**シャッター・絞り値 1 段選択**］	カスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を 1 段ステップで設定できます。 • 撮影モードが **S** または **M** のとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを 1 段ステップで設定します。 • 撮影モードが **A** または **M** のとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を 1 段ステップで設定します。
Non-CPU	［**手動設定済みレンズの選択**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニュー［**レンズ情報手動設定**］で設定したレンズ No.のものに切り換えます。
M/A	［**フォーカス(M/A)**］	オートフォーカス時にレンズのコントロールリングを回すとマニュアルフォーカスに切り替わります（M/A（マニュアル優先オートフォーカスモード））。オートフォーカス時にシャッターボタンを半押ししたままコントロールリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。

割り当てられる機能		内容
	［**絞り**］	レンズのコントロールリングを回すと、絞り値の設定を変更します。
	［**露出補正**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すか、レンズのコントロールリングを回すと露出補正の設定を変更します。
ISO	［**ISO 感度**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すか、レンズのコントロールリングを回すと ISO 感度の設定を変更します。
	［**絞り（開放絞り側）**］	レンズの Fn リングを左に回すと、開放絞り側に絞りが動きます。［**レンズの Fn リング（右回し）**］が［**絞り（最小絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**絞り（最小絞り側）**］	レンズの Fn リングを右に回すと、最小絞り側に絞りが動きます。［**レンズの Fn リング（左回し）**］が［**絞り（開放絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**露出補正（＋側）**］	レンズの Fn リングを右に回すと、+側に露出補正を行います。［**レンズの Fn リング（左回し）**］が［**露出補正（－側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**露出補正（－側）**］	レンズの Fn リングを左に回すと、－側に露出補正を行います。［**レンズの Fn リング（右回し）**］が［**露出補正（＋側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
ISO＋	［**ISO 感度（高感度側）**］	レンズの Fn リングを右に回すと、高感度側に ISO 感度が動きます。［**レンズの Fn リング（左回し）**］が［**ISO 感度（低感度側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
ISO－	［**ISO 感度（低感度側）**］	レンズの Fn リングを左に回すと、低感度側に ISO 感度が動きます。［**レンズの Fn リング（右回し）**］が［**ISO 感度（高感度側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
［**設定しない**］		ボタンは機能しません。

コマンドダイヤルの設定について

コマンドダイヤルに設定できる項目は次の通りです。項目を選んで ⊛ を押すと、設定が変更できます。

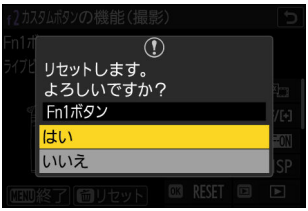
割り当てられる機能	内容
［**露出設定**］	各撮影モードでのメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。◀▶ を押して撮影モードを選び、▲▼ を押すと機能が入れ替わります。
［**フォーカスモード/AF エリアモード設定**］	フォーカスモードボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときに変更される項目を入れ換えられます。
［**拡大表示中のサブコマンドダイヤル**］	拡大表示中にサブコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。 • ［**露出設定**］を選ぶと、それぞれの撮影モードに設定したサブコマンドダイヤルの機能を変更します。 • ［**拡大/縮小**］を選ぶと、拡大表示の倍率を変更できます。

設定のリセットについて

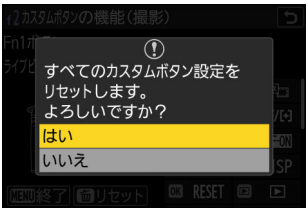
カスタムボタンの機能設定画面で設定をリセットできます。リセットは各ボタンごとのリセット、または全てのボタンを一括でリセットできます。



- 各ボタンの設定をリセットする場合、リセットしたいボタンを選んで 🗑（FORMAT）を押すと、確認画面が表示されます。[**はい**] を選んで OK ボタンを押すと、選んだボタンの設定をリセットして初期設定に戻します。



- 全てのボタンの設定をリセットする場合、任意のボタンを選んで約 3 秒間 🗑（FORMAT）を長押しすると、確認画面が表示されます。[**はい**] を選んで OK ボタンを押すと、全てのボタンの設定をリセットして初期設定に戻します。



フォーカス位置の登録/フォーカス位置の呼び出しについて

［**フォーカス位置の登録**］を割り当てたカスタムボタンを長押しすると、ピント位置（フォーカス位置）を登録できます。［**フォーカス位置の呼び出し**］を割り当てたカスタムボタンを押すと、登録したピント位置を素早く呼び出すメモリーリコールの機能が使用できます。決まったピント位置で頻繁に撮影する場合に便利です。

- ［**フォーカス位置の呼び出し**］は複数のボタンに割り当てられます。［**フォーカス位置の登録**］で［**一括登録**］を選んでいる場合、割り当てたどのボタンを押しても同じピント位置にセットされます。［**フォーカス位置の登録**］で［**個別登録**］を選んでいる場合、割り当てたボタンごとに異なるピント位置をセットできます。
- ピント位置の登録は、フォーカスモードの設定にかかわらず可能です。
- カメラからレンズを取り外したり、レンズを交換した場合は登録したピント位置がリセットされます。

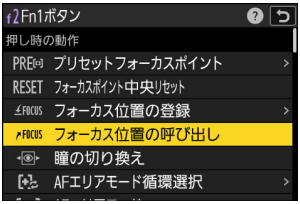
メモリーリコール機能についてのご注意

- インフォ画面の表示中は、ピント位置を登録することはできません。
- 環境温度の変化によっては、登録時と呼び出し時のピント位置が変わることがあります。
- ピント位置を登録した後で、ズーム操作で焦点距離を変えると、呼び出し時にピント位置が変わりやすくなります。

ピント位置を一括登録する

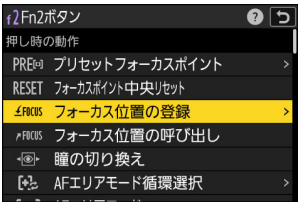
1 任意のボタンに［フォーカス位置の呼び出し］を割り当てる

呼び出しを行いたい全てのボタンに割り当てを行います。

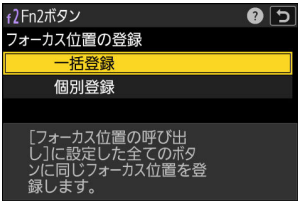


2 任意のボタンに割り当てる機能として［フォーカス位置の登録］を選び、▶ を押す

ピント位置登録の方法を選べます。

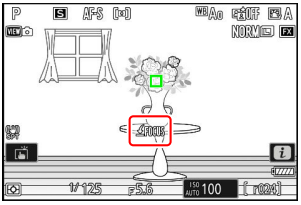


3 ［一括登録］を選んで ⓚ ボタンを押す



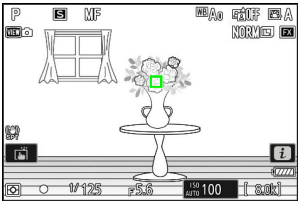
4 撮影画面で被写体にピントを合わせ、［フォーカス位置の登録］を割り当てたボタンを長押しする

ピント位置が正しく登録されると、撮影画面に FOCUS アイコンが表示されます。



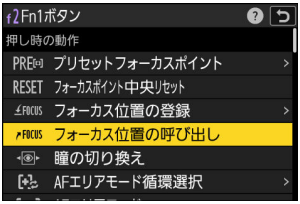
5 手順 1 で［フォーカス位置の呼び出し］を割り当てたボタンを押す

- 登録したピント位置にセットされます。
- 複数のボタンに［**フォーカス位置の呼び出し**］を割り当てた場合、どのボタンを押しても同じピント位置にセットされます。
- ［**フォーカス位置の呼び出し**］を割り当てたボタンを押している間は、フォーカスモードが **MF** に変更され、シャッターボタンを半押ししてもピント位置は移動しません。



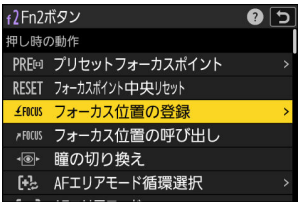
ボタン別にピント位置を登録する

1 複数のボタンに［フォーカス位置の呼び出し］を割り当てる

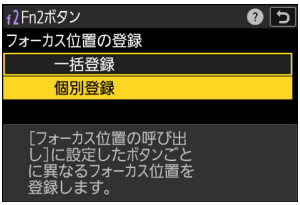


2 任意のボタンに割り当てる機能として［フォーカス位置の登録］を選び、▶ を押す

ピント位置登録の方法を選べます。

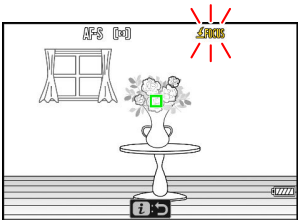


3 ［個別登録］を選んで ⓚ ボタンを押す



4 撮影画面で被写体にピントを合わせ、［フォーカス位置の登録］を割り当てたボタンを長押しする

撮影画面で FOCUS アイコンが点滅します。

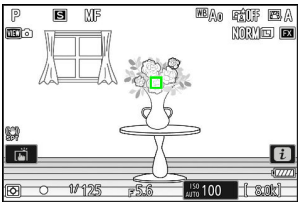


5 手順 4 のピント位置を呼び出すボタンを押す



- 手順 1 で［**フォーカス位置の呼び出し**］を割り当てたボタンのうち、手順 4 のピント位置を呼び出すボタンを押します。
- ピント位置が正しく登録されると、撮影画面にメッセージが表示されます。
- 手順 4～5 を繰り返し、［**フォーカス位置の呼び出し**］を割り当てたボタン全てにピント位置を登録します。

6 セットしたいピント位置に応じて割り当てたボタンを押す



- 押したボタンに登録したピント位置にセットされます。
- ［**フォーカス位置の呼び出し**］を割り当てたボタンを押している間は、フォーカスモードが **MF** に変更され、シャッターボタンを半押ししてもピント位置は移動しません。

f3：カスタムボタンの機能（再生）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

再生時にカメラのボタンやコマンドダイヤルを操作したときの機能を設定できます。

- カメラに装着した別売パワーバッテリーパックのボタンを操作したときの機能も設定できます。
- 機能を割り当てられるボタンやコマンドダイヤルは次の通りです。割り当てを設定したい項目を選んで、OK ボタンを押してください。



	項目
Fn1	［Fn1 ボタン］
Fn2	［Fn2 ボタン］
Fn	［縦位置 Fn ボタン］
DISP	［DISP ボタン］
Fn3	［プロテクト/Fn3 ボタン］
▶	［再生ボタン］
OK	［OK ボタン］
	［サブコマンドダイヤル］
	［メインコマンドダイヤル］
	［動画撮影ボタン］
ISO	［ISO 感度ボタン］
±	［露出補正ボタン］
BKT	［BKT ボタン］

項目	
WB	［**WB ボタン**］
Fn	［**レンズの Fn ボタン**］
Fn2	［**レンズの Fn2 ボタン**］

• 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。ボタンによって割り当てられる機能は異なります。

割り当てられる機能		内容
	［**プロテクト**］	ボタンを押すと、表示されている画像をプロテクトします。
	［**削除**］	ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
	［**拡大画面との切り換え**］	ボタンを 1 回押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、拡大率を選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。
	［**フィルター再生**］	ボタンを押すと再生メニュー［**フィルター再生の条件設定**］で設定した条件に合った画像を再生します。
	［**フィルター再生（条件設定）**］	ボタンを押すと、再生メニュー［**フィルター再生の条件設定**］と同様の設定画面を表示します。
	［**グループ内の画像送り**］	連続撮影グループ画像を 1 コマ表示している場合にボタンを押すと、連続撮影グループ内の画像のみを画像送りします（📖 724）。ボタンを押し続けると、マルチセレクターで画像送りする場合よりも素早く画像を切り換えます。ボタンを放すか、連続グループ最後の画像が表示されると、画像送りを停止します。
	［**音声メモ**］	ボタンを押すと、音声メモ機能を使用できます。

割り当てられる機能		内容
PC	[**送信指定（PC）**]	カメラがパソコンまたは FTP サーバーに接続しているときにボタンを押すと、表示している画像をパソコンまたは FTP サーバーに送信指定します。 • [**送信指定（PC）**] または [**送信指定（FTP）**] を選んで ▶ を押すと、送信指定時のオプションを選べます。それぞれの項目は、OK ボタンを押すとオン ☑ とオフ □ を切り換えられます。 - [**優先送信**]：オン ☑ にすると、優先送信画像として送信指定します。 - [**プロテクト**]：オン ☑ にすると、画像送信時に画像をプロテクトします。 - [**レーティング**]：オン ☑ にすると、画像送信時に画像にレーティングを付加します。マルチセレクターの ▶ を押すと、付加するレーティングを設定できます。
FTP	[**送信指定（FTP）**]	
	[**1 コマとサムネイルの切り換え**]	ボタンを押すたびに、1 コマ表示、サムネイル表示（4 コマ、9 コマ、72 コマ）を切り換えます。
	[**ヒストグラム表示**]	ボタンを押している間、ヒストグラムを表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
	[**スロット/フォルダー指定**]	ボタンを押すと、[**スロット/フォルダー指定**] 画面が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。
DISP	[**情報表示の切り換え**]	ボタンを押すたびに、1 コマ表示モードの再生画面の表示が切り替わります。表示する画面は再生メニュー [**再生画面設定**] で設定できます。
	[**撮影に戻る**]	ボタンを押すと、再生を終了して撮影画面に戻ります。
★	[**レーティング**]	画像再生時にボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、レーティング（重要度）を画像に設定できます。 • [**レーティング**] を選んで ▶ を押すと、レーティングの設定画面が表示されます。[**設定しない**] 以外を選ぶと、画像再生時にボタンを押すだけで選んだレーティングを画像に設定できます。もう一度ボタンを押すと、レーティングを星なしに変更します。
[**設定しない**]		ボタンは機能しません。

メインコマンドダイヤル/サブコマンドダイヤルの設定について

コマンドダイヤルに設定できる項目は次の通りです。項目を選んで ⊛ を押すと、設定が変更できます。

画像送り

1 コマ表示時にコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます。

項目		内容
［**1 コマ**］		1 コマずつコマ送りします。
［**10 コマ**］		10 コマずつコマ送りします。
［**50 コマ**］		50 コマずつコマ送りします。
★	［**レーティング**］	レーティングが設定された画像だけをコマ送りして表示します。
	［**プロテクト**］	プロテクト（保護）した撮影画像だけをコマ送りして表示します。
	［**静止画のみ**］	静止画だけをコマ送りして表示します。
	［**動画のみ**］	動画だけをコマ送りして表示します。
	［**グループの先頭**］	連続撮影した画像がある場合、連続撮影の最初のコマだけを表示します。連続撮影ではない画像の場合、1 コマずつコマ送りされます。
	［**フォルダー**］	再生フォルダーを切り換えます。
	［**ページ**］	サムネイル表示している場合、次のページに切り換えます。
FTP	［**FTP 送信済み**］	FTP に送信した画像だけをコマ送りして表示します。
PC	［**PC 送信済み**］	PC に送信した画像だけをコマ送りして表示します。

動画再生

動画再生中にコマンドダイヤルを回したときの操作方法を設定できます。

項目	内容
［**1 フレーム**］	1 フレームずつコマ戻し/コマ送りします。
［**5 フレーム**］	5 フレームずつコマ戻し/コマ送りします。
［**10 フレーム**］	10 フレームずつコマ戻し/コマ送りします。
［**2 秒**］	2 秒前または後に移動します。
［**5 秒**］	5 秒前または後に移動します。
［**10 秒**］	10 秒前または後に移動します。
［**先頭/最終フレーム**］	先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
［**再生の速度**］	動画の再生速度を切り換えます。速度は等倍、1/2 倍スロー、1/4 倍スローに切り換えます。

画像送り時の拡大位置

再生画像の拡大表示中にコマンドダイヤルを回して画像送りをする場合に、表示範囲の位置を変更するかどうか設定できます。

項目	内容
［**位置を継続**］	現在表示している表示範囲の位置で次の静止画を表示します。
［**ピント位置優先**］	再生する静止画の撮影時のフォーカスポイントを中心にして拡大表示します。
［**ピント位置優先（顔検出）**］	再生する静止画の撮影時のフォーカスポイントを中心にして拡大表示します。ただし、再生する静止画に人物の顔が検出された場合、顔を中心にして拡大表示します。

拡大再生中の顔送り

［**ON**］に設定すると、再生画像の拡大表示中に複数の人物の顔が検出された場合、サブコマンドダイヤルを回して画像内の人物の顔を切り換えることができます。

- ［**サブコマンドダイヤル**］のみ設定できます。

設定のリセットについて

カスタムボタンの機能設定画面で設定をリセットできます。リセットは各ボタンごとのリセット、または全てのボタンを一括でリセットできます。リセット方法については、「f2：カスタムボタンの機能（撮影）」>「設定のリセットについて」（🕮 657）をご覧ください。



f4：操作のロック

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

露出の設定またはフォーカスポイントをロックできます。

項目	内容
［**シャッタースピードのロック**］	［**ON**］に設定すると、撮影モード **S** または **M** ではシャッタースピードを現在の設定でロックします。 • シャッタースピードをロックすると撮影画面と表示パネルに L アイコンが表示されます。
［**絞り値のロック**］	［**ON**］に設定すると、撮影モード **A** または **M** では絞り値を現在の設定でロックします。 • 絞り値をロックすると撮影画面と表示パネルに L アイコンが表示されます。
［**フォーカスポイントのロック**］	［**ON**］に設定すると、現在の位置でフォーカスポイントがロックします。 • AF エリアモードが［**オートエリア AF**］の場合はロックできません。 • AF エリアモードが［**3D-トラッキング**］の場合、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。

f5：コマンドダイヤル回転方向の変更

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- [**露出補正の設定時**] または [**シャッタースピード/絞り値 設定時**] を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、オン ☑ とオフ □ を切り換えられます。
- MENU ボタンを押すと、設定が完了します。
- 別売パワーバッテリーパックのコマンドダイヤルの設定にも反映されます。

f6：ボタンのホールド設定

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放してもコマンドダイヤル単独で設定できる状態が維持できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。

- ［**ボタンのホールド設定**］の対象ボタンは、⊠ ボタン、**ISO**（FORMAT）ボタン、**BKT** ボタン、🖳 ボタン、MODE ボタン、**WB** ボタン、🔑（**Fn3**）ボタン、フォーカスモードボタンです。
- f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］または g2［**カスタムボタンの機能**］で一部の機能を割り当てたボタンも、［**ボタンのホールド設定**］の対象になります。

f7：インジケーターの＋/－方向

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

インフォ画面など、横方向で表示される一部のインジケーターの＋と－方向を入れ換えることができます。

項目		内容
+0−		インジケーターの＋側を左に、－側を右に表示します。
−0+		インジケーターの－側を左に、＋側を右に表示します。

f8：フォーカス回転方向の変更

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

Z マウントレンズを装着している場合、［**ON**］に設定すると、マニュアルフォーカス時にフォーカスリングまたはコントロールリングでピントを合わせるときの回転方向を逆方向に変更できます。

- 次の場合は対応していません。
  - 一部のマニュアルフォーカス専用 Z マウントレンズをお使いの場合
  - マウントアダプター FTZ II/FTZ を装着して F マウントレンズをお使いの場合

f9：フォーカスリングの角度設定

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

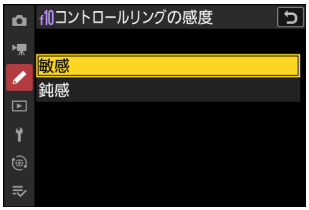
Z マウントレンズを装着してマニュアルフォーカスでピント合わせをする場合に、至近側から無限遠側までピント位置を移動するために必要な、フォーカスリングまたはコントロールリングを回す角度を設定できます。

項目	内容
［**ノンリニア**］	ピント位置の移動量は、フォーカスリングまたはコントロールリングを回す角度にかかわらず、リングを速く回すと大きく、ゆっくり回すと小さくなります。
［**角度 90 度**］～［**角度 720 度**］	至近側から無限遠側までピント位置を移動するために必要な、レンズのフォーカスリングまたはコントロールリングを回す角度を設定できます。例えば［**角度 90 度**］に設定している場合、リングを 90 度回転させるとピント位置が至近側から無限遠側まで移動します。設定する値が大きいほど細かくピント位置を調整できます。
［**最大**］	至近側から無限遠側までピント位置を移動するためにはレンズに設定されている最大量の角度を回す必要があります。

- ［**フォーカスリングの角度設定**］に対応していないレンズを装着している場合、［**ノンリニア**］に固定されます。

f10：コントロールリングの感度

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー



カスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］または g2［**カスタムボタンの機能**］でレンズのコントロールリングに次の機能を割り当てた場合のコントロールリングの感度を設定できます。

- カスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］または g2［**カスタムボタンの機能**］で［**絞り**］、［**パワー絞り**］、［**露出補正**］、［**ISO 感度**］を割り当てた場合
- カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］で［**ハイレゾズーム**］を割り当てた場合

f11：フォーカス/コントロールリング入れ換え

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、カスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］または g2［**カスタムボタンの機能**］でレンズのコントロールリングに割り当てた機能をフォーカスリングで使用できます。

- ［**ON**］に設定した場合、コントロールリングの機能は［**フォーカス（M/A）**］に固定されます。
- このメニューに対応したレンズを装着したときのみ設定できます。

f12：パワーズームのボタン操作（PZ レンズ）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

パワーズームレンズを装着して静止画を撮影する場合に、🔍 ボタンおよび 🔍⊠（**?**）ボタンを押して電動でズーミング（パワーズーム）するかどうかを設定できます。

項目	内容
［**🔍/🔍⊠ ボタンの使用**］	［**ON**］に設定すると、🔍 ボタンおよび 🔍⊠（**?**）ボタンを押してズーミングを行えます。
［**パワーズーム速度**］	ボタン操作でパワーズームするときの、ズーミングの速度を設定できます。

f13：1 コマ再生時のフリック操作

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

1 コマ表示時に画像モニターを上下または左右にフリックした場合の動作を割り当てられます。

上にフリック/下にフリック

画像モニターを上下にフリックした場合の動作を割り当てられます。

項目		内容
★	[**レーティング**]	フリックすると画像にレーティングを設定できます。★ の数はあらかじめマルチセレクターの ▶ を押して設定します。
PC	[**送信指定（PC）**]	パソコンへ送信する画像に優先送信設定マークを付加します。
FTP	[**送信指定（FTP）**]	FTP サーバーへ送信する画像に優先送信設定マークを付加します。
🔑	[**プロテクト**]	画像をプロテクト（保護）します。
🎤	[**音声メモ**]	フリックすると音声メモの録音を開始します。すでに音声メモが録音されている画像の場合、再生が開始されます。音声メモの録音または再生を終了するには、OK ボタンを押します。
[**設定しない**]		画像モニターを上下にフリックしても機能しません。

- [**レーティング**]、[**送信指定（PC）**]、[**送信指定（FTP）**]、[**プロテクト**] を割り当てた場合、上または下にフリックすると画像にアイコンが表示されます（📖 209）。もう一度同じ方向にフリックすると設定した内容をキャンセルして元に戻します。

1コマ送りの操作方向

次の画像を表示するフリック操作を割り当てられます。

項目		内容
⬅	［左←右］	画像モニターの右側から左側にフリックすると、次の画像が表示されます。
➡	［左→右］	画像モニターの左側から右側にフリックすると、次の画像が表示されます。

f14：サブセレクター中央を優先

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

サブセレクター中央を押しながら上下左右に倒した場合の動作を設定できます。

項目	内容
［**ON**］	サブセレクター中央を押しながら上下左右に倒してもフォーカスポイントは移動しません。
［**OFF**］	サブセレクター中央を押しながら上下左右に倒すとフォーカスポイントが移動します。

カスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］および g2［**カスタムボタンの機能**］で［**サブセレクター中央**］に割り当てた機能を実行しながら、フォーカスポイントが移動できます。特にカスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］で［**AF エリアモード**］を割り当てている場合、AF エリアモードを一時的に切り換えながらのフォーカスポイント移動が可能です。

g1：i メニューのカスタマイズ

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

動画モードで i ボタンを押して表示される i メニューの項目を設定できます。

- 機能を設定したい i メニューの場所を選んで ⓚ ボタンを押し、割り当てたい機能を選んでください。
- i メニューに割り当てられる機能は次の通りです。

項目		🕮
SHOOT	[撮影メニュー切り換え]	🕮 411
CUSTOM	[カスタムメニュー切り換え]	🕮 576
QUAL	[画像サイズ/フレームレート]	🕮 187
	[撮像範囲設定]	🕮 196
	[動画記録先]	🕮 531
	[露出補正]	🕮 129
ISO	[ISO 感度設定]	🕮 136
WB	[ホワイトバランス]	🕮 140
	[ピクチャーコントロール]	🕮 168
HLG	[HLG 画質調整]	🕮 541
	[アクティブ D-ライティング]	🕮 438
	[美肌効果]	🕮 547
	[人物印象調整]	🕮 446
	[測光モード]	🕮 551
AF/MF	[フォーカスモード]	🕮 103

項目		🕮
[+]/	［AF エリアモード/被写体検出］	🕮 105、🕮 109
	［手ブレ補正］	🕮 555
	［電子手ブレ補正］	🕮 556
	［マイク感度］	🕮 557
ATT	［アッテネーター］	🕮 558
	［録音帯域］	🕮 559
	［風切り音低減］	🕮 560
	［ヘッドホン音量］	🕮 562
	［ハイレゾズーム］	🕮 204
	［サイレントモード］	🕮 774
	［カスタムボタンの機能］	🕮 683
PEAK	［フォーカスピーキング］	🕮 591
	［ゼブラ表示］	🕮 705
	［モニター/ファインダーの明るさ］	🕮 743、🕮 745
	［機内モード］	🕮 796
	［マルチセレクターによるパワー絞り］	🕮 682
	［マルチセレクターによる露出補正］	🕮 682
RED	［赤色画面表示］	🕮 617
info	［動画情報表示］	🕮 682
BP	［MB-N12 の情報表示］	🕮 643

マルチセレクターによるパワー絞り

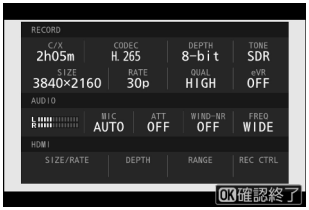
マルチセレクターによるパワー絞りを有効にするかどうかを設定できます。[**有効**] に設定すると、▲ を押している間、開放絞り側に絞りが動きます。また、▼ を押している間、最小絞り側に絞りが動きます。

マルチセレクターによる露出補正

マルチセレクターによる露出補正を有効にするかどうかを設定できます。[**有効**] に設定すると、▲▼ を押して露出補正を設定できます。

動画情報表示

動画撮影時の各種設定を確認できます。この項目は表示のみで、設定を変更することはできません。



g2：カスタムボタンの機能

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

動画モードでカメラのボタンやコマンドダイヤル、レンズのリングを操作したときの機能を設定できます。

- カメラに装着した別売パワーバッテリーパックのボタンを操作したときの機能も設定できます。
- 機能を割り当てられるボタン、セレクター、コマンドダイヤル、レンズのリングは次の通りです。割り当てを設定したい項目を選んで、OK ボタンを押してください。



項目	
	［Fn1 ボタン］
	［Fn2 ボタン］
	［縦位置 Fn ボタン］
	［フォーカスモードボタン］
	［プロテクト/Fn3 ボタン］
	［AF-ON ボタン］
	［サブセレクター中央］
	［DISP ボタン］
	［OK ボタン］
	［再生ボタン］
	［縦位置マルチセレクター中央］
	［縦位置 AF-ON ボタン］
	［動画撮影ボタン］

	項目
	［露出補正ボタン］
	［ISO 感度ボタン］
	［コマンドダイヤル］
	［シャッターボタン］
	［WB ボタン］
	［BKT ボタン］
	［レンズの Fn2 ボタン］
	［レンズの Fn ボタン］
	［レンズの Fn リング（右回し）］
	［レンズの Fn リング（左回し）］
	［レンズのメモリーセットボタン］
	［レンズのコントロールリング］

• 割り当てられる機能は次の通りです。ボタン、セレクター、レンズのリングによって割り当てられる機能は異なります。

割り当てられる機能		内容
PRE	[**プリセットフォーカスポイント**]	ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。 • プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでフォーカスモードボタンを押しながら割り当てたボタンを長押しします。 • [**プリセットフォーカスポイント**] を選んでマルチセレクターの ⊛ を押すと、割り当てたボタンを押したときの動作を設定できます。 - [**AF ポイントを移動**]：ボタンを押すと、プリセットフォーカスポイントに移動します。 - [**押している間のみ移動**]：ボタンを押している間のみプリセットフォーカスポイントが選ばれます。ボタンを放すと、元のフォーカスポイントの位置に戻ります。
RESET	[**フォーカスポイント中央リセット**]	ボタンを押すと、フォーカスポイントが中央に戻ります。
FOCUS	[**フォーカス位置の登録**]	ボタンを長押しすると、ピント位置（フォーカス位置）を登録できます。 • [**フォーカス位置の呼び出し**] と組み合わせて使用することで、メモリーリコールの機能が使用できます。 • [**フォーカス位置の呼び出し**] を割り当てた全てのボタンに同じピント位置を登録する [**一括登録**] と、それぞれのボタンに異なるピント位置を登録する [**個別登録**] があります。 • 詳しい使い方は「フォーカス位置の登録/フォーカス位置の呼び出しについて」（🕮 658）をご覧ください。

割り当てられる機能		内容
FOCUS	［**フォーカス位置の呼び出し**］	ボタンを押すと［**フォーカス位置の登録**］で登録したピント位置（フォーカス位置）にセットされます。 • 詳しい使い方は「フォーカス位置の登録/フォーカス位置の呼び出しについて」（🕮 658）をご覧ください。
	［**瞳の切り換え**］	カメラが人物や動物の瞳を検出している場合にボタンを押すと、フォーカスポイントを合わせる瞳の左右を切り換えます。
	［**AF エリアモード循環選択**］	ボタンを押すたびに AF エリアモードが切り替わります。 - ［**AF エリアモード循環選択**］を選んで ▶ を押すと、切り換え可能な AF エリアモードを選べます。 - 項目を選んで ⊛ ボタンを押すかマルチセレクターの ▶ を押すと、オン ☑ とオフ □ を切り換えられます。チェックボックスをオン ☑ にした項目のみ、ボタンを押したときに切り換えられます。
AF-ON	［**AF-ON**］	ボタンを押すと、**AF-ON** ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。 • フォーカスモードが **AF-C** のときにボタンを押した場合、カスタムメニュー g6［**AF 速度**］で設定した速度でピント合わせを行います。
AF-ON 高速	［**AF-ON（高速）**］	ボタンを押すと、**AF-ON** ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。 • フォーカスモードが **AF-C** のときにボタンを押した場合、カスタムメニュー g6［**AF 速度**］で設定した速度にかかわらず高速でピント合わせを行います。
AF-L	［**AF-L**］	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。

割り当てられる機能		内容
	［**AE-L（ホールド）**］	ボタンを 1 回押すと AE ロックを行い、AE ロック状態が維持されます。動画撮影をしても AE ロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AE ロックを解除します。
	［**AWB-L（ホールド）**］	ホワイトバランスの設定が［**オート**］または［**自然光オート**］の場合、ボタンを 1 回押すとホワイトバランスが固定されます（オートホワイトバランスロック）。動画撮影をしてもオートホワイトバランスロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになるとオートホワイトバランスロックを解除します。
	［**AE-L/AWB-L（ホールド）**］	ボタンを 1 回押すと AE ロックを行い、AE ロック状態が維持されます。また、ホワイトバランスの設定が［**オート**］または［**自然光オート**］の場合は、オートホワイトバランスロックされます。動画撮影をしても AE ロックおよびオートホワイトバランスロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになるとどちらも解除されます。
	［**AE-L**］	ボタンを押している間、AE ロックを行います。
	［**AE-L/AF-L**］	ボタンを押している間、AE ロックとフォーカスロックを同時に行います。
	［**FX/DX 切り換え**］	ボタンを押すたびに、撮像範囲の［**FX**］と［**DX**］が切り替わります。
	［**ビューアシスト**］	ボタンを 1 回押すと、カスタムメニュー g12［**ビューアシスト**］が［**ON**］になります。もう一度ボタンを押すと、［**OFF**］になります。
	［**高周波フリッカー低減**］	ボタンを 1 回押すとシャッタースピードを細かいステップ幅で設定できます。もう一度ボタンを押すと、元のステップ幅でシャッタースピードを設定します。

割り当てられる機能		内容
	［**サイレントモード**］	ボタンを 1 回押すとサイレントモードになります。もう一度ボタンを押すと、サイレントモードを解除します。
DISP	［**ライブビュー情報表示の切り換え**］	ボタンを押すたびに、撮影画面の表示が切り替わります。表示する画面はカスタムメニュー g18［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］および g19［**撮影画面カスタマイズ（ファインダー）**］で設定できます。
OFF	［**ライブビュー情報表示の消灯**］	ボタンを 1 回押すと撮影画面のアイコンや撮影情報を非表示にします。もう一度ボタンを押すと、アイコンや撮影情報が表示されます。
	［**ガイドライン表示**］	ボタンを 1 回押すと、撮影画面に構図用ガイドラインを表示します。もう一度ボタンを押すと、ガイドラインの表示を終了します。表示するガイドラインの種類はカスタムメニュー g15［**ガイドラインの種類**］で選べます。
	［**拡大画面との切り換え**］	ボタンを 1 回押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
	［**水準器表示**］	ボタンを 1 回押すと、撮影画面に水準器を表示します。もう一度ボタンを押すと、水準器の表示を終了します。表示する水準器の種類はカスタムメニュー d17［**水準器の種類**］で選べます。
PEAK	［**フォーカスピーキング表示**］	フォーカスモードが **MF** の場合、ボタンを 1 回押すとフォーカスピーキングを表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
	［**マイメニュー**］	ボタンを押すと、マイメニューを表示します。
	［**マイメニューのトップ項目へジャンプ**］	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
	［**再生**］	ボタンを押すと再生画面を表示します。

割り当てられる機能		内容
	［**フィルター再生**］	ボタンを押すと再生メニュー［**フィルター再生の条件設定**］で設定した条件に合った画像を再生します。
	［**フィルター再生（条件設定）**］	ボタンを押すと、再生メニュー［**フィルター再生の条件設定**］と同様の設定画面を表示します。
	［**パワー絞り（開放絞り側）**］	• ボタンを押している間は開放絞り側に絞りが動きます。［**Fn2 ボタン**］が［**パワー絞り（最小絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。 • レンズの Fn リングを左に回すと開放絞り側に絞りが動きます。［**レンズの Fn リング（右回し）**］が［**パワー絞り（最小絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**パワー絞り（最小絞り側）**］	• ボタンを押している間は最小絞り側に絞りが動きます。［**Fn1 ボタン**］が［**パワー絞り（開放絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。 • レンズの Fn リングを右に回すと最小絞り側に絞りが動きます。［**レンズの Fn リング（左回し）**］が［**パワー絞り（開放絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**露出補正（＋側）**］	• ボタンを押している間は+側に露出補正を行います。［**Fn2 ボタン**］が［**露出補正（－側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。 • レンズの Fn リングを右に回すと+側に露出補正を行います。［**レンズの Fn リング（左回し）**］が［**露出補正（－側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**露出補正（－側）**］	• ボタンを押している間は－側に露出補正を行います。［**Fn1 ボタン**］が［**露出補正（＋側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。 • レンズの Fn リングを左に回すと－側に露出補正を行います。［**レンズの Fn リング（右回し）**］が［**露出補正（+側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。

割り当てられる機能		内容
ISO+	[**ISO 感度（高感度側）**]	レンズの Fn リングを右に回すと、高感度側に ISO 感度が動きます。[**レンズの Fn リング（左回し）**] が [**ISO 感度（低感度側）**] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
ISO−	[**ISO 感度（低感度側）**]	レンズの Fn リングを左に回すと、低感度側に ISO 感度が動きます。[**レンズの Fn リング（右回し）**] が [**ISO 感度（高感度側）**] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
T	[**ハイレゾズーム（望遠側）**]	• ボタンを押している間はハイレゾズームで望遠側にズームインします。[**Fn2 ボタン**] が [**ハイレゾズーム（広角側）**] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。 • レンズの Fn リングを右に回すと望遠側にズームインします。[**レンズの Fn リング（左回し）**] が [**ハイレゾズーム（広角側）**] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
W	[**ハイレゾズーム（広角側）**]	• ボタンを押している間はハイレゾズームで広角側にズームアウトします。[**Fn1 ボタン**] が [**ハイレゾズーム（望遠側）**] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。 • レンズの Fn リングを左に回すと広角側にズームアウトします。[**レンズの Fn リング（右回し）**] が [**ハイレゾズーム（望遠側）**] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
PZT	[**パワーズーム（望遠側）**]	パワーズームレンズを装着している場合、ボタンを押している間は望遠側にズーミングします。[**Fn2 ボタン**] が [**パワーズーム（広角側）**] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
PZW	[**パワーズーム（広角側）**]	パワーズームレンズを装着している場合、ボタンを押している間は広角側にズーミングします。[**Fn1 ボタン**] が [**パワーズーム（望遠側）**] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	[**ゼブラ表示の検出モード**]	ボタンを押すたびにゼブラ表示の検出モード設定が切り替わります（🕮 705）。

割り当てられる機能		内容
AF-ON	［**AF-ON ボタンと同じ**］	**AF-ON** ボタンの設定と同じです。
	［**動画撮影**］	ボタンを押すと、動画撮影を開始します。もう一度ボタンを押すと、動画撮影を終了します。
SHOOT	［**撮影メニュー切り換え**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮影メニューを切り換えられます。
MODE	［**撮影モード**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影モードを変更できます。
	［**撮像範囲選択**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画モード時の撮像範囲の設定を切り換えられます。動画記録中は、撮像範囲の切り換えはできません。
WB	［**ホワイトバランス**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、動画のホワイトバランスを設定できます。ホワイトバランスの設定によっては、サブコマンドダイヤルを回して種類を変更できます。
	［**ピクチャーコントロール**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ピクチャーコントロールの設定を変更できます。
	［**アクティブ D-ライティング設定**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画のアクティブ D-ライティングの設定を変更できます。
	［**美肌効果**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、美肌効果の設定を変更できます。
	［**人物印象調整**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、調整モードを切り換えられます。
	［**測光モード**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画の測光モードの設定を変更できます。
AF/[+]	［**フォーカスモード/AF エリアモード**］	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとフォーカスモード、サブコマンドダイヤルを回すと AF エリアモードの設定を変更できます。

割り当てられる機能		内容
LOCK	［**操作のロック**］	• 撮影モードが **M** のとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを固定します。撮影モードが **A** または **M** のとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。 • ボタンを押しながらマルチセレクターでフォーカスポイントの位置を固定します。
	［**マイク感度**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、マイク感度の設定を変更できます。
M/A	［**フォーカス（M/A）**］	レンズのコントロールリングを回すと、フォーカスモードの設定にかかわらずマニュアルフォーカス撮影が行えます。カメラのシャッターボタンの半押しや AF-ON 機能を割り当てたボタンを再度操作するとオートフォーカスで撮影が可能となります。
	［**パワー絞り**］	レンズのコントロールリングを回すと、絞り値の設定を変更します。
	［**露出補正**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すか、レンズのコントロールリングを回すと露出補正の設定を変更します。
ISO	［**ISO 感度**］	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すか、レンズのコントロールリングを回すと ISO 感度の設定を変更します。
	［**ハイレゾズーム**］	レンズのコントロールリングを回すと、ハイレゾズームでズームイン/ズームアウトします。
［**設定しない**］		ボタンは機能しません。

パワー絞りについて

- 撮影モード **A** または **M** のときのみ動作します。
- パワー絞りの動作中は画面にちらつきが発生することがあります。

コマンドダイヤルの設定について

コマンドダイヤルに設定できる項目は次の通りです。項目を選んで ⊛ を押すと、設定が変更できます。

割り当てられる機能	内容
［**露出設定**］	各撮影モードでのメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。◀▶ を押して撮影モードを選び、▲▼ を押すと機能が入れ替わります。
［**フォーカスモード/AF エリアモード設定**］	フォーカスモードボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときに変更される項目を入れ換えられます。
［**拡大表示中のサブコマンドダイヤル**］	拡大表示中にサブコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。 • ［**露出設定**］を選ぶと、それぞれの撮影モードに設定したサブコマンドダイヤルの機能を変更します。 • ［**拡大/縮小**］を選ぶと、拡大表示の倍率を変更できます。

設定のリセットについて



カスタムボタンの機能設定画面で設定をリセットできます。リセットは各ボタンごとのリセット、または全てのボタンを一括でリセットできます。リセット方法については、「f2：カスタムボタンの機能（撮影）」>「設定のリセットについて」（657）をご覧ください。

g3：操作のロック

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

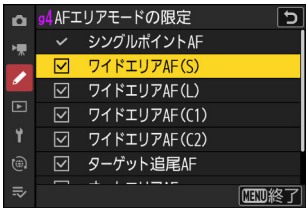
露出の設定またはフォーカスポイントをロックできます。

項目	内容
［**シャッタースピードのロック**］	［**ON**］に設定すると、撮影モード **M** ではシャッタースピードを現在の設定でロックします。 • シャッタースピードをロックすると撮影画面と表示パネルに L アイコンが表示されます。
［**絞り値のロック**］	［**ON**］に設定すると、撮影モード **A** または **M** では絞り値を現在の設定でロックします。 • 絞り値をロックすると撮影画面と表示パネルに L アイコンが表示されます。
［**フォーカスポイントのロック**］	［**ON**］に設定すると、現在の位置でフォーカスポイントをロックします。 • AF エリアモードが［**オートエリア AF**］の場合はロックできません。 • AF エリアモードが［**ターゲット追尾 AF**］の場合、被写体を追尾している間は被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。

g4：AF エリアモードの限定

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回した場合に選べる AF エリアモードを設定できます。



- 項目を選んで ⓞⓚ ボタンを押すかマルチセレクターの ▶ を押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。チェックボックスをオン ☑ にした項目のみ、サブコマンドダイヤルで選べるようになります。
- MENU ボタンを押すと、設定を完了します。

g5：フォーカスモードの制限

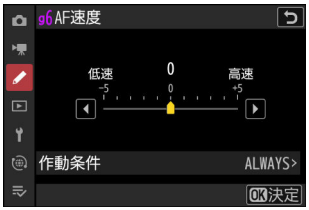
MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

フォーカスモードを固定できます。［**制限しない**］以外を選ぶと、フォーカスモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してもフォーカスモードは変わりません。

g6：AF 速度

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

動画モード時のピント合わせの速度を設定できます。



設定した AF 速度が有効な条件を［**作動条件**］で設定します。

項目		内容
ALWAYS	［**常時有効**］	動画モードの間は常に設定した AF 速度で動作します。
REC	［**撮影中のみ有効**］	動画記録中のみ設定した AF 速度で動作します。それ以外は最高速でピントを合わせます。

☑ レンズの動作音について

AF 速度を高速側に設定するほど、ピント合わせをするときのレンズの動作音が大きくなります。特に［**+5**］に設定した場合は大きな動作音がすることがあるため、音が気になるときは低速側に設定してください。

g7：AF 追従感度

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー



動画モード時の被写体にピントを合わせる感度を 1～7 の範囲で設定できます。

- [**7**]（[**鈍感**]）に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。
- [**1**]（[**敏感**]）に設定すると、被写体がフォーカスポイントから外れた場合、フォーカスポイントの範囲内にある他の被写体にすぐにピントを合わせます。

g8：ハイレゾズーム速度

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

ハイレゾズームの速度を設定できます。カスタムメニュー g2 [**カスタムボタンの機能**] の [**Fn1 ボタン**]、[**Fn2 ボタン**]、[**レンズの Fn リング（右回し）**]、[**レンズの Fn リング（左回し）**] のいずれかにハイレゾズームの機能を割り当てている場合のみ有効です。



g9：パワーズームのボタン操作（PZ レンズ）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

パワーズームレンズを装着して動画を撮影する場合に、🔍 ボタンおよび ⊖ (?) ボタンを押して電動でズーミング（パワーズーム）するかどうかを設定できます。

項目	内容
［🔍/⊖ ボタンの使用］	［**ON**］に設定すると、🔍 ボタンおよび ⊖ (**?**) ボタンを押してズーミングを行えます。
［**パワーズーム速度**］	ボタン操作でパワーズームするときの、動画記録待機中および動画記録中のズーミングの速度をそれぞれ設定できます。 • 動画記録中にズーミングを行うと、レンズの動作音が記録されることがあります。音が気になる場合は、ズーミングの速度を低速に設定することをおすすめします。

g10：ISO 感度ステップ幅拡張（M モード）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**する（1/6 段）**］に設定すると、撮影モード **M** での動画モード時に、ISO 感度のステップ幅を 1/6 段に変更できます。

- ISO 64～25600 の間を 1/6 段で設定できます。

g11：シャッタースピード延長（M モード）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、撮影モード **M** 時のシャッタースピードをより低速に設定できます。

- ［**OFF**］に設定した場合、シャッタースピードの低速側の制限はフレームレートにより次のように異なります。
  - 120p：1/125
  - 100p：1/100
  - 60p：1/60
  - 50p：1/50
  - 30p：1/30
  - 25p：1/25
  - 24p：1/25
- ［**ON**］に設定すると、フレームレートを 60p～24p に設定している場合はシャッタースピードの低速側の制限が 1/4 に変更されます。120p および 100p に設定している場合は変更されません。
- ［**ON**］に設定してシャッタースピードを低速にすると、星景撮影など暗所撮影時に、ISO 感度の上昇を抑えることができます。
- ［**ON**］に設定して低速のシャッタースピードで撮影した場合、動画の複数のフレームに同じ映像が記録されます。
- ［**ON**］に設定して低速のシャッタースピードで撮影する場合は、手ブレを抑えるために三脚を使用することをおすすめします。

g12：ビューアシスト

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、動画の階調モードを［**N-Log**］にしている場合にカメラの撮影画面を簡易的に階調補正して表示します。

- 実際に記録している動画には影響ありません。
- カメラで N-Log 動画を再生する場合にも階調補正が適用されます。

g13：ゼブラ表示

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

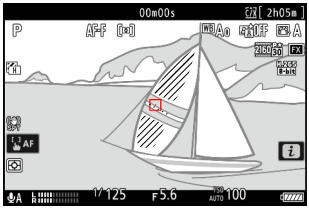
動画モード時に、指定した明るさの部分を斜線で表示できます。

ゼブラ表示の検出モード

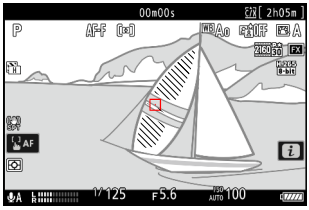
斜線で表示する明るさの部分を［**高輝度**］、［**中間輝度**］または［**しない**］から選べます。どの部分を高輝度として扱うかは［**高輝度検出の範囲**］、どの部分を中間輝度として扱うかは［**中間輝度検出の範囲**］で設定できます。

ゼブラ表示のパターン

［**パターン 1**］または［**パターン 2**］を選ぶと、動画モード時にハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示できます。



パターン 1



パターン 2

高輝度検出の範囲

［**ゼブラ表示の検出モード**］で［**高輝度**］を選んだ場合に、どの程度の明るさから高輝度として扱うかを設定できます。

- 輝度は 120 から 255 の間で設定できます。値が小さいほど暗い部分も斜線で表示されます。
- 255 を選ぶと、白とびする部分だけが斜線表示されます。

中間輝度検出の範囲

［**ゼブラ表示の検出モード**］で［**中間輝度**］を選んだ場合に、どの程度の明るさの範囲を中間輝度として扱うかを設定できます。

- ［**基準値**］と［**範囲**］で検出したい輝度の部分を設定できます。
- ◀▶ を押して項目を選び、▲▼ で値を変更できます。



ゼブラ表示について

フォーカスモードがマニュアルフォーカスの場合、ゼブラ表示およびフォーカスピーキングの両方を有効にしているとフォーカスピーキングのみ表示されます。マニュアルフォーカス時にゼブラ表示したい場合は、カスタムメニュー a13［**フォーカスピーキング**］>［**フォーカスピーキング表示**］を［**OFF**］に設定してください。

g14：ゼブラ表示の検出モード制限

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

カスタムボタンに［**ゼブラ表示の検出モード**］を割り当てた場合に、ボタンを押したときに斜線表示する輝度の範囲を設定できます。

項目	内容
［**高輝度**］	ボタンを押すたびに、輝度の範囲が［**高輝度**］→［**しない**］の順に切り替わります。
［**中間輝度**］	ボタンを押すたびに、輝度の範囲が［**中間輝度**］→［**しない**］の順に切り替わります。
［**制限しない**］	ボタンを押すたびに、輝度の範囲が［**高輝度**］→［**中間輝度**］→［**しない**］の順に切り替わります。

g15：ガイドラインの種類

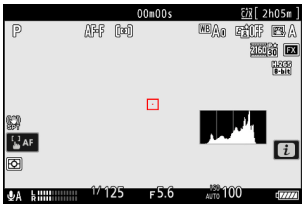
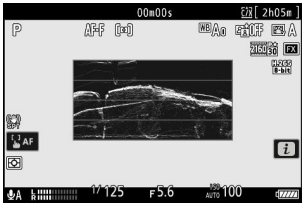
MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

動画モード時に表示する構図用ガイドラインの種類を選べます。選んだガイドラインは、カスタムメニュー g18［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］および g19［**撮影画面カスタマイズ（ファインダー）**］で ▦ をオン ☑ にした場合の画面表示に表示されます。

g16：輝度情報の種類

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

動画モード時に表示する輝度情報の種類を選べます。

項目	内容
［ヒストグラム］	RGB ヒストグラムを表示します。 
［ウェーブフォームモニター］ ［ウェーブフォームモニター 大］	ウェーブフォームモニターを表示します。表示するサイズを選べます。 

g17：半押し拡大解除（MF）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、マニュアルフォーカスでの動画撮影時に撮影画面を拡大表示した場合、シャッターボタンの半押しで拡大表示を解除できます。

g18：撮影画面カスタマイズ（画像モニター）

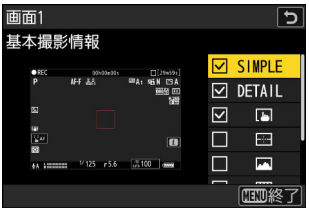
MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

動画モード時に **DISP** ボタンを押して画像モニターに表示する画面を設定できます。

- ［**画面 2**］～［**画面 4**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。撮影時に **DISP** ボタンを押すと撮影画面が切り替わり、チェックボックスをオン ☑ にした画面のみ表示されます。［**画面 1**］はオフ ☐ にすることはできません。



- ［**画面 1**］～［**画面 4**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、その画面に表示する項目を設定できます。表示したい項目を選んで Ⓚ ボタンを押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。



項目		内容
SIMPLE	［**基本撮影情報**］	撮影モードやシャッタースピード、絞り値などの設定を表示します。
DETAIL	［**詳細撮影情報**］	フォーカスモードや AF エリアモード、ホワイトバランスなどの設定を表示します。
	［**タッチ**］	タッチ AF や *i* メニューなど、画像モニターをタッチして設定を変更できる項目を表示します。
	［**水準器**］	水準器を表示します。水準器の種類はカスタムメニュー d17［**水準器の種類**］で設定できます。
	［**輝度情報**］	RGB ヒストグラムまたはウェーブフォームモニターを表示します。輝度情報の種類はカスタムメニュー g16［**輝度情報の種類**］で設定できます。
	［**ガイドライン**］	構図用ガイドラインを表示します。ガイドラインの種類はカスタムメニュー g15［**ガイドラインの種類**］で設定できます。

項目		内容
⊡	［**センターマーカー**］	撮影画面の中央を示す十字線を表示します。

• MENU ボタンを押すと、設定を完了します。

g19：撮影画面カスタマイズ（ファインダー）

MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

動画モード時に **DISP** ボタンを押してファインダーに表示する画面を設定できます。

- ［**画面 2**］または［**画面 3**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。撮影時に **DISP** ボタンを押すと撮影画面が切り替わり、チェックボックスをオン ☑ にした画面のみ表示されます。［**画面 1**］はオフ ☐ にすることはできません。
- ［**画面 1**］～［**画面 3**］を選んでマルチセレクターの ◔ を押すと、その画面に表示する項目を設定できます。表示したい項目を選んで ⓚ ボタンを押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。項目は［**タッチ**］を除きカスタムメニュー g18［**撮影画面カスタマイズ（画像モニター）**］と共通です。
- MENU ボタンを押すと、設定を完了します。

g20：動画撮影中の赤枠表示

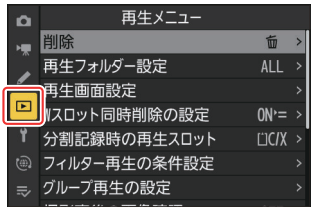
MENU ボタン ➡ ✎ カスタムメニュー

［**ON**］に設定すると、動画記録時に撮影画面の周囲に赤枠が表示されます。動画記録中であることが判別しやすく、記録ミスを防げます。

再生メニュー

メニューの項目と初期設定一覧

メニュー画面で ▶ タブを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニューの項目と初期設定は次の通りです。

- [**削除**]：—
- [**再生フォルダー設定**]：全てのフォルダー
- [**再生画面設定**]
  - [**フォーカスポイント**]：☐
  - [**グループの先頭表示**]：☐
  - [**露出情報**]：☐
  - [**ハイライト**]：☐
  - [**RGB ヒストグラム**]：☐
  - [**撮影情報**]：☐
  - [**統合表示**]：☐
  - [**画像のみ**]：☑
  - [**ファイル情報**]：☐
  - [**撮影基本情報**]：☑
  - [**フラッシュ情報**]：☑
  - [**ピクチャーコントロール/HLG 情報**]：☑
  - [**撮影情報その他**]：☑
  - [**著作権情報**]：☑
  - [**位置情報**]：☑
  - [**IPTC 情報**]：☑
- [**W スロット同時削除の設定**]：する（選択肢あり）
- [**分割記録時の再生スロット**]：CFexpress/XQD スロット
- [**フィルター再生の条件設定**]
  - [**プロテクト**]：☐
  - [**画像の種類**]：☐
  - [**レーティング**]：☐

- [**送信指定（PC）**]：□
- [**送信指定（FTP）**]：□
- [**音声メモ**]：□
- [**画像編集済み**]：□

• [**グループ再生の設定**]
- [**サブセレクターで先頭画像表示**]：ON
- [**自動連続再生**]：OFF
- [**自動連続再生の設定**]
  - [**ループ再生**]：OFF
  - [**再生開始までの待機時間**]：通常
  - [**自動連続再生の速度**]：30 コマ/秒
- [**サムネイルのグループ表示**]：OFF

• [**撮影直後の画像確認**]：しない
• [**削除後の次再生画像**]：後ろのコマ
• [**連続撮影後の再生画像**]：最後の画像
• [**縦横位置情報の記録**]：ON
• [**画像の自動回転**]：ON
• [**画像コピー**]：—

削除

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

複数の画像を一括して削除できます。詳しくは、「複数の画像をまとめて削除する」（📖 237）をご覧ください。

項目		内容
▦	［**画像を選択して削除**］	選んだ画像を削除します。
🗑	［**削除候補画像を一括削除**］	レーティングで 🗑（削除候補）に設定した全ての画像を削除します。
DATE	［**日付を選択して削除**］	選んだ日付に撮影した画像を一括で削除します。
ALL	［**全画像を削除**］	再生メニュー［**再生フォルダー設定**］で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 • メモリーカードを 2 枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。

再生フォルダー設定

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

画像の再生時に表示するフォルダーを設定します。

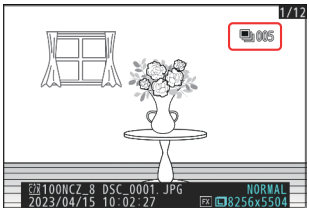
項目	内容
（フォルダーグループ名）	表示されているフォルダーグループ名のフォルダー内の画像を再生します。フォルダーグループ名は静止画撮影メニュー［**記録フォルダー設定**］>［**フォルダーグループ名変更**］で変更できます。
［**全てのフォルダー**］	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
［**記録中のフォルダー**］	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

再生画面設定

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

1 コマ表示モード時の再生画面の表示に関する設定ができます。

- 追加したい項目を選び、マルチセレクターの ▶ を押すとオン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。
- MENU ボタンを押すと、設定を完了します。

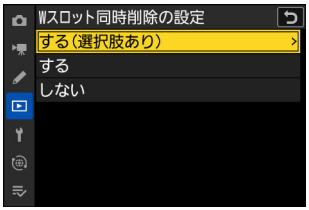
項目	内容
［フォーカスポイント］	オン ☑ にすると、撮影時に使用したフォーカスポイントを表示します。
［グループの先頭表示］	オン ☑ にすると、連続撮影グループ先頭の画像に 🗐 アイコンとグループの総枚数を表示します。 
［露出情報］	オン ☑ にすると、マルチセレクターの ▲▼ または **DISP** ボタンを押したときに情報画面を表示します。
［ハイライト］	
［RGB ヒストグラム］	
［撮影情報］	
［統合表示］	
［画像のみ］	
［ファイル情報］	

項目	内容
［撮影基本情報］	オン ☑ にすると、1 コマ表示モードが［**撮影情報**］の場合に詳細情報ページに項目を表示します。
［フラッシュ情報］	
［ピクチャーコントロール/HLG 情報］	
［撮影情報その他］	
［著作権情報］	
［位置情報］	
［IPTC 情報］	

W スロット同時削除の設定

MENU ボタン ➡ 再生メニュー

静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］を［**順次記録**］以外に設定して同時記録または分割記録した画像の一方を削除する場合に、もう一方も同時に削除するかどうかを設定できます。



項目	内容
［**する（選択肢あり）**］	一方の画像を削除しようとしたときに、削除確認の画面を表示して、同時削除するかどうかを選べます。マルチセレクターの ▶ を押すと、削除確認画面でどちらの選択肢にカーソルが当たっているかを設定できます。
［**する**］	削除確認の画面で［**と の同一画像**］が固定で表示され、［**はい**］を選ぶと同時削除を行います。
［**しない**］	同時記録していない画像と同じ削除確認の画面が表示されます。画像の同時削除は行いません。

分割記録時の再生スロット

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］を［**RAW+JPEG 分割記録**］、［**JPEG+JPEG 分割記録**］、［**RAW+HEIF 分割記録**］、［**HEIF+HEIF 分割記録**］のいずれかに設定して分割記録したときに再生するスロットを選びます。

フィルター再生の条件設定

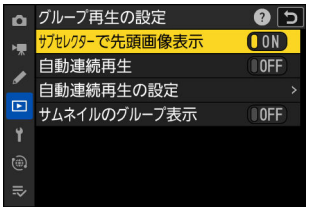
MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

フィルター再生（🕮 233）する場合に、どの条件の画像を再生するかを設定できます。

グループ再生の設定

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

連続撮影グループ内の画像の再生方法を設定できます。連続撮影グループとは、1 回の連続撮影で記録した画像を 1 つのグループとして扱ったものです（🕮 131）。連続撮影した画像が多い場合の再生時に、画像の確認や画像送りを素早く行えます。



サブセレクターで先頭画像表示

項目	内容
［ON］	1 コマ表示時にサブセレクターを左右に倒すと連続撮影の最初のコマだけを表示します。連続撮影ではない画像の場合、1 コマずつ画像送りされます。サブセレクターを上下に倒すと、連続撮影グループ内の画像も 1 コマずつ表示します。
［OFF］	サブセレクターを上下左右に倒したときの動作はマルチセレクターを操作したときと同じになります。

自動連続再生

［ON］に設定すると、1 コマ表示時に連続撮影グループ先頭の画像を表示したまま数秒間経過した場合に、連続撮影グループ内の画像を自動で画像送りします。連続撮影グループの最後の画像まで表示すると、画像送りは停止します。

自動連続再生の設定

［**自動連続再生**］を［**ON**］に設定しているときの、連続撮影グループの再生方法を設定できます。

項目	内容
［**ループ再生**］	［**ON**］に設定すると、表示している連続撮影グループを繰り返し再生します。
［**再生開始までの待機時間**］	連続撮影グループ先頭の画像を表示してから、自動連続再生を開始するまでの時間を［**通常**］、［**長い**］、［**短い**］、［**すぐに再生**］から選べます。
［**自動連続再生の速度**］	自動連続再生の再生速度を設定できます。 • ［**5 コマ/秒**］、［**15 コマ/秒**］、［**30 コマ/秒**］：設定した速度で再生します。 • ［**現在のレリーズモードに連動する**］：現在設定しているレリーズモードによって再生速度が変更されます。 - 1 コマ撮影、セルフタイマー撮影：約 3 コマ/秒 - 低速連続撮影：約 5 コマ/秒 - 高速連続撮影：約 10 コマ/秒 - ［**C30**］、［**C60**］、［**C120**］：約 30 コマ/秒

サムネイルのグループ表示

［**ON**］に設定すると、サムネイル表示時に連続撮影グループ先頭の画像のみを表示します。連続撮影グループ先頭の画像には アイコンとグループの総枚数が表示されます。

• 1 コマ表示時は連続撮影グループ内の全ての画像が表示されます。
• ［**サムネイルのグループ表示**］を［**ON**］に設定すると、再生時の **i** メニュー［**グループの一括操作**］が有効になります（221）。

撮影直後の画像確認

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。

項目	内容
［**する**］	画像モニターを見ながら撮影している場合は画像モニターに、ファインダーを見ながら撮影している場合はファインダーに撮影画像を表示します。 • モニターモードが［**ファインダー優先 2**］の場合、ファインダーから顔を離すことで撮影画像が画像モニターに表示されます。
［**する（画像モニター表示のみ）**］	画像モニターを見ながら撮影している場合にのみ画像モニターに撮影画像を表示します。モニターモードが［**ファインダーのみ**］の場合、ファインダーには撮影画像を表示しません。
［**しない**］	撮影画像を表示確認するには、▶ ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

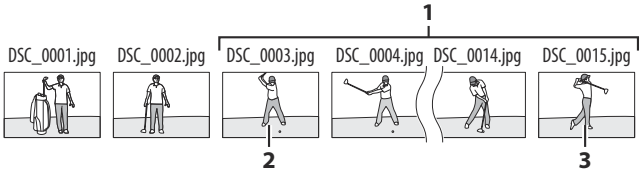
項目		内容
	［**後ろのコマ**］	• 削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 • 最後の画像を削除した場合は、1 つ前の画像を表示します。
	［**前のコマ**］	• 削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 • 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
	［**直前コマ送り方向に従う**］	• 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、［**後ろのコマ**］と同じ動作になります。 • 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、［**前のコマ**］と同じ動作になります。

連続撮影後の再生画像

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

最後に撮影した画像が連続撮影の場合、画像を再生したときに連続撮影した最初のコマまたは最後のコマのどちらを表示するかを設定できます。

- 再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］が［**しない**］に設定されている場合のみ有効です。



1 最後に撮影した画像（連続撮影）
2 ［**先頭の画像**］設定時に表示
3 ［**最後の画像**］設定時に表示

縦横位置情報の記録

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録するかどうかを設定できます。

- ［**ON**］に設定すると、撮影時のカメラの縦横位置情報が画像に記録されます。カメラやパソコンで再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して画像が自動的に回転表示されます。



- ［**OFF**］に設定すると、画像に縦横位置情報は記録されません。そのため、再生時に画像は自動回転されず、常に横位置で表示されます。



縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

画像の自動回転

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

［**ON**］に設定すると、カメラを縦位置に構えた状態で画像を再生する場合、ファインダーおよび画像モニターに表示される画像が縦位置で再生されます。再生画面を縦位置表示しているときは、マルチセレクターの ▲▼ および ◀▶ の動作も入れ替わります。

画像の自動回転についてのご注意

- ［**画像の自動回転**］を［**ON**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。
- ［**画像の自動回転**］を［**ON**］に設定しても、［**縦横位置情報の記録**］を［**OFF**］にして撮影した画像の場合、再生時に自動回転されずに常に横位置で表示されます。

画像コピー

MENU ボタン ➡ ▶ 再生メニュー

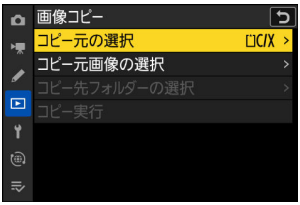
メモリーカードを 2 枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーできます。

項目	内容
［**コピー元の選択**］	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
［**コピー元画像の選択**］	コピーしたい画像を選びます。
［**コピー先フォルダーの選択**］	［**コピー元の選択**］で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選びます。
［**コピー実行**］	コピーを実行します。

画像のコピー方法

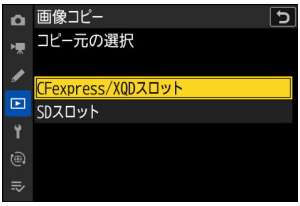
1 ［コピー元の選択］を選ぶ

［**コピー元の選択**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、［**コピー元の選択**］画面が表示されます。



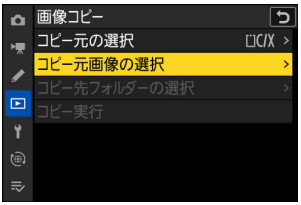
2 コピー元画像があるスロットを選ぶ

コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んで OK ボタンを押すと、［**画像コピー**］画面に戻ります。



3 [コピー元画像の選択] を選ぶ

[**コピー元画像の選択**] を選んで ▶ を押すと、[**コピー元画像の選択**] 画面が表示されます。



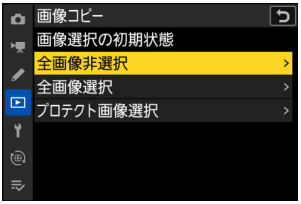
4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ

- コピー元画像のあるフォルダーを選んで ▶ を押すと、[**画像選択の初期状態**] 画面が表示されます。
- スロットにある全ての画像をコピーする場合は、[**スロット内の全画像**] を選んで ⓚ ボタンを押し、手順 10 に進んでください。



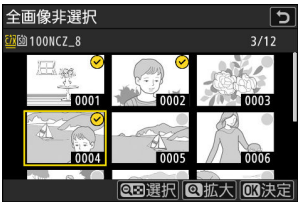
5 画像の選択方式を選ぶ

コピー画像の選び方は、次の 3 通りがあります。



項目	内容
[**全画像非選択**]	フォルダー内の全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 • コピーする画像を 1 枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
[**全画像選択**]	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 • フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
[**プロテクト画像選択**]	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

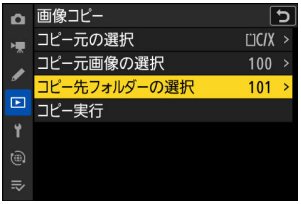
6 コピーする画像を選ぶ



- マルチセレクターで画像を選んで ?（?）ボタンを押すと、チェックがオン✓になります。もう一度 ?（?）ボタンを押すと、オフ◯になります。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✓を入れてから OK ボタンを押すと、［**画像コピー**］画面に戻ります。

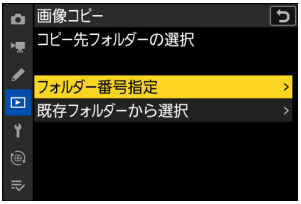
7 ［コピー先フォルダーの選択］を選ぶ

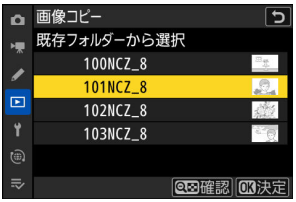
［**コピー先フォルダーの選択**］を選んで ▶ を押すと、［**コピー先フォルダーの選択**］画面が表示されます。



8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

コピー先フォルダーの選択方法を選んで ▶ を押します。



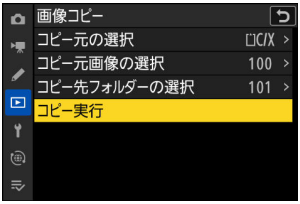
項目	内容
［**フォルダー番号指定**］	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します（📖 415）。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。 
［**既存フォルダーから選択**］	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選びます。 

9 コピー先フォルダーを選ぶ

それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んで ⓚ ボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して［**画像コピー**］画面に戻ります。

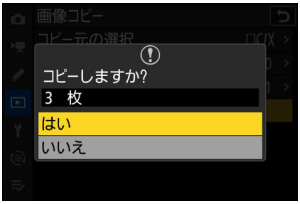
10 ［コピー実行］を選ぶ

［**コピー実行**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。



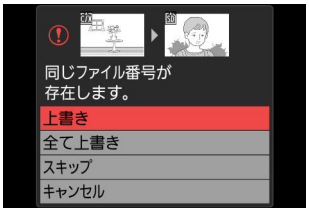
11 ［はい］を選ぶ

- ［**コピーしますか？**］というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- ［**はい**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度 ⓚ ボタンを押してコピーを完了します。



画像コピーについてのご注意

- コピー先メモリーカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、図のような画面が表示されます。このとき、［**上書き**］または［**全て上書き**］を選ぶと、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトが設定されている場合は、上書きできません。［**スキップ**］を選ぶと、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。［**キャンセル**］を選ぶと、コピーを中止します。

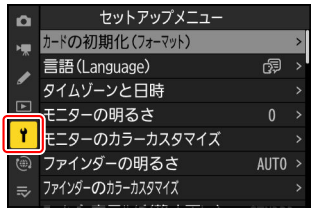


- プロテクトおよびレーティングの設定はコピー先の画像に引き継がれます。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、次のいずれかをお使いください。
  - 充分に充電したバッテリー
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P と USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）
  - 別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b

セットアップメニュー

メニューの項目と初期設定一覧

メニュー画面で タブを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



セットアップメニューの項目と初期設定は次の通りです。

- [**カードの初期化（フォーマット）**]：—
- [**言語（Language）**]：（国や地域により異なります）
- [**タイムゾーンと日時**]
  - [**タイムゾーン**]：（国や地域により異なります）
  - [**日時の設定**]：—
  - [**日付の表示順**]：（国や地域により異なります）
  - [**夏時間の設定**]：OFF
- [**モニターの明るさ**]：0
- [**モニターのカラーカスタマイズ**]：A-B: 0、G-M: 0
- [**ファインダーの明るさ**]：オート
- [**ファインダーのカラーカスタマイズ**]：A-B: 0、G-M: 0
- [**ファインダー表示サイズ**]：標準
- [**モニターモードの限定**]
  - [**自動表示切り換え**]：☑
  - [**ファインダーのみ**]：☑
  - [**モニターのみ**]：☑
  - [**ファインダー優先 1**]：☑
  - [**ファインダー優先 2**]：☑
- [**画面情報の自動回転**]：ON
- [**AF 微調節の設定**]
  - [**AF 微調節の適用**]：OFF
  - [**レンズの調節と登録**]：—
  - [**未登録レンズの調節**]：—
  - [**登録済みレンズリスト**]：—
  - [**装着レンズの調節値を選択**]：—
- [**レンズ情報手動設定**]
  - [**レンズ No.**]：1

- [**焦点距離（mm）**]：– –
- [**開放絞り値**]：– –
- [**レンズ名**]：– –

• [**距離表示単位の設定**]：メートル（m）
• [**フォーカス位置の記憶**]：OFF
• [**ズーム位置の記憶（PZ レンズ）**]：OFF
• [**自動電源 OFF 温度**]：標準
• [**電源 OFF 時のセンサーシールド**]：閉じない
• [**イメージセンサークリーニング**]
- [**電源スイッチに連動**]：電源 OFF で実行

• [**イメージダストオフデータ取得**]：—
• [**ピクセルマッピング**]：—
• [**画像コメント**]
- [**コメント添付**]：OFF

• [**著作権情報**]
- [**著作権情報添付**]：OFF

• [**IPTC**]
- [**編集と登録**]：—
- [**削除**]：—
- [**撮影時自動付加**]：しない
- [**メモリーカードを使用**]：—

• [**音声メモの設定**]
- [**録音の操作**]：押し続けている間録音
- [**音声の出力（再生）**]：スピーカー/ヘッドホン

• [**電子音**]
- [**電子シャッター音**]：ON
- [**音量**]：3
- [**音の選択**]：Type A
- [**ビープ音**]：無効
- [**音量**]：2
- [**音の高さ**]：低音

• [**サイレントモード**]：OFF
• [**タッチ操作**]
- [**タッチ操作の設定**]：有効
- [**グローブモード**]：OFF

• [**HDMI**]
- [**出力解像度**]：オート
- [**出力レンジ**]：オート
- [**出力映像への情報表示**]：ON
- [**出力中のカメラ側表示**]：ON

• [**USB 接続時の優先**]：画像転送優先
• [**位置情報**] ※
- [**半押しタイマー**]：ON

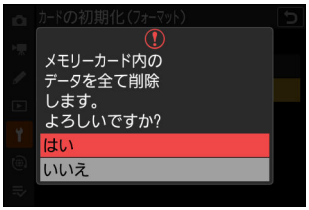
- [**衛星による日時合わせ**]：OFF
- [**情報表示**]：—

- [**リモコン（WR）設定**]
  - [**LED ランプの点灯**]：ON
  - [**リンクモード**]：ペアリング
- [**リモコン（WR）の Fn ボタンの機能**]：設定しない
- [**認証情報**]：—
- [**電池チェック**]：—
- [**USB 給電**]：ON
- [**パワーセーブ（静止画モード）**]：OFF
- [**カードなし時レリーズ**]：レリーズ許可
- [**メニュー設定の保存と読み込み**]：—
- [**カメラの初期化**]：—
- [**ファームウェアバージョン**]：—

※ GPS 機器を接続したときのみ表示されます。

カードの初期化（フォーマット）

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー



メモリーカードを初期化（フォーマット）します。新しいメモリーカードを使用する場合や、他のカメラやパソコンで初期化したメモリーカードを使用する場合は、このカメラで初期化してから使用してください。初期化したいスロットを選んで［**はい**］を選ぶと、選んだスロットのメモリーカードを初期化します。**初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。

カードの初期化についてのご注意

［**カードの初期化（フォーマット）中です。**］のメッセージが画像モニターに表示されている間は、電源を OFF にしたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。

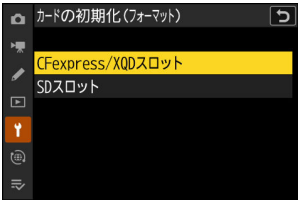
ヒント：ボタン操作による初期化

🗑（FORMAT）ボタンと **ISO**（FORMAT）ボタンを同時に 2 秒以上押すと、初期化するスロットの選択画面が表示されます。

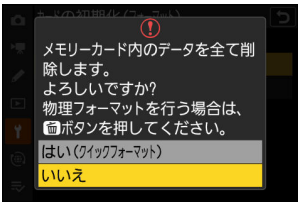
物理フォーマット

物理フォーマットに対応した CFexpress カードをお使いの場合、CFexpress カード内の全ての記憶領域を初期化（物理フォーマット）できます。データを完全に削除する場合や、CFexpress カードへの書き込みや読み出しの速度が遅くなったと感じた場合に行ってください。

1 **［CFexpress/XQD スロット］を選んでマルチセレクターの ⊛ を押す**



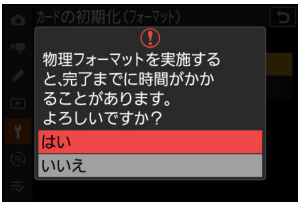
2 🗑（FORMAT）ボタンを押す



［はい（クイックフォーマット）］を選んだ場合

物理フォーマットを行わず、従来と同じ方法で CFexpress カードを初期化します（クイックフォーマット）。

3 ［はい］を選んで ⓚ ボタンを押す



物理フォーマットについてのご注意

物理フォーマットはクイックフォーマットに比べて処理に時間がかかります。

ヒント：クイックフォーマットと物理フォーマットについて

クイックフォーマットの場合、ファイルの管理情報が変更されるだけで、データは完全には削除されません。物理フォーマットは CFexpress カード内の全てのデータが完全に消去されます。CFexpress カードを譲渡/廃棄する際は、物理フォーマットすることをおすすめします。

言語（Language）

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を設定できます。お買い上げの国や地域によって、表示される言語は異なります。

タイムゾーンと日時

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

項目	内容
［**タイムゾーン**］	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
［**日時の設定**］	［**タイムゾーン**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
［**日付の表示順**］	日付の年、月、日の表示順を選びます。
［**夏時間の設定**］	現在地で夏時間が実施されている場合は［**ON**］に、そうでない場合は［**OFF**］に設定します。［**ON**］にすると、時刻が 1 時間進みます。初期設定は［**OFF**］です。

カメラの内蔵時計の設定が初期化されている場合、撮影画面に ⏲ マークが表示されて警告します。

モニターの明るさ

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

画像モニターの明るさをマルチセレクターの ▲▼ を押して調整できます。+にすると明るく、 –にすると暗くなります。

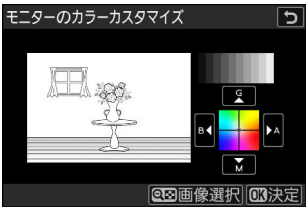
- [**モニターの明るさ**] は、画像モニターが表示されている状態で調整してください。ファインダーを見ている状態や、モニターモードが［**ファインダーのみ**］の場合は調整できません。
- 画像モニターを明るくすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 静止画撮影メニュー［**階調モード**］を［**HLG**］に設定して撮影画面を表示しているとき、または［**階調モード**］を［**HLG**］に設定して撮影した画像を表示しているときは、セットアップメニュー［**モニターの明るさ**］の設定によっては階調が変更されます。明るくするほど本来の階調とは異なる表示となり、特にハイライトの再現性が低下します。

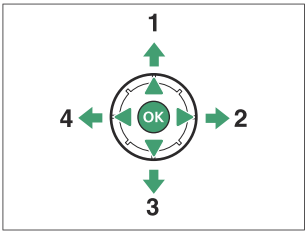
モニターのカラーカスタマイズ

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

画像モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

- [**モニターのカラーカスタマイズ**] は、画像モニターが表示されている状態で調整してください。ファインダーを見ている状態や、モニターモードが [**ファインダーのみ**] の場合は調整できません。
- マルチセレクターで画像モニターの色味を調整できます。マルチセレクターの ▲▼◀▶ を押すたびに、画像モニターの色味が次のように変わります。Ⓚ ボタンを押すと決定します。





1 グリーンが強くなる
2 アンバーが強くなる
3 マゼンタが強くなる
4 ブルーが強くなる

- 画像モニターの色味を調整すると、撮影画面やメニュー表示、画像再生時の表示全てに反映されますが、撮影した画像または動画には反映されません。
- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がメモリーカード内にない場合、グレーで表示されます。

- Q（**?**）ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んで Ⓚ ボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面で ⊕ ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



ファインダーの明るさ

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

ファインダーの明るさを調整できます。［**ファインダーの明るさ**］は、ファインダーを見ている状態で調整してください。画像モニターが表示されている状態や、モニターモードが［**モニターのみ**］の場合は調整できません。

項目	内容
［**オート**］	周囲の明るさによってファインダーの明るさを自動で調整します。
［**マニュアル**］	マルチセレクターの ▲▼ を押して調整できます。+にすると明るく、–にすると暗くなります。

- ファインダーを明るくすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 静止画撮影メニュー［**階調モード**］を［**HLG**］に設定して撮影画面を表示しているとき、または［**階調モード**］を［**HLG**］に設定して撮影した画像を表示しているときは、セットアップメニュー［**ファインダーの明るさ**］の設定によっては階調が変更されます。明るくするほど本来の階調とは異なる表示となり、特にハイライトの再現性が低下します。

ファインダーのカラーカスタマイズ

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

ファインダーの色調を好みに合わせて変更できます。[**ファインダーのカラーカスタマイズ**]は、ファインダーを見ている状態で調整してください。画像モニターが表示されている状態や、モニターモードが[**モニターのみ**]の場合は調整できません。調整方法は[**モニターのカラーカスタマイズ**]（744）と同様です。

ファインダー表示サイズ

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

ファインダーを見ながら撮影や再生する場合に、ファインダーの表示倍率を［**標準**］または［**小さめ**］から選べます。［**小さめ**］に設定すると、全体が確認しやすくなります。

モニターモードの限定

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

ボタンを押して切り換えられるモニターモードを設定できます。

- 項目を選んで OK ボタンを押すかマルチセレクターの ▶ を押すと、オン ☑ とオフ ☐ を切り換えられます。チェックボックスをオン ☑ にした項目のみ選べるようになります。
- MENU ボタンを押すと、設定を完了します。

画面情報の自動回転

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

［**ON**］に設定すると、カメラを縦位置に構えて撮影する場合に、撮影画面および再生画面に表示されるアイコンも縦位置表示用の配置になります。

AF 微調節の設定

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

装着したレンズのピント位置を、好みなどに合わせて微調節できます。

- 必要な場合のみ AF 微調節を行ってください。
- AF 微調節は、普段の撮影でよく使用する撮影距離で行うことをおすすめします。たとえば、近い距離で AF 微調節を行った場合、遠い被写体に対しては AF 微調節の効果が低下することがあります。

項目	内容
［**AF 微調節の適用**］	［**ON**］に設定すると、AF 微調節の設定が有効になります。
［**レンズの調節と登録**］	装着しているレンズの微調節値を登録できます。マルチセレクターの ▲▼ を押して項目を選び、◀▶ を押して＋ 20～－20 の範囲で調節できます。 • ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。 • 画面には今回の微調節値と、前回設定した微調節値が表示されます。 • 最大 40 種類のレンズを登録できます。 • すでに登録してあるレンズを装着している場合、微調節値を上書きするか、新規登録するかを選べます。
［**未登録レンズの調節**］	［**レンズの調節と登録**］で登録していないレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。◀▶ を押して、＋ 20～－20 の範囲で調節できます。
［**登録済みレンズリスト**］	［**レンズの調節と登録**］で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで ▶ を押すと、［**識別番号**］画面が表示されます。 • ［**識別番号**］画面では、レンズの識別番号を入力できます。 • Z マウントレンズと一部の F マウントレンズは、シリアル番号が自動的に入力されます。 

項目	内容
［装着レンズの調節値を選択］	同じ種類のレンズを複数登録してある場合に、カメラに装着しているレンズにどの調整値を設定するかを選べます。

登録したレンズを削除するには

［**レンズの調節と登録**］で登録したレンズを削除するには、［**登録済みレンズリスト**］画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、🗑（Q）ボタンを押します。

AF 微調節の設定と微調節値の登録方法

1 AF 微調節の設定を行うレンズをカメラに装着する

2 **セットアップメニュー［AF 微調節の設定］で［レンズの調節と登録］を選んで ▶ を押す**

AF 微調節の設定画面が表示されます。

3 **◀▶ を押して微調節値を変更する**

- ＋ 20～－20 の範囲で調節できます。
- 今回の微調節値は ▮ で、前回設定した微調節値は ▯ で表示されます。
- ズームレンズを装着している場合は、広角側（WIDE）と望遠側（TELE）で個別に調節できます。広角側と望遠側を切り換えるには ▲▼ を押します。
- ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。

4 **Ⓚ ボタンを押して設定を登録する**

未登録レンズ装着時の微調整値の設定方法

1 セットアップメニュー［**AF 微調節の設定**］で［**未登録レンズの調節**］を選んで ▶ を押す

2 ◀▶ を押して微調節値を変更する

- + 20～－20 の範囲で調節できます。
- 今回の微調節値は ▮ で、前回設定した微調節値は ▯ で表示されます。
- ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。

3 ⓞⓚ ボタンを押して設定を登録する

レンズ情報手動設定

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

別売のマウントアダプターを使用して装着する非 CPU レンズの情報を登録します。非 CPU レンズの焦点距離と開放絞り値をカメラに登録することにより、手ブレ補正機能（ボディー内手ブレ補正）などカメラの一部の機能が使えるようになります。

項目	内容
［**レンズ No.**］	レンズ情報を登録するレンズ No.を選びます。
［**焦点距離（mm）**］	レンズの焦点距離を入力できます。 
［**開放絞り値**］	レンズの開放絞り値を入力できます。 
［**レンズ名**］	レンズの名称（最大 36 文字）を登録できます。名称の入力方法は、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。 • 登録したレンズ名は、撮影した画像の Exif 情報に記録されます。

距離表示単位の設定

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

マニュアルフォーカスでピント合わせを行っている時に、カメラからピントが合う位置までの距離が表示されます。この距離の単位をメートルとフィートのどちらかに設定できます。

- 表示される距離表示は目安です。使用するレンズによっては、実際の距離と異なる場合があります。

フォーカス位置の記憶

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

［**ON**］に設定すると、ピント合わせを行った後にカメラの電源を OFF にして再度 ON にした場合も、ピント位置を保持します。ただし、カメラの電源を ON にしてから操作ができるようになるまで時間がかかることがあります。

- ［**ON**］に設定していても、ズーム操作や環境温度の変化によっては、カメラの電源を OFF にする前と再度 ON にした後でピント位置が変わる場合があります。
- ［**OFF**］に設定していても、カメラやレンズの状態によってはピント位置が保持されることがあります。

ズーム位置の記憶（PZ レンズ）

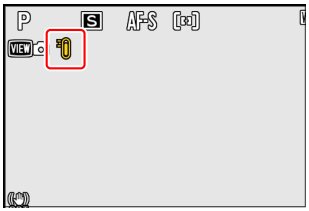
MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

［**ON**］に設定すると、パワーズームレンズを装着してカメラの電源を OFF にして再度 ON にした場合も、ズーム位置を電源 OFF の前と同じ位置に保持できます。

自動電源 OFF 温度

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

カメラ内部の温度上昇時に、カメラの電源が自動的にオフなるまでの温度を［**標準**］または［**高**］で設定できます。



- ［**標準**］に設定した場合、カメラ内部の温度が上昇するに従って、アイコンが表示され、さらに温度が上昇するとカウントダウンが表示されます。
- ［**高**］に設定した場合、カメラ内部の温度が上昇するに従って、、HIGH アイコンが表示され、さらに温度が上昇するとカウントダウンが表示されます。
- カウントダウンが 0 になると、カメラの電源が自動的にオフになり、撮影ができなくなります。

［自動電源 OFF 温度］を［高］に設定した場合のご注意

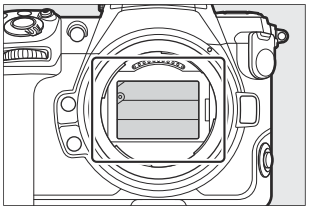
［**高**］に設定すると撮影ができなくなるまでの時間を長くすることができますが、カメラ本体が高温になります。このため、三脚などのご使用をおすすめします。

カメラが高温になった場合のご注意

- ［**高**］に設定しても、撮影条件によってはすぐにカウントダウンが始まることがあります。
- カメラが高温になると、画質が低下する場合があります。
- カメラが高温になった場合、カメラ内のメモリーカードやバッテリーも高温になることがあります。その場合はすぐに取り出そうとせず、温度が下がるまでお待ちください。

電源 OFF 時のセンサーシールド

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー



［**閉じる**］に設定すると、カメラの電源 OFF 時に撮像素子の前にあるセンサーシールドが閉じます。レンズ交換時にゴミやほこりが付着するのを防ぎやすくなります。ただし、カメラの電源を ON にしてから操作ができるようになるまで時間がかかることがあります。

センサーシールド使用時のご注意

- 閉じているセンサーシールドに触れると、故障の原因になります。
- センサーシールドが閉じているときにレンズ交換をする場合、カメラとレンズのマウントが真っ直ぐになるように取り付けてください。レンズを傾けて装着しようとすると、センサーシールドに接触してセンサーシールドやイメージセンサーが破損するおそれがあります。

イメージセンサークリーニング

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

項目	内容
［**実行**］	イメージセンサークリーニングを実行します。
［**電源スイッチに連動**］	• ［**電源 OFF で実行**］：電源 OFF と同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 • ［**実行しない**］：電源 ON、OFF してもイメージセンサークリーニングは作動しません。

イメージダストオフデータ取得

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

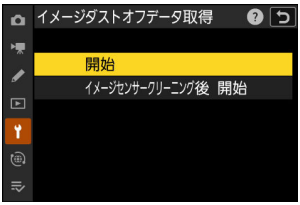
NX Studio の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面に付いたゴミの写り込みを RAW 画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、NX Studio のヘルプをご覧ください。

イメージダストオフデータ取得の手順

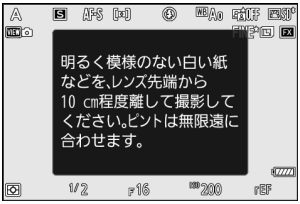
イメージダストオフデータを取得するときは、あらかじめ静止画/動画セレクターを 📷 に合わせて静止画モードにしておいてください。

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- [**開始**] を選んで Ⓚ ボタンを押すと、[**イメージダストオフデータ取得**] 画面が表示されます。



- [**イメージセンサークリーニング後 開始**] を選んで Ⓚ ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[**イメージダストオフデータ取得**] 画面が表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、MENU ボタンを押してください。

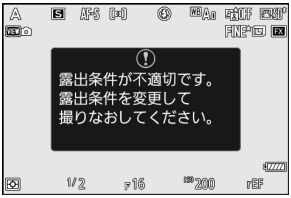


2 レンズ先端から 10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押ししてイメージダストオフデータを取得する

- シャッターボタンを押すと、画像モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、画像モニターにメッセージが表示されて手順 1 の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

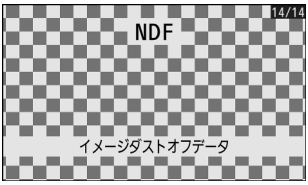


イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、NX Studio のイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択後に撮影することをおすすめします。

イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- お使いになるレンズは、FX フォーマットで焦点距離が 50mm 以上のレンズをおすすめします。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- DX レンズを装着している場合、イメージダストオフデータは取得できません。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、図のように表示されます。



ピクセルマッピング

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

撮像素子のチェックと最適化を行います。撮影した画像に予期しない輝点が記録されて気になる場合は、次の手順でピクセルマッピングを行ってください。

- Z マウントレンズ、または別売のマウントアダプター FTZ II/FTZ を装着しているときのみピクセルマッピングを実行できます。
- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、次のいずれかをお使いください。
  - 充分に充電したバッテリー
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P と USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）
  - 別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b
- [**実行**] を選ぶとピクセルマッピングを開始します。実行中は、画像モニターに実行中のメッセージが表示されます。

ピクセルマッピングについてのご注意

- ピクセルマッピング中は、カメラの操作はできません。カメラの電源を OFF にしたり、バッテリーや AC アダプターを取り外さないでください。
- カメラ内部の温度が高くなっているときは、ピクセルマッピングを実行できない場合があります。

画像コメント

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、NX Studio の［**情報**］タブで確認できます。

コメント入力

36 文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選んでマルチセレクターの ⊛ を押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。

コメント添付

［**コメント添付**］を［**ON**］に設定すると、登録したコメントを画像に添付できます。



画像情報に表示される画像コメントについて

- 入力・添付された画像コメントは、再生画面の撮影情報にある［**撮影情報その他**］ページに表示されます。
- 撮影情報の［**撮影情報その他**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**撮影情報その他**］のチェックボックスをオン ☑ にしてください。

著作権情報

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、NX Studio の［**情報**］タブで確認できます。

撮影者名入力、著作権者名入力

36 文字までの撮影者名と、54 文字までの著作権者名を登録できます。［**撮影者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選んでマルチセレクターの ⊛ を押すと名前の入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮 66）をご覧ください。

著作権情報添付

［**著作権情報添付**］を［**ON**］に設定すると、登録した著作権情報を画像に添付できます。



☑ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、［**著作権情報添付**］を必ず［**OFF**］にしてください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- ［**著作権情報**］の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

☑ 画像情報に表示される著作権情報について

- 入力・添付された著作権情報は、再生画面の撮影情報にある［**著作権情報**］ページに表示されます。
- 撮影情報の［**著作権情報**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**著作権情報**］のチェックボックスをオン ☑ にしてください。

IPTC

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

IPTC 情報をカメラで新規作成または編集して、撮影した静止画に添付することができます。



- パソコンで作成した IPTC プリセット（IPTC 情報）をカメラに読み込んで登録することもできます。
- パソコンで IPTC プリセットを作成したり、メモリーカードに保存したりするには、IPTC プリセット登録用ソフトウェア（🕮 769）をご使用ください。

IPTC プリセットの新規作成/編集

［**編集と登録**］を選んでマルチセレクターの ⊛ を押すと、［**編集/登録対象を選択**］画面が表示され、IPTC プリセットの新規作成または編集が行えます。

- IPTC プリセットを選んで ⊛ を押すと、IPTC プリセット名の変更や、内容の編集ができます。IPTC プリセットを新規作成したい場合は、「Unused」の項目を選んで ⊛ を押します。
  - ［**登録名の変更**］：IPTC プリセット名を変更できます。
  - ［**登録内容の編集**］：IPTC プリセット項目が一覧表示されます（🕮 768）。項目を選ぶと、登録内容変更画面が表示されます。
- IPTC プリセットを選んで ⊕ ボタンを押すと、IPTC プリセットの内容を複製できます。登録先を選んで ⓞⓚ ボタンを押し、登録名を入力してください。

登録内容の削除

［**削除**］を選んで ⊛ を押すと、登録した IPTC プリセットを削除できます。

登録内容の添付

［**撮影時自動付加**］を選んで ⊛ を押すと、図のような IPTC プリセットの選択画面が表示されます。IPTC プリセットを選んで ⓚ ボタンを押すと、その後撮影した静止画には選んだ IPTC プリセットが添付されます。［**しない**］を選ぶと、IPTC プリセットは添付されません。



画像情報に表示される IPTC プリセットについて

- 入力・添付された IPTC プリセットは、再生画面の撮影情報にある［**IPTC 情報**］ページに表示されます。
- 撮影情報の［**IPTC 情報**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**IPTC 情報**］のチェックボックスをオン ☑ にしてください。

カメラに登録した IPTC プリセットをメモリーカードに保存

［**メモリーカードを使用**］>［**CFexpress/XQD スロット**］または［**SD スロット**］>［**メモリーカードにコピー**］を選んで ⊛ を押すと、カメラに登録されている IPTC プリセットをメモリーカードにコピーできます。IPTC プリセットとコピー先（1 ～ 99）を選んで ⓚ ボタンを押すと、選んだ IPTC プリセットがメモリーカードにコピーされます。

メモリーカードに保存した IPTC プリセットをカメラに登録



［**メモリーカードを使用**］>［**CFexpress/XQD スロット**］または［**SD スロット**］>［**カメラに登録**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、あらかじめメモリーカードに保存した IPTC プリセットを最大 10 個カメラに登録できます。

- カメラに登録したい IPTC プリセットを選び、OK ボタンを押すと、［**登録先を選択**］画面が表示されます。選んだ IPTC プリセットの内容を確認したい場合は、OK ボタンの代わりに ? （**?**）ボタンを押します。確認を終了して［**登録先を選択**］画面に進むには OK ボタンを押します。
- 登録先を選んで OK ボタンを押すと、名前の入力画面が表示されます。⊕ ボタンを押すと、選んだ IPTC プリセットがカメラに登録されます。
- パソコンで作成した XMP 形式の XMP/IPTC プリセットがメモリーカードに保存されている場合、上記の 10 個に加えて最大 3 個 XMP/IPTC プリセットをカメラに登録できます。XMP/IPTC プリセットを画像に添付した場合、再生画面の撮影情報には IPTC 情報は表示されません。また、カメラに登録した XMP 形式の XMP/IPTC プリセットをメモリーカードに保存することもできません。

IPTC プリセット登録時のご注意

- カメラでは半角英数字のみ表示できます。その他の文字は、カメラでは伏せ文字で表示されますが、IPTC プリセットを添付した画像をパソコンで表示すると、正しく表示されます。
- 登録名（765）は半角英数字 18 文字まで登録できます。IPTC プリセット登録用ソフトウェアを使ってカメラに登録する場合、IPTC プリセットの登録名が 18 文字以上のときは、18 文字を超える文字は削除されます。
- 各 IPTC プリセットには、登録可能な文字数の制限があります。下記の文字数を超える文字は削除されます。

IPTC プリセット	登録可能文字数（半角英数字）
Caption	2000
Event ID	64
Headline	256
Object Name	256
City	256
State	256
Country	256
Category	256
Supp. Cat.（Supplemental Categories）	256
Byline	256
Byline Title	256
Writer/Editor	256
Credit	256
Source	256

IPTC プリセット（IPTC 情報）

IPTC 情報とは、国際新聞電気通信評議会（IPTC）が作成した基準で、写真をさまざまな出版物で共有する場合に必要な情報を簡易化し、明確化するために考案されています。

IPTC プリセットをパソコンで作成するには

IPTC プリセット登録用ソフトウェア IPTC Preset Manager を使うと、パソコンで IPTC プリセットを作成して、メモリーカードに保存できます。IPTC Preset Manager は、下記ホームページからダウンロードしてインストールできます。

https://downloadcenter.nikonimglib.com/

音声メモの設定

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

音声メモ（279、281）に関する設定を行います。

録音の操作

カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能（再生）**］で［**音声メモ**］を割り当てたボタンの操作方法について設定します。

項目		内容
	［**押し続けている間録音**］	ボタンを押し続けている間のみ録音します（最長約 60 秒）。
	［**押して開始/終了**］	ボタンを押して録音を開始し、もう一度押すか、約 60 秒経過すると録音を終了します。

音声の出力（再生）

再生時の音声の出力方法を設定できます。

項目		内容
	［**スピーカー/ヘッドホン**］	カメラ本体に内蔵のスピーカーやカメラに接続中のヘッドホンで音声メモを再生します。 • マルチセレクターの ▲▼ を押して、音量を［**1**］～［**15**］から選びます。 • ⓚ ボタンを押すと設定を終了します。 
HDMI	［**HDMI 出力**］	HDMI 機器から音声メモを一定音量で出力します。
	［**出力しない**］	カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能（再生）**］で［**音声メモ**］を割り当てたボタンを押しても音声を出力しません。音声メモが録音されている画像には、 アイコンが表示されます。

電子音

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

電子シャッター音

シャッターをきったときに電子シャッター音を鳴らすかどうかを設定できます。[**OFF**] に設定すると、シャッターをきっても電子シャッター音は鳴りません。

音量

電子シャッター音の音量を設定できます。

音の選択

電子シャッター音の種類を設定できます。

ビープ音

- [**有効**] を選ぶと、次の場合にビープ音が鳴るようにできます。
  - セルフタイマー作動中
  - インターバルタイマー撮影、タイムラプス動画撮影、フォーカスシフト撮影、およびピクセルシフト撮影終了時
  - 静止画モードでオートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、フォーカスモードが **AF-C** のとき、およびカスタムメニュー a2 [**AF-S モード時の優先**] が [**レリーズ**] の場合は、ビープ音は鳴りません）
  - タッチパネル操作時
- [**タッチ音無効**] を選ぶと、タッチパネル操作時のビープ音のみ鳴らないようにできます。
- [**無効**] を選ぶと、ビープ音が鳴らないようにできます。

音量

ビープ音の音量を設定できます。

音の高さ

ビープ音の音の高さを［**高音**］と［**低音**］から選べます。電子シャッター音の高さは変更されません。

サイレントモード時の電子音について

セットアップメニュー［**サイレントモード**］を［**ON**］に設定している場合、電子シャッター音および全ての電子音が鳴らなくなります。

電子音についてのご注意

電子シャッター音または電子音が鳴るタイミングが重なった場合、または電子音同士で鳴るタイミングが重なった場合、どちらか一方の音が鳴らないことがあります。

サイレントモード

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

［**ON**］に設定すると、セットアップメニュー［**電子音**］の設定にかかわらず全ての電子音と電子シャッター音を出さずに撮影できます。

- ［**ON**］に設定すると、カメラの動作音も抑えられます。ただし、完全に無音にはなりません。撮影時に絞りやオートフォーカスなどカメラの動作音がすることがあります（特に絞りを f/5.6 よりも絞った（大きい数値にした）場合は、絞りによる動作音がします）。
- 撮影条件によっては、連続撮影速度が低下することがあります。
- 長秒時ノイズ低減は無効になります。
- 別売スピードライトは発光しません。
- サイレントモード中は電子シャッター音や電子音、カメラの動作音を消して撮影できますが、被写体の肖像権やプライバシーなどに充分ご配慮の上、お客様の責任においてお使いください。

ヒント：半押しタイマー時の動作音について
［**サイレントモード**］を［**ON**］にしていても、半押しタイマーのオンとオフが切り替わるときに動作音が出ます。半押しタイマーでの動作音を出したくない場合、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］の設定を［**制限なし**］にすることをおすすめします。

タッチ操作

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

画像モニターのタッチ操作の機能を設定できます。

タッチ操作の設定

タッチ操作の有効または無効を切り換えられます。［**再生時のみ有効**］を選ぶと、再生画面でのみタッチ操作ができます。

グローブモード

［**ON**］に設定すると画像モニターのタッチ感度が高くなり、手袋をしたままでもタッチ操作がしやすくなります。

HDMI

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

HDMI 対応機器との接続時の設定を変更できます（285）。

USB 接続時の優先

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

カメラをパソコンと USB 接続している場合の優先項目を設定できます。

項目	内容
［**画像転送優先**］	カメラがパソコンと通信している間は画像モニターに何も表示しません。シャッターボタンを半押しすると画像モニターが点灯しますが、画像転送の速度が低下する場合があります。
［**撮影優先**］	カメラがパソコンと通信している間も画像モニターを点灯しています。画像転送の速度が低下する場合があります。

位置情報

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

このメニューは GPS 機器を接続したときのみ表示されます。位置情報に関する設定や情報の確認ができます。

項目	内容
［**半押しタイマー**］	［**OFF**］に設定すると、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。［**ON**］に設定した場合は、カメラを操作していないとき、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］の［**半押しタイマー**］で設定された時間で半押しタイマーがオフになり、カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。
［**衛星による日時合わせ**］	［**ON**］を選ぶと、GPS 機器から取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。
［**情報表示**］	GPS 機器から取得した情報を表示します。表示される項目は、接続した機器によって異なります。

リモコン（WR）設定

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R11a または WR-R10 を装着している場合に、LED ランプの点灯とリンクモードを設定できます。また、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応した別売スピードライトとワイヤレス接続する場合にも使用できます。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 を使用するには

- カメラに装着するには、WR 用変換アダプター WR-A10 が必要です。
- WR-R10 のファームウェアを Ver3.0 以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

LED ランプの点灯

カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R11a または WR-R10 の動作状態を表す LED ランプを点灯させるかどうかを設定できます。LED ランプが表す動作状態については、ワイヤレスリモートコントローラーの説明書をご覧ください。

リンクモード

他のカメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R11a/WR-R10、または電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応したスピードライトと接続する方法を選べます。接続する機器も、必ず同じ設定を選んでください。

項目	内容
［**ペアリング**］	ペアリングを実行した機器のみと通信を行うモードです。カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラーのペアリングボタンを押して、接続する機器とペアリングを行います。 • ペアリングを行っていない機材とは通信しないため、近くで他の機材を使用した撮影が行われていても混信しません。 • ペアリングの実行は 1 台ずつ行うため、使用する機材が多い場合は PIN コードの使用をおすすめします。
［**PIN コード**］	同一の 4 桁の数字（PIN コード）が設定された機器同士で通信を行うモードです。任意の数字 4 桁の PIN コードを入力できます。マルチセレクターの ◀▶ で桁を選んで、▲▼ で数値を変更します。OK ボタンを押すと設定が変更され、画面に設定した PIN コードが表示されます。  • 使用する機材が多い場合などにおすすめします。 • 同じ PIN コードに設定したカメラが複数台ある場合、最初にスピードライトと接続したカメラだけがそのスピードライトを制御できます（その他のカメラは未接続状態となり、ワイヤレスリモートコントローラーの LED ランプが点滅します）。

• ペアリング済みのワイヤレスリモートコントローラーからの電波は、［**リンクモード**］の設定にかかわらず WR-R11a または WR-R10 で受信できます。ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 をご使用の場合、WR-1 のリンクモードをペアリングモードに設定してください。

リモコン（WR）の Fn ボタンの機能

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

Fn ボタンのある別売のワイヤレスリモートコントローラーで、**Fn** ボタンを押したときの機能を以下の項目から設定できます。各項目についての詳しい説明は、カスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］をご覧ください。

項目	
AF-ON	［**AF-ON**］
AF-L	［**AF-L**］
AE-L	［**AE-L（レリーズでリセット）**］
AE-L	［**AE-L**］
AE-L AF-L	［**AE-L/AF-L**］
FV-L	［**FV-L**］
⊘/	［**発光禁止/許可切換**］
FX DX	［**FX/DX 切り換え**］
FLICKER	［**静止画フリッカー低減**］
	［**プレビュー**］
	［**撮影機能の呼び出し**］
HI FLICKER	［**高周波フリッカー低減**］
+RAW	［**プラス RAW 記録**］
VIEW	［**ビューモード設定(静止画 Lv)**］
［**設定しない**］	

認証情報

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。

電池チェック

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



項目	内容
［**残容量**］	バッテリーの残量を 1%単位で表示します。
［**撮影回数**］	充電後に撮影した回数を表示します。
［**劣化度**］	バッテリーの劣化度合いが 5 段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」（NEW）のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」（）のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

［**撮影回数**］に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに 1 ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約 5℃以下の低温で充電した場合、［**劣化度**］が「1」と表示されることがありますが、約 20℃以上で再充電すると「0」に戻ります。

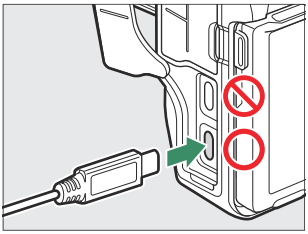
USB 給電

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

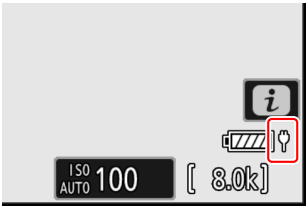
USB 充給電専用端子に接続した機器からカメラに電力の供給（給電）を行うかどうかを設定できます。給電を行うと、バッテリーの消耗を抑えながらカメラを使用できます。

項目	内容
［**ON**］	カメラの電源が ON のとき、接続した機器からカメラに給電されます。電源スイッチを OFF の位置にしても、Bluetooth 通信中やメモリーカードアクセスランプ点灯中は給電されます。
［**OFF**］	カメラの状態にかかわらず、カメラに給電されません。

- 次のいずれかの機器と接続している場合に有効です。
  - Type-C の USB ポートが標準装備されたパソコン （別途、別売の USB ケーブル UC-E25 が必要です）
  - 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P
  - 別売の AC アダプター EH-8P（別途、別売の USB ケーブル UC-E25 が必要です）
- 給電を行うには、カメラにバッテリーが挿入されている必要があります。
- 給電を行うときは、ケーブルをカメラの USB 充給電専用端子に接続してください。USB 通信専用端子に接続しても充電および給電はできません。



- 給電中は、給電アイコンが撮影画面と表示パネルに表示されます。



パソコンからの給電について

- パソコンからカメラに給電を行う場合、パソコン側の USB 端子が Type-C であることをご確認ください。カメラとの接続には別売の USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）をお使いください。
- パソコンの機種や仕様によっては、カメラと接続しても給電できない場合があります。

ヒント：「給電」と「充電」について

「給電」とは、カメラに電力を供給して動作できる状態にすること、「充電」とは、バッテリー内に電力を蓄えることを意味します。接続した機器から給電または充電される条件は、次の通りです。

［USB 給電］の設定	電源スイッチの位置	実施する電力供給
［**ON**］	ON（半押しタイマーオン）[1]	給電
	ON（半押しタイマーオフ）	充電 [2]
	OFF	充電 [2]
［**OFF**］	ON（半押しタイマーオン）[1]	ー
	ON（半押しタイマーオフ）	充電 [2]
	OFF	充電 [2]

1 電源スイッチが OFF の位置で、Bluetooth 通信中やメモリーカードアクセスランプ点灯中の場合も含みます。

2 EN-EL15c/EN-EL15b を挿入したカメラと別売の本体充電 AC アダプター EH-7P や AC アダプター EH-8P、パソコンを接続した場合（EH-8P またはパソコンとの接続には、別売の USB ケーブル UC-E25 が必要です）。

パワーセーブ（静止画モード）

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

静止画モードの場合に、半押しタイマーがオフになる約 15 秒前から撮影画面の表示を暗くしてバッテリーの消耗を抑えます。

項目	内容
［**ON**］	パワーセーブ機能を使用します。パワーセーブ時は撮影画面がコマ落ちしたような表示になります。
［**OFF**］	パワーセーブ機能を使用しません。［**OFF**］に設定していても、半押しタイマーがオフになる数秒前は撮影画面が暗くなります。

［パワーセーブ（静止画モード）］について

［**ON**］に設定していても、次の場合はパワーセーブ機能が無効になります。

- カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］の設定が 30 秒未満または［**制限なし**］
- 拡大表示中
- HDMI 接続時
- カメラをパソコンやスマートフォンと USB 接続して通信しているとき
- AC アダプター使用時

カードなし時レリーズ

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

カメラにメモリーカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

項目		内容
LOCK	［**レリーズ禁止**］	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK	［**レリーズ許可**］	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には［**デモモード**］と表示され、画像は記録できません。

メニュー設定の保存と読み込み

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

メニューの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数の同一機種を同じ設定で使う場合などに便利です。

- メモリーカードを 2 枚使用している場合、静止画撮影メニュー［**主スロットの選択**］で選んだ主スロットのカードが対象になります。

メニュー設定の保存と読み込みができる機能

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

- 静止画撮影メニュー
  - ［**撮影メニューの管理**］
  - ［**撮影メニューの拡張**］
  - ［**ファイル名設定**］
  - ［**主スロットの選択**］
  - ［**副スロットの機能**］
  - ［**撮像範囲**］
  - ［**階調モード**］
  - ［**画質モード**］
  - ［**画像サイズ設定**］
  - ［**RAW 記録**］
  - ［**ISO 感度設定**］
  - ［**ホワイトバランス**］
  - ［**ピクチャーコントロール**］（登録されたカスタムピクチャーコントロールは［**オート**］で保存します）
  - ［**ピクチャーコントロール（HLG）**］
  - ［**色空間**］
  - ［**アクティブ D-ライティング**］
  - ［**長秒時ノイズ低減**］
  - ［**高感度ノイズ低減**］
  - ［**ヴィネットコントロール**］
  - ［**回折補正**］
  - ［**自動ゆがみ補正**］
  - ［**美肌効果**］
  - ［**人物印象調整**］
  - ［**静止画フリッカー低減**］

- [**高周波フリッカー低減**]
- [**測光モード**]
- [**フラッシュ発光**]
- [**フラッシュモード**]
- [**フラッシュ調光補正**]
- [**フォーカスモード**]
- [**AF エリアモード**]
- [**AF 時の被写体検出設定**]
- [**手ブレ補正**]（設定は装着したレンズにより異なります）
- [**オートブラケティング**]
- [**オートキャプチャー**]

• 動画撮影メニュー
- [**撮影メニューの管理**]
- [**撮影メニューの拡張**]
- [**ファイル名設定**]
- [**動画記録先**]
- [**動画記録ファイル形式**]
- [**画像サイズ/フレームレート**]
- [**動画の画質（N-RAW）**]
- [**撮像範囲**]
- [**オーバーサンプリングの拡張**]
- [**ISO 感度設定**]
- [**ホワイトバランス**]
- [**ピクチャーコントロール**]（登録されたカスタムピクチャーコントロールは［**オート**］で保存します）
- [**HLG 画質調整**]
- [**アクティブ D-ライティング**]
- [**高感度ノイズ低減**]
- [**ヴィネットコントロール**]
- [**回折補正**]
- [**自動ゆがみ補正**]
- [**美肌効果**]
- [**人物印象調整**]
- [**動画フリッカー低減**]
- [**高周波フリッカー低減**]
- [**測光モード**]
- [**フォーカスモード**]
- [**AF エリアモード**]
- [**AF 時の被写体検出設定**]
- [**手ブレ補正**]（設定は装着したレンズにより異なります）
- [**電子手ブレ補正**]
- [**マイク感度**]
- [**アッテネーター**]

- ［**録音帯域**］
- ［**風切り音低減**］
- ［**マイク端子のプラグインパワー**］
- ［**ヘッドホン音量**］
- ［**タイムコード**］（［**タイムコードの起点**］を除く）
- ［**外部記録制御（HDMI）**］
- ［**ハイレゾズーム**］
- ［**オートキャプチャー**］

• カスタムメニュー：全メニュー
• 再生メニュー
- ［**再生画面設定**］
- ［**W スロット同時削除の設定**］
- ［**分割記録時の再生スロット**］
- ［**フィルター再生の条件設定**］
- ［**グループ再生の設定**］
- ［**撮影直後の画像確認**］
- ［**削除後の次再生画像**］
- ［**連続撮影後の再生画像**］
- ［**縦横位置情報の記録**］
- ［**画像の自動回転**］

• セットアップメニュー
- ［**言語（Language）**］
- ［**タイムゾーンと日時**］（［**日時の設定**］を除く）
- ［**ファインダー表示サイズ**］
- ［**モニターモードの限定**］
- ［**画面情報の自動回転**］
- ［**レンズ情報手動設定**］
- ［**距離表示単位の設定**］
- ［**フォーカス位置の記憶**］
- ［**ズーム位置の記憶（PZ レンズ）**］
- ［**自動電源 OFF 温度**］
- ［**電源 OFF 時のセンサーシールド**］
- ［**イメージセンサークリーニング**］
- ［**画像コメント**］
- ［**著作権情報**］
- ［**IPTC**］
- ［**音声メモの設定**］
- ［**電子音**］
- ［**サイレントモード**］
- ［**タッチ操作**］
- ［**HDMI**］
- ［**USB 接続時の優先**］
- ［**位置情報**］（［**情報表示**］を除く）

- [**リモコン（WR）設定**]
- [**リモコン（WR）の Fn ボタンの機能**]
- [**USB 給電**]
- [**パワーセーブ（静止画モード）**]
- [**カードなし時レリーズ**]

• マイメニュー
- 登録した全メニュー
- [**このタブの機能変更**]

• 最近設定した項目
- 最近設定したメニュー（最大 20 項目）
- [**このタブの機能変更**]

保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

読み込み

メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、[**読み込み**] は選べません。

設定データについてのご注意

メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSET***」です。「***」に入る文字はカメラの機種によって異なります。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

カメラの初期化

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

セットアップメニュー［**言語（Language）**］と［**タイムゾーンと日時**］を除く、全ての設定をリセットして初期設定に戻します。著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元には戻せないのでご注意ください。

あらかじめセットアップメニュー［**メニュー設定の保存と読み込み**］で設定データを保存しておくことをおすすめします。

ファームウェアバージョン

MENU ボタン ➡ セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。カメラの新しいファームウェアがメモリーカードにある場合、ファームウェアのバージョンアップが行えます。

- 画面に表示される記号は、それぞれ次の機器のファームウェアバージョンであることを示しています。カメラに接続していない機器のファームウェアバージョンは表示されません。
  - C：カメラ
  - LF/MA：レンズ（マウントアダプター装着時は「MA」が表示されます）
  - S：スピードライト
  - W：ワイヤレスリモートコントローラー
  - TC：テレコンバーター
  - RG：リモートグリップ

ヒント：ファームウェアのバージョンアップについて
カメラのファームウェアをバージョンアップするには、パソコンをお使いになる方法とスマートフォンをお使いになる方法があります。

- **パソコンをお使いの場合**：ニコンダウンロードセンターで新しいバージョンのファームウェアがあるか確認できます。バージョンアップの手順については、ファームウェアのダウンロードページをご覧ください。
- **スマートフォンをお使いの場合**：SnapBridge アプリでカメラとスマートフォンをペアリング済みの場合、カメラの新しいファームウェアがあるとアプリにお知らせが表示され、スマートフォン経由でファームウェアをカメラ内のメモリーカードに転送できます。バージョンアップの手順については、SnapBridge アプリのヘルプをご覧ください。お知らせが表示されるタイミングは、ニコンダウンロードセンターで公開されるタイミングと異なる場合があります。

ネットワークメニュー

メニューの項目と初期設定一覧

メニュー画面で タブを選ぶと、ネットワークメニューが表示されます。



ネットワークメニューの項目と初期設定は次の通りです。

- [**機内モード**]：OFF
- [**スマートフォンと接続**]
  - [**ペアリング（Bluetooth）**]
    - [**Bluetooth 通信機能**]：OFF
  - [**送信指定**]
    - [**撮影後自動送信指定**]：ON
  - [**Wi-Fi 接続**]
    - [**Wi-Fi 接続の設定**]
      - [**認証/暗号**]：WPA2-PSK/WPA3-SAE
      - [**チャンネル**]：オート
  - [**電源 OFF 中の通信**]：ON
  - [**位置情報（スマートフォン）**]：—
- [**PC と接続**]
  - [**接続設定**]：—
  - [**動作モードの選択**]：PC 画像送信モード
  - [**オプション**]
    - [**撮影後自動送信**]：OFF
    - [**送信後ファイル削除**]：OFF
    - [**RAW+JPEG 送信設定**]
      - [**順次記録時/バックアップ記録時**]：RAW+JPEG
      - [**RAW+JPEG 分割記録時**]：RAW+JPEG
    - [**RAW+HEIF 送信設定**]
      - [**順次記録時/バックアップ記録時**]：RAW+HEIF
      - [**RAW+HEIF 分割記録時**]：RAW+HEIF
    - [**JPEG+JPEG 送信設定**]：主スロット
    - [**HEIF+HEIF 送信設定**]：主スロット
    - [**RAW 動画送信設定**]：RAW 動画+MP4

- [フォルダー送信]：—
- [全送信マーク解除]：—

• [FTP サーバーと接続]
- [接続設定]：—
- [オプション]
  - [撮影後自動送信]：OFF
  - [送信後ファイル削除]：OFF
  - [RAW+JPEG 送信設定]
    - [順次記録時/バックアップ記録時]：RAW+JPEG
    - [RAW+JPEG 分割記録時]：RAW+JPEG
  - [RAW+HEIF 送信設定]
    - [順次記録時/バックアップ記録時]：RAW+HEIF
    - [RAW+HEIF 分割記録時]：RAW+HEIF
  - [JPEG+JPEG 送信設定]：主スロット
  - [HEIF+HEIF 送信設定]：主スロット
  - [RAW 動画送信設定]：RAW 動画+MP4
  - [同名ファイルの上書き]：OFF
  - [未送信画像プロテクト]：OFF
  - [送信記録の保存]：OFF
  - [フォルダー送信]：—
  - [全送信マーク解除]：—
  - [接続維持の優先]：OFF
  - [ルート証明書の管理]
    - [ルート証明書の読み込み]：—
    - [ルート証明書の削除]：—
    - [ルート証明書の情報確認]：—
    - [認証エラー時の接続]：OFF

• [カメラと接続]
- [連動レリーズ]：ON
- [接続設定]：—
- [マスター/リモート選択]：マスターカメラ
- [グループ設定]：—
- [グループ名]：—
- [日時を同期]：—
- [著作権情報の上書き]：—

• [ATOMOS AirGlu BT 設定]
- [ATOMOS AirGlu BT と接続]：OFF
- [ATOMOS AirGlu BT の登録]：—
- [ATOMOS AirGlu BT の解除]：—
- [カメラ名]：NCZ8

• [USB 通信専用端子の設定]：MTP/PTP
• [接続先の周波数帯選択]：（国や地域により異なります）
• [MAC アドレス]：—

機内モード

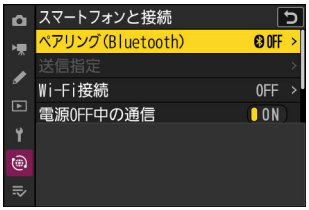
MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー

［**ON**］に設定すると、Bluetooth および Wi-Fi を使った無線通信を OFF にすることができます。

スマートフォンと接続

MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー

スマートフォンと Bluetooth 接続または Wi-Fi 接続する場合に使用します。



ペアリング（Bluetooth）

スマートフォンと Bluetooth 接続します。

項目	内容
［**ペアリング開始**］	スマートフォンとのペアリングを開始します（292）。
［**ペアリング済み機器**］	カメラとペアリングしたことのあるスマートフォンを表示しています。接続するスマートフォンを切り換えたい場合、ここでスマートフォンを選びます。
［**Bluetooth 通信機能**］	［**ON**］に設定すると、Bluetooth 接続を開始します。

送信指定

スマートフォンに送信する静止画を指定できます。カメラで撮影後すぐにスマートフォンに送信することもできます。

項目	内容
［**撮影後自動送信指定**］	［**ON**］に設定すると、カメラで撮影した画像をスマートフォンに自動で送信します。
［**選択送信指定**］	画像を選んでスマートフォンに送信できます。選んだ画像には送信設定マークがつきます。
［**送信指定の一括解除**］	送信指定されている全ての画像から送信指定を解除します。

Wi-Fi 接続

スマートフォンと Wi-Fi 接続します。

Wi-Fi 接続を開始

Wi-Fi 接続を開始します。

- カメラの SSID とパスワードが表示されます。スマートフォンで SSID を選び、パスワードを入力して接続してください（📖 295）。
- Wi-Fi 接続中は［**Wi-Fi 接続を停止**］に変更されます。
- ［**Wi-Fi 接続を停止**］を選ぶとカメラとの Wi-Fi 接続を停止します。

Wi-Fi 接続の設定

Wi-Fi 関連の情報を設定できます。

項目	内容
［**SSID**］	カメラの SSID を変更できます。
［**認証/暗号**］	Wi-Fi の認証方式を［**OPEN**］、［**WPA2-PSK**］、［**WPA3-SAE**］または［**WPA2-PSK/WPA3-SAE**］から選びます。
［**パスワード**］	カメラのパスワードを変更できます。
［**チャンネル**］	通信で使用するチャンネルを設定します。 • ［**オート**］を選ぶとカメラが自動でチャンネルを選びます。 • ［**マニュアル**］を選ぶとチャンネルを手動で設定できます。
［**現在の設定**］	現在の Wi-Fi 関連の設定を確認できます。
［**接続設定の初期化**］	［**はい**］を選ぶと Wi-Fi の接続設定を初期化します。

電源 OFF 中の通信

［**ON**］に設定すると、カメラとスマートフォンを無線接続している場合、カメラの電源を OFF にしてもスマートフォンとの通信を継続して画像を送信できます。

位置情報（スマートフォン）

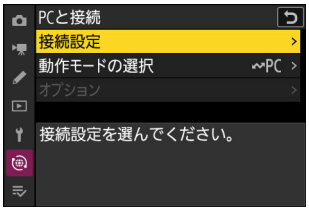
スマートフォンから取得した緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を表示します。

- スマートフォンから位置情報を取得する方法について、詳しくは SnapBridge アプリのヘルプをご覧ください。
- お使いのスマートフォンの OS および SnapBridge アプリのバージョンによっては、位置情報の取得や表示ができない場合があります。

PC と接続

MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー

カメラとパソコンを有線 LAN または無線 LAN で接続する場合に使用します。



接続設定

ネットワークの接続設定をカメラに登録できます。複数接続設定を登録した場合、接続設定の切り換えも行えます。

新規追加

接続設定を作成できます（🕮 305、🕮 319）。

- 作成済みの接続設定が複数ある場合、OK ボタンを押して使用する接続設定を変更してネットワークに接続開始します。
- 作成済みの接続設定を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、接続設定の内容を変更できます。

項目	内容
［**全般**］	• ［**接続設定名**］：接続設定名を変更できます。 • ［**パスワードによる保護**］：［**有効**］に設定すると、接続設定の内容を変更する場合にパスワード入力が必要になります。［**有効**］を選んで ▶ を押すと、パスワードが設定できます。

項目	内容
［**無線**］	無線 LAN で接続する接続設定に表示されます。 • **インフラストラクチャーモードの接続設定の場合**：接続するネットワークに合わせて、無線接続の設定を行います。 - ［**SSID**］：接続するネットワークの SSID を設定します。 - ［**チャンネル**］：自動的に設定されます。 - ［**認証/暗号**］：無線の暗号化方式を選びます。 - ［**パスワード**］：接続するネットワークのパスワードを入力します。 • **アクセスポイントモードの接続設定の場合**：カメラの設定を変更できます。 - ［**SSID**］：カメラの SSID を変更できます。 - ［**チャンネル**］：無線チャンネルを［**オート**］または［**マニュアル**］で設定できます。 - ［**認証/暗号**］：無線の暗号化方式を選びます。 - ［**パスワード**］：［**認証/暗号**］を［**OPEN**］以外に設定した場合、カメラのパスワードを変更できます。
［**TCP/IP**］	インフラストラクチャーモードの接続設定の場合、TCP/IP の情報を設定できます。IP アドレスは必ず入力してください。 • ［**自動取得**］を［**ON**］に設定すると、IP アドレスとサブネットマスクを DHCP サーバーまたは自動プライベート IP アドレッシングによって取得します。 • ［**OFF**］に設定した場合は［**アドレス**］（IP アドレス）と［**マスク**］（サブネットマスク）を手動で入力してください。

メモリーカードを使用

作成した接続設定をメモリーカードにコピーして、複数のカメラで共有できます。

- カメラにメモリーカードが 2 枚挿入されている場合は、静止画撮影メニュー［**主スロットの選択**］で選んだ主スロットのカードが対象になります。

項目	内容
［**カメラに登録**］	メモリーカードのルートディレクトリにある接続設定をカメラに登録できます。
［**メモリーカードにコピー**］	カメラにある接続設定をメモリーカードにコピーします。コピーしたい接続設定を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、メモリーカードにコピーされます。 • パスワードで保護されている接続設定はコピーできません。

接続設定解除

現在接続しているネットワークから接続を解除します。

動作モードの選択

カメラをネットワークに接続したときの動作モードを選べます。

項目	内容
［**PC 画像送信モード**］	メモリーカードに記録した画像や、撮影直後の静止画をパソコンに保存できます。
［**カメラコントロールモード**］	別売の Camera Control Pro 2 または無料の NX Tether を使用してカメラをコントロールしたり、撮影した画像をパソコンに保存できます。

オプション

カメラの通信機能を設定できます。

撮影後自動送信

［**ON**］に設定すると、撮影と同時に画像を自動送信します。

- 撮影された画像はいったんメモリーカードに記録され、自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにメモリーカードを挿入してください。
- 動画は自動送信されません。これらのファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください（🕮 231）。

送信後ファイル削除

［**ON**］に設定すると、送信終了後にメモリーカード内のファイルが自動的に削除されます。

- ［**ON**］に設定するよりも前に送信設定されたファイルは、送信が終了しても削除されません。
- カメラの状態によっては、ファイルの削除を一時停止する場合があります。

RAW + JPEG 送信設定

RAW と JPEG を同時に記録する画質モードで撮影された画像を送信するときに、RAW 画像と JPEG 画像の両方を送信するか、RAW 画像または JPEG 画像のみ送信するかを選べます。［**順次記録時/バックアップ記録時**］または［**RAW+JPEG 分割記録時**］で個別に設定できます。

- ［**順次記録時/バックアップ記録時**］の設定は、自動送信および手動で送信する場合に有効です。
- ［**RAW+JPEG 分割記録時**］の設定は、自動送信する場合のみ有効です。

RAW + HEIF 送信設定

RAW と HEIF を同時に記録する画質モードで撮影された画像を送信するときに、RAW 画像と HEIF 画像の両方を送信するか、RAW 画像または HEIF 画像のみ送信するかを選べます。[**順次記録時/バックアップ記録時**]または［**RAW+HEIF 分割記録時**］で個別に設定できます。

- ［**順次記録時/バックアップ記録時**］の設定は、自動送信および手動で送信する場合に有効です。
- ［**RAW+HEIF 分割記録時**］の設定は、自動送信する場合のみ有効です。

JPEG+JPEG 送信設定

静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］を［**JPEG+JPEG 分割記録**］に設定して分割記録した画像を、撮影後に自動送信する場合に、どちらのスロットに記録した画像を送信するかを選べます。

HEIF+HEIF 送信設定

静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］を［**HEIF+HEIF 分割記録**］に設定して分割記録した画像を、撮影後に自動送信する場合に、どちらのスロットに記録した画像を送信するかを選べます。

RAW 動画送信設定

動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**N-RAW 12-bit（NEV）**］または［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］に設定して撮影した動画を送信する場合に、RAW 動画と MP4 動画の両方を送信するか、MP4 動画のみを送信するかを選べます。

フォルダー送信

選んだフォルダー内の全ての画像に送信設定をします。送信済みの画像も再送信します。

- 動画には送信設定をしません。動画ファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください。

全送信マーク解除

メモリーカード内の全ての画像送信マークを解除します。画像送信中の場合は、送信を中断します。

FTP サーバーと接続

MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー

カメラと FTP サーバーを有線 LAN または無線 LAN で接続する場合に使用します。

接続設定

ネットワークの接続設定をカメラに登録できます。複数接続設定を登録した場合、接続設定の切り換えも行えます。

新規追加

接続設定を作成できます（326、342）。

- 作成済みの接続設定が複数ある場合、OK ボタンを押して使用する接続設定を変更してネットワークに接続開始します。
- 作成済みの接続設定を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、接続設定の内容を変更できます。

項目	内容
［**全般**］	• ［**接続設定名**］：接続設定名を変更できます。 • ［**パスワードによる保護**］：［**有効**］に設定すると、接続設定の内容を変更する場合にパスワード入力が必要になります。［**有効**］を選んで ▶ を押すと、パスワードが設定できます。
［**無線**］	無線 LAN で接続する接続設定に表示されます。 • **インフラストラクチャーモードの接続設定の場合**：接続するネットワークに合わせて、無線接続の設定を行います。 - ［**SSID**］：接続するネットワークの SSID を設定します。 - ［**チャンネル**］：自動的に設定されます。 - ［**認証/暗号**］：無線の暗号化方式を選びます。 - ［**パスワード**］：接続するネットワークのパスワードを入力します。 • **アクセスポイントモードの接続設定の場合**：カメラの設定を変更できます。 - ［**SSID**］：カメラの SSID を変更できます。 - ［**チャンネル**］：無線チャンネルを［**オート**］または［**マニュアル**］で設定できます。 - ［**認証/暗号**］：無線の暗号化方式を選びます。 - ［**パスワード**］：［**認証/暗号**］を［**OPEN**］以外に設定した場合、カメラのパスワードを変更できます。

項目	内容
［**TCP/IP**］	インフラストラクチャーモードの接続設定の場合、TCP/IP の情報を設定できます。IP アドレスは必ず入力してください。 • ［**自動取得**］：［**ON**］に設定すると、IP アドレスとサブネットマスクを DHCP サーバーまたは自動プライベート IP アドレッシングによって取得します。［**OFF**］に設定した場合は［**アドレス**］（IP アドレス）と［**マスク**］（サブネットマスク）を手動で入力してください。 • ［**ゲートウェイ**］：送信先のネットワークにデフォルトゲートウェイのアドレスが必要な場合に入力します。 • ［**DNS サーバー**］：FTP サーバーが属するネットワークに DNS サーバーが存在する場合に入力します。
［**FTP**］	• ［**サーバーの種類**］：データ送信先の FTP サーバーの種類、アドレス（IP アドレスまたは URL）、フォルダー名、ポート番号を設定します。IP アドレスは必ず入力してください。 • ［**パッシブモード**］：［**ON**］を選ぶとパッシブモードで接続します。 • ［**匿名でログイン**］：［**ON**］を選ぶと匿名で FTP サーバーにログインします。FTP サーバーが匿名でのログインを許可している場合のみログインできます。［**OFF**］を選んだ場合は、ログイン名とパスワードを手動で入力してください。 • ［**プロキシ**］：必要に応じて設定します。

メモリーカードを使用

作成した接続設定をメモリーカードにコピーして、複数のカメラで共有できます。

- カメラにメモリーカードが 2 枚挿入されている場合は、静止画撮影メニュー［**主スロットの選択**］で選んだ主スロットのカードが対象になります。

項目	内容
［**カメラに登録**］	メモリーカードのルートディレクトリにある接続設定をカメラに登録できます。
［**メモリーカードにコピー**］	カメラにある接続設定をメモリーカードにコピーします。コピーしたい接続設定を選んで ▶ を押すと、コピー先の選択画面が表示されます。コピー先を選んで OK ボタンを押すと、メモリーカードにコピーされます。 • パスワードで保護されている接続設定はコピーできません。

接続設定解除

現在接続しているネットワークから接続を解除します。

オプション

カメラの通信機能を設定できます。

撮影後自動送信

［**ON**］に設定すると、撮影と同時に画像を自動送信します。

- 撮影された画像はいったんメモリーカードに記録され、自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにメモリーカードを挿入してください。
- 動画は自動送信されません。これらのファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください（🕮 231）。

送信後ファイル削除

［**ON**］に設定すると、送信終了後にメモリーカード内のファイルが自動的に削除されます。

- ［**ON**］に設定するよりも前に送信設定されたファイルは、送信が終了しても削除されません。
- カメラの状態によっては、ファイルの削除を一時停止する場合があります。

RAW + JPEG 送信設定

RAW と JPEG を同時に記録する画質モードで撮影された画像を送信するときに、RAW 画像と JPEG 画像の両方を送信するか、RAW 画像または JPEG 画像のみ送信するかを選べます。［**順次記録時/バックアップ記録時**］または［**RAW+JPEG 分割記録時**］で個別に設定できます。

- ［**順次記録時/バックアップ記録時**］の設定は、自動送信および手動で送信する場合に有効です。
- ［**RAW+JPEG 分割記録時**］の設定は、自動送信する場合のみ有効です。

RAW + HEIF 送信設定

RAW と HEIF を同時に記録する画質モードで撮影された画像を送信するときに、RAW 画像と HEIF 画像の両方を送信するか、RAW 画像または HEIF 画像のみ送信するかを選べます。［**順次記録時/バックアップ記録時**］または［**RAW+HEIF 分割記録時**］で個別に設定できます。

- ［**順次記録時/バックアップ記録時**］の設定は、自動送信および手動で送信する場合に有効です。
- ［**RAW+HEIF 分割記録時**］の設定は、自動送信する場合のみ有効です。

JPEG+JPEG 送信設定

静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］を［**JPEG+JPEG 分割記録**］に設定して分割記録した画像を、撮影後に自動送信する場合に、どちらのスロットに記録した画像を送信するかを選べます。

HEIF+HEIF 送信設定

静止画撮影メニュー［**副スロットの機能**］を［**HEIF+HEIF 分割記録**］に設定して分割記録した画像を、撮影後に自動送信する場合に、どちらのスロットに記録した画像を送信するかを選べます。

RAW 動画送信設定

動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**N-RAW 12-bit（NEV）**］または［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］に設定して撮影した動画を送信する場合に、RAW 動画と MP4 動画の両方を送信するか、MP4 動画のみを送信するかを選べます。

同名ファイルの上書き

［**ON**］に設定すると、送信するファイルと同じ名前のファイルが送信先フォルダー内にすでに存在する場合にファイルを上書きします。［**OFF**］に設定すると、上書きしないようにファイル名に番号を追加して送信します。

未送信画像プロテクト

［**ON**］に設定すると、画像に送信設定マークを付加したときに自動的にプロテクトを設定します。送信を終了すると、プロテクトを解除します。

送信記録の保存

［**ON**］に設定すると、画像が送信された日時をメモリーカード内の画像に記録します。

フォルダー送信

選んだフォルダー内の全ての画像に送信設定をします。送信済みの画像も再送信します。

- 動画には送信設定をしません。動画ファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください。

全送信マーク解除

メモリーカード内の全ての画像送信マークを解除します。画像送信中の場合は、送信を中断します。

接続維持の優先

［**ON**］に設定すると、無線エラー、TCP/IP エラー、または FTP エラーが発生してネットワーク接続ができなかった場合に、約 15 秒後に再度ネットワーク接続処理を行います。接続処理はカメラがネットワークに接続されるまで繰り返し行われます。

- ［**ON**］に設定すると、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。バッテリーの消耗が早くなります。

ルート証明書の管理

FTPS サーバーと接続するためのルート証明書の読み込みや、読み込んだルート証明書の管理を行えます。

- ルート証明書の取得方法については、接続する FTPS サーバーのネットワーク管理者にご確認ください。

項目	内容
［**ルート証明書の読み込み**］	メモリーカードに保存したルート証明書をカメラに読み込みます。 • ルート証明書は、必ずメモリーカードのルートディレクトリ（一番上の階層）にコピーしてください。 • カメラには、ファイル名が「ROOT.CER」、「ROOT.CRT」、「ROOT.PEM」のルート証明書のみ読み込めます。 • カメラに登録できるルート証明書は 1 つのみです。ルート証明書を読み込み直すと、現在のルート証明書に上書きされます。 • 自己署名証明書を使用して接続する場合、接続先のサーバーを信頼できないおそれがあります。
［**ルート証明書の削除**］	カメラに登録したルート証明を削除します。
［**ルート証明書の情報確認**］	カメラに登録したルート証明の内容を表示します。
［**認証エラー時の接続**］	［**ON**］に設定すると、一部の認証エラーが許容されます。

カメラと接続

MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー

カメラ同士を接続して連動レリーズする場合や日時を同期する場合に使用します。

連動レリーズ

［**ON**］に設定すると、ネットワーク上に接続しているカメラと連動してシャッターをきれます。

接続設定

ネットワークの接続設定をカメラに登録できます。複数接続設定を登録した場合、接続設定の切り換えも行えます。

新規追加

接続設定を作成できます（359）。

- 作成済みの接続設定が複数ある場合、OK ボタンを押して使用する接続設定を変更してネットワークに接続開始します。
- 作成済みの接続設定を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、接続設定の内容を変更できます。

項目	内容
［**全般**］	• ［**接続設定名**］：接続設定名を変更できます。 • ［**パスワードによる保護**］：［**有効**］に設定すると、接続設定の内容を変更する場合にパスワード入力が必要になります。［**有効**］を選んで ▶ を押すと、パスワードが設定できます。
［**TCP/IP**］	TCP/IP の情報を設定できます。IP アドレスは必ず入力してください。 • ［**自動取得**］を［**ON**］に設定すると、IP アドレスとサブネットマスクを DHCP サーバーまたは自動プライベート IP アドレッシングによって取得します。 • ［**OFF**］に設定した場合は［**アドレス**］（IP アドレス）と［**マスク**］（サブネットマスク）を手動で入力してください。

メモリーカードを使用

作成した接続設定をメモリーカードにコピーして、複数のカメラで共有できます。

- カメラにメモリーカードが 2 枚挿入されている場合は、静止画撮影メニュー［**主スロットの選択**］で選んだ主スロットのカードが対象になります。

項目	内容
［**カメラに登録**］	メモリーカードのルートディレクトリにある接続設定をカメラに登録できます。
［**メモリーカードにコピー**］	カメラにある接続設定をメモリーカードにコピーします。コピーしたい接続設定を選んで ⓚ ボタンを押すと、メモリーカードにコピーされます。 • パスワードで保護されている接続設定はコピーできません。

接続設定解除

現在接続しているネットワークから接続を解除します。

マスター/リモート選択

カメラをマスターカメラにするか、リモートカメラにするかを設定できます。マスターカメラに設定したカメラのシャッターをきると、リモートカメラのシャッターも連動してきれます。

グループ設定

連動レリーズを行うカメラのグループを作成して、各グループごとにリモートカメラを登録できます。グループを切り換えることで、マスターカメラから制御するリモートカメラも切り換えることができます。

- ［**マスター/リモート選択**］が［**マスターカメラ**］の場合のみ設定できます。

新規追加

グループ設定を作成できます。

- 作成済みのグループ設定が複数ある場合、マルチセレクターでグループ設定を選んで ⓚ ボタンを押すと、使用するグループを変更できます。
- グループ設定を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、グループ設定の内容を変更できます。

項目	内容
[**表示名**]	リモートカメラを登録するグループの表示名を設定できます。
[**グループ名**]	連動レリーズを行うカメラのグループ名を設定できます。
[**リモートカメラリスト**]	リモートカメラの状態を確認できます（📖 375）。

メモリーカードを使用

作成したグループ設定をメモリーカードにコピーして、複数のカメラで共有できます。

- カメラにメモリーカードが 2 枚挿入されている場合は、静止画撮影メニュー［**主スロットの選択**］で選んだ主スロットのカードが対象になります。

項目	内容
[**カメラに登録**]	メモリーカードにコピーしたグループ設定をカメラに登録できます。登録したいグループを選んで ⓚ ボタンを押すと、カメラに登録されます。
[**メモリーカードにコピー**]	カメラ内にあるグループ設定をメモリーカードにコピーします。コピーしたいグループを選んで ▶ を押すと、コピー先の選択画面が表示されます。コピー先を選んで ⓚ ボタンを押すと、メモリーカードにコピーされます。

グループ名

リモートカメラのグループ名を設定できます。同一ネットワーク上にあるマスターカメラの［**グループ設定**］>［**グループ名**］と同じ名称に設定すると、同じグループのリモートカメラとしてマスターカメラに連動してレリーズを行います。

- ［**マスター/リモート選択**］が［**リモートカメラ**］の場合のみ設定できます。

日時を同期

マスターカメラに設定されている日時に合わせてリモートカメラの内蔵時計を合わせます（📖 377）。

著作権情報の上書き

実行すると、現在接続しているグループ内のリモートカメラの著作権情報を、マスターカメラに設定されている著作権情報に上書きします。

ATOMOS AirGlu BT 設定

MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー

Atomos 社の AirGlu アクセサリー UltraSync BLUE に Bluetooth でカメラを無線接続できます。

- UltraSync BLUE には対応するカメラや録音機器を複数台同時に無線接続できます。無線接続しているすべての撮影機器が UltraSync BLUE からタイムコードを取得することで、複数メーカーの撮影機材が混在している環境でもタイムコードを同期できます。UltraSync BLUE に接続できる機器の台数については、Atomos 社のホームページでご確認ください。

項目	内容
［**ATOMOS AirGlu BT と接続**］	ペアリング済みの UltraSync BLUE と Bluetooth で無線接続します。
［**ATOMOS AirGlu BT の登録**］	UltraSync BLUE とペアリングを開始します。 • 画像モニターにカメラ名が表示されます。 • UltraSync BLUE を操作して、カメラとペアリングを行ってください。詳しくは UltraSync BLUE の説明書を参照してください。
［**ATOMOS AirGlu BT の解除**］	UltraSync BLUE とカメラの無線接続を解除します。
［**カメラ名**］	UltraSync BLUE に表示するカメラ名を設定できます。

- UltraSync BLUE と無線接続後、動画撮影メニュー［**タイムコード**］>［**タイムコード記録**］を［**する**］または［**する（HDMI 外部出力あり）**］に設定するとタイムコードの取得を開始します。タイムコードが取得されると、撮影画面に表示されます。
- 撮影画面に「--:--:--:--」（HDMI 外部機器出力時は「00:00:00.00」）と表示されている場合、タイムコードが取得できていません。タイムコード未取得の状態で動画の記録を開始すると、タイムコードは記録されません。

UltraSync BLUE を使用したタイムコード取得時のご注意

- 動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］を［**H.264 8-bit（MP4）**］に設定している場合、タイムコードは記録できません。
- UltraSync BLUE にもフレームレートを設定する機能があります。カメラで設定した動画のフレームレートと UltraSync BLUE で設定したフレームレートが合っていない場合、タイムコードの記録およびタイムコードの HDMI 外部出力がされません。撮影する動画のフレームレートによって、UltraSync BLUE のフレームレートを次のように設定してください。

撮影する動画のフレームレート	UltraSync BLUE のフレームレート
120p、60p、30p	29.97fps、29.97fpsDF
100p、50p、25p	25fps
24p	23.98fps

  - ドロップフレーム方式で撮影する場合、29.97fpsDF に設定してください。
  - 設定方法は UltraSync BLUE の説明書を参照してください。
- UltraSync BLUE と無線接続中は動画撮影メニュー［**タイムコード**］の［**カウントアップ方式**］、［**タイムコードの起点**］および［**ドロップフレーム**］の設定は変更できません。
- UltraSync BLUE との無線接続が解除された場合、約 60 秒後に撮影画面のタイムコードの表示が「--:--:--:--」に変更されますが、記録中の動画には継続した値のタイムコードが記録されます。再度 UltraSync BLUE と無線接続されると、タイムコードが撮影画面に表示されます。
- UltraSync BLUE と無線接続中にカメラの電源を OFF にするか、半押しタイマーがオフになると無線接続が解除されます。カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］の設定は［**制限なし**］にすることをおすすめします。

USB 通信専用端子の設定

MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー

カメラの USB 通信専用端子を使用して他の機器と通信する場合の設定を選べます。

- USB ケーブルでパソコンまたは Android 端末と接続する場合は、[**MTP/PTP**] に設定してください。
- 市販の iPhone 用 USB-C to Lightning ケーブルで iPhone と接続して NX MobileAir アプリを使用する場合は、[**iPhone**] に設定してください（使用できる USB-C to Lightning ケーブルについて、詳しくは NX MobileAir アプリのヘルプをご覧ください）。
- USB 通信専用端子に市販の USB-LAN 変換アダプターを接続し、アダプターの LAN 接続端子にイーサネットケーブルを差し込んでパソコンまたは他のカメラと接続する場合は、[**USB-LAN**] に設定してください。

☑ [iPhone] に設定している場合のご注意

[**iPhone**] に設定すると、iPhone と接続して NX MobileAir アプリを使用する場合のみ通信が有効になります。NX MobileAir アプリを使用していないときは [**MTP/PTP**] または [**USB-LAN**] に設定してください。

☑ [USB-LAN] に設定している場合のご注意

[**USB-LAN**] に設定している場合、USB-LAN 変換アダプター以外の USB 機器を接続しても機能しません。

接続先の周波数帯選択

MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー



インフラストラクチャーモードでネットワークに無線接続する場合に、接続する SSID の周波数帯を選べます。[**2.4GHz/5GHz**] に設定すると、両方の周波数帯の SSID に接続できます。

- カメラ周辺の無線 LAN アクセスポイントを検索する場合に、設定した周波数帯の SSID だけを検索します。
- 周波数帯は SSID の左側に表示されるアイコンで確認できます。
- 2.4GHz と 5GHz 両方の電波を同一の SSID で出力している無線 LAN アクセスポイントの場合、[**2.4GHz/5GHz**] に設定しているときはカメラが認識した周波数帯の SSID が表示されます。

MAC アドレス

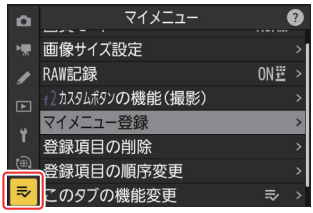
MENU ボタン ➡ ネットワークメニュー

MAC アドレスが表示されます。

マイメニュー/最近設定した項目

メニューの項目と初期設定一覧

メニュー画面で タブを選ぶと、［**マイメニュー**］画面が表示されます。



マイメニューの項目と初期設定は次の通りです。

- ［**マイメニュー登録**］：—
- ［**登録項目の削除**］：—
- ［**登録項目の順序変更**］：—
- ［**このタブの機能変更**］：マイメニュー

マイメニュー：よく使うメニューを登録する

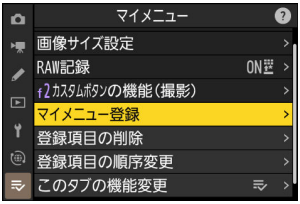
MENU ボタン ➡ マイメニュー

静止画撮影、動画撮影、カスタム、再生、セットアップ、ネットワークの各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20 項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

マイメニューを登録する

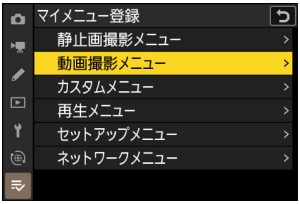
1 [マイメニュー]画面で[マイメニュー登録]を選ぶ

[**マイメニュー登録**]を選んで、マルチセレクターの ▶ を押します。



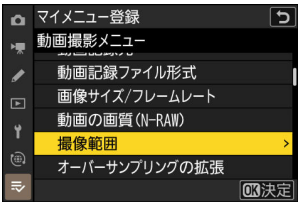
2 登録したいメニューを選ぶ

登録したいメニューを選んで ▶ を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。

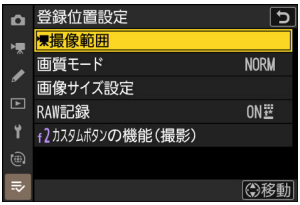


3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

マイメニューに登録する項目を選んで OK ボタンを押します。

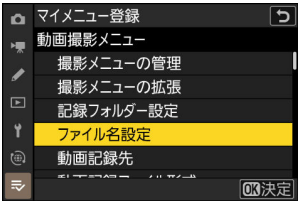


4 登録する項目の表示位置を選ぶ



◆◆ で登録する項目の表示位置を選んで、OK ボタンを押します。

5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する



- ✔ が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に ⊠ が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順 1～4 を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。

登録した項目を削除する

1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の削除］を選ぶ

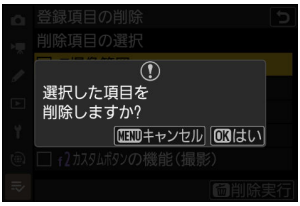
［**登録項目の削除**］を選び、マルチセレクターの ▶ を押します。

2 削除したいメニュー項目を選ぶ



- ⓚ ボタンを押すか ▶ を押すと、項目のチェックボックスが ☑ になります。
- 削除したい全ての項目に ✔ を入れます。

3 選んだ項目を削除する



🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。ⓚ ボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。

☑ 登録した項目をボタン操作で削除するには

［**マイメニュー**］画面で削除したい項目を選んで 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

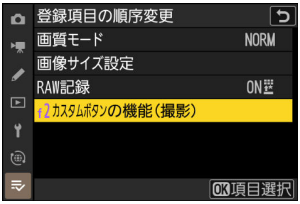
登録した項目の表示順序を変える

1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の順序変更］を選ぶ

［**登録項目の順序変更**］を選び、マルチセレクターの ▶ を押します。

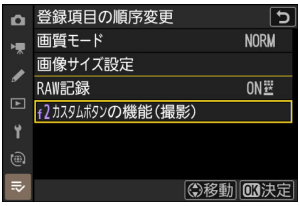
2 順番を変えたい項目を選ぶ

順番を変えたい項目を選んで、OK ボタンを押します。



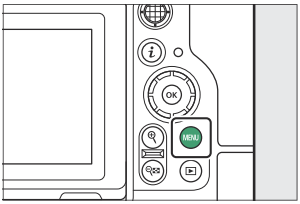
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

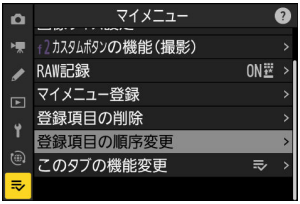
- ▲▼ で移動したい位置を選んで、OK ボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順 2～3 を繰り返します。



4 ［マイメニュー］画面に戻る

MENU ボタンを押すと、［**マイメニュー**］画面に戻ります。

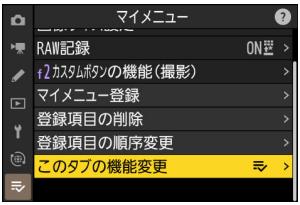




マイメニューの機能を［最近設定した項目］に変更する

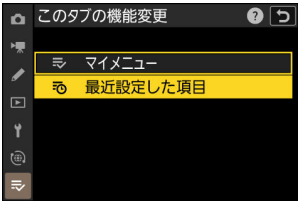
1 **［マイメニュー］画面で［このタブの機能変更］を選ぶ**

［**このタブの機能変更**］を選び、マルチセレクターの ▶ を押します。



2 **［最近設定した項目］を選ぶ**

- ［**このタブの機能変更**］画面で［**最近設定した項目**］を選んで、OK ボタンを押します。
- ［**マイメニュー**］が［**最近設定した項目**］に切り替わり、メニューのタブのアイコンも から に切り替わります。

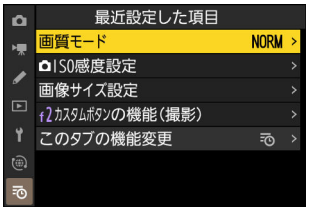


最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

MENU ボタン ➡ 最近設定した項目

[最近設定した項目] の設定方法

メニューを設定するたびに［**最近設定した項目**］に追加されます。最大 20 項目まで登録されます。



最近設定した項目を削除するには

［**最近設定した項目**］画面で削除したい項目を選んで 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

［最近設定した項目］からマイメニューに戻すには

［**最近設定した項目**］>［**このタブの機能変更**］を選ぶと、「マイメニューの機能を［**最近設定した項目**］に変更する」（📖 825）の手順 2 と同じ画面が表示されます。［**マイメニュー**］を選んで OK ボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。

困ったときは

お問い合わせになる前に

カメラの動作がおかしいときは、次の手順を行うことで問題が解決する場合があります。ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前にお試しください。

1 **カメラの動作がおかしいときの対処方法を確認して、カメラを点検する。**
次のページで対処方法が確認できます。
- 故障かな？と思ったら（🕮 829）
- 警告表示と警告メッセージ（🕮 838）

2 **電源を OFF にしてバッテリーを取り出し、約 1 分後に再度バッテリーを入れてカメラの電源を ON にする。**
☑ 撮影直後はメモリーカードに画像の記録を行っている場合があります。バッテリーを取り出すまで、撮影後は 1 分以上お待ちください。

3 **ニコンのホームページを確認する。**
- サポートサイトの Q&A などで解決方法を探すことができます。
https://www.nikon-image.com/support/
- ニコンダウンロードセンターで、カメラの最新のファームウェアを確認してください。
https://downloadcenter.nikonimglib.com/

4 **ニコンサービス機関に問い合わせる。**

カメラの初期化について

- 機能の組み合わせによって、使用したい機能（メニュー項目）が設定できない場合があります。使用したいメニュー項目がグレーアウトしているときなどにセットアップメニュー［**カメラの初期化**］を実行すると、メニューが選べるようになることがあります。
- カメラを初期化すると、無線接続設定や著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元に戻せないのでご注意ください。

故障かな？と思ったら

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

電源・表示関連

● 電源 ON の状態で、カメラの操作ができない

- 画像の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源を OFF にする操作をしてください。
- 電源が OFF にならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- AC アダプター使用時は付け直してください。
  - 記録中であったデータは保存されません。
  - 保存済みのデータはバッテリーや AC アダプターの取り外しでは失われません。

● ファインダーまたは画像モニターが表示されない

- モニターモードを変更していませんか？　|□| ボタンを押して、表示設定を切り換えてください。
- セットアップメニュー［**モニターモードの限定**］で表示設定を限定していませんか？　適切な表示設定に変更してください。
- アイセンサーにゴミやほこりなどが付着していると、アイセンサーが正しく反応しない場合があります。ブロアーで軽く吹き払ってください。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ノブを回して調節できます。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、フォーカスモードを **AF-S**、AF エリアモードをシングルポイント AF に設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。

● ファインダー内や表示パネル、画像モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます。

● 表示パネルの表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

● ファインダー内の表示が遅い

半押しタイマーがオフになる約 20 秒前からコマ落ちしたような表示になります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c3［**パワーオフ時間**］>［**半押しタイマー**］で変更できます。

撮影関連

- **電源を ON にしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**

  メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

- **シャッターがきれない**
  - 残量のあるメモリーカードが入っていますか？
  - 撮影モード **M** でシャッタースピードを **Bulb**（バルブ）または **Time**（タイム）に設定し、そのまま撮影モードを **S** に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。
  - セットアップメニュー［**カードなし時レリーズ**］が［**レリーズ禁止**］になっていませんか？

- **連続撮影できない**

  HDR 撮影時は、連続撮影できません。

- **ピントが合わない**
  - マニュアルフォーカスになっていませんか？　オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードを **AF-S**、**AF-C** または **AF-F** に設定してください。
  - 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。
    - 画面の長辺側と平行な線の被写体
    - 明暗差の少ない被写体
    - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
    - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
    - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
    - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
    - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
    - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
  - フォーカスモードが **AF-C** の場合、シャッターボタンの半押しを続けている間または **AF-ON** ボタンを押し続けている間にフォーカスポイントが点滅し、ピント合わせができなくなることがあります。一度ボタンを放してから押し直すと、再度ピント合わせができるようになります。

- **電子音が鳴らない**
  - セットアップメニュー［**サイレントモード**］が［**ON**］になっていませんか？
  - フォーカスモードが **AF-C** の場合、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。
  - セットアップメニュー［**電子音**］>［**ビープ音**］を［**無効**］以外に設定すると電子音が鳴ります。
  - 動画モード時は電子音は鳴りません。

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニュー e1［**フラッシュ撮影同調速度**］で、1/200～ 1/60 秒の範囲で設定できます。［**1/250 秒（オート FP）**］または［**1/200 秒（オート FP）** ］に設定して、別売のオート FP ハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、1/8000 までのシャッタースピードに同調可能なオート FP ハイスピードシンクロが可能です。

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

フォーカスモードを **AF-C** に設定している場合、サブセレクターの中央を押してフォーカスをロックしてください。

● フォーカスポイントを選べない

AF エリアモードが［**オートエリア AF**］のときは、選べません。

● フォーカスモードを変更できない

カスタムメニュー a9 および g5［**フォーカスモードの制限**］を［**制限しない**］に設定してください。

● 画像の記録に時間がかかる

静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**ON**］になっていませんか？

● 撮影画面に表示された明るさと、撮影した画像の明るさ（露出）が違う

- カスタムメニュー d9［**ビューモード設定（静止画 Lv）**］を［**見やすさを重視**］に設定すると、露出や色味の設定を変えても画像モニターの表示には反映されません。撮影モード **M** でスピードライトを装着している場合、d9 を［**撮影設定を優先**］に設定していても撮影画面の明るさは［**見やすさを重視**］で表示されます。
- セットアップメニュー［**モニターの明るさ**］または［**ファインダーの明るさ**］で撮影画面の明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません。

● 動画モード時に画面にちらつきや横縞が生じる

動画撮影メニュー［**動画フリッカー低減**］の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください。

● 横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にゴミが付着していませんか？　イメージセンサークリーニングを行ってください。

● ゴースト、フレアが目立つ

太陽や高輝度の照明などの明るい光源が含まれるなどのシーンを撮影したときに、画像上にゴーストやフレアが目立つ場合があります。レンズにフードを付ける、あるいは光源を画角から大きく外すことで目立ちにくくなります。また、レンズからフィルターを外す、シャッタースピードを変更するなどを試していただくと目立ちにくくなることがあります。

● ボケ像が欠けて写る

高速のシャッタースピードや大口径レンズを使用した撮影では、ボケ像が欠けて写ることがあります。ボケ像の欠けが気になるときは、シャッタースピードを遅くしたり、絞り値を大きくしたりすると目立たなくなります。

● 撮影が開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、自動的に終了することがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - 動画撮影を長時間行った場合
  - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなって撮影できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまで電源を OFF にしてください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● 撮影画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ISO 感度やシャッタースピード、アクティブ D-ライティングなどのカメラの設定を変更してください。
- 長時間露出撮影や、カメラが高温になるような環境で撮影をする場合、ISO 感度を高く設定しているとノイズが強調されることがあります。
- 長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、電源を OFF にしてください。
- 撮影時、🔍ボタンで表示を拡大すると、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。
- 撮影した画像に発生するノイズは、撮影画面で表示されたノイズと見え方が異なることがあります。
- 撮像素子のチェックと最適化を行うと改善されることがあります。セットアップメニュー［**ピクセルマッピング**］を実行してください。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません。

● ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない

- RAW を含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出または HDR 合成による撮影を同時に行うことはできません。

● ［ピクチャーコントロール］の効果が安定しない

［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］が［**オート**］に設定されているか、それぞれの調整画面で［**クイックシャープ**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください。

● 測光モードが変更できない

AE ロック中は、測光モードを変更できません。

● 露出補正ができない

撮影モードが **M** の場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません。

● 長時間露出撮影時に色むらが発生する

シャッタースピードを **Bulb**（バルブ）または **Time**（タイム）にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像に色むらが発生することがあります。この現象は、静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**ON**］に設定することで低減できます。

● AF 補助光ランプが光らない

- カスタムメニュー a12［**内蔵 AF 補助光の照射設定**］が［**OFF**］になっていませんか？
- 動画モード時は AF 補助光は照射しません。
- フォーカスモードが **AF-C** および **MF** の場合、AF 補助光は照射しません。

● 動画に音声が録音されない

- 動画撮影メニュー［**マイク感度**］が［**録音しない**］になっていませんか？
- 動画撮影メニュー［**マイク感度**］>［**マニュアル**］で、低い感度に設定されていませんか？

再生関連

● RAW 画像が表示されない

［**画質モード**］を［**RAW + FINE★**］、［**RAW + FINE**］、［**RAW + NORMAL★**］、［**RAW + NORMAL**］、［**RAW + BASIC★**］、［**RAW + BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG 画像または HEIF 画像しか再生されません。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー［**縦横位置情報の記録**］が［**OFF**］になっていませんか？
- 再生メニュー［**画像の自動回転**］が［**OFF**］になっていませんか？
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

● HLG（HEIF 形式）で撮影した画像が正しく表示されない

［**階調モード**］を［**HLG**］にして撮影した画像を外部機器に出力したりパソコンに保存したりして表示すると、正常に表示されない場合があります。HLG 対応の外部機器やパソコンを使用してください。パソコンで再生する場合、詳しくは下記 URL をご覧ください。
https://onlinemanual.nikonimglib.com/notice/hlg_setting_guide/ja/

● 画像が削除できない

画像にプロテクトが設定されていませんか？

● 画像が編集できない

- このカメラでは編集できない画像です。
- メモリーカードの残量は充分にありますか？

● 画像を記録したのに［撮影画像がありません。］と表示される

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。

● RAW 画像をプリントできない

- 再生時の i メニュー［**画像編集**］>［**RAW 現像（表示画像）**］または［**RAW 現像（複数画像）**］などで RAW 画像から JPEG 画像または HEIF 画像を作成してからプリントしてください。
- RAW 画像はパソコンに転送してから、NX Studio などのソフトウェアを使ってプリントしてください。

● 画像が HDMI 対応機器で再生できない

HDMI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

● 画像が HDMI 対応機器で正しく表示されない

- HDMI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- ［**階調モード**］を［**HLG**］にして撮影した静止画は、HLG 非対応の外部機器では正しく表示されません。
- 動画再生時に動画撮影メニュー［**外部記録制御（HDMI）**］が［**ON**］になっていると、正しく表示されないことがあります。
- セットアップメニュー［**カメラの初期化**］を実行すると正しく表示されることがあります。

● NX Studio でイメージダストオフ機能が動作しない

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、撮像素子前面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき

● ［ピクチャーコントロール］、［ピクチャーコントロール（HLG）］、［アクティブ D-ライティング］、［ヴィネットコントロール］などの効果がパソコンで確認できない

RAW 画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW 画像の現像は NX Studio をお使いください。

● 画像をパソコンに転送できない

お使いのパソコンの OS によっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに保存してください。

Wi-Fi（無線 LAN）および Bluetooth 関連

● スマートフォンにカメラの SSID（ネットワーク名）が表示されない

- ネットワークメニューの［**機内モード**］が［**OFF**］になっていること、および［**スマートフォンと接続**］>［**ペアリング（Bluetooth）**］>［**Bluetooth 通信機能**］が［**ON**］になっていることを確認してください。
- ネットワークメニュー［**スマートフォンと接続**］>［**Wi-Fi 接続**］が有効になっていることを確認してください。
- スマートフォンの無線機能を OFF にしてから ON にし直してください。

● プリンターなどの無線通信機器と接続できない

このカメラは、スマートフォンやパソコン以外の機器とは無線接続できません。

● 画像がスマートフォンに自動送信できない

- SnapBridge アプリの◘タブで［**自動連携**］>［**連携モード**］を［**フォアグラウンド**］に設定している場合、SnapBridge アプリを起動していても他の画面が表示されている状態（バックグラウンドで起動中）は自動転送されません。SnapBridge アプリの画面がスマートフォンに表示されている状態（SnapBridge アプリがフォアグラウンドで起動中）で使用してください。
- カメラとスマートフォンがペアリングされていることを確認してください。
- カメラとスマートフォンが Bluetooth 通信可能な状態か確認してください。
- SnapBridge アプリで画像の転送サイズを 8M ピクセルに設定している場合、カメラで動画を再生しているときや画像を編集しているときなど、カメラの状態によっては画像の転送が中断されることがあります。カメラの動作を止めてから、再度転送を行ってください。

● 位置情報がスマートフォンから取得できない

- お使いのスマートフォンの OS および SnapBridge アプリのバージョンによっては、位置情報の取得や表示ができない場合があります。
- SnapBridge アプリの◘タブで［**自動連携**］>［**連携モード**］を［**フォアグラウンド**］に設定している場合、位置情報はカメラに送られません。位置情報は、カメラから静止画が転送された後に、スマートフォン側で静止画に記録されます。

その他

● 撮影日時が正しく表示されない

カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

● 表示されているメニュー項目が選べない

一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。

● カメラの USB 端子に他の機器を有線接続しても通信できない

- ネットワークメニュー［**USB 通信専用端子の設定**］の設定は正しいですか？
  - USB ケーブルでパソコンまたは Android 端末と接続する場合：［**MTP/PTP**］
  - 市販の iPhone 用 USB-C to Lightning ケーブルで iPhone と接続して NX MobileAir アプリを使用する場合：［**iPhone**］
  - 市販の USB-LAN 変換アダプターを使用してイーサネットケーブルでパソコンまたは他のカメラと接続する場合：［**USB-LAN**］
- USB ケーブルはカメラの USB 通信専用端子に接続してください。

警告表示と警告メッセージ

表示パネル、撮影画面に表示される警告表示と警告メッセージの意味は次の通りです。

警告表示

撮影画面と表示パネルに次の警告が表示されます。

表示		原因と対処方法
撮影画面	表示パネル	
		バッテリー残量は残りわずかです。 バッテリー交換の準備をしてください。
	F−−	**レンズが正しく装着されていません。** • レンズを正しく装着してください。 • 沈胴式のレンズをご使用の場合、レンズを繰り出してください。 • マウントアダプターを使用して非 CPU レンズを装着すると表示されますが、異常ではありません。
	Bulb （点滅）	**撮影モードが S のときにシャッタースピードが Bulb（バルブ）にセットされています。** • シャッタースピードを変えてください。 • 撮影モードを **M** にして撮影してください。
	Time （点滅）	**撮影モードが S のときにシャッタースピードが Time（タイム）にセットされています。** • シャッタースピードを変えてください。 • 撮影モードを **M** にして撮影してください。
	Busy （点滅）	**カメラが処理を行っています。** カメラが処理を終えるまでお待ちください。

表示		原因と対処方法
撮影画面	表示パネル	
（シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかと、露出インジケーターが点滅）		**被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。** • ISO 感度を低くしてください。 • 撮影モードが **P** のときは市販の ND フィルター（光量調節用）を使用してください（**S**、**A** のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 撮影モードが **S** のときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 撮影モードが **A** のときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。
		被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。 • ISO 感度を高くしてください。 • 撮影モードが **P** のときは別売スピードライトを使用してください（**S**、**A** のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 撮影モードが **S** のときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 撮影モードが **A** のときは絞りを開いてください（より小さい数値）。
ϟ（点滅）	—	**スピードライトがフル発光しました。** 撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO 感度などをご確認ください。
Full（点滅）		**画像を記録する空き容量がありません。** • メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。
		カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。 • メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。

表示		原因と対処方法
撮影画面	表示パネル	
Err （点滅）		**撮影中に何らかの異常を検出しました。** もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。
Card （点滅）		**メモリーカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。** メモリーカードのロックを解除してください（📖 81）。

警告メッセージ

撮影画面に次のメッセージが表示されます。

メッセージ		原因と対処方法
撮影画面	表示パネル	
撮影できません。バッテリーを交換してください。	—	**バッテリーが消耗しています。** • バッテリーを交換してください。 • バッテリーを充電してください。
お使いのバッテリーと正しく通信できないためカメラの動作を停止します。安全にお使いいただくため、専用バッテリーと交換してください。	—	**バッテリーとの情報通信ができません。** • このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。
	—	**カメラと通信できないバッテリーを使用しています。** カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。
メモリーカードが入っていません。	**[–E–]**	**メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。** メモリーカードを正しくセットしてください。
メモリーカードにアクセスできません。カードを交換してください。	**Card、Err** （点滅）	**メモリーカードへのアクセス異常です。** • このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。 • 繰り返し抜き差ししてもエラーが解消しない場合は、メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。
		新規フォルダーが作成できません。 新しいメモリーカードに交換してください。
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	**Card、– – –** （点滅）	**メモリーカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。** メモリーカードのロックを解除してください（🕮 81）。

メッセージ		原因と対処方法
撮影画面	表示パネル	
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	**For** （点滅）	**メモリーカードが正しく初期化されていません。** • メモリーカードを初期化してください。 • 正しく初期化されたメモリーカードに交換してください。
マウントアダプター FTZ のファームウェアをバージョンアップしてください。	—	**マウントアダプターのファームウェアバージョンが最新ではありません。** マウントアダプターのファームウェアを最新版にバージョンアップしてください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。
動画撮影を中断します。しばらくお待ちください。	—	**動画の書き込み速度に対応していないメモリーカードが使用されています。** 書き込み速度に対応したメモリーカードに交換するか、動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］の設定を変更してください。
カメラが高温になっています。温度がさがるまで使用できません。しばらくおまちください。電源を OFF にします。	—	**カメラ内部の温度が高くなっています。** カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止してください。
		バッテリーの温度が高くなっています。 バッテリーをカメラから取り出して、バッテリーの温度が下がるまでお待ちください。
撮影画像がありません。	—	**撮影画像がありません。** 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。
		再生するフォルダーの指定に問題があります。 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。

メッセージ		原因と対処方法
撮影画面	表示パネル	
このファイルは表示できません。	—	**アプリケーションソフトで編集された画像や DCF 規格外の画像ファイルのため再生できません。** アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。
		画像ファイルに異常があるため再生できません。 アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。
このファイルは選択できません。	—	**編集できない画像です。** このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。
この動画は編集できません。	—	**編集できない動画です。** • このカメラで撮影した動画しか編集できません。 • 2 秒未満の動画は編集できません。
このファイルは保存先のメモリーカードには保存できません。詳しくは使用説明書をご覧ください。	—	**ファイルサイズが 4GB 以上の場合、exFAT でフォーマットされたメモリーカードにのみ保存できます。FAT32 など、exFAT 以外でフォーマットされたカードには保存できません。** このカメラで初期化した 64GB を超えるカードを使用するか、保存する画像のファイルサイズが 4GB 未満になるようにしてください。

資料

使用できるレンズ

このカメラでは全ての Z マウントレンズをお使いいただけます。

NIKKOR Z 24–70mm f/4 S

レンズ名に NIKKOR Z が含まれていることをご確認ください。

- カメラおよびレンズのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアが最新になっていない場合、レンズを正しく認識しなかったり、機能の一部が使用できないことがあります。最新のファームウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。
- レンズの詳しい使い方につきましては、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできる各レンズの説明書をご覧ください。

ヒント：使用できる F マウントレンズについて
マウントアダプター FTZ II/FTZ を使用すると、Z マウント用カメラに F マウントレンズを装着することができます。

- 装着するレンズによっては、一部の機能に制限があります。

Z マウント用カメラで使用できる F マウントレンズおよび制限などの詳しい情報については、「使用できる F マウントレンズについて」をご覧ください。「使用できる F マウントレンズについて」はニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

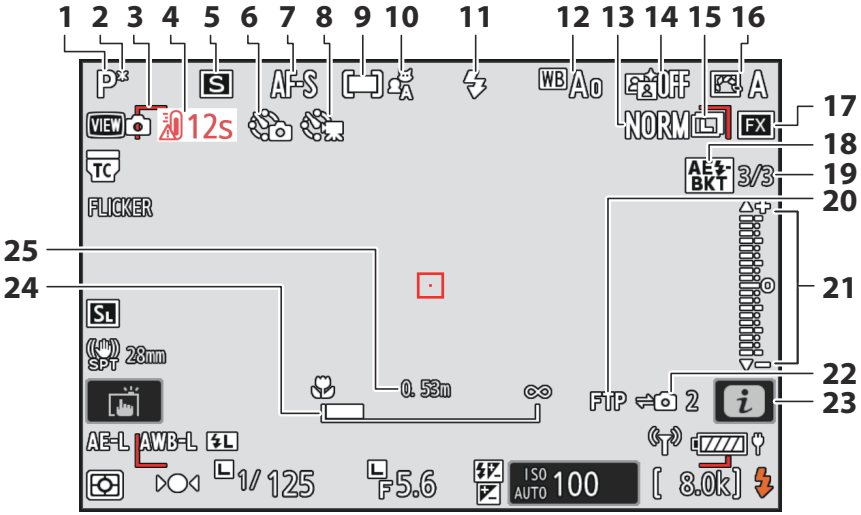
https://downloadcenter.nikonimglib.com/

画像モニター/ファインダー/表示パネルの表示

設定に応じたアイコンや項目が表示されます。この他にも設定を変更したときなどに一時的に表示されるアイコンや警告表示があります。

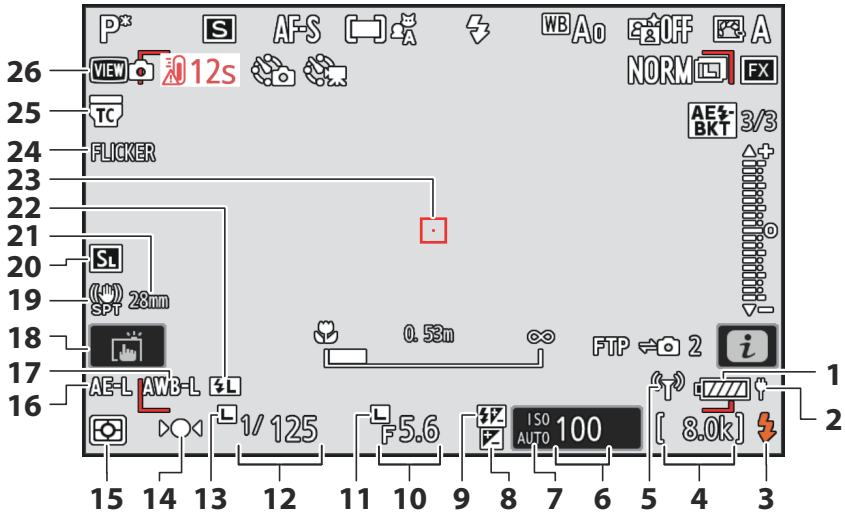
画像モニター

静止画モードの場合



1 撮影モード（📖 120）
2 プログラムシフトマーク（📖 121）
3 AF エリアフレーム（📖 105）
4 温度上昇警告（📖 757）
5 レリーズモード（📖 131）
6 インターバルタイマー撮影設定マーク（📖 474）
マーク（📖 86）
カードなしマーク（📖 80、📖 848）
メモリーカード高温注意表示（📖 82）
7 フォーカスモード（📖 103）
8 タイムラプス動画設定マーク（📖 484）
9 AF エリアモード（📖 105）
10 被写体検出（📖 109）
11 フラッシュモード（📖 383）
12 ホワイトバランス（📖 140）
13 画質モード（📖 99）
14 アクティブ D-ライティング（📖 438）
15 画像サイズ（📖 101）
16 ピクチャーコントロール（📖 168）
17 撮像範囲（📖 97）
18 AE・フラッシュブラケティングマーク（📖 157）
WB ブラケティングマーク（📖 161）
ADL ブラケティングマーク（📖 164）
HDR マーク（📖 471）
多重露出マーク（📖 464）
ピクセルシフトマーク（📖 502）
19 AE・フラッシュブラケティング撮影コマ数表示（📖 157）
WB ブラケティング撮影コマ数表示（📖 161）
ADL ブラケティング撮影コマ数表示（📖 164）
HDR 強度（📖 471）
多重露出撮影コマ数（📖 464）
プリキャプチャー（📖 606）
ピクセルシフト撮影コマ数（📖 502）
20 FTP 接続状態（📖 326、📖 342）
21 インジケーター
- 露出（📖 123）
- 露出補正（📖 129）
- オートブラケティング（📖 156）

22 リモートカメラ接続状態（📖 359）
23 *i* メニュー（📖 67）
24 フォーカス距離指標（📖 118）
25 ピント位置までの距離表示（📖 118）



1 バッテリー残量表示（79）
2 USB 給電中表示（784）
3 レディーライト（379）
4 記録可能コマ数（81、940）
カメラコントロールモード表示（353）
5 Wi-Fi 通信マーク（295、305、326）
Bluetooth 通信マーク（797）
機内モード（796）
6 ISO 感度（136）
7 ISO 感度マーク（136）
ISO-AUTO マーク（138）
8 露出補正マーク（129）
9 調光補正マーク（385）
10 絞り値（121、122）
11 絞り値ロックマーク（668）
12 シャッタースピード（121、122）
13 シャッタースピードロックマーク（668）
14 ピント表示（118）
15 測光モード（452）
16 **AE-L** マーク（127）
17 **AWB-L** マーク（644）
18 タッチ撮影機能（54、114）
19 手ブレ補正（461）
20 サイレントモード（774）
21 焦点距離 [1]
22 FV ロックマーク（386）
23 フォーカスポイント（113）
24 **FLICKER** アイコン（448）
25 レンズ内蔵テレコンバーター使用マーク [2]
26 ビューモード設定（614）

1 焦点距離目盛のないズームレンズを装着している場合に表示されます。
2 テレコンバーターを内蔵した NIKKOR Z レンズを装着し、内蔵テレコンバーターを使用している場合のみ表示されます。

温度上昇警告について

- カメラ内部の温度が上昇すると、温度上昇警告（🔥）が表示され、カウントダウンが表示されます。カウントダウンが 0 になると、撮影画面の表示が消灯します。
- セットアップメニュー［**自動電源 OFF 温度**］でカウントダウンを行う温度を［**標準**］または［**高**］で設定できます。
- 消灯する 30 秒前から赤字で表示されます。撮影条件によっては、電源を ON にした後すぐにカウントダウンが始まることがあります。

メモリーカード高温の注意表示や温度上昇警告が表示されたときは

メモリーカードやカメラの内部が高温になると、撮影画面にメモリーカード温度注意表示（⚠HOT CARD）や温度上昇警告（🔥）が表示される場合があります。

- メモリーカード温度注意表示（⚠HOT CARD）が表示されたときは、メモリーカードを取り出そうとせず、温度が下がって表示が消えるまでお待ちください。すぐに取り出そうとすると、やけどの原因となったり、落下させて破損させたりするおそれがあります。
- メモリーカード温度注意表示（⚠HOT CARD）や温度上昇警告（🔥）が表示されたときは、カードのほかにカメラ本体やバッテリーも高温になっている場合がありますので、ご注意ください。

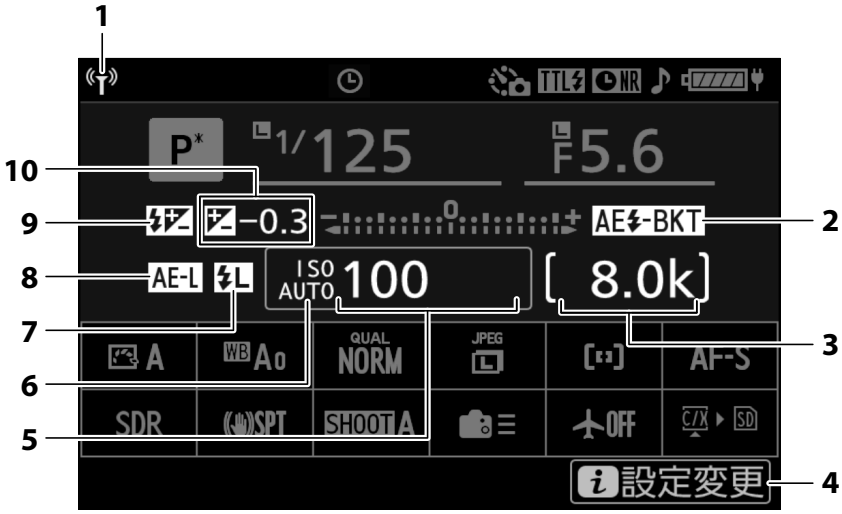
メモリーカードが入っていないときの表示について

撮影画面または表示パネルの記録可能コマ数表示部に［**–E–**］マークが、撮影画面にカードなし警告が表示されます。

インフォ画面



1 撮影モード（🕮 120）
2 プログラムシフトマーク（🕮 121）
3 シャッタースピードロックマーク（🕮 668）
4 シャッタースピード（🕮 121、🕮 122）
5 絞り値ロックマーク（🕮 668）
6 絞り値（🕮 121、🕮 122）
7 インジケーター
- 露出（🕮 123）
- 露出補正（🕮 129）
- オートブラケティング（🕮 156）



1 Wi-Fi 通信マーク（295、305、326）
Bluetooth 通信マーク（797）

2 AE・フラッシュブラケティングマーク（157）
WB ブラケティングマーク（161）
ADL ブラケティングマーク（164）
HDR マーク（471）
多重露出マーク（464）
ピクセルシフトマーク（502）

3 記録可能コマ数（81、940）
カメラコントロールモード表示（353）

4 *i* メニュー（67）

5 ISO 感度（136）

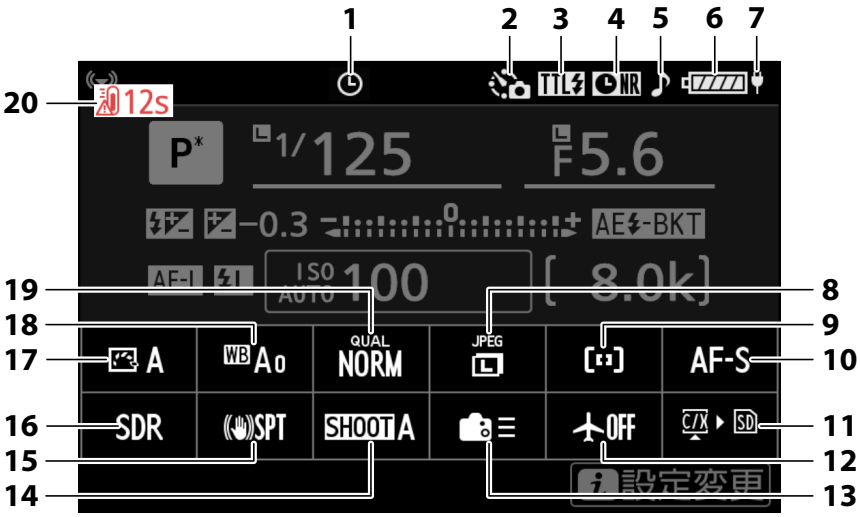
6 ISO 感度マーク（136）
ISO-AUTO マーク（138）

7 FV ロックマーク（386）

8 **AE-L** マーク（127）

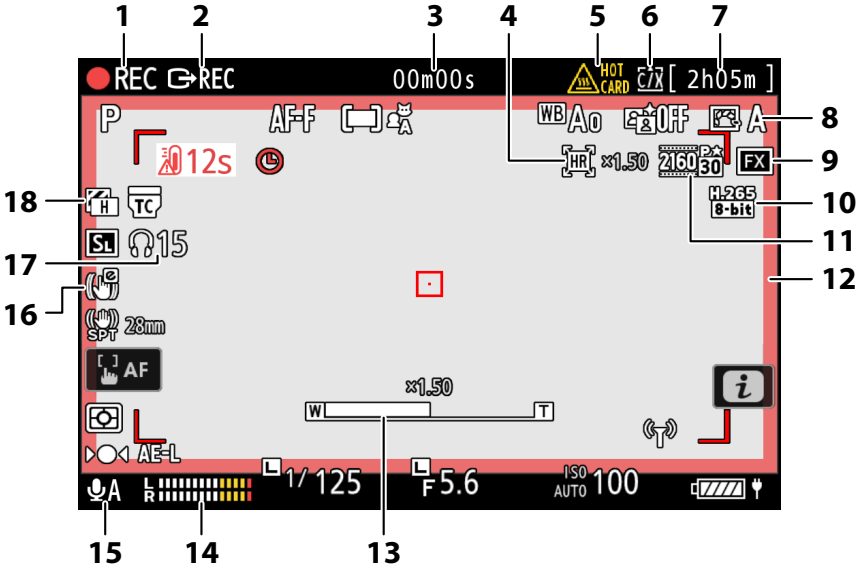
9 調光補正マーク（385）

10 露出補正マーク（129）
露出補正値（129）



1 ⏲ マーク（86）
2 インターバルタイマー撮影設定マーク（474）
タイムラプス動画設定マーク（484）
3 発光モード（381）
サイレントモード（774）
4 長秒時ノイズ低減マーク（440）
5 電子音マーク（772）
6 バッテリー残量表示（79）
7 USB 給電中表示（784）
8 画像サイズ（101）
9 AF エリアモード/被写体検出（105、109）
10 フォーカスモード（103）
11 メモリーカード情報表示（642）
12 機内モード（796）
13 カスタムボタンの機能（撮影）（644）
14 撮影メニュー切り換え（411）
15 手ブレ補正（461）
16 階調モード（424）
17 ピクチャーコントロール（168）
18 ホワイトバランス（140）
19 画質モード（99）
20 温度上昇警告（757）

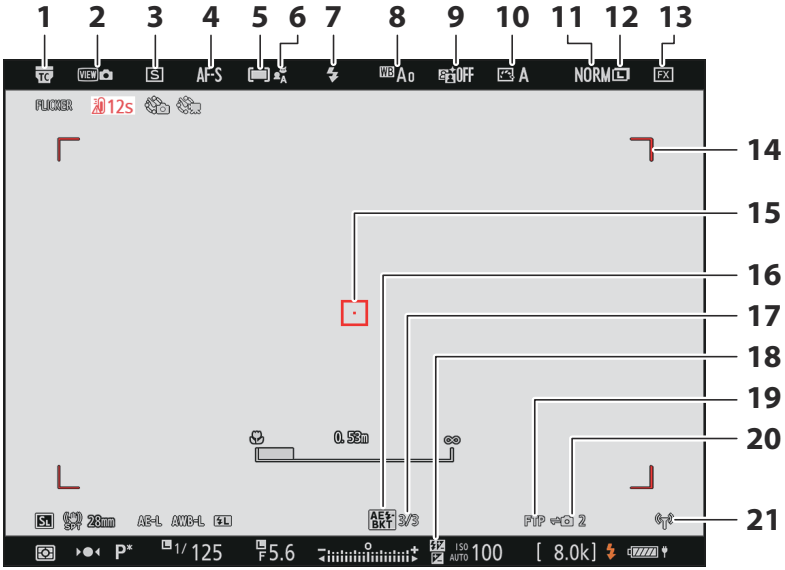
動画モードの場合



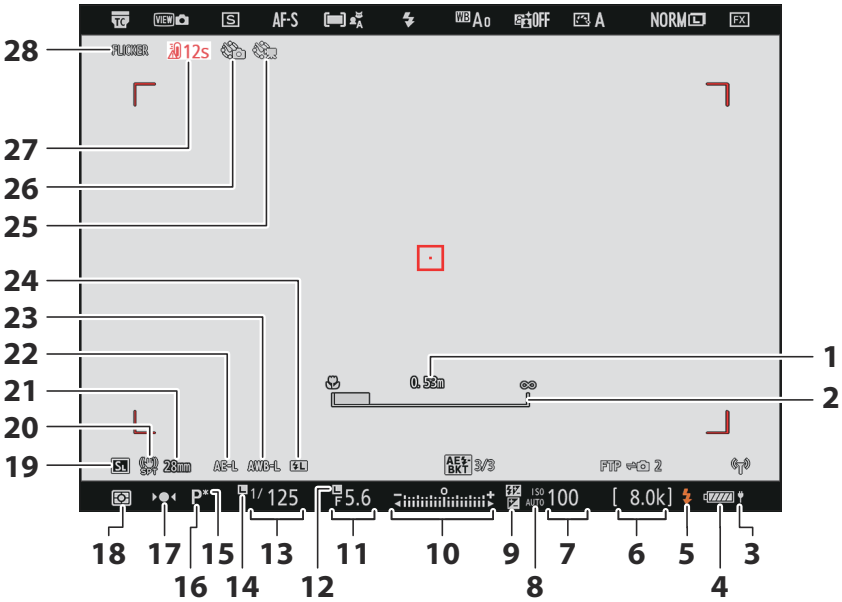
1 録画中マーク
動画記録禁止マーク（91）
2 外部記録制御（284）
3 動画記録時間
タイムコード（563）
4 ハイレゾズームマーク（204）
ハイレゾズーム倍率（204）
5 メモリーカード高温注意表示（82、91）
6 動画記録先（531）
7 動画記録残り時間
8 ピクチャーコントロール（168）
階調モード（185）
9 撮像範囲（196）
10 動画記録ファイル形式（184）
11 画像サイズ/フレームレート（187）
12 録画中赤枠（714）
13 ハイレゾズーム倍率表示バー（204）
14 音声レベルインジケーター（557）
15 マイク感度（557）
16 電子手ブレ補正マーク（556）
17 ヘッドホン音量（562）
18 ゼブラ表示（705）

ファインダー

静止画モードの場合



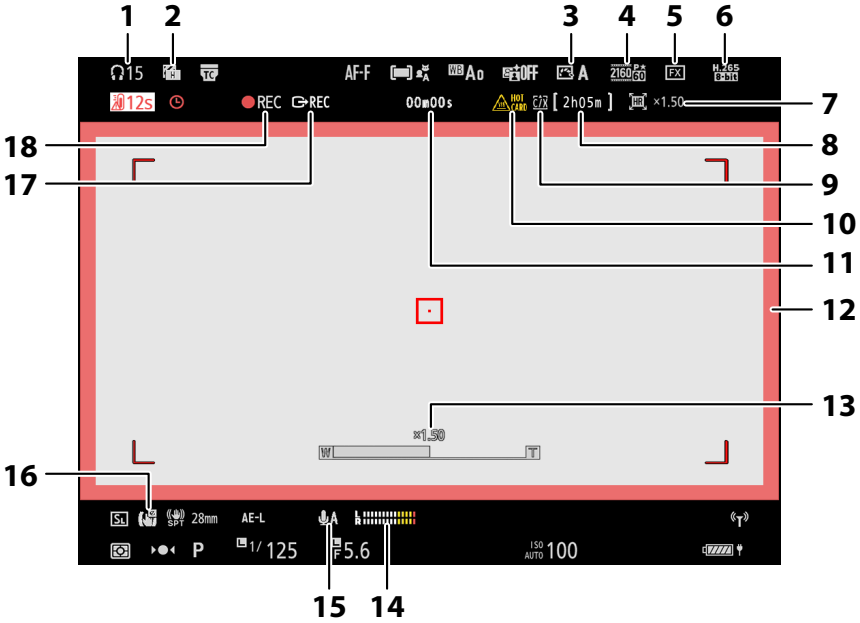
1 レンズ内蔵テレコンバーター使用マーク
2 ビューモード設定（📖 614）
3 レリーズモード（📖 131）
4 フォーカスモード（📖 103）
5 AF エリアモード（📖 105）
6 被写体検出（📖 109）
7 フラッシュモード（📖 383）
8 ホワイトバランス（📖 140）
9 アクティブ D-ライティング（📖 438）
10 ピクチャーコントロール（📖 168）
11 画質モード（📖 99）
12 画像サイズ（📖 101）
13 撮像範囲（📖 97）
14 AF エリアフレーム（📖 105）
15 フォーカスポイント（📖 113）
16 AE・フラッシュブラケティングマーク（📖 157）
WB ブラケティングマーク（📖 161）
ADL ブラケティングマーク（📖 164）
HDR マーク（📖 471）
多重露出マーク（📖 464）
ピクセルシフトマーク（📖 502）
17 AE・フラッシュブラケティング撮影コマ数表示（📖 157）
WB ブラケティング撮影コマ数表示（📖 161）
ADL ブラケティング撮影コマ数表示（📖 164）
HDR 強度（📖 471）
多重露出撮影コマ数（📖 464）
プリキャプチャー（📖 606）
ピクセルシフト撮影コマ数（📖 502）
18 調光補正マーク（📖 385）
19 FTP 接続状態（📖 326、📖 342）
20 リモートカメラ接続状態（📖 359）
21 Wi-Fi 通信マーク（📖 295、📖 305、📖 326）
Bluetooth 通信マーク（📖 797）
機内モード（📖 796）



1 ピント位置までの距離表示（118）
2 フォーカス距離指標（118）
3 USB 給電中表示（784）
4 バッテリー残量表示（79）
5 レディーライト（379）
6 記録可能コマ数（81、940）
カメラコントロールモード表示（353）
7 ISO 感度（136）
8 ISO 感度マーク（136）
ISO-AUTO マーク（138）
9 露出補正マーク（129）
10 インジケーター
- 露出（123）
- 露出補正（129）
- オートブラケティング（156）

11 絞り値（121、122）
12 絞り値ロックマーク（668）
13 シャッタースピード（121、122）
14 シャッタースピードロックマーク（668）
15 プログラムシフトマーク（121）
16 撮影モード（120）
17 ピント表示（118）
18 測光モード（452）
19 サイレントモード（774）
20 手ブレ補正（461）
21 焦点距離
22 **AE-L** マーク（127）
23 **AWB-L** マーク（644）
24 FV ロックマーク（386）
25 タイムラプス動画設定マーク（484）
26 インターバルタイマー撮影設定マーク（474）
マーク（86）
カードなしマーク（80、848）
メモリーカード高温注意表示（82）
27 温度上昇警告（757）
28 **FLICKER** アイコン（448）

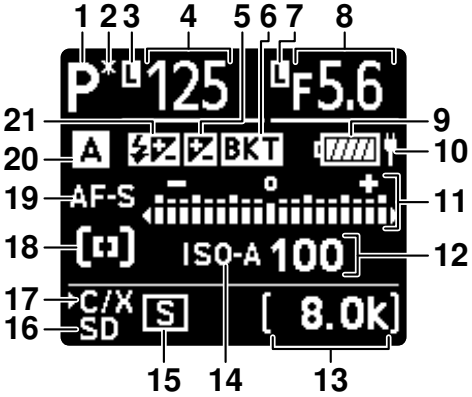
動画モードの場合



1 ヘッドホン音量（562）
2 ゼブラ表示（705）
3 ピクチャーコントロール（168）
階調モード（185）
4 画像サイズ/フレームレート（187）
5 撮像範囲（196）
6 動画記録ファイル形式（184）
7 ハイレゾズームマーク（204）
ハイレゾズーム倍率（204）
8 動画記録残り時間
9 動画記録先（531）
10 メモリーカード高温注意表示（82、91）
11 動画記録時間
タイムコード（563）
12 録画中赤枠（714）
13 ハイレゾズーム倍率表示バー（204）
14 音声レベルインジケーター（557）
15 マイク感度（557）
16 電子手ブレ補正マーク（556）
17 外部記録制御（284）
18 録画中マーク
動画記録禁止マーク（91）

表示パネル

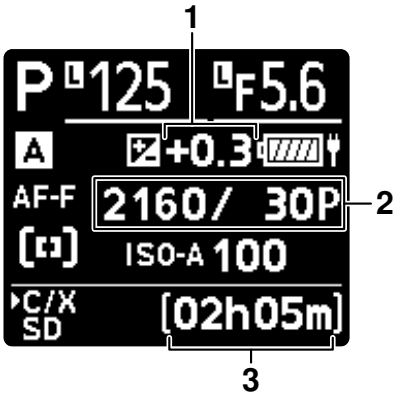
静止画モードの場合



1 撮影モード（📖 120）
2 プログラムシフトマーク（📖 121）
3 シャッタースピードロックマーク（📖 668）
4 シャッタースピード（📖 121、📖 122）
露出補正値（📖 129）
調光補正量（📖 385）
AE・フラッシュブラケティング撮影コマ数（📖 157）
WB ブラケティング撮影コマ数（📖 161）
インターバルタイマー撮影残り回数表示（📖 476）
フォーカスシフト撮影残り回数（📖 495）
残り露光時間（📖 610）
ピクセルシフト撮影コマ数（📖 502）
5 露出補正マーク（📖 129）
6 AE・フラッシュブラケティングマーク（📖 157）
WB ブラケティングマーク（📖 161）
ADL ブラケティングマーク（📖 164）
HDR マーク（📖 471）
多重露出マーク（📖 464）
ピクセルシフトマーク（📖 502）
7 絞り値ロックマーク（📖 668）
8 絞り値（📖 121、📖 122）
AE・フラッシュブラケティング補正ステップ（📖 157）
WB ブラケティング補正ステップ（📖 161）
ADL ブラケティング撮影コマ数（📖 164）
インターバルタイマー撮影コマ数（📖 476）
フォーカスシフト撮影残りコマ数表示（📖 495）
Wi-Fi 通信マーク（📖 295、📖 305、📖 326）
Bluetooth マーク（📖 797）
PC 接続中マーク（📖 911）
9 バッテリー残量表示（📖 79）
10 USB 給電中表示（📖 784）
11 インジケーター
- 露出（📖 123）
- 露出補正（📖 129）
- AE・フラッシュブラケティング（📖 157）
- WB ブラケティング（📖 161）
- ADL ブラケティング（📖 164）

12 ISO 感度（📖 136）
13 記録可能コマ数（📖 81、📖 940）
ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示（📖 151）
長時間露出経過時間（📖 124）
長秒時ノイズ低減残り処理時間（📖 440）
カメラコントロールモード表示（📖 353）
14 ISO 感度マーク（📖 136）
ISO AUTO マーク（📖 138）
15 レリーズモード（📖 131）
連続撮影可能コマ数（📖 133、📖 940）
「ハイスピードフレームキャプチャー +」連続撮影コマ数（📖 133）
インターバルタイマー撮影設定マーク（📖 474）
タイムラプス動画設定マーク（📖 484）
フォーカスシフト撮影設定マーク（📖 495）
16 メモリーカードマーク（SD スロット）（📖 80）
17 メモリーカードマーク（CFexpress/XQD スロット）（📖 80）
18 AF エリアモード（📖 105）
19 フォーカスモード（📖 103）
20 撮影メニュー設定表示（📖 411）
21 調光補正マーク（📖 385）

動画モードの場合



1 動画の露出補正値（129）
2 画像サイズ/フレームレート（187）
3 動画記録可能時間（90）

使用できるスピードライト

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）はニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、さまざまな機能を提供します。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

スピードライト	🕮
SB-5000	🕮 861
SB-910/SB-900/SB-800	🕮 863
SB-700	🕮 865
SB-600	🕮 867
SB-500	🕮 869
SB-R200	🕮 871
SB-400	🕮 873
SB-300	🕮 875
SU-800	🕮 877

SB-5000

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	✓[1]
		スタンダード i-TTL 調光	✓[2]
	㊊A	絞り連動外部自動調光	✓
	A	外部自動調光	—
	GN	距離優先マニュアル発光	✓
	M	マニュアル発光	✓
	RPT	リピーティングフラッシュ	✓

使用できる機能			
光制御アドバンストワイヤレスライティング			
	マスターフラッシュ		
		リモートフラッシュへの発光指示	✓
		i-TTL i-TTL 調光	✓
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	✓
		㊎A 絞り連動外部自動調光	✓
		A 外部自動調光	—
		M マニュアル発光	✓
		RPT リピーティングフラッシュ	✓
	リモートフラッシュ		
		i-TTL i-TTL 調光	✓
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	✓
		㊎A/A 絞り連動外部自動調光/外部自動調光	✓[3]
		M マニュアル発光	✓
		RPT リピーティングフラッシュ	✓
電波制御アドバンストワイヤレスライティング			✓[4]
発光色温度情報伝達（フラッシュ）			✓
発光色温度情報伝達（LED ライト）			—
オート FP ハイスピードシンクロ			✓[5]
FV ロック			✓[6]
赤目軽減発光			✓

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	✓
ユニファイドフラッシュコントロール	✓
カメラからのスピードライトファームアップ	✓

1 スポット測光時は設定できません。
2 スピードライト側でも設定できます。
3 **㊎A** と **A** の選択は、マスターフラッシュの設定に準じます。
4 使用できる機能は、光制御アドバンストワイヤレスライティングのリモートフラッシュと同じです。
5 発光モードが **i-TTL**、**㊎A**、**A**、**GN**、**M** の場合のみ動作します。
6 発光モードが **i-TTL**、「モニター発光あり」の **㊎A** または「モニター発光あり」の **A** の場合のみ動作します。

SB-910/SB-900/SB-800

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	✓[1]
		スタンダード i-TTL 調光	✓[2]
	㊎A	絞り連動外部自動調光	✓[3]
	A	外部自動調光	✓[3]
	GN	距離優先マニュアル発光	✓
	M	マニュアル発光	✓
	RPT	リピーティングフラッシュ	✓

使用できる機能			
光制御アドバンストワイヤレスライティング			
	マスターフラッシュ		
		リモートフラッシュへの発光指示	✓
		i-TTL i-TTL 調光	✓
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	—
		㊎A 絞り連動外部自動調光	✓
		A 外部自動調光	—
		M マニュアル発光	✓
		RPT リピーティングフラッシュ	✓
	リモートフラッシュ		
		i-TTL i-TTL 調光	✓
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	✓
		㊎A/A 絞り連動外部自動調光/外部自動調光	✓[4]
		M マニュアル発光	✓
		RPT リピーティングフラッシュ	✓
電波制御アドバンストワイヤレスライティング			—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）			✓
発光色温度情報伝達（LED ライト）			—
オート FP ハイスピードシンクロ			✓[5]
FV ロック			✓[6]
赤目軽減発光			✓

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	✓
ユニファイドフラッシュコントロール	—
カメラからのスピードライトファームアップ	✓[7]

1 スポット測光時は設定できません。
2 スピードライト側でも設定できます。
3 ㊎**A** と **A** の選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。
4 ㊎**A** と **A** の選択は、マスターフラッシュの設定に準じます。
5 発光モードが **i-TTL**、㊎**A**、**A**、**GN**、**M** の場合のみ動作します。
6 発光モードが **i-TTL**、「モニター発光あり」の ㊎**A** または「モニター発光あり」の **A** の場合のみ動作します。
7 SB-910 と SB-900 のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

SB-700

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	✓[1]
		スタンダード i-TTL 調光	✓
	㊎**A**	絞り連動外部自動調光	—
	A	外部自動調光	—
	GN	距離優先マニュアル発光	✓
	M	マニュアル発光	✓
	RPT	リピーティングフラッシュ	—

使用できる機能			
光制御アドバンストワイヤレスライティング			
	マスターフラッシュ		
		リモートフラッシュへの発光指示	✓
		i-TTL i-TTL 調光	✓
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	✓
		㊎A 絞り連動外部自動調光	—
		A 外部自動調光	—
		M マニュアル発光	✓
		RPT リピーティングフラッシュ	—
	リモートフラッシュ		
		i-TTL i-TTL 調光	✓
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	✓
		㊎A/A 絞り連動外部自動調光/外部自動調光	—
		M マニュアル発光	✓
		RPT リピーティングフラッシュ	✓
電波制御アドバンストワイヤレスライティング			—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）			✓
発光色温度情報伝達（LED ライト）			—
オート FP ハイスピードシンクロ			✓[2]
FV ロック			✓[3]
赤目軽減発光			✓

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	✓
ユニファイドフラッシュコントロール	—
カメラからのスピードライトファームアップ	✓

1 スポット測光時は設定できません。
2 発光モードが **i-TTL**、**GN**、**M** の場合のみ動作します。
3 発光モードが **i-TTL** の場合のみ動作します。

SB-600

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	✓[1]
		スタンダード i-TTL 調光	✓[2]
	㊎A	絞り連動外部自動調光	—
	A	外部自動調光	—
	GN	距離優先マニュアル発光	—
	M	マニュアル発光	✓
	RPT	リピーティングフラッシュ	—

使用できる機能		
光制御アドバンストワイヤレスライティング		
マスターフラッシュ		
リモートフラッシュへの発光指示		—
i-TTL	i-TTL 調光	—
[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	—
㊎A	絞り連動外部自動調光	—
A	外部自動調光	—
M	マニュアル発光	—
RPT	リピーティングフラッシュ	—
リモートフラッシュ		
i-TTL	i-TTL 調光	✓
[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	✓
㊎A/A	絞り連動外部自動調光/外部自動調光	—
M	マニュアル発光	✓
RPT	リピーティングフラッシュ	✓
電波制御アドバンストワイヤレスライティング		—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）		✓
発光色温度情報伝達（LED ライト）		—
オート FP ハイスピードシンクロ		✓[3]
FV ロック		✓[4]
赤目軽減発光		✓

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	✓
ユニファイドフラッシュコントロール	—
カメラからのスピードライトファームアップ	—

1 スポット測光時は設定できません。
2 スピードライト側でも設定できます。
3 発光モードが **i-TTL**、**M** の場合のみ動作します。
4 発光モードが **i-TTL** の場合のみ動作します。

SB-500

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	✓[1]
		スタンダード i-TTL 調光	✓
	A	絞り連動外部自動調光	—
	A	外部自動調光	—
	GN	距離優先マニュアル発光	—
	M	マニュアル発光	✓[2]
	RPT	リピーティングフラッシュ	—

使用できる機能		
光制御アドバンストワイヤレスライティング		
マスターフラッシュ		
リモートフラッシュへの発光指示		✓[2]
i-TTL	i-TTL 調光	✓[2]
[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	—
㊎A	絞り連動外部自動調光	—
A	外部自動調光	—
M	マニュアル発光	✓[2]
RPT	リピーティングフラッシュ	—
リモートフラッシュ		
i-TTL	i-TTL 調光	✓
[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	✓
㊎A/A	絞り連動外部自動調光/外部自動調光	—
M	マニュアル発光	✓
RPT	リピーティングフラッシュ	✓
電波制御アドバンストワイヤレスライティング		—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）		✓
発光色温度情報伝達（LED ライト）		✓
オート FP ハイスピードシンクロ		✓[3]
FV ロック		✓[4]
赤目軽減発光		✓

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	✓
ユニファイドフラッシュコントロール	✓
カメラからのスピードライトファームアップ	✓

1 スポット測光時は設定できません。
2 カメラの［**フラッシュ発光**］で設定できます。
3 発光モードが **i-TTL**、**M** の場合のみ動作します。
4 発光モードが **i-TTL** の場合のみ動作します。

SB-R200

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	—
		スタンダード i-TTL 調光	—
	A	絞り連動外部自動調光	—
	A	外部自動調光	—
	GN	距離優先マニュアル発光	—
	M	マニュアル発光	—
	RPT	リピーティングフラッシュ	—

使用できる機能			
光制御アドバンストワイヤレスライティング			
	マスターフラッシュ		
		リモートフラッシュへの発光指示	—
		i-TTL i-TTL 調光	—
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	—
		㊎A 絞り連動外部自動調光	—
		A 外部自動調光	—
		M マニュアル発光	—
		RPT リピーティングフラッシュ	—
	リモートフラッシュ		
		i-TTL i-TTL 調光	✓
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	✓
		㊎A/A 絞り連動外部自動調光/外部自動調光	—
		M マニュアル発光	✓
		RPT リピーティングフラッシュ	—
電波制御アドバンストワイヤレスライティング			—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）			—
発光色温度情報伝達（LED ライト）			—
オート FP ハイスピードシンクロ			✓[1]
FV ロック			✓[2]
赤目軽減発光			—

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	✓
ユニファイドフラッシュコントロール	—
カメラからのスピードライトファームアップ	—

1 発光モードが **i-TTL**、**M** の場合のみ動作します。
2 発光モードが **i-TTL** の場合のみ動作します。

SB-400

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	✓[1]
		スタンダード i-TTL 調光	✓
	㊊A	絞り連動外部自動調光	—
	A	外部自動調光	—
	GN	距離優先マニュアル発光	—
	M	マニュアル発光	✓[2]
	RPT	リピーティングフラッシュ	—

使用できる機能		
光制御アドバンストワイヤレスライティング		
マスターフラッシュ		
リモートフラッシュへの発光指示		—
i-TTL	i-TTL 調光	—
[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	—
㊎A	絞り連動外部自動調光	—
A	外部自動調光	—
M	マニュアル発光	—
RPT	リピーティングフラッシュ	—
リモートフラッシュ		
i-TTL	i-TTL 調光	—
[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	—
㊎A/A	絞り連動外部自動調光/外部自動調光	—
M	マニュアル発光	—
RPT	リピーティングフラッシュ	—
電波制御アドバンストワイヤレスライティング		—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）		✓
発光色温度情報伝達（LED ライト）		—
オート FP ハイスピードシンクロ		—
FV ロック		✓[3]
赤目軽減発光		✓

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	—
ユニファイドフラッシュコントロール	✓
カメラからのスピードライトファームアップ	—

1 スポット測光時は設定できません。
2 カメラの［**フラッシュ発光**］で設定できます。
3 発光モードが **i-TTL** の場合のみ動作します。

SB-300

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	✓[1]
		スタンダード i-TTL 調光	✓
	㊎A	絞り連動外部自動調光	—
	A	外部自動調光	—
	GN	距離優先マニュアル発光	—
	M	マニュアル発光	✓[2]
	RPT	リピーティングフラッシュ	—

使用できる機能		
光制御アドバンストワイヤレスライティング		
マスターフラッシュ		
リモートフラッシュへの発光指示		—
i-TTL	i-TTL 調光	—
[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	—
㊎A	絞り連動外部自動調光	—
A	外部自動調光	—
M	マニュアル発光	—
RPT	リピーティングフラッシュ	—
リモートフラッシュ		
i-TTL	i-TTL 調光	—
[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	—
㊎A/A	絞り連動外部自動調光/外部自動調光	—
M	マニュアル発光	—
RPT	リピーティングフラッシュ	—
電波制御アドバンストワイヤレスライティング		—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）		✓
発光色温度情報伝達（LED ライト）		—
オート FP ハイスピードシンクロ		—
FV ロック		✓[3]
赤目軽減発光		—

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	—
ユニファイドフラッシュコントロール	✓
カメラからのスピードライトファームアップ	✓

1 スポット測光時は設定できません。
2 カメラの［**フラッシュ発光**］で設定できます。
3 発光モードが **i-TTL** の場合のみ動作します。

SU-800 について

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800 は、ワイヤレスで SB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200 を制御するコマンダーです。スピードライトを 3 つのグループに分けて光制御できます。SU-800 には発光機能はありません。

使用できる機能			
1 灯			
	i-TTL	i-TTL-BL 調光	—
		スタンダード i-TTL 調光	—
	㊎A	絞り連動外部自動調光	—
	A	外部自動調光	—
	GN	距離優先マニュアル発光	—
	M	マニュアル発光	—
	RPT	リピーティングフラッシュ	—

使用できる機能			
光制御アドバンストワイヤレスライティング			
	マスターフラッシュ		
		リモートフラッシュへの発光指示	✓
		i-TTL i-TTL 調光	—
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	✓[1]
		㊎A 絞り連動外部自動調光	—
		A 外部自動調光	—
		M マニュアル発光	—
		RPT リピーティングフラッシュ	—
	リモートフラッシュ		
		i-TTL i-TTL 調光	—
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	—
		㊎A/A 絞り連動外部自動調光/外部自動調光	—
		M マニュアル発光	—
		RPT リピーティングフラッシュ	—
電波制御アドバンストワイヤレスライティング			—
発光色温度情報伝達（フラッシュ）			—
発光色温度情報伝達（LED ライト）			—
オート FP ハイスピードシンクロ			✓[2]
FV ロック			✓[3]
赤目軽減発光			—

使用できる機能	
カメラ起動モデリング発光	✓
ユニファイドフラッシュコントロール	—
カメラからのスピードライトファームアップ	—

1 クローズアップ撮影時のみ設定できます。
2 リモートフラッシュの発光モードが **RPT** の場合は動作しません。
3 リモートフラッシュの発光モードが **i-TTL**、「モニター発光あり」の **Ⓐ A** の場合のみ動作します。

スピードライト使用時のご注意とヒント

スピードライトをお使いになる前に、必ず各スピードライトの説明書も併せてご覧ください。

- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラは SB-80DX、SB-28DX、SB-50DX の説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTL や外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後に ϟ（レディーライト）が約 3 秒間点滅して露出アンダー警告を行います。
- i-TTL モード時の ISO 感度連動範囲は ISO 64～12800 相当です。
- ISO 感度を 12800 よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- 撮影モードが **P** の場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO 感度と開放側の限界絞り（F）							
100	**200**	**400**	**800**	**1600**	**3200**	**6400**	**12800**
4	5	5.6	7.1	8	10	11	13

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライト SB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400 の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- パワーアシストパック SD-8A または SD-9 をカメラに固定した状態でフラッシュ撮影をすると、筋状のノイズが写り込むことがあります。その場合は、ISO 感度を下げるか、SD-8A または SD-9 をカメラから離してお使いください。
- AF 補助光の照射条件が満たされると、カメラの AF 補助光を自動的に照射します。スピードライトの AF 補助光は照射されません。
- i-TTL モード時に、調光コード SC-17、SC-28、SC-29 を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダード i-TTL 調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダード i-TTL 調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTL モード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

スピードライトを使用した撮影の制限について

次の場合など、スピードライトとは同時に使用できない機能や設定があります。

- サイレントモード
- 動画撮影
- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」撮影
- HDR 合成

別売スピードライトの FV ロックについて

- 別売のスピードライトの発光モードが TTL、「モニター発光あり」の ㊎**A** または「モニター発光あり」の **A** のいずれかにセットされている場合は、FV ロックを行えます（別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの説明書をご覧ください）。
- 増灯時に FV ロックを使用する場合は、主灯（マスターフラッシュ）または補助灯（リモート）グループのうち、少なくとも 1 グループの発光モードを **TTL**、㊎**A** または **A** のいずれかにセットしてください。

その他のスピードライトとの組み合わせで使用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト	使用できる機能
SB-80DX、SB-28DX、SB-28、SB-26、SB-25、SB-24	外部自動調光、マニュアル発光、マルチフラッシュ、後幕シンクロ [1]
SB-50DX、SB-23、SB-29、SB-21B、SB-29S	マニュアル発光、後幕シンクロ [1]
SB-30、SB-27[2]、SB-22S、SB-22、SB-20、SB-16B、SB-15	外部自動調光、マニュアル発光、後幕シンクロ [1]

1 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

2 このカメラと SB-27 を組み合わせると自動的に **TTL** モードになりますが、**TTL** モードでは使えません。SB-27 を **A** モードに設定し直してください。

スピードライトの FV ロック時の測光エリアについて

スピードライトを使用した FV ロック時の測光エリアは次のようになります。

- 1 灯撮影時

発光モード	測光エリア
i-TTL モード	画面中央⌀6 mm 相当
絞り連動外部自動調光（㊎**A**）	スピードライトの外部測光エリア

- 増灯撮影時

発光モード	測光エリア
i-TTL モード	全画面
絞り連動外部自動調光（㊎**A**）	スピードライトの外部測光エリア
外部自動調光（**A**）	

別売スピードライトの調光補正について

i-TTL 調光時および絞り連動外部自動調光（㊎**A**）時に、静止画撮影メニュー［**フラッシュ調光補正**］で設定した調光補正と、スピードライト本体または静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］で設定した調光補正を同時に行う場合、両方の補正値を加算します。

ヒント：モデリング発光について

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト装着時には、カスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］で［**プレビュー**］を割り当てたボタンを押すとモデリング発光が行われます。
- アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われ、照射光の効果を簡単に確認できます。
- 照射光による影の効果は、撮影画面よりも被写体を見て確認することをおすすめします。
- プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニュー e5［**モデリング発光**］を［**OFF**］に設定してください。

ヒント：スタジオ用フラッシュを使う場合

カスタムメニュー d9［**ビューモード設定（静止画 Lv）**］を［**見やすさを重視**］に設定すると、撮影画面が見やすい色味や明るさで表示され、構図の確認などがしやすくなります。

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。

使用できるアクセサリーについて
- 国または地域によって、販売していないまたは販売が終了している場合があります。
- アクセサリーの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

- **電源**
  - **Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c**：ニコンデジタルカメラ Z 8 用のバッテリーです。
    - EN-EL15c の代わりに EN-EL15b/EN-EL15a も使えます。ただし、EN-EL15c を使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します（🕮 944）。
  - **バッテリーチャージャー MH-25a**：Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c 用のチャージャーです。
  - **バッテリーチャージャー MH-34**：Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c 用のチャージャーです。AC アダプター EH-8P を接続して、バッテリーを充電できます。
    - EH-8P と接続するには、別売の USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）が必要です。
  - **本体充電 AC アダプター EH-7P/AC アダプター EH-8P**：バッテリーを挿入したカメラ本体の USB 充給電専用端子に接続して、バッテリーを充電できます。
    - カメラの電源が ON の場合は充電できません。
    - EN-EL15a を使用している場合は、EH-7P または EH-8P での充電はできません。
    - セットアップメニュー［**USB 給電**］が［**ON**］の場合、カメラに給電できます。詳しくは「USB 給電」（🕮 784）をご覧ください。
    - EH-8P を使用してバッテリーの充電またはカメラへの給電を行うには、別売の USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）が必要です。
  - **パワーコネクター EP-5B、AC アダプター EH-5d**※：AC アダプター EH-5d を使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。
    - このカメラは、カメラ本体と AC アダプター EH-5d を接続するためにパワーコネクター EP-5B が必要です。カメラとパワーコネクター EP-5B、AC アダプター EH-5d を接続する方法については、「カメラとパワーコネクター EP-5B、AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b の接続方法」（🕮 909）をご覧ください。
    - EH-5d の代わりに EH-5c/EH-5b も使えます。

    ※ 日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。
  - **パワーバッテリーパック MB-N12**：ニコンデジタルカメラ Z 8 用のバッテリーパックです。カメラ本体に取り付けて、Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c（最大 2 個）を電源として使用できます。
    - 縦位置撮影用の各種ボタン、コマンドダイヤル、マルチセレクターが装備されています。
    - EN-EL15c の代わりに EN-EL15b/EN-EL15a も使えます。ただし、EN-EL15c を使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します（🕮 944）。

- 本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使って、バッテリーパック内のバッテリーへの充電やバッテリーパックを取り付けたままカメラへの給電ができます。
- バッテリーパックのカメラへの取り付け方と取り外し方、詳しい使い方、および取り扱い上のご注意については、「別売パワーバッテリーパック MB-N12 について」（🕮 891）をご覧ください。

● フィルター

- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、ニュートラルカラー NC をお使いください。
- 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。
- 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、マルチパターン測光の効果が得られない場合があります。その場合、測光モードを［**中央部重点測光**］に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの説明書をご覧ください。
- 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやピント表示（●）が行えないことがありますのでご注意ください。

● 10 ピンターミナルに接続するアクセサリー

10 ピンターミナルに次のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などができます。

使用しない場合は、必ず 10 ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

- **リモートコード MC-22、MC-22A（長さ：約 1 m）**：コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。
- **リモートコード MC-30、MC-30A（長さ：約 80 cm）**：カメラブレを避けたいときや、カメラから離れてレリーズ操作をしたいときに便利です。
- **リモートコード MC-36、MC-36A（長さ：約 85 cm）**：一定間隔で撮影するインターバルタイマー機能を備えたリモート撮影用コードです。
- **延長コード MC-21、MC-21A（長さ：約 3 m）**：MC-20、MC-22、MC-22A、MC-23、MC-23A、MC-25、MC-25A、MC-30、MC-30A、MC-36、MC-36A、ML-3 に併用できる延長コードです（MC-21 または MC-21A を 2 本以上接続して使用することはできません）。
- **接続コード MC-23、MC-23A（長さ：約 40 cm）**：10 ピンターミナルを装備するカメラを 2 台同時に作動させるための接続コードです。
- **変換コード MC-25、MC-25A（長さ：約 20 cm）**：2 ピンターミナル用のラジオコントロールセット MW-2 や、インターバロメーター MT-2、ルミコントロールセット ML-2 などを、10 ピンターミナルに接続するための変換コードです。
- **WR 用変換アダプター WR-A10**：ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 を 10 ピンターミナル装備のカメラに装着するためのアダプターです。

- **ルミコントロールセット ML-3**：最大で約 8m 離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔操作ができます。

● **USB ケーブル**

- **USB ケーブル UC-E24**：カメラ側が Type-C、USB 機器側が Type-A の USB ケーブルです。
- **USB ケーブル UC-E25**：両端が Type-C の USB ケーブルです。

● **ホットシューアダプター**

ホットシューアダプター AS-15：アクセサリーシューに装着すると、シンクロターミナルを利用してスタジオ用フラッシュなどを接続できます。

● **アクセサリーシューカバー**

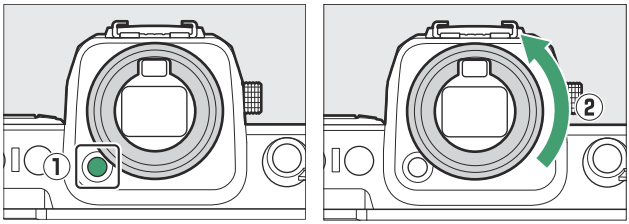
アクセサリーシューカバー BS-1：スピードライトを取り付けるアクセサリーシューを保護するためのカバーです。

● **ボディーキャップ**

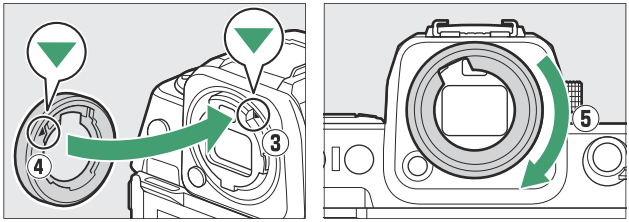
ボディーキャップ BF-N1：レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

● **ファインダー用アクセサリー**

接眼目当て DK-33：このカメラに標準で装着されている接眼目当てです。接眼目当て取り外しボタン（①）を押しながら、接眼目当てを矢印（②）の方向に回すと取り外せます。



取り付ける場合はカメラの指標（③）と接眼目当ての裏にある指標（④）を合わせ、カチッと音がするまで接眼目当てを矢印（⑤）の方向に回します。



- **スピードライト**
  - **スピードライト SB-5000/SB-910/SB-900/SB-800/SB-700/SB-600/SB-500/SB-400/SB-300/SB-R200**：カメラに装着してフラッシュ撮影できます。お使いのスピードライトによっては、カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影することもできます。
    - スピードライトの装着方法については、お使いになる各スピードライトの説明書をご覧ください。
    - スピードライトの詳しい使い方や機能については、「別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影）」（🕮 379）、「増灯撮影とは」（🕮 388）、「使用できるスピードライト」（🕮 860）をご覧ください。
  - **ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800**：ワイヤレスで SB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200 を制御するコマンダーです。スピードライトを 3 つのグループに分けて光制御できます。SU-800 には発光機能はありません。

- **マウントアダプター**

  マウントアダプター FTZ II/FTZ：F マウント用の NIKKOR レンズを Z マウントのレンズ交換式デジタルカメラに取り付けるためのアダプターです。

  - マウントアダプターのカメラへの取り付け方と取り外し方、マウントアダプターのお手入れと取り扱い上のご注意については、マウントアダプターの説明書をご覧ください。

    ※ マウントアダプターをカメラに装着したときに、バージョンアップを促す警告メッセージがカメラに表示された場合は、最新版にバージョンアップしてください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

- **外部マイク**
  - **ステレオマイクロホン ME-1**：ステレオマイクロホン ME-1 を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画記録中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを軽減できます。
  - **ワイヤレスマイクロホン ME-W1**：Bluetooth 無線通信技術を搭載したワイヤレスマイクロホンです。カメラの動画撮影時に離れた場所の音声を収音できます。

- **ワイヤレスリモートコントローラー**
  - **ワイヤレスリモートコントローラー WR-R11a/WR-R10/WR-T10**
    - WR-R11a を 10 ピンターミナルに取り付けるか、WR-R10 を 10 ピンターミナルに接続した WR 用変換アダプター WR-A10 に取り付けると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10 からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。
    - WR-R11a/WR-R10 を使用して、電波制御に対応したスピードライトを制御することもできます。
  - **ワイヤレスリモートコントローラー WR-1**：WR-1 は、他の WR-1 や WR-R11a/WR-R10 または WR-T10 と組み合わせて、送信機または受信機として使います。WR-R11a/WR-R10 または受信機に設定した WR-1 をカメラの 10 ピンターミナルに取り付けると、送信機に設定した WR-1 からの操作で、遠隔撮影したりカメラの設定を変更したりすることができます。WR-1 のファームウェアは Ver1.0.4 以降の最新版にバージョンアップしてください。

    ※ WR-R10 と組み合わせてワイヤレスリモートコントローラーをお使いいただく場合は、WR-R10 のファームウェアを Ver.3.0 以降にバージョンアップしてください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。WR-R10 のファームウェアを Ver.2.0 以前から Ver.3.0 以降にバージョンアップする場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

- **リモートグリップ**

  リモートグリップ MC-N10：MC-N10 をカメラに接続すると、撮影や設定変更などの操作を MC-N10 で行うことができます。MC-N10 は、市販の撮影用機器に取り付けるためのロゼットを備えています。MC-N10 を ARRI 互換のロゼットアダプターが付いている撮影用機器に固定すると、被写体の動きに合わせてパンニングしながらピントを合わせたり、カメラに触れることなく手元で露出やホワイトバランスを調整したりできます。

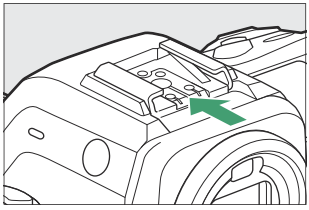
バッテリーの充電方法について

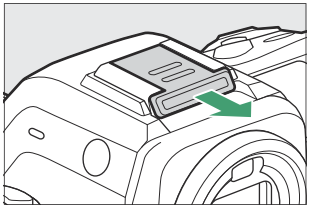
本製品で使用可能なバッテリーを充電できる機器は次の通りです。

バッテリー	バッテリーチャージャー		本体充電 AC アダプター EH-7P/AC アダプター EH-8P
	MH-25a	MH-34	
EN-EL15c	✓	✓	✓
EN-EL15b	✓	✓	✓
EN-EL15a	✓	—	—

アクセサリーシューカバーの取り付けおよび取り外し方

アクセサリーシューカバー BS-1 を取り付けるには、カバーを図のようにカメラのアクセサリーシューに差し込みます。取り外すときは、カメラをしっかりと支えて、カバー全体を親指で押さえながら矢印の方向にスライドさせます。

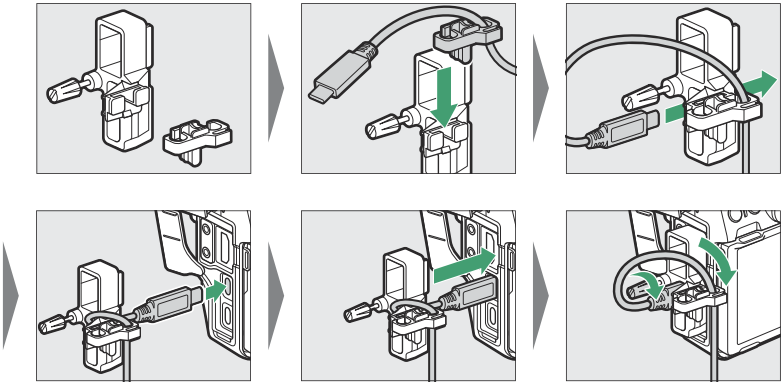


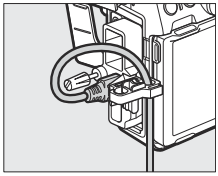


HDMI/USB ケーブルクリップについて

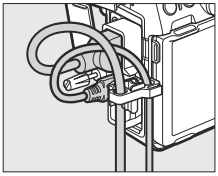
付属の HDMI/USB ケーブルクリップを取り付けると、カメラから HDMI ケーブルや USB ケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます（ケーブルによっては使用できない場合があります）。

- ここでは USB ケーブルを使って説明しています。HDMI ケーブルをお使いの場合、HDMI/USB ケーブルクリップのもう一方の穴に通してください。
- HDMI/USB ケーブルクリップを使用するときは、画像モニターを収納してください。





USB ケーブルを使用する場合

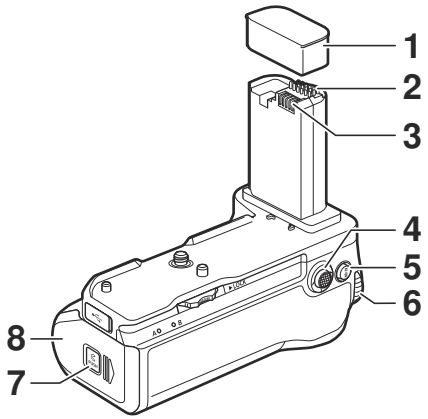


HDMI ケーブルと USB ケーブルを同時に使用する場合

別売パワーバッテリーパック MB-N12 について

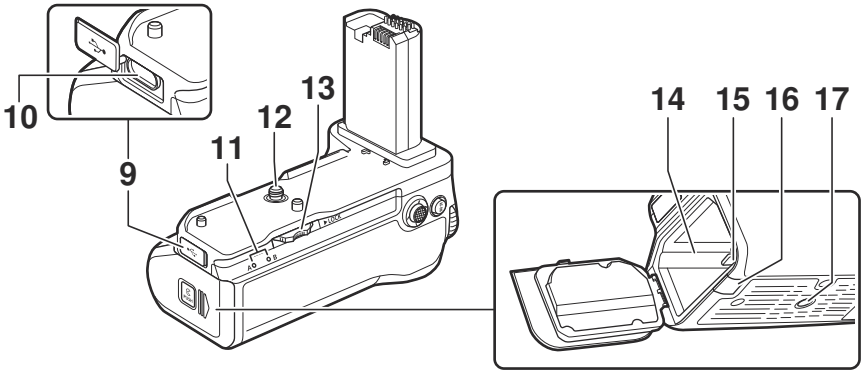
各部の名称と機能

MB-N12 の各部の名称と機能は次の通りです。

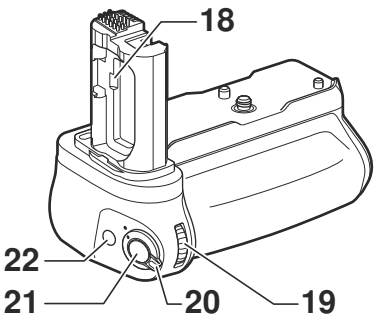


1	**接点端子キャップ**	MB-N12 の電源接点/信号接点を保護します。
2	**信号接点**	—
3	**電源接点**	—
4	**縦位置マルチセレクター**	対応するカメラのマルチセレクターと同じ機能になります。撮影時に中央を押したときの機能は、カメラのカスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］または g2［**カスタムボタンの機能**］で変更できます。
5	**縦位置 AF-ON ボタン**	カメラのカスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］または g2［**カスタムボタンの機能**］で機能を変更できます。
6	**縦位置メインコマンドダイヤル**	対応するカメラ本体の操作部と同じ機能になります。

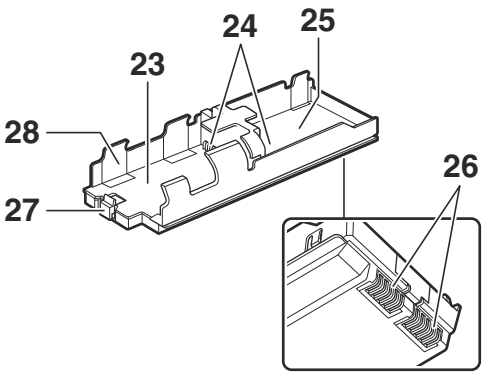
7	**バッテリー室カバーロック解除ボタン**	「MB-N12 にバッテリーを入れる」(🕮 897)、「バッテリー室カバーが外れたときは」(🕮 907)
8	**バッテリー室カバー**	



9	**充電用端子カバー**	別売の本体充電 AC アダプター EH-7P、または別売の AC アダプター EH-8P と接続した USB ケーブル UC-E25 を接続すると、バッテリーの充電またはカメラへの給電ができます。
10	**充電用端子**	
11	**充電状態表示ランプ（2 カ所）**	バッテリー充電中に点灯します。
12	**カメラ取り付けネジ**	MB-N12 をカメラに取り付けるときに使用します。
13	**カメラ取り付けノブ**	
14	**バッテリー室**	バッテリーホルダーを入れます。
15	**バッテリーホルダーロック**	MB-N12 に入れたバッテリーホルダーを固定します。
16	**パワーコネクターカバー**	別売のパワーコネクター EP-5B 装着時に使用します。
17	**三脚ネジ穴**	—



18	**カメラ用バッテリー室カバーホルダー**	取り外したカメラのバッテリー室カバーを収納します。
19	**縦位置サブコマンドダイヤル**	対応するカメラ本体の操作部と同じ機能になります。
20	**ロックスイッチ**	誤作動を防ぐため、MB-N12 の各ボタンやダイヤル、マルチセレクターをロックできます。 • ロックスイッチは電源スイッチではありません。カメラの電源の ON/OFF はカメラ本体の電源スイッチで切り換えてください。
21	**縦位置シャッターボタン**	対応するカメラ本体の操作部と同じ機能になります。
22	**縦位置 Fn ボタン**	カメラのカスタムメニュー f2［**カスタムボタンの機能（撮影）**］、f3［**カスタムボタンの機能（再生）**］、g2［**カスタムボタンの機能**］で機能を変更できます。



23	**バッテリー装着部 A**	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c を 1 個装着できます。
24	**バッテリー電源接点（2 カ所）**	「MB-N12 にバッテリーを入れる」（🕮 897）
25	**バッテリー装着部 B**	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c を 1 個装着できます。
26	**バッテリーホルダー電源接点**	「MB-N12 にバッテリーを入れる」（🕮 897）
27	**バッテリーロック**	バッテリー装着部 A に装着したバッテリーを固定します。
28	**バッテリーホルダー**	「MB-N12 にバッテリーを入れる」（🕮 897）

カメラに MB-N12 を取り付ける

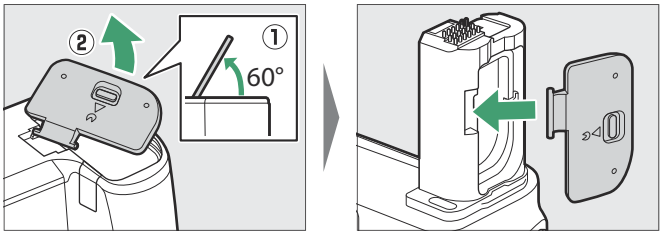
MB-N12 を取り付ける前に、カメラの電源を OFF にしてください。また、取り付け中の誤操作を防ぐため、取り付けが完了するまで MB-N12 のロックスイッチを **L**（ロック）側にセットしてください。

1 MB-N12 の接点端子キャップを取り外す

取り外した接点端子キャップはなくさないように保管してください。

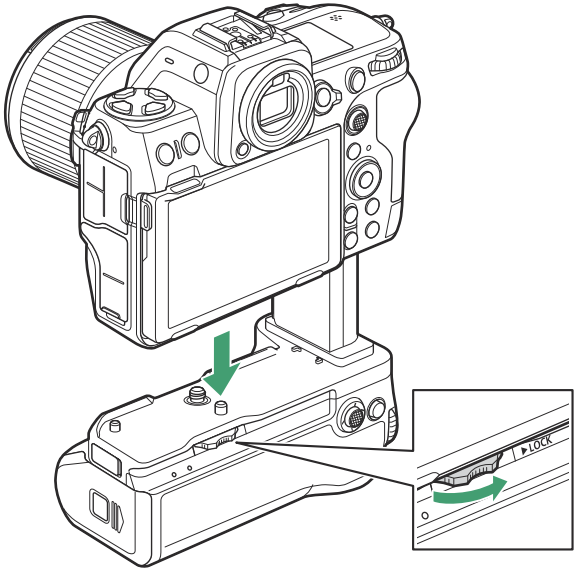
2 カメラの底面にあるバッテリー室カバーを取り外して、MB-N12 のカメラ用バッテリー室カバーホルダーに収納する

カメラにバッテリーが入っている場合は、バッテリーを取り出してください。



3 MB-N12 をカメラに取り付ける

カメラ取り付けノブを ▶**LOCK** の指標の方向に回して固定します。しっかりと固定されるまでカメラ取り付けノブを回してください。



- MB-N12 がカメラにしっかりと取り付けられていない場合、カメラの撮影画面に警告メッセージが表示されることがあります。その場合、しっかりと固定されるまでカメラ取り付けノブを回すことで解決することがあります。

カメラから MB-N12 を取り外す

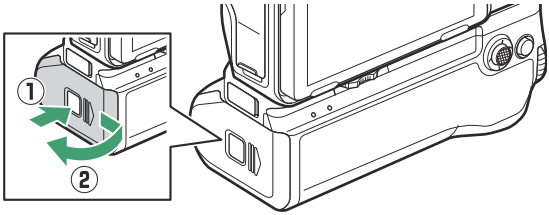
MB-N12 をカメラから取り外す場合は、カメラの電源を OFF にして、カメラ取り付けノブを装着時と反対方向に回します。MB-N12 をカメラから取り外したあとは、カメラ用バッテリー室カバーホルダーに収納しておいたバッテリー室カバーをカメラに取り付けます。

- MB-N12 をカメラに取り付けていないときには、必ず接点端子キャップを MB-N12 に取り付けてください。

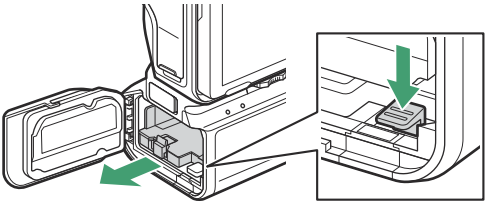
MB-N12 にバッテリーを入れる

MB-N12 は、Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c（最大 2 個）を使用します。バッテリーを入れる前に、カメラの電源を OFF にしてください。また、バッテリー交換中の誤操作を防ぐため、交換が完了するまで MB-N12 のロックスイッチを **L**（ロック）側にセットしてください。

1 バッテリー室カバーロック解除ボタンを押しながら、バッテリー室カバーをスライドさせて開ける

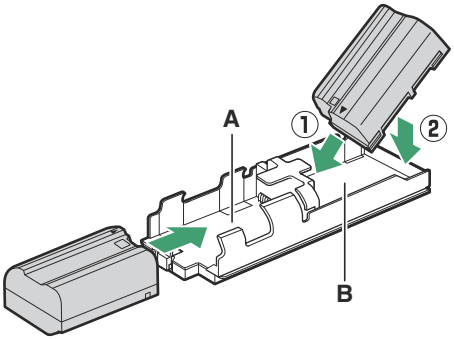


2 バッテリーホルダーロックを矢印の方向に押して、バッテリーホルダーを取り出す



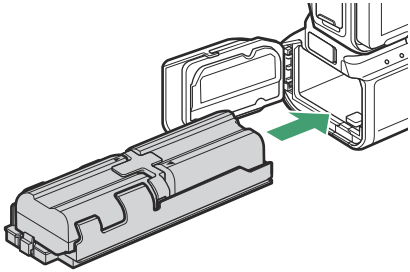
3 バッテリーホルダーにバッテリーを装着する

図のようにバッテリーを装着します。装着部 A のバッテリーは、バッテリーロックで固定されるまで奥に入れてください。

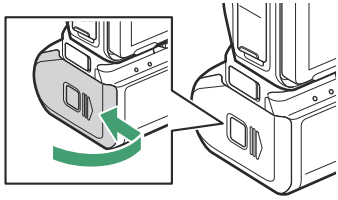


4 バッテリーホルダー電源接点をバッテリー室の奥に向けて、バッテリーホルダーを入れる

バッテリーホルダーロックをバッテリーホルダー底面で押しながら、バッテリーホルダーを入れます。バッテリーホルダーロックで固定されるまで奥に入れてください。

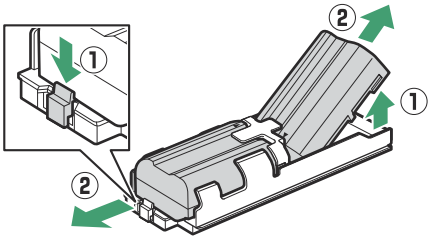


5 バッテリー室カバーを押さえながら、スライドさせて閉じる



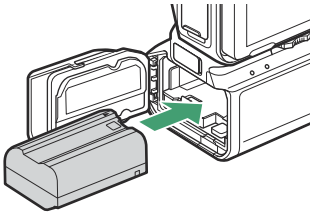
ヒント：バッテリーを取り外す

バッテリーホルダーを取り出した後、図のように取り外してください。

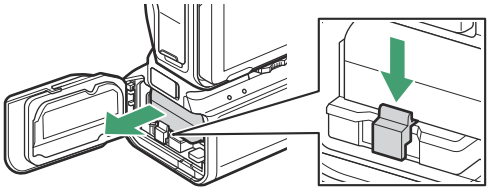


ヒント：バッテリー装着部 A のバッテリーのみ交換する

- バッテリー装着部 A は、バッテリーホルダーを取り出さずにバッテリーを交換できます。バッテリーを装着するときは、バッテリーがバッテリーロックで固定されるまで奥に入れてください。

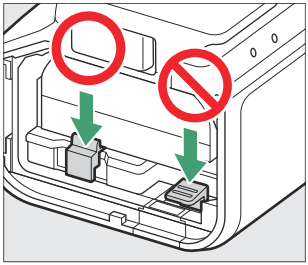


- 取り出すときは、バッテリーロックを図の矢印の方向に押し、バッテリーを引き抜いてください。



ヒント：撮影を中断せずにバッテリーを交換する

バッテリーを 2 個装着している場合、カメラの電源を ON にしたまま装着部 A のバッテリーを交換することができます。長時間カメラを使用する場合に便利です。バッテリーを交換するときに、誤ってバッテリーホルダーロックを押してバッテリーホルダーを取り出さないようにご注意ください。



ヒント：カメラへの電力供給（給電）について

- バッテリーを 1 個だけ装着する場合、バッテリー装着部 A または B のどちらに装着してもカメラに電源を供給できます。
- バッテリーを 2 個装着する場合、カメラは装着部 A のバッテリーから使用します。装着部 A のバッテリーの残量が無くなると装着部 B のバッテリーに切り替わります。

ヒント：使用できるバッテリーについて

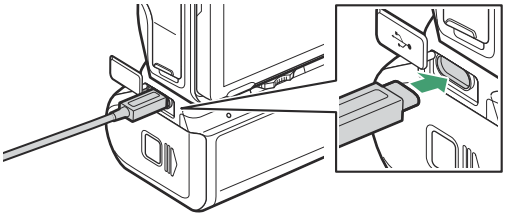
EN-EL15c の代わりに EN-EL15b/EN-EL15a も使えます。ただし、EN-EL15c を使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。

別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使ってバッテリーを充電する

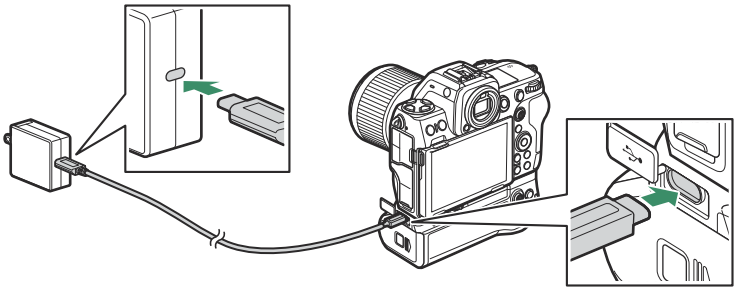
別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使って、MB-N12 に装着したバッテリーを充電できます。バッテリーの充電は MB-N12 をカメラに取り付けていなくても可能です。

1 **本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を MB-N12 の充電用端子に接続する**

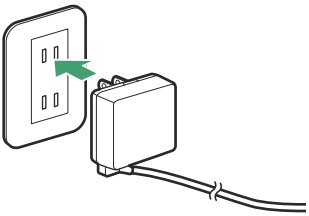
EH-7P の場合：EH-7P を MB-N12 の充電用端子に接続します。



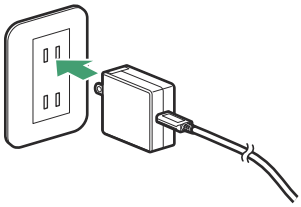
EH-8P の場合：別売の USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）を AC アダプター EH-8P に接続し、ケーブルの反対側の端子を MB-N12 の充電用端子に接続します。



2 EH-7P または EH-8P を家庭用コンセントにつなぐ

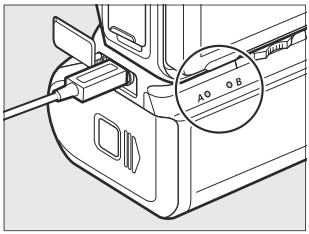


EH-7P



EH-8P

- カメラの電源が OFF の間、充電を行います。半押しタイマーがオフの間も充電を行います。
- 充電中は、充電しているバッテリー側の充電状態表示ランプが点灯します。充電が終わると、充電状態表示ランプが消灯します。



- バッテリー 2 個のフル充電までに約 5 時間かかります（それぞれ残量のないバッテリーの場合）。
- バッテリーが 2 個入っている場合、バッテリー装着部 B のバッテリーから充電します。

3 充電が終わったら EH-7P または EH-8P をコンセントから外し、MB-N12 の充電用端子からケーブルを外す

バッテリー充電時のご注意

- MB-N12 をカメラに装着しているときは、ケーブルをカメラの USB 充給電専用端子に接続しても、バッテリーの充電はできません。ケーブルは MB-N12 の充電用端子に接続してください。
- EH-7P または EH-8P を使って充電できるバッテリーは、EN-EL15c または EN-EL15b のみです。EN-EL15a を使用している場合は、EH-7P または EH-8P での充電はできません。バッテリーチャージャー MH-25a をご使用ください。
- バッテリーパックが高温になった場合や EN-EL15a を充電しようとした場合など、バッテリーの充電エラーが発生したときは充電状態表示ランプが 30 秒間素早く点滅してから消灯します。
- カメラに取り付けずにバッテリーの充電を行う場合は、必ず接点端子キャップを MB-N12 に取り付けてください。

別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使ってカメラに給電する

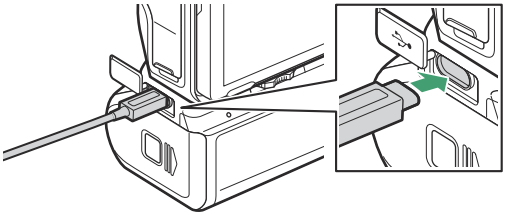
別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を MB-N12 の充電用端子に接続すると、MB-N12 を装着したままカメラに給電できます。

バッテリー給電時のご注意

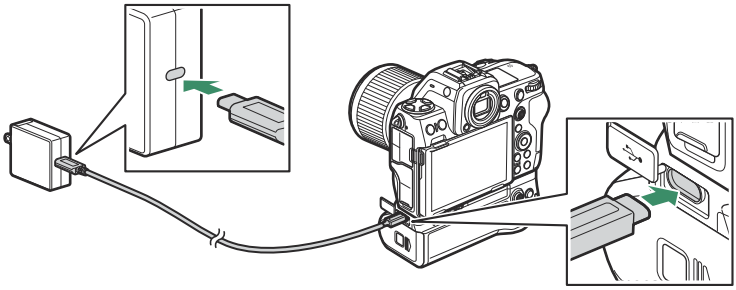
- 給電を行うには、MB-N12 のバッテリー装着部 A および装着部 B のどちらかあるいは両方にバッテリーが装着されている必要があります。EN-EL15c/EN-EL15b/EN-EL15a のいずれを使用しても EH-7P または EH-8P での給電が可能です。
- 給電中はバッテリーの充電は行われません。詳しくは「「給電」と「充電」について」（🕮 785）をご覧ください。

1 カメラの電源が OFF の状態で、本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を MB-N12 の充電用端子に接続する

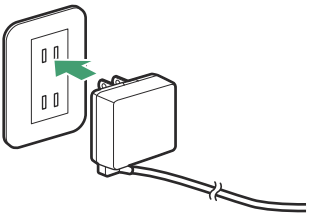
EH-7P の場合：EH-7P を MB-N12 の充電用端子に接続します。



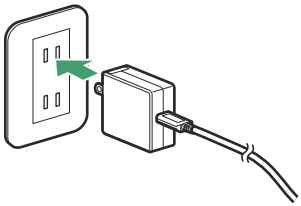
EH-8P の場合：別売の USB ケーブル UC-E25（両端が Type-C）を AC アダプター EH-8P に接続し、ケーブルの反対側の端子を MB-N12 の充電用端子に接続します。



2 EH-7P または EH-8P を家庭用コンセントにつなぐ



EH-7P



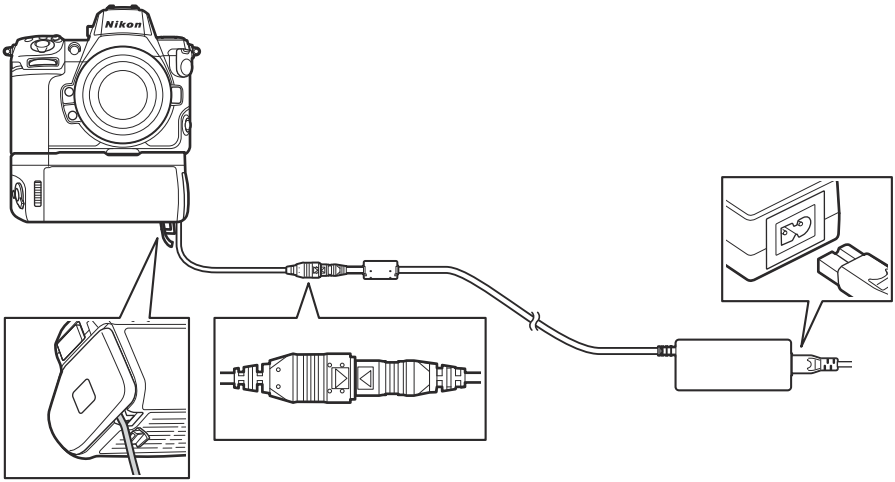
EH-8P

3 カメラの電源を ON にして、セットアップメニュー［USB 給電］を［ON］に設定すると、給電が開始されます。

4 給電を終えるときは、EH-7P または EH-8P をコンセントから外し、MB-N12 の充電用端子からケーブルを外す

別売の AC アダプター EH-5d とパワーコネクター EP-5B で給電する

別売の AC アダプター EH-5d とパワーコネクター EP-5B を使うと、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。MB-N12 と EH-5d を組み合わせて使う場合は、EP-5B をバッテリーホルダーのバッテリー装着部 A に装着してから、EP-5B と EH-5d を接続してください。

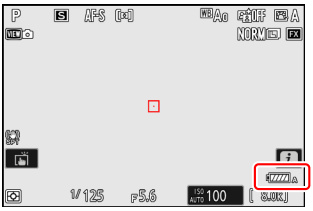


• EH-5d の代わりに EH-5c/EH-5b も使えます。

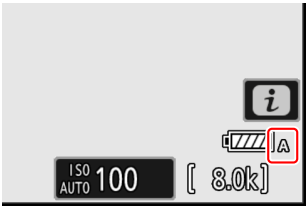
- EP-5B は、装着部 A にのみ装着できます。
- EP-5B を装着してバッテリーホルダーを入れるときは、MB-N12 のパワーコネクターカバーを開けて、EP-5B のコードを通してからバッテリー室カバーを閉めてください。
- 装着部 B にバッテリーを装着する必要はありません。装着部 B にバッテリーを入れた状態で EH-5d と EP-5B でカメラに給電した場合、装着部 B に入れたバッテリーは使用されません。
- EP-5B を装着しているときは、EH-7P または EH-8P を使用した充電および給電はできません。

MB-N12 内のバッテリーの残量を確認する

MB-N12 を取り付けた状態でカメラの電源を ON にすると、撮影画面および表示パネルに現在使用しているバッテリーの残量が表示されます（🕮 79）。



- バッテリー装着部 A、B のどちらに装着されているバッテリーが現在使用されているか、撮影画面に表示されるバッテリー残量表示横のアイコンで確認できます。



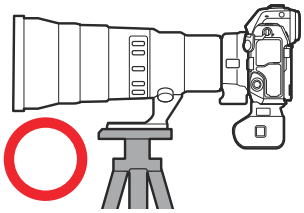
- セットアップメニュー［**電池チェック**］で、より詳細なバッテリー残量やバッテリーの劣化度などを確認できます。



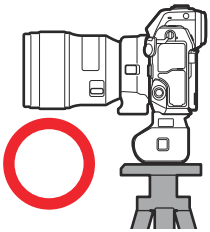
使用上のご注意

MB-N12 使用時には次のことにご注意ください。

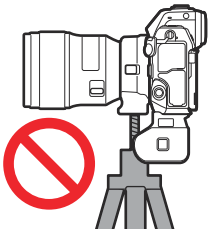
- 金属製品などによりバッテリーパックの電源接点/信号接点がショートするおそれがありますので、バッテリーパックを保管したり、持ち運ぶときは、付属の接点端子キャップを付けてください。
- MB-N12 がカメラにしっかりと取り付けられていない場合、カメラの撮影画面に警告メッセージが表示されることがあります。その場合、しっかりと固定されるまでカメラ取り付けノブを回すことで解決することがあります。
- MB-N12 をカメラに取り付けまたは取り外しする際に、カメラのメモリーカードアクセスランプが点灯することがあります。
- MB-N12 と別売のマウントアダプター FTZ をカメラに装着して三脚を使用する場合は、三脚は FTZ ではなく MB-N12 の三脚ネジ穴またはレンズの三脚座に取り付けてください。



レンズ



MB-N12



FTZ

- MB-N12 に電源スイッチはありません。カメラの電源の ON/OFF は、カメラの電源スイッチを使用してください。

カメラの警告メッセージについて

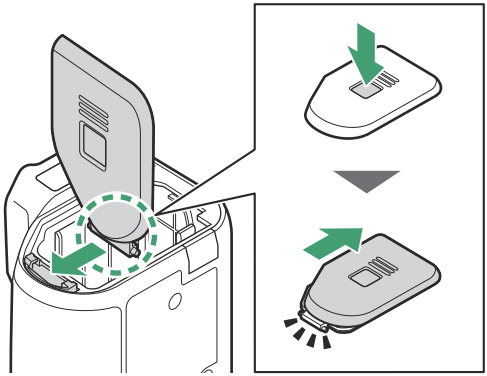
次のような警告メッセージが表示されたときは、下記の対処方法に従ってください。

- [**撮影できません。バッテリーを交換してください。**] と表示されたときは、バッテリーを交換してください。バッテリー装着部 B のバッテリーを交換する場合または装着部 A のみ使用しているときにバッテリーを交換する場合は、カメラの電源を必ず OFF にしてから行ってください。
- [**何らかの異常を検出しました。シャッターボタンを押してリセットしてください。**] と表示されたときは、シャッターボタンを押してください。シャッターボタンを押しても警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。

バッテリー室カバーが外れたときは

バッテリー室カバーが開いている状態でカバーに無理な負荷がかかると、破損防止のため外れる場合があります。バッテリー室カバーが外れた場合は図のように取り付けてください。

- バッテリー室カバーは、あらかじめヒンジが見えている状態にして取り付けてください。



仕様

電源	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c※（最大 2 個） ※ EN-EL15c の代わりに EN-EL15b/EN-EL15a も使えますが、EN-EL15c を使用したときよりも撮影可能コマ数と動画撮影可能時間（電池寿命）が減少します。
充電時間	約 5 時間 • 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使用して EN-EL15c を 2 個充電する場合。残量のない状態からの充電時間（周囲温度 25℃）。
充電用端子	Type-C USB 端子。別売の本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P と接続した USB ケーブル UC-E25 を接続可能※（画像の転送などはできません） ※ EH-7P または EH-8P を使用して充電できるバッテリーは、EN-EL15c または EN-EL15b のみです。
使用温度	−10℃〜40℃
寸法（W×H×D）	約 138.5×113.5×76 mm（突起部除く）
質量	• 約 455 g（EN-EL15c 2 個装着時） • 約 295 g（本体のみ）

※ 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

☑ 低温環境下でのご使用について

低温時（約 10℃以下）に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して温めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

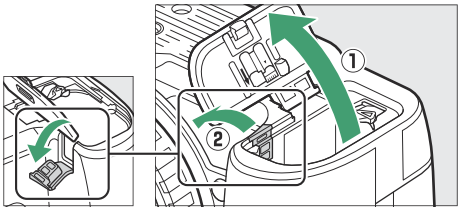
ヒント：バッテリーパック装着時の撮影可能コマ数と動画撮影可能時間（電池寿命）

カメラに別売のバッテリーパックを装着し、フル充電した EN-EL15c を 2 個使用した場合の撮影可能コマ数と動画撮影可能時間（電池寿命）は、カメラ本体のみでお使いの場合の約 1.8 倍です。

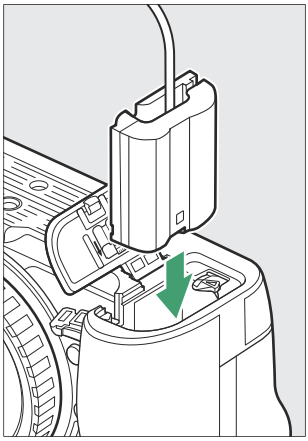
カメラとパワーコネクター EP-5B、AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b の接続方法

カメラとパワーコネクター EP-5B、AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b を接続する前に、カメラ本体の電源が OFF になっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリー室カバー（①）とパワーコネクターカバー（②）を開ける

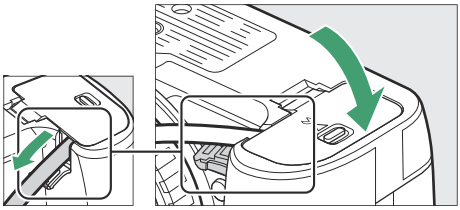


2 パワーコネクター EP-5B を入れる



- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。

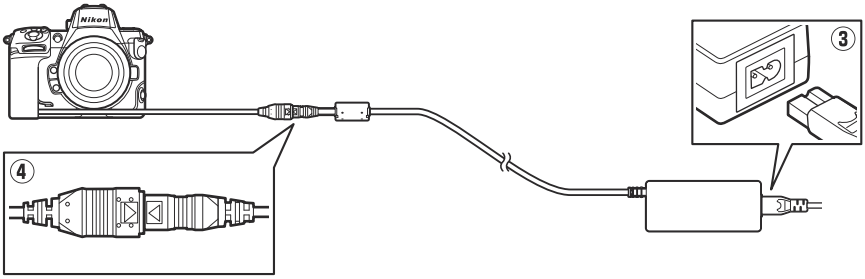
3 カメラのバッテリー室カバーを閉じる



パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。

4 パワーコネクターと AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b を接続する

- 電源コードの AC プラグを、AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b の AC プラグ差し込み口に差し込みます（③）。
- パワーコネクターの DC プラグコネクターに AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b の DC プラグを差し込みます（④）。
- パワーコネクターと AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b の使用時には、撮影画面上のバッテリー残量表示が に変わります。



ソフトウェア/アプリケーション

このカメラで使用できるニコン純正ソフトウェアは次の通りです。詳しくは当社ホームページでご確認ください。

• パソコン用ソフトウェア

パソコン用ソフトウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。

https://downloadcenter.nikonimglib.com/

- **Camera Control Pro 2**（有料）：パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。
- **NX Tether**：パソコンとカメラを接続して撮影する「テザー撮影」ができるソフトウェアです。パソコンの画面上から露出やホワイトバランスなどのカメラの設定をリモート操作で変更することもできます。
- **NX Studio**※：ニコンデジタルカメラで撮影した静止画や動画の閲覧と編集を行うソフトウェアです。ニコン独自の RAW（NEF/NRW）ファイルを調整したり、JPEG、TIFF、HEIF 形式のファイルに変換（RAW 現像）することができます。RAW 画像だけでなく、ニコン製デジタルカメラで撮影した JPEG、TIFF、HEIF の画像についても明るさやコントラスト、トーンカーブなどの豊富な機能を使った調整ができます。

  ※ 最新のバージョンではない場合、カメラの画像が転送できないことや、RAW 画像が開けないことがあります。
- **Wireless Transmitter Utility**：カメラをネットワークに接続する場合に必要なアプリケーションです。カメラとパソコンを無線 LAN または有線 LAN 接続し、Wireless Transmitter Utility を使用してペアリングすると、画像の転送ができるようになります。
- **Webcam Utility**：USB ケーブルでカメラとパソコンを接続して Web カメラとして利用することが可能になるモジュールです。Web 会議ソフトウェアで外部カメラを選択すると「Webcam Utility」と表示されます。選択することで Web カメラとして活用することが可能です。対応カメラや使用方法、動作環境、ご使用時の注意については、ニコンダウンロードセンターの Webcam Utility ページをご確認ください。

- **スマートフォン用アプリ**

  アプリは Apple App Store®または Google Play™ でダウンロードできます。それぞれのアプリの最新情報については当社ホームページでご確認ください。

  - **SnapBridge**：カメラとスマートフォンを無線接続すると、画像や動画をスマートフォンへ送信できます。
  - **NX MobileAir**（アプリ内課金あり）※：カメラで撮影した画像を USB ケーブルで有線接続したスマートフォンにインポートし、スマートフォンから FTP サーバーに無線送信できます。
    ※ 国や地域によって、使用できる機能や対応 OS が異なる場合があります。

カメラのお手入れについて

カメラを長期間保管するときは

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源が OFF になっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。
- 換気の悪い場所や湿度が 60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が 50℃以上、または－20℃以下の場所

クリーニングについて

クリーニングする部分によって方法が異なります。次の方法で行ってください。
- クリーニングするときは、アルコールやシンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

カメラ本体

ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、真水で湿らせた布で砂や塩を軽く拭き取り、よく乾かします。

ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

レンズ・ファインダー

レンズ面は傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズやファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、レンズ面を傷つけないように注意して拭きます。

画像モニター

ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

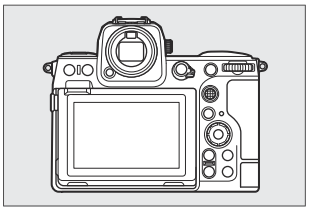
撮像素子のお手入れについて

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

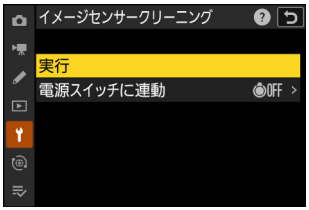
イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源の OFF 時に自動的に行う方法があります。イメージセンサークリーニングでゴミやほこりを取りきれないときは、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

メニューから操作する

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてください。



- セットアップメニュー［**イメージセンサークリーニング**］を選び、［**実行**］を選んで ⓚ ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーや AC アダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

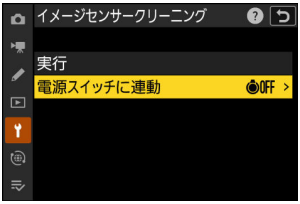


電源 OFF 時にイメージセンサークリーニングする

項目		内容
OFF	［**電源 OFF で実行**］	電源 OFF と同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
［**実行しない**］		電源を OFF にしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

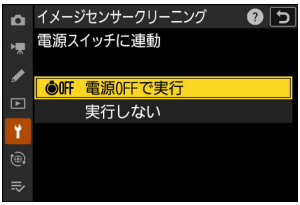
1 ［イメージセンサークリーニング］画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ

［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押すと、［**電源スイッチに連動**］画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

OK ボタンを押して設定します。



イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

撮像素子前面をブロアーで掃除する

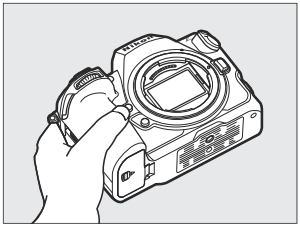
イメージセンサークリーニングでゴミやほこりを取りきれないときは、撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

- セットアップメニュー［**電源 OFF 時のセンサーシールド**］を［**閉じない**］に設定してください。

1 カメラの電源を OFF にしてからレンズを取り外す

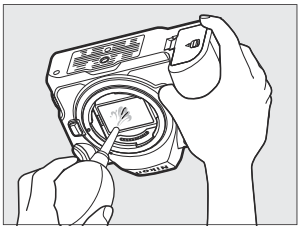
2 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

ゴミやほこりが付いていない場合は、手順 4 にお進みください。



3 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブロアーで払う

- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



4 レンズまたは付属のボディーキャップを付ける

撮像素子前面に付着するゴミなどについて

撮像素子前面には、カメラからレンズまたはボディーキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によっては撮像素子前面に付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディーキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディーキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。撮像素子前面に付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（🕮 914）で取り除ききれないときは、「撮像素子前面をブロアーで掃除する」（🕮 916）の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1〜2 年に 1 度は定期点検を、3〜5 年に 1 度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの使用上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

カメラを寒い場所から暖かい場所、または暖かい場所から寒い場所に持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じて故障の原因となります。温度差のある場所にカメラを持ち込むときは、あらかじめカメラをバッグやポリエチレン袋などに入れて密閉してください。カメラが周囲の温度になじんだら、袋から取り出してお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、静電気が発生する環境では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● カメラやレンズにクレジットカードなどの磁気製品を近づけない

記録内容が壊れることがあります。

● 太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● レーザー光などの光線について

レーザー光などの強い光線がレンズに向けて照射されると、撮像素子が破損を起こすおそれがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

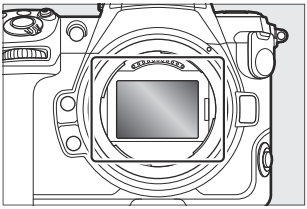
カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● レンズやファインダーのお手入れについて

レンズやファインダーは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズやファインダーを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● 撮像素子に触れない

撮像素子を押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や破損などの原因となります。

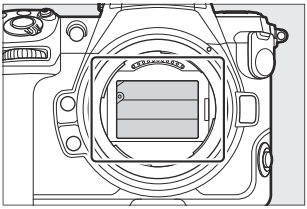


● 撮像素子の手入れ方法について

撮像素子のクリーニングの方法については「撮像素子のお手入れについて」（🕮 914）と「撮像素子前面をブロアーで掃除する」（🕮 916）をご覧ください。

● センサーシールドに触れない

セットアップメニュー［**電源 OFF 時のセンサーシールド**］を［**閉じる**］に設定すると、カメラの電源 OFF 時に撮像素子の前にあるセンサーシールドが閉じます。センサーシールドを押さえたり、突くなどは絶対にしないでください。傷や破損などの原因となります。



• レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。指などが触れないようにご注意ください。

• 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

• 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをポリエチレン袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

• バッテリーや AC アダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源を OFF にする

カメラの電源が ON の状態で、バッテリーを取り出したり、AC アダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

• 画像モニターとファインダーについて

- 画像モニター（ファインダー含む）は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で画像モニターが見えにくい場合があります。
- 画像モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。画像モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、画像モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- ファインダーを見ながら撮影をしている場合に、次のいずれかの症状を感じた時は、使用をやめ、回復するまで休んでください。
  - 吐き気・目の痛み、目の疲れ
  - めまい・頭痛・首の痛み、肩こり
  - 気分が悪い・手と目の感覚のずれ
  - 乗り物酔いの症状
- 連続撮影時に、撮影画面が素早く点灯と消灯を繰りかえすことがあります。このとき、撮影画面を見続けることで体調不良などの症状が起きるおそれがあります。その場合は使用をやめ、回復するまで休んでください。

● 線状のノイズについて

逆光撮影や輝度の高い光源に向けて撮影する場合、まれに撮影した画像上に線状のノイズが発生することがあります。

● 階調モード HLG 設定時のカメラの画像モニター/ファインダーの表示について

階調モードを［**HLG**］に設定すると、カメラの撮影画面または再生画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生したり、高彩度やハイライトの再現性が低下したりする場合があります。また、撮影した静止画をカメラの画像モニターまたはファインダーで 1 コマ表示すると、表示中の画像に階調段差が生じる場合がありますが、撮影した画像には影響ありません。適切な階調を確認するには、HLG に対応したモニター、パソコン、OS、アプリケーションなどをご使用ください。

バッテリーの使用上のご注意

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
  - バッテリーはカメラの電源を OFF にしてから入れる。
  - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
  - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
  - 必ず指定のバッテリーを使う。
  - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
  - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が 15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 長期間保管する場合は、少なくとも 1 年に一回、50%程度まで充電してください。フル充電はしないでください。残量のない状態から 50% 程度まで充電するために必要な時間の目安は、フル充電するときの約半分です。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは－10℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が 5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が 0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が 0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約 5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約 20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。バッテリーを取り出す際はご注意ください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源の ON/OFF を繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 充分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、接点部をビニールテープなどで絶縁しリサイクル協力店へお持ちください。



詳しくは一般社団法人 JBRC ホームページ（https://www.jbrc.com）をご覧ください。

※ 数字の有無と数値は、電池によって異なります。

チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-25a に対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-25a で充電しないでください。
- 落下などによる破損で内部が露出していたり、内部から異音がするような場合は、使用しないでください。
- 製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。
  ～ AC（交流）、⎓ DC（直流）、回 クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

主な仕様

ニコンデジタルカメラ Z 8

型式	
型式	レンズ交換式デジタルカメラ
レンズマウント	ニコン Z マウント
使用レンズ	
使用レンズ	• Z マウント用 NIKKOR レンズ • F マウント用 NIKKOR レンズ（マウントアダプターが必要、一部機能制限あり）
有効画素数	
有効画素数	4571 万画素
撮像素子	
方式	35.9×23.9 mm サイズ CMOS センサー（フルサイズ/FX フォーマット）
総画素数	5237 万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（NX Studio が必要）

記録形式	
記録画素数	• **撮像範囲［FX（36×24）］の場合**： - 8256×5504 ピクセル（サイズ L：45.4 M） - 6192×4128 ピクセル（サイズ M：25.6 M） - 4128×2752 ピクセル（サイズ S：11.4 M） • **撮像範囲［DX（24×16）］の場合**： - 5392×3592 ピクセル（サイズ L：19.4 M） - 4032×2688 ピクセル（サイズ M：10.8 M） - 2688×1792 ピクセル（サイズ S：4.8 M） • **撮像範囲［1:1（24×24）］の場合**： - 5504×5504 ピクセル（サイズ L：30.3 M） - 4128×4128 ピクセル（サイズ M：17.0 M） - 2752×2752 ピクセル（サイズ S：7.6 M） • **撮像範囲［16:9（36×20）］の場合**： - 8256×4640 ピクセル（サイズ L：38.3 M） - 6192×3480 ピクセル（サイズ M：21.5 M） - 4128×2320 ピクセル（サイズ S：9.6 M）
ファイル形式（画質モード）	• **NEF（RAW）**：RAW 14 ビット（ロスレス圧縮、高効率 ★、高効率） • **JPEG**：JPEG-Baseline 準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先または画質優先選択可能 • **HEIF**：圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先または画質優先選択可能 • **NEF（RAW）+JPEG**：RAW と JPEG の同時記録可能 • **NEF（RAW）+HEIF**：RAW と HEIF の同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	オート、スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、フラットモノクローム、ディープトーンモノクローム、ポートレート、リッチトーンポートレート、風景、フラット、Creative Picture Control（ドリーム、モーニング、ポップ、サンデー、ソンバー、ドラマ、サイレンス、ブリーチ、メランコリック、ピュア、デニム、トイ、セピア、ブルー、レッド、ピンク、チャコール、グラファイト、バイナリー、カーボン）、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能 ※ 静止画撮影で階調モード HLG 設定時は、スタンダード、モノクローム、フラットのみ設定可能

記録形式	
記録媒体	CFexpress カード（Type B）、XQD カード、SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード（SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードは UHS-II 規格に対応）
ダブルスロット	メモリーカードの順次記録、バックアップ記録、RAW+JPEG 分割記録、RAW+HEIF 分割記録、JPEG+JPEG 分割記録、HEIF+HEIF 分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0、Exif 2.32、MPEG-A MIAF
ファインダー	
ファインダー	電子ビューファインダー、1.27cm/0.5 型 Quad-VGA OLED、約 369 万ドット、明るさ調整可能（オート、マニュアル 18 段階）、カラーカスタマイズ可能、高フレームレート表示可能
視野率	上下左右とも約 100%（対実画面）
倍率	約 0.8 倍 （50mm レンズ使用時、∞、 −1.0 m^{-1} のとき）
アイポイント	接眼レンズ最後尾から 23mm（−1.0 m^{-1} のとき）
視度調節範囲	−4〜+ 3 m^{-1}
アイセンサー	ファインダー表示と画像モニター表示の自動切り換え
画像モニター	
画像モニター	チルト式 8cm/3.2 型 TFT 液晶モニター（タッチパネル）、約 210 万ドット、視野角 170°、視野率約 100%、 明るさ調整可能（マニュアル 15 段階）、カラーカスタマイズ可能、縦横チルト可能

シャッター	
型式	電子シャッター、電子シャッター音あり、センサーシールド
シャッタースピード	1/32000～30 秒（ステップ幅：1/3、1/2、1 ステップに変更可能、撮影モード **M** では 900 秒まで延長可能）、Bulb、Time
フラッシュ同調シャッタースピード	1/250 秒または 1/200 秒以下の低速シャッタースピードで同調（1/200～1/250 秒はガイドナンバーが減少）。1/8000 秒までのシャッタースピードでオート FP ハイスピードシンクロ可能
レリーズ機能	
レリーズモード	1 コマ撮影、低速連続撮影、高速連続撮影、ハイスピードフレームキャプチャー +（プリキャプチャー機能あり）、セルフタイマー撮影
連続撮影速度	• **低速連続撮影**：約 1～10 コマ/秒 • **高速連続撮影**：約 10～20 コマ/秒 • **ハイスピードフレームキャプチャー +（C30）**：約 30 コマ/秒 • **ハイスピードフレームキャプチャー +（C60）**：約 60 コマ/秒 • **ハイスピードフレームキャプチャー +（C120）**：約 120 コマ/秒 ※ ニコン試験条件での最大撮影速度
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20 秒、撮影コマ数：1～9 コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3 秒

露出制御	
測光方式	撮像素子による TTL 測光方式
測光モード	• **マルチパターン測光** • **中央部重点測光**：標準（⌀12mm 相当）、小さめ（⌀8mm 相当）、画面全体の平均に変更可能、中央部重点度約 75% • **スポット測光**：約⌀4 mm 相当を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動 • **ハイライト重点測光**
測光範囲	−3〜17 EV ※ ISO 100、f/2.0 レンズ使用時、温度 20℃
撮影モード	**P**：プログラムオート（プログラムシフト可能）、**S**：シャッター優先オート、 **A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル
露出補正	範囲：±5 段、補正ステップ：1/3、1/2 ステップに変更可能
AE ロック	輝度値ロック方式
ISO 感度（推奨露光指数）	ISO 64〜25600（ステップ幅：1/3、1 ステップに変更可能）、ISO 64 に対し約 0.3、0.7、1 段（ISO 32 相当）の減感、ISO 25600 に対し約 0.3、0.7、 1 段、2 段（ISO 102400 相当）の増感、感度自動制御が可能 ※ 階調モード HLG 設定時は、ISO 400〜25600
アクティブ D-ライティング	オート、より強め 2、より強め 1、強め、標準、弱め、しない
多重露出	加算、加算平均、比較明合成、比較暗合成
その他の機能	HDR 合成、静止画フリッカー低減、高周波フリッカー低減

オートフォーカス	
方式	ハイブリッド AF（位相差 AF/コントラスト AF）、AF 補助光付
検出範囲	−7〜19 EV（スターライトビュー有効時：−9〜19 EV） ※ 静止画モード、シングル AF サーボ（**AF-S**）、ISO 100、f/1.2 レンズ使用時、温度 20℃
レンズサーボ	• **オートフォーカス**：シングル AF サーボ（**AF-S**）またはコンティニュアス AF サーボ（**AF-C**）、フルタイム AF（**AF-F**）（動画モードのみ）、予測駆動フォーカスあり • **マニュアルフォーカス**（**M**）：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	493 点 ※ 静止画モード、撮像範囲 FX、シングルポイント AF 時
AF エリアモード	ピンポイント AF（静止画モードのみ）、シングルポイント AF、ダイナミック AF（S、M、L、静止画モードのみ）、ワイドエリア AF（S、L、C1、C2）、オートエリア AF、3D-トラッキング（静止画モードのみ）、ターゲット追尾（動画モードのみ）
フォーカスロック	サブセレクターの中央押し、またはシングル AF サーボ（**AF-S**）時にシャッターボタン半押し
手ブレ補正機能	
ボディー内手ブレ補正	イメージセンサーシフト方式 5 軸補正
レンズ内手ブレ補正	レンズシフト方式（VR レンズ使用時）

フラッシュ	
調光方式	**TTL 調光制御**：i-TTL-BL 調光（マルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光）、スタンダード i-TTL 調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、発光禁止
調光補正	範囲：−3〜+1 段、補正ステップ：1/3、1/2 ステップに変更可能
レディーライト	別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出不足警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー（ISO 518）：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	i-TTL 調光、電波制御アドバンストワイヤレスライティング、光制御アドバンストワイヤレスライティング、モデリング発光、FV ロック、発光色温度情報伝達、オート FP ハイスピードシンクロ、ユニファイドフラッシュコントロール
ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート（3 種）、自然光オート、晴天、曇天、晴天日陰、電球、蛍光灯（3 種）、フラッシュ、色温度設定（2500K〜10000K）、プリセットマニュアル（6 件登録可）、全て微調整可能
ブラケティング	
ブラケティング	AE・フラッシュブラケティング、AE ブラケティング、フラッシュブラケティング、ホワイトバランスブラケティング、アクティブ D-ライティングブラケティング
静止画のその他の機能	
静止画のその他の機能	ヴィネットコントロール、回折補正、自動ゆがみ補正、美肌効果、人物印象調整、インターバルタイマー撮影、フォーカスシフト撮影、ピクセルシフト撮影、オートキャプチャー

動画機能	
測光方式	撮像素子による TTL 測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光
記録画素数/フレームレート	• 7680×4320（8K UHD）：30p/25p/24p • 3840×2160（4K UHD）：120p/100p/60p/50p/30p/25p/24p • 1920×1080：120p/100p/60p/50p/30p/25p/24p • 1920×1080 スロー：30p（4 倍）/25p（4 倍）/24p（5 倍） ※ 120p：119.88fps、100p：100fps、60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps
記録画素数/フレームレート（RAW 動画）	• 8256×4644：60p/50p/30p/25p/24p • 5392×3032：60p/50p/30p/25p/24p • 4128×2322：120p/100p/60p/50p/30p/25p/24p • 3840×2160：120p/100p/60p/50p ※ 120p：119.88fps、100p：100fps、60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps
ファイル形式	NEV、MOV、MP4
映像圧縮方式	N-RAW（12bit）、Apple ProRes RAW HQ（12bit）、Apple ProRes 422 HQ（10bit）、H.265/HEVC（8bit/10bit）、H.264/AVC（8bit）
音声記録方式	リニア PCM（48KHz 24bit、動画記録ファイル形式が NEV または MOV の場合）、AAC（48KHz 16bit、動画記録ファイル形式が MP4 の場合）
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能、マイク感度設定可能、アッテネーター機能
露出補正	範囲：±3 段、補正ステップ：1/3、1/2 ステップに変更可能
ISO 感度（推奨露光指数）	• **撮影モード M**：ISO 64～25600（ステップ幅：1/6、1/3、1 ステップに変更可能）、ISO 25600 に対し約 0.3、0.7、1 段、2 段（ISO 102400 相当）の増感、感度自動制御（ISO 64～Hi 2.0）が可能、制御上限感度が設定可能 • **撮影モード P、S、A**：感度自動制御（ISO 64～Hi 2.0）、制御上限感度が設定可能 ※ 階調モード HLG 設定時は、ISO 400～25600

動画機能	
アクティブ D-ライティング	より強め、強め、標準、弱め、しない
動画のその他の機能	タイムラプス動画、電子手ブレ補正、タイムコード、動画 Log（N-Log）、HDR（HLG）動画、ウェーブフォーム表示、動画撮影中の赤枠表示、動画記録中の拡大表示（50%、100%、200%、400%）、シャッタースピード延長機能（撮影モード **M** 時）、RAW 動画記録時の再生用動画（プロキシー動画）同時記録、オーバーサンプリングモードあり、**i** メニュー動画撮影情報、ハイレゾズーム、オートキャプチャー
再生機能	
再生機能	1 コマ再生、サムネイル（約 4、9、72 分割）、拡大再生、拡大再生中のトリミング、動画再生、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の自動回転、レーティング、フィルター再生、音声メモ入力/再生、IPTC プリセット添付/表示、連続撮影グループ先頭への画像送り、連続撮影画像のグループ再生表示、動画再生時の一括フレーム保存、比較動合成
インターフェース	
USB	Type-C 端子 • USB 通信専用端子（SuperSpeed USB）×1 口 • USB 充給電専用端子×1 口
HDMI 出力	HDMI 端子（Type A）
外部マイク入力	ステレオミニジャック（⌀3.5mm）、プラグインパワーマイク対応
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック（⌀3.5 mm）
10 ピンターミナル	あり（別売リモートコード MC-30A/MC-36A など使用可能）

Wi-Fi（無線 LAN）・Bluetooth	
Wi-Fi	• **準拠規格**：IEEE802.11b/g/n/a/ac • **周波数範囲（中心周波数）**：2412～2472 MHz（13ch）、5180～5700 MHz • **出力（EIRP）**： - 2.4 GHz：1.4 dBm - 5 GHz（5180 MHz–5320 MHz）： 10.8 dBm - 5 GHz（5500 MHz–5700 MHz）： 7.8 dBm • **認証方式**：オープンシステム、WPA2-PSK、WPA3-SAE
Bluetooth	• **通信方式**：Bluetooth 標準規格 Ver.5.0 • **周波数範囲（中心周波数）**： - Bluetooth：2402～2480 MHz - Bluetooth Low Energy：2402～2480 MHz • **出力（EIRP）**： - Bluetooth：－4.1 dBm - Bluetooth Low Energy：－5.6 dBm
電源	
使用電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c※ 1 個使用 ※ EN-EL15c の代わりに EN-EL15b/EN-EL15a も使えます。ただし、EN-EL15c を使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。本体充電 AC アダプター EH-7P または AC アダプター EH-8P を使用して充電する場合は、EN-EL15c/EN-EL15b のみ充電可能です。
バッテリーパック	パワーバッテリーパック MB-N12（別売）：Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c※ 2 個使用 ※ EN-EL15c の代わりに EN-EL15b/EN-EL15a も使えます。ただし、EN-EL15c を使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。
AC アダプター	• 本体充電 AC アダプター EH-7P（別売） • AC アダプター EH-8P（USB ケーブル UC-E25 と組み合わせて使用）（別売） • AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b（パワーコネクター EP-5B と組み合わせて使用）（別売）

三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	0.635cm（1/4 型、ISO 1222）
寸法・質量	
寸法（W×H×D）	約 144×118.5×83 mm
質量	約 910 g（バッテリーおよびメモリーカードを含む、ボディーキャップ、アクセサリーシューカバーを除く）、約 820 g（本体のみ）
動作環境	
温度	－10℃～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA（カメラ映像機器工業会）規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 本書では、35mm 判カメラに準じた画角（フルサイズ）を「FX フォーマット」または「FX」、APS-C サイズに準じた画角を「DX フォーマット」または「DX」と表記しています。
- カメラに表示されるサンプル画像、および本書記載の画像やイラストは、機能を説明するためのイメージです。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

バッテリーチャージャー MH-25a

電源	AC 100–240 V、50/60 Hz、0.23–0.12 A
定格入力容量	21–28VA
充電出力	DC 8.4 V、1.2 A
適応充電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c/EN-EL15b/EN-EL15a
充電時間	約 2 時間 35 分 ※ 残量のない状態からの充電時間（周囲温度 25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約 95×33.5×71 mm（突起部除く）
質量	約 115 g（電源プラグ（直付け型）を除く）

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。
～ AC（交流）、⎓ DC（直流）、回 クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.0 V、2280 mAh
使用温度	−10℃～40℃（Z 8 使用時）
寸法（W×H×D）	約 40×56×20.5 mm
質量	約 80 g（端子カバーを除く）

カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分ご注意ください。

本製品を譲渡/廃棄する際は、使用者によって本製品内に登録または設定された、無線 LAN 接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー［**カメラの初期化**］を行って削除してください。

使用できるメモリーカード

- CFexpress カード（Type B）、XQD カード、SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、および SDXC メモリーカードが使用できます。
- SD カードは UHS-I および UHS-II に対応しています。



- 「ハイスピードフレームキャプチャー +」で撮影を行うには、最大 250MB/s 以上の転送速度を持つ CFexpress カードまたは XQD カードをおすすめします。
- 動画の撮影および再生には、最大 45MB/s（300 倍速）以上の転送速度を持つ CFexpress カードまたは XQD カード、および UHS スピードクラス 3 以上の SD カードをおすすめします。画像サイズが大きい動画やフレームレートが高い動画の撮影および再生には、最大 250MB/s 以上の転送速度を持つ CFexpress カードまたは XQD カード、および最大 250MB/s 以上の転送速度を持つ UHS スピードクラス 3 以上の SD カードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の記録および再生が途中で終了することがあります。特に動画撮影メニュー［**動画記録ファイル形式**］で［**N-RAW 12-bit（NEV）**］および［**ProRes RAW HQ 12-bit（MOV）**］を選んでいる場合は、次の CFexpress Type B メモリーカードの使用をおすすめします。
  - 当社製 CFexpress Type B メモリーカード 660GB MC-CF660G
  - Nextorage 社製 NX-B1PRO シリーズ CFexpress™ Type B VPG400
  - ProGrade Digital 社製 Cobalt 1700R シリーズ
  - Wise 社製 CFX-B PRO シリーズ
- カードリーダーなどをお使いの場合は、お使いのメモリーカードに対応していることをご確認ください。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。

外部充電池（モバイルバッテリー）

モバイルバッテリーを使用したバッテリーの充電、およびカメラへの給電が可能です。動作確認済みのモバイルバッテリー、撮影可能コマ数、および充電可能回数は次の通りです。

メーカー	型番	撮影可能コマ数	充電可能回数 ※
Anker	PowerCore III Elite 25600 87W	EN-EL15c のみを使用した場合の約 5 倍のコマ数	約 4 回

※ フル充電したモバイルバッテリーを使用して、カメラ内のバッテリー（EN-EL15c）をフル充電できる回数。

- モバイルバッテリーを使用した充電は、EN-EL15c/EN-EL15b 使用時のみ可能です。
- モバイルバッテリーの使い方については、モバイルバッテリーの説明書をご覧ください。
- モバイルバッテリーで充電または給電する場合、モバイルバッテリーに付属している両端が Type-C の USB ケーブルをお使いください。
- USB ケーブルはカメラの USB 充給電専用端子に接続してください。カメラの USB 通信専用端子に接続すると機能しませんのでご注意ください。
- モバイルバッテリーの最新情報については、メーカーホームページをご確認ください。また、国や地域によっては販売されていない場合があります。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

画質モード（🕮 99）、画像サイズ（🕮 101）の組み合わせによって、［**撮像範囲設定**］が［**FX（36×24）**］および［**階調モード**］が［**SDR**］の場合に 660GB のメモリーカードに記録できるコマ数と連続撮影できるコマ数は、次のようになります [1]。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数 [2]	連続撮影可能コマ数 [2、3]
RAW（ロスレス圧縮 RAW）	—	約 51.6 MB	7300 コマ	81 コマ
RAW（高効率 ★）	—	約 32.6 MB	17200 コマ	599 コマ
RAW（高効率）	—	約 21.1 MB	24200 コマ	1000 コマ以上
FINE[4]	L	約 19.0 MB	20900 コマ	1000 コマ以上 [5]
	M	約 12.4 MB	35900 コマ	
	S	約 6.7 MB	69900 コマ	
NORMAL[4]	L	約 11.8 MB	41900 コマ	1000 コマ以上 [5]
	M	約 7.0 MB	69900 コマ	
	S	約 3.5 MB	139000 コマ	
BASIC[4]	L	約 4.0 MB	78600 コマ	1000 コマ以上 [5]
	M	約 2.7 MB	125000 コマ	
	S	約 1.8 MB	251000 コマ	

1 装着レンズ NIKKOR Z 50mm f/1.8 S、当社製メモリーカード CFexpress Type B メモリーカード 660GB MC-CF660G を使用した場合（2023 年 3 月現在）

2 撮影条件により、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は増減することがあります。

3 ISO 感度が ISO 100 の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合などには、連続撮影可能コマ数は減少します。
- ［**画質モード**］で画質を優先した（［★］が付いた）項目に設定して JPEG 画像を撮影した場合
- ［**自動ゆがみ補正**］を［**ON**］に設定した場合

4 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、[**画質モード**]でサイズを優先した（[★]が付いていない）項目に設定されている場合です。画質を優先した（[★]が付いた）項目に設定した場合、記録可能コマ数や連続撮影可能コマ数は減少します。
5 [**階調モード**]を[**HLG**]に設定し、[**画像サイズ**]で[**サイズ L**]を選んでいる場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

動画記録可能時間

動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］（🕮 187）の設定によって、［**動画記録ファイル形式**］が［**H.265 8-bit（MOV）**］の場合に 660GB のメモリーカードに記録できる動画記録可能時間は、次のようになります※。

- 1 回の動画撮影で記録可能な最長時間は 125 分です。ただし、カードの種類や撮影条件によって、動画記録可能時間は増減することがあります。
- 複数の動画ファイルを記録した場合、動画記録可能時間は全てのファイルの合計時間です。
- バッテリー残量がなくなった場合やカメラ内部の温度が上昇した場合は、最長記録時間内やカードに空き容量があるときでも動画撮影が終了することがあります。

画像サイズ/フレームレート	動画記録可能時間
［7680×4320 30p］	約 198 分
［7680×4320 25p］	
［7680×4320 24p］	
［3840×2160 120p］	約 198 分
［3840×2160 100p］	
［3840×2160 60p］	約 242 分
［3840×2160 50p］	
［3840×2160 30p］	約 482 分
［3840×2160 25p］	
［3840×2160 24p］	
［1920×1080 120p］	約 482 分
［1920×1080 100p］	
［1920×1080 60p］	約 953 分
［1920×1080 50p］	

画像サイズ/フレームレート	動画記録可能時間
［**1920×1080 30p**］	約 1859 分
［**1920×1080 25p**］	
［**1920×1080 24p**］	

※ 当社製メモリーカード CFexpress Type B メモリーカード 660GB MC-CF660G を使用した場合（2023 年 3 月現在）

撮影可能コマ数（電池寿命）について

フル充電した Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c [1] 使用時の電池寿命は次の通りです [2]。電池寿命は、バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって異なります。

静止画モード（1 コマ撮影）：撮影可能コマ数 [3]

- モニターモード［**ファインダーのみ**］時：
  - セットアップメニュー［**パワーセーブ（静止画モード）**］が［**ON**］の場合：約 340 枚
  - セットアップメニュー［**パワーセーブ（静止画モード）**］が［**OFF**］の場合：約 330 枚
- モニターモード［**モニターのみ**］時：
  - セットアップメニュー［**パワーセーブ（静止画モード）**］が［**ON**］の場合：約 370 枚
  - セットアップメニュー［**パワーセーブ（静止画モード）**］が［**OFF**］の場合：約 340 枚

静止画モード（連続撮影）：撮影可能コマ数 [4]

約 2280 枚

動画モード：動画撮影可能時間 [5]

- モニターモード［**ファインダーのみ**］時：約 85 分
- モニターモード［**モニターのみ**］時：約 85 分

次の場合などは、バッテリーの消耗が早くなります。
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- RAW を含む画質モードで撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- Bluetooth および Wi-Fi（無線 LAN）機能を使用した場合
- アクセサリーを装着して使用した場合
- レンズ使用時にズーム操作を繰り返した場合
- 低温環境で撮影した場合

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。
- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

1 EN-EL15c の代わりに EN-EL15b/EN-EL15a も使えます。ただし、EN-EL15c を使用したときよりも、撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。

2 メモリーカード SONY CEB-G128、温度 23（±2）℃の場合。
3 CIPA（カメラ映像機器工業会）規格準拠。初期設定条件で 30 秒間隔ごとに撮影する。装着レンズ NIKKOR Z 24–70mm f/4 S。
4 当社試験条件準拠。画質モード NORMAL、画像サイズ L、シャッタースピード 1/250 秒、シャッターの半押しを 3 秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を 3 往復フォーカシング動作させ 6 回連続レリーズした後、ファインダーを 5 秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズ NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S。モニターモード［**ファインダーのみ**］。
5 電池寿命測定方法を定めた CIPA 規格による実撮影電池寿命。装着レンズ NIKKOR Z 24–70mm f/4 S。カメラは初期設定状態。
   • 1 回の動画撮影で記録可能な最長時間は 125 分です。
   • カメラ内部の温度が上昇した場合、最長記録時間内やカードに空き容量があるときでも動画撮影が終了することがあります。

商標およびソフトウェアの著作権とライセンスについて

- CFexpress は米国およびその他の国における CompactFlash Association の商標です。
- NVM Express は NVM Express Inc.の商標または登録商標です。
- XQD はソニー株式会社の商標です。
- SD ロゴ、SDHC ロゴ、および SDXC ロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple®、App Store®、Apple ロゴ、iPhone®、iPad®、Mac、macOS は米国およびその他の国々で登録された、Apple Inc.の商標です。
- iPhone の商標は、アイホン株式会社（https://www.aiphone.co.jp/）のライセンスに基づき使用しています。
- Android と Google Play および Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。Android ロボットは、Google が作成および提供している作品から複製または変更したものであり、クリエイティブ・コモンズ表示 3.0 ライセンスに記載された条件に従って使用しています。
- IOS の商標は、米国およびその他の国における Cisco のライセンスに基づき使用しています。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

HDMI

- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社ニコンはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Wi-Fi および Wi-Fi ロゴは、Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。
- Powered by intoPIX technology.

intoPIX

- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。
- Use of the Made for Apple badge means that an accessory has been designed to connect specifically to the Apple products identified in the badge, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with an Apple product may affect wireless performance.
- This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.

FreeType License（FreeType2）

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project（https://www.freetype.org）のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

MIT License（HarfBuzz）

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2018 The HarfBuzz Project（https://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz）のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE TO ANY PARTY FOR DIRECT, INDIRECT, SPECIAL, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE AND ITS DOCUMENTATION, EVEN IF THE COPYRIGHT HOLDER HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE. THE COPYRIGHT HOLDER SPECIFICALLY DISCLAIMS ANY WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE SOFTWARE PROVIDED HEREUNDER IS ON AN "AS IS" BASIS, AND THE COPYRIGHT HOLDER HAS NO OBLIGATION TO PROVIDE MAINTENANCE, SUPPORT, UPDATES, ENHANCEMENTS, OR MODIFICATIONS.

Unicode® Character Database License（Unicode® Character Database）
本製品のソフトウェアは、オープンソースソフトウェア（Unicode® Character Database）を利用しています。本オープンソースソフトウェアのライセンス条件は以下のとおりです。

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2023 Unicode, Inc. All rights reserved.

Distributed under the Terms of Use in
https://www.unicode.org/copyright.html.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that either

(i) this copyright and permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, or
(ii) this copyright and permission notice appear in associated Documentation.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS.IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

AVC Patent Portfolio License に関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio License に基づきライセンスされているものです。

(i) AVC 規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものを AVC ビデオといいます）

(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされた AVC ビデオ、または AVC ビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手した AVC ビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLC から取得することができます。

https://www.mpegla.com をご参照ください。

BSD License（NVM Express Driver）

本カメラの NVM Express 制御部分に含まれるオープンソースソフトウェアに適用されるライセンス条件は下記 URL をご覧ください。

https://imaging.nikon.com/support/pdf/LicenseNVMe.pdf

上記以外のオープンソースソフトウェアについて

上記以外のオープンソースソフトウェアに適用されるライセンス条件は下記 URL をご覧ください。

https://imaging.nikon.com/oss/en/index.htm

Wi-Fi（無線 LAN）機能/Bluetooth 機能について

● 電波に係わるご注意

- 本製品は Wi-Fi（無線 LAN）および Bluetooth 機能を搭載しています。国や地域によって、法律により Wi-Fi（無線 LAN）および Bluetooth 機能が使用できない場合があります。無線機能のご使用については、国や地域の法律をご確認の上、従ってください。
- この機器は、電波法に基づく認証を受けており、機器に添付されている以外の証明ラベルは次の通りです。



Wi-Fi（無線 LAN）機能：2.4DS2/OF1
本製品の使用周波数は 2.4 GHz 帯、変調方式は DS-SS、OFDM、与干渉距離は約 10m です。



Bluetooth 機能：2.4FH2/XX1
本製品の使用周波数は 2.4 GHz 帯、変調方式は FH-SS、その他の方式、与干渉距離は約 10m です。

ご使用時の注意
5GHz の周波数帯においては、5.2GHz/5.3GHz/5.6GHz 帯（W52/W53/W56）の 3 種類の帯域を使用することができます。5.2GHz/5.3GHz 帯無線 LAN（W52/W53）の屋外使用は電波法で禁止されています。

- 本製品は、「電波法」に基づく技術基準適合認証を受けた無線設備を内蔵し、証明ラベルは無線設備上に表示しているか、画面で確認ができます。
  以下の行為は法令で罰せられることがあります。
  - 無線設備のある製品の分解/改造
  - 無線設備のある製品から証明ラベルをはがす
- 本製品の使用周波数帯は、以下の機器や無線設備と同じです。
  - 電子レンジなどの産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等の移動体識別用の
    ① 構内無線局（免許を要する無線局）
    ② 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
  - アマチュア無線局（免許を要する無線局）

  これらの無線設備の近くでは、電波干渉で通信速度の低下、通信距離の短縮、通信の途絶が双方に生じることがあります。
- 本製品で電波干渉を起こさないよう、以下にご注意ください。
  - 使用周波数帯が同じ無線設備が近くにないか、事前に確認する
  - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に電波干渉を生じたら、Wi-Fi アクセスポイントのチャンネル番号を変更して使用周波数を変える

- その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書に記載のニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
- データの送受信は、第三者に傍受される危険性にご留意ください。データ送受信による情報漏洩には、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品は、電子レンジなどの電気製品、AV 機器、OA 機器などの電磁波や磁気の発生源の周辺で使わないでください。
  - 雑音が増大したり、通信が途絶したりします。
  - AV 機器、OA 機器などの受信障害の原因になります。

● 本製品の使用上のご注意

本製品は、Wi-Fi（無線 LAN）および Bluetooth 機器としてお使いください。
Wi-Fi および Bluetooth 機器以外としての使用による損害は、当社では一切の責任を負いません。

- 医療機器や人命に直接的または間接的に係わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使わないでください。
- Wi-Fi および Bluetooth 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途では、使用システムの安全設計や故障に対する適切な処置をしてください。

● セキュリティーについて

- 本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。
  - 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、ID やパスワードなどの個人情報が漏洩する可能性があります。
  - 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティーを設定したにもかかわらず、Wi-Fi および Bluetooth の仕様上、特殊な方法によりセキュリティーが破られることもありますので、ご理解の上ご使用ください。
- スマートフォンに使用権限のないネットワークが表示されても、接続しないでください。接続すると、不正アクセスとみなされるおそれがあります。使用権限のあるネットワークだけをお使いください。

● 本製品の輸出、持ち出しに係わるご注意

本製品は米国輸出管理規則 Export Administration Regulations（EAR）を含む米国法の対象です。EAR の輸出規制国（キューバ、イラン、北朝鮮、スーダン、シリア：変更される可能性があります）以外への輸出や持ち出しは、米国政府の許可は不要です。

- **個人情報の管理および免責事項**
  - 使用者によって本製品内に登録または設定された、Wi-Fi（無線 LAN）接続設定等の個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いで変化、消失する場合があります。必要な内容は、お客様の責任において控えを必ずおとりください。当社の責によらない内容の変化、消失、それらに起因する直接または間接の損害および逸失利益には、当社は一切の責任を負いません。
  - 本製品を譲渡/廃棄するときは、使用者によって本製品内に登録または設定された、Wi-Fi 接続設定等の個人情報を含む内容を、セットアップメニュー［**カメラの初期化**］で工場出荷時の設定にリセットしてください。
  - 本製品の盗難や紛失などで、第三者による不正使用の被害が発生しても、当社は一切の責任を負いません。

認証情報の表示

セットアップメニューの［**認証情報**］では、このカメラが取得している認証情報の一部を確認できます。

Z 8 Model Name: N2120

索引

索引

マーク・英数字

P（プログラムオート）（📖 121）
S（シャッター優先オート）（📖 121）
A（絞り優先オート）（📖 121）
M（マニュアル）（📖 122）
S（1 コマ撮影）（📖 131）
L（低速連続撮影）（📖 131）
H（高速連続撮影）（📖 131）
（セルフタイマー撮影）（📖 131、📖 135）
（ピンポイント AF）（📖 105）
（シングルポイント AF）（📖 105）
S（ダイナミック AF（S））（📖 105）
M（ダイナミック AF（M））（📖 105）
L（ダイナミック AF（L））（📖 105）
（ワイドエリア AF（S））（📖 105）
（ワイドエリア AF（L））（📖 105）
（ワイドエリア AF（C1））（📖 105）
（ワイドエリア AF（C2））（📖 105）
（3D-トラッキング）（📖 105）
（ターゲット追尾 AF）（📖 105）
（オートエリア AF）（📖 105）
（マルチパターン測光）（📖 452）
（中央部重点測光）（📖 452）
（スポット測光）（📖 452）
*（ハイライト重点測光）（📖 452）
i ボタン（📖 67）
i メニュー（📖 67）
（） ボタン（📖 96、📖 739）
ボタン（📖 131）
ボタン（📖 129）
Fn3）ボタン（📖 168、📖 228）
（ヘルプあり表示）（📖 65）
メニューのカスタマイズ（📖 71、📖 640、📖 680）
使用時の感度自動制御（📖 635）
1:1（24×24）（撮像範囲）（📖 98）
16:9（36×20）（撮像範囲）（📖 98）
1 コマ再生時のフリック操作（📖 677）
1 コマ撮影（📖 131）
1 コマ表示（📖 206）
3D-トラッキング（📖 105）
AC アダプター（📖 75、📖 909）
ADL ブラケティング（オートブラケティングのセット）（📖 164）
AE-L マーク（📖 127）
AE・フラッシュブラケティング（オートブラケティングのセット）（📖 157）
AE ブラケティング（オートブラケティングのセット）（📖 157）
AE ロック（📖 127）
AF-C（コンティニュアス AF）（📖 103）
AF-C モード時の優先（📖 577）
AF-F（フルタイム AF）（📖 103）
AF-ON ボタン（📖 117）
AF-S（シングル AF）（📖 103）
AF-S モード時の優先（📖 578）
AF エリアモード（📖 105）
AF エリアモードの限定（📖 585）
AF 時の被写体検出設定（📖 109、📖 554）
AF 設定時のフォーカスリング操作（📖 593）
AF 速度（📖 698）
AF 追従感度（📖 699）
AF 点数（📖 580）
AF 微調節の設定（📖 750）
AF ロックオン（📖 579）
ATOMOS AirGlu BT 設定（📖 815）
BKT の順序（📖 638）
BKT 変化要素（M モード）（📖 637）
BKT ボタン（📖 157、📖 161、📖 164）

Bluetooth（📖 292）
Bulb（バルブ撮影）（📖 124）
C30（📖 133、📖 606）
C60（📖 133、📖 606）
C120（📖 133、📖 606）
Camera Control Pro 2（📖 353）
Creative Picture Control（クリエイティブピクチャーコントロール）（📖 168）
DISP ボタン（📖 43、📖 47、📖 208）
DX（24×16）（撮像範囲）（📖 98）
DX フォーマット（📖 98）
D-ライティング（📖 260）
FTP サーバーと接続（📖 325、📖 341、📖 805）
FV ロック（📖 386）
FX（36×24）（撮像範囲）（📖 98）
FX フォーマット（📖 98）
HDMI（📖 282、📖 776）
HDR 合成（📖 470）
HEIF+HEIF 分割記録（副スロットの機能）（📖 420）
Hi（ISO 感度）（📖 137）
HLG（📖 201、📖 424）
HLG 画質調整（📖 541）
HLG 動画（📖 201）
IPTC（📖 765）
ISO（FORMAT）ボタン（📖 136、📖 739）
ISO 感度（📖 136）
ISO 感度ステップ幅拡張（M モード）（📖 702）
ISO 感度設定（📖 429、📖 537）
ISO 感度設定ステップ幅（📖 594）
JPEG+JPEG 分割記録（副スロットの機能）（📖 420）
Li-ion リチャージャブルバッテリー（📖 73）
Log 撮影（📖 202）
Lo（ISO 感度）（📖 137）
MAC アドレス（📖 819）
MB-N12 の情報表示（📖 643）
MENU ボタン（📖 61）
MF（マニュアルフォーカス）（📖 103、📖 118）
MODE ボタン（📖 120）
M モード時のシャッタースピード延長（📖 610）
N-Log（📖 202）
NX Studio（📖 300）
NX Tether（📖 353）
PC と接続（📖 304、📖 318、📖 800）
RAW+HEIF 分割記録（副スロットの機能）（📖 420）
RAW+JPEG 分割記録（副スロットの機能）（📖 420）
RAW 記録（📖 428）
RAW 現像（📖 243）
RAW 動画（📖 200）
RGB ヒストグラム（📖 211）
SnapBridge（📖 291）
Time（タイム撮影）（📖 124）
UltraSync BLUE（📖 815）
USB 給電（📖 784）
USB ケーブル（📖 25）
USB 接続時の優先（📖 777）
USB 通信専用端子の設定（📖 817）
WB ブラケティング（オートブラケティングのセット）（📖 161）
WB ボタン（📖 140）
Wi-Fi 接続（📖 798）
Wi-Fi モード（📖 295）
Wireless Transmitter Utility（📖 304、📖 318）
WPS PIN コード方式（📖 309、📖 331、📖 359）
WPS プッシュボタン方式（📖 309、📖 331、📖 359）
WR-R10（📖 389、📖 779）
WR-R11a（📖 389、📖 779）
W スロット同時削除の設定（📖 721）

ア

アオリ効果（📖 263）
赤色画面表示（📖 617）
赤目軽減発光（📖 383）
明るさ（ピクチャーコントロール）（📖 171）
アクセスポイントモード（📖 305、📖 326）
アクティブ D-ライティング（📖 438、📖 542）
アッテネーター（📖 558）
後幕発光（📖 383）

暗号キー（309、331、359）
位置情報（778）
位置情報（スマートフォン）（799）
一灯撮影（379）
イメージセンサークリーニング（759）
イメージダストオフデータ取得（760）
イルミネーター（39、618）
イルミネーター点灯（618）
色合い（色相）（ピクチャーコントロール）（171、435）
色温度（143、148）
色温度設定（ホワイトバランス）（140）
色空間（437）
色の濃さ（彩度）（ピクチャーコントロール）（171、435）
色の濃淡（ピクチャーコントロール）（171）
インジケーターの+/−方向（671）
インターバルタイマー撮影（474）
インフラストラクチャーモード（309、331）
ヴィネットコントロール（442、544）
オート（ピクチャーコントロール）（168）
オート（ホワイトバランス）（140）
オートエリア AF（105）
オートキャプチャー（507、567）
オートブラケティング（156）
オーバーサンプリングの拡張（536）
音声メモ（279、281）
音声メモの設定（770）

カ

カードなし時レリーズ（787）
カードの初期化（フォーマット）（739）
回折補正（443、545）
階調モード（424）
ガイドラインの種類（622、708）
外部記録制御（HDMI）（565）
外部レコーダー（284）
拡大表示（226）
風切り音低減（560）
加算合成（265）
画質モード（99）
カスタムピクチャーコントロール（175）
カスタムボタンの機能（683）
カスタムボタンの機能（再生）（662）
カスタムボタンの機能（撮影）（644）
カスタムメニュー（568）
カスタムメニューの管理（576）
画像コピー（731）
画像コメント（763）
画像サイズ（101）
画像サイズ/フレームレート（187）
画像サイズ設定（101）
画像情報（208）
画像の自動回転（730）
画像編集（240）
画像を選択して削除（237）
傾き補正（261）
カメラコントロールモード（353）
カメラと接続（811）
カメラの初期化（792）
画面情報の自動回転（749）
画面枠表示（621）
簡易トリミング（221）
簡単接続（309、331、359）
感度自動制御（138）
感度自動制御機能（138）
基準露出レベルの調節（599）
輝度情報の種類（709）
機内モード（796）
距離基準マーク（119）
距離表示単位の設定（754）
記録可能コマ数（940）
記録フォルダー設定（414）
クイックシャープ（ピクチャーコントロール）（171、435）
クイックフォーマット（740）
グループ再生の設定（724）
蛍光灯（ホワイトバランス）（140）
言語（Language）（741）
高感度（Hi）（137）
高感度ノイズ低減（441、543）

高周波フリッカー低減（📖 450、📖 550）
高速連続撮影（📖 131）
コマンドダイヤル回転方向の変更（📖 669）
コンティニュアス AF（📖 103）
コントラスト（ピクチャーコントロール）（📖 171、📖 435）
コントロールリング（📖 118）
コントロールリングの感度（📖 674）

サ

最近設定した項目（📖 826）
再生画面設定（📖 719）
再生フォルダー設定（📖 718）
再生メニュー（📖 715）
サイレントモード（📖 774）
削除（📖 96、📖 236、📖 717）
削除候補画像を一括削除（📖 238）
削除後の次再生画像（📖 727）
撮影画面カスタマイズ（画像モニター）（📖 627、📖 711）
撮影画面カスタマイズ（ファインダー）（📖 629、📖 713）
撮影後自動送信（📖 351）
撮影情報（📖 213）
撮影タイミング表示（📖 620）
撮影直後の画像確認（📖 726）
撮影メニューの拡張（📖 413）
撮影メニューの管理（📖 411）
撮影モード（📖 120）
撮像範囲（📖 97、📖 196）
撮像範囲設定（📖 98）
撮像範囲設定の限定（📖 611）
サブセレクター（📖 113、📖 127）
サブセレクター中央を優先（📖 679）
サムネイル表示（📖 206）
自然光オート（ホワイトバランス）（📖 140）
自動電源 OFF 温度（📖 757）
自動ゆがみ補正（📖 444、📖 546）
視度調節ノブ（📖 53）
絞り値（📖 121、📖 122）
絞り値変化時の露出維持（📖 600）
絞り優先オート（📖 121）
シャッタースピード（📖 121、📖 122）
シャッタースピード延長（M モード）（📖 703）
シャッターボタン AE ロック（📖 601）
シャッター優先オート（📖 121）
シャドー（ピクチャーコントロール）（📖 435）
主スロットの選択（📖 419）
順次記録（副スロットの機能）（📖 420）
シングル AF（📖 103）
シングルポイント AF（📖 105）
人物印象調整（📖 446、📖 548）
水準器の種類（📖 623）
ズーム位置の記憶（PZ レンズ）（📖 756）
スターライトビュー（静止画 Lv）（📖 616）
スタンダード（ピクチャーコントロール）（📖 168）
スポット測光（📖 452）
スマートフォンと接続（📖 797）
スライドショー（📖 234）
スローシャッター（📖 383）
スローモーション動画（📖 190）
静止画/動画セレクター（📖 87、📖 90）
静止画撮影メニュー（📖 408）
静止画フリッカー低減（📖 448）
晴天（ホワイトバランス）（📖 140）
晴天日陰（ホワイトバランス）（📖 140）
接続先の周波数帯選択（📖 818）
接続設定（FTP サーバーと接続）（📖 805）
接続設定（PC と接続）（📖 800）
セットアップメニュー（📖 736）
ゼブラ表示（📖 705）
ゼブラ表示の検出モード制限（📖 707）
セルフタイマー（📖 602）
セルフタイマー撮影（📖 131、📖 135）
全押し（シャッターボタン）（📖 87）
全画像を削除（📖 239）
操作のロック（📖 668、📖 695）
送信指定（📖 231）
送信指定（FTP）（📖 350）
送信指定（PC）（📖 350）
送信指定（スマートフォンと接続）（📖 798）

増灯撮影（📖 388）
測光モード（📖 452）

タ

ターゲット追尾 AF（📖 105）
ダイナミック AF（L）（📖 105）
ダイナミック AF（M）（📖 105）
ダイナミック AF（S）（📖 105）
タイムコード（📖 563）
タイム撮影（長時間露出）（📖 124）
タイムゾーンと日時（📖 742）
タイムラプス動画（📖 484）
多重露出（📖 463）
タッチシャッター（📖 114）
タッチ操作（📖 775）
タッチパネル（📖 54）
縦/横位置フォーカスポイント切換（📖 581）
縦位置再生（📖 43、📖 730、📖 749）
縦横位置情報の記録（📖 729）
チャージャー（📖 73）
中央部重点測光（📖 452）
中央部重点測光範囲（📖 598）
調光補正（📖 385）
長時間露出（📖 124）
調色（ピクチャーコントロール）（📖 171、📖 435）
長秒時ノイズ低減（📖 440）
著作権情報（📖 764）
ツーボタンリセット（📖 179）
通常発光（📖 383）
ディープトーンモノクローム（ピクチャーコントロール）（📖 168）
低感度（Lo）（📖 137）
低速連続撮影（📖 131）
適用度（ピクチャーコントロール）（📖 171）
手ブレ補正（📖 461）
電球（ホワイトバランス）（📖 140）
電源 OFF 時のセンサーシールド（📖 758）
電源 OFF 中の通信（📖 799）
電子音（📖 772）
電子手ブレ補正（📖 556）
電池チェック（📖 783）
動画記録先（📖 531）
動画記録ファイル形式（📖 184）
動画撮影中の赤枠表示（📖 714）
動画撮影ボタン（📖 90）
動画撮影メニュー（📖 525）
動画の画質（N-RAW）（📖 534）
動画フリッカー低減（📖 549）
動画編集（📖 272）
統合表示（📖 218）
トリミング（📖 255）
曇天（ホワイトバランス）（📖 140）

ナ

内蔵 AF 補助光の照射設定（📖 590）
内蔵マイク（📖 90）
日時を同期（📖 377）
ニュートラル（ピクチャーコントロール）（📖 168）
認証情報（📖 782）
ネットワークメニュー（📖 794）

ハ

ハイスピードフレームキャプチャー +（📖 133）
ハイレゾズーム（📖 204、📖 566）
ハイレゾズーム速度（📖 700）
ハイライト（ピクチャーコントロール）（📖 435）
ハイライト重点測光（📖 452）
ハイライト表示（📖 210）
バックアップ記録（副スロットの機能）（📖 420）
発光禁止（📖 383）
発光モード（📖 381）
バッテリー（📖 73、📖 78）
バッテリーチャージャー（📖 73）
バルブ撮影（長時間露出）（📖 124）
パワーオフ時間（📖 79、📖 603）
パワーコネクター（📖 909）

パワーズームのボタン操作（PZ レンズ）（676、701）
パワーセーブ（静止画モード）（786）
半押し AF レンズ駆動（583）
半押し（シャッターボタン）（87）
半押し拡大解除（MF）（626、710）
半押しタイマー（79）
比較暗合成（267）
比較明合成（267）
比較動合成（270）
ピクセルシフト撮影（501）
ピクセルマッピング（762）
ピクチャーコントロール（168）
ピクチャーコントロール（HLG）（433）
日付と時刻を設定する（85）
日付を選択して削除（238）
美肌効果（445、547）
ビビッド（ピクチャーコントロール）（168）
ビューアシスト（704）
ビューモード設定（静止画 Lv）（614）
標準表示（209）
ピント表示（118）
ピンポイント AF（105）
ファームウェアバージョン（793）
ファイル情報（220）
ファイル名設定（418、530）
ファインダーの明るさ（745）
ファインダーのカラーカスタマイズ（746）
ファインダーの高フレームレート表示（630）
ファインダー表示サイズ（747）
フィルター効果（ピクチャーコントロール）（171、435）
フィルター再生（233）
フィルター再生の条件設定（233、723）
風景（ピクチャーコントロール）（168）
フォーカス位置の記憶（755）
フォーカス回転方向の変更（672）
フォーカスシフト撮影（494）
フォーカスピーキング（119、591）
フォーカスポイント（113）
フォーカスポイント循環選択（587）
フォーカスポイントの移動速度（592）
フォーカスポイントの引き継ぎ（584）
フォーカスポイント表示（588）
フォーカスモード（103、118）
フォーカスモードの制限（586、697）
フォーカスリング（118）
フォーカスリングの角度設定（673）
フォーカスロック（116）
フォーカス/コントロールリング入れ換え（675）
副スロットの機能（420）
物理フォーマット（739）
ブラケティング（160、161、164）
フラッシュ（ホワイトバランス）（140）
フラッシュ撮影（378）
フラッシュ撮影同調速度（631）
フラッシュ時シャッタースピード制限（633）
フラッシュ使用時の露出補正（634）
フラッシュ増灯撮影（388）
フラッシュ調光補正（385）
フラッシュ発光（453）
フラッシュブラケティング（オートブラケティングのセット）（160）
フラッシュモード（383）
フラッシュ連続撮影時の優先（639）
フラット（ピクチャーコントロール）（168）
フラットモノクローム（ピクチャーコントロール）（168）
フランジバック（119）
プリキャプチャー記録設定（606）
プリセットマニュアル（ホワイトバランス）（140）
フルタイム AF（103）
フレームレート（187）
フレームを連続保存（277）
プログラムオート（121）
プロテクト（228）
分割記録時の再生スロット（722）
ペアリング（Bluetooth）（797）
ヘッドホン音量（562）
ポートレート（ピクチャーコントロール）（168）
ボタンのホールド設定（670）
ホワイトバランス（140）

本体充電 AC アダプター（📖 75）

マ

マイク感度（📖 557）
マイク端子のプラグインパワー（📖 561）
マイメニュー（📖 821）
マニュアル（撮影モード）（📖 122）
マニュアルフォーカス（📖 118）
マルチパターン測光（📖 452）
マルチパターン測光の顔検出（📖 597）
ミドルレンジシャープ（ピクチャーコントロール）（📖 171、📖 435）
ミレッド（📖 147）
無線 LAN 接続（📖 304、📖 325）
明瞭度（ピクチャーコントロール）（📖 171、📖 435）
メニュー設定の保存と読み込み（📖 788）
メモリーカード（📖 80、📖 938）
メモリーリコール（📖 658）
モデリング発光（📖 636）
モニターの明るさ（📖 743）
モニターのカラーカスタマイズ（📖 744）
モニターモードの限定（📖 748）
モノクローム（ピクチャーコントロール）（📖 168）
モノトーン（📖 264）

ヤ

有線 LAN 接続（📖 318、📖 341）
優先送信指定（FTP）（📖 350）
優先送信指定（PC）（📖 350）
ゆがみ補正（📖 262）

ラ

リサイズ（📖 256）
リセット（📖 179、📖 412、📖 576）
リッチトーンポートレート（ピクチャーコントロール）（📖 168）
リモコン（WR）設定（📖 779）
リモコン（WR）の Fn ボタンの機能（📖 781）
輪郭強調（ピクチャーコントロール）（📖 171、📖 435）
レーティング（📖 230）
レリーズモード（📖 131）
レンズ情報手動設定（📖 753）
レンズの取り付け（📖 83）
レンズの取り外し（📖 84）
連続撮影（📖 131）
連続撮影後の再生画像（📖 728）
連続撮影コマ数（📖 605）
連続撮影速度（📖 604）
連続撮影中の表示（📖 619）
連動レリーズモード（📖 359）
連動レリーズモード設定（📖 608）
連番モード（📖 612）
録音帯域（📖 559）
露出（📖 127、📖 129、📖 462）
露出インジケーター（📖 123）
露出情報（📖 210）
露出設定ステップ幅（📖 595）
露出ディレーモード（📖 609）
露出補正（📖 129）
露出補正簡易設定（📖 596）

ワ

ワイドエリア AF（C1）（📖 105）
ワイドエリア AF（C2）（📖 105）
ワイドエリア AF（L）（📖 105）
ワイドエリア AF（S）（📖 105）
ワイヤレストランスミッターユーティリティー（📖 304、📖 318）

ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。ご登録いただいた製品に関するファームアップ情報や重要なお知らせなどをメールでご案内いたします。ニコンイメージング会員登録および製品登録は以下ニコンホームページからお手続きください。

ニコンイメージング会員のご案内

https://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/

ニコンイメージングサポートページのご案内

https://www.nikon-image.com/support/

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧いただけます。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

© 2023 Nikon Corporation

SB4K04(10)
6MO05210-04